

下田遺跡  
(3)

下田遺跡(3)

八ツ場ダム建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第68集

二〇二〇

国 土 交 通 省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



八ツ場ダム建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書 第68集

2020

国 土 交 通 省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

# 下田遺跡(3)

八ツ場ダム建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書 第68集

2020

国 土 交 通 省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

# 序

八ッ場ダムは、治水・利水・発電を行う多目的ダムとして計画され、吾妻郡長野原町を中心に工事が進められてきました。八ッ場ダムの建設に伴う埋蔵文化財発掘調査は、当事業団が平成6年度から実施し、四半世紀となります。

今回報告する下田遺跡は、吾妻川北岸の中位段丘面にあります。平成7年度より発掘調査が開始され、すでに平成26年度以前の成果については報告されております。今回は平成28年度から平成31年度にかけて行われた調査成果について報告することとなりました。これまでの発掘調査により、古代から近世に至る遺構が確認されています。

確認された遺構は、平安時代の竪穴建物や上位の段丘面に位置する林城との関連がうかがわれる中世の掘立柱建物、近世の畠とこれに隣接する建物などです。平安時代から近世にかけて、連綿と営まれた地域の様相をたどる資料が得られています。中でも、林下村と思われる、近世農村の姿があきらかになりました。

これらの調査成果は、長野原町を中心とした地域、ひいては群馬県における古代から近世に至る歴史を考えるうえでも重要な資料となるものと考えております。

発掘調査から報告書の刊行に至るまで、国土交通省八ッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会および長野原町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者の皆様には、多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

令和2年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 中 野 三 智 男



## 例　　言

1. 本書は、平成28年度及び平成29年度、平成30年度、平成31年度に八ッ場ダム建設工事に伴う発掘調査を行い、平成29年度及び平成30年度、平成31年度(令和元年度)に八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財の整理事業として整理作業を行った下田遺跡の発掘調査報告書である。下田遺跡は、平成14年度及び平成29年度に遺跡の一部についての発掘調査報告書が刊行されているため、本書では書名に(3)を付した。

2. 下田遺跡の所在

平成28年度調査区は、吾妻郡長野原町大字林701-1他に所在する。

平成29年度調査区は、吾妻郡長野原町大字林707他に所在する。

平成30年度調査区は、吾妻郡長野原町大字林字下原700-1他に所在する。

平成31年度調査区は、吾妻郡長野原町大字林字下原700他に所在する。

3. 事業主体　　国土交通省関東地方整備局

4. 調査主体　　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5. 発掘調査の期間と体制

平成28年度

　　調査期間　　平成28年4月1日～12月31日

　　調査担当　　閔 俊明、笛澤泰史、武井 学、千明 隼

　　遺跡掘削工事請負　　シン技術・毛野・山下吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

　　地上測量委託　　株式会社 測研

平成29年度

　　調査期間　　平成29年7月1日～12月31日

　　平成30年3月9日～3月28日

　　調査担当　　(平成29年)閔 俊明、梅村唯斗

　　(平成30年)齊藤利明

　　遺跡掘削工事請負　　シン技術・毛野・山下吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

　　地上測量委託　　株式会社 測研

平成30年度

　　調査期間　　平成30年4月2日～9月30日

　　調査担当　　閔 俊明、梅村唯斗

　　遺跡掘削工事請負　　シン技術・毛野・山下吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

　　地上測量委託　　株式会社 測研

平成31年度

　　調査期間　　平成31年4月1日～平成31年4月30日

　　調査担当　　齊藤利明、石田 真、山本直哉

　　遺跡掘削工事請負　　(株)測研、技研コンサル(株)、瑞穂建設(株)吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

　　地上測量委託　　株式会社 測研

6. 調査面積
- |        |                      |
|--------|----------------------|
| 平成28年度 | 17,942m <sup>2</sup> |
| 平成29年度 | 5,372m <sup>2</sup>  |
| 平成30年度 | 14,841m <sup>2</sup> |
| 平成31年度 | 884m <sup>2</sup>    |
7. 整理作業履行期間
- |      |                      |
|------|----------------------|
| 整理期間 | 平成29年4月1日～令和2年3月31日  |
|      | 平成29年4月1日～平成29年3月31日 |
|      | 平成30年9月1日～平成31年3月31日 |
|      | 平成31年4月1日～令和元年9月30日  |
8. 本書の作成分担
- 平成29年度
- |        |   |
|--------|---|
| 編集     | 佐藤元彦、田村 博 デジタル編集：齊田智彦   |
| 遺物観察   | 石製品：津島秀章 木製品・金属製品：板垣泰之、関 邦一<br>古墳～中近世遺物：徳江秀夫 繩文・弥生時代遺物：石坂 茂       |
| 遺物写真撮影 | 石製品：津島秀章 木製品・金属製品：板垣泰之、関 邦一<br>中近世遺物：徳江秀夫 繩文・弥生時代遺物：石坂 茂 その他：佐藤元彦 |
- 平成30年度
- |        |   |
|--------|---|
| 編集     | 佐藤元彦 デジタル編集：齊田智彦  |
| 遺物観察   | 石製品：津島秀章 木製品・金属製品：板垣泰之、関 邦一<br>古墳～中近世遺物：大西雅広 繩文・弥生時代遺物：石坂 茂       |
| 遺物写真撮影 | 石製品：津島秀章 木製品・金属製品：板垣泰之、関 邦一<br>中近世遺物：大西雅広 繩文・弥生時代遺物：石坂 茂 その他：佐藤元彦 |
- 平成31年度(令和元年度)
- |        |   |
|--------|---|
| 編集     | 佐藤元彦 デジタル編集：齊田智彦  |
| 遺物観察   | 石製品：津島秀章 木製品・金属製品：板垣泰之、関 邦一<br>中近世遺物：矢口裕之 古墳～平安時代遺物：神谷佳明 繩文・弥生時代遺物：山口逸弘 |
| 遺物写真撮影 | 石製品：津島秀章 木製品・金属製品：板垣泰之<br>中近世遺物：矢口裕之 繩文・弥生時代遺物：山口逸弘 その他：佐藤元彦            |
9. 委託 骨類鑑定 楠崎修一郎(大妻女子大学博物館)  
花粉分析等 株式会社古環境研究所  
木製品および石製品の一部につき、その実測・トレイス・写真撮影を株式会社測研に委託した。
10. 発掘調査および報告書作成には、国土交通省関東地方整備局八ッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、長野原町教育委員会をはじめ、関係機関ならびに関係各位に多くのご協力、ご指導を賜った。
11. 出土遺物及び写真・図面等記録類の保管場所は、群馬県埋蔵文化財調査センターである。

# 凡　例

1. 本報告書(以下本書)に用いた遺構名称は、混乱を避けるため一部を除き発掘調査時の名称を踏襲した。名称を変更した場合は、本文中に旧名称を記載したほか、対照表を付した。

なお、当事業団では平成30年度より、文化庁文化財部記念物課編(2013)『発掘調査の手引き』に準拠して、従来の「堅穴住居」を「堅穴建物」と表記している。本書においては、これ以前に刊行された報告書記載の遺構名は、混乱を避けるため報告時の表記を踏襲している。

また、一般に「屋敷」は屋敷地の略であり、主たる建物とこれに付随する諸施設を収容する、境界により区分された特定の空間領域をさす。下田遺跡においては、主たる建物とこれに付隨すると考えられる建物の複合体は、作業場ともなる庭や明確に区画された境界を持つことなく畠地の中に点在する事例が多い。そのため屋敷地としての領域を明示しがたく、「屋敷」という呼称を避け、属性を伴わない「建物群」を用いた。

調査時名称	現載名称	調査時名称	現載名称
15号建物1号桶	→ 15号建物埋設桶	46号烟	→ 46号烟、復元烟
16号建物1号桶	→ 16号建物埋設桶	48号烟	→ 47号烟、48号烟
17号建物埋E室No.II	→ 17号建物出土	49号烟	→ 48号烟
17号建物1号白1号	→ 17号建物唐臼	52号烟	→ 15号烟
17号建物1号桶	→ 17号建物埋設桶	53号烟	→ 16号烟
22号建物1号桶	→ 22号建物埋設桶	56号烟	→ 16号烟
23号建物3号圓炉裏	→ 24号建物3号炉	57号烟	→ 54号烟
24号建物1号圓炉裏	→ 24号建物1号炉	58号烟	→ 55号烟
28号建物1号圓炉裏	→ 28号建物1号炉	59号烟	→ 16号烟
28号建物2号圓炉裏	→ 28号建物2号炉	60号烟	→ 54号烟
28号建物1号土坑	→ 28号建物土坑	61号烟	→ 55号烟
2号住居	→ 2号堅穴建物	64号烟	→ 62号烟、63号烟
3号住居	→ 3号堅穴建物	78号烟	→ 42号烟
4号住居	→ 4号堅穴建物	79号烟	→ 41号烟
5号住居	→ 2号堅穴建物、5号堅穴建物	80号烟	→ 40号烟
6号住居	→ 6号堅穴建物	81号烟	→ 26号烟
7号住居	→ 2号堅穴建物、5号堅穴建物	83号烟	→ 13号烟
8号住居	→ 8号堅穴建物	84号烟	→ 14号烟
9号住居	→ 9号堅穴建物	85号烟	→ 15号烟
10号住居	→ 10号堅穴建物	86号烟	→ 16号烟
11号住居	→ 11号堅穴建物	87号烟	→ 54号烟
12号住居	→ 12号堅穴建物	88号烟	→ 37号烟
13号住居	→ 13号堅穴建物	89号烟	→ 55号烟
14号住居	→ 14号堅穴建物	90号烟	→ 62号烟
15号住居	→ 15号堅穴建物	91号烟	→ 63号烟
H31年度 6号掘立柱建物	→ 14号掘立柱建物	92号烟	→ 92号烟、94号烟
H31年度 7号掘立柱建物	→ 15号掘立柱建物	93号烟	→ 39号烟
3号道	→ 15号建物通路	94号烟	→ 94号烟、47号烟、95号烟
6号道	→ 1号道	1号梯列	→ 1号ビット列
8号道	→ 8号道、9号道	2号梯列	→ 2号ビット列
9号道	→ 8号道、9号道	3号梯列	→ 3号ビット列
1号溝	→ 5号道側溝	4号梯列	→ 4号ビット列
4号溝	→ 4号道側溝	1号盛土	→ 1号塚
6号溝	→ 4号道側溝	1号墓	→ 1号墓域
10号溝	→ 1号道側溝	101号土坑	→ 8号堅穴建物2号床下土坑
5号石垣	→ 5号道石垣	114号土坑	→ 24号建物床下土坑
6号石垣	→ 44号烟石垣	123号土坑	→ 11号堅穴建物3号床下土坑
7~9号石垣	→ 11号道石垣	380号ビット	→ 12号堅穴建物P5
27号烟	→ 11号烟	607~611号ビット	→ 6号ビット列
28号烟	→ 12号烟	17号地上造構	→ 24号建物1号炉
29号烟	→ 13号烟	18号地上造構	→ 24号建物2号炉
30号烟	→ 14号烟	19号地上造構	→ 24号建物4号炉
31号烟	→ 11号烟	20号地上造構	→ 20号地上造構
38号烟	→ 38号烟、65号烟	1号井	→ 1号井戸
45号烟	→ 43号烟、44号烟	94号烟A平坦面	→ 94A平坦面、94B平坦面

2. 一般に墓石の竿石を支える台は、その構造に応じ上台・中台・芝台と呼ばれ、総称として「台石」と称される。しか

しながら、旧石器時代や縄文時代の石製品に「台石」と呼ばれるものがあるため、これとの混乱を避けるため、竿石の台に対し「台座」の用語を用いた。

3. 本書に用いた座標・方位はすべて旧来の日本測地系、平面直角座標系第IX系による。座標北と真北との偏差は+0度41分13.55秒(東経36度32分16.38秒、北緯138度40分45.62秒)である。

なお、世界測地系による当所の所在は、北緯36度32分27.58秒、東経138度40分34.23秒であり、座標北と真北との偏差は+0度41分20.51秒、当所における磁北線はN-7.19°-Wである。

また、遺構図中の十字記号は「ハッ場ダム関連埋蔵文化財発掘調査方法」に基づく小グリッドの基準点を示す。区名および小グリッド名を付記した。ただしグリッド座標に相応しない地点を特定するために、補助記号として日本測地系平面直角座標系第IX系の座標値の整数部末尾3桁を用いている。

4. 遺構の主軸方位は座標北を基準とした。竪穴建物にあってはカマドのある壁と直交する軸を主軸とし、その傾きを度で示した。また竪穴建物以外の遺構で形状の確認できる遺構においては長軸を主軸とし、その傾きを度で示し、形状の不明なものについては計測不能のため不記入とした。

5. 違構の標高は、原則として違構断面図中に「L=○. ○m」と表記した。計測値は主軸方向を縱とし、縱：横：面積の順に記した。主軸方向の不明な違構については長：幅：面積の順での記載を原則とした。

6 全容が確認できない遺構については、検出部分の計測値を()付きで表記した。

7. 遺構面積の算出に際しては、発掘調査時点での計測の他、縮尺1:40の平面図を用いプランメーターで計測を行った。

8. 本書の遺構図版縮尺は以下を基本とする。

堅穴建物・堅穴状遺構 1:60 カマド 1:30 土坑・ピット・焼土遺構・炬 1:40

掘立柱建物・礎石建物・ピット列・柵1:80

9. 本書の遺物図版縮尺は以下を原則とする。

土器 1:3 石製品 1:2 金属製品 1:2

10 本書で使用したトーンは以下のとおりである。



II. 本書における通称略称は以下のとおりである。

堅八建物 壓 (近世)掘立柱建物・礎石建物 建物 工坑 工 ピット ド・ビ 燃工道構 燃

12. 本書における工層記号及び遺物観察表記載に用いた色彩表現は、農林水産省水産技術事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修1996「新版標準土色帳」に基づく。

13. 本書で使用した地形図・地勢図は以下のとおりである。

国土地理院地形図 1:50,000 「草津」平成21年4月1日発行

国土地理院地形図 1:25,000 「長野原」平成11年11月1日発行

長野原町「長野原都市計画図22 1:2500」平成13年9月作成

14. 同一遺跡の発掘調査報告書として、下記の報告書が刊行されている。

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第303集「ハッカ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2集、ハッカ場ダム発掘調査集成(1)」財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(2002年12月25日発行)

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第629集「ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第52集、下田遺跡(2)」公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(2017年3月10日発行)

# 目 次

序  
例言  
凡例  
目次  
挿図目次  
表目次  
写真目次

第1章 調査の経過と調査の方法	1
第1節 ハッ場ダム発掘調査の経緯	1
第2節 調査に至る経緯と経過	1
第3節 調査の方法	4
第2章 周辺の環境	6
第1節 地理的環境	6
第2節 歴史的環境	6
第3節 林地区的遺跡	13
第4節 遺跡の概要と基本土層	17
1 各調査区の概要	17
2 基本土層	28
第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物	43
第1節 1面の遺構と遺物	43
第1項 1面の概要	43
第2項 建物群	43
第3項 碓石建物	71
第4項 道	90
第5項 溝	94
第6項 烟	97
第7項 遺構外出土の遺物	129
第8項 遺物観察表および未掲載遺物	129
第2節 2面及び3面の遺構と遺物	138
第1項 2面及び3面の概要	138
第2項 建物群	138
第3項 挖立柱建物	141
第4項 穴穴建物	150

第5項 土坑	168
第6項 ピット列及びピット	193
第7項 その他	221
第8項 遺物観察表および未掲載遺物	226
第3節 平成28年度調査と以前の調査	236
第1項 1面の遺構	236
第2項 2面及び3面の遺構	244
 第4章 平成29年度調査・確認された遺構と遺物	250
第1節 遺構と遺物	250
1 調査区の概要	250
2 道	250
3 溝	251
4 ヤックラ	254
5 塚	255
6 葬域	255
7 土坑	271
8 ピット	274
9 遺構外出土の遺物	279
10 遺物観察表および未掲載遺物	280
 第5章 平成30年度調査・確認された遺構と遺物	284
第1節 遺構と遺物	284
第1項 調査区の概要	284
第2項 建物群	284
第3項 積穴建物	300
第4項 道	320
第5項 溝	326
第6項 煙	332
第7項 土坑	348
第8項 ピット列およびピット	366
第9項 その他	381
第10項 遺構外出土の遺物	384
第11項 遺物観察表および未掲載遺物	384
第2節 平成30年度調査と以前の調査	395
第1項 礎石建物	395
第2項 道	397
第3項 溝	400
第4項 煙	400
第5項 その他	402

第6章 平成31年度調査・確認された遺構と遺物	403
第1節 1面の遺構と遺物	403
第1項 1面の概要	403
第2項 建物群	403
第3項 磁石建物	404
第4項 道	407
第5項 煙	409
第6項 遺物観察表および未掲載遺物	411
第2節 2面の遺構と遺物	412
第1項 2面の概要	412
第2項 穴穴建物	412
第3項 挖立柱建物	416
第4項 流路	418
第5項 土坑	418
第6項 ピット	422
第7項 遺物観察表および未掲載遺物	424
第3節 平成31年度調査と以前の調査	425
第1項 建物群	425
第2項 道	430
第7章 自然科学分析	434
第1節 出土骨類分析	434
第1項 出土人骨	434
第2項 出土獸骨	444
第2節 植物質試料分析	444
第1項 植物珪酸体分析	444
第2項 花粉分析・寄生虫卵分析	447
第8章 まとめ	453
1 煙の歴について	453
2 下田遺跡の建物について	456

#### 報告書抄録

写真図版

奥付

付図

## 挿図目次

第1図	道路位置図	1	第64図	22号建物出土遺物 4	77
第2図	下田道路年度別調査区図	2	第65図	22号建物出土遺物 5	78
第3図	調査グリッドの設定	5	第66図	22号建物出土遺物 6	79
第4図	長野原町段丘面の分布	6	第67図	22号建物出土遺物 7	80
第5図	周辺道路分布図	8	第68図	22号建物出土遺物 8	81
第6図	下田道路平成28年度調査区	17	第69図	23号建物 1	83
第7図	下田道路平成28年度調査区1面全体図(西半)	18	第70図	23号建物 2	84
第8図	下田道路平成28年度調査区1面全体図(東半)	19	第71図	23号建物 3と出土遺物 1	85
第9図	下田道路平成28年度調査区2面全体図(西半)	20	第72図	23号建物 4と出土遺物 2	86
第10図	下田道路平成28年度調査区2面全体図(東半)	21	第73図	23号建物 5	87
第11図	下田道路平成28年度調査区3面全体図	22	第74図	23号建物出土遺物 3	88
第12図	下田道路平成29年度調査区	23	第75図	23号建物出土遺物 4	89
第13図	下田道路平成29年度調査区1面西部	23	第76図	2号道	90
第14図	下田道路平成29年度調査区1面南部・東部	24	第77図	1号道	91
第15図	下田道路平成29年度調査区2面	25	第78図	4号道	92
第16図	下田道路平成29年度調査区2面西部	26	第79図	5号道と出土遺物	93
第17図	下田道路平成29年度調査区2面東部	27	第80図	2号溝	94
第18図	下田道路平成30年度調査区	28	第81図	3号溝	95
第19図	下田道路平成30年度調査区1面北側(西半)	29	第82図	4号溝	96
第20図	下田道路平成30年度調査区1面北側(東半)	30	第83図	5号溝	97
第21図	下田道路平成30年度調査区1面東側・南側(東半)	31	第84図	2~4号烟、9号烟。67~72号烟	99
第22図	下田道路基本土層	32	第85図	10~14号烟	100
第23図	下田道路平成30年度調査区1面南側(西半)	32	第86図	15号烟、16号烟、54号烟、55号烟	102
第24図	下田道路平成30年度調査区2面全体図	33	第87図	17~21号烟、26号烟	103
第25図	下田道路平成30年度調査区2面北側(西半)	34	第88図	22~25号烟	104
第26図	下田道路平成30年度調査区2面東側(北半)	35	第89図	1号石垣、2号石垣	106
第27図	下田道路平成30年度調査区2面南側	36	第90図	32~35号烟、65号烟、66号烟	108
第28図	下田道路平成31年度調査区	37	第91図	36~38号烟	109
第29図	下田道路平成31年度調査区1面	38	第92図	39~41号烟	110
第30図	下田道路平成31年度調査区2面	39	第93図	42~44号烟、50号烟、51号烟	111
第31図	平成28年度調査区各所の土層	40	第94図	46~49号烟	114
第32図	平成29年度調査区各所の土層	41	第95図	62号烟、63号烟	116
第33図	平成30年度調査区各所の土層	42	第96図	復旧煙	118
第34図	C1建物群	44	第97図	平坦面1	119
第35図	15号建物 1	45	第98図	平坦面2	120
第36図	15号建物 2	46	第99図	平坦面3	121
第37図	15号建物出土遺物 1	47	第100図	平坦面4	122
第38図	15号建物出土遺物 2	48	第101図	平坦面5、烟出土遺物 1	123
第39図	15号建物出土遺物 3	49	第102図	烟出土遺物 2	124
第40図	16号建物	50	第103図	烟出土遺物 3	125
第41図	道路出土遺物	51	第104図	烟出土遺物 4	126
第42図	02建物群	53	第105図	烟出土遺物 5	127
第43図	17号建物 1	54	第106図	烟出土遺物 6	128
第44図	17号建物 2	55	第107図	遺構外出土の遺物	129
第45図	17号建物 3	56	第108図	A1建物群、5号掘立柱建物	139
第46図	17号建物 4	57	第109図	1号ビット列、2号ビット列	140
第47図	17号建物 5	58	第110図	24号建物 1	143
第48図	17号建物出土遺物 1	60	第111図	24号建物 2	144
第49図	17号建物出土遺物 2	61	第112図	24号建物 3	145
第50図	17号建物出土遺物 3	62	第113図	24号建物出土遺物 1	147
第51図	19号建物	63	第114図	24号建物出土遺物 2	148
第52図	20号建物	64	第115図	11号掘立柱建物と出土遺物	149
第53図	1号窪地と出土遺物	65	第116図	2号窪穴建物 1	150
第54図	唐臼(02建物群)	66	第117図	2号窪穴建物 2と出土遺物	151
第55図	C1建物群	67	第118図	3号窪穴建物と出土遺物	152
第56図	5号建物	69	第119図	4号窪穴建物と出土遺物	153
第57図	5号建物出土遺物	70	第120図	5号窪穴建物と出土遺物	154
第58図	18号建物	70	第121図	5号窪穴建物	155
第59図	21号建物	71	第122図	6号窪穴建物	156
第60図	22号建物	73	第123図	6号窪穴建物と出土遺物	157
第61図	22号建物出土遺物 1	74	第124図	8号窪穴建物 1と出土遺物 1	158
第62図	22号建物出土遺物 2	75	第125図	8号窪穴建物 2と出土遺物 2	159
第63図	22号建物出土遺物 3	76	第126図	9号窪穴建物 1	160

第127図	9号堅穴建物2と出土遺物	161	第193図	A1建物群(H25+H28)、3号ピット例および 4号ピット例(H28&H28)	246
第128図	10号堅穴建物	162	第194図	2号堅穴建物(H28+H28)	247
第129図	11号堅穴建物	163	第195図	3号堅穴建物(H28+H28)	248
第130図	11号堅穴建物出土遺物	164	第196図	4号堅穴建物(H28+H28)	249
第131図	12号堅穴建物1	165	第197図	5号堅穴建物(H28+H28)	249
第132図	12号堅穴建物2と出土遺物1	166	第198図	畠地の痕跡、7号道出土遺物	250
第133図	12号堅穴建物出土遺物2	167	第199図	7~9号道	252
第134図	土坑1	168	第200図	7号溝、8号溝	253
第135図	土坑2	169	第201図	8号ヤックラ、9号ヤックラと出土遺物	254
第136図	土坑3	170	第202図	塚出土遺物1	255
第137図	土坑4	171	第203図	塚1	256
第138図	土坑5	172	第204図	塚2と塚出土遺物2	257
第139図	土坑6	173	第205図	1号墓域1面	258
第140図	土坑7	174	第206図	1号墓域遺構位置図	259
第141図	土坑8	176	第207図	1号墓域2面	260
第142図	土坑9	177	第208図	1号炭化物集中範囲、20号塚上遺構	261
第143図	土坑10	178	第209図	130・138号土坑	262
第144図	土坑11	179	第210図	131号土坑、132号土坑	263
第145図	土坑12	180	第211図	136号土坑	264
第146図	土坑13	181	第212図	137・143号土坑	265
第147図	土坑14	182	第213図	141号土坑、142号土坑	266
第148図	土坑15	183	第214図	1号墓域出土遺物1	267
第149図	土坑16	184	第215図	1号墓域出土遺物2	268
第150図	土坑17	185	第216図	1号墓域出土遺物3	269
第151図	土坑18	186	第217図	1号墓域出土遺物4	270
第152図	土坑19	188	第218図	1号墓域出土遺物5	271
第153図	土坑20	189	第219図	土坑1	272
第154図	土坑21	190	第220図	土坑2	273
第155図	49~83号土坑出土遺物	191	第221図	土坑3と土坑出土遺物	275
第156図	94~118号土坑出土遺物	192	第222図	ピット1	276
第157図	3号ピット列、4号ピット列	193	第223図	ピット2	277
第158図	中近世埋没土のピット1	197	第224図	ピット3	278
第159図	中近世埋没土のピット2	198	第225図	ピット4	279
第160図	中近世埋没土のピット3	199	第226図	遺構外出土遺物	279
第161図	中近世埋没土のピット4	200	第227図	N1建物群	285
第162図	中近世埋没土のピット5	201	第228図	22号建物1	286
第163図	中近世埋没土のピット6	202	第229図	22号建物2	287
第164図	中近世埋没土のピット7	203	第230図	22号建物3	288
第165図	中近世埋没土のピット8	204	第231図	25号建物1	290
第166図	中近世埋没土のピット9	205	第232図	25号建物2	291
第167図	中近世埋没土のピット10	206	第233図	N2建物群	293
第168図	中世埋没土のピット1	210	第234図	26号建物1	295
第169図	中世埋没土のピット2	211	第235図	26号建物2	296
第170図	中世埋没土のピット3	212	第236図	27号建物	297
第171図	中世埋没土のピット4	213	第237図	28号建物1	298
第172図	中世埋没土のピット5	214	第238図	28号建物2	299
第173図	中世埋没土のピット6	215	第239図	22号建物出土遺物1	301
第174図	中世埋没土のピット7	216	第240図	22号建物出土遺物2	302
第175図	中世埋没土のピット8	217	第241図	22号建物出土遺物3	303
第176図	中世埋没土のピット9	218	第242図	22号建物出土遺物4	304
第177図	中世埋没土のピット10	219	第243図	22号建物出土遺物5	305
第178図	その他のピット、ピット出土遺物1	220	第244図	22号建物出土遺物6と25号建物出土遺物1	306
第179図	ピット出土遺物2	221	第245図	庭出土遺物	307
第180図	4号溝、7号ヤックラ	223	第246図	25号建物出土遺物2	308
第181図	2号堅穴状遺構、13~16号塚上遺構	224	第247図	25号建物出土遺物3	309
第182図	遺構外出土遺物1	225	第248図	25号建物出土遺物4	310
第183図	遺構外出土遺物2	226	第249図	25号建物出土遺物5	311
第184図	年度ごとの調査区	236	第250図	N2建物群出土遺物1	312
第185図	C1建物群(H26+H28)	237	第251図	N2建物群出土遺物2と28号建物出土遺物	313
第186図	5号建物(H26+H28)	238	第252図	13号堅穴建物1	315
第187図	1号道(H25+H26+H28)	240	第253図	13号堅穴建物2	316
第188図	47号道(H7+H28)	241	第254図	13号堅穴建物出土遺物	317
第189図	烟計測位置1	242	第255図	14号堅穴建物と出土遺物	318
第190図	烟計測位置2	243	第256図	15号堅穴建物と出土遺物	319
第191図	烟計測位置3	244	第257図	1号道1	321
第192図	11号掘立柱建物(H26+H28)	245			

第258図	1号道2と出土遺物	322	第300図	21号繞上道構、22号繞上道構	382
第259図	5号道1	324	第301図	1号井戸と出土遺物	383
第260図	5号道2と出土遺物	325	第302図	遺構外出土遺物	384
第261図	10号道	326	第303図	年度毎の調査区	395
第262図	11号道1	327	第304図	22号建物	396
第263図	11号道2	328	第305図	1号道1	398
第264図	11号道3と出土遺物	329	第306図	1号道2、5号道	399
第265図	12号道	330	第307図	5号溝	400
第266図	5号溝、7号溝、9号溝と出土遺物	331	第308図	7号溝、37号煙1	401
第267図	烟の痕跡	332	第309図	37号煙2、8号ヤックラ	402
第268図	烟1	334	第310図	D1建物群	403
第269図	烟2	335	第311図	N1建物群	404
第270図	烟3	336	第312図	22号建物	405
第271図	烟4	337	第313図	29号建物と出土遺物1	406
第272図	烟5	338	第314図	29号建物出土遺物2	407
第273図	烟6	339	第315図	30号建物	407
第274図	烟7	341	第316図	2号道、4号道、5号道	408
第275図	平坦面1	344	第317図	22号烟、25号烟、26号烟、47号烟、95号烟	410
第276図	平坦面2	345	第318図	烟割離位置、平坦面	412
第277図	平坦面3	346	第319図	16号堅穴建物と出土遺物1	413
第278図	烟計測位置	347	第320図	16号堅穴建物と出土遺物2	414
第279図	烟出土遺物	348	第321図	17号堅穴建物	415
第280図	土坑1	349	第322図	17号堅穴建物出土遺物	416
第281図	土坑2	351	第323図	14号掘立柱建物	417
第282図	土坑3	354	第324図	15号掘立柱建物、1号流路	418
第283図	土坑4	357	第325図	土坑1	420
第284図	土坑5	360	第326図	土坑2	421
第285図	土坑6	362	第327図	ピット1	422
第286図	土坑7	364	第328図	ピット2	423
第287図	土坑出土遺物	366	第329図	年度毎の調査区	425
第288図	ピット列	367	第330図	D1建物群	426
第289図	ピット1	369	第331図	15号建物	427
第290図	ピット2	370	第332図	N1建物群	428
第291図	ピット3	372	第333図	22号建物	429
第292図	ピット4	373	第334図	2号道、4号道	431
第293図	ピット5	374	第335図	5号道	433
第294図	ピット6	375	第336図	敵のピッチ分布	453
第295図	ピット7	376	第337図	嵌ピッチの出現頻度	453
第296図	ピット8	378	第338図	中近世建物一覧(近世以前)	459
第297図	ピット9	379	第339図	中近世建物一覧(天明3年)	460
第298図	ピット10	380			
第299図	8号ヤックラ、12号ヤックラ	381			

## 目 次

第1表	ハッ場ダム建設に伴う調査道路一覧	4	第21表	18号建物柱間計測表	70
第2表	周辺の主な道路	9	第22表	18号建物ピット計測表	70
第3表	林地区的道路	14	第23表	21号建物柱間計測表	72
第4表	林地区的杯碗類	14	第24表	22号建物柱間計測表	74
第5表	15号建物柱間計測表	47	第25表	23号建物柱間計測表	82
第6表	15号建物ピット計測表	47	第26表	23号建物ピット計測表	82
第7表	16号建物柱間計測表	51	第27表	23号建物床面柱間痕計測表	82
第8表	16号建物ピット計測表	51	第28表	平坦面計測表	119
第9表	17号建物柱間計測表	58	第29表	1面上出遺物観察表	129
第10表	17号建物ピット計測表1	59	第30表	未掲載遺物(古代)	136
第11表	17号建物ピット計測表2	59	第31表	未掲載遺物(中近世)	137
第12表	17号建物ピット計測表3	59	第32表	5号掘立柱建物ピット計測表1	141
第13表	17号建物ピット計測表4	59	第33表	5号掘立柱建物ピット計測表2	141
第14表	17号建物ピット計測表5	59	第34表	5号掘立柱建物柱間計測表	141
第15表	19号建物柱間計測表	63	第35表	1号ピット列計測表	141
第16表	19号建物ピット計測表	63	第36表	2号ピット列計測表	141
第17表	20号建物柱間計測表	64	第37表	24号建物ピット間隙計測表	145
第18表	20号建物ピット計測表	64	第38表	24号建物柱間計測表	146
第19表	5号建物柱間計測表	68	第39表	24号建物ピット計測表1	146
第20表	5号建物ピット計測表	68	第40表	24号建物ピット計測表2	146

第41表	24号建物ビット計測表3	146	第103表	22号建物柱間計測表	288
第42表	24号建物ビット計測表4	146	第104表	22号建物踏み口計測表	289
第43表	11号掘立柱建物柱間計測表	148	第105表	25号建物ビット計測表	290
第44表	11号掘立柱建物ビット計測表	149	第106表	25号建物柱間計測表	291
第45表	3号ビット列計測表	194	第107表	26号建物柱間計測表	294
第46表	4号ビット列計測表	194	第108表	26号建物1号土壌ビット計測表	294
第47表	中近世埋没土ビット計測表1	194	第109表	N2建物群ビット列1計測表	295
第48表	中近世埋没土ビット計測表2	195	第110表	N2建物群ビット列2計測表	296
第49表	中近世埋没土ビット計測表3	195	第111表	27号建物ビット計測表	296
第50表	中近世埋没土ビット計測表4	195	第112表	27号建物柱間計測表	296
第51表	中近世埋没土ビット計測表5	195	第113表	6号ビット列計測表	367
第52表	中近世埋没土ビット計測表6	195	第114表	ビット計測表1	368
第53表	中近世埋没土ビット計測表7	195	第115表	ビット計測表2	368
第54表	中近世埋没土ビット計測表8	196	第116表	ビット計測表3	368
第55表	中近世埋没土ビット計測表9	196	第117表	ビット計測表4	368
第56表	中近世埋没土ビット計測表10	196	第118表	ビット計測表5	368
第57表	中近世埋没土ビット計測表11	196	第119表	ビット計測表6	371
第58表	中近世埋没土ビット計測表12	196	第120表	ビット計測表7	371
第59表	中近世埋没土ビット計測表13	196	第121表	ビット計測表8	371
第60表	中近世埋没土ビット計測表14	197	第122表	ビット計測表9	371
第61表	中近世埋没土ビット計測表15	197	第123表	ビット計測表10	371
第62表	中世埋没土ビット計測表1	207	第124表	ビット計測表11	371
第63表	中世埋没土ビット計測表2	208	第125表	ビット計測表12	376
第64表	中世埋没土ビット計測表3	208	第126表	ビット計測表13	376
第65表	中世埋没土ビット計測表4	208	第127表	ビット計測表14	377
第66表	中世埋没土ビット計測表5	208	第128表	ビット計測表15	377
第67表	中世埋没土ビット計測表6	208	第129表	ビット計測表16	377
第68表	中世埋没土ビット計測表7	208	第130表	ビット計測表17	377
第69表	中世埋没土ビット計測表8	209	第131表	ビット計測表18	377
第70表	中世埋没土ビット計測表9	209	第132表	ビット計測表19	377
第71表	中世埋没土ビット計測表10	209	第133表	ビット計測表20	381
第72表	中世埋没土ビット計測表11	209	第134表	ビット計測表21	381
第73表	中世埋没土ビット計測表12	209	第135表	N1建物群出土遺物	384
第74表	中世埋没土ビット計測表13	209	第136表	N2建物群出土遺物	388
第75表	中世埋没土ビット計測表14	210	第137表	28号建物出土遺物	389
第76表	中世埋没土ビット計測表15	210	第138表	16号窪穴建物出土遺物	389
第77表	中世埋没土ビット計測表16	210	第139表	その他構出土遺物	390
第78表	2面および3面遺物頸筋表	226	第140表	未掲載遺物(韓文、弥生)	393
第79表	未掲載遺物(羅文)	234	第141表	未掲載遺物(古代)	393
第80表	未掲載遺物(古代)	234	第142表	未掲載遺物(中世)	394
第81表	未掲載遺物(中近世)	235	第143表	22号建物柱間計測表	397
第82表	5号建物柱間計測表(H26&H28)	239	第144表	22号建物柱間計測表	404
第83表	11号掘立柱建物柱間計測表(H26&H28)	245	第145表	29号建物出土遺物1	411
第84表	ビット計測表1	276	第146表	29号建物出土遺物2	411
第85表	ビット計測表2	277	第147表	未掲載遺物(中世)	411
第86表	ビット計測表3	277	第148表	14号掘立柱建物柱間計測表	416
第87表	ビット計測表4	277	第149表	14号掘立柱建物ビット計測表	417
第88表	ビット計測表5	278	第150表	15号掘立柱建物柱間計測表	417
第89表	7号遺出出土遺物	280	第151表	15号掘立柱建物ビット計測表	417
第90表	9号ヤックラ出土遺物	280	第152表	ビット計測表1	422
第91表	塚出土遺物	280	第153表	ビット計測表2	422
第92表	1号墓域出土遺物1	280	第154表	16号堅穴建物出土遺物1	424
第93表	1号墓域出土遺物2	281	第155表	16号堅穴建物出土遺物2	424
第94表	1号墓域出土遺物3	281	第156表	17号堅穴建物出土遺物	424
第95表	1号墓域出土遺物4	282	第157表	未掲載遺物(古代)	424
第96表	1号墓域出土遺物5	282	第158表	15号建物柱間計測表	427
第97表	土坑出土遺物	282	第159表	22号建物柱間計測表	430
第98表	道構外出土遺物	283	第160表	嵌ビット計測表	454
第99表	未掲載遺物(韓文、弥生)	283	第161表	区画ごとの嵌ビット	455
第100表	未掲載遺物(古代)	283	第162表	平坦面一覧	455
第101表	未掲載遺物(中近世)	283	第163表	建物一覧	456
第102表	22号建物ビット計測表	284	第164表	建物の構造	457

# 写真目次

- PL. 1  
1. 下田跡遺遠景(西から)  
2. 下田跡遺遠景(北東から)
- PL. 2  
1. D1建物群全景(南から)  
2. 15号建物(北から)  
3. 15号建物全景(南から)  
4. 15号建物圓炉裏全景(南から)  
5. 15号建物圓炉裏燒上斷面(南から)
- PL. 3  
1. 15号建物設施上層断面(南から)  
2. 15号建物設施下層(南から)  
3. 15号建物設施掘り方(西から)  
4. 15号建物現存粘土層(南から)  
5. 15号建物石臼全景(東から)  
6. 15号建物石臼全景(南西から)  
7. 15号建物石臼、石臼と埋設施設掘り方(西から)  
8. 15号建物石臼上層断面(西から)
- PL. 4  
1. 16号建物全景(南から)  
2. 16号建物設施上層(西から)  
3. 16号建物P1全景(南西から)  
4. 16号建物P2全景(南から)  
5. 16号建物P3上層断面(南から)  
6. 16号建物P4全景(南から)  
7. 17号建物全景(北東から)  
8. 17号建物圓炉裏全景(南西から)
- PL. 5  
1. 02建物群全景(南西から)  
2. 17号建物北部(南から)  
3. 17号建物上壁全景(西から)  
4. 17号建物上壁西部(南から)  
5. 17号建物上壁東部(南から)
- PL. 6  
1. 17号建物上壁西端柱痕(南から)  
2. 17号建物上壁北端柱痕(南から)  
3. 17号建物圓炉裏上層断面(東から)  
4. 17号建物カマド全景(南から)  
5. 17号建物カマド上層(南から)  
6. 17号建物白出し上層(南から)  
7. 17号建物白出し上層断面(南から)  
8. 17号建物設施全(南から)
- PL. 7  
1. 17号建物設施圓炉痕(北東から)  
2. 17号建物設施断ち割り(南から)  
3. 17号建物設施掘り方(南から)  
4. 19号建物全景(東から)  
5. 19号建物1号桶圧痕(東から)  
6. 19号建物2号桶圧痕(東から)  
7. 19号建物1、2号桶掘り方(東から)  
8. 17号建物東部と20号建物(北から)
- PL. 8  
1. 20号建物P1全景(南西から)  
2. 20号建物P2全景(北から)  
3. 20号建物P3全景(東から)  
4. 20号建物P4全景(北から)  
5. 20号建物P5全景(西から)  
6. 20号建物P6全景(北から)  
7. 20号建物P7全景(西から)  
8. 20号建物P8全景(東から)
- PL. 9  
1. D2建物群1号窯地全景(東から)  
2. D2建物群2号窯地全景(南から)
3. 5号建物全景(東から)  
4. 5号建物周辺設施周辺(南から)  
5. 5号建物設施全景(南東から)  
PL. 10  
1. 5号建物設施掘断ち割り(南から)  
2. 18号建物全景(北東から)  
3. 21号建物全景(北から)  
4. 22号建物遺物出土状態(東から)  
5. 22号建物全景(北から)  
6. 22号建物軒石堆積状況(西から)  
7. 22号建物上壁(南から)  
8. 22号建物出土遺物(東から)  
PL. 11  
1. 23号建物全景(南から)  
2. 23号建物西側(南から)  
3. 23号建物中央部(南から)  
4. 23号建物東部(南から)  
5. 23号建物1号圓炉裏灰削断面(南から)  
6. 23号建物1号圓炉裏1面全景(南から)  
7. 23号建物1号圓炉裏上層断面(南から)  
8. 23号建物1号圓炉裏2面全景(南から)  
PL. 12  
1. 23号建物1号圓炉裏3面全景(南から)  
2. 23号建物2号圓炉裏1面全景(南から)  
3. 23号建物2号圓炉裏上層断面(北から)  
4. 23号建物2号圓炉裏下層断面(北から)  
5. 23号建物カマド全景(南から)  
6. 23号建物カマド(東から)  
7. 23号建物カマド(南から)  
8. 23号建物カマド上層断面(東から)  
PL. 13  
1. 23号建物カマド上層断面(東から)  
2. 23号建物カマド上層断面(南から)  
3. 1号道支道分岐部(東から)  
4. 1号道支道分岐部(南から)  
5. 1号道支道分岐部(南西から)  
6. 2号道支道(北から)  
7. 4号道全景(北から)  
8. 4号道上層断面(南から)  
PL. 14  
1. 5号道上層部(南から)  
2. 5号道南端(北から)  
3. 5号道全景(北から)  
4. 2号溝全景(南から)  
5. 3号溝(東から)  
6. 3号溝東部(東から)  
7. 4号溝(北から)  
8. 5号溝(西から)  
PL. 15  
1. 10号煙全景(北東から)  
2. 11号煙と復旧坑(東から)  
3. 12号煙(北から)  
4. 14号煙(南から)  
5. 15、16号煙(南から)  
6. 15号煙出土遺物全景(北から)  
7. 15号煙出土遺物(西から)  
8. 15号煙出土遺物近接(北西から)  
PL. 16  
1. 15号煙出土遺物近接(北東から)  
2. 15号煙出土遺物近接(北から)  
3. 17号煙(北から)  
4. 17号煙上層断面(北から)  
5. 18号煙(北西から)  
6. 19号煙(北西から)  
7. 19号煙上層断面(西から)  
8. 20号煙(西から)  
PL. 17  
1. 21号煙(東から)  
2. 22号煙(西から)  
3. 23号煙(西から)  
4. 24号煙(北から)  
5. 1号石垣(南から)  
6. 1号石垣(北東から)  
7. 1号石垣南部(東から)  
8. 1号石垣中央部(南東から)  
PL. 18  
1. 1号石垣北部(南から)  
2. 1号石垣南部(北東から)  
3. 1、2号石垣(南東から)  
4. 2号石垣上層断面(南から)  
5. 1号石垣(北西から)  
6. 1号石垣(後背上層断面(西から)  
7. 25号煙(西から)  
8. 25号煙耕作痕(南から)  
PL. 19  
1. 26号煙(西から)  
2. 32号煙と2号溝(北から)  
3. 33号煙(東から)  
4. 34号煙(東から)  
5. 35号煙(西から)  
6. 1号ヤツクラ全景(東から)  
7. 36、37号煙(南から)  
8. 37号煙と2号ヤツクラ(東から)  
PL. 20  
1. 2号ヤツクラ全景(南西から)  
2. 3号ヤツクラ全景(南東から)  
3. 38号煙(南東から)  
4. 38号煙と3号石垣(南東から)  
5. 4号ヤツクラ全景(南から)  
6. 39、40号煙(南から)  
7. 42号煙(西から)  
8. 44号煙と復旧坑(南西から)  
PL. 21  
1. 46、47号煙(南から)  
2. 47~49号煙(北東から)  
3. 47~49号煙(北から)  
4. 4号石垣(南西から)  
5. 4号石垣上層断面(西から)  
6. 50、51号煙と74号土坑(南西から)  
7. 74号土坑上層断面(南から)  
8. 75号土坑掘り方断面(南東から)  
PL. 22  
1. 51号煙(南西から)  
2. 6号ヤツクラ周辺(北東から)  
3. 6号ヤツクラ(西から)  
4. 70号煙(西から)  
5. 72号煙(南から)  
6. 復旧煙(西から)  
7. 復旧坑(南西から)  
8. 5号ヤツクラ(南西から)  
PL. 23  
1. A1建物群全景(北西から)  
2. 5号柱立柱建物全景(南東から)  
3. 1、2号ピット列(南西から)  
4. 24号建物全景(南から)  
5. 24号建物1号煙(西から)

- PL.24
1. 2号建物2号炉(西から)
  2. 2号建物3号炉(南から)
  3. 2号建物3号炉(南から)
  4. 2号建物3号炉上層断面(南から)
  5. 2号建物4号炉(南から)
  6. 2号建物4号炉上層断面(南から)
  7. 2号建物4号炉全景(南から)
  8. 2号建物5号炉上層断面(南から)
- PL.25
1. 2号建物5号炉全景(南から)
  2. 2号建物床下土坑上層断面(北から)
  3. 2号土坑床下土坑出土古錢(南から)
  4. 2号建物床下土坑全景(北から)
  5. 1号掘立柱建物全景(東から)
  6. 2号竪穴建物全景(南から)
  7. 2号竪穴建物北東隅(南から)
  8. 2号竪穴建物カマド全景(南から)
- PL.26
1. 3号竪穴建物遺物出土状態(東から)
  2. 3号竪穴建物全景(東から)
  3. 4号竪穴建物全景(東から)
  4. 4号竪穴建物上層断面(東から)
  5. 5号竪穴建物全景(南から)
  6. 5号竪穴建物カマド全景(西から)
  7. 6号竪穴建物全景(南から)
  8. 6号竪穴建物カマドと炭化物(南西から)
- PL.27
1. 6号竪穴建物遺物出土状態(北西から)
  2. 6号竪穴建物断面(方全景(西から))
  3. 8号竪穴建物遺物出土状態(南西から)
  4. 8号竪穴建物カマド全景(西から)
  5. 8号竪穴建物カマド上層断面(西から)
  6. 8号竪穴建物全景(南西から)
  7. 8号竪穴建物カマド全景(西から)
  8. 8号竪穴建物振り方全景(南西から)
- PL.28
1. 9号竪穴建物上層断面(東から)
  2. 9号竪穴建物カマド上層断面(南東から)
  3. 9号竪穴建物カマド全景(西から)
  4. 9号竪穴建物床下土坑上層断面(南から)
  5. 9号竪穴建物カマド周辺(南西から)
  6. 9、10号竪穴建物全景(南から)
  7. 10号竪穴建物全景(南から)
  8. 10号竪穴建物煙道上層断面(南から)
- PL.29
1. 10号竪穴建物P1、P4(西から)
  2. 10号竪穴建物P3、P5(南西から)
  3. 11号竪穴建物全景(南から)
  4. 11号竪穴建物振り方上層断面(南から)
  5. 11号竪穴建物炉床(1号床下土坑)(南から)
  6. 11号竪穴建物1号床下土坑(北から)
  7. 11号竪穴建物3号床下土坑(西から)
  8. 11号竪穴建物3号床下土坑上層断面(西から)
- PL.30
1. 11号竪穴建物P1上層断面(南から)
  2. 11号竪穴建物振り方全景(南から)
  3. 12号竪穴建物遺物出土状態(南から)
  4. 12号竪穴建物カマド上層断面(東から)
  5. 12号竪穴建物全景(南から)
  6. 12号竪穴建物カマド全景(南から)
  7. 12号竪穴建物振り方全景(南から)
  8. 12号竪穴建物3号床下土坑上層断面(西から)
- PL.31
1. 12号竪穴建物P5全景(南から)
  2. 46号土坑全景(東から)
  3. 47号土坑全景(南東から)
  4. 48号土坑全景(東から)
  5. 49号土坑全景(東から)
  6. 50号土坑人骨出土状態(南から)
  7. 50号土坑全景(南から)
  8. 51号土坑上層断面(北から)
- PL.32
1. 52号土坑遺物出土状態(南西から)
  2. 52号土坑上層断面(南西から)
  3. 52号土坑全景(南西から)
  4. 52号土坑燒上層断面(南西から)
  5. 52号土坑灰底下(南西から)
  6. 53号土坑全景(南から)
  7. 54号土坑上層断面(東から)
  8. 55号土坑全景(南から)
- PL.33
1. 56号土坑全景(南から)
  2. 56号土坑上層断面(南から)
  3. 57号土坑全景(南から)
  4. 58号土坑上層断面(西から)
  5. 59号土坑全景(南西から)
  6. 60号土坑上層断面(南東から)
  7. 60号土坑遺物出土状態(北西から)
  8. 60号土坑全景(南東から)
- PL.34
1. 61号土坑全景(南から)
  2. 62号土坑全景(南から)
  3. 63号土坑全景(南東から)
  4. 64号土坑全景(南から)
  5. 65号土坑全景(南西から)
  6. 66号土坑全景(南から)
  7. 67号土坑全景(東から)
  8. 68号土坑全景(南から)
- PL.35
1. 69号土坑全景(南から)
  2. 70号土坑全景(南から)
  3. 71号土坑上層断面(南から)
  4. 72号土坑全景(南から)
  5. 73号土坑全景(西から)
  6. 76号土坑全景(南西から)
  7. 77号土坑全景(西から)
  8. 78号土坑上層断面(南東から)
- PL.36
1. 79号土坑上層断面(北東から)
  2. 80号土坑遺物出土状態(北から)
  3. 80号土坑全景(北から)
  4. 81号土坑全景(東から)
  5. 82号土坑上層断面(北東から)
  6. 83号土坑全景(東から)
  7. 84号土坑全景(東から)
  8. 85号土坑全景(東から)
- PL.37
1. 86号土坑上層断面(東から)
  2. 87号土坑上層断面(東から)
  3. 88号土坑全景(南から)
  4. 89号土坑全景(南西から)
  5. 90号土坑全景(東から)
  6. 91号土坑全景(東から)
  7. 92号土坑全景(東から)
  8. 93号土坑全景(南から)
- PL.38
1. 94号土坑遺物出土状態(南から)
  2. 94号土坑全景(南から)
  3. 95号土坑全景(南西から)
  4. 96号土坑全景(南から)
  5. 97号土坑上層断面(南東から)
- PL.39
1. 99号土坑上層断面(南東から)
  2. 99号土坑全景(南東から)
  3. 100号土坑全景(南西から)
  4. 102号土坑全景(南から)
  5. 103号土坑全景(東から)
  6. 104号土坑全景(南から)
  7. 105号土坑全景(南から)
  8. 106号土坑全景(南から)
- PL.40
1. 107号土坑全景(南東から)
  2. 108号土坑全景(南西から)
  3. 109号土坑人骨出土状態(東から)
  4. 110号土坑上層断面(南から)
  5. 111号土坑上層断面(南東から)
  6. 112号土坑全景(西から)
  7. 113号土坑全景(南東から)
  8. 115号土坑全景(北から)
- PL.41
1. 116号土坑全景(北から)
  2. 117号土坑全景(南から)
  3. 118号土坑遺物出土状態(北西から)
  4. 118号土坑全景(北西から)
  5. 119号土坑全景(南から)
  6. 120号土坑全景(西から)
  7. 121号土坑全景(北から)
  8. 122号土坑全景(北から)
- PL.42
1. 124号土坑全景(西から)
  2. 3、4号ビット(東から)
  3. 68号ビット(南東から)
  4. 71号ビット(南から)
  5. 73号ビット(南から)
  6. 74号ビット(東から)
  7. 75号ビット(南から)
  8. 77号ビット(西から)
  9. 81号ビット(南から)
  10. 85号ビット(南西から)
  11. 86号ビット(南から)
  12. 88号ビット(南から)
  13. 92号ビット(南から)
  14. 93号ビット(南から)
- PL.43
1. 94号ビット(南から)
  2. 95号ビット(南から)
  3. 96号ビット(南から)
  4. 97号ビット(南から)
  5. 98号ビット(南から)
  6. 99号ビット(南から)
  7. 100号ビット(南東から)
  8. 102号ビット(南から)
  9. 112号ビット(南西から)
  10. 113号ビット(西から)
  11. 124号ビット(南から)
  12. 130号ビット(南から)
  13. 131号ビット(南から)
  14. 136号ビット(南から)
  15. 141号ビット(南から)
  16. 142号ビット(南から)
  17. 144号ビット(南から)
  18. 145号ビット(南から)
- PL.44
1. 146号ビット(南から)

2. 147号ビット(南から)  
 3. 148号ビット(南から)  
 4. 149号ビット(南から)  
 5. 168号ビット(東から)  
 6. 169号ビット(東から)  
 7. 170号ビット(東から)  
 8. 171号ビット(東から)  
 9. 172号ビット(東から)  
 10. 173号ビット(東から)  
 11. 175号ビット(東から)  
 12. 176号ビット(東から)  
 13. 177号ビット(南から)  
 14. 178号ビット(南から)  
 15. 179号ビット(南から)  
 16. 183号ビット(南北から)  
 17. 192号ビット(南から)  
 18. 193号ビット(南から)  
 PL.45
1. 194号ビット(東から)  
 2. 195号ビット(西から)  
 3. 196号ビット(北西から)  
 4. 198号ビット(北東から)  
 5. 199号ビット(南から)  
 6. 200号ビット(南から)  
 7. 201号ビット(南から)  
 8. 202号ビット(南から)  
 9. 208号ビット(南から)  
 10. 210号ビット(北から)  
 11. 211号ビット(東から)  
 12. 212号ビット(南から)  
 13. 213号ビット(南から)  
 14. 214号ビット(南西から)  
 15. 217号ビット(南から)  
 16. 218号ビット(南から)  
 17. 221号ビット(南西から)  
 18. 222号ビット(東から)  
 PL.46
1. 223号ビット(南西から)  
 2. 224号ビット(東から)  
 3. 225号ビット(南から)  
 4. 226号ビット(南から)  
 5. 227号ビット(南西から)  
 6. 230号ビット(北西から)  
 7. 231号ビット(南から)  
 8. 234号ビット(北西から)  
 9. 235号ビット(南西から)  
 10. 236号ビット(南西から)  
 11. 237号ビット(南西から)  
 12. 238号ビット(南西から)  
 13. 241号ビット(南東から)  
 14. 242号ビット(南東から)  
 15. 247号ビット(南から)  
 16. 248号ビット(南東から)  
 17. 249号ビット(南から)  
 18. 250号ビット(東から)  
 PL.47
1. 251号ビット(南から)  
 2. 253号ビット(東から)  
 3. 254号ビット(東から)  
 4. 255号ビット(南西から)  
 5. 259号ビット(東から)  
 6. 263号ビット(東から)  
 7. 265号ビット(北から)  
 8. 266号ビット(南西から)  
 9. 276号ビット(南西から)  
 10. 278号ビット(西から)
11. 282号ビット(南から)  
 12. 283号ビット(東から)  
 13. 284号ビット(南東から)  
 14. 287号ビット(東から)  
 15. 288号ビット(北から)  
 16. 290号ビット(東から)  
 17. 291号ビット(東から)  
 18. 293号ビット(東から)  
 PL.48
1. 294号ビット(北東から)  
 2. 298号ビット(南から)  
 3. 299号ビット(南から)  
 4. 300号ビット(南から)  
 5. 302号ビット(南西から)  
 6. 304号ビット(南から)  
 7. 305号ビット(南から)  
 8. 308、309号ビット(東から)  
 9. 310号ビット(東から)  
 10. 311号ビット(南から)  
 11. 313、321号ビット(南東から)  
 12. 314号ビット(東から)  
 13. 315号ビット(東から)  
 14. 316号ビット(南から)  
 15. 317号ビット(南から)  
 16. 318号ビット(東から)  
 17. 327号ビット(北西から)  
 18. 333号ビット(南から)  
 PL.49
1. 335号ビット(南東から)  
 2. 336号ビット(東から)  
 3. 337号ビット(南から)  
 4. 338号ビット(南から)  
 5. 339号ビット(南から)  
 6. 340号ビット(南西から)  
 7. 341号ビット(南から)  
 8. 343号ビット(南から)  
 9. 345号ビット(南から)  
 10. 348号ビット(南から)  
 11. 350号ビット(西から)  
 12. 351号ビット(南から)  
 13. 352号ビット(南西から)  
 14. 374号ビット(南から)  
 15. 375号ビット(南から)  
 16. 376号ビット(南から)  
 17. 377号ビット(南から)  
 18. 378号ビット(南から)  
 PL.50
1. 67号ビット(南から)  
 2. 69号ビット(南東から)  
 3. 70号ビット(南から)  
 4. 72号ビット(南から)  
 5. 78号ビット(西から)  
 6. 79号ビット(南西から)  
 7. 80号ビット(南から)  
 8. 82号ビット(南から)  
 9. 83号ビット(南から)  
 10. 84号ビット(南から)  
 11. 87号ビット(南から)  
 12. 89号ビット(南から)  
 13. 90号ビット(東から)  
 14. 91号ビット(南から)  
 15. 101号ビット(南から)  
 16. 103号ビット(南から)  
 17. 104号ビット(西から)  
 18. 105号ビット(南から)
- PL.51
1. 106号ビット(南から)  
 2. 107号ビット(南から)  
 3. 108号ビット(南から)  
 4. 109号ビット(南から)  
 5. 110号ビット(南東から)  
 6. 111号ビット(南西から)  
 7. 114号ビット(南から)  
 8. 115号ビット(南から)  
 9. 116号ビット(南から)  
 10. 117号ビット(南から)  
 11. 118号ビット(南西から)  
 12. 119号ビット(南から)  
 13. 120号ビット(南から)  
 14. 121号ビット(東から)  
 15. 122号ビット(南から)  
 16. 123号ビット(南から)  
 17. 125号ビット(南から)  
 18. 126号ビット(南から)  
 PL.52
1. 127号ビット(南から)  
 2. 128号ビット(南から)  
 3. 129号ビット(南から)  
 4. 132号ビット(南から)  
 5. 133号ビット(南から)  
 6. 134号ビット(南から)  
 7. 137号ビット(南西から)  
 8. 138号ビット(南から)  
 9. 139号ビット(南から)  
 10. 140号ビット(南から)  
 11. 143号ビット(南から)  
 12. 150号ビット(南東から)  
 13. 151号ビット(南から)  
 14. 152号ビット(南から)  
 15. 153号ビット(東から)  
 16. 154号ビット(東から)  
 17. 155号ビット(南から)  
 18. 156号ビット(南から)  
 PL.53
1. 157号ビット(南から)  
 2. 158号ビット(西から)  
 3. 159号ビット(東から)  
 4. 180号ビット(南東から)  
 5. 181号ビット(東から)  
 6. 182号ビット(東から)  
 7. 184、185号ビット(南から)  
 8. 186号ビット(南西から)  
 9. 187号ビット(東から)  
 10. 189号ビット(南東から)  
 11. 190号ビット(南から)  
 12. 191号ビット(東から)  
 13. 197号ビット(南から)  
 14. 203号ビット(東から)  
 15. 204号ビット(南から)  
 16. 205号ビット(南から)  
 17. 206号ビット(南西から)  
 18. 207号ビット(南から)  
 PL.54
1. 209号ビット(南から)  
 2. 215号ビット(南西から)  
 3. 216号ビット(西から)  
 4. 219号ビット(南から)  
 5. 220号ビット(南から)  
 6. 228号ビット(南から)  
 7. 229号ビット(南西から)  
 8. 232号ビット(南から)

9. 233号ビット(南から)  
10. 239号ビット(南から)  
11. 240号ビット(南東から)  
12. 243号ビット(南から)  
13. 244号ビット(北西から)  
14. 245号ビット(南から)  
15. 246号ビット(南から)  
16. 252号ビット(南から)  
17. 256号ビット(南西から)  
18. 257号ビット(南西から)  
PL.55  
1. 258号ビット(南から)  
2. 260号ビット(南から)  
3. 265号ビット(南から)  
4. 262号ビット(南東から)  
5. 264号ビット(南から)  
6. 267号ビット(東から)  
7. 268号ビット(東から)  
8. 269号ビット(南西から)  
9. 270. 271号ビット(東から)  
10. 273号ビット(南から)  
11. 274. 275号ビット(南東から)  
12. 277号ビット(南から)  
13. 279号ビット(南から)  
14. 280号ビット(南東から)  
15. 281号ビット(北から)  
16. 285号ビット(南から)  
17. 286号ビット(南西から)  
18. 288号ビット(西から)  
PL.56  
1. 292号ビット(南東から)  
2. 295号ビット(南西から)  
3. 296号ビット(北から)  
4. 297号ビット(南から)  
5. 301号ビット(南から)  
6. 303号ビット(南から)  
7. 306号ビット(南から)  
8. 307号ビット(南から)  
9. 312号ビット(南から)  
10. 319号ビット(南から)  
11. 320号ビット(南から)  
12. 322号ビット(北東から)  
13. 323号ビット(南から)  
14. 324号ビット(南から)  
15. 325号ビット(南から)  
16. 326号ビット(北東から)  
17. 328号ビット(南西から)  
18. 329号ビット(南から)  
PL.57  
1. 330号ビット(南から)  
2. 331号ビット(東から)  
3. 332号ビット(南から)  
4. 342号ビット(北東から)  
5. 344号ビット(南西から)  
6. 346号ビット(南から)  
7. 347号ビット(西から)  
8. 349号ビット(南から)  
9. 354号ビット(北西から)  
10. 355号ビット(北から)  
11. 356号ビット(東から)  
12. 358号ビット(南東から)  
13. 359号ビット(東から)  
14. 360号ビット(東から)  
15. 361号ビット(東から)  
16. 362号ビット(南から)  
17. 371号ビット(南から)
18. 372号ビット(南から)  
PL.58  
1. 373号ビット(南から)  
2. 66号ビット(南西から)  
3. 162号ビット(東から)  
4. 272号ビット(東から)  
5. 334号ビット(南西から)  
6. 353号ビット(南から)  
7. 4号溝(北から)  
8. 4号溝(南から)  
9. 7号ヤックラ全景(南西から)  
10. 7号ヤックラ上層断面(南から)  
PL.59  
1. 2号豊穴状遺構全貌(北から)  
2. 13号坑上層構造断面(南西から)  
3. 14号坑上層構造全貌(東から)  
4. 14号坑上層構造断面(東から)  
5. 15号坑上層構造全貌(南から)  
6. 15号坑上層構造断面(東から)  
7. 16号坑上層構造(南東から)  
PL.60  
下田遺跡出土遺物(3章)  
PL.61  
下田遺跡出土遺物(3章)  
PL.62  
下田遺跡出土遺物(3章)  
PL.63  
下田遺跡出土遺物(3章)  
PL.64  
下田遺跡出土遺物(3章)  
PL.65  
下田遺跡出土遺物(3章)  
PL.66  
下田遺跡出土遺物(3章)  
PL.67  
下田遺跡出土遺物(3章)  
PL.68  
下田遺跡出土遺物(3章)  
PL.69  
下田遺跡出土遺物(3章)  
PL.70  
下田遺跡出土遺物(3章)  
PL.71  
下田遺跡出土遺物(3章)  
PL.72  
1. 下田遺跡平成29年度調査区遠景(北から)  
2. 下田遺跡平成29年度調査区(西から)  
PL.73  
1. 調査区西部1面(東から)  
2. 調査区南部1面(東から)  
PL.74  
1. 調査区東部1面(西から)  
2. 9号道(東から)  
3. 7号溝(西から)  
4. 8号溝(東から)  
5. 8号溝(北西から)  
PL.75  
1. 9号ヤックラ(南東から)  
2. 1号塚南面全景(南から)  
3. 1号塚全貌(南西から)  
4. 1号塚1面(南から)  
5. 1号塚2面(南から)  
PL.76  
1. 1号塚上層断面(南から)  
2. 1号塚出土遺物(東から)  
3. 135号土坑上部(東から)
4. 135号土坑下部(南から)  
5. 1号墓域1面(北から)  
PL.77  
1. 1号墓域1面(南西から)  
2. 1号炭化物集中範囲(南から)  
3. 1号炭化物集中範囲掘り方(南から)  
4. 2号炭化物集中範囲(南から)  
5. 20号坑上遺構(南から)  
PL.78  
1. 20号坑上遺構坑上部(南から)  
2. 20号坑上遺構坑上部掘り方(南から)  
3. 1号墓域2面(北東から)  
4. 1号墓域2面(南から)  
5. 1号墓域上層断面(西から)  
PL.79  
1. 130・138号土坑上層(北西から)  
2. 130・138号土坑上層(南西から)  
3. 130・138号土坑(北東から)  
4. 130・138号土坑(東から)  
5. 130・138号土坑人骨埋葬状況(東から)  
6. 130号土坑上層断面(南から)  
7. 130号土坑人骨埋葬状況(東から)  
8. 130号土坑(東から)  
PL.80  
1. 138号土坑人骨埋葬状況(東から)  
2. 138号土坑(北から)  
3. 131号土坑(南から)  
4. 131号土坑人骨検出状態(南から)  
5. 131号土坑(南から)  
6. 132号土坑(東から)  
7. 132号土坑上層断面(南から)  
8. 132号土坑(南から)  
PL.81  
1. 132号土坑人骨埋葬状況(南から)  
2. 132号土坑人骨埋葬状況(南東から)  
3. 136号土坑上層断面(北から)  
4. 136号土坑人骨埋葬状況(北から)  
5. 136号土坑(北から)  
6. 137・143号土坑上層(南から)  
7. 137・143号土坑(西から)  
8. 137・143号土坑(西から)  
PL.82  
1. 137・143号土坑人骨埋葬状況(南から)  
2. 137号土坑上層断面(西から)  
3. 137号土坑人骨埋葬状況(西から)  
4. 143号土坑人骨埋葬状況(南から)  
5. 141号土坑(南から)  
6. 141号土坑人骨埋葬状況(西から)  
7. 142号土坑(南から)  
8. 142号土坑人骨埋葬状況(南から)  
PL.83  
1. 142号土坑出土遺物(南から)  
2. 142号土坑(南から)  
3. 調査区南部2号トレンド(南東から)  
4. 調査区東部2面(西から)  
5. 調査区東部2面東半(北東から)  
PL.84  
1. 調査区東部2面西半(北東から)  
2. 124号土坑(南から)  
3. 124号土坑上層断面(南から)  
4. 125号土坑(南から)  
5. 125号土坑上層断面(南から)  
PL.85  
1. 126号土坑(南西から)  
2. 126号土坑上層断面(南西から)  
3. 127号土坑(西から)

4. 127号土坑上層断面(西から)  
 5. 128号土坑(北西から)  
 6. 128号土坑上層断面(北西から)  
 7. 129号土坑(南から)  
 8. 129号土坑上層断面(南から)  
 PL.86  
 1. 133号土坑(東から)  
 2. 134号土坑上層断面(西から)  
 3. 139号土坑、140号土坑(東から)  
 4. 139号土坑(南から)  
 5. 139号土坑+伴埋葬状況(南から)  
 6. 139号土坑(南から)  
 7. 140号土坑(北から)  
 8. 140号土坑遺物出土状態(北から)  
 PL.87  
 1. 140号土坑上層断面(北から)  
 2. 140号土坑(北から)  
 3. 381号ビット(南から)  
 4. 381号ビット上層断面(南から)  
 5. 382号ビット(南から)  
 6. 382号ビット上層断面(南から)  
 7. 383号ビット(南から)  
 8. 383号ビット上層断面(南から)  
 9. 384号ビット(南から)  
 10. 384号ビット上層断面(南から)  
 11. 385号ビット(南から)  
 12. 385号ビット上層断面(南から)  
 13. 386号ビット(南から)  
 14. 386号ビット上層断面(南から)  
 PL.88  
 1. 387号ビット(南から)  
 2. 387号ビット上層断面(南から)  
 3. 388号ビット(南から)  
 4. 388号ビット上層断面(南から)  
 5. 389号ビット(南から)  
 6. 389号ビット上層断面(南から)  
 7. 390号ビット(南から)  
 8. 390号ビット上層断面(南から)  
 9. 391号ビット(西から)  
 10. 391号ビット上層断面(西から)  
 11. 392号ビット(西から)  
 12. 392号ビット上層断面(西から)  
 13. 393号ビット(南から)  
 14. 393号ビット上層断面(南から)  
 15. 394号ビット(南から)  
 16. 394号ビット上層断面(南から)  
 17. 395号ビット(南から)  
 18. 395号ビット上層断面(南から)  
 PL.89  
 1. 396号ビット(南から)  
 2. 396号ビット上層断面(南から)  
 3. 397号ビット(南から)  
 4. 397号ビット上層断面(南から)  
 5. 398号ビット(南から)  
 6. 398号ビット上層断面(南から)  
 7. 399号ビット(南から)  
 8. 399号ビット上層断面(南から)  
 9. 400号ビット(南から)  
 10. 400号ビット上層断面(南から)  
 11. 401号ビット(南から)  
 12. 401号ビット上層断面(南から)  
 13. 402号ビット(南から)  
 14. 402号ビット上層断面(南から)  
 15. 403号ビット(南から)  
 16. 403号ビット上層断面(南から)  
 17. 405号ビット(南から)  
 18. 405号ビット上層断面(南西から)  
 PL.90  
 1. 406号ビット(南西から)  
 2. 406号ビット上層断面(南西から)  
 3. 407号ビット(南西から)  
 4. 407号ビット上層断面(南西から)  
 5. 408号ビット(南西から)  
 6. 409号ビット(南西から)  
 7. 409号ビット上層断面(南西から)  
 8. 410号ビット(南から)  
 9. 410号ビット上層断面(南から)  
 10. 411号ビット(南から)  
 11. 411号ビット上層断面(南から)  
 12. 412号ビット上層断面(南西から)  
 13. 413号ビット(南から)  
 14. 413号ビット上層断面(南から)  
 15. 414号ビット(南西から)  
 16. 415号ビット(南西から)  
 17. 416号ビット(南から)  
 18. 416号ビット上層断面(南から)  
 PL.91  
 1. 417号ビット(南から)  
 2. 417号ビット上層断面(南から)  
 3. 418号ビット(南から)  
 4. 418号ビット上層断面(南から)  
 5. 419号ビット(南から)  
 6. 419号ビット上層断面(南から)  
 7. 420号ビット(南から)  
 8. 420号ビット上層断面(南から)  
 9. 421号ビット(南から)  
 10. 421号ビット上層断面(南から)  
 11. 422号ビット(南から)  
 12. 422号ビット上層断面(南から)  
 13. 423号ビット(南から)  
 14. 423号ビット上層断面(南から)  
 15. 424号ビット(南から)  
 16. 424号ビット上層断面(南から)  
 PL.92  
 下田遺跡出土遺物(4章)  
 PL.93  
 下田遺跡出土遺物(4章)  
 PL.94  
 下田遺跡出土遺物(4章)  
 PL.95  
 下田遺跡出土遺物(4章)  
 PL.96  
 1. XI建物群(南西から)  
 2. XI建物群22号建物(南から)  
 3. XI建物群22号建物カマド、検出状況(南から)  
 4. XI建物群22号建物カマド(南から)  
 5. XI建物群22号建物カマド、上層確認状況(南から)  
 PL.97  
 1. XI建物群22号建物馬屋(北から)  
 2. XI建物群22号建物埋設桶(南から)  
 3. XI建物群22号建物埋設桶、施の庭(西から)  
 4. XI建物群22号建物、埋設桶の庄庭(南から)  
 5. XI建物群22号建物踏み臼(南から)  
 6. XI建物群22号建物、唐臼周辺の埋設机(東から)  
 7. XI建物群22号建物、唐臼周辺の埋設机(北から)  
 8. XI建物群22号建物、敷物出土状態(南から)  
 PL.98  
 1. XI建物群25号建物(南から)  
 2. XI建物群25号建物、ビット1(南から)  
 3. XI建物群25号建物、ビット1掘り方(北から)  
 4. XI建物群25号建物、ビット2(南から)  
 5. XI建物群25号建物、ビット3(南から)  
 6. XI建物群25号建物、ビット4(南から)  
 7. XI建物群25号建物1号桶(北から)  
 8. XI建物群25号建物、1号桶庄庭(南から)  
 PL.99  
 1. XI建物群25号建物2号桶、検出状況(南から)  
 2. XI建物群25号建物2号桶(南から)  
 3. XI建物群25号建物、2号桶(南から)  
 4. XI建物群25号ビット(北から)  
 5. XI建物群堆肥置き場、堆肥1と堆肥2(北から)  
 6. XI建物群堆肥置き場、堆肥1と堆肥2(北から)  
 7. XI建物群1号樹木(西から)  
 8. XI建物群1号樹木(西から)  
 PL.100  
 1. XI建物群2号樹木(西から)  
 2. XI建物群3号樹木(西から)  
 3. XI建物群4号樹木(南から)  
 4. XI建物群5号樹木(西から)  
 5. X2建物群(東南から)  
 PL.101  
 1. X2建物群26号建物(南から)  
 2. X2建物群26号建物1号棚が裏(東から)  
 3. X2建物群26号建物1号棚が裏掘り方(東から)  
 4. X2建物群26号建物1号土坑(南から)  
 5. X2建物群26号建物1号土坑掘り方(東から)  
 6. X2建物群ビット列1とビット列2(北から)  
 7. X2建物群27号建物(南から)  
 8. X2建物群27号建物1号桶庄庭(東から)  
 PL.102  
 1. X2建物群1号桶、検出状況(南から)  
 2. X2建物群1号桶、取上状況(北東から)  
 3. 28号建物カマド(南から)  
 4. 28号建物1号炉、2号炉、焼上遺構(南から)  
 5. 28号建物1号炉(東から)  
 6. 28号建物2号炉(東から)  
 7. 28号建物堆土遺構(南から)  
 8. 28号建物土坑、遺物出土状態(南西から)  
 PL.103  
 1. 28号建物1号坑(南西から)  
 2. 28号建物石積遺構(南から)  
 3. 13号竪穴建物、遺物出土状態(西から)  
 4. 13号竪穴建物(西から)  
 5. 13号竪穴建物カマド(西から)  
 6. 13号竪穴建物カマド掘り方(西から)  
 7. 13号竪穴建物1号土坑、遺物出土状態(南から)  
 8. 13号竪穴建物1号土坑(南から)  
 PL.104  
 1. 13号竪穴建物貯藏室、遺物出土状態(南から)  
 2. 13号竪穴建物貯藏室(南から)  
 3. 14号竪穴建物、遺物出土状態(南から)  
 4. 14号竪穴建物掘り方(南から)  
 5. 14号竪穴建物カマド(南から)  
 6. 14号竪穴建物カマド掘り方(南から)  
 7. 14号竪穴建物1号土坑(西から)  
 8. 14号竪穴建物2号土坑(西から)  
 PL.105  
 1. 15号竪穴建物(西から)  
 2. 15号竪穴建物カマド(西から)  
 3. 1号道(南から)  
 4. 1号道、10号溝(南から)  
 5. 1号道、10号溝・4号ヤックラ(南から)  
 6. 1号道、11号ヤックラ(南から)  
 7. 5号道(南から)  
 8. 5号道、1号溝(南から)  
 PL.106  
 1. 5号道、5号石垣(南西から)  
 2. 5号道、5号石垣出土状態(東から)

3. 5号道、5号石垣上層断面(南から)  
 4. 5号道、5号石垣白出上状態(東から)  
 5. 5号道、1号溝・5号石垣上層断面(22建物東、南から)  
 6. 5号道、1号溝・5号石垣上層断面(南から)  
 7. 10号道(東から)  
 8. 11号道、7号石垣(南西から)  
 PL.107  
 1. 11号道、8号石垣(南西から)  
 2. 11号道、8号石垣上層断面(西から)  
 3. 11号道、9号石垣(南西から)  
 4. 11号道、9号石垣上層断面(南西から)  
 5. 11号道、9号石垣(南西から)  
 6. 11号道、9号石垣上層断面(写真左94幅右62畳、西から)  
 7. 12号道(南西から)  
 8. 12号道、10号ヤックラ(南東から)  
 PL.108  
 1. 12号道、10号ヤックラ(東から)  
 2. 9号溝(南から)  
 3. 9号溝上層断面(南から)  
 4. 13号烟(写真手前左82号烟、奥側77号烟、南から)  
 5. 13号烟、83号平坦面(南から)  
 6. 14号烟(写真奥側77号烟、南から)  
 7. 14号烟、84号平坦面(写真奥側77号烟、南から)  
 8. 15号烟(写真奥側42号烟、南から)  
 PL.109  
 1. 15号烟、85号平坦面(東から)  
 2. 16号烟(写真奥側42号烟、南から)  
 3. 16号烟、遺物出土状態(南西から)  
 4. 16号烟、86号平坦面(東から)  
 5. 26号烟(南から)  
 6. 37号烟(南から)  
 7. 37号烟、2号ヤックラ(南から)  
 8. 37号烟、3号ヤックラ(南から)  
 PL.110  
 1. 41号烟(南から)  
 2. 41号烟、79号平坦面(南から)  
 3. 42号烟(写真中央の溝は1号復旧坑、南から)  
 4. 44号烟(南から)  
 5. 44号烟、6号石垣(南西から)  
 6. 44号烟、75号平坦面(南から)  
 7. 54号烟(北西から)  
 8. 54号烟、87号平坦面(南から)  
 PL.111  
 1. 73号烟(北東から)  
 2. 74号烟(北から)  
 3. 144号土坑(南から)  
 4. 144号土坑上層断面(東から)  
 5. 145号土坑(南東から)  
 6. 145号土坑上層断面(南東から)  
 7. 146号土坑(南から)  
 8. 146号土坑上層断面(南から)  
 PL.112  
 1. 147号土坑(南から)  
 2. 147号土坑上層断面(南から)  
 3. 148号土坑(東から)  
 4. 148号土坑上層断面(東から)  
 5. 149号土坑(南東から)  
 6. 149号土坑上層断面(南東から)  
 7. 150号土坑(北東から)  
 8. 150号土坑上層断面(北東から)  
 PL.113  
 1. 151号土坑(南から)  
 2. 151号土坑上層断面(南から)  
 3. 152号土坑(南西から)  
 4. 152号土坑上層断面(南西から)  
 5. 153号土坑(南西から)  
 6. 153号土坑上層断面(南西から)  
 7. 154号土坑(南から)  
 8. 154号土坑上層断面(南から)  
 PL.114  
 1. 155号土坑(南東から)  
 2. 155号土坑上層断面(南から)  
 3. 157号土坑(北から)  
 4. 158号土坑(北から)  
 5. 158号土坑上層断面(西から)  
 6. 159号土坑(南から)  
 7. 159号土坑上層断面(南から)  
 8. 160号土坑(南東から)  
 PL.115  
 1. 160号土坑上層断面(南東から)  
 2. 161号土坑(南東から)  
 3. 161号土坑上層断面(南東から)  
 4. 162号土坑(南東から)  
 5. 162号土坑上層断面(南東から)  
 6. 163号土坑(南東から)  
 7. 163号土坑上層断面(南東から)  
 8. 164号土坑(南から)  
 PL.116  
 1. 164号土坑上層断面(西から)  
 2. 165号土坑(東から)  
 3. 165号土坑上層断面(東から)  
 4. 166号土坑(南東から)  
 5. 166号土坑上層断面(南東から)  
 6. 167号土坑(南東から)  
 7. 167号土坑上層断面(南東から)  
 8. 168号土坑(南東から)  
 PL.117  
 1. 168号土坑上層断面(南東から)  
 2. 169号土坑(南から)  
 3. 169号土坑上層断面(南から)  
 4. 171号土坑(南から)  
 5. 171号土坑上層断面(南から)  
 6. 172号土坑(南から)  
 7. 172号土坑上層断面(南から)  
 8. 173号土坑(南西から)  
 PL.118  
 1. 173号土坑上層断面(南西から)  
 2. 174号土坑(南から)  
 3. 174号土坑上層断面(南から)  
 4. 175号土坑(南から)  
 5. 175号土坑上層断面(南から)  
 PL.119  
 1. 177号土坑上層断面(南から)  
 2. 178号土坑(南から)  
 3. 178号土坑上層断面(南から)  
 4. 179号土坑(南から)  
 5. 179号土坑上層断面(南から)  
 6. 180号土坑(東から)  
 7. 180号土坑上層断面(東から)  
 8. 181号土坑(南から)  
 PL.120  
 1. 181号土坑上層断面(南から)  
 2. 181号土坑、遺物出土状態(南から)  
 3. 182号土坑(南から)  
 4. 182号土坑上層断面(南から)  
 5. 183号土坑(東から)  
 6. 183号土坑上層断面(東から)  
 7. 184号土坑(南から)  
 8. 184号土坑上層断面(南から)
- PL.121  
 1. 185号土坑(南から)  
 2. 185号土坑上層断面(南から)  
 3. 186号土坑(南東から)  
 4. 186号土坑上層断面(南東から)  
 5. 187号土坑(南から)  
 6. 187号土坑上層断面(南から)  
 7. 188号土坑(南から)  
 8. 188号土坑上層断面(南から)  
 PL.122  
 1. 189号土坑(西から)  
 2. 189号土坑上層断面(西から)  
 3. 190・191号土坑(190号上坑完掘、西から)  
 4. 190・191号土坑(191号上坑完掘、西から)  
 5. 190・191号土坑上層断面(西から)  
 6. 192号土坑(南から)  
 7. 192号土坑、遺物出土状態(西から)  
 8. 193号土坑(東から)  
 PL.123  
 1. 193号土坑上層断面(東から)  
 2. 194号土坑(東から)  
 3. 194号土坑上層断面(東から)  
 4. 195号土坑(南から)  
 5. 195号土坑上層断面(南から)  
 6. 196号土坑(東から)  
 7. 196号土坑上層断面(東から)  
 8. 197号土坑(東から)  
 PL.124  
 1. 197号土坑上層断面(東から)  
 2. 198号土坑(南から)  
 3. 198号土坑上層断面(南から)  
 4. 199号土坑(南から)  
 5. 199号土坑上層断面(南から)  
 6. 200号土坑(東から)  
 7. 200号土坑上層断面(東から)  
 8. 201号土坑(東から)  
 PL.125  
 1. 201号土坑上層断面(東から)  
 2. 202号土坑(南から)  
 3. 202号土坑上層断面(南から)  
 4. 203号土坑(東から)  
 5. 204号土坑(東から)  
 6. 204号土坑上層断面(東から)  
 7. 205号土坑(南東から)  
 8. 205号土坑上層断面(南東から)  
 PL.126  
 1. 206号土坑(南東から)  
 2. 206号土坑上層断面(南東から)  
 3. 207号土坑(南から)  
 4. 207号土坑上層断面(南から)  
 5. 208号土坑(南東から)  
 6. 208号土坑上層断面(南東から)  
 7. 209号土坑(南東から)  
 8. 209号土坑上層断面(南東から)  
 PL.127  
 1. 210号土坑(南から)  
 2. 210号土坑上層断面(南から)  
 3. 211号土坑(北から)  
 4. 211号土坑上層断面(北から)  
 5. 212号土坑(南から)  
 6. 212号土坑上層断面(南から)  
 7. 213号土坑(南から)  
 8. 213号土坑上層断面(南から)  
 PL.128  
 1. 214号土坑(南西から)  
 2. 214号土坑上層断面(南西から)

3. 215号上杭(西から)  
 4. 215号上杭上断面(西から)  
 5. 6号ビット列(西から)  
 6. 6号ビット列、ビット1(南西から)  
 7. 6号ビット列、ビット2(南西から)  
 8. 6号ビット列、ビット3(南西から)  
 PL.129  
 1. 6号ビット列、ビット4(南西から)  
 2. 6号ビット列、ビット5(南西から)  
 3. 426号ビット(南から)  
 4. 427号ビット(南から)  
 5. 428号ビット(南から)  
 6. 429号ビット(南から)  
 7. 430号ビット(南から)  
 8. 431・432号ビット(南から)  
 9. 433号ビット(南から)  
 10. 434号ビット(南から)  
 11. 435号ビット(南から)  
 12. 436号ビット(南から)  
 13. 437号ビット(南から)  
 14. 438号ビット(東から)  
 PL.130  
 1. 439号ビット(南から)  
 2. 440号ビット(南から)  
 3. 441号ビット(南から)  
 4. 442号ビット(南から)  
 5. 443号ビット(南から)  
 6. 444号ビット(南から)  
 7. 445号ビット(南から)  
 8. 446号ビット(南から)  
 9. 447号ビット(南から)  
 10. 448号ビット(南から)  
 11. 449号ビット(南から)  
 12. 450号ビット(南から)  
 13. 451号ビット(南から)  
 14. 452号ビット(南から)  
 15. 453号ビット(南から)  
 16. 454号ビット(南から)  
 17. 455号ビット(南から)  
 18. 456号ビット(南から)  
 PL.131  
 1. 457号ビット(東から)  
 2. 458号ビット(南から)  
 3. 459号ビット(南から)  
 4. 460号ビット(南から)  
 5. 461号ビット(南から)  
 6. 462号ビット(南から)  
 7. 463号ビット(南から)  
 8. 464号ビット(南から)  
 9. 465号ビット(南から)  
 10. 466号ビット(南から)  
 11. 467号ビット(南から)  
 12. 468号ビット(南から)  
 13. 469号ビット(東から)  
 14. 470号ビット(南から)  
 15. 471号ビット(南から)  
 16. 472号ビット(南から)  
 17. 473号ビット(南から)  
 18. 474号ビット(南から)  
 PL.132  
 1. 475号ビット(南から)  
 2. 476号ビット(東から)  
 3. 477号ビット(南から)  
 4. 478号ビット(東から)  
 5. 479号ビット(南から)  
 6. 480号ビット(南から)  
 7. 481号ビット(南から)  
 8. 482号ビット(東から)  
 9. 483号ビット(西から)  
 10. 484・485号ビット(南から)  
 11. 486号ビット(南から)  
 12. 487号ビット(南から)  
 13. 488号ビット(南から)  
 14. 489・490号ビット(南から)  
 15. 491号ビット(南から)  
 16. 492号ビット(南から)  
 17. 493号ビット(南から)  
 18. 494号ビット(南から)  
 PL.133  
 1. 495号ビット(東から)  
 2. 496号ビット(東から)  
 3. 497号ビット(東から)  
 4. 498・499号ビット(南から)  
 5. 500号ビット(南から)  
 6. 501号ビット(南から)  
 7. 502号ビット(南から)  
 8. 503・504号ビット(南から)  
 9. 505号ビット(南から)  
 10. 506号ビット(南から)  
 11. 507号ビット(南から)  
 12. 508号ビット(南から)  
 13. 509号ビット(南から)  
 14. 510号ビット(南から)  
 15. 511号ビット(南から)  
 16. 512号ビット(南から)  
 17. 513号ビット(南から)  
 18. 514号ビット(南から)  
 PL.134  
 1. 515号ビット(南から)  
 2. 516号ビット(東から)  
 3. 517号ビット(南から)  
 4. 518号ビット(南から)  
 5. 519号ビット(南から)  
 6. 520号ビット(東から)  
 7. 521・522号ビット(南から)  
 8. 523号ビット(南から)  
 9. 524号ビット(南から)  
 10. 525号ビット(南から)  
 11. 526号ビット(南から)  
 12. 527号ビット(南から)  
 13. 528号ビット(南から)  
 14. 529号ビット(南から)  
 15. 530号ビット(南から)  
 16. 531・532号ビット(南から)  
 17. 533号ビット(東から)  
 18. 534号ビット(南から)  
 PL.135  
 1. 535号ビット(南から)  
 2. 536号ビット(南から)  
 3. 537号ビット(南から)  
 4. 538号ビット(南から)  
 5. 539号ビット(南から)  
 6. 540号ビット(南西から)  
 7. 541号ビット(南から)  
 8. 542号ビット(南から)  
 9. 543号ビット(南から)  
 10. 544号ビット(南から)  
 11. 545号ビット(南から)  
 12. 546号ビット(南西から)  
 13. 547号ビット(南から)  
 14. 548号ビット(南から)  
 15. 549号ビット(南から)  
 16. 550号ビット(南から)  
 17. 551号ビット(南から)  
 18. 552号ビット(南から)  
 PL.136  
 1. 553号ビット(南から)  
 2. 554号ビット(南から)  
 3. 555号ビット(南から)  
 4. 556号ビット(南から)  
 5. 557・558号ビット(東から)  
 6. 559号ビット(東から)  
 7. 560号ビット(南西から)  
 8. 561号ビット(東から)  
 9. 562号ビット(南から)  
 10. 563号ビット(南から)  
 11. 564号ビット(南東から)  
 12. 565号ビット(南東から)  
 13. 566号ビット(南から)  
 14. 567号ビット(南から)  
 15. 568号ビット(南から)  
 16. 569号ビット(南から)  
 17. 570号ビット(南から)  
 18. 571号ビット(南から)  
 PL.137  
 1. 572号ビット(東から)  
 2. 573号ビット(西から)  
 3. 574号ビット(南から)  
 4. 575号ビット(南から)  
 5. 576号ビット(南から)  
 6. 577号ビット(南から)  
 7. 578号ビット(南から)  
 8. 579号ビット(東から)  
 9. 580号ビット(南から)  
 10. 581号ビット(南西から)  
 11. 582号ビット(南から)  
 12. 583号ビット(南東から)  
 13. 584号ビット(南から)  
 14. 585号ビット(北東から)  
 15. 586号ビット(東から)  
 16. 587号ビット(北東から)  
 17. 588号ビット(南から)  
 18. 589号ビット(東から)  
 PL.138  
 1. 590号ビット(南から)  
 2. 591号ビット(南から)  
 3. 592号ビット(東から)  
 4. 593号ビット(南から)  
 5. 594号ビット(南から)  
 6. 595号ビット(南東から)  
 7. 596号ビット(南から)  
 8. 597号ビット(南東から)  
 9. 598号ビット(南から)  
 10. 599号ビット(南から)  
 11. 600号ビット(南から)  
 12. 601号ビット(南から)  
 13. 602号ビット(南東から)  
 14. 603号ビット(北東から)  
 15. 604号ビット(東から)  
 16. 605号ビット(南から)  
 17. 606号ビット(東から)  
 18. 612号ビット(南東から)  
 PL.139  
 1. 613号ビット(南東から)  
 2. 614号ビット(南東から)  
 3. 615号ビット(南東から)  
 4. 616号ビット(南から)  
 5. 617号ビット(南から)

6. 618号ビット(南から)  
 7. 619・620号ビット(東から)  
 8. 621号ビット(北東から)  
 9. 622号ビット(南から)  
 10. 623号ビット(南から)  
 11. 624号ビット(南から)  
 12. 625号ビット(北から)  
 13. 626号ビット(北から)  
 14. 627号ビット(南から)  
 15. 628号ビット(南から)  
 16. 629号ビット(東から)  
 17. 630号ビット(南から)  
 18. 631号ビット(南から)  
 PL.140  
 1. 632号ビット(北から)  
 2. 633号ビット(南から)  
 3. 21号壁上遺構(南から)  
 4. 22号壁上遺構(南から)  
 5. 1号井戸(北から)  
 6. 1号井戸(東から)  
 7. 1号井戸(南から)  
 8. 1号井戸断ち割り(南から)  
 PL.141  
 下田道路出土遺物(5章)  
 PL.142  
 下田道路出土遺物(5章)  
 PL.143  
 下田道路出土遺物(5章)  
 PL.144  
 下田道路出土遺物(5章)  
 PL.145  
 下田道路出土遺物(5章)  
 PL.146  
 下田道路出土遺物(5章)  
 PL.147  
 下田道路出土遺物(5章)  
 PL.148  
 下田道路出土遺物(5章)  
 PL.149  
 下田道路出土遺物(5章)  
 PL.150  
 1. D1建物群15号建物(写真左奥、東から)  
 2. N1建物群(南から)  
 3. N1建物群22号建物(南から)  
 4. N1建物群22号建物(北から)  
 5. 22号建物、礎石に転用されたカマド天板(健石19、西から)  
 6. 22号建物、礎石18・栗石(南から)  
 7. 22号建物、灰検出範囲と敷物痕(南西から)  
 8. 22号建物、敷物痕近接(南から)  
 PL.151  
 1. 29号建物床下(南から)  
 2. 29号建物床下(北から)  
 3. 29号建物、床組検出状況(東から)  
 4. 29号建物、床下に残れ込んだ天明泥流(東から)  
 5. 29号建物、根太焼出状況(東から)  
 6. 29号建物布基礎と外周石垣(南から)  
 7. 29号建物敷地盤地況(南から)  
 8. 29号建物基礎の石材に残る石削矢の跡(南から)  
 PL.152  
 1. 30号建物(東から)  
 2. 30号建物、か跡(東から)  
 3. 2号道と4号道南側(写真奥側、東から)  
 4. 4号道北側(南から)  
 5. 4号道南側と側溝(写真手前側、西から)  
 6. 5号道(南から)  
 7. 烟地検出状況(南から)  
 8. 22号烟と25号烟(西から)  
 PL.153  
 1. 94B平坦面(南から)  
 2. 94A平坦面(南から)  
 3. 16号堅穴建物(南から)  
 4. 16号堅穴建物掘り方(南から)  
 5. 16号堅穴建物カマド(南から)  
 6. 16号堅穴建物カマド埋没状況(南から)  
 7. 16号堅穴建物、柏川テフラ検出状況(東から)  
 PL.154  
 1. 17号堅穴建物(南から)  
 2. 17号堅穴建物カマド検出状況(南から)  
 3. 17号堅穴建物カマド石組(南から)  
 4. 17号堅穴建物カマド埋没状況(南から)  
 5. 17号堅穴建物貯蔵穴(南から)  
 6. 17号堅穴建物床下土坑(北から)  
 7. 17号堅穴建物ビット1(西から)  
 8. 17号堅穴建物ビット2(北から)  
 PL.155  
 1. 14号掘立柱建物(南から)  
 2. 14号掘立柱建物、ビット1(南から)  
 3. 14号掘立柱建物、ビット2(南から)  
 4. 14号掘立柱建物、ビット3(南から)  
 5. 14号掘立柱建物、ビット4(南から)  
 6. 14号掘立柱建物、ビット5(南から)  
 7. 14号掘立柱建物、ビット6(南から)  
 8. 15号掘立柱建物(南から)  
 PL.156  
 1. 15号掘立柱建物、ビット1(南から)  
 2. 15号掘立柱建物、ビット2(南から)  
 3. 15号掘立柱建物、ビット3(南から)  
 4. 15号掘立柱建物、ビット4(南から)  
 5. 15号掘立柱建物、ビット5(南から)  
 6. 15号掘立柱建物、ビット6(南から)  
 7. 1号流路(南から)  
 8. 21号土坑(北から)  
 PL.157  
 1. 217号土坑(北から)  
 2. 217号土坑上層断面(東から)  
 3. 218号土坑(東から)  
 4. 218号土坑上層断面(東から)  
 5. 219号土坑(東から)  
 6. 219号土坑(東から)  
 7. 220号土坑・221号土坑(南から)  
 8. 220号土坑掘り方(南から)  
 PL.158  
 1. 221号土坑上層断面(南から)  
 2. 222号土坑(南から)  
 3. 222号土坑上層断面(南から)  
 4. 223号土坑(南から)  
 5. 223号土坑上層断面(南から)  
 6. 224号土坑(南から)  
 7. 224号土坑上層断面(北から)  
 8. 225号土坑(南から)  
 PL.159  
 1. 225号土坑上層断面(南から)  
 2. 226号土坑(東から)  
 3. 226号土坑(西から)  
 4. 226号土坑上層断面(北から)  
 PL.160  
 下田道路出土遺物(6章)



# 第1章 調査の経過と調査方法

## 第1節 ハッ場ダム発掘調査の経緯

ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、建設省関東地方建設局(現国土交通省関東地方整備局)と群馬県教育委員会、長野原町教育委員会、吾妻町教育委員会(現東吾妻町教育委員会)が協議し、平成6年3月18日「ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定書」を建設省関東地方建設局と群馬県教育委員会の両者で締結し、発掘調査事業の実施計画が決定された。同年4月1日、関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長との間で発掘調査受託契約を締結し、同日同教育長と群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長の両者で発掘調査委託契約が締結され、調査が開始された。

調査当初は、工事用進入路建設に先立つ小規模調査が先行したが、平成10年度以降、工事用進入路が徐々に整い、住民の生活再建の施設としての学校建設や住宅地造成、国道・県道建設工事に伴う発掘調査が増加し、広大な面積が対象となった。

平成11年4月1日に「ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定の一部を変更する協定書」が締結され、これ以降は調査実施機関を財團法人群

馬県埋蔵文化財調査事業団に変更し、現在の調査体制に至っている。発掘調査される遺跡も久々戸遺跡や尾坂遺跡などのように、江戸時代の天明泥流下の畑が一面に広がる遺跡や当時の集落、また長野原一本松遺跡や横壁中村遺跡にみられる縄文時代中・後期の大型集落遺跡などが発掘調査されてきた。

さらに、平成17年4月1日に期間変更の協定書変更がなされ、平成28年度末までに5回の変更を行い、継続調査されている。

## 第2節 調査に至る経緯と経過

下田遺跡は、ハッ場ダム建設工事に伴う水没地域に所在する遺跡である。

下田遺跡では平成7年度に、工事用進入路建設工事(中原進入路)に伴い発掘調査が実施され、天明泥流により埋没した近世の建物や畑が検出されている。この調査成果は「第7章 下田遺跡」『ハッ場ダム発掘調査集成(1)』(財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002)に掲載されている。

平成19年11月に群馬県教育委員会文化課(以下:文化



第1図 遺跡位置図

課)により試掘調査が実施され、天明泥流直下で烟面を確認し、烟面の下には中世～古代の面があることが確認でき、本調査実施となった。

八ヶ場ダム工事事務所と文化課と当事業団とで調整を行い、平成25年度から発掘調査を実施することとなった。平成25年度および平成26年度の調査成果は『下田遺跡(2)』(公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2017)として既に刊行されている。平成28年度～平成31年度にかけての調査成果が本報告書である。

下田遺跡の発掘調査にあたっては、表土掘削には掘削機械を用い、下位の遺構面に対してはジョレンを用いた人手による遺構確認を基本とした。

基本土層第1層の表土および現代の耕作土および第2層の天明泥流堆積物の2層の削除は掘削機械を用いて実施した。As-Aが検出される泥流下遺構面に対しては、人手を用いて遺構確認を行い、確認された遺構に対し精査を行った。

2面の調査では天明泥流下遺構面にトレーナーを設定し、確認された遺構周辺を拡張しつつ調査をすすめた。

検出した遺構の平面および土層断面等の測量は測量業

者への業務委託で実施した。測量縮尺は1/20と1/40を基準とし、全体図等においては1/100を用いた。

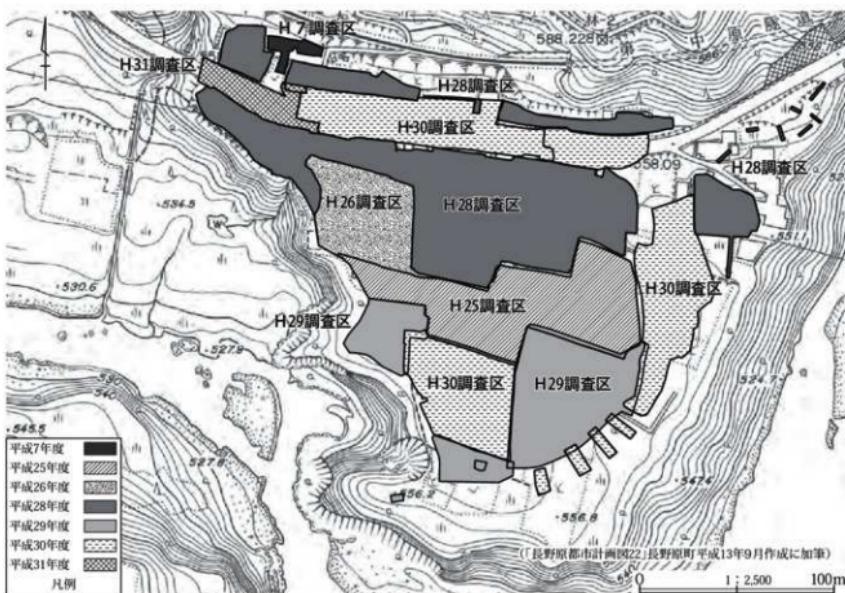
記録写真撮影には1010万画素の一眼レフ・デジタルカメラと6×7判の一一眼レフ・フィルムカメラを用い、調査担当者が撮影に当たった。なお平成29年度より2020万画素の一一眼レフ・デジタルカメラを使用した。

#### 調査概要

平成28年度 天明泥流により埋没した道や烟と建物、烟の耕作土下の遺構群が確認された。堅穴建物、礎石建物、掘立柱建物、土坑墓などが検出された。

平成29年度 天明泥流により埋没した道や塚と墓域が確認され、烟の耕作土下からは土坑や土坑墓が検出された。平成30年度 天明泥流により埋没した道や烟、馬屋を伴う建物などが確認された。烟の耕作土下からは堅穴建物や土坑が検出された。

平成31年度 天明泥流により埋没した道や烟、藏と思われる建物が確認された。烟の耕作土下からは堅穴建物や掘立柱建物、土坑などが検出された。



第2図 下田遺跡年度別調査区図

## 第2節 調査に至る経緯と経過

### 調査経過(調査日誌抄録)

平成28年

- 4月6日 国道南側より、掘削機械による表土掘削に着手。  
4月8日 掘削機械による道構面確認開始。  
4月11日 D区表土掘削開始。  
4月15日 D区道構確認作業に着手。  
4月22日 F区表土掘削開始。  
4月26日 F区全景写真撮影。2面掘削開始。  
5月9日 E区2面全量写真撮影。掘削機械による3面掘削開始。  
5月10日 D区建物・堆の調査開始。  
6月1日 E区1面道構精査。  
6月3日 D区東側2面目の調査開始。  
6月7日 掘削機械による掘削後、ジョレンにより道構確認。  
6月20日 E区1面空掘による全景写真撮影。  
6月27日 E区2面の道構確認作業。  
7月1日 D区2面の道構確認作業に着手。  
7月5日 E区3面道構確認作業。  
7月19日 F区掘削機械による掘削後、ジョレンにより道構確認。  
8月4日 G区泥流下構調査開始。  
8月17日 G区1面道構調査。  
8月19日 H区1面道構確認。  
9月2日 H区全景写真撮影。  
9月21日 G区道構精査着手。  
10月5日 F区道構精査着手。  
10月27日 D区H区ドローンにより空掘。  
11月7日 H区2面道構確認。  
11月16日 F区埋め戻し。  
12月2日 I区掘削機械により表土掘削後、道構確認作業。  
12月9日 G区H区I区の空掘実施。  
12月27日 発掘機材撤収・整備。  
平成29年  
6月9日 発掘調査打ち合わせ。  
6月12日 調査範囲の確定、伐採に着手。  
6月26日 調査区設定、調査範囲杭打ち。  
6月28日 調査区作業環境整備に着手。  
7月5日 掘削機械による表土掘削開始。  
7月10日 調査区の南側・西側・北側にトレンチ掘削。  
7月18日 J区作業員による泥流除去開始。  
7月20日 掘削機械による泥流除去開始。  
7月24日 J区南北で2面トレンチ調査開始。  
8月9日 J区南北埋め戻し作業に着手。  
8月17日 J区北半・掘削機械による表土掘削開始。  
8月23日 道構精査開始。  
8月31日 掘削機械による埋め戻し、掛上運搬開始。  
9月25日 J区北半で2面トレンチ調査開始。  
9月27日 J区北半2面の道構精査。  
10月6日 J区北半2面の全景写真撮影。  
10月19日 迂回道路設置のための現場打合せ。  
11月1日 K区で掘削機械による表土掘削開始。  
11月8日 K区道構確認面の面出し。  
11月21日 K区泥流除去開始。  
11月28日 掘削機械によるL区表土掘削開始、作業員によるK区表土掘削と道構精査に着手。  
11月29日 空掘によるK区全景写真撮影。  
12月1日 作業員によるL区表土掘削開始。

12月4日 空掘によるL区1面全景撮影。

12月7日 K区・L区道構精査開始。

12月14日 K区2面表土掘削と道構精査開始。

12月18日 K区2面道構写真撮影。

12月21日 L区全景写真撮影。

12月23日 撤収作業着手。

12月28日 撤収。

平成30年

4月5日 調査範囲の確定。

4月9日 M区表土掘削開始。M区1面調査開始。

4月10日 N区表土掘削開始。N区1面調査開始。

4月12日 道構精査着手。

4月17日 ドローンによるM区西全景空掘。

5月11日 22・25号建物内遺物取り上げ着手。

5月18日 25～27号建物ドローンによる全景空掘。

5月22日 M区東2面確認トレントレンチ掘削。

5月23日 M区東(北部)2面道構精査。

5月25日 N区東道構精査。

6月1日 N区東2面確認トレントレンチ掘削。

6月7日 N区東道構精査。

6月14日 ドローンによるN区東全景空掘。N区東1面調査終了。

6月25日 N区中央表土掘削・道構精査。

7月3日 N区22・25～27号建物内道構精査開始。

7月9日 掘削機械によるO区トレントレンチ調査開始。O区1面調査開始。

7月13日 N区中央空掘。N区1面調査終了。O区調査終了。

7月17日 N区2面掘削・道構精査開始。

7月27日 N区中・東調査終了。N区西2面掘削、道構確認終了。

8月1日 P区調査範囲設定、表土掘削開始。

8月10日 N区2面空掘。

8月20日 P区表土掘削・道構精査開始。

8月27日 N区調査終了。掘削機械による埋め戻し。

8月28日 ドローンによるP区1面全景写真撮影。P区1面調査終了。

P区2面調査範囲グリッド設定、掘削。

8月29日 P区2面道構精査開始。

9月10日 P区2面北部全景写真撮影。

9月13日 P区2面調査終了。掘削機械による埋め戻し。

9月18日 掘削機械による埋め戻し。現場撤収準備。

9月28日 プレハブ搬出終了。下田道路調査終了。

平成31年

4月3日 発掘調査打ち合わせ。

4月5日 掘削機械による表土掘削開始。

4月9日 1面道構確認着手。

4月12日 1面道構精査開始。

4月15日 道構測量に平行して2面道構確認着手。

4月18日 2面道構精査開始。

4月25日 全景写真撮影。

4月26日 下田道路調査終了。

### 第3節 調査の方法

平成6年から始まったハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査においては、遺跡名称の略号やグリッドの設定などについて「ハッ場ダム関連埋蔵文化財発掘調査方法」に基づき進められている。

#### 1 遺跡名称の略号(遺跡番号)

ハッ場ダム調査の略称はYD、次に長野原町の大字をそれぞれ1地区とし、1：川原畠地区、2：川原湯地区、3：横壁地区、4：林地区、5：長野原地区的5地区に区分し、さらに各地区に所在する遺跡の調査順に番号を付すこととされた。その後、東吾妻町の4地区にもYD番号が付与されることとなり、6：三島地区、7：大柏木地区、8：松谷地区、9：岩下地区とされた。本遺跡は長野原町林地区での調査であり、YD4-01となる。

#### 2 グリッドの設定

グリッドの設定は、平面直角座標系第IX系に基づき、東吾妻町大字大柏木付近を基点(座標値：X=58000.0、Y=-97000.0)とした、北西方向に60区画の1km方眼を設定して大グリッド(地区)としている。

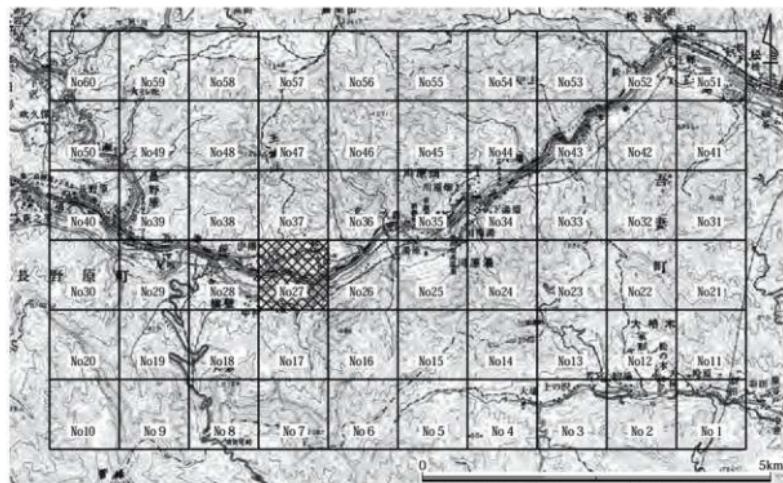
大グリッド(地区)内を100m方眼により100分割し中グリッド(区)とし、分割された中グリッドには、それぞれ大グリッドの南東隅を基点とする番号を付与している。さらに、この中グリッド(区)内を4m方眼により625分割し、中グリッドの南東隅を基点として、Y軸となる東から西へA～Y、X軸となる南から北へ1～25を付し、最小グリッドとしている。また、大グリッドの境界が調査区を通らない場合は、大グリッドの番号を省略し、中グリッドと小グリッドをあわせ「6区H-20」のように表記した(第3図)。

遺構名称については、中グリッド毎の遺構名称を基本とする。

なお、調査区の設定方法については、「第2章 第2節 発掘調査の方法」『長野原一本松遺跡(1)』(財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002)に詳しい。

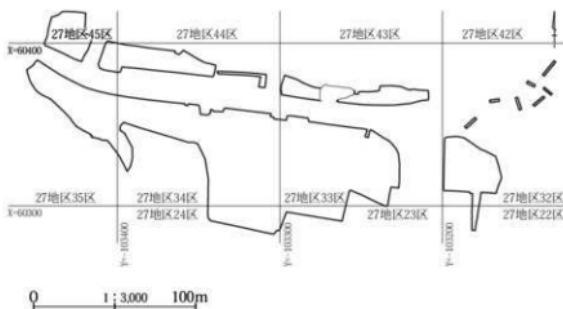
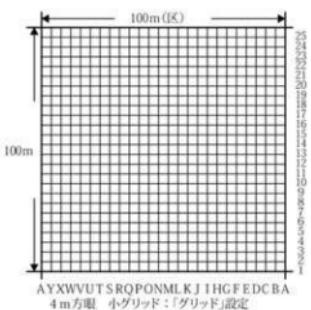
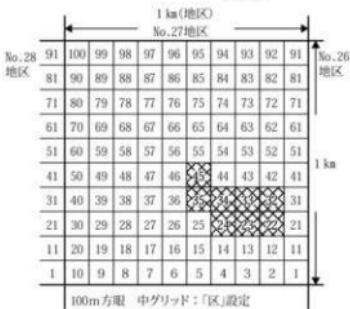
第1表 ハッ場ダム建設工事に伴う調査遺跡一覧

所在大字	YD番号	遺跡名	調査年度(平成)
川原畠	YD 1 01	—	9,19,20,21,26,27,28,29,30,31
	YD 1 02	東宮	10,29,31
	YD 1 03	石畠	16,17,24,25,30
	YD 1 04	三平 I	10,28,29
	YD 1 05	二社平	16,17,24,25,30
	YD 1 06	三平 II	16
	YD 1 07	上ノ平 I	18,19,28
	YD 1 08	西宮	20,26,27,28,29,30,31
	YD 1 09	西宮宮跡	26
	YD 1 10	三ツ堂岩陰	28
	YD 1 11	石畠 I 宮跡	29,30,31
	YD 1 12	川原畠の宝塚印塔	29
川原湯	YD 2 01	川原湯勝沼	9,15,16,28,31
	YD 2 02	西ノ上	14,27,29
	YD 2 03	石川原	20,26,27,28,29,30,31
	YD 2 04	下原湯	27,28,29,31
	YD 2 05	川原湯中原Ⅲ	28
	YD 2 06	前原	29
横壁	YD 3 01	横壁勝沼	6,7
	YD 3 02	西久保 I	10,12,29
	YD 3 03	横壁中村	8～18,30
	YD 3 04	山根Ⅲ	13,18
	YD 3 05	西久保IV	21,23,31
	YD 3 06	西久保V	28,29
林	YD 4 01	下田	7,25,26,28,29,30,31
	YD 4 02	—	—
	YD 4 03	上原 I	24
	YD 4 04	—	—
	YD 4 05	花畠	10,11,12
	YD 4 06	榎木Ⅲ	10
	YD 4 07	中郷 II	11,12,13,16,17,28,29,30
	YD 4 08	下原	12,13,15,16,29
	YD 4 09	榎木 II	11,12,13,16,17
	YD 4 10	二反沢	12
	YD 4 11	立馬 I	13,14,17
	YD 4 12	立馬 II	14,15
	YD 4 13	上原 IV	15,21
	YD 4 14	林中原 I	16,19,20,21,30
	YD 4 15	林中原 II	16,20,21
	YD 4 16	上原 II	16
	YD 4 17	林の御塚	7,10
	YD 4 18	立馬 III	19
	YD 4 19	東原 I	20
	YD 4 20	東原 II	20,20
	YD 4 21	東原 III	20,21
	YD 4 22	榎木 I	21
	YD 4 23	林宮原	24,27
	YD 4 24	上原 III	25,27
	YD 4 25	中郷 I	29
長野原	YD 5 01	長野原一本松	6～10,12～17,19,20
	YD 5 02	尾坂	11,18～22,25,26,28,29,30
	YD 5 03	久々戸	7,9,10,15,27,28
	YD 5 04	幸神	8,9,14,17,18
	YD 5 05	長野原城跡	23
	YD 5 06	町道跡	23,24,25,30
三島	YD 6 01	上郷 B	13,14
	YD 6 02	上郷圓原	13,14,15,17～19
	YD 6 03	上郷 A	15,19,20
	YD 6 04	上郷西	19
	YD 6 05	三島大沢	—
大柏木	YD 7 01	廣石 A	13
	YD 7 02	大柏木上ノ沢	—
松谷	YD 8	松田前田	—
	YD 9	—	—



No. 27地区 下田遺跡

1 km方眼 大グリッド：「地区」設定



1 km方眼で区画された大グリッド(地区)の27地区に下田遺跡が位置している(上段の図)。27地区的22～24区・32～35区・45区が平成28年度の調査対象地点となる(中段左の図)。中段左図の100m方眼で区切られた中グリッド(区)の画面中を、中段右図のように4 m方眼で区切ったものが小グリッドとなる。

下段に、下田遺跡平成28年度調査区における調査グリッド設定を示した。

第3図 調査グリッドの設定

## 第2章 周辺の環境

### 第1節 地理的環境

長野原町は群馬県の北西部、吾妻郡の南西隅に位置する。町の南西に浅間山(2,568m)、北西に草津白根山(2,171m)が聳え、両火山をつなぐ山脈の連なりが上信国境を構成している。この上信国境を構成する分水界の一つ、長野県との県境に位置する鳥居峠(1,362m)付近に源を発する吾妻川は、嬬恋村を経て長野原町、東吾妻町と東流し、渋川市白井で南下する利根川に合流する。長野原町の北部は山並に挟まれた吾妻川に沿い東西に延びている。

吾妻川が形成した段丘面は、最上位段丘面、上位段丘面、中位段丘面、下位段丘面に区分される。発掘調査の対象となる埋蔵文化財包蔵地もこれらの段丘面に位置しており、その対象地は広く、各段丘面を包括した面的な発掘調査が必要とされる地域である。長野原町の遺跡の多くは、吾妻川が形成した河岸段丘上に存在しているが、近年の調査により丘陵、山麓斜面にもその分布域が広が

ることが判明した。

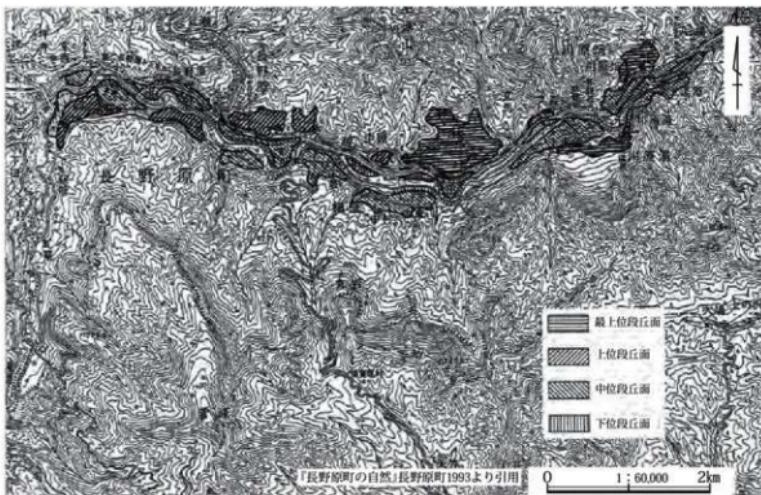
当地域には、川原畠、川原湯、林、横壁、長野原という5か所の大字がある。各大字は河川・段丘・道路などにより区画され、それぞれが特徴ある遺跡を包蔵する固有の領域をなしている。段丘様相と、それぞれの大字が包括する小地域の様相とが相互に影響しあい、地域の特性が形成されたといわれる。

### 第2節 歴史的環境

この地域の歴史については、すでに長野原町教育委員会の富田氏をはじめ多くの先人により詳細な説明がなされている。これらを参考とし、八ッ場ダム建設に伴う調査対象地域周辺の主な遺跡の分布図(第5図)と一覧表(第2表)を掲載し、当地域の遺跡の概要を記述する。

#### 旧石器時代

長野原町内では、いまだ旧石器時代の遺跡は確認されていない。吾妻川流域は応桑泥流や浅間-草津黄色軽石



第4図 長野原町段丘面の分布

層(As-YPk)が厚く堆積している。そのため、柳沢城跡(57)から遺構外出土であるが、細石刃文化に伴うと考えられる珪質頁岩製のスクレイバーが出土したにとどまる。

#### 縄文時代

長野原町内では吾妻川およびその支流の段丘面や丘陵部を中心、多くの遺跡が存在する。

草創期の遺跡としては、石畑I岩陰(2)が挙げられる。奥行4m以上、幅40mの大規模な岩陰遺跡であり、草創期の表裏縄文などの出土が知られる。また横壁勝沼遺跡(46)では槍先形尖頭器が採取され、榎木II遺跡(44)では表裏縄文1点が出土している。

早期の遺跡は吾妻川左岸に多く、特に山間地の急傾斜地形の中に存在する、狭小な平坦地や緩傾斜地に占地する傾向が指摘されている。林地区では榎木II遺跡、立馬I遺跡(23)、立馬III遺跡(25)から早期の集落が検出されている。このほか中棚I遺跡(40)、花畠遺跡(26)などが知られる。また長野原地区では、長野原一本松遺跡(61)、幸神遺跡(58)、尾坂遺跡(59)で出土が報告されている。川原畠地区では三平I遺跡(5)、三平II遺跡(6)において当該期の資料が見られる。

前期の遺跡は数少ないものの、漸増の傾向にあるとされ、河岸段丘面へ集落が広がる傾向も指摘されている。

林中原I遺跡(35)や上原I遺跡(31)で前期初頭の集落が調査されている。

前期前葉～中葉段階では、榎木II遺跡や林中原I遺跡から黒浜式期の住居が検出されている。また、石畑I岩陰では関山II式や黒浜式が出土している。

前期後葉段階も、平野部での傾向に反し、当地域の集落規模は小規模にとどまるとされる。諸磯式期の集落は、三平I遺跡、榎木II遺跡、川原湯勝沼遺跡(22)等で数軒単位の住居や土坑が調査されている。林中原II遺跡(36)でも土坑が報告されている。また榎木III遺跡(45)では、包含層ながら諸磯b式土器が出土している。

中期初頭段階の遺跡としては、上原II遺跡(32)が挙げられ、五領ヶ台II式の遺構と遺物の良好な出土が知られている。また同じ林地区的立馬II遺跡(24)、榎木II遺跡でも該期土器資料が出土している。

中期前葉段階のまとまった資料は少ないが、榎木II遺跡で住居3棟が検出されている。また前述した立馬II遺跡などで良好な土器の出土が見られるが、遺構を伴わな

い。榎木I遺跡(43)では1個体ながらも土坑からの出土が報告され、林中原II遺跡では土器2個体が共伴する土坑が調査されている。

中期中葉段階では、阿玉台Ib式～II式段階の遺構として、林中原I遺跡で住居が、林中原II遺跡で土坑が検出されている。幸神遺跡では「焼町類型」を炉体土器とする住居が報告されている。

中葉後半段階の資料としては、上ノ平I遺跡(7)が知られる。また横壁中村遺跡(47)でも、土坑から該期の土器が出土している。なお下田遺跡(1)でも「新巻類型」の資料1点が土坑から出土している。またこの時期は、長野原一本松遺跡をはじめとして、各所で大型集落が確認されている。

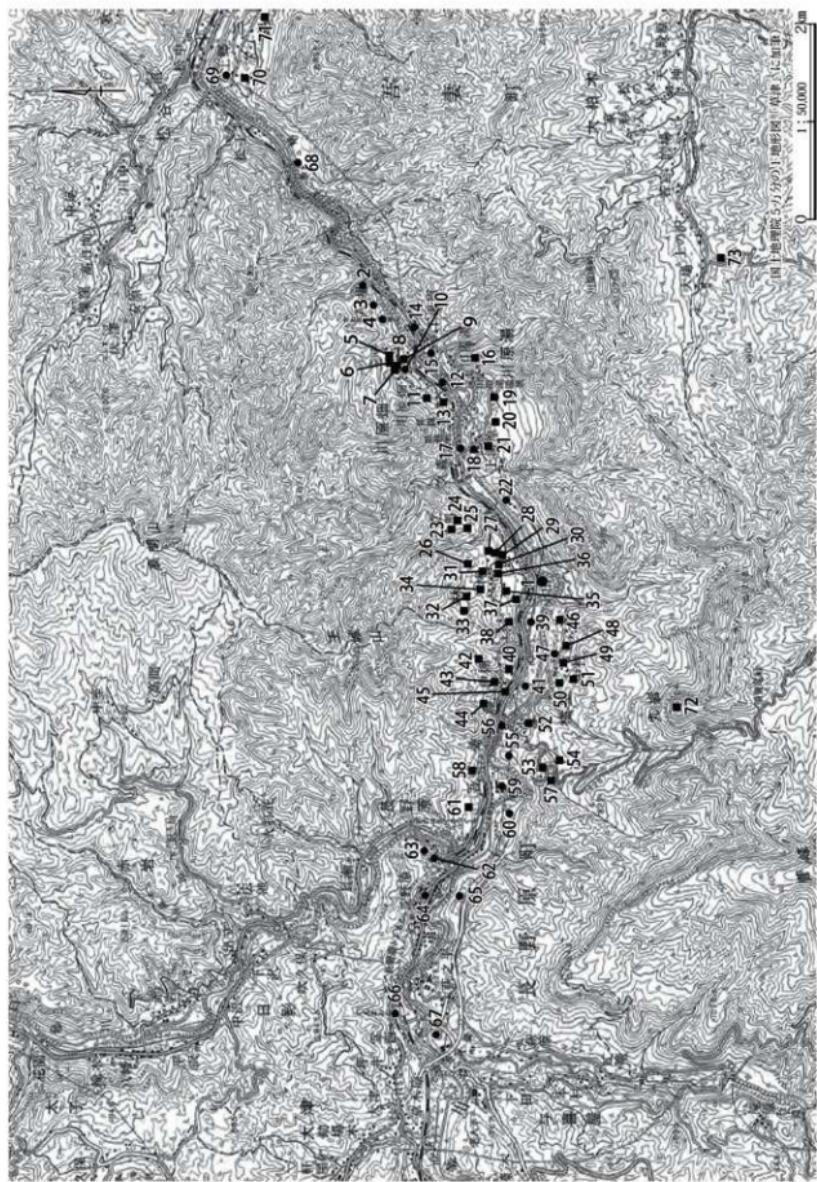
後期も中期集落から継続する様相が見られるとされ、規模は縮小するものの吾妻川流域に広く分布している。敷石住居は、長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡の他に林中原II遺跡、林中原I遺跡、久々戸遺跡(60)や向原遺跡(65)などでも調査されている。いずれも後期初頭から前葉段階の集落であり、称名寺式土器、堀之内式土器の他、「茂沢類型」や三十稻場式など、隣接する長野県や新潟県域を中心とする土器群も見られる。中棚II遺跡(41)では水場遺構も検出されている。

後期中～後葉段階になると遺跡数は激減する。上原IV遺跡(34)、横壁中村遺跡で加曾利B式期の竪穴建物や掘立柱建物が、後葉段階では石川原遺跡(18)や横壁中村遺跡で住居が検出されているが、集落分布域が狹まる様相が指摘されている。

晚期前半段階の遺構としては、横壁中村遺跡や石川原遺跡で確認されたのみである。晚期末葉の資料はやや増え、立馬I遺跡、横壁中村遺跡で住居が、川原湯勝沼遺跡では再葬墓の要素を持つ土坑が検出されている。なおこの時期は、長野県の氷式や東北地方の大洞式などといった土器の出土もみられる。

#### 弥生時代

遺跡数は希薄であるが、丘陵上あるいは最上位段丘面に立地する傾向が認められるとしている。前期～中期の住居は横壁中村遺跡、立馬I遺跡、林中原II遺跡で検出されている。上原I遺跡では前期とされる短頭壺を伴う土坑が、三平I遺跡では前期末から中期前半とされる土坑が検出されている。また立馬I遺跡では中期に比定され



第5図 周辺道路分布図

る痕跡も検出されており、上原Ⅲ遺跡(33)では中期初頭の壺が出土している。

弥生時代後期になると、さらに遺跡数は減少する。石畳遺跡で土坑が検出されている。

#### 古墳時代

上原Ⅰ遺跡で前期と考えられる住居が検出され、S字状口縁台付甕や坩形土器が出土している。また、上原Ⅳ遺跡、林宮原遺跡(38)、下原遺跡(39)では後期の住居が検出されている。

#### 奈良時代

奈良時代に比定される遺跡は希薄で羽根尾Ⅱ遺跡が知られるのみである。

#### 平安時代

9世紀後半代に至ると遺跡数が増加する。長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡、尾坂遺跡、中棚Ⅰ遺跡、上原Ⅰ遺跡、上原Ⅲ遺跡、上原Ⅳ遺跡、上ノ平Ⅰ遺跡、林宮原遺跡、楡木Ⅰ遺跡、楡木Ⅱ遺跡、下湯原遺跡(14)など、各地区で集落が調査されている。古代の集落は吾妻川左岸に偏る傾向が指摘されてきたが、西ノ上遺跡(15)、石川原遺跡、川原湯勝沼遺跡、横壁勝沼遺跡など吾妻川右岸からの検出も増加している。これらの集落遺跡からは、羽口、鉄滓、鎌、刀子、砥石など鍛冶関連遺物や鉄製品が出土しており、生産遺構としての鍛冶関連施設が各地区に点在しているとされる。

当地域の特徴的な該期遺構として、「陥穴状土坑」が挙げられる。イノシシ・シカなどを捕獲する罠獵遺構であるが、平安時代～中世に比定されるものが多数確認されている。

#### 中世

吾妻川流域には中世城館跡が点在する。金花山砦跡(16)、柳沢城跡、長野原城跡(62)、丸岩城跡(72)、羽根尾城跡や林城跡(37)が挙げられる。これらは、当時の交通網との関連が指摘され、交通の要衝に設けられたと考

第2表 周辺の主な遺跡

No	遺跡名	所在地	主な時代	概 要	備 考	報告書等
1	下田遺跡	長野原町林	平安、近世	天明泥流下の烟と建物。中近世の建物。平安時代の住居、階し穴。	平7, 25, 26, 28~30, 31年度事業団調査	12, 73, 77, 82
2	石畳I岩陰	長野原町川原畠	縄文、弥生、平安、中世、近世	天明泥流下の烟。縄文時代草創期の土器出土。各時代の灰層。	昭53年度群馬県調査、平29~31年度事業団調査	3, 5, 8
3	石畳遺跡	長野原町川原畠	縄文、弥生、近世	天明泥流下の烟。石畳Ⅱ岩陰。	平10, 29, 31年度事業団調査	8, 12, 77
4	二社平遺跡	長野原町川原畠	縄文、平安、近世	天明泥流下の烟。二社平岩陰。	平10, 28, 29年度事業団調査	12, 77
5	三平Ⅰ遺跡	長野原町川原畠	縄文、弥生、平安	縄文時代早期～前期の集落。弥生時代中期の土坑、平安時代の住居、階し穴。	平16, 17, 24, 25, 29, 30年度事業団調査	12, 33, 68, 77, 80

えられている。なお、下湯原遺跡では2列の柵と対になる掘立柱建物群が確認されている。城館跡以外では、横壁中村遺跡と下原遺跡で石垣に区画された屋敷跡が確認されている。また三平Ⅰ遺跡、三平Ⅱ遺跡、東原Ⅰ遺跡(27)、東原Ⅱ遺跡(28)、東原Ⅲ遺跡(29)、林中原Ⅰ遺跡、林宮原遺跡、二反沢遺跡(42)、楡木Ⅱ遺跡、尾坂遺跡などで掘立柱建物や土坑、烟が調査されている。

#### 近世

当地域の近世遺跡の多くは、天明3年(1783)の浅間山噴火に伴う泥流堆積物下の遺跡群である。民家の検出例としては東宮遺跡(10)、西宮遺跡(12)、石川原遺跡、下田遺跡、楡木Ⅰ遺跡、尾坂遺跡、町遺跡(64)などが挙げられる。また、小林家屋敷跡(66)も長野原町教育委員会が調査した良好な遺構で、西宮遺跡、東宮遺跡と並び、民家の規模のみならず生業や性格まで窺わせる資料が出土している。さらに石川原遺跡では、民家以外に当時の寺の調査も行われている。なお東宮遺跡と西宮遺跡は天明泥流に埋没した江戸時代の村を面としてとらえ再構成することのできる調査といえる。

この他に当地域の天明泥流下の遺構としては、烟が各遺跡で調査されている。主に中位段丘面と下位段丘面に集中しており、近世農業の研究には欠かせない遺跡群となっている。

墓塚も多く、林中原Ⅰ遺跡と林中原Ⅱ遺跡以外にも、上ノ平Ⅰ遺跡や横壁中村遺跡、下田遺跡でまとまった墓塚群が調査されている。当時の埋葬事例がうかがえる資料群である。

当地域の近世史研究にとり重要な資料となる天明3年以前の遺構や遺物も増加している。中棚Ⅱ遺跡では安永期とされる烟、町遺跡では泥流下畠耕作土下位層から製鉄関連遺構が調査されている。また時期は確定できないが、横壁中村遺跡における一字一石経の出土も近世社会における宗教様相の一端を知る資料となっている。

## 第2章 周辺の環境

No	遺跡名	所在地	主な時代	概 要	備 考	報告書等
6	三平Ⅱ遺跡	長野原町川原畠	縄文、平安、中世	縄文時代早期～前期の住居層。中世屋敷跡。	平16年度事業団調査	12、33
7	上ノ平Ⅰ遺跡	長野原町川原畠	縄文、平安、近世	縄文時代中期～後期の集落。平安時代の住居、陥し穴。「良銀水質」	平18、19、28年度事業団調査	37、69、91
8	上ノ平Ⅱ遺跡	長野原町川原畠	近世	散布地。		69
9	三ツ堂岩陰	長野原町川原畠	近世	近世の墓標、石塔。	平28年度事業団調査	
10	東宮遺跡	長野原町川原畠	縄文、中世、近世	天明泥流下の堆積。大形の建物が良好な状態で検出、土台、大引、床板等多くの建築材が残る。また、下駄や届柱、石臼等の当時の道具類も多く出土。繩文時代の住居、列石。	平7、9、19～21、26～30、31年度事業団調査	12、59、64、77、83、90
11	西宮岩陰	長野原町川原畠	近世	西宮集落北山中にある大きな岩の岩陰と岩上の祭壇遺構。	平26年度事業団調査	88
12	西宮遺跡	長野原町川原畠	縄文、近世	天明泥流下の建物複数、酒蔵、道、石垣、井戸、煙等。	平20、26～30、31年度事業団調査	73、77、88
13	川原畠の宝篋印塔	長野原町川原畠	近世	宝篋印塔。	平29年度事業団調査	
14	下湯原遺跡	長野原町川原畠	縄文、平安、中世、近世	縄文時代の住居、平安時代の住居、中近世の墓地、近世の島・道路。	平27～29、31年度事業団調査	77、87
15	西ノ上遺跡	長野原町川原畠	近世	天明泥流下の堆積。平安時代の陥し穴、斧、生時代の土坑等。	平14、27、29年度事業団調査	22、46、77、80、96
16	金花山西跡	長野原町川原畠	中世	中世山城、「川原湯真岡」。	平12年度町教委、事業団踏査	
17	前原遺跡	長野原町川原畠	近世		平29年度事業団調査	
18	右川原遺跡	長野原町川原畠	縄文、平安、近世	天明泥流下の建物と塙、道と水路。繩文時代中期の住居、列石、配石、水場遺構。平安時代の住居、陥し穴。	平20、25～31年度事業団調査	73、77、85
19	川原湯中原Ⅰ遺跡	長野原町川原湯	縄文		平19年度町教委調査	53
20	川原湯中原Ⅱ遺跡	長野原町川原湯	平安		平17年度町教委調査	31
21	川原湯中原Ⅲ遺跡	長野原町川原湯	縄文、平安、中世	縄文時代の住居と土塙。平安から近世にかけての土坂、築穴。	平28年度事業団調査	58、77、93
22	川原湯勝沼遺跡	長野原町川原湯	縄文、平安、近世	縄文時代後期の埋設土器、古墳時代の遺物。平安時代の住居、天明泥流下の堆積。	平15、16、28、31年度事業団調査	12、21、77、99
23	立馬Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文、弥生、平安	縄文時代早期、後期の住居。弥生時代中期の住居と土塗稻作。	平13、14、17年度事業団調査	27
24	立馬Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文、平安	縄文時代草創期、早期の上器、石器。中期初期～前半の住居9軒、中期後半の住居1軒。平安時代後期の陥石等。	平14、15年度事業団調査	28
25	立馬Ⅲ遺跡	長野原町林	縄文、平安	縄文時代早期の集落、前期、中期の住居、平安時代の陥し穴。	平19年度事業団調査	48
26	花畠遺跡	長野原町林	縄文、平安	平安時代の住居、陥し穴群。	平9～12年度事業団調査	12
27	東原Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文、平安	縄文時代上器群、陥し穴。平安時代住居。	平6、9、20、21、30年度事業団調査	31、46、54、69、80
28	東原Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代後期上器片、石器出露。	平10、20、21、30年度事業団調査	54
29	東原Ⅲ遺跡	長野原町林	平安、近世	縄文時代早期～後期の住居層。中近世の掘立柱建物。内耳鍋、古董戸等出土。江戸時代の礎石建物。	平20、21年度事業団調査	18、54
30	林の御塚遺跡	長野原町林	縄文		平7、10年度事業団調査	12
31	上原Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文、平安、近世	縄文時代前期初頭の住居、中期の住居。平安時代の住居、陥し穴等。	平15年度町教委、平9、24年度事業団調査	12、46、74、76
32	上原Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代中期の住居。	平16年度事業団調査	46、76
33	上原Ⅲ遺跡	長野原町林	平安	平安時代の住居。竈造遺構、陥し穴群。	平25、27年度事業団調査	46、73、74、76、81
34	上原Ⅳ遺跡	長野原町林	縄文、近世	縄文時代後期の敷石住居、配石遺構。近世溝。	平15、21年度事業団調査	12、16、43、46、63、76
35	林中原Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文、弥生、中世	縄文時代前期～後期の住居、配石等。中近世の掘立柱建物。林城跡。	平19～21、30年度事業団調査	16、17、18、25、31、46、53、55、71、76
36	林中原Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文、弥生、中世	縄文時代後期の集落跡。敷石住居、晚期の上器片。弥生時代中期の住居、土坑。中近世の掘立柱建物。	平15、20、21年度町教委調査	18、25、31、46、60、79、89、94
37	林城跡	長野原町林	中世			4、71
38	林宮原遺跡	長野原町林	縄文、古墳、平安	吉岡時代の住居1軒、平安時代の住居6軒、土坑6軒。	平15年度町教委、平24、27年度事業団調査	16、18、20、25、53、61、73、74、77
39	下原遺跡	長野原町林	縄文、古墳、平安	天明泥流下の堆積。中世の烟、古墳時代の住居、弥生時代の上器片等。繩文時代後期の住居、水田。	平12、15、16、29年度事業団調査	12、14、36、77、95
40	中種Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文、平安、中世	縄文時代早期の遺物、平安時代の住居。中種の竹。	平23、28年度町教委調査、平29年度事業団調査	46、76、93、97
41	中種Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文、平安、近世	天明泥流下の堆積。および安永九年と考えられる埋没煙等。繩文時代の住居。平安時代の住居。	平11～13、15、28～30年度事業団調査	14、22、77
42	二反沢遺跡	長野原町林	中世、近世	中世の石垣を伴う造成跡、近世水路、烟、浜辺觀音岩跡。平12年度事業団調査	26、93	

No	遺跡名	所在地	主な時代	概 要	備 考	報告書等
43	檜木Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文、平安、近世	縄文時代の土坑。平安時代の住居。近世の建物。	平10,21年度事業団調査	63
44	檜木Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文、平安、中世	縄文時代早期の集落、前期、中期の住居。平安時代の住居。中世の建物。	平11～13,16,17年度事業団調査	13, 42, 50, 77
45	檜木Ⅲ遺跡	長野原町林	縄文、弥生	縄文時代前期、後期、弥生時代の包含層。	平9年度事業団調査	12, 73, 77
46	横壁勝沼遺跡	長野原町横壁	縄文、弥生、平安	縄文時代中期～後期の上器群。檜木形尖頭器出土。平安時代の住居。	横壁勝沼Ⅰ遺跡。平6, 7年度事業団調査。平29年度町教委試掘	12
47	横壁中村遺跡	長野原町横壁	縄文、弥生、平安、中世	縄文時代中期後半から後期後半を中心とする集落跡。縄文時代晚期、弥生時代の上器群。平安と中世の遺構と遺物。	平8～18,30年度事業団調査	14, 23, 29, 30, 35, 44, 45, 51, 52, 55, 56, 65, 67, 72
48	山根Ⅰ遺跡	長野原町横壁	縄文、平安	散布地、磨製石斧、石礫、石棒などの石器類出土。		84
49	山根Ⅱ遺跡	長野原町横壁	平安、近世	平安時代の散布地。	平24年度町教委調査	
50	山根Ⅲ遺跡	長野原町横壁	縄文、中世	縄文時代中期後半の住居、土坑等。	平10,13,18年度事業団調査	12, 25, 31, 43
51	山根Ⅳ遺跡	長野原町横壁	縄文、平安	縄文～平安時代の散布地。	平29年度町教委試掘	
52	西久保Ⅰ遺跡	長野原町横壁	縄文、中世	縄文時代後期の住居、水場を検出。中世の礎石建物。	平6,10,12,29年度調査	12, 98
53	西久保Ⅱ遺跡	長野原町横壁	平安	散布地。	平29年度町教委試掘	93
54	西久保Ⅲ遺跡	長野原町横壁		散布地。		
55	西久保Ⅳ遺跡	長野原町横壁	縄文、近世	天明記流下の烟。縄文時代の土坑等。	平21,23,31年度事業団調査	31, 58, 63, 77, 80
56	西久保Ⅴ遺跡	長野原町横壁	縄文、古墳、近世	天明記流下の烟。水田	平28,29年度事業団調査	77, 98
57	柳沢城跡	長野原町横壁	中世	別城一郭付随と呼ばれる特殊な構造。曲輪、堀、土居などを検出。常滑、瀬戸、美濃、珠洲焼、さらには中国陶磁などが出土。	平5年度町教委調査	7
58	幸神遺跡	長野原町長野原	縄文、平安	縄文時代中期の住居・土坑・廻穴。烟跡。	平8, 9, 14, 17, 18年度事業団調査	43
59	尾坂遺跡	長野原町長野原	縄文、弥生、平安、中世	天明記流下の烟・建物。中世の樅立柱建物。縄文時代の住居、土坑。弥生時代の再葬墓、土坑。平安時代の住居、土坑等。	平6, 7, 11, 18～23, 25, 26, 28～30年度事業団調査、平23, 26年度に長野原草津口駅舎整備に伴う調査として一部調査	12, 58, 62, 77, 78, 86
60	久々戸遺跡	長野原町長野原	縄文、弥生、近世	天明記流下の烟・建物。縄文時代中期の住居。晚晴の上器群。	平7, 9～11, 15, 25～28年度事業団調査	10, 14, 22, 53, 77, 81
61	長野原一本松遺跡	長野原町長野原	縄文、平安、中世	縄文時代中期～後期にかけての集落跡。大形の樅立柱建物、敷石住居などを検出。平安時代の町割、中世の樅立柱建物や多くの土坑等が検出されている。	平6～17, 19, 20年度事業団調査	11, 34, 40, 41, 49, 66, 70
62	長野原城跡	長野原町長野原	中世	上塚や廻穴、物見台などが残る。長野原合戦時の舞台となる。	平23年度事業団調査	1, 4, 71
63	鶴木Ⅰ遺跡	長野原町長野原	近世	天明記流下の烟跡。中近世の陶磁器群。	平16年度町教委調査	25
64	町道跡	長野原町長野原	近世	天明記流下の烟。	平23～25, 30年度事業団調査、平28年度町教委調査	75
65	向原遺跡	長野原町長野原	縄文、弥生、平安	縄文時代中期後半～後期の住居3軒、敷石住居2軒。上坑群。弥生時代中期の上坑。平安時代の住居10軒を検出。	平5年度町教委調査	9, 19
66	小林家屋敷跡	長野原町長野原	近世	天明記流下の烟。埋没した屋敷。礎石建物2つ、上蔵1つ、石垣等。分限者小林助右衛門屋敷の一部。	平14年度町教委調査	15, 16, 24
67	旧新井村跡	長野原町与喜屋	近世	昭和55年、自衛隊による町民グランド造成中に泥流で埋没した屋敷が発見された。日待供養塔、石臼、農具などが出土。		2, 6
68	上郷西遺跡	東吾妻町三島	縄文、弥生、平安、近世	天明記流下の烟。弥生時代前期の上坑と遺物。平安時代の住居。	平19年度事業団調査	39
69	上郷岡原遺跡	東吾妻町三島	縄文、平安、近世	天明記流下の烟。水田、礎石建物等。近世の墓塚。平安時代の住居、縄文時代の住居、土坑。	平14, 15, 17～19年度事業団調査	32, 38
70	上郷A遺跡	東吾妻町三島	縄文、平安、中世	縄文時代中期後半の集落跡。	平15, 19, 20年度事業団調査	22, 47
71	上郷B遺跡	東吾妻町三島	縄文、平安、中世	平安時代の住居。多様な形態で幅広い時期にわたる跡跡。中近世の墓塚。	平13, 14年度事業団調査	26
72	九岩城跡	長野原町横壁	中世	上塚、水場遺存。『加沢記』		1, 2, 4
73	廣石A遺跡	東吾妻町大柏木	縄文、近世	縄文時代の廻穴。近世の墓塚。	平13年度事業団調査	26

## 第2章 周辺の環境

### 報告書等一覧

- 1 山崎一、山口武夫1972「吾妻郡城櫻島」西毛新聞社
- 2 長野原町誌編纂委員会1976「長野原町誌」長野原町
- 3 日本考古学学会1980「日本考古学年報」(3) 日本考古学協会
- 4 群馬県教育委員会1988「群馬県の中世城跡」群馬県教育委員会
- 5 群馬県史編纂委員会1988「群馬県史 資料編 I 原始古代 I」群馬県
- 6 長野原町教育委員会1990「長野原町の道路」長野原町教育委員会
- 7 長野原町教育委員会1995「柳沢城」長野原町教育委員会
- 8 長野原町教育委員会1996「石畳道路」略報・長野原町教育委員会
- 9 長野原町教育委員会1996「前原道路」長野原町教育委員会
- 10 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998「長野原久々戸遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 11 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2002「長野原一本松遺跡(1)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 12 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2002「ハッパ場ダム発掘調査集成(1)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 13 長野原町教育委員会2002「町内遺跡Ⅰ」長野原町教育委員会
- 14 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2003「久々戸遺跡・中郷Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 15 長野原町教育委員会2003「町内遺跡Ⅱ」長野原町教育委員会
- 16 長野原町教育委員会2003「町内遺跡Ⅲ」長野原町教育委員会
- 17 群馬大学教育学部2004「尼崎喜佐雄博士 調査収集考古遺物、調査資料」目録・山形
- 18 長野原町教育委員会2004「町内遺跡IV」長野原町教育委員会
- 19 長野原町教育委員会2004「町内遺跡V」長野原町教育委員会
- 20 長野原町教育委員会2004「林宮原遺跡Ⅱ」長野原町教育委員会
- 21 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2005「川原漏湯遺跡(2)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 22 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2005「久々戸遺跡(2)・中郷Ⅱ遺跡(2)・西上遺跡・上郷A遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 23 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2005「横壁中村遺跡(2)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 24 長野原町教育委員会2005「小林家敷跡」長野原町教育委員会
- 25 長野原町教育委員会2005「町内遺跡V」長野原町教育委員会
- 26 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006「上郷B遺跡・坂石A遺跡・二反沢遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 27 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006「立馬I遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 28 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006「立馬II遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 29 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006「横壁中村遺跡(3)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 30 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006「横壁中村遺跡(4)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 31 長野原町教育委員会2006「町内遺跡VI」長野原町教育委員会
- 32 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007「上郷岡原遺跡(1)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 33 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007「三平Ⅰ・三平Ⅱ遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 34 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007「長野原一本松遺跡(2)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 35 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007「横壁中村遺跡(5)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 36 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007「下原遺跡Ⅱ」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 37 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008「上ノ平I遺跡(1)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 38 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008「上郷岡原遺跡(2)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 39 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008「上郷西遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 40 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008「長野原一本松遺跡(3)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 41 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008「長野原一本松遺跡(4)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 42 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008「桧木木遺跡(1)」(財)群馬県埋

### 載文化財調査事業団

- 43 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008「山根Ⅲ遺跡(2)・上原Ⅳ遺跡・辛地遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 44 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008「横壁中村遺跡(6)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 45 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008「横壁中村遺跡(7)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 46 長野原町教育委員会2008「町内遺跡VI」長野原町教育委員会
- 47 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009「上郷A遺跡(2)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 48 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009「立馬Ⅲ遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 49 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009「長野原一本松遺跡(5)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 50 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009「桧木木遺跡(2)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 51 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009「横壁中村遺跡(8)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 52 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009「横壁中村遺跡(9)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 53 長野原町教育委員会2009「町内遺跡VI」長野原町教育委員会
- 54 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010「東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 55 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010「横壁中村遺跡(10)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 56 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010「横壁中村遺跡(11)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 57 長野原町教育委員会2010「林中原Ⅰ遺跡V」長野原町教育委員会
- 58 群馬県教育委員会2011「群馬県内公開開発に伴う平成21年度県内遺跡発掘調査報告書」群馬県教育委員会
- 59 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2011「東宮遺跡(1)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 60 長野原町教育委員会2011「町内遺跡X」長野原町教育委員会
- 61 長野原町教育委員会2011「林宮原遺跡III」長野原町教育委員会
- 62 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2012「尼坂遺跡」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 63 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2012「桧木木遺跡・上原Ⅳ遺跡(2)・西久保Ⅳ遺跡」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 64 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2012「東宮遺跡(2)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 65 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2012「横壁中村遺跡(12)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 66 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2013「長野原一本松遺跡(6)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 67 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2013「横壁中村遺跡(13)」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 68 長野原町教育委員会2013「三平Ⅰ遺跡」長野原町教育委員会
- 69 長野原町教育委員会2013「町内遺跡III」長野原町教育委員会
- 70 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2014「長野原一本松遺跡(7)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 71 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2014「長野原城跡・林中原I遺跡」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 72 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2014「横壁中村遺跡(14)」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 73 群馬県教育委員会2015「群馬県内公開開発に伴う平成25年度県内遺跡発掘調査報告書」群馬県教育委員会
- 74 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015「上原I遺跡・上原Ⅲ遺跡・林宮原遺跡」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 75 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015「町内遺跡」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 76 長野原町教育委員会2015「林地区遺跡群」長野原町教育委員会
- 77 群馬県教育委員会2016「群馬県内公開開発に伴う平成26年度県内遺跡発掘調査報告書」群馬県教育委員会
- 78 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2016「尼坂遺跡(2)」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

- 79 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2016「林中原Ⅱ遺跡(1)」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
長野原町教育委員会2016「町内遺跡XV」長野原町教育委員会
- 80 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2017「上原Ⅲ遺跡(2)・久々戸遺跡(3)」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2017「下田遺跡(2)」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 81 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2017「東宮遺跡(3)」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
長野原町教育委員会2017「町内遺跡XVI」長野原町教育委員会
- 82 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2018「石川原遺跡(1)」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2018「尾坂遺跡(3)」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 83 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2018「下原遺跡(1)」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
長野原町教育委員会2018「西宮遺跡(1)・西宮岩陰」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 84 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2018「林中原Ⅱ遺跡(2)」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2018「林中原Ⅲ遺跡(4)」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 85 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2018「上ノ平Ⅰ遺跡(3)」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
長野原町教育委員会2018「内遺跡XVII」長野原町教育委員会
- 86 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2019「下原遺跡(3)」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
長野原町教育委員会2019「林中原Ⅱ遺跡(3)」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 87 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2019「西ノ上Ⅰ遺跡(2)」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
長野原町教育委員会2019「中郷Ⅰ遺跡(1)」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 88 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2019「西久保Ⅰ(2)遺跡・西久保Ⅴ遺跡」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2019「川原湯中原Ⅲ遺跡(3)」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

### 第3節 林地区的遺跡

本節では、林地区的変遷について概要を記す。前述の周辺遺跡を含め、詳細な歴史的環境については章末に掲示した文献を参照されたい。本章1節2節ともに上記文献に依拠しているが、誤記誤謬等は報告者の責に帰す。なお、下田遺跡や下原遺跡などでは、吾妻川の氾濫を起因とする擾乱が著しい地点が多く、痕跡をとどめていない遺構も想定される。以下は確認された遺構にのみ基づいて記述を行う。

林地区的縄文時代草創期および早期の集落は、地区の中央に位置する最上位段丘面を挟む東西の尾根に存在し、最上位段丘面からは検出されていない。しいて最上位段丘面と呼びえるのは榆木Ⅱ遺跡であろうか。最上位段丘面については、その中程に立地する林中原Ⅰ遺跡、

上原Ⅰ遺跡、東原Ⅲ遺跡などから縄文時代早期の遺物が検出されるのみであり、集落の出現は縄文時代前期を待つこととなる。縄文時代前期に至り、林中原Ⅰ遺跡、林中原Ⅱ遺跡、上原Ⅰ遺跡などに集落が出現する。縄文時代中期から後期にかけては、最上位段丘面とその東西の山地斜面をあわせ、ともに活動の拠点とされていたことがうかがえる資料が出土している。

弥生時代の建物は、縄文時代早期の集落が検出された東側尾根の立馬Ⅰ遺跡と、縄文時代前期に集落が出現した最上位段丘面の中程に立地する林中原Ⅱ遺跡から検出されている。縄文時代の各期にわたり存在感を示していた西側尾根の榆木Ⅱ遺跡からは検出されていない。林地区の活動拠点が東側優勢にシフトしたと考えられる。

古墳時代に至り、活動拠点は山地斜面を離れ、最上位段丘面の山地よりの地域に移動し、林宮原遺跡、上原Ⅰ遺跡、上原Ⅳ遺跡で集落が検出される。また下位段丘面に位置する下原遺跡からも集落が検出されている。

平安時代の遺構および遺物は、山地斜面ないし山地よりの段丘面縁辺にあたる緩斜面地域および吾妻川沿いの段丘面から検出され、その中間地域には存在しない傾向がうかがえる。例外は上原Ⅱ遺跡と榆木Ⅲ遺跡である。事業団が実施した上原Ⅲ遺跡の調査に際し、上原Ⅱ遺跡、上原Ⅲ遺跡の境界となっている沢の上原Ⅱ遺跡側に、大規模な擾乱が存在することが確認されている。この擾乱による遺構認定の難しさも、上原Ⅱ遺跡が例外となる理由の一つと推測される。また榆木Ⅲ遺跡であるが、山地斜面とされる、そのやや西に開けた領域の広さが立地にむかなかつたのではないかろうか。なお、平安時代から中世にかけて特異的に出現するとされる「陥穴状土坑」は、集落を伴う事例と伴わない事例がある。陥穴の設置意図もまた異なるのではないかろうか。この時期に至り、林地区的全域が居住域となることとの関連を考慮する必要が感じられる。なお、林地区は灰釉陶器の出現比率が他地区より高めとの指摘もあり、建物出土の杯碗類の報告数を付した。

平安時代の建物が検出された遺跡のうちで、榆木Ⅰ遺跡、榆木Ⅱ遺跡、下原遺跡、林宮原遺跡、下田遺跡からは中世に至っても建物が検出されるが、そのほかの遺跡からは建物が検出されなくなる。林城構築との関連を考慮すべきなのか、あらたに二反沢遺跡、林中原Ⅰ遺跡、

## 第2章 周辺の環境

東原Ⅰ遺跡、東原Ⅱ遺跡、東原Ⅲ遺跡などで建物が検出されている。

なお、下流に位置する下湯原遺跡では、2条1組の柵に区画された3棟の掘立柱建物が報告されている。本遺跡から検出された列をなす柵と、これに近接する3棟の建物もこの例に類似すると推測される。

今回の一連の調査により、本遺跡の立地する舌状台地の西北部から林下村と推定される近世の集落が確認され

た。この集落の各敷地は、周囲を取り囲む畠地との間に明確な境界を設けることなく、畠地の中に散在している。

### 第2章参考文献

谷藤保重、小野和之「第1章第3節 林地区的歴史的環境」「公益財團法人群馬県理藏文化財調査事業団調査報告書第604集、上原Ⅰ遺跡、上原Ⅱ遺跡、林宮原遺跡」2015

富田季彦「第2章第2節 周辺の遺跡」「長野原町理藏文化財調査報告書第34集、親余遺跡」2018

山口道弘「第2章 周辺の遺跡」「公益財團法人群馬県理藏文化財調査事業団調査報告書第650集、林中原Ⅱ遺跡(3)」2019

第3表 林地区的道路

遺跡名	立地	縄文 草	弥生				古墳	奈良	平安 陥穴	中世	近世
			早	前	中	後					
41 中棚Ⅱ遺跡	下位段丘面					○					
40 中棚Ⅰ遺跡	土位段丘面	○							●		
43 檜木Ⅰ遺跡	山地斜面 (最高位段丘面)		○	○			○	●	○	○	
44 檜木Ⅱ遺跡	山地斜面 (最高位段丘面)	○	○	○	○	○		●	○	○	
45 檜木Ⅲ遺跡	山地斜面・上位段 丘面		○	○	○		○	○	●	○	
42 二反沢遺跡	山地斜面				○	○				○	○
39 下原遺跡	下位段丘面	○	○	○	○	or	○	○	○	○	○
38 林宮原遺跡	最高位段丘面		○	○				●	○	○	
1 下田遺跡	中位段丘面		○	○	○		○	●	○	○	
35 林中原Ⅰ遺跡	最高位段丘面	○	○	○	○			●	○	○	城
34 上原Ⅳ遺跡	最高位段丘面		○	○	○	○	○	○	○	○	
32 上原Ⅱ遺跡	最高位段丘面 (山地斜面)		○	○				●			
33 上原Ⅲ遺跡	最高位段丘面 (山地斜面)		○	○	○		○	●	○	○	
36 林中原Ⅱ遺跡	最高位段丘面		○	○	○	○	○	●	○		
31 上原Ⅰ遺跡	最高位段丘面	○	○	○	○		○	●	○		
29 東原Ⅲ遺跡	最高位段丘面	○	○	○	○			●	○		
28 東原Ⅱ遺跡	最高位段丘面		○	○	○			●	or	or	
27 東原Ⅰ遺跡	最高位段丘面		○	○	○			●	or	or	
26 火薙遺跡	最高位段丘面		○	○				●	○		
25 立馬Ⅲ遺跡	山地斜面		○	○	○		○	●	○	○	
24 立馬Ⅱ遺跡	山地斜面	○	○	○	○		○	●	○		
23 立馬Ⅰ遺跡	山地斜面	○	○	○	○		○	●	○	○	

第4表 林地区的杯塚類

遺跡名	立地	出土遺構		須 恵 器	未 揭 載	土 師 器	未 揭 載	内 黒 土 器	未 揭 載	灰 輪 陶 器	未 揭 載	備考	
40 中棚Ⅰ遺跡	上位段丘面	S101	9C中	5				1				コの字	町30集
		S103	9C中	21				2	3			コの字、光ヶ丘1、大原2	
		S104	9C中-後	42	1			2	7			コの字、光ヶ丘1、大原2	
		S102	9C後	15				1	1			光ヶ丘1	
		5壁穴建物	9-10C									コの字	
		1壁穴建物	9-10C	3								コの字、光ヶ丘1、大原2	
		3壁穴建物	9-10C	11								コの字、光ヶ丘1、大原2	
		4壁穴建物	9-10C	4								コの字、光ヶ丘1、大原2	
		2壁穴建物	10C	3								羽釜	
		2壁穴建物	9C	11								羽釜	
43 檜木Ⅰ遺跡	山地斜面 (最高位段丘面)	2住居	9C-3/4									羽釜	町48集
		3住居	9C-3/4	17								羽釜	
		4住居	9C-3/4	11								羽釜	
		1住居	9C-4/4	13								羽釜	
												羽釜	

### 註

立地の欄の複数併記は、資料により評価の分かれることを示す。

遺物の検出された遺跡に○印を付し、壁穴建物や掘立柱建物などの遺構の検出された遺跡に◎印を付した。

東原Ⅰ遺跡と東原Ⅱ遺跡は遺構の時代認定が「中近世」とあるため、or付とした。

遺跡名	立地	出土遺構		須 恵 器	未 掲 載	上 師 器	未 掲 載	内 黒 土 器	未 掲 載	灰 輪 陶 器	未 掲 載	備考
44 檜木II遺跡	山地斜面 (最上位段丘面)	75住居	9C-2/4	2								コの字
		70住居	9C-3/4	8	12							事432集 事432集
		5住居	9C-3/4	4			20					羽釜
		76住居	9C-4/4	6	26							事432集
		24住居	9C-4/4	8	56	1			1			羽釜、大原2
		72住居	9C-4/4	12	8			1				事432集
		28住居	9C後	2	3							羽釜、暗文
		41住居	9C	1								事432集
		22住居	10C-1/4	2	2				1			大原2
		30住居	10C-1/4	3	30	3			1			羽釜、光ヶ丘1
		20住居	10C-1/4		6							事432集
		33住居	10C-1/4		34		104		1			羽釜、大原2
		69住居	10C-1/4	1	13				1			事432集
		26住居	10C-1/4	1	22	4	1					事432集
		4住居	10C-1/4		8	7	1					羽釜
		16住居	10C-1/4	4	21							事432集
		21住居	10C-1/4	1	2	4						羽釜
		42住居	10C						1			羽釜、大原2
		45住居	10C-2/4		1				1			事432集
		46住居	10C-2/4	4	17		1			1		羽釜、大原2
		71住居	10C-2/4	1	23	2						事432集
		19住居	10C-2/4		13	1						羽釜
		23住居	10C-2/4	2								事432集
		43住居	10C前		1							事432集
		74住居	10C		26	5						事432集
		40住居	10C		2							事432集
		44住居										事432集
39 下原遺跡	下位段丘面	48-1住居	9C-3/4	2	13g	670g						コの字
		46-1住居	9C-2/4		288g	118g						大原2
38 林宮原遺跡	最上位段丘面	B-1 穴穴建物	10C前				4		4			羽釜
		07-S106	9C-3/4	6								コの字
		11-S101	9C-3/4	4	1	3	1					事13.14集
		11-S103	9C-3/4	1								コの字
		11-S104	9C-3/4	2								事13.14集
		11-S108	9C-3/4	4								コの字
		07-S105B	9C-4/4	2								S105B-S105A
		07-S105A	9C-4/4	15	1							事13.14集
		11-S106	9C-4/4	3								コの字、大原2
		07-S104	9C後?									光ヶ丘1
		07-S103	9-10C	1								羽釜、大原2、光ヶ丘1
		11-S102	10C-1/4		1							事13.14集
		07-S101	10C前	10								羽釜、コの字
1 下田遺跡	中位段丘面	11-S105	10C前	2								事13.14集
		11-S107	10C前									羽釜
		11-1501	9C-3/4	2	5	2						本書
		16-1501	9-10C	1	1		1	1				本書
		17-1501	9-10C		8		3			7	コの字	本書
		15-1501	9-10C		1				1			本書
		8-1501	10C前		22	5	7	1				本書
		13-1501	10C前	1	3	1	2	2	1	7	羽釜、光ヶ丘1	本書
		4住居	10C前	4	15	2	1		2			光ヶ丘1、大原2
		3住居	10C前	11	81		4		11			光ヶ丘1、大原2
34 上原IV遺跡	最上位段丘面	12-1501	10C前	7	50	5	9	5				事629集
		6-1501	10C前		2	3			1			事629集
		2住居	10C前		12	1						本書
		5-1501	10C前		10	11						本書
		14-1501	建物									有段口縁杯
		9-1501	建物									本書
		1住居			6				1			事629集
		S102	9C後	1		2			1			光ヶ丘1
		S106	9C後									事30集
		S103	10C前	3			1		2			事30集
33 上原Ⅲ遺跡	最上位段丘面 (山地斜面)	S104	10C前			1	2					事30集
		S110	9C後	11								コの字
		S114	9C後	10			3					コの字
		S115A	9C後	4								コの字
												事30集

遺跡名	立地	出土遺構		須恵器	未掲載	土師器	未掲載	内黒土器	未掲載	灰輪陶器	未掲載	備考
31 上原1遺跡	最上段丘面	S104	9-10C	10				1		5		コの字
		S105	9-10C									コの字、羽釜、大原2、光ヶ丘1 町30集
		S108	9-10C	2				3		1		羽釜、大原2 町30集
		S109	9-10C	3				1		1		羽釜、大原2 町30集
		S112	9-10C	20						1		羽釜、大原2 町30集
		S101	9-10C							1		大原2 町30集
		S116	9-10C	8						3		大原2 町30集
		1住	10C前	2	8		2			3		羽釜、大原2 事604,627集
		S111	10C前	1						3		大原2 町30集
		S113	10C前	2			1			1		アカヤキ?、羽釜 町30集
		91- 1住居	9C後									事604集
		91- 3住居	9C後									事604集
		91- 4住居	9C後									事604集
26 花畠遺跡	最上段丘面	S104	9C後	2								コの字
		S105	9C後	4								コの字
		S113	9C後	1								コの字
		S109	9C後	2								コの字
		91- 2住居	9C後	1						1		羽釜
		S108	9-10C	2								コの字
		S116	9-10C	3								コの字、羽釜
		S115	9-10C	1			2					コの字、羽釜
		S109A	9-10C					1		1		コの字、大原2
		S111	9-10C	1			2			1		コの字?、光ヶ丘1、羽釜
23 立馬1遺跡	山地斜面	S114	9-10C	1								羽釜?
		S117	9-10C									羽釜?
		91- 2住居	9C-3/4									事303集
23 立馬1遺跡	山地斜面	91- 1住居	9C-4/4	5								北陸・信濃系
		100- 1住居	9C-4/4	2								事303集
		17- 4住居	10C-1/4									羽釜
		17- 2住居	10C-1/4						2			羽釜、大原2 事388集
23 立馬1遺跡	山地斜面	17- 1住居	10C前	1						1		羽釜、大原2 事388集
		27- 1住居	10C前							1		大原2 事388集

## 註

未掲載品報告数の単位表示なきものの単位は片。  
 標外の「町」とあるのは長野原町発掘調査報告書。  
 標外の「事」とあるのは当事業団発掘調査報告書。  
 混乱を避けるため、遺構の名称は報告時のもので記載している。



長野原町林地区(南から、2013年撮影)

## 第4節 遺跡の概要と基本土層

### 1 各調査区の概要

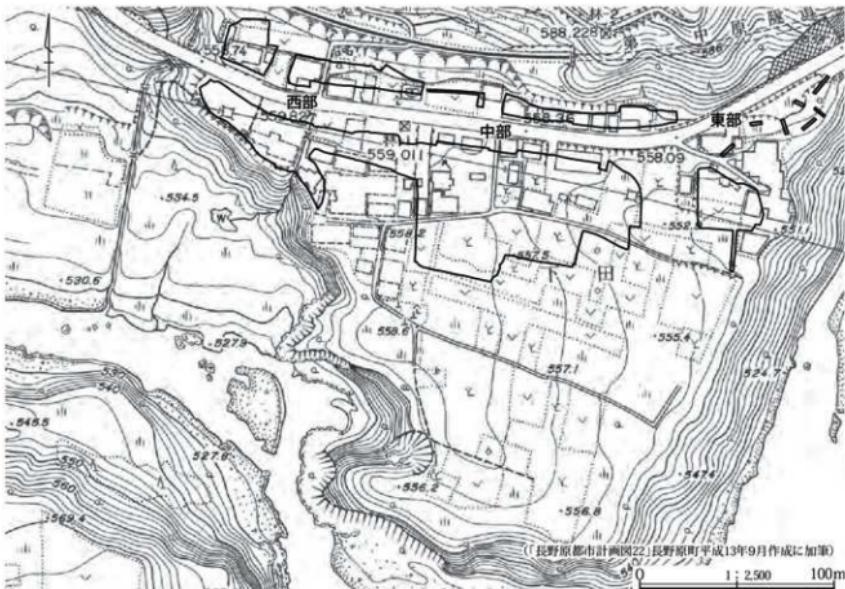
#### (1) 平成28年度調査区(第6～11図)

平成28年度に調査を行った調査区は、平成25年度および平成26年度に調査した調査区の北に隣接する。本遺跡の立地する、南に張り出した舌状台地の根方を東西に走る国道145号線を、南北に挟む地区が平成28年度の調査対象となっている。今回の調査では遺跡の立地する舌状台地の北側部分、上位段丘面との境界付近が、ほぼその東西にわたり調査対象となった。以下、調査成果の記述に際し、調査区を東西に三分し、西部・中部・東部と表記する。

天明3年の泥流直下(1面)の遺構の多くは、調査区の西部から中部にかけて検出された。建物群3組、礎石建物3棟、煙52区画、道4本、溝6条のほか、石垣やヤッカラなどが検出され、台地に広がる農村の景観が明らかとなった。調査区の中部から東部にかけては、東に開く

浅い谷が確認され、中部の西半と北辺沿いに畠が検出されている。このほか、中部からは建物1棟および溝と道が確認されている。なおこの谷の、谷頭付近と確認できた谷間最深部との標高差は6m程度である。調査区東部は、上位段丘面につづく崖と上述の谷および遺跡の立地する段丘面の段丘崖から構成され、東部北辺の西端から畠が1区画検索されたことにとどまる。

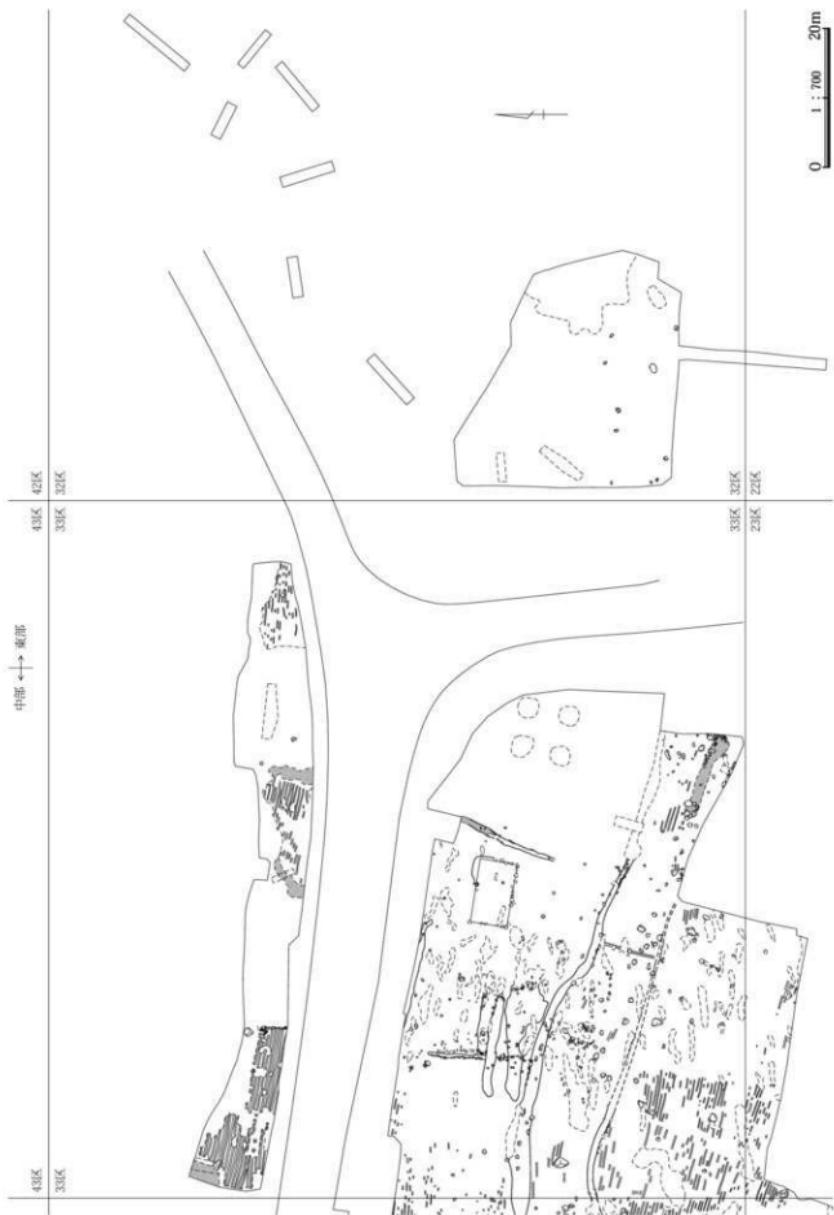
天明泥流直下の面の下層、As-B'に相当するとされる粒川テフラ(As-Kk)確認面(2面)から検出された遺構は調査区各部で傾向が相違するが、遺構の分布は西部に偏る。調査区西部からは近世から古代にかけての遺構が検出されている。建物10棟、ピット列2条、土坑74基、焼土遺構3基のほかピット多数が検出されている。調査区中部は遺構が減少し、谷の縁に相当する傾斜の緩やかな地域から遺構が検出され、谷間からは検出されていない。中近世の焼土遺構1基、中世の建物1棟、ピット列2条、中世以前の土坑4基が確認されている。調査区東部からは中近世のヤッカラ1基と土坑1基および中世以前の土



第6図 下田遺跡平成28年度調査区



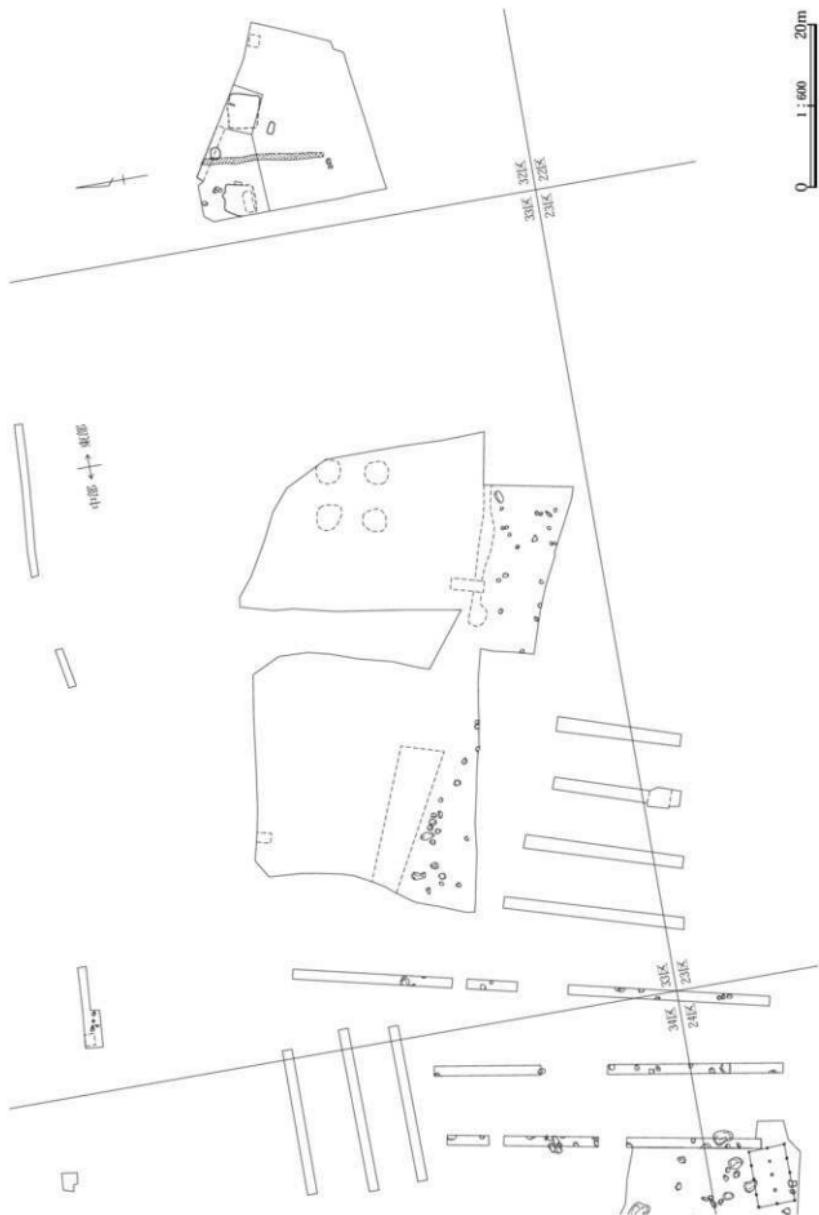
第7図 下田遺跡平成28年度調査区1面全体図(西半)



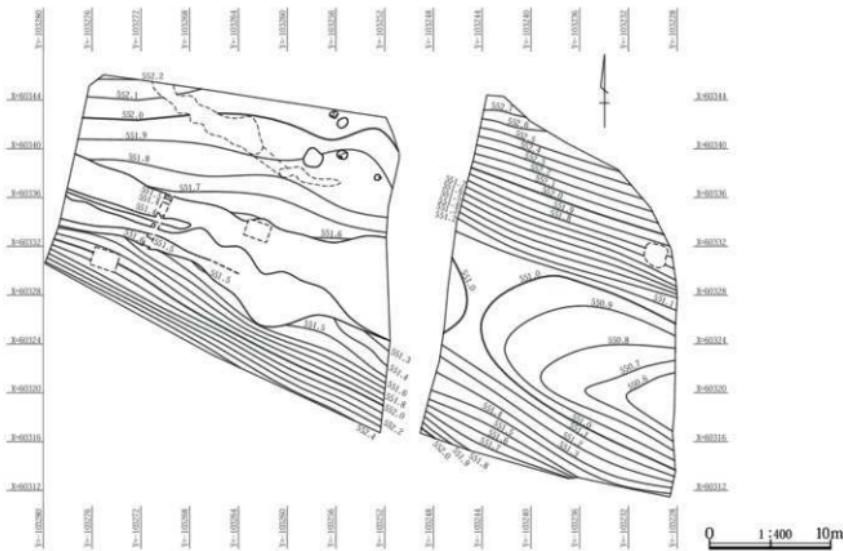
第8図 下田道路平成28年度調査区1面全体図(東半)



第9図 下田道跡平成28年度調査区2面全体図(西半)



第10図 下田道路整備28年度調査区2面全体図(東半)



第11図 下田遺跡平成28年度調査区3面全体図

坑1基のほか、古代の建物2棟が検出されている。

調査区中部の東寄りの地域では、2面の下の白色ローム相当面とされる遺構面(3面)が調査され、縄文時代の遺物を出土した土坑を含む、4基の土坑が確認されている。

#### (2) 平成29年度調査区(第12~17図)

平成29年度は平成25年度と平成26年度に調査が行われた調査区の南に隣接する地域の調査が行われた。調査範囲は本遺跡が立地する舌状台地の南半に位置し、間に平成9年度に試掘調査の行われた調査区を挟み、その西・南・東の3区画に区分される。以下、調査成果の記述に際し、平成29年度調査区を西部・南部・東部と表記する。

平成29年度の調査範囲は、東流する吾妻川に突き出された舌状台地の先端側に位置し、天明3年の泥流による擾乱が著しい場所である。平成29年度調査区に挟まれた平成9年度調査区からAs-A直下の烟が検出されてはいるが、南部および東部の2区画は、遺構のわずかな痕跡を部分的にとどめるのみである。

天明3年の遺構面(1面)では、西部からは墓域1か所、

塚1基、道3条とヤッカラ1基が確認されている。南部からは倒木痕1か所が確認されたのみであるが、東部からは溝1条、ヤッカラ1基と岩陰に残された烟の痕跡数か所が確認されている。

天明3年の遺構面の下位の遺構面(2面)からは、西部で土坑13基とピット20基および溝1条が、東部で土坑6基とピット23基および倒木痕2か所が確認されている。南部では遺構は確認されていない。

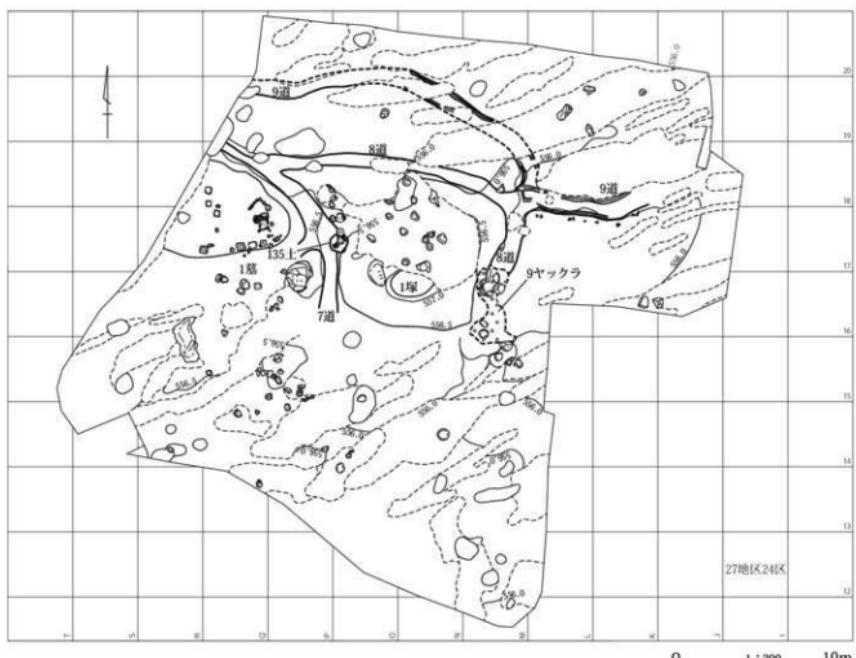
平成29年度は年度末の3月にも表土掘削に伴う発掘調査が行われた。この調査は次年度の本発掘を踏まえての事前調査の意味合いもあり、その調査地点自体も平成30年度に調査を行った調査区に含まれる。この地点の調査成果については、平成30年度調査の成果と合わせて後述することとし、本条には含めなかった。

#### (3) 平成30年度調査区(第18~27図)

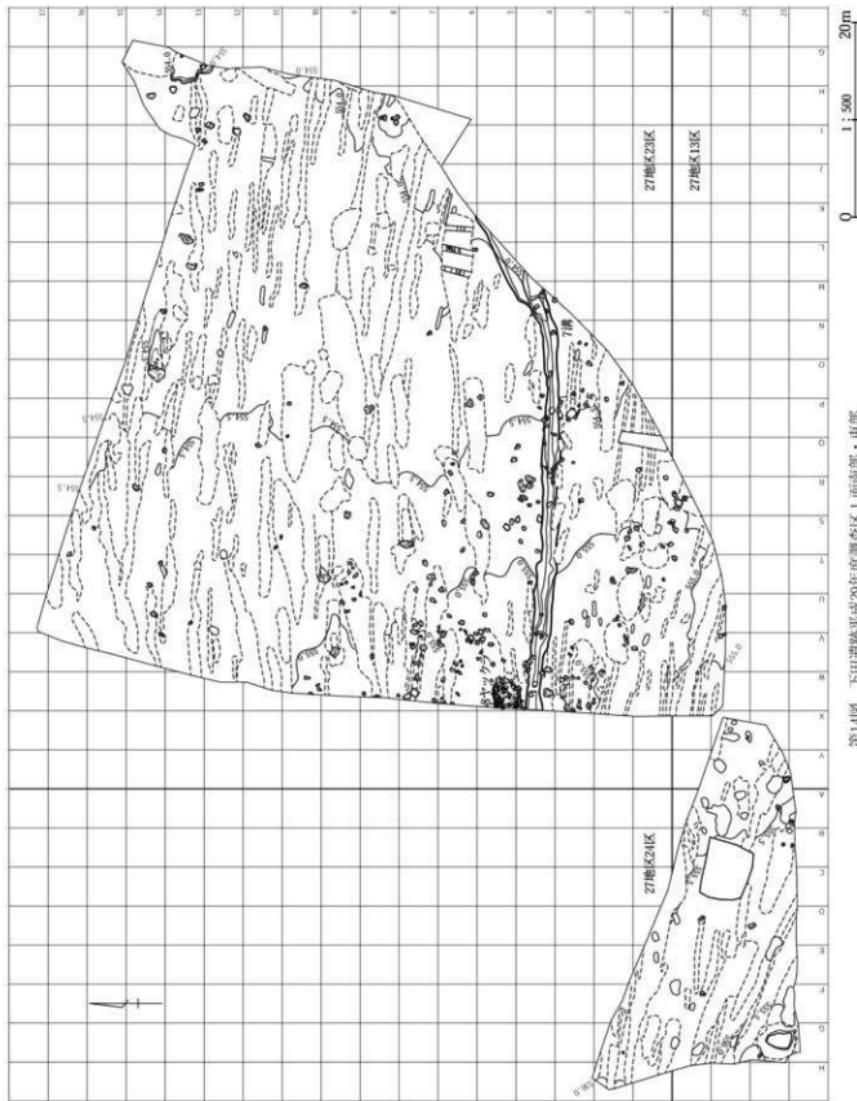
平成30年度調査区は北側・東側・南側の3区画に分かれる。北側は平成28年度調査時に未調査区域となっていた国道部分が対象であるが、その東西両端は含まれていない。東側は遺跡の立地する舌状台地の下流側にあり、



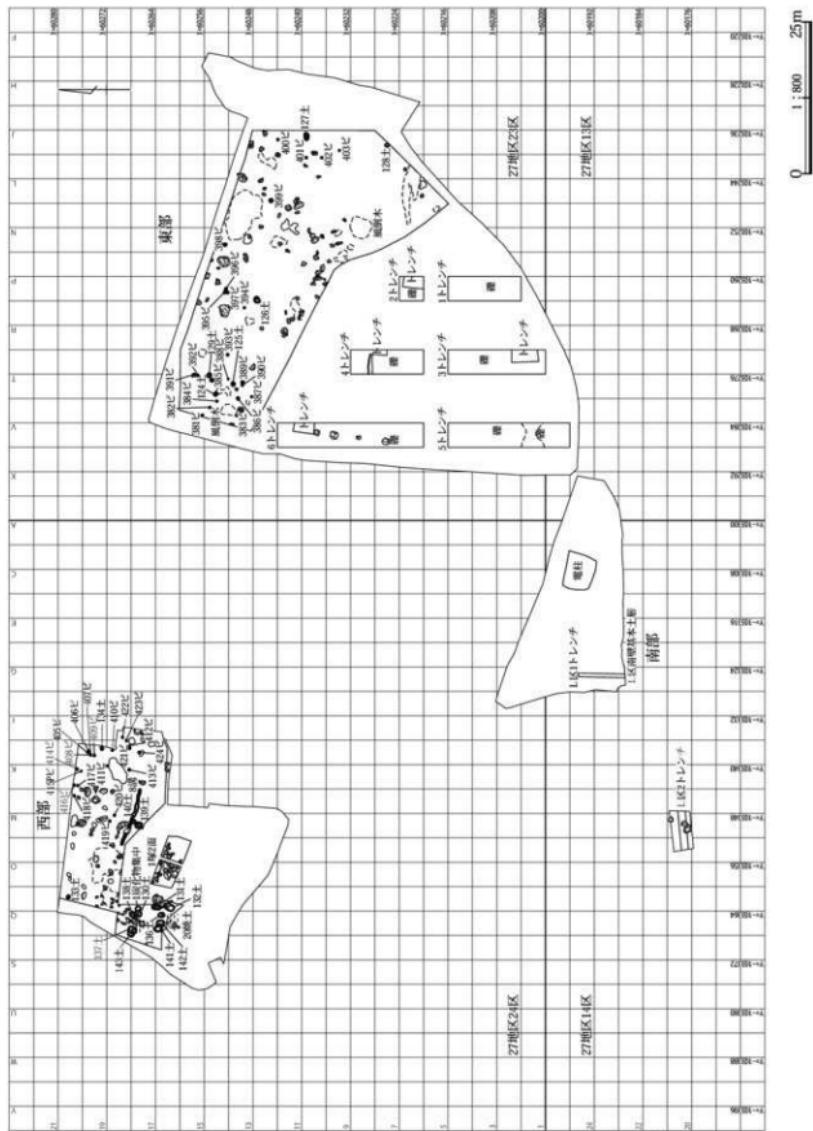
第12図 下田遺跡平成29年度調査区

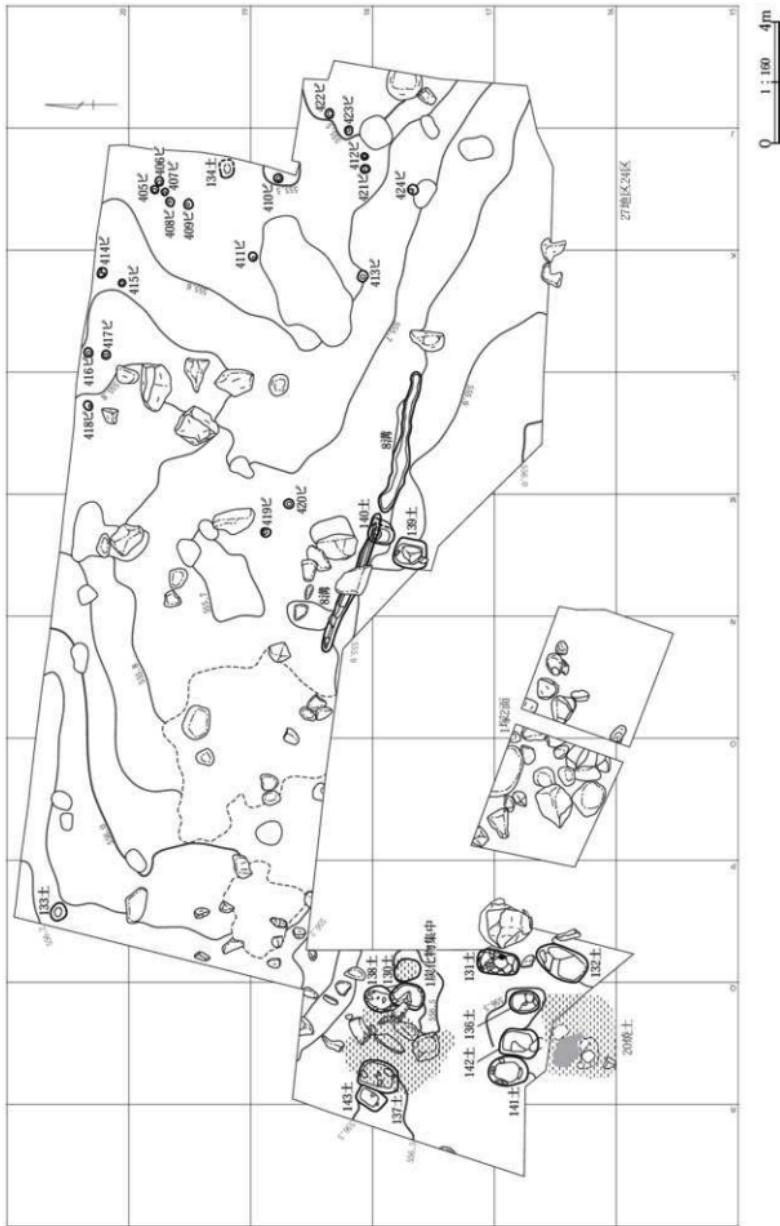


第13図 下田遺跡平成29年度調査区1面西部

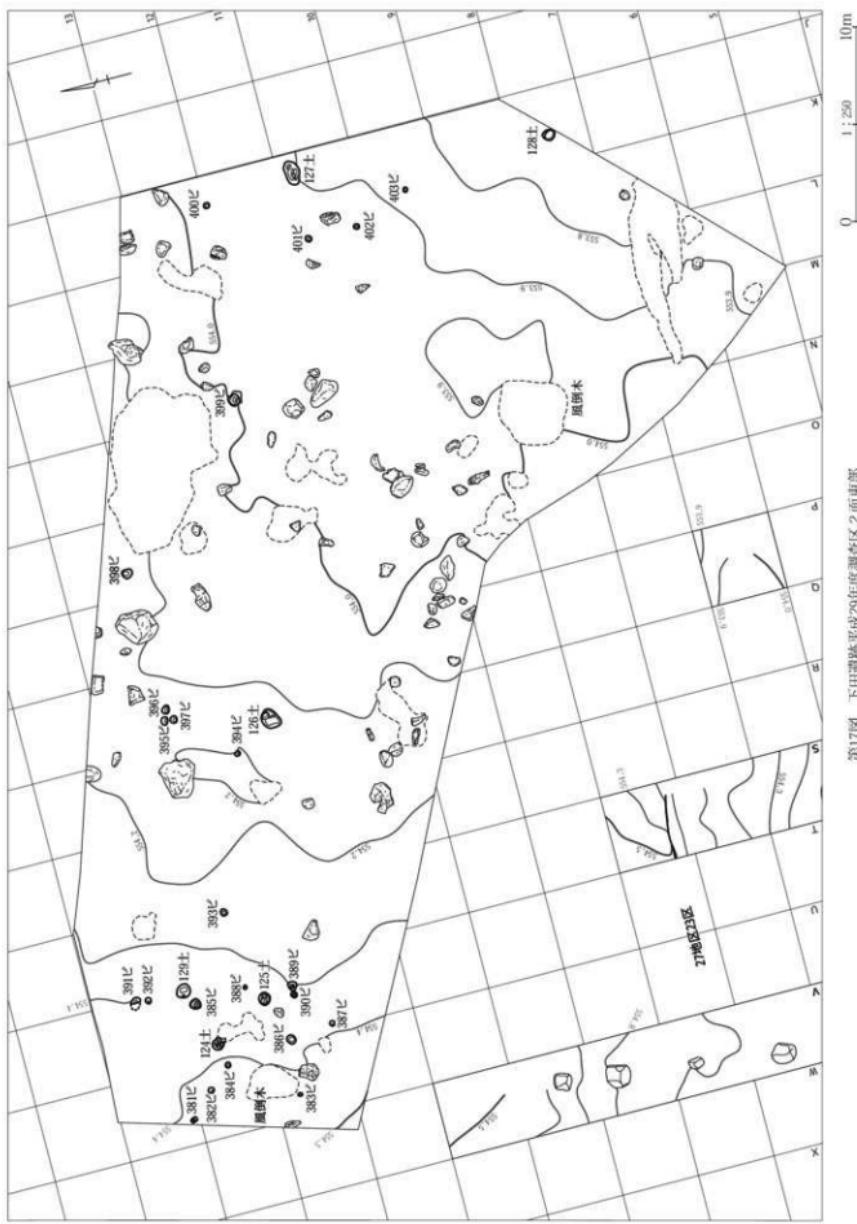


第14図 下田道跡平成29年現調査区1 前南部・東部





第16図 下田遺跡平成29年度調査区2面西部



第17図 下田道路平成29年度調査区 2面東部

平成6年度に試掘調査が行われた範囲である。南側は台地南半の、平成29年度調査区に挟まれた調査区であり、平成9年度に試掘調査が行われている。以下、調査成果の記述に際し、平成30年度調査区を北側・東側・南側と表記する。

天明3年の泥流直下(1面)の遺構のほとんどは、北側の調査区から検出されている。建物群2組、畑19区画、道4条、溝3条、ヤックラ5基が確認された。なお、確認された道は1条を除き路肩を保護する石垣を伴う。南側・東側とともに天明泥流による擾乱の著しい場所であり、南側から道1条、畑の痕跡2区画、溝1条、ヤックラ1基が確認されたにとどまる。

天明3年の遺構面の下位の遺構面(2面)からは、北側と東側北半から遺構が検出されている。北側からは近世建物1棟、竪穴建物3棟、溝1条、焼土2基、土坑49基、ピット149基が検出されている。東側からは竪穴建物1棟、土坑23基、ピット60基、ヤックラ1基が検出されている。

#### (4) 平成31年度調査区(第28~30図)

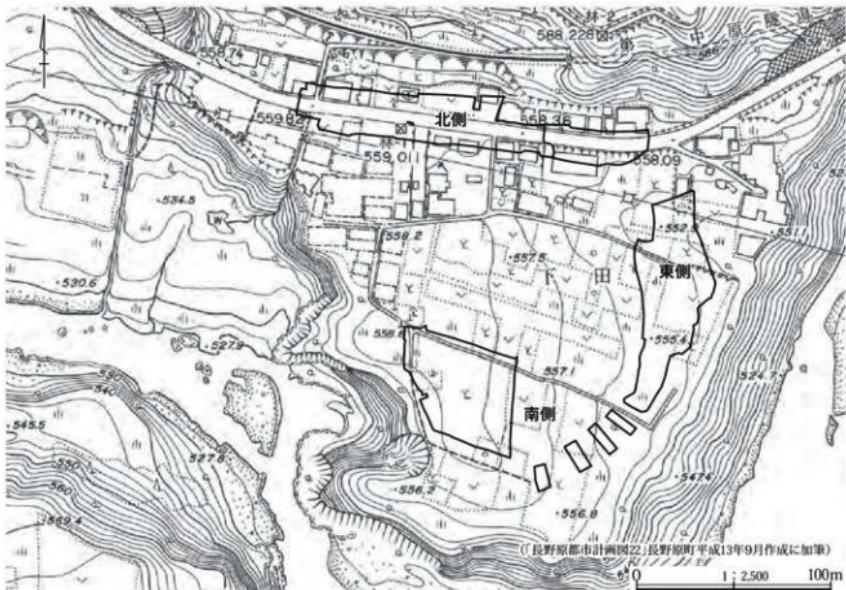
平成31年度は、遺跡の立地する舌状台地の根方西端に近い場所を調査対象とした。平成28年度調査区と平成30年度調査区に挟まれた国道下の未調査部分で発掘調査が行われた。調査対象域の西半は泥流のもたらした擾乱により荒廃し、遺構は確認されていない。

天明3年の泥流直下の面(1面)から、礎石建物4棟と道3条、畑5区画が検出された。このうち礎石建物2棟はこれまでに検出されている建物群の一部であり、3条の道と畑4区画もこれまでに検出されている既存の遺構に連なるものである。

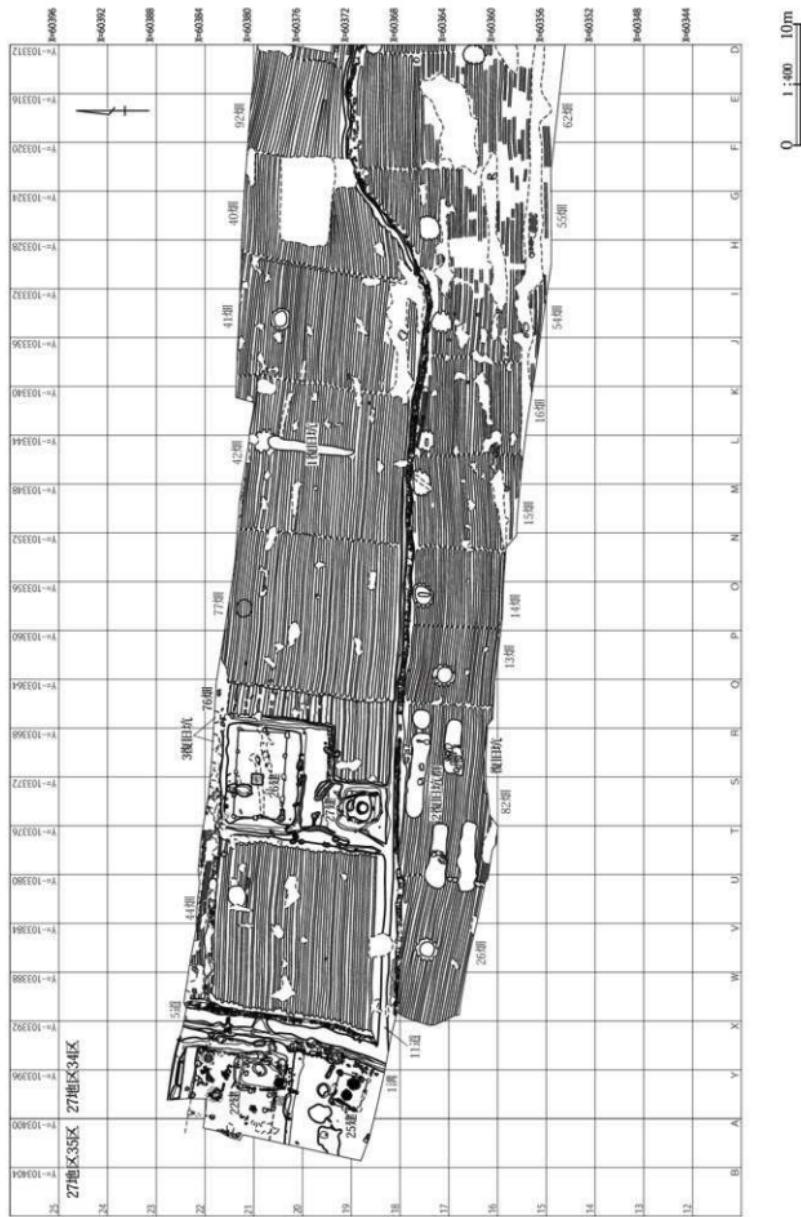
天明3年の遺構面の下位の遺構面(2面)からは、竪穴建物2棟、掘立柱建物2棟、土坑11基、ピット22基と流路1条が検出された。

## 2 基本土層

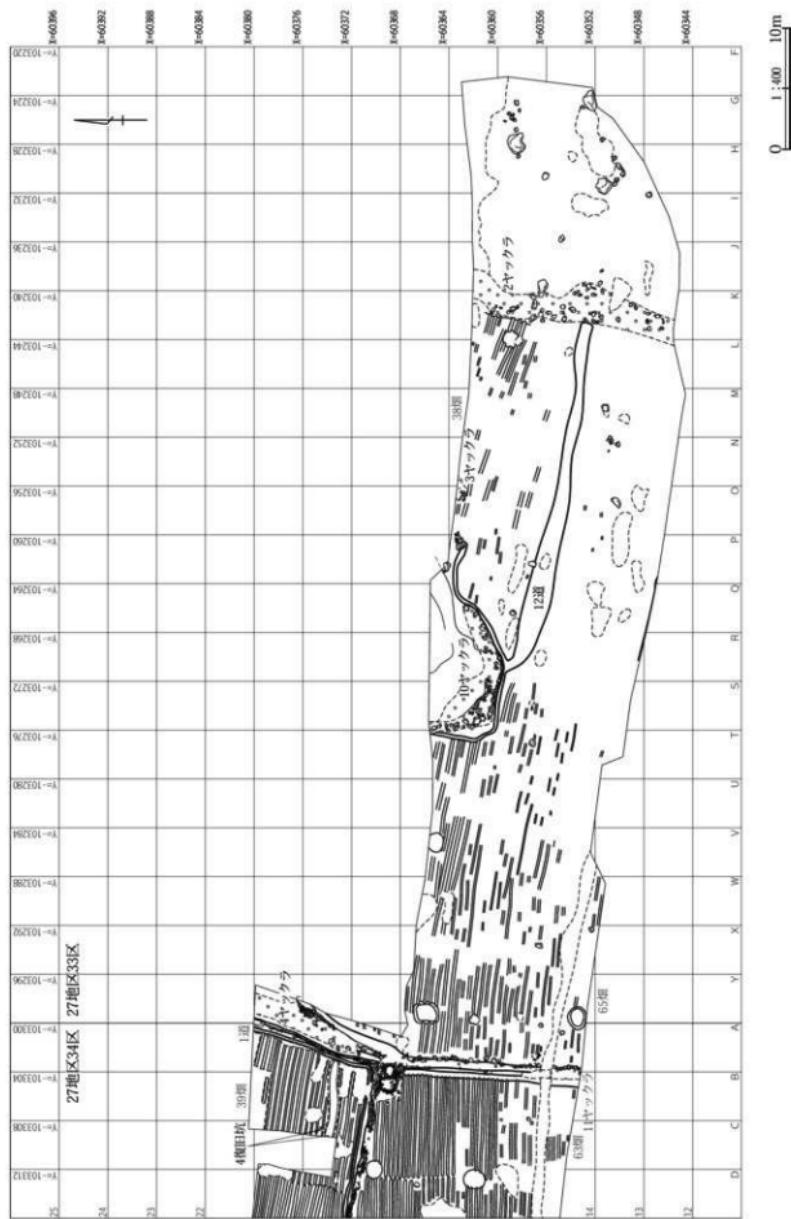
本遺跡の土層層序として、平成25年度・26年度調査報告(佐藤2017)に用いた図を再掲する。



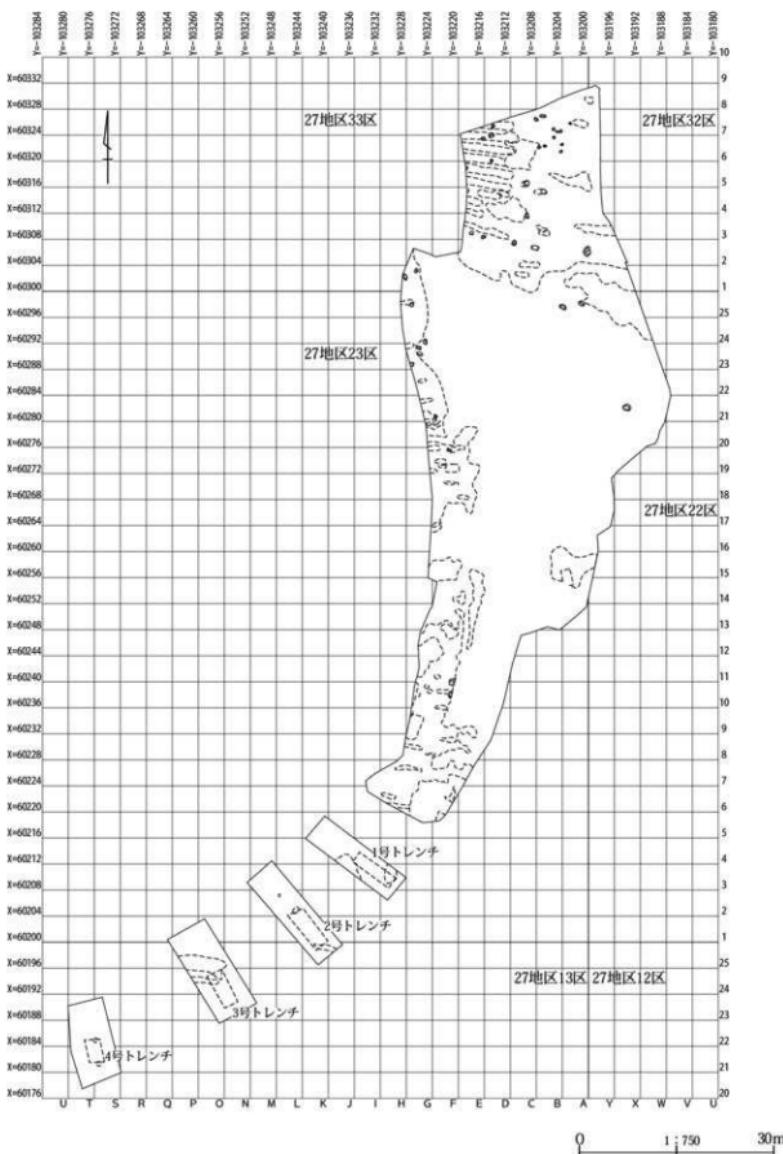
第18図 下田遺跡平成30年度調査区



第19図 下田遺跡平成30年度調査区1面北側(西半)



第20図 下田遺跡平成30年度調査区1面北側(東半)



第21図 下田遺跡平成30年度調査区1面東側・南側(東半)

## (1) 平成28年度調査区(第31図)

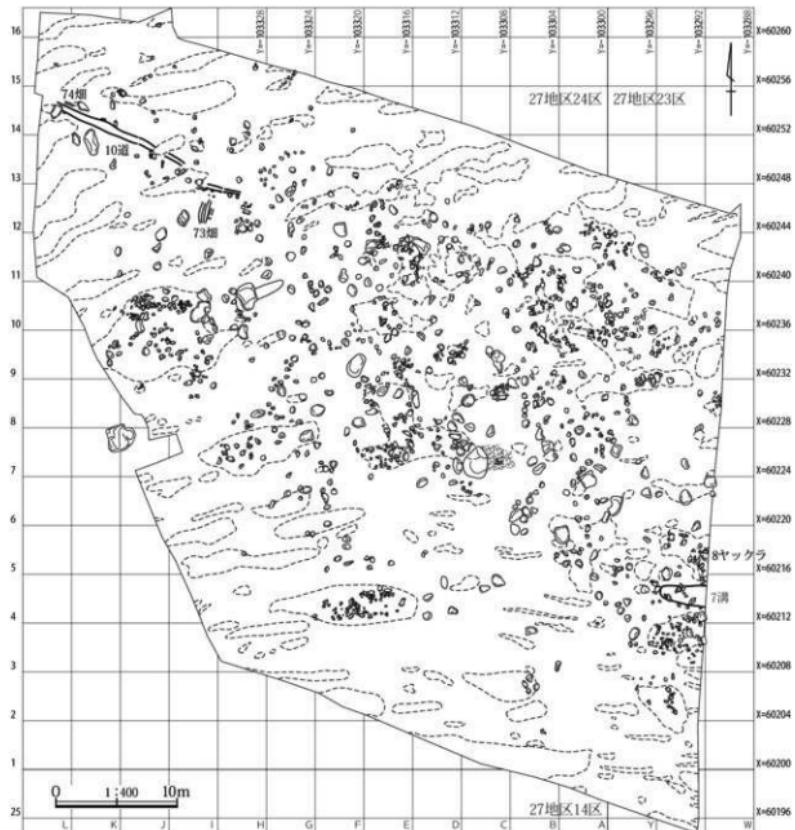
平成28年度の調査区もこれまでの調査区同様に、調査地点ごとに堆積状況が相違する傾向に変わりはない。しかしながら、舌状台地の中央部では見られなかつた状況が平成28年度調査区の北部で確認されている。

調査区北辺は上位の段丘面につづく崖際に位置しており、天明耕作土の下層から崩落層が確認されている。本遺跡の西に隣接する、下原遺跡において確認されている土砂崩れ堆積層(第V層、第VII層)(麻生2007)のいずれかに相当すると推察される。

調査区東部北辺からは天明泥流が検出されていない。

第1層	表土、現代耕作土。
第2層	天明泥流堆植物。
第3層	As-A 軽石。
第4層	暗褐色土。泥流下耕作土。
第5層	鉄分凝集層。
第6層	暗褐色土。
第7層	As-Kkテフラ。
第8層	暗褐色土。
第9層	暗灰褐色土。
第10層	暗黄褐色土。
第11層	暗灰褐色土。ローム層。
第12層	黄褐色土。

第22図 下田遺跡基本土層



第23図 下田遺跡平成30年度調査区1面南側(西半)

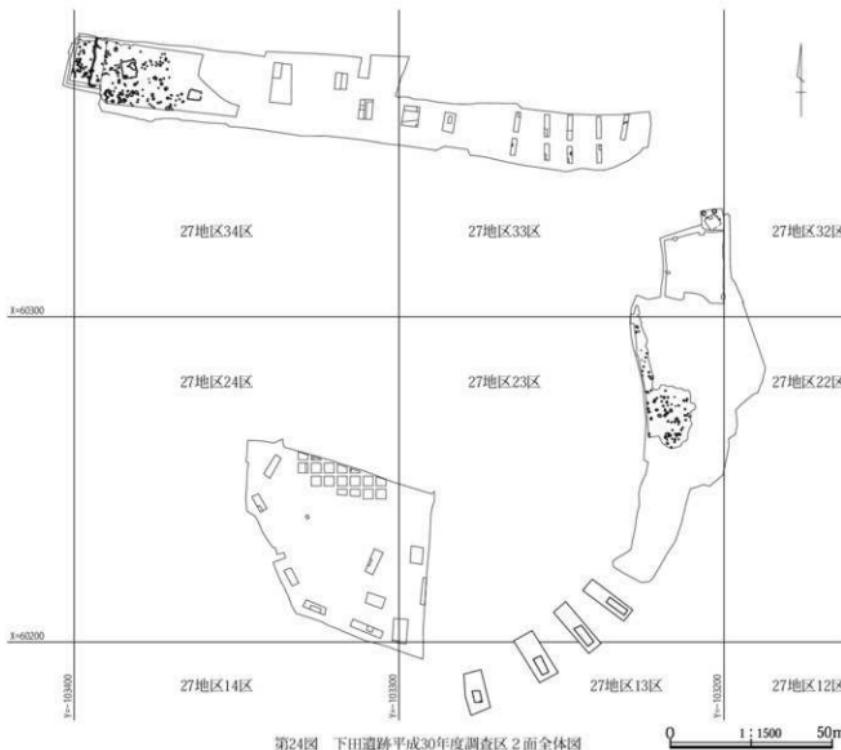
調査区中部北辺1(第31図)で確認された、天明泥流上面の標高と調査区東部北辺で確認された表土下面の標高とはほぼ等しい(558.5m)。また、調査区東部北辺は調査区を東西に横切る谷筋の北に位置する。これらを踏まえると、調査区東部北辺が天明泥流に覆われなかつた可能性は高い。泥流の流路となつたであろう谷間にあたる調査区東部の南半から遺構が検出されない状況とも矛盾しない。

調査区中部1(第31図)は平成28年度調査区を東西に横切る谷の谷間に位置し、調査区中部南辺(第31図)と調査区中部2(第31図)はそれぞれ谷の南北に位置する。3地点の土層を比較すると、谷の南側では中世から古代にかけての層が乏しくなつてると推察される。平成25年度調査においても同様であったが、中世の遺構確認面から縄文時代の土器片が採取される状況とも整合する。

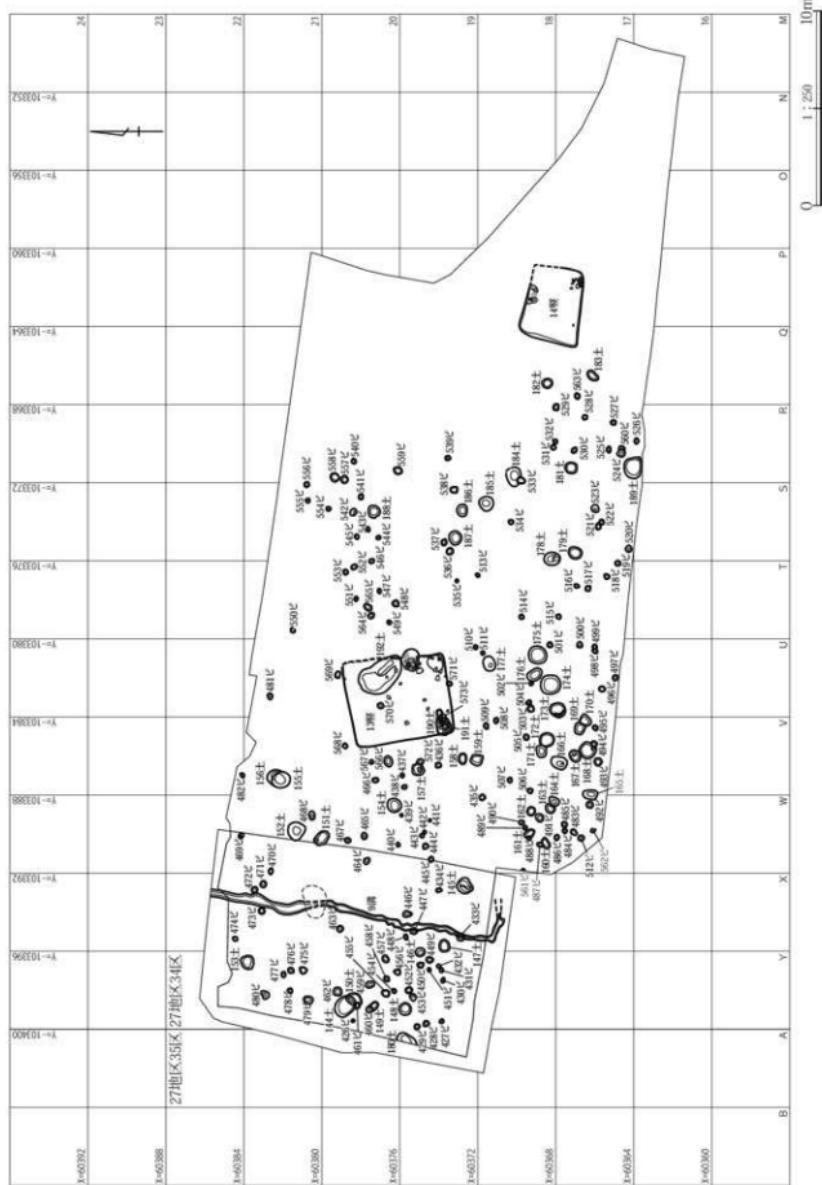
## (2) 平成29年度調査区(第32図)

平成29年度の調査区もこれまでの調査区同様に、調査地点ごとに堆積状況が相違する傾向に変わりはない。調査区の全体的な傾向としては、基本土層第9層の暗灰褐色土層と基本土層第11層とした暗灰褐色のローム層が確認されておらず、褐色系土層の下に黒褐色土ブロックを含む黄褐色土が堆積する点があげられる。なお舌状台地の先端部でもある調査区南部では、天明泥流の直下に黄褐色土層が位置する。

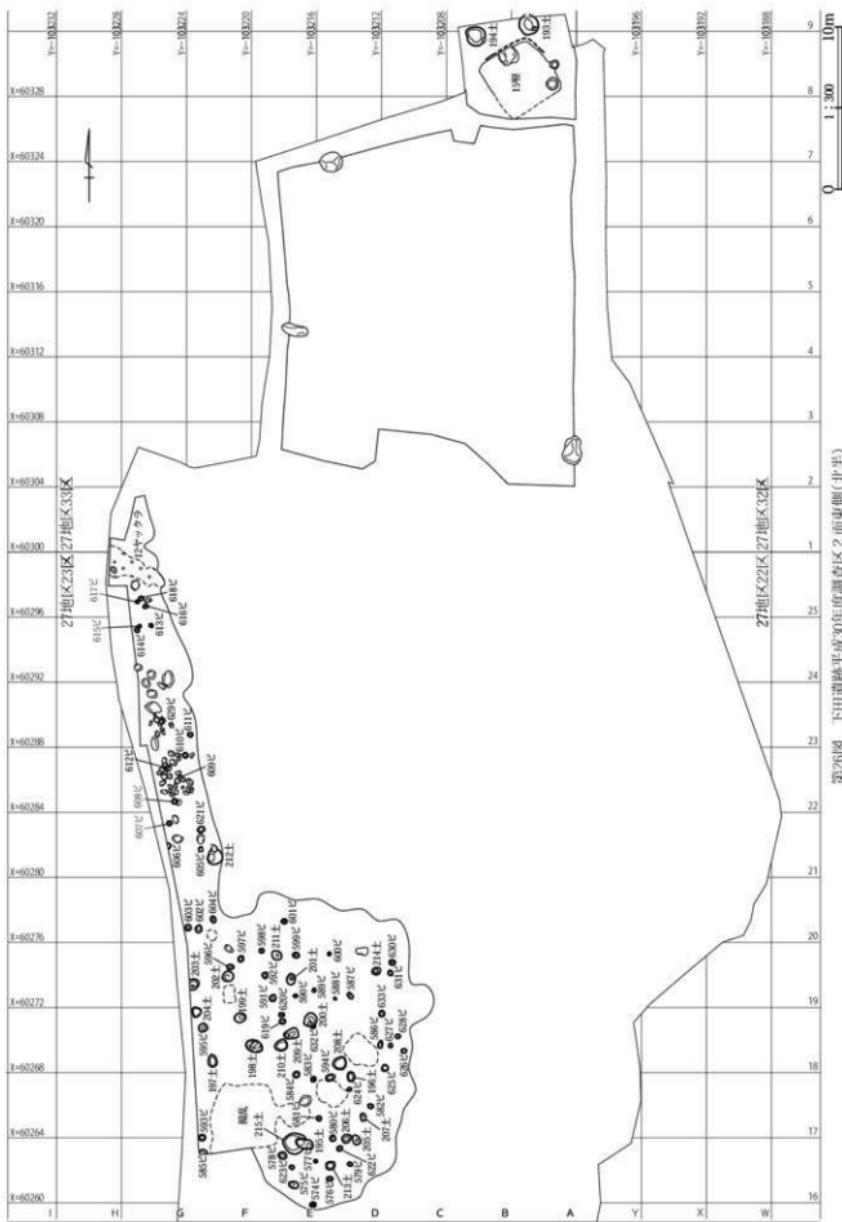
今回の調査区に挟まれた領域での平成9年度の試掘調査では、基本土層第6層の下位に褐色の均質な砂質土の層が確認されている。また、この層の下位は大型円礫を多量に含むとされているが、これらに相当する層が確認されていないことも相違点と考えられる。



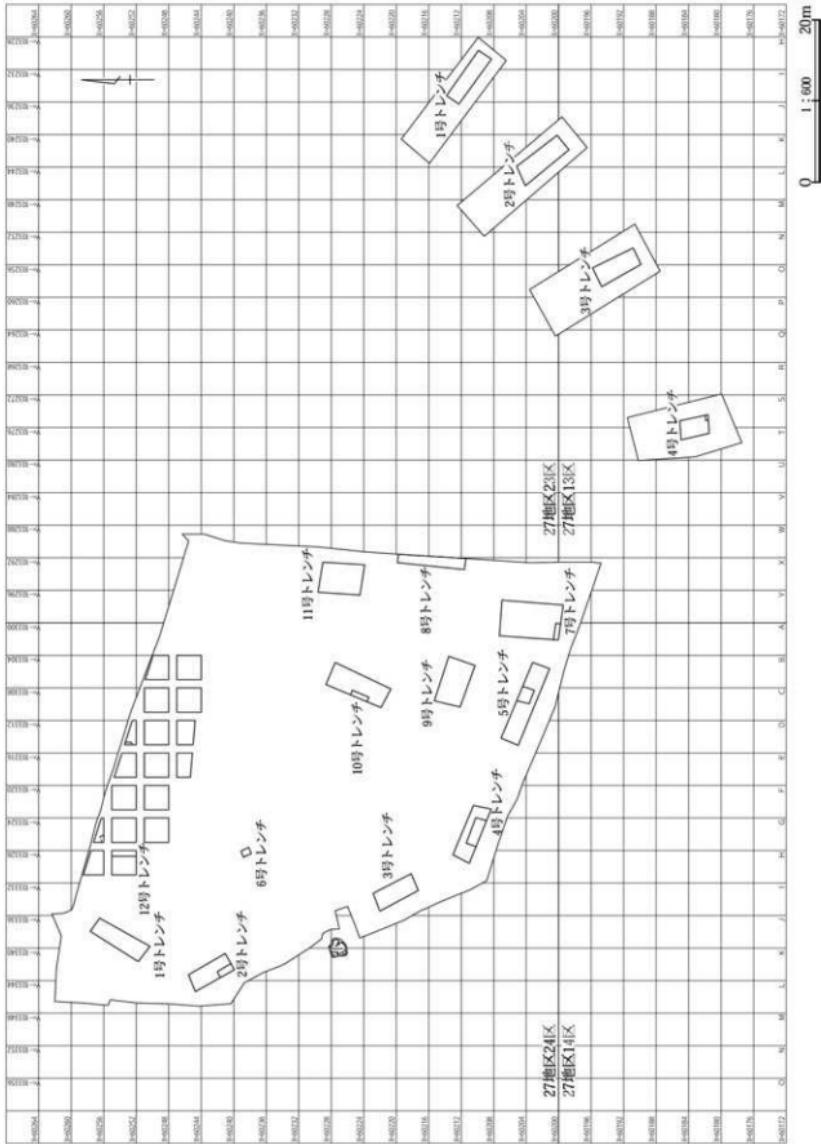
第24図 下田遺跡平成30年度調査区2面全体図



第25図 下田遺跡平成30年度調査区2面北側(西半)



第26図 下田遺跡平成30年度調査区2面東側(北半)



第27図 下田道路平成30年度調査区2面南側

## (3) 平成30年度調査区(第33図)

平成30年度の調査区もこれまでの調査区同様に、調査地点ごとに堆積状況が相違する傾向に変わりはない。全体的な傾向は平成29年度調査区と同様に、基本土層第9層の暗灰褐色土層と基本土層第11層とした暗灰褐色のローム層が確認されておらず、褐色系土層の下に黒褐色土ブロックを含む黄褐色土が堆積する点があげられる。

調査区南側では天明泥流と黄褐色土層との間に1層を挟む点が平成29年度調査区との相違である。また、平成9年度の試掘で確認された砂質土の層は、調査区南側の中央付近(調査区南側1、第33図)で確認されており、局地的に存在すると推測される。

調査区北側では亜角礫を含む褐色土層と、グライ化した褐色土層が確認されている。前者の亜角礫を含む層は平成28年度調査区の北辺で確認されている角礫を含む層と同様に、上位段丘の崖面の崩落に由来すると推察される。また、後者の層は遺跡の立地する舌状台地を東西に走る谷に由来すると推察される。

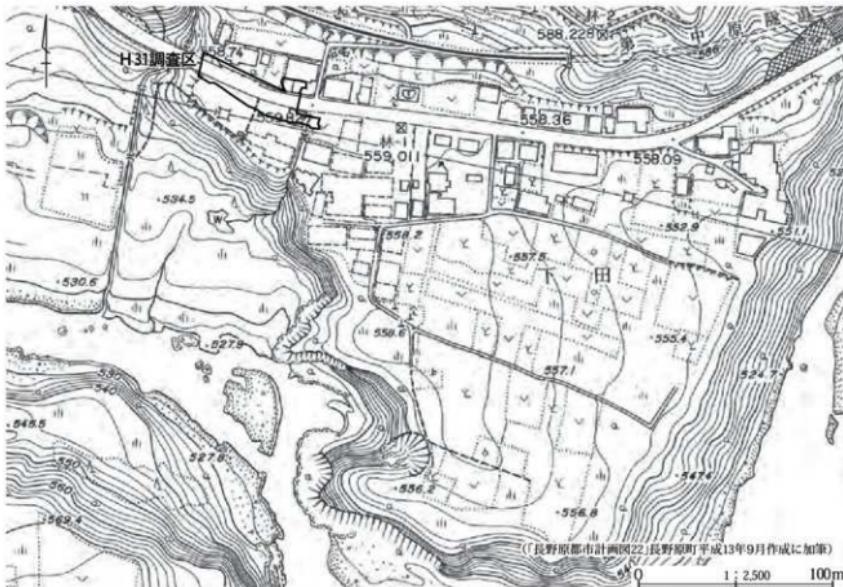
## (4) 平成31年度調査区

平成31年度の調査区もこれまでの調査区同様に、調査地点ごとに堆積状況が相違する傾向に変わりはない。平成31年度調査区は、南北を平成28年度調査区に接し、東は平成30年度調査区に接するため、その基本土層は隣接する調査区に準じる。黒褐色土の地山の下に砂礫層が存在する状況は、平成28年度調査区西部北辺(第31図)や平成30年度調査区北側1(第33図)と同様である。

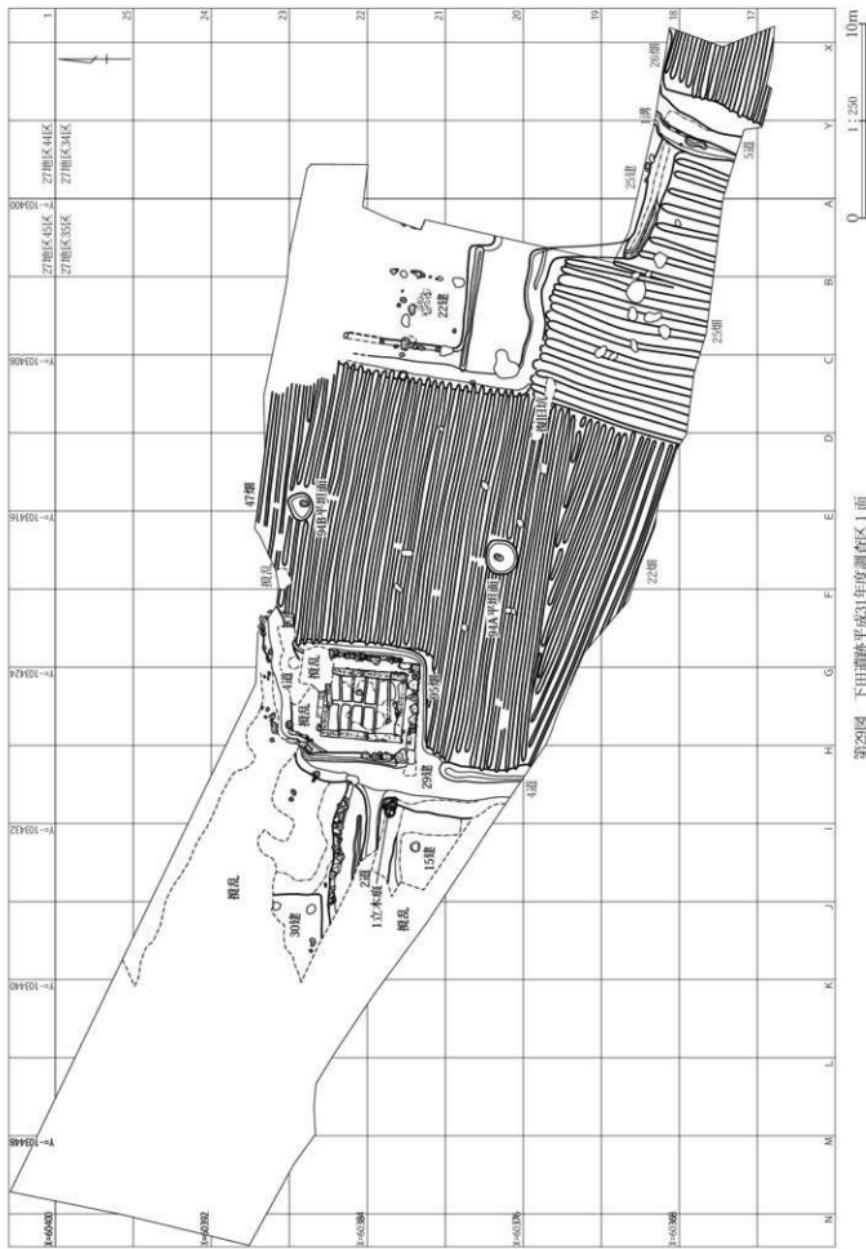
## 参考文献

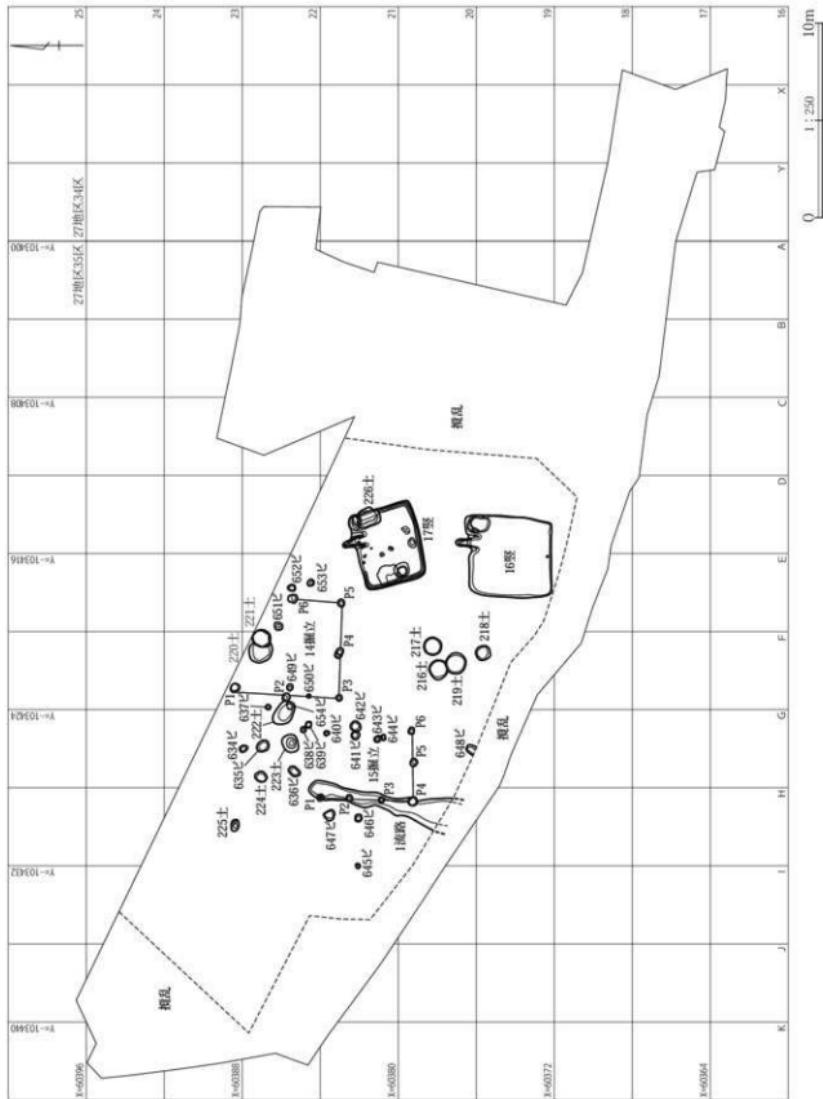
麻生敏隆2007「第2章第4節 基本上層」『財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第389集、下原道路Ⅱ』

佐藤元彦2017「第3章第1節 基本上層」『公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第629集、下田道路(2)』



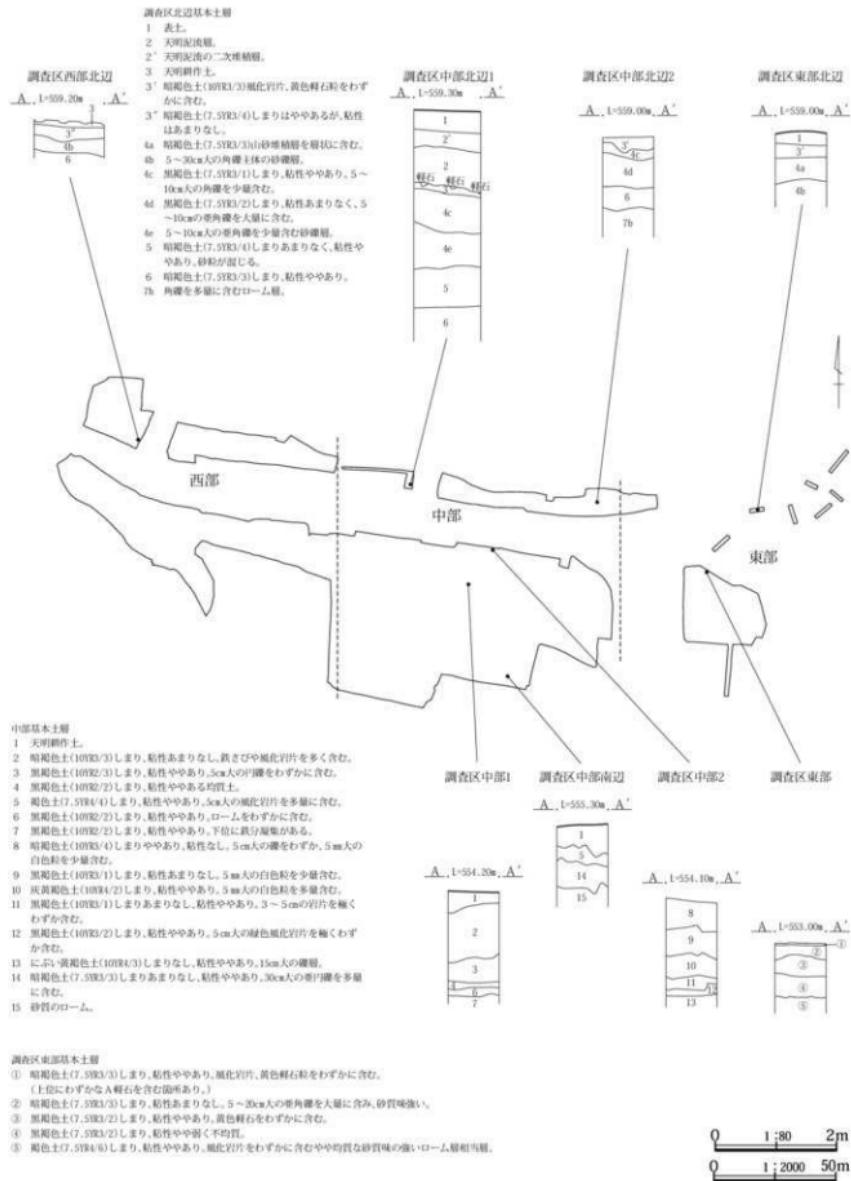
第28図 下田道路平成31年度調査区



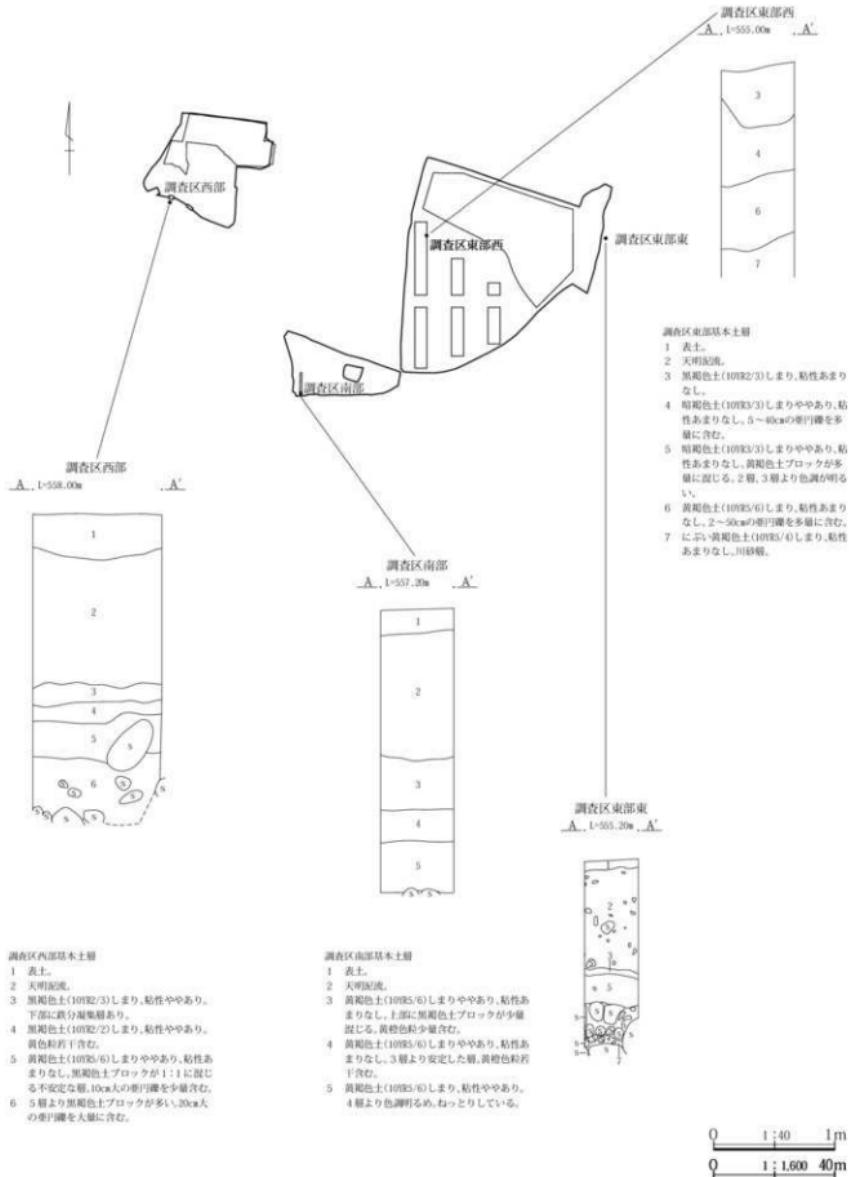


第30図 下田遺跡平成31年度調査区2面

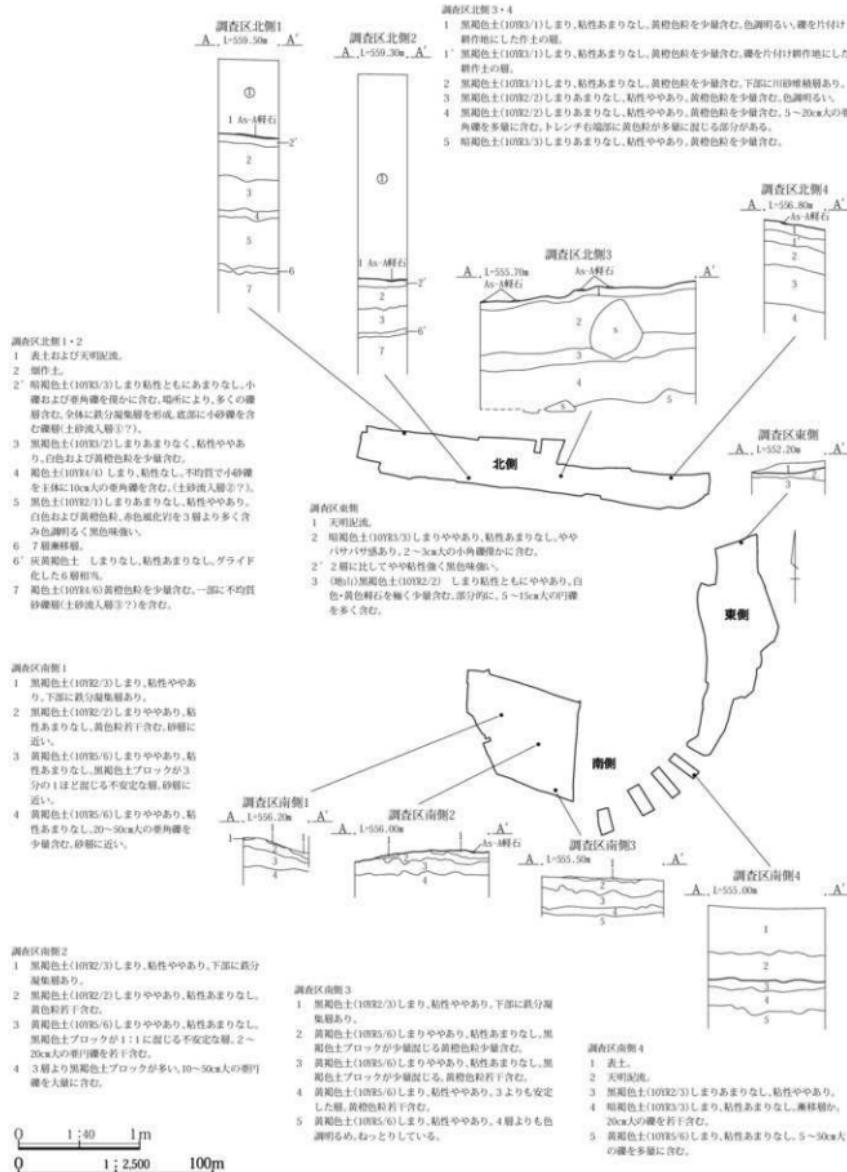
## 第2章 周辺の環境



第31図 平成28年度調査区各所の土層



第32図 平成29年度調査区各所の土層



第33図 平成30年度調査区各所の土層

## 第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

### 第1節 1面の遺構と遺物

#### 第1項 1面の概要

1面は天明3(1783)年の「浅間山噴火」がもたらした泥流堆積物(基本土層第2層)直下面である。建物群3組、礎石建物3棟、畑52区画、道4条、溝4条が確認されている。このほかに、環境整備の跡である石垣やヤッカラなども確認されている。また天明泥流に覆われた畠地に対する復旧対策の跡とされる復旧坑も多数存在するが、調査区西部の一部の地域に限定される。復旧坑には東西軸と南北軸の二種があり、少なくとも二つの復旧工区が存在したと推測される。

建物は1棟を除き調査区の西部に偏在し、畠の中に点在する。調査区西部は、調査区の存在する舌状台地中では標高の高い一画であり、集落を構成したと推測される。確認された建物の種類は、掘立柱建物から敷き土台を想起させる建物におよぶ。また建て替えの可能性を考慮すべき事例も存在する。中世的な建物から近世の建物への変遷を如実に残す地区といえる。

畠は調査区一面に存在するが、谷地形が存在する調査区東半は泥流による攪乱が著しいためか、谷間からは確認されていない。集落の東に続く、調査区の西部から中部にかけての80×(45)mの範囲の耕作地は、全長の短い畠が列をなして並ぶ、均一な景観を呈している。なお、今回の調査区の中部と東部の境周辺を調査した平成6年度調査では、東西に走る畠と思われる遺構が確認されているが、今回の調査で調査区東部において確認された遺構は畠1区画とヤッカラ1か所のみである。

今回の調査により確認された道の走向などは、前回調査同様に、概ね調査時に現存する道と重なる。また5号道側溝と3号溝については、調査時点において水路となっている場所と重なる。天明当時においても水路として存在した可能性は高い。

### 第2項 建物群

主となる建物とそれに隣接する附属屋と考えられる建物の組み合わせからなる建物群は、調査区の西部から3組確認された。西から順にD1建物群(15号建物他)、D2建物群(17号建物他)、C1建物群(5号礎石建物他)と呼称するが、このうちC1建物群は平成26年度調査で確認された北西端建物群の未調査部分である。

#### 1 D1建物群(第34～41図)

35区H～K-18～21グリッド、調査区の西端に位置する。東を4号道に接し、建物群の北辺から建物の南側に回り込む通路が確認されている。建物群は主たる建物と思われる東西軸の礎石建物1棟(15号建物)と後架と考えられる方形の掘立柱建物1棟(16号建物)および建物間をつなぐ通路(調査時名称は3号道)から構成される。

##### (1) 15号建物(第35～39図、PL.2, 3, 60, 61)

位置 35区I～K-19-21グリッド、調査区北西端に位置する。

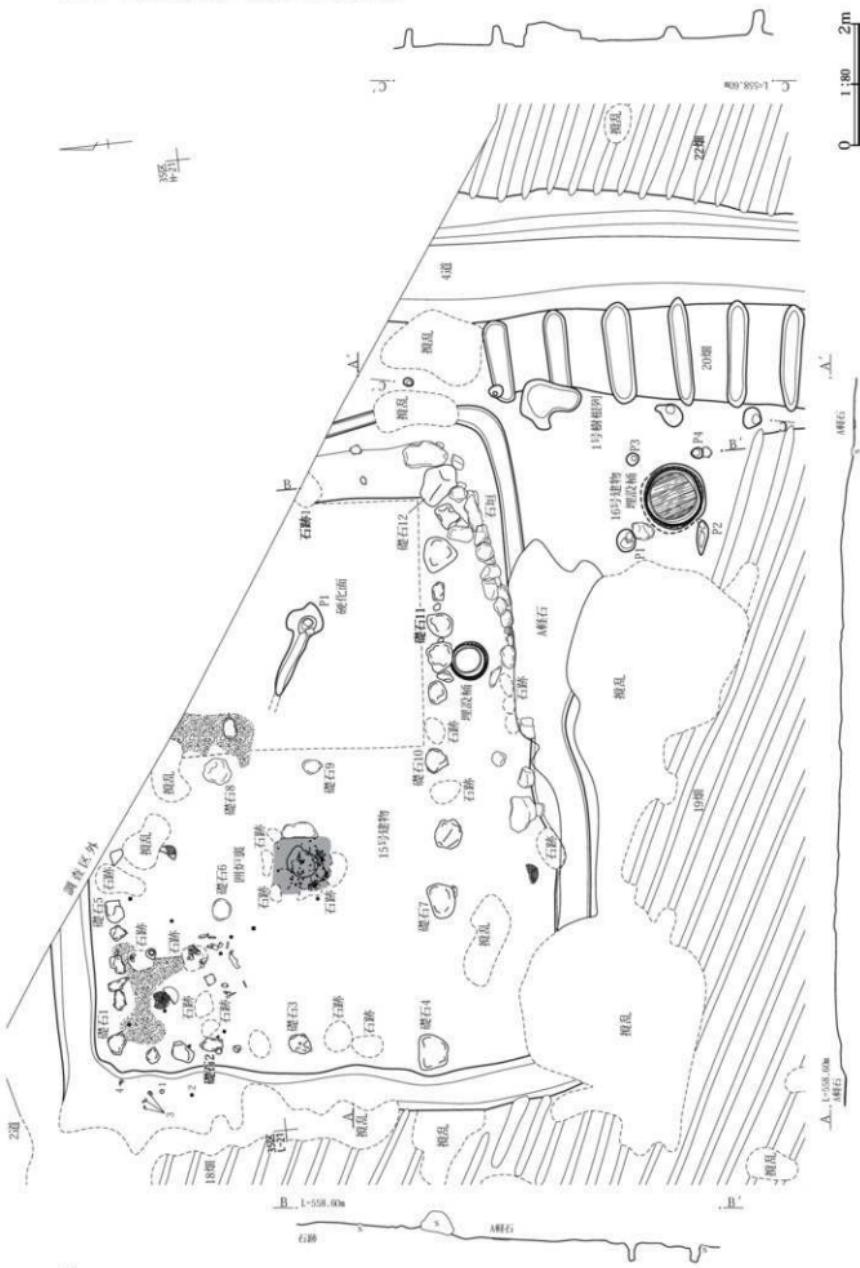
形状 北辺の半分および東辺の多くが未確認であるが、3間×4間の東西棟が確認されている。

規模 柱行9.26m、梁間5.38m。

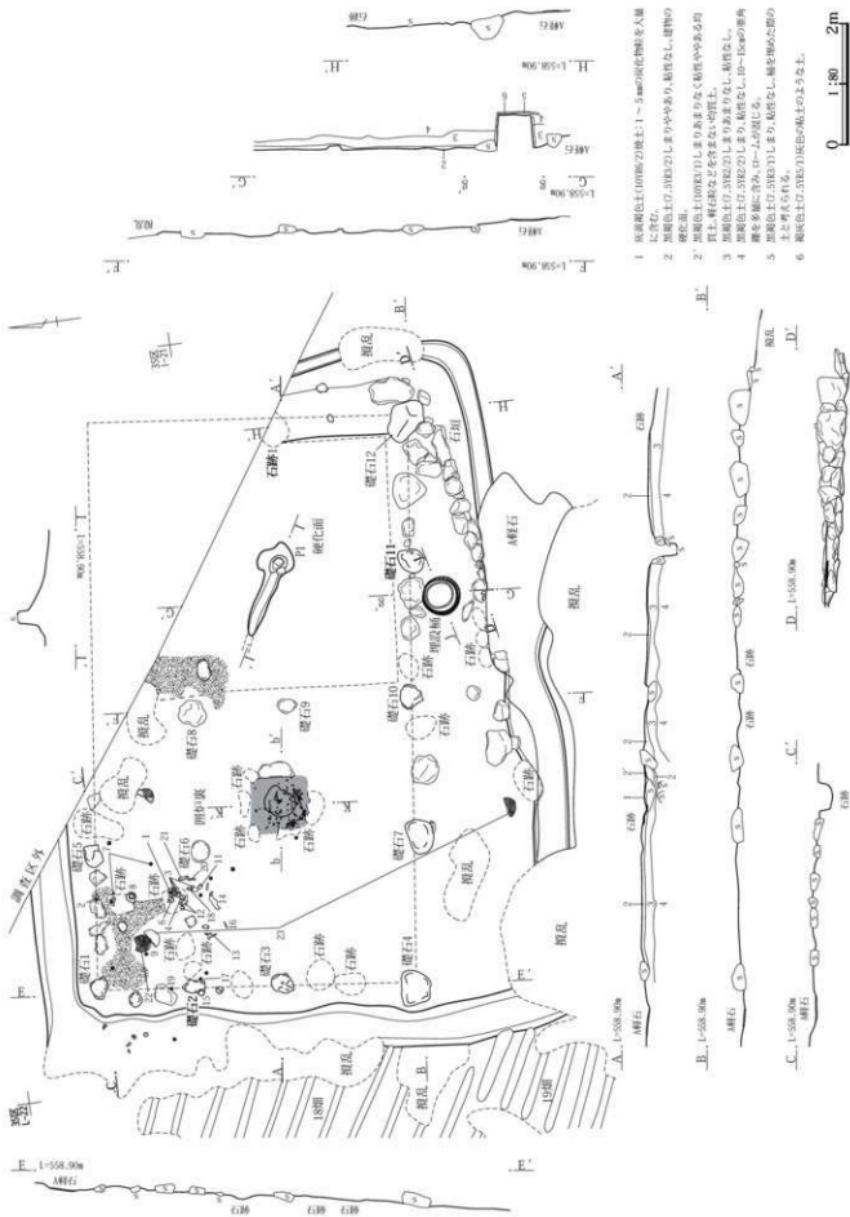
桁行方向(度) N-82-W

本体構造 まばらに残存する建物外周部の列石の状況から、3間×4間の敷き土台の建物の可能性があるが、外周の外壁部にのみ土台相当の木組みを持ち、内部の柱は礎石建とする折衷方式と推察される。建物内西半中央部やや東寄りには囲炉裏が存在し、また建物北西隅からは道具類も確認されており、作業用の土間となっていたと考えられる。また、建物東半の中央に柱穴と思われる遺構が存在し、西北西に浅い溝上の痕跡がみられるところから、泥流により浮き上がった柱が泥流の流れに直行する方向に倒されたと推測される。

付属施設 囲炉裏1基、埋設桶1基、石垣1基。付属施



第34図 D1建物群



第35図 15世紀建物

設については後述する。

**遺物** 確認面より肥前磁器染付碗(1,2)、瀬戸・美濃陶器腰錦碗(3)、瀬戸・美濃陶器碗(4,5)、瀬戸・美濃陶器片口鉢(6,7)、瀬戸・美濃陶器すり鉢(9)、鉢鼓(15)、刀子(13)、鉄鎌(12)、石突鉢(14)、鉄斧(11)、火打ち金(16)、砥石(18,19,20,21)、石臼上下(23,22)、使途不明の石製品(17)が出土している。また出土地点は不明だが瀬戸・美濃陶器片口鉢(8)や瀬戸・美濃陶器すり鉢(10)も出土している。このほか調査時点において板材や容器様の銅製品の一部、煙管や刀子なども確認されている。

**所見** 3間×4間の東西棟礎石建物と推測される。土台敷きを想定したが、土台に柱材を固定する現在と同様の工法が使われていた確証ではなく、柱材の根方を横木で繋ぐ工法も想定される。建物北辺屋内側に粘土の残る一画がある。外壁に由来すると考えられるが、残存は屋内側のため、内壁由来の可能性も残る。

#### a 囲炉裏(第36図、PL.2)

**位置** 35区J～K-20グリッド、建物中央部西寄りに位置する。

**形状等** 1m弱四方の炭化物混じり焼土の東辺中央部に石1点、ほか四辺に石跡5か所が確認される。泥流の影

響か灰は確認されていない。概ね方形の焼上部の中央には上面を平坦に加工した石が埋め込まれている。

**規模** 焼土部0.96×0.92m、四辺の石を含め(1.37×1.29)m。

**所見** 遺構名として調査時の名称を残したが、残存状況からは石圓いがのほうがふさわしい。

#### b 埋設構(第36図、PL.3)

**位置** 35区J-19-20グリッド、建物南辺中央部やや西寄りの壁外に位置する。

**形状等** 挖り方に貼られた粘土質の土に、下部に2条、上部に1条の結桶の痕の痕跡が残されている。

**規模** 上端部外径0.62m、底部外径0.54m、高さ(0.56)m。

**所見** 挖り方内面に粘土質の土を貼り隙間を埋め、桶を収めた遺構であり、尿桶と呼ばれる遺構と推察される。

**備考** 調査時の名称は、15号建物1号桶。

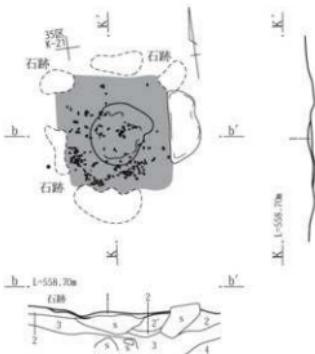
#### c 石垣(第35図、PL.3)

**位置** 34区I～J-19-20グリッド、建物南辺東半に位置する。

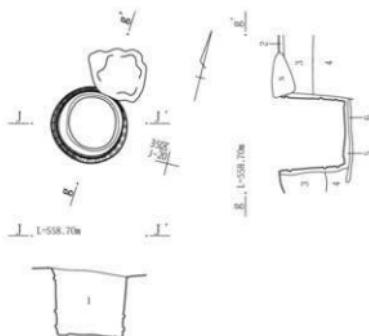
**規模** 長さ4.7m、最大高0.6m。

**主軸方向(度)** N-81-E

**所見** 15号建物は微高地の南端にあり、その東南隅は微



- 1 灰黄褐色土(10YR6/2)焼土: I～5mmの炭化物を大量に含む。
- 2 黒褐色土(7.5YR3/2)しまりややあり、粘性なし、建物の礎化面。
- 2' 黒褐色土(10YR3/1)しまりあまりなく粘性ややある均質土、粗石などを含まない均質土。
- 3 黑褐色土(7.5YR2/2)しまりあまりなし、粘性なし。
- 4 黑褐色土(7.5YR2/2)しまり、粘性なし、10～15cmの巻角縛を多量に含み、ロームが混じっている。
- 5 黑褐色土(7.5YR3/1)しまり、粘性なし、桶を埋めた際の土と考えられる。
- 6 黑褐色(7.5YR5/1)灰褐色の粘土のような土。



- 1 灰黄褐色土(10YR3/2)天明泥炭植物: しまり、粘性なし。
- 2 黒褐色土(7.5YR3/2)しまりややあり、粘性なし、建物の礎化面。
- 3 黒褐色土(7.5YR2/2)しまりあまりなし、粘性なし。
- 4 黒褐色土(7.5YR2/2)しまり、粘性なし、10～15cmの大巻角縛を多量に含み、ロームが混じっている。
- 5 黑褐色土(7.5YR3/1)しまり、粘性なし、桶を埋めた際の土と考えられる。
- 6 黑褐色(7.5YR5/1)灰褐色の粘土のような土。

0 1:40 1m

第36図 15号建物2

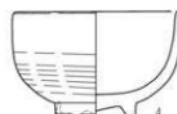
## 第1節 1面の遺構と遺物

第5表 15号建物柱間計測表

	奥行 柱間	奥行 柱間	奥行 柱間	奥行 柱間	奥行
黒石1	- 2.18 -	黒石2			
黒石柱間	1.55	1.73			
黒石2	- 2.21 -	黒石3	- 2.27 -	黒石4	
黒石柱間	1.46	3.65	1.29		
黒石3	- 4.53		- 黒石4	- 2.38 -	P1 - 2.13 - 黒石1 9.04
黒石柱間	2.16		2.06	2.18	2.14
黒石4	- 2.48 -	黒石5	- 2.27 -	黒石6	- 2.21 - 黒石7 9.26
梁間	5.17	5.38			

第6表 15号建物ピット計測表

ピット	P1
位置	35区 I ~ J -20
規模(m)	長 1.60
	短 0.60
	深 0.48
平面形状	不整形
主軸方向(度)	N-63-W
傾斜方位(度)	N-63-W



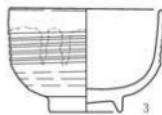
4



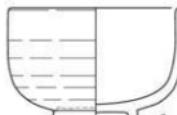
1



2



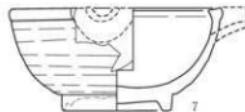
3



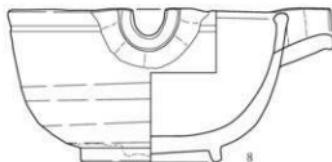
5



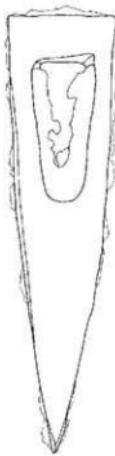
6(1/4)



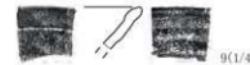
7



8



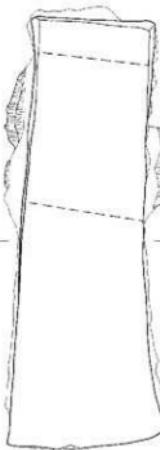
9



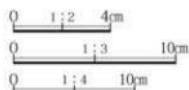
9(1/4)



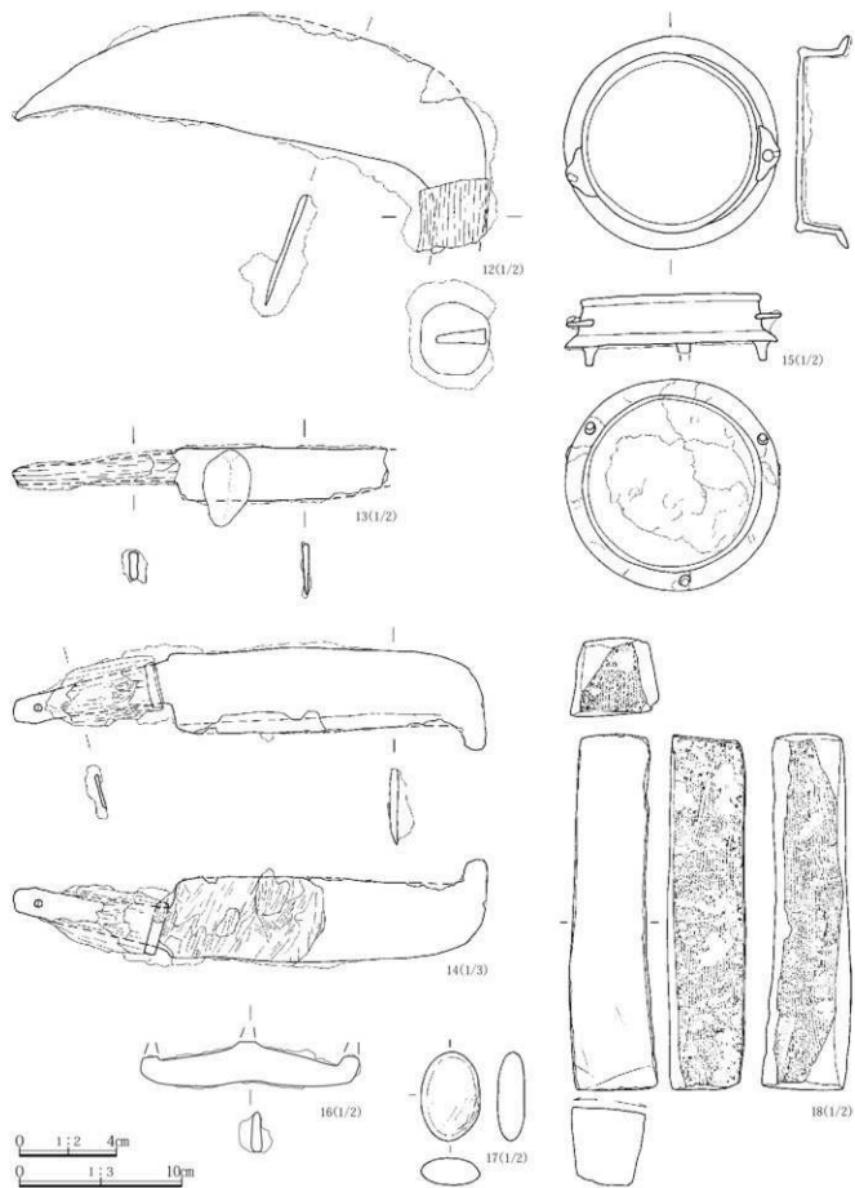
10(1/4)



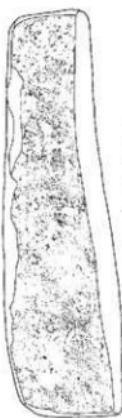
11(1/2)



第37図 15号建物出土遺物 1



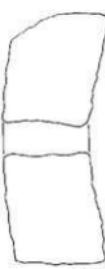
第38図 15号建物出土遺物 2



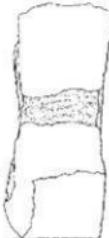
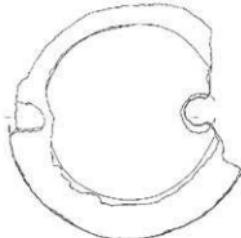
19(1/2)



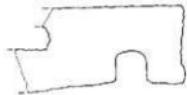
21(1/2)



22(1/6)



23(1/6)



0 1:2 4cm  
0 1:6 12cm

第39図 15号建物出土遺物 3

高地の斜面にかかる位置にある。打込み接ぎの一種と考えられる。裏込めの設えは特に認められないが、自然石や割石を乱雑に組合せて建物の足元を固め、床面の維持および斜面の保護を意図したものと推測される。

## (2) 16号建物(第40図、PL.4)

**位置** 35区I-18~19グリッド、15号建物を囲む通路を挟み、南にやや離れて位置する。

**形状等** 埋設桶を囲み、4か所の柱穴が確認されている。泥流の影響か、南北隅の柱が西側に押し倒された痕跡が残されている。

**規模** 幢行1.40m、梁間1.25m。

**幅行方向(度)** N-91°W

**本体構造** 1間×1間のはば方形の掘立柱建物。

**付属施設** 埋設桶。付属施設については後述する。

**所見** 15号建物の埋設桶より一回り大きな桶が埋設されているが、後架としての用に用いられたと推測される。

雨落ち跡は確認されていないが、立地から片流れの屋根構造が想起される。

調査区内に残された痕跡の多くは、泥流が東北方向へ流れた事を示唆するが、16号建物P2および15号建物P1に残された柱痕は柱が西に倒れた状況を留めている。D1建物群は遺跡の立地する舌状台地の根方の微高地にあり、遺跡内では最も上流側に位置し、その西南方向は段丘下に下位の段丘面が存在している。これらの状況により、

D1建物群周辺は天明泥流本流の直撃を受けなかったと推察される。

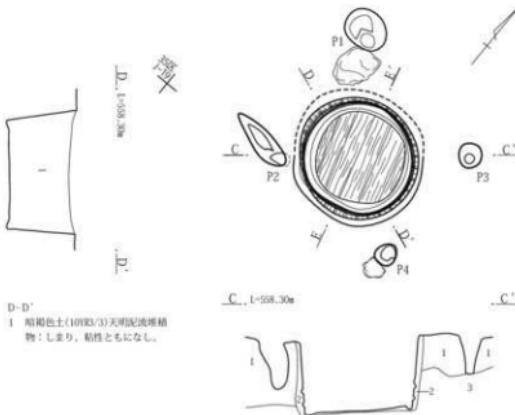
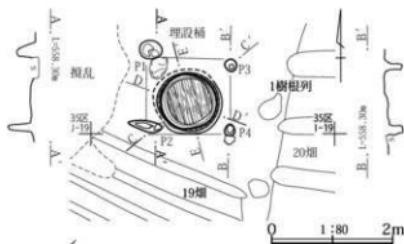
**a 埋設桶(第40図、PL.4)**

**位置** 35区I-18~19グリッド、16号建物の中央に位置する。

**形状等** 底部近くにまかれた2条の箍の痕跡が、圧痕として残されている。埋め土として、5~10cmの大の角礫と風化岩片を含む黒褐色土が掘り方に残されていた。

**規模** 上端部外径(0.99)m、底部外径0.88m、高さ(0.60)m。

**所見** 泥流の圧力により、東西方向に引き延ばされる変形を受けたと思われる。結桶下部の箍は圧痕として確認されているが、上部の箍の痕跡は残されていないため、桶の開口部が地上に突き出すように埋設されていたと推測される。推定される桶の口径が後架とするにはやや広めのため、小振りの野廬である可能性を否定しないのであるが、庭先といえる地点に存在する点を考慮し、後架とした。



- C-C'  
 1 黒褐色(7.5W2/2)しまりあまりなし、粘性なし。  
 2 黒褐色(7.5W3/1)しまり、粘性ともなし。  
 3 地山。

第40図 16号建物

備考 調査時の名称は、16号建物1号桶。

(3)通路(第35,41図、PL.2,61)

位置 35区I～L-19～21グリッド、15号建物を囲んでいる。

形状等 As-Aの堆積が確認される。通路の道幅は建物北辺沿い0.68m、西辺沿い0.72m、建物南面西半0.79m、建物南面東半0.31m、東辺沿い0.2mをはかる。

遺物 建物西北側付近の路面から、瀬戸・美濃陶器小碗(1,2)、瀬戸・美濃陶器と思われる染付碗(3)、製作地不詳陶器瓶(4)が出土している。

所見 建物北東部が調査区外に含まれるため未確認ではあるが、東に隣接する4号道から建物北辺沿いに西へと続き、建物外周に沿って南下し、建物南面に至る。通路幅が建物南面中央部で激減することから、15号建物の入り口は建物南辺中央付近に存在したと推測される。

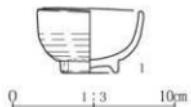
備考 調査時の名称は、3号道。

2 D2建物群(第42～54図)

調査区西部、34区Y-16グリッドおよび35区A～E-13～17グリッドに位置する。5号道の西に並行する1号溝に隣接する。建物群は主たる建物と思われる東西棟の掘立柱建物(17号建物)と附属屋と思われる南北棟の掘立柱建物(20号建物)および後架と考えられる掘立柱建物(19号建物)から構成されるが、1号窪地と泥流に運ばれた可能性もある唐臼1点を含む。また17号建物の北側には、建築材の痕跡をとどめた壁土と思われる粘土帯状に残存する。17号建物の庭先にあたる、建物と24号畑の間の10×2m程度の空間には多数のビットが存在する。

第7表 16号建物柱間計測表

柱間 柱間		柱間
P1	P2	P3
— 1.31 —	— 1.31 —	
1.25	1.05	
P2	— 1.40 —	P3
1.25	1.05	1.40



このうち煙沿いの柱穴4基は深さも0.2m程度で、煙地と居住地との境界をなす低い柵とも考えられるが、これらのビットについては用途を特定しえなかった。

(1) 17号建物(第43～50図、PL.7,61,62)

位置 35区A～D-14～17グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 基本構造の柱穴群とこれを外周する柱穴群、およびこれらを囲む雨落跡が確認されている。柱穴の配置は4間×7間となっており、柱穴の多くは柱が北微東方向に押し倒された痕跡をとどめている。建物西辺および北辺からは壁土に由来すると思われる粘土が確認されている。建物の北側に残存する粘土帶には、P2からP5に相応すると思われる柱材の痕跡が残されている。また粘土帶のP2柱痕とP3柱痕の間およびP4柱痕とP5柱痕の間の2か所には窓と思われる、粘土の欠落した方形部分が存在する。

規模 衍行9.49m、梁間7.18m。

衍行方向(度) N-84-W

本体構造 柱穴から推測されるプランは、2間×5間の四辺にそれぞれ一間を張り出した4間×7間の東西棟掘立柱建物。

付属施設 土壁、圍炉裏、カマド、馬屋、唐臼、埋設桶。付属施設については後述する。

遺物 床面より肥前磁器染付碗(1,2)、古銭(寛永通寶)(8)、石臼(上臼)(13)(下臼)(11,12)、砥石(10)、m埋没土などから古銭(寛永通寶)(6,7)、銅弦と思われる鉄片(16)が出土している。このほか煙管も確認されている。なお、肥前磁器染付碗(3)を構成する破片は17号

第8表 16号建物ビット計測表

ビット	P1	P2	P3	P4
位置	35区I-19	35区I-19	35区I-19	35区I-18～19
規模(m)				
長	0.37	0.56	0.21	0.19
短	0.31	0.17	0.20	0.17
深	0.33	0.38	0.30	0.23
平面形状	長円形	纺錘形	円形	円形
主軸方向(度)	N-72-W	N-81-W	N-22-W	N-4-E
傾斜方位(度)		N-81-W		



第41図 通路出土遺物

建物・5号道(1号溝)・1号窪地の3地点から出土している。天明泥流の流れを考慮すると他地点からもたらされ、たどり着いたものと推測される。

**所見** 建物南辺中央東寄りに、尿桶と思われる埋設桶が存在する。尿桶は建物外に設けられるのが通例とされるため、基本構造である2間×5間の東西北の三辺にそれぞれ一間を張り出し、3間×7間の東西棟とし、その南辺に一間の軒(土庇)を張り出した構造と推測される。なお、軒(土庇)部分を除外した本体部分の梁間6.19m。

#### a 土壁(第45図、PL.5, 6)

**位置** 35区A～C-16～17グリッドに位置する。建物北側の雨落ち跡から25号烟の南端を覆う。

**形状等** 倒壊した建物の北壁の構成材と推測される粘土帯は、北壁北西隅の柱が先に浮き、北東隅の柱を軸に回り込みつつ押し倒された様相を呈する。この粘土帯には、窓様の粘土の欠落部2か所と、柱の圧痕と思われる細長い窪み4か所、および柱と柱をつなぐ横木と思われる粘土の欠落した細長い窪み4か所が存在する。粘土帯東端の一画の、残存する粘土の表面下1、2cmのところから柱の長軸に並行する波状の痕跡が確認されている。

**規模** (5.95)×(2.25)m。なお、柱材の圧痕の横幅(平均値)は以下のとおりである。P2柱痕上端0.19m、下端0.16m。P3柱痕上端0.15m、下端0.13m。P4柱痕上端推定0.20m、下端0.16m。P5柱痕上端0.19m、下端0.14m。西端の横木痕の幅0.09m、東端の横木痕の幅0.12m。

**本体構造** 粘土帯の柱痕部分には、柱の長軸と交差する方向に波状の圧痕が残されている。柱材の外側に間渡竹を抱かせる大壁工法が想起されるのであるが、間渡竹の存在を示唆する記録は存在しない。また、柱材の間に配置された横木の圧痕に小舞竹の痕跡は認められず、柱材を結合する部材(足固め)と推測される。粘土帯東端の一画で柱長軸に平行する痕跡が確認され、小舞竹の痕跡とされる。また柱痕間に残された2か所の粘土欠落部位はそれぞれ大きさが異なる。西は幅0.48m高さ0.27m、東は幅0.43m高さ0.42mをはかる。西の欠落部上辺は横木から0.9m、東の欠落部の上辺は横木から0.8mの位置に存在する。

**所見** 建物北辺および西辺の柱穴間に粘土が残存していることから、柱を繋ぐ横木(足固め)と地表との間に生じ

る隙間を粘土で目張りしていたと推測される。残存する粘土帯は厚さ2cmから4cm程度であり、大壁と呼ぶにはいかにも薄い。粘土帯の南辺西端に厚さ9cm程度の部分が残されているが、角材を柱に用いたとすれば木材の厚みだけ13cmから16cmはあったと推察されるので、厚みが不足する。外観は一面の塗り壁とし、屋内側は柱が露出する壁組が想起される。昨今の木造軸組み住宅は2階建ての通し柱であっても4寸に満たない柱材が多用される。筋交いや壁材との合成強度で漸く構造材としての強度を確保しているのであるが、負荷の少ない外周部の柱においてすら、5寸前後の柱材を用いることにより、壁に強度を負担させない軸組構造を実現していたと推測される。

#### b 囲炉裏(第46図、PL.6)

**位置** 35区C-16グリッド、建物中央部や北西寄りに位置する。

**形状等** 圆丸方形の浅い窪地の底面が焼土化し、灰や炭などが堆積している。

**規模** 1.22×1.13m。灰部0.85×0.84m。

**主軸方向(度)** N-5-W

**本体構造** 炉枠に相当するものは確認されていない。土間が生活面となっていたと推測される。

**遺物** 調査時に、灰の中から鉄製品の一部が確認されている。

**所見** 囲炉裏を境に建物内の東西で生活空間が区分されていたと推測される。

#### c カマド(第46、48図、PL.6)

**位置** 35区B-16グリッド、建物北側東寄りに位置する。

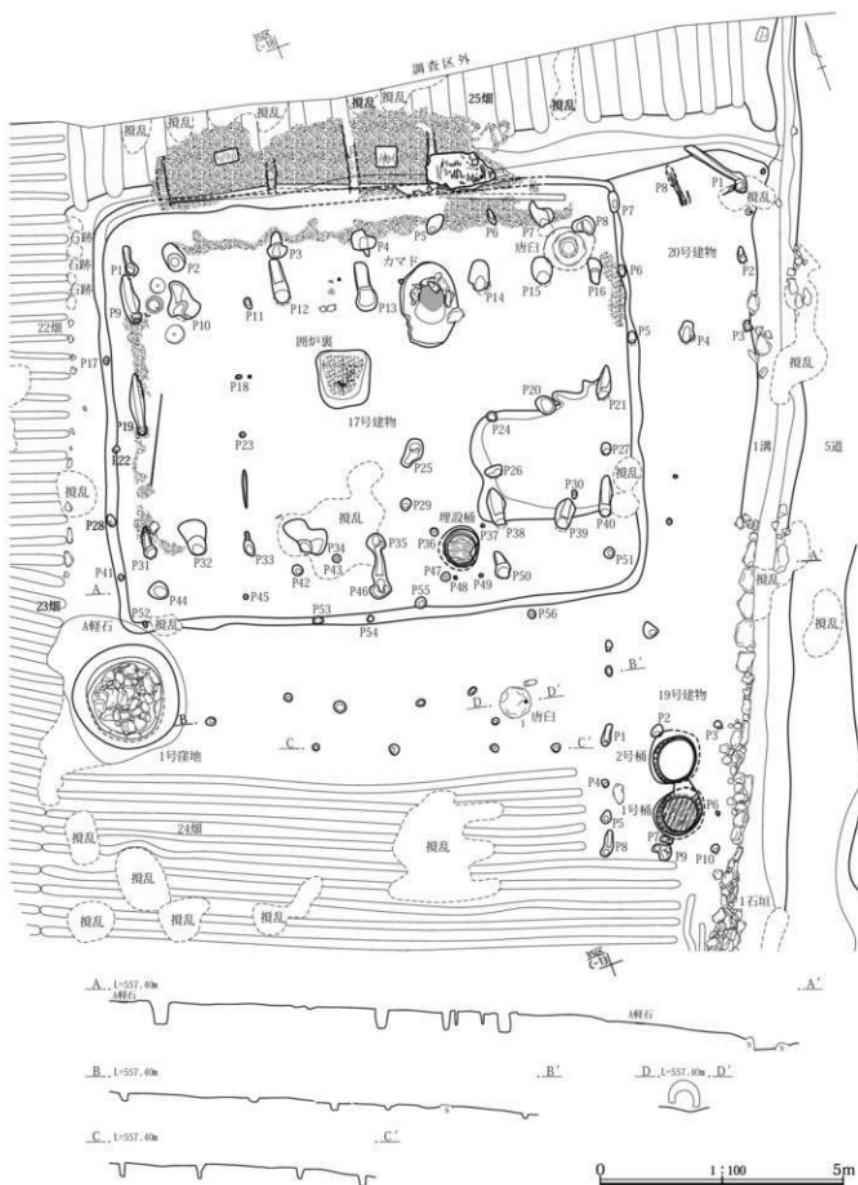
**形状等** 長円形の浅い皿状の窪地の中央北寄りにある、ほぼ円形の焼土の北側を半円に囲むように石が埋め込まれている。石はカマド内側面のみでなく石と石の間の部分にまで煤が付着している。

**規模** 1.76×1.22m。石組み部(0.83)×0.93m。焼土部0.58×0.55m。

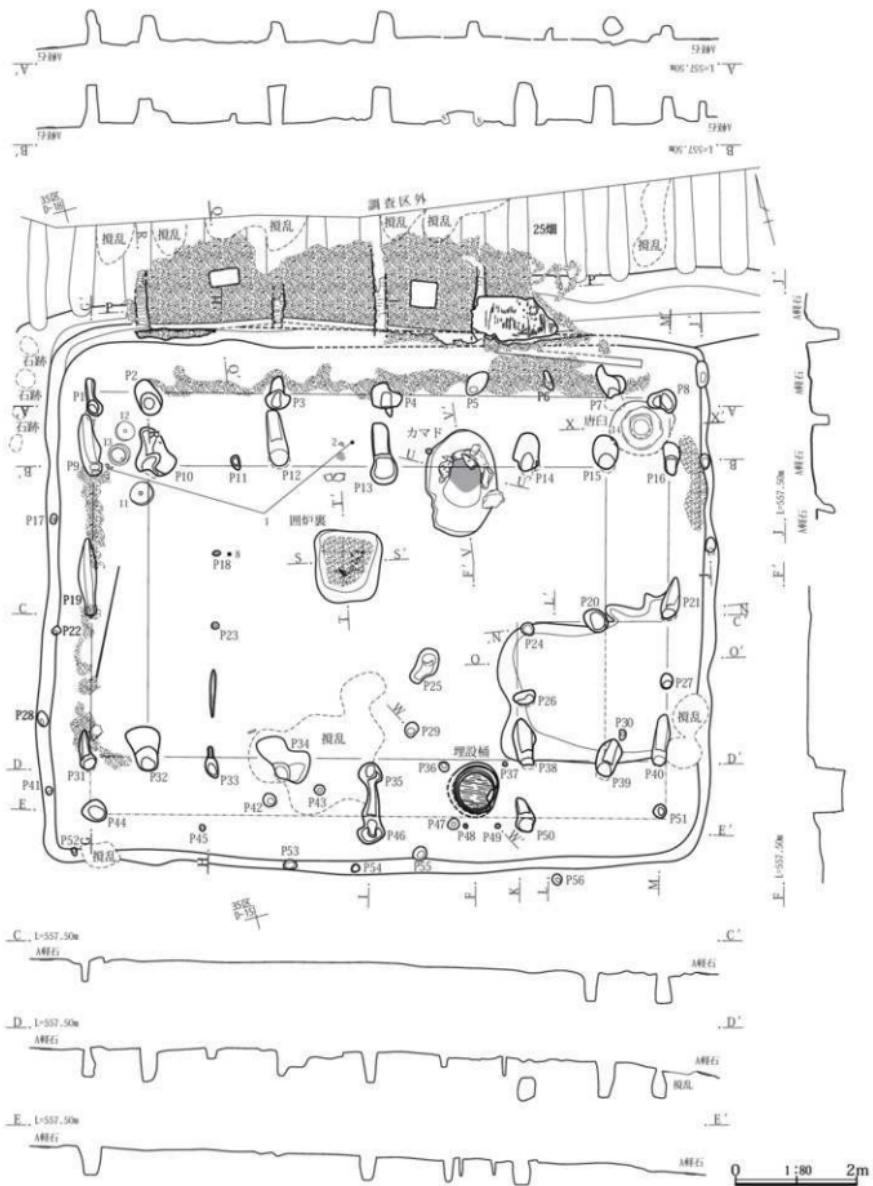
**主軸方向(度)** N-20-E

**本体構造** 燃焼部の北半を囲む石組みはその根方を埋め込まれているが、燃焼部の南側から石跡は確認されておらず、南側に焚口が存在したと推測される。

**遺物** 潬戸・美濃陶器腰錦碗(4)、肥前磁器染付瓶(5)、



第42図 D2建物群



第43図 17号建物1

鉄綱(9)、銅弦と思われる鉄片(15)が出土している。

**所見** 遺構名として調査時の名称を踏襲したが、石組みの上部構造についての手掛かりは残されていない。なお、北壁の柱穴間隔を基準とすれば、内周柱列の柱が存在してしかるべき位置にカマドが設けられているために、P14がややP13寄りに設置されたと推測される。

#### d 馬屋(第47図)

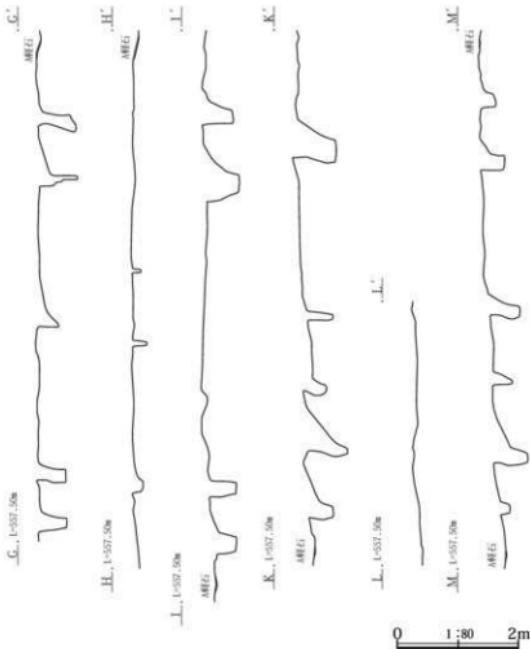
位置 35区A～B-15グリッド、建物東南隅に位置する。

形状等 外壁の柱を利用した、2間×2間の方形区画となっている。また、この一部は東に下がる浅い窪地となっている。

規模 2.42×2.38m

主軸方向(度) N-84-W

**所見** 馬が飼われていたことをうかがわせる痕跡は残されていないが、間取りの通例から馬屋とした。



第44図 17号建物 2

#### e 唐白(第43、50図、PL. 6)

位置 35区A～B-16グリッド、建物北東隅に位置する。

規模 白(13)の外寸0.70×0.73m、高さ0.54m。内寸直径0.39m、深さ0.31m。

本体構造 白は、建物北東隅の柱4本の間に埋め込まれており、付属施設の痕跡は記録されていない。白の上面が東に10度傾いた状態で残されていた。

**所見** 足踏みで杵を操作するためのシーソー状の絡繆りを動力とするのが一般的である。シーソーの支点がありそうな場所に掘り込みが写されている。調査担当から一本足の支柱の示唆を得た。白上面の傾斜を泥流の影響とした場合、その傾きを補正すると、上面から13cm程度の部分が床面から露出するように埋め込まれていたと推察される。

**備考** 調査時の名称は、17号建物唐白No.11および17号建物唐白1号。

#### f 埋設構(第46図、PL. 6, 7)

位置 35区B～C-15グリッド、建物南辺中央東寄りの軒下に位置する。

形状等 埋め込まれた結桶の周囲には、大小5基のビットが存在する。

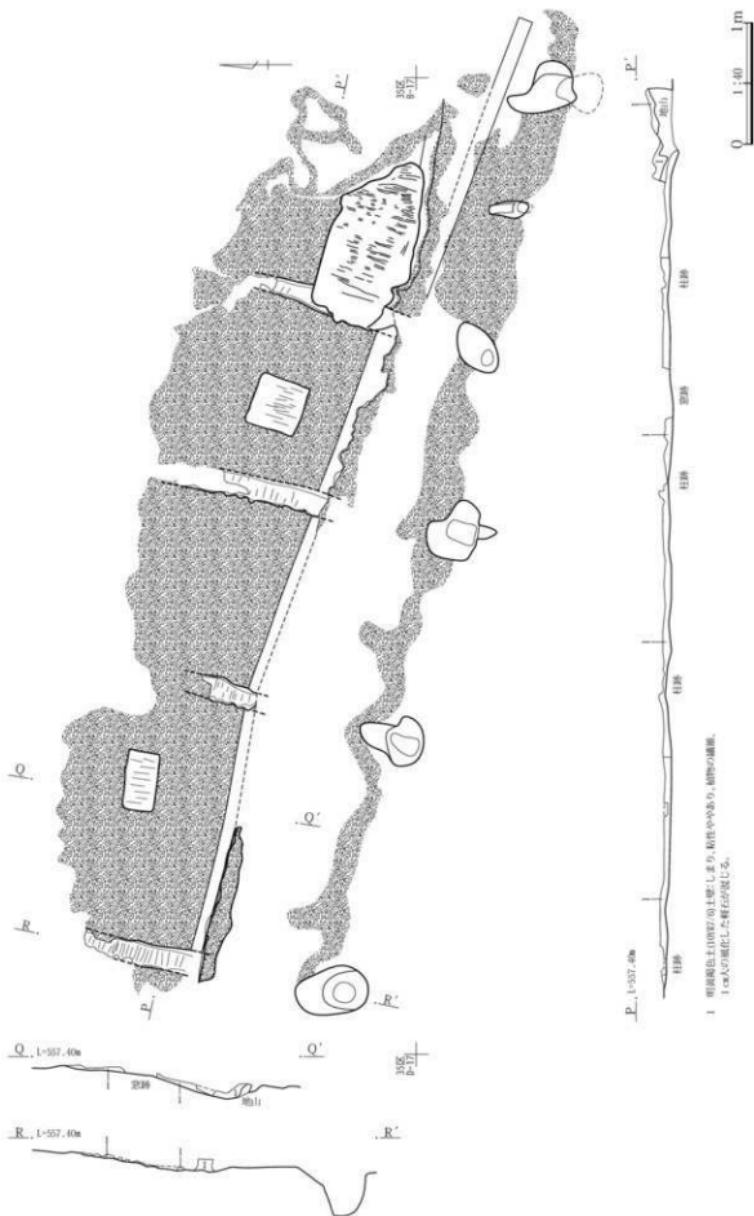
規模 上端部外径0.77m、底部外径0.65m、底板底面直徑0.59m、高さ(0.51)m。

本体構造 瘦の圧痕が4条残されている。2条は近接して底部に、1条は上部に、1条はその間に存在する。

付属施設 桶の周囲に残るビットから、桶を覆う上屋の存在が予見されるが、上部構造を推測する手掛かりは残されていない。

**所見** 尿桶と呼ばれる遺構と推測される。遺構に残された圧痕から、側板の厚さは2～3cm程度と推測される。側板と同厚の底板を仮定すれば、深さは0.48m以上となり、160リットル以上の容積となる。

**備考** 調査時の名称は、17号建物1号桶。



第45図 17号遺物 3

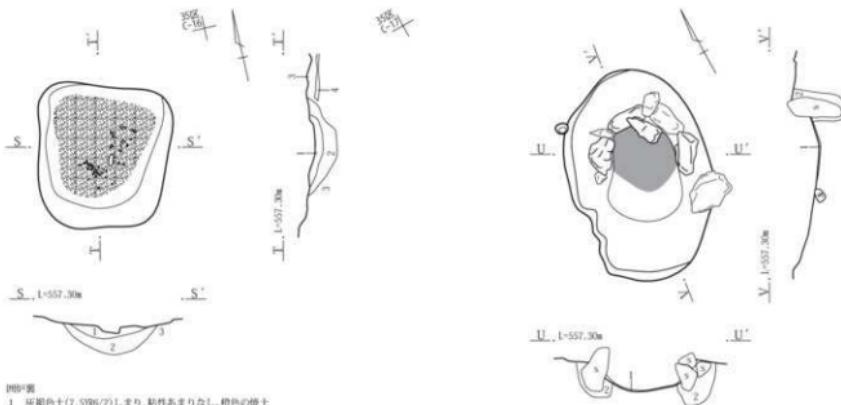


図9-4

- 1 灰褐色土(7,5BB/2)しまり、粘性あまりなし、橙色の焼土を下部に含む。
- 2 喀褐色土(10BR/3)しまり、粘性ややあり、灰を多少含む。
- 3 喀褐色土(10BR/3)しまり、粘性ややあり、灰を少量含む。
- 4 喀褐色土(10BR/3)しまり、粘性ややあり、橙色の焼土を面と平行に含んでいる。

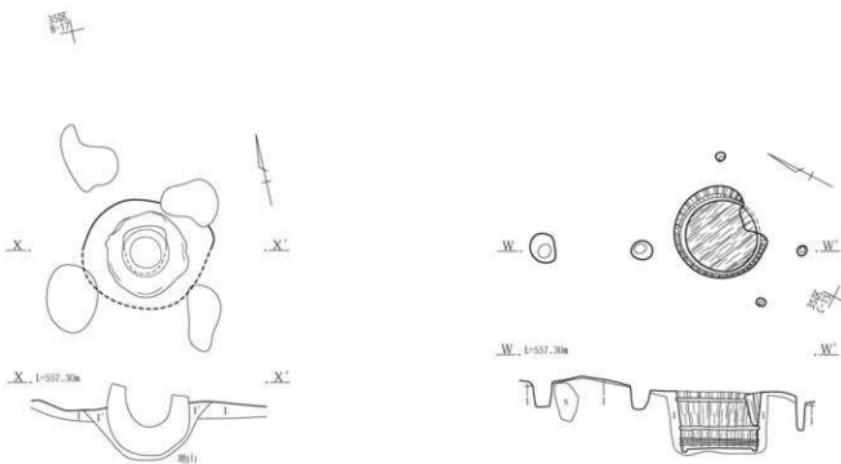


図9-5

- 1 喀褐色土(10BR/4)しまりやや強く、粘性あり、ごくわずかに炭粉を含む。
- 1' 1層に加え若干の粘土粒子(黄褐色)の溶け込みを含む。

埋設構  
1 植埋設時の埋め土。

0 1:40 1m

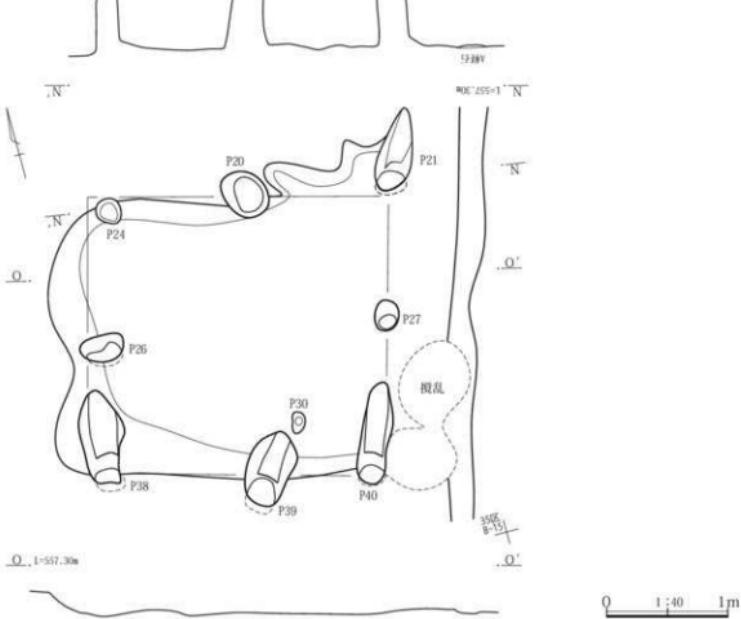
第46図 17号建物4

第9表 17号建物柱間計測表

	雨落跡 柱間	梁行 柱間	梁行 柱間	梁行 柱間	梁行 柱間	梁行 柱間	梁行 柱間	梁行 柱間	雨落跡 柱間	内側 外側 柱間
雨落跡柱間	雨落跡   1.17	雨落跡   1.16	雨落跡 1.02	雨落跡 1.02	雨落跡 0.79	雨落跡 0.76	雨落跡 0.88	雨落跡 0.91	雨落跡 	
	雨落跡—0.69— <b>P1</b> —0.93— <b>P2</b> —2.08— <b>P3</b> —1.79— <b>P4</b> —1.48— <b>P5</b> —1.07— <b>P6</b> —1.01— <b>P7</b> —0.91— <b>P8</b> —0.61—雨落跡									9.41
梁行柱間	0.94	1.02	0.98	1.13		1.31	1.10	1.07		
	雨落跡—0.67— <b>P9</b> —0.89— <b>P10</b> —2.14— <b>P12</b> —1.70— <b>P13</b> —2.34				<b>P14</b> —1.29— <b>P15</b> —1.07— <b>P16</b> —0.60—雨落跡					7.51 9.46
梁行柱間	2.35	4.90	5.14	4.96		2.71	2.63	2.44		
	雨落跡—0.60— <b>P18</b> —7.19				<b>P24</b> —1.15— <b>P20</b> —1.17— <b>P21</b> —0.66—雨落跡					9.41
梁行柱間	2.52					2.21	2.45	2.42		
	雨落跡—0.73— <b>P23</b> —0.96— <b>P22</b> —2.21— <b>P14</b> —1.46— <b>P15</b> —2.57				<b>P26</b> —1.25— <b>P29</b> —0.92— <b>P40</b> —0.73—雨落跡					7.51 9.35
梁行柱間	0.98		0.50	0.90		0.98				
	雨落跡—0.79— <b>P44</b> —2.88		<b>P42</b> —1.68— <b>P45</b> —1.35— <b>P47</b> —1.17— <b>P50</b> —2.23					<b>P51</b> —0.65—雨落跡		9.23
雨落跡柱間			1.02	0.68	0.71	0.64		0.76		
	雨落跡   4.90	雨落跡   5.13	雨落跡   4.96	雨落跡   4.95	雨落跡   5.06	雨落跡   5.15	雨落跡   5.15	雨落跡   5.91		
内側梁間 斜を除く外側 外側梁間	5.80	5.92	5.87	5.98	6.19	6.15		6.76		
	雨落跡   6.60	雨落跡   6.56	雨落跡   6.98	雨落跡   7.18	雨落跡   7.18	雨落跡   7.18	雨落跡   7.18	雨落跡   6.76		

内側梁行柱間平均1.88m 内側梁行柱間平均5.00m(梁行柱間平均に馬屋柱を含まず)

馬屋



第47図 17号建物5

第10表 17号建物ピット計測表1

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12
位置	35区D-17	35区C-17	35区 C-16 ~ 17	35区B-16	35区B-16	35区B-16	35区 A ~ B-16	35区 A ~ B-16	35区 D-16 ~ 17	35区 C-16 ~ 17	35区 C-16	35区C-16
規模(m)	長 短 深	0.63 0.26 0.55	0.59 0.39 0.42	0.55 0.41 0.33	0.57 0.49 0.51	0.45 0.29 0.27	0.36 0.15 0.20	0.53 0.39 0.41	0.45 0.35 0.27	1.02 0.66 0.63	0.85 0.13 0.41	0.25 0.33 0.15
平面形状	不整形	長円形	不整形	不整形	長円形	長円形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形	偏円形
主軸方向(度)	N-0-E	N-11-W	N-14-E	N-5-W	N-50-E	N-4-W	N-9-W	N-79-W	N-3-E	N-7-W	N-1-W	N-4-E
傾斜方位(度)	N-12-E	N-10-W	N-20-E	N-24-W	N-46-E	N-5-W	N-10-W	N-6-E	N-12-E	N-7-E		
重複							傍白土坑					

第11表 17号建物ピット計測表2

ピット	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19	P20	P21	P22	P23	P24
位置	35区 B ~ C-16	35区B-16	35区B-16	35区A-16	35区D-16	35区C-16	35区D-16	35区B-15	35区 A ~ B-15	35区D-16	35区C-16	35区B-15
規模(m)	長 短 深	1.02 0.43 0.54	0.62 0.43 0.68	0.55 0.41 0.61	0.54 0.27 0.38	0.17 0.11 0.10	0.13 0.08 0.12	1.28 0.29 0.35	0.42 0.34 0.46	0.69 0.29 0.48	0.15 0.13 0.20	0.11 0.11 0.25
平面形状	不整形	不整形	長円形	不整形	圓丸形	長円形	不整形	長円形	不整形	圓丸形	円形	偏円形
主軸方向(度)	N-11-E	N-18-E	N-11-E	N-14-E	N-13-E	N-76-W	N-12-E	N-17-W	N-28-E	N-77-W	—	N-23-W
傾斜方位(度)	N-9-E	N-10-E	N-3-E	N-7-E	N-13-E	N-13-E	N-13-E	N-30-E				
重複			傍白土坑	傍白土坑								

第12表 17号建物ピット計測表3

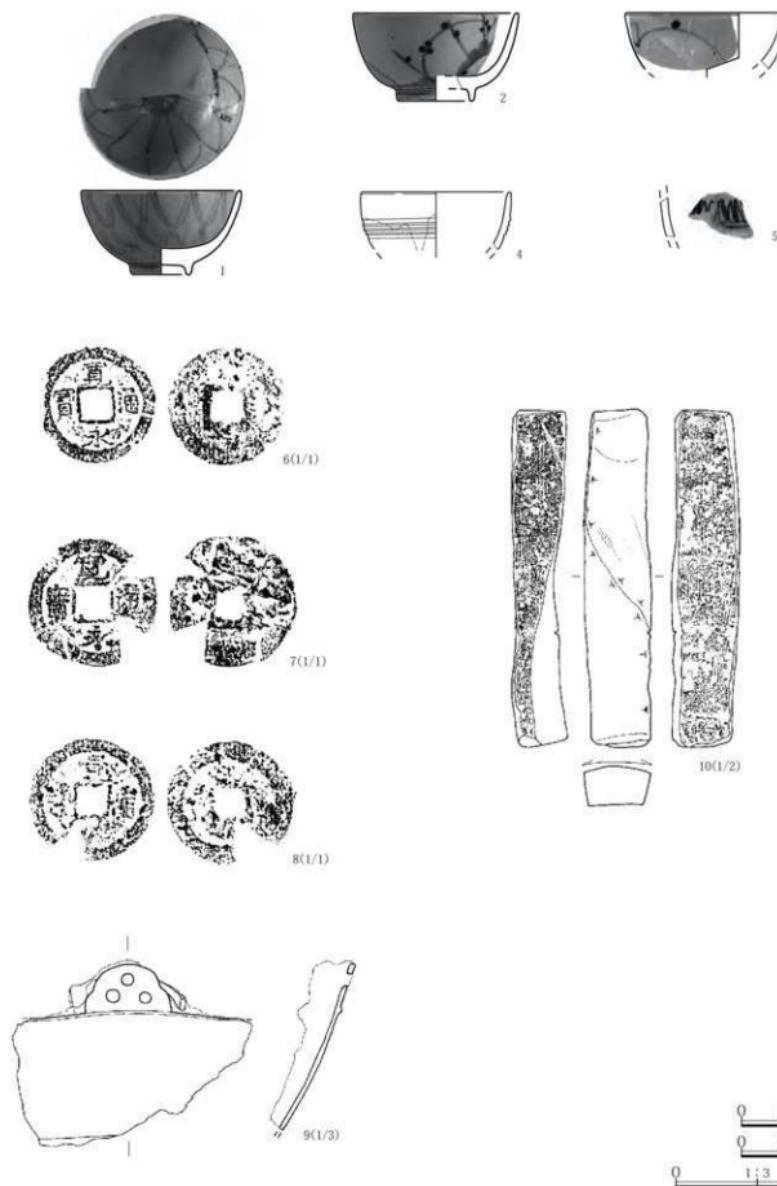
ピット	P25	P26	P27	P28	P29	P30	P31	P32	P33	P34	P35	P36
位置	35区C-15	35区B-15	35区B-15	35区B-15	35区C-15	35区B-15	35区D-15	35区D-15	35区C-15	35区C-15	35区C-15	35区C-15
規模(m)	長 短 深	0.63 0.36 0.59	0.36 0.22 0.38	0.25 0.20 0.32	0.28 0.17 0.30	0.25 0.23 0.23	0.18 0.12 0.19	0.65 0.28 0.46	0.72 0.52 0.49	0.52 0.21 0.17	0.91 0.55 0.43	0.40 0.37 0.48
平面形状	不整形	長円形	長円形	偏円形	偏円形	偏円形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形	偏円形
主軸方向(度)	N-44-E	N-78-W	N-15-E	N-1-E	N-23-E	N-25-E	N-6-E	N-7-E	N-3-W	N-35-W	N-44-W	N-35-W
傾斜方位(度)	N-139-W	N-53-W	N-18-W	N-10-E	N-10-E	N-10-E	N-17-E	N-17-E	N-17-W	N-17-W		
重複												

第13表 17号建物ピット計測表4

ピット	P37	P38	P39	P40	P41	P42	P43	P44	P45	P46	P47	P48
位置	35区B-15	35区B-15	35区B-15	35区B-15	35区D-15	35区C-15	35区C-15	35区D-15	35区D-15	35区C-15	35区C-15	35区C-15
規模(m)	長 短 深	0.08 0.08 0.31	0.78 0.37 0.68	0.63 0.39 0.58	0.84 0.23 0.57	0.13 0.11 0.26	0.23 0.22 0.24	0.16 0.14 0.32	0.39 0.22 0.46	0.11 0.22 0.29	0.44 0.19 0.35	0.20 0.08 0.29
平面形状	円形	不整形	不整形	不整形	偏円形	偏円形	円形	円形	偏円形	偏円形	不整形	偏円形
主軸方向(度)	—	N-7-E	N-35-E	N-23-E	N-5-W	N-14-W	—	N-36-W	N-1-W	N-70-W	N-25-E	N-15-W
傾斜方位(度)	N-9-E	N-36-E	N-20-E	N-10-E	N-10-E	N-10-E	N-17-E	N-17-E	N-17-W	N-17-W		
重複												

第14表 17号建物ピット計測表5

ピット	P49	P50	P51	P52	P53	P54	P55	P56	
位置	35区B-15	35区B-15	35区B-15	35区D-15	35区C-15	35区C-15	35区C-15	35区B-14	
規模(m)	長 短 深	0.10 0.08 0.24	0.59 0.33 0.41	0.23 0.21 0.16	0.13 0.09 0.23	0.22 0.16 0.23	0.14 0.14 0.11	0.24 0.22 0.28	0.19 0.16 0.10
平面形状	偏円形	不整形	円形	偏円形	偏円形	偏円形	円形	偏円形	
主軸方向(度)	N-83-W	N-5-W	N-16-E	N-2-W	N-69-W	—	N-17-E	N-11-W	
傾斜方位(度)	N-2-W	N-2-W	N-20-E	N-20-E	N-20-E	N-20-E	N-20-E	N-20-E	
重複									



第48図 17号建物出土遺物 1

## (2) 19号建物(第51図、PL.7)

**位置** 35区B-13～14グリッド、17号建物東南端からおよそ3m南、24号烟と1号石垣との間の東下がりの斜面に位置する。

**形状等** 2間×1間の南北棟が基本形と推測されるが、西辺柱間に2基、東辺柱間に1基の柱穴が存在する。P1、P8は柱が泥流により北東に押し倒された痕跡を残す。またP2、P5には柱が北東方向に、P3、P4、P6、P10には北方向に押された痕跡が残る。なおP7およびP9からは西寄りの圧力がうかがえる。

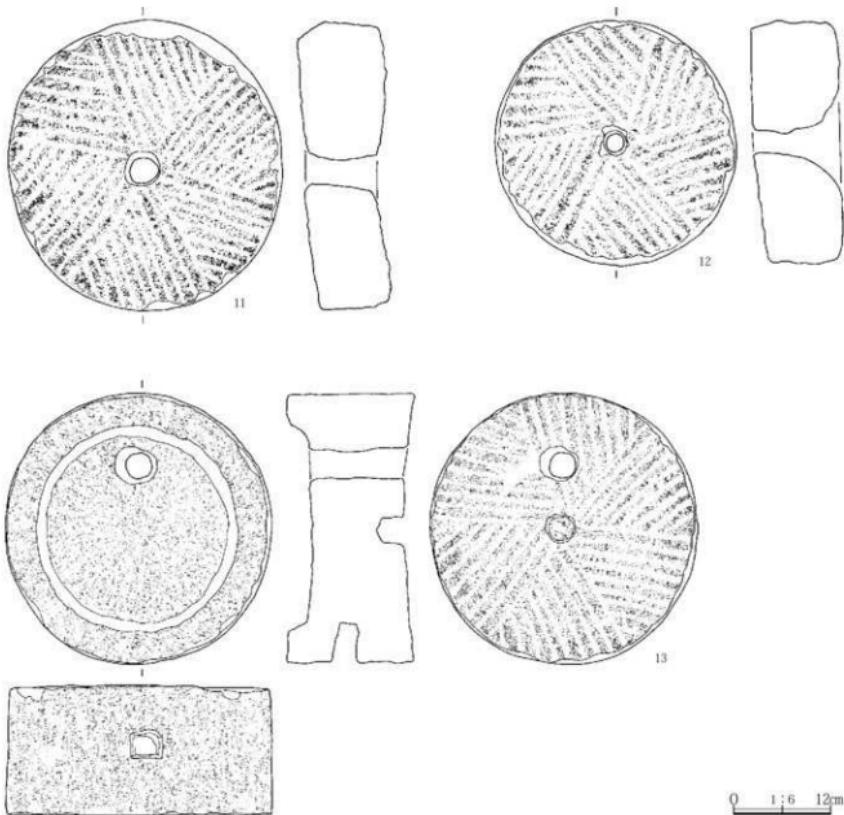
**規模** 桁行2.55m、梁間2.37m。

**桁行方向(度)** N-20-E

**本体構造** 南北棟の東半は斜面部にかかっており、埋設桶はいずれもこの部分に設置されている。建物にかかる荷重は北東隅を除く隅柱3本と北辺中央の柱で支えたものと推測される。

**付属施設** 埋設桶(1号桶、2号桶)。付属施設については後述する。

**所見** 東辺の柱はやや細身のため、東が下がる片流れの屋根構造と推察される。桶2本とともに後架としてはや大振りではあるが、庭先ともいえる地点に存在する点を



第49図 17号建物出土遺物2

考慮し、後架とした。

**a 1号桶(第51図、PL.7)**

位置 35区B-13グリッド、建物東半南側に位置する。

形状等 北東方向への歪が大きく、上部は長円形を呈するが、底部はその影響が少なく、ほぼ円形を保っている。埋め土として、やや粘性のある炭化物をわずかに含む黒褐色土が、掘り方に残されていた。

規模 上部 $1.04 \times 0.83\text{m}$ 、底部外径 $0.74\text{m}$ 、高さ $(0.47)\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-53-E

本体構造 圧痕として底部近くに2条の箍の痕跡が残されている。

所見 上部外径 $0.85\text{m}$ 、底部外径 $0.74\text{m}$ 程度の大きさであったと推察される。現地での所見に、桶の縁には $0.1\text{m}$ 程度の天明泥流の二次堆積が認められたとの記載もある

り、桶の高さは $0.51\text{m}$ を超える可能性が高い。

**b 2号桶(第51図、PL.7)**

位置 35区B-13~14グリッド、建物東半北側に位置する。

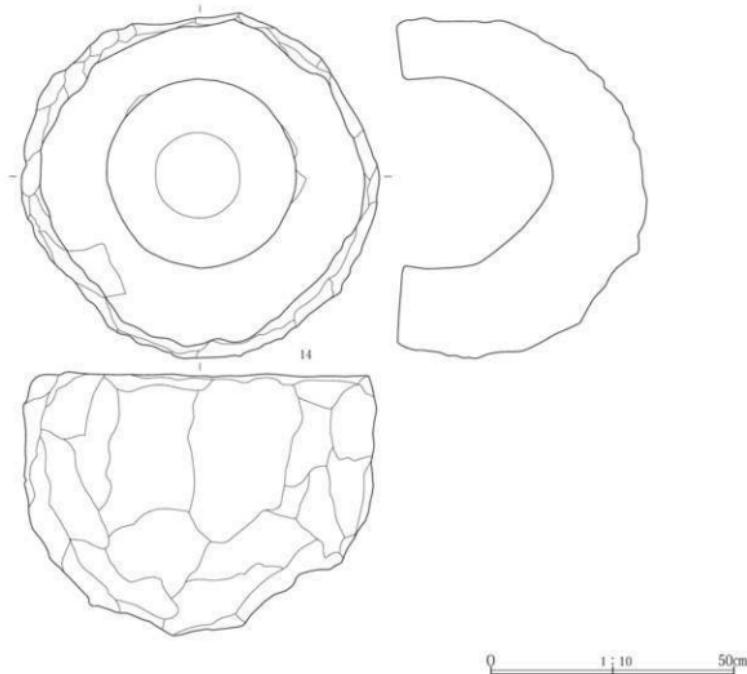
形状等 上部・底部ともに変形し、北東-南西を軸とする歪が生じている。埋め土として、やや粘性のある炭化物をわずかに含む黒褐色土が、掘り方に残されていた。

規模 上部 $(0.99) \times 0.88\text{m}$ 、底部 $0.93 \times 0.78\text{m}$ 、高さ $(0.63)\text{m}$ 。

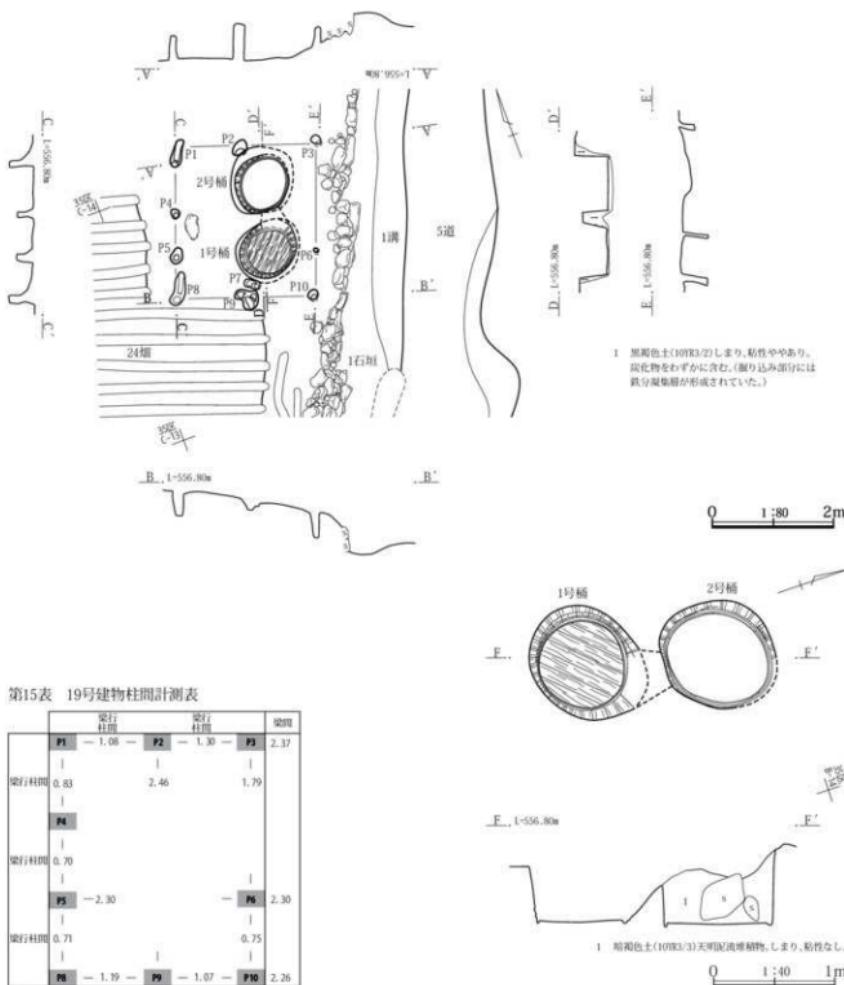
主軸方向(度) N-39-E

本体構造 圧痕として底部近くに2条の箍の痕跡が残されている。

所見 上部外径 $0.90\text{m}$ 、底部外径 $0.78\text{m}$ 程度の大きさであったと推察される。現地での所見に、桶の縁には $0.1\text{m}$ 程度の天明泥流の二次堆積が認められたとの記載もある



第50図 17号建物出土遺物3



第15表 19号建物柱間計測表

	梁行 柱間	梁行 柱間	梁行 柱間
P1	— 1.08 —	P2 — 1.30 —	P3 2.37
梁行柱間	0.83	2.46	1.79
P4			
梁行柱間	0.70		
P5	— 2.30 —		P6 2.30
梁行柱間	0.71		0.75
P6	— 1.19 —	P9 — 1.07 —	P10 2.26
相行	2.22	2.46	2.55

第16表 19号建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10
位置	35E B-14	35E B-13								
規模(m)	0.46	0.26	0.17	0.17	0.28	0.09	0.27	0.56	0.40	0.18
長	0.19	0.23	0.15	0.14	0.21	0.07	0.15	0.23	0.34	0.18
短	0.39	0.59	0.35	0.28	0.28	0.42	0.11	0.41	0.17	0.41
深										
平面形状	不整形	長円形	長円形	長円形	長円形	不整形	不整形	不整形	円形	
主軸方向(度)	N-34°E	N-33°E	N-29°W	N-30°W	N-40°E	N-29°W	N-57°W	N-33°E	N-45°W	—
傾斜方向(度)	N-34°E	N-13°E	N-10°W		N-38°E	N-13°W		N-31°E		N-3°W
直視										

り、桶の高さは0.67mを超える可能性が高い。

## (3) 20号建物(第52図、PL. 8)

**位置** 34区Y-16グリッドおよび35区A-15~16グリッド、17号建物の東に隣接する。

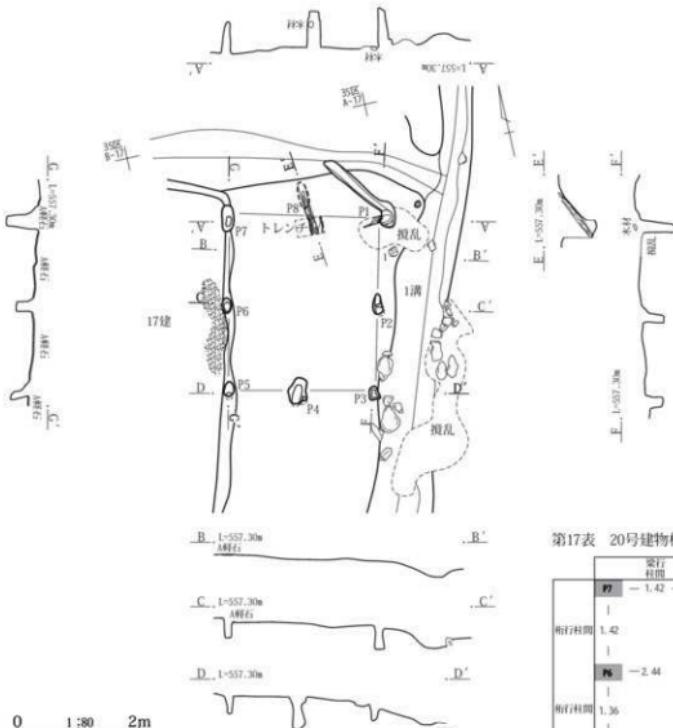
**形状等** 柱穴8基が確認されている。北辺のP1およびP8の2基は柱が北西に押し倒された痕跡をとどめ、また柱

と思われる木材の一部が確認されている。なおP2およびP4とP5には柱が北東に押された痕跡が認められる。西辺3基の柱穴は17号建物の雨落ち跡に穿たれている。

**規模** 衍行2.93m、梁間2.60m。

**衍行方向(度)** N-15-E

**本体構造** 南北棟2間×2間の掘立柱建物。敷地は微高



第52図 20号建物

第18表 20号建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
位置	34区Y-16 35区A-16	35区A-16	35区A-15	35区A-15	35区A-16	35区A-16	35区A-16	35区A-16
規模(m)	長 0.45 短 0.31 深 0.63	0.32	0.23	0.45	0.25	0.25	0.43	—
平面形状	不整形	不整形	圓丸台形	不整形	偏円形	長円形	長円形	不明
主軸方向(度)	N-36-W	N-1-E	N-1-W	N-29-E	N-15-E	N-11-E	N-13-E	—
傾斜角(度)	N-36-W	N-17-E			N-13-E		N-18-E	N-6-W
								41

第17表 20号建物柱間計測表

柱間	梁間			梁間
	P1	P2	P3	
P1-P2	— 1.42 —	— 1.18 —	— P1 2.60	
P1-P3	— 1.42 —	2.69	1.79	
P2-P3	— 2.44 —	— P2 2.44		
P1-P4	— 1.36 —	— 1.46 —		
P2-P4	— 1.15 —	— 1.23 —	— P2 2.38	
相行	2.78	2.69	2.93	

地の際に位置し、東に隣接する1号溝に向かって緩やかに傾斜する。なかでも東南隅の根方は傾斜が強く、護岸を兼ねたと思われる石組みが残る。

**遺物** 未実測であるが石臼片(1)が出土している。

**所見** 建物西辺の柱穴3基は、隣接する17号建物のAs-Aが堆積する雨落ち跡に穿たれているが、柱穴内からAs-Aが検出されたという記録はない。20号建物と17号建物の間にAs-Aの堆積が残されており、20号建物が17号建物の一部である可能性は低い。ただし、少なくとも建物の西辺については壁が設けられていなかった可能性が高い。

#### (4) 1号窪地(第53図、PL. 9)

**位置** 35区D～E-14～15グリッド、17号建物西南端直

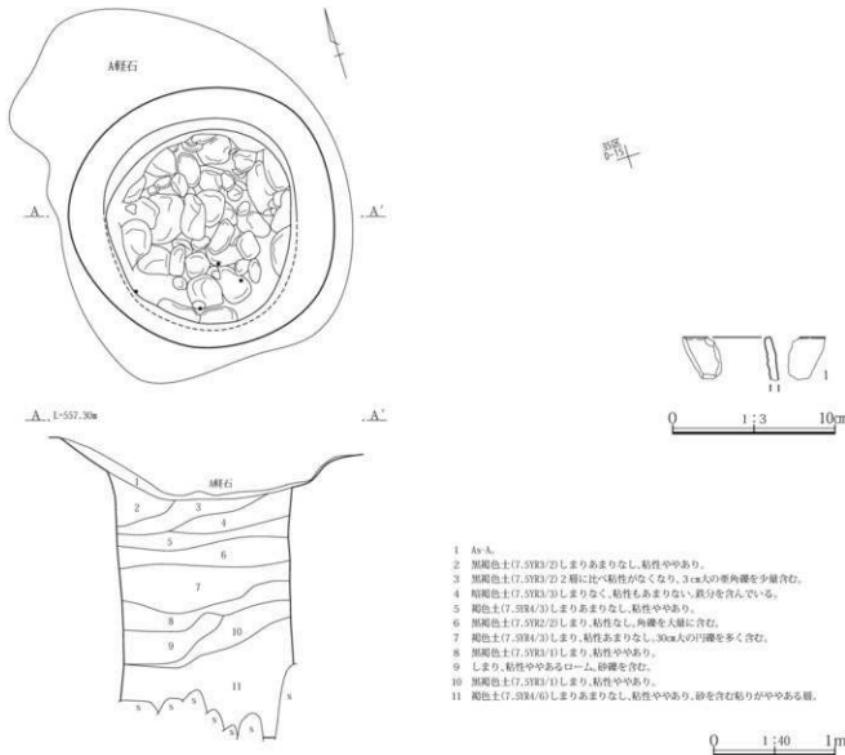
近に位置する。

**形状等** 井戸に類似する土坑であり、概ね円形の浅い皿状の窪地の中央部を地山礫層まで垂直に掘り込んだのち、埋め戻されている。埋め土直上の窪地にはAs-Aが堆積する。調査記録によれば、6層前後から水を含む様相が認められるが、台風通過直後の調査のためと思われる。調査記録に、台風通過時において完掘状態であった底部円礫層に雨水が溜まっていたとある。11層直下の礫群は窪地掘削に伴うものではない。

**規模** 2.16×2.14m、深さ2.46m。

**主軸方向(度)** N-46-E

**遺物** 出土層位は不明であるが、被熱により器面変質した坩埚あるいは取鍋の小片(1)が出土している。



第53図 1号窪地と出土遺物

**所見** 最下層の繩群の下に不透水層なり湧水層が存在すれば井戸としての機能を有しえると思われるが確認されていません。天明年間の生活面から掘り込まれ、埋め土の直上にAs-Aが堆積することから、天明3年時点では井戸として用いられていないかったと推測されます。

(5)唐臼(第42,54図、PL.9,62)

**位置** 35区B～C-14グリッド、17号建物と19号建物間の中ほどに位置する。

**規模** 白(1)の外寸0.59×0.58m、高さ0.38m。内寸直径0.37m、深さ0.24m。

**形状等** 白の上面は内側に向け緩やかな傾斜を持つ。内面は口すぼまり気味に倒り貫かれており、最大径は上端から5cm下がった位置にある。

**付属施設** 不明。土坑を伴っていない。

**所見** 17号建物の庭先から天地逆様で検出されており、埋設坑や付属施設、咬ませ石などの痕跡は確認されていません。泥流によりもたらされた可能性も残る。

**備考** 調査時の名称は、17号建物唐臼No.10および17号

建物唐臼2号。

3 C1建物群(第55～58図)

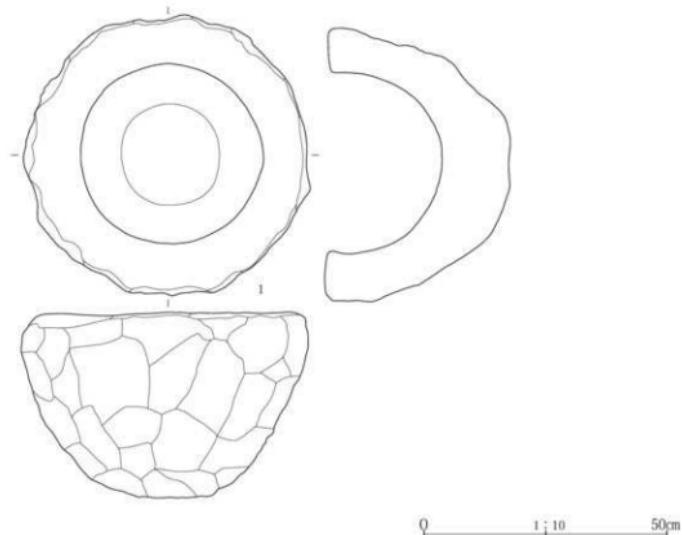
34区V～Y-11～13グリッドおよび35区A～B-10～13グリッド、調査区西部南端寄りに位置する。建物群は調査区西部を南北に走る5号道に隣接し、北と東は畑地と接する。主たる建物と思われる5号建物(旧名称は5号礎石建物)の西半と附属屋となる18号建物が確認された。5号建物は既報告の平成26年度調査により確認された北西端建物群を構成する5号礎石建物の未調査部分である。なお北西端建物群の呼称をC1建物群と改めた。平成26年度調査成果と合わせた全体像は後掲(本章3節)する。

(1)5号建物(第56,57図、PL.9,10,61)

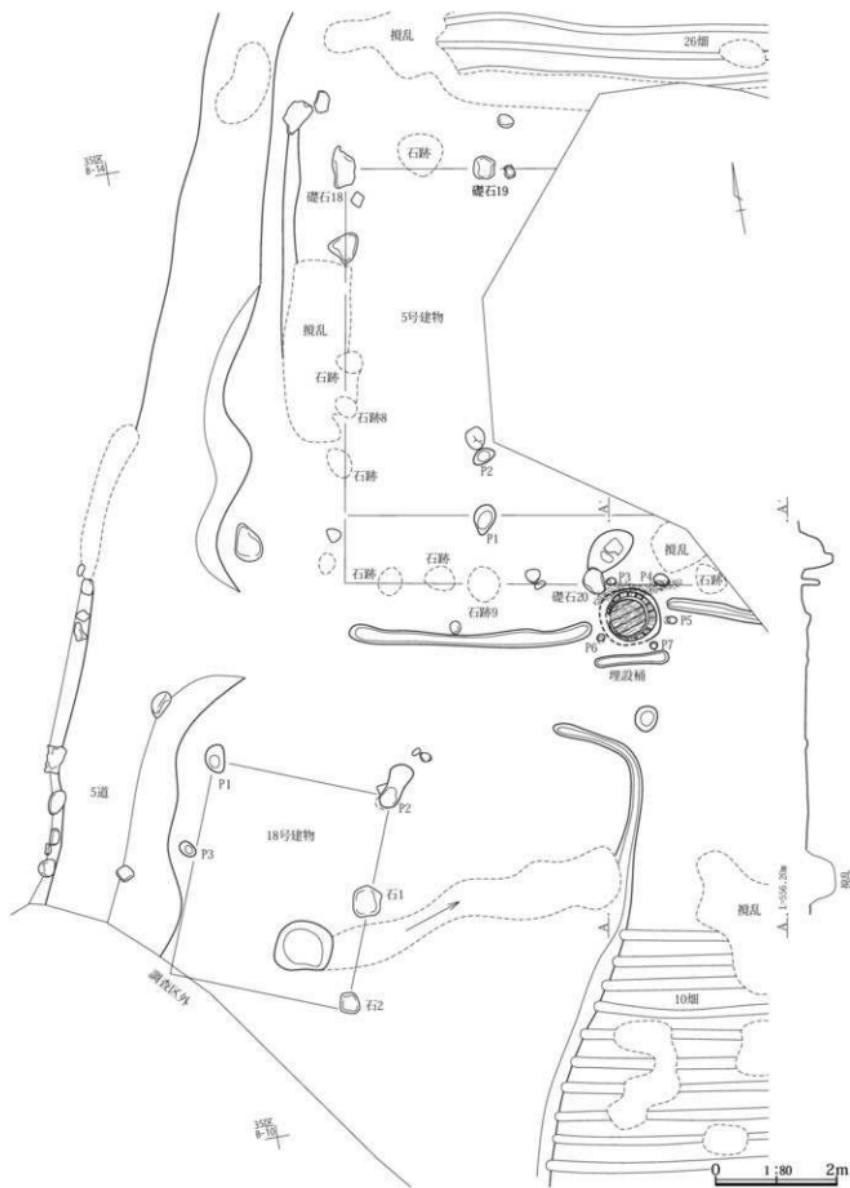
**位置** 34区X～Y-11～14グリッドおよび35区A-11～14グリッド、調査区西部に位置する。

**形状等** 4間×7間の礎石建物の西端4間×2間が確認された。既報建物の西端に続く土間部分の遺構である。西辺および南辺に雨落ち跡が残る。

**規模** 桁行(3.49)m、梁間6.85m。



第54図 唐臼(D2建物群)



第55図 C1建物群

### 第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

桁行方向(度) N-79-W

**本体構造** 調査部分は、3間×7間の南辺に張り出しがついた4間×7間の礎石建物(桁行13.22m、梁間6.91m)の西端を構成する。なお、南辺には埋設桶が存在する。埋設桶と建物南辺との間に壁土と思われる粘土の堆積が確認されており、桶は外壁の外に存在したものと推測される。

**付属施設** 埋設桶。付属施設については後述する。

**遺物** 天明泥流下面から肥前磁器染付碗(1)、瀬戸・美濃陶器すり鉢(2)、古錢(寛永通寶)(3)が出土している。

**所見** 今回の調査により5号建物の西辺が確定し、東西棟の4間×7間と確認された。建物西南隅の一郭に馬屋が構築されていた可能性も否定しないが、床面に整地の痕跡が認められないため、可能性は低いと推察される。

#### a 埋設桶(第56図、PL.9,10)

**位置** 34区Y-11～12グリッド、建物南側に位置し、雨落ち跡を分断する。

**形状等** 桶は建物南辺の2基の柱穴のほか、3基の柱穴に囲われている。柱穴のうち2基は北北東に、1基は北東に、2基は西に柱材が押された痕跡が残されている。また桶の南側に位置する柱穴の南から雨落ち跡が確認されている。調査時に桶の側板18枚分と5枚の板で組まれた底板が確認されている。埋め土として、しまりと粘性がともにややある黒褐色土が掘り方に残されていた。

**規模** 0.83×0.79m、高さ(0.58)m。

**主軸方向(度)** N-80-W

**本体構造** 桶ははじけた状態であり、その側板が確認されたが、桶の痕跡は確認されていない。

**所見** 埋設桶のみを覆う上屋あるいは庇を伴う尿桶であり、桶の規模は上部外径0.81m、底部

外径0.67m、底板内底直径0.60m、高さ0.58mと推測される。

#### (2) 18号建物(第58図、PL.10)

**位置** 35区A～B-10-11グリッド、5号道に接し、通路をはさみ5号建物の南に位置する。

**形状等** 柱穴3基、礎石2か所が確認される。柱穴の1基は柱材が北東に押し倒された痕跡を残す。

**規模** 桁行3.61m、梁間3.08m。

**桁行方向(度)** N-23-E

**本体構造** 1間×2間の南北棟礎石・掘立柱混在の建物と推測される。

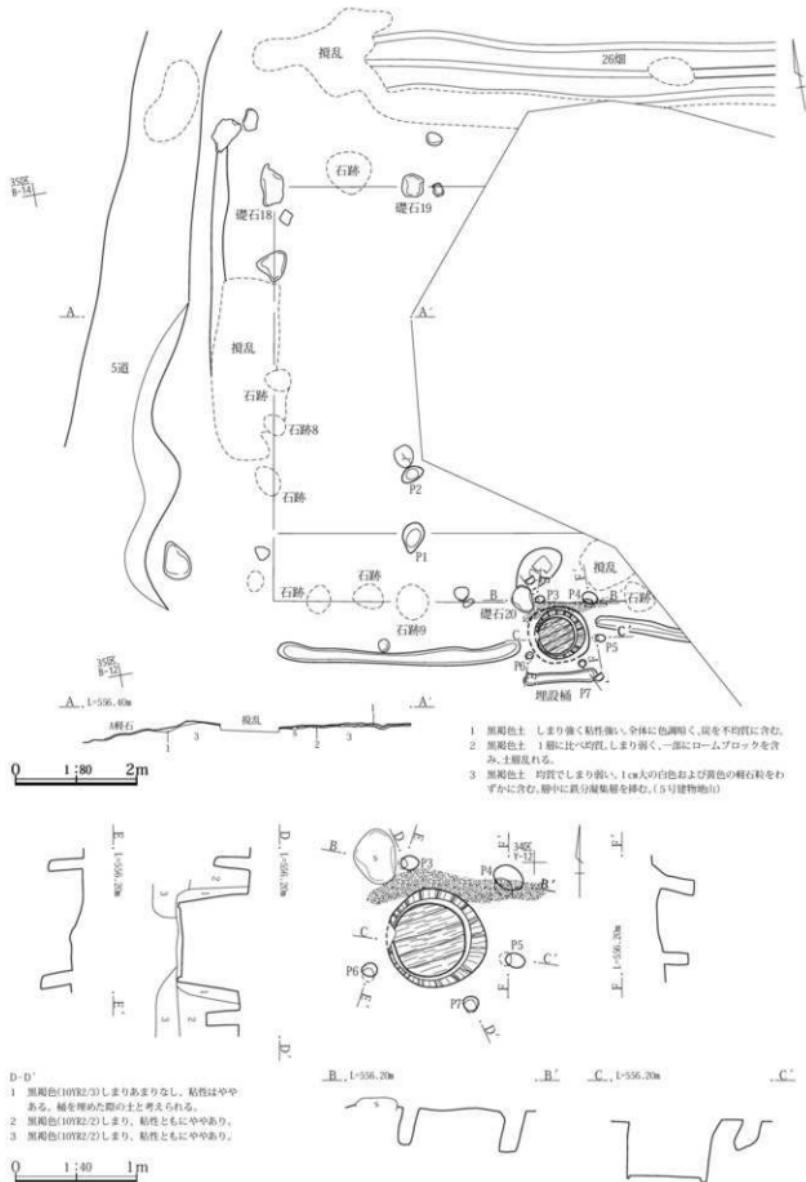
**付属施設** 建物内に1.05×0.88m、深さ0.34mの窪みがあり、そこから東北方向に4.8mの移動痕が残されてい

第19表 5号建物柱間計測表

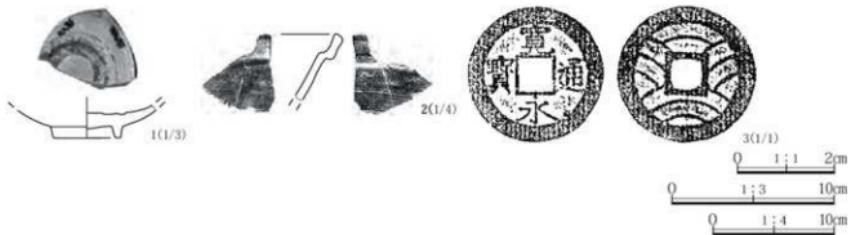
	雨落跡 距離	桁行 柱間	桁行 柱間	桁行 柱間	
棟行柱間					建G1
					0.47
	雨落跡 - 0.69 -	礎石18 - 2.30 -	礎石19 - 1.68 -	礎石20 - 1.82 -	建G2
棟行柱間			4.78		2.16
					建G3
					3.37
棟行柱間					
					P1
		2.34	(P2)		建G4
			1.03		1.18
棟行柱間					
					G5
					1.80 - 1.92 -
					建G6
雨落跡距離					
					0.94
					0.75
					0.51
					雨落跡
					雨落跡
内側梁間					雨落跡
外側梁間					雨落跡
					(礎石1～6と礎石15はH26調査)

第20表 5号建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
位置	34区Y-12	34区Y-12	34区Y-11～12	34区Y-11	34区Y-11	34区Y-11	34区Y-11
規模(m)	長 0.52	0.35	0.17	0.25	0.21	0.16	0.14
	短 0.36	0.24	0.12	0.24	0.12	0.13	0.13
	深 0.47	0.37	0.31	0.33	0.25	0.25	0.28
平面形状	不整形	不整形	長円形	長円形	長円形	長円形	不整形
主軸方向(度)	N-22-E	N-85-E	N-81-E	N-54-W	N-78-W	N-3-E	N-2-E
傾斜方位(度)			N-85-E	N-31-E	N-81-W	N-1-W	N-6-E
重複							



第56図 5号建物



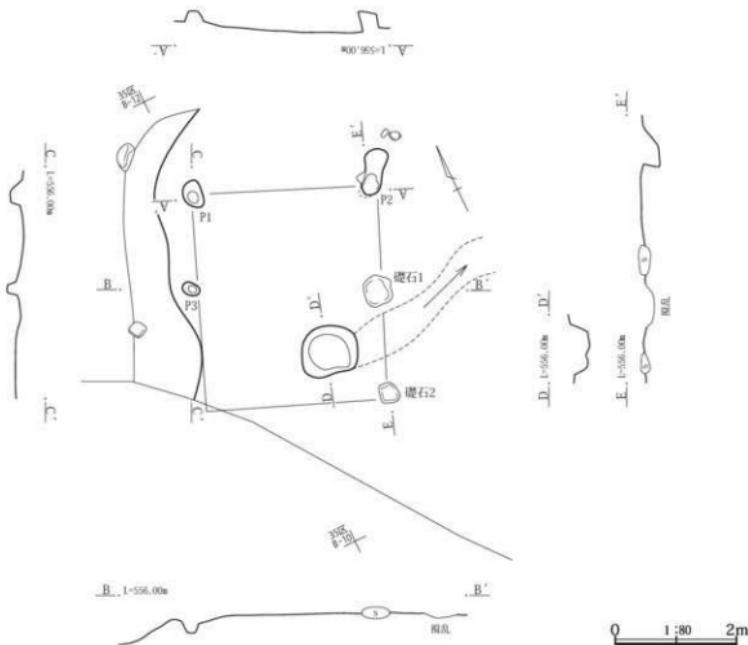
第57図 5号建物出土遺物

第21表 18号建物柱間計測表

	柱間 寸間	柱間 寸間	相E
梁行柱間	P3 — 1.57 —	P1	
	3.08	2.95	
梁間	■■■5.2 — 1.67 — ■■■6.1 — 1.94 — ■■■P2	3.61	
	3.08	2.95	

第22表 18号建物ビット計測表

ビット	P1	P2	P3
位置	354.8 ~ B-11	354.8-A-11	354.8-B-11
規模(m)			
長	0.47	0.82	0.31
短	0.32	0.39	0.22
深	0.21	0.31	0.20
平面形状	不整形	不整形	長円形
主軸方向 (度)	N-12-W	N-40-E	N-38-W
傾斜方位 (度)			
重複			



第58図 18号建物

る。

**所見** 建物内に残された移動痕の方向と泥流の流れた方向は一致しており、建物内に存在していた物が押し流された跡と推察される。調査記録から1間×2間の南北棟の建物を想定したが、1棟分の間隔を置いた東には鉤の手状の浅い溝が存在する。調査時の写真では溝にAs-Aが堆積しているように思われる、雨落ち跡に類似している。2間×2間の建物を収めるに頃合いの地取りともみえる。下田遺跡では桁行柱間より梁間柱間の方が広くなる傾向があり、梁間2間とすれば桁行3間ないし4間の建物の存在も想定される。

### 第3項 碓石建物

建物単体として確認された遺構が3棟存在する。このうち22号建物と23号建物の2棟は調査区西部に属するが、21号建物は調査区中部に属する。21号建物は単体で存在したと思われるが、他の2棟は建物の一部が確認されただけであり、建物群を構成したか否かは不明である。

#### 1 21号建物(第59図、PL.10)

**位置** 33区M～P-9～10グリッド、唯一調査区中部に位置する。建物は調査区東半に存在する谷の中段に広がるテラス状の場所に位置し、建物を囲むように4条の溝が存在する。

**形状等** 石跡25か所と礎石2基が確認された。

**規模** 桁行9.38m、梁間5.26m。

**桁行方向(度)** N-79-W

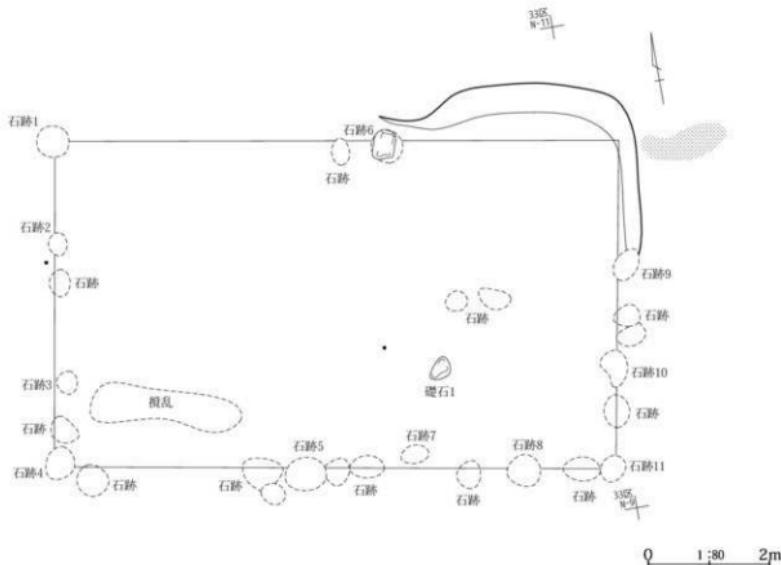
**本体構造** 3間×5間の東西棟礎石建物と推察される。

**遺物** 資料化には至らなかったが、西辺から陶器片が出土している。

**所見** 南辺に顯著であるが、礎石に必要と思われる石数を上回る石跡が確認されている。敷土台の可能性も否定できない。

#### 2 22号建物(第60～68図、PL.10, 62～65)

**位置** 34区Y-22グリッドおよび35区A～B-22グリッド、調査区西部北辺、上位の段丘面との境近くに位置す



第59図 21号建物

第23表 21号建物柱間計測表

桁行 柱間	桁行 柱間	桁行 柱間	桁行 柱間	桁行 柱間	桁行 柱間
石26		石26			
梁行柱間 1.69					
石27				石27	9.38
梁行柱間 2.29				1.70	
石28		石28		石28	9.01
梁行柱間 1.32		1.47		1.65	
石29	-1.85 -	石29	-1.81 -	石29	-1.46 -
梁間 5.26		5.13		9.03	

る。

**形状等** 西辺列石の一部と北辺列石が確認されている。構造材と思われる木材の一部(26)が、建物北辺沿いに残されていた。材の一端は腰掛蟻継のホゾが作り出されており、蟻ホゾの先端から34cm離れた側面には、雁ホゾと思われる巾12cm厚さ3.5cmの平ホゾが14cmほど顔を出している。ホゾの裏になる面には光付けと思われる加工が認められる。また22号建物の壁材の一部と思われる粘土が、北に隣接する復旧烟に残されている。建物脇にはタケ材やホゾ穴の切られた木片などが複数堆積していたが、遺構に伴うものは確認されていない。

**規模** 桁行(7.30)m、梁間(1.87)m。

**桁行方向(度)** N-79-W

**本体構造** 列石は間隔を置いておかれた大振りの石と、その間を埋める小振りの石から構成される。

**遺物** 床から肥前磁器染付碗(1)、瀬戸陶器すり鉢(2)、瀬戸・美濃陶器すり鉢(3)、石臼(上臼)(39)、砥石(38)、鉄鍋(4~10)、漆椀蓋(35,36)が出土している。また建物北辺列石の北から構造材(26)、建物東脇からタケ材(11~21)、丸棒材(22)、鎌等の柄(25)、部材(31,32)、板材等(23,24,27~30,33,34,37)が出土している。

**所見** 列石の大振りの石を、個々の柱に対応する礎石と仮定し、北辺東端の石を隅の石と想定すれば、建物は桁行4間となる。このとき、桁行柱間の平均は1.83m。北辺出土の構造材(26)は、粘土の付着痕とみえる長軸に平行する2列の付着物が残されていた。材を外壁の足固めまたは土台とみなせば真壁の外壁が想定される。

東西棟礎石建物と想定されるが、列石を基礎とする敷き土台あるいは光付けを伴う足固めが用いられたとも考



22号建物構造材取上状況

えられ、柱の根方の固定方法については確証を得ない。

**3 23号建物(第69~75図、PL.11~13,65,66)**

**位置** 35区G~J-24~25グリッドおよび45区G~J-1グリッド、調査区西端に位置する。

**形状等** 北辺と東辺の列石が確認されている。建物西南隅は調査区外にかかるため、西辺と南辺の全容は不明であるが、前記二辺に比べ辺を構成する石の数が少ない。北辺の列石に沿って粘土の堆積が確認されている。囲炉裏周辺からは、北辺に平行する細長い压痕が確認されている。また東辺南半に平行して並ぶビットが4基確認されている。

**規模** 桁行(12.44)m、梁間(7.34)m。

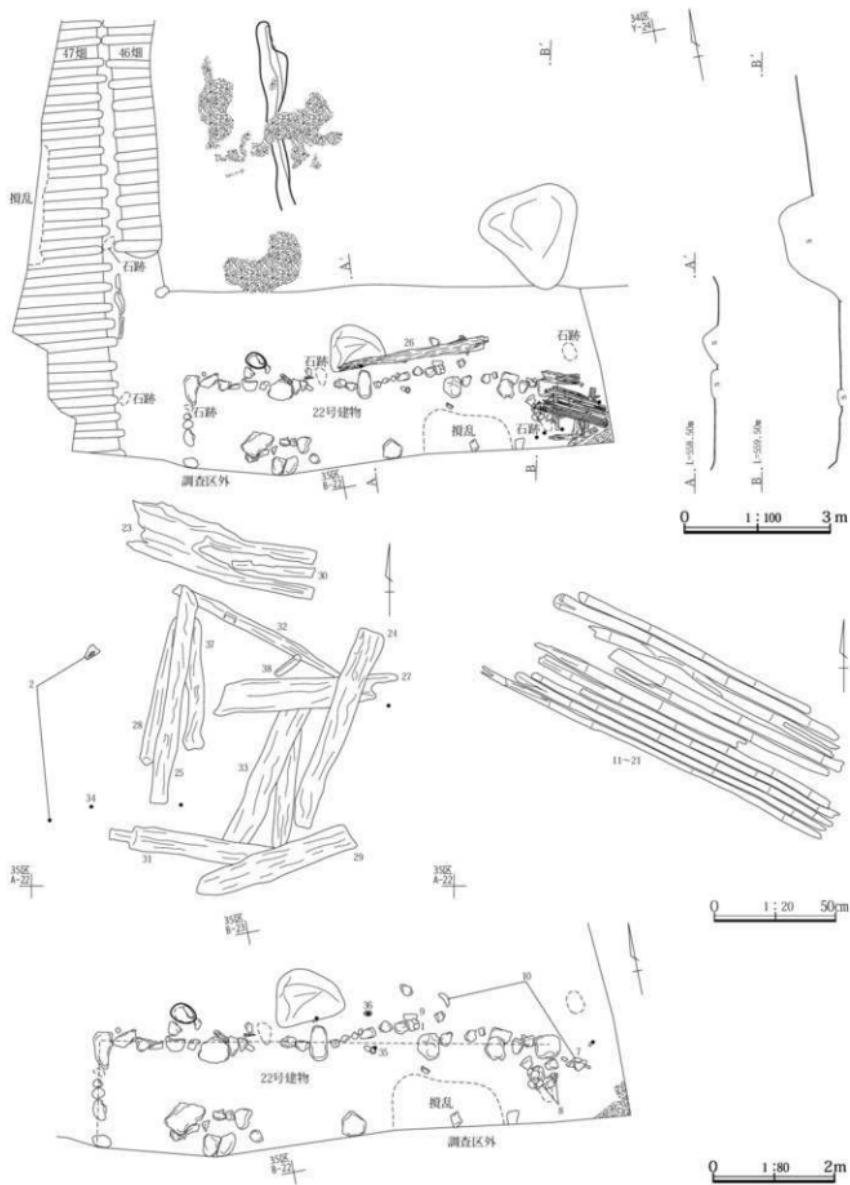
**桁行方向(度)** N-88-W

**本体構造** 桁行3間梁行3間の東西棟と推定されるが、東西12m強の中に囲炉裏2基とカマド1基が横並びする構造の故か、梁行柱間の間隔はそれぞれ異なる。

**付属施設** 囲炉裏2基、カマド1基。付属施設については後述する。

**重複** 24号建物。

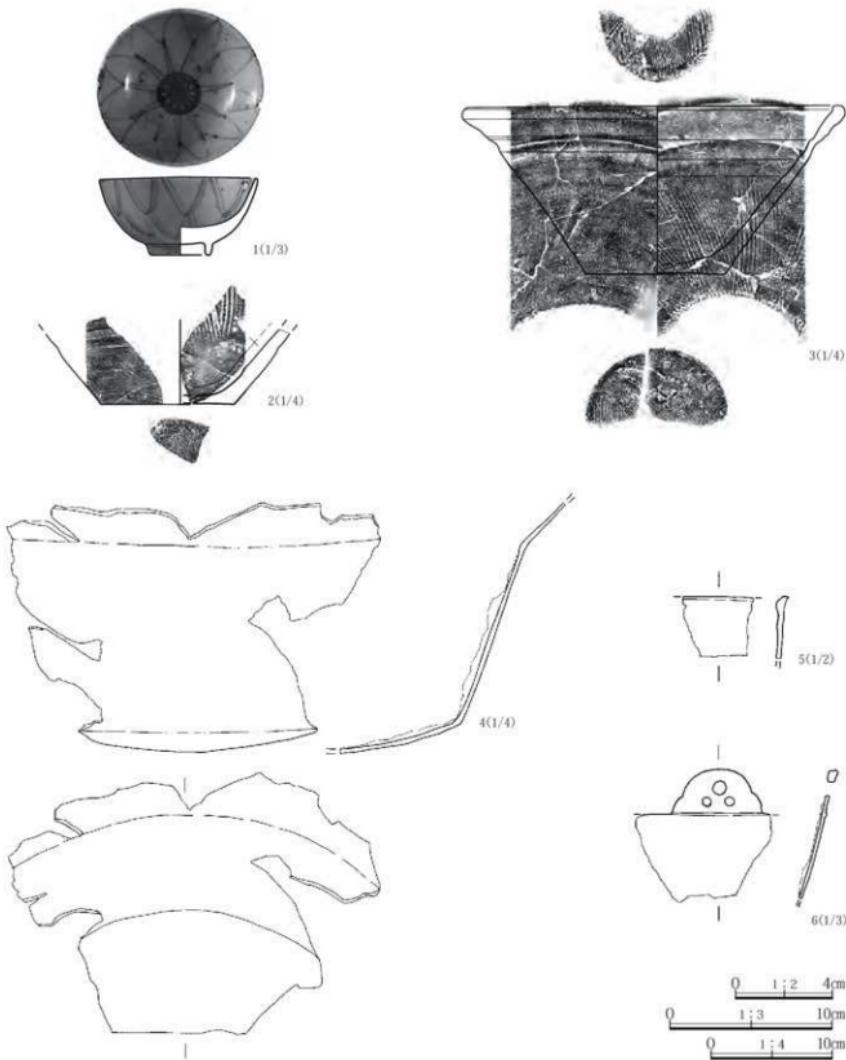
**遺物** 床から肥前磁器と思われる染付碗(1)、瀬戸・美濃陶器小碗(2)、瀬戸・美濃陶器腰錦碗(3)、京・信楽



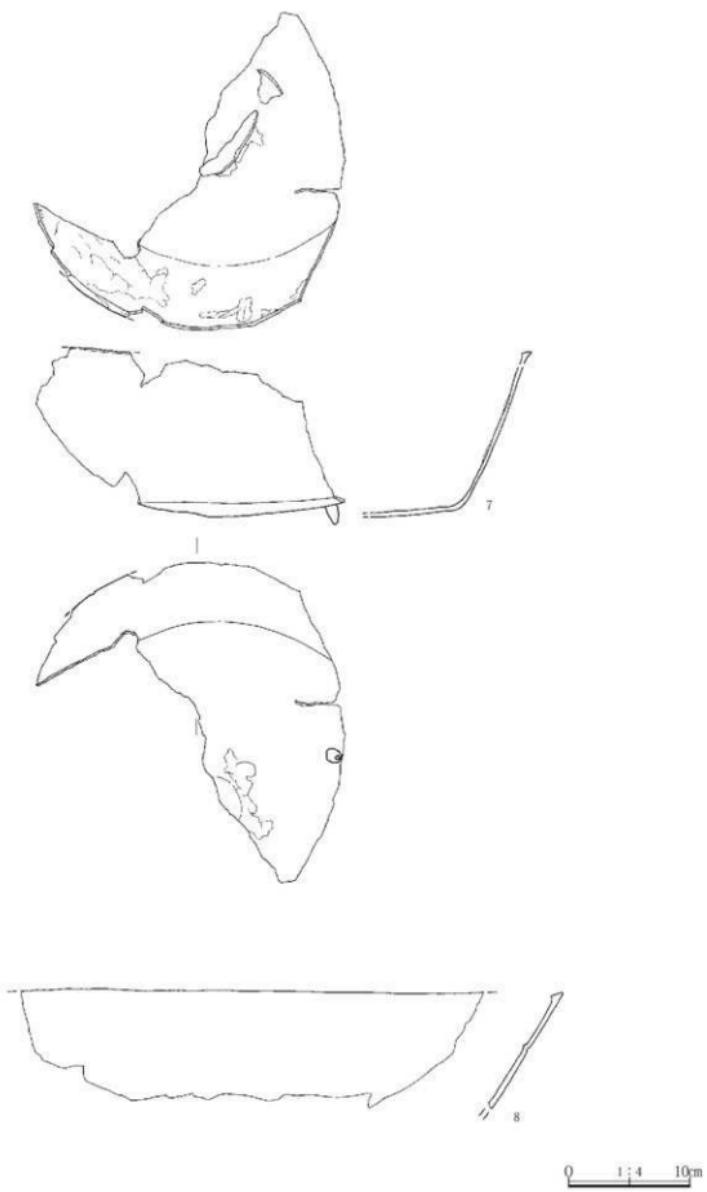
第60図 22号建物

第24表 22号建物柱間計測表

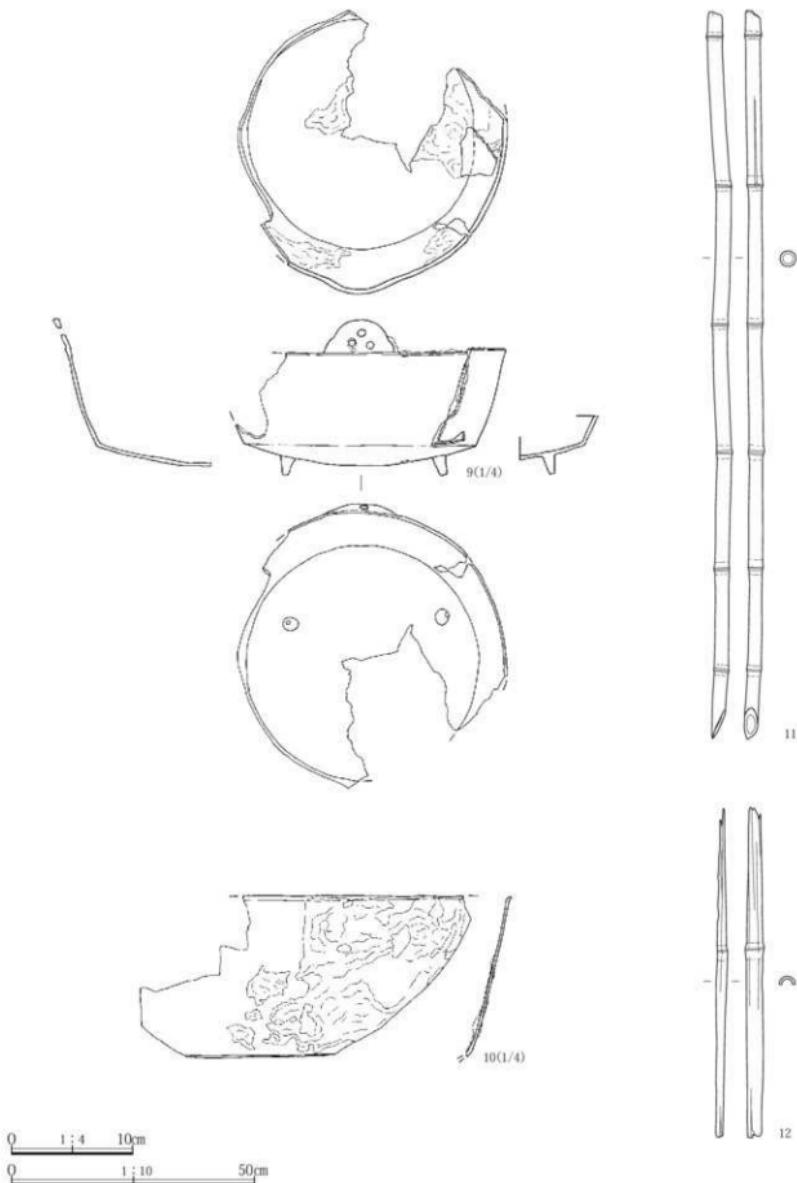
柱行柱間	柱行柱間	柱行柱間	柱行柱間	柱行
■G1 — 1.88 — ■G2 — 1.70 — ■G3 — 1.85 — ■G4 — 1.89 — ■G5				7.30
—				:



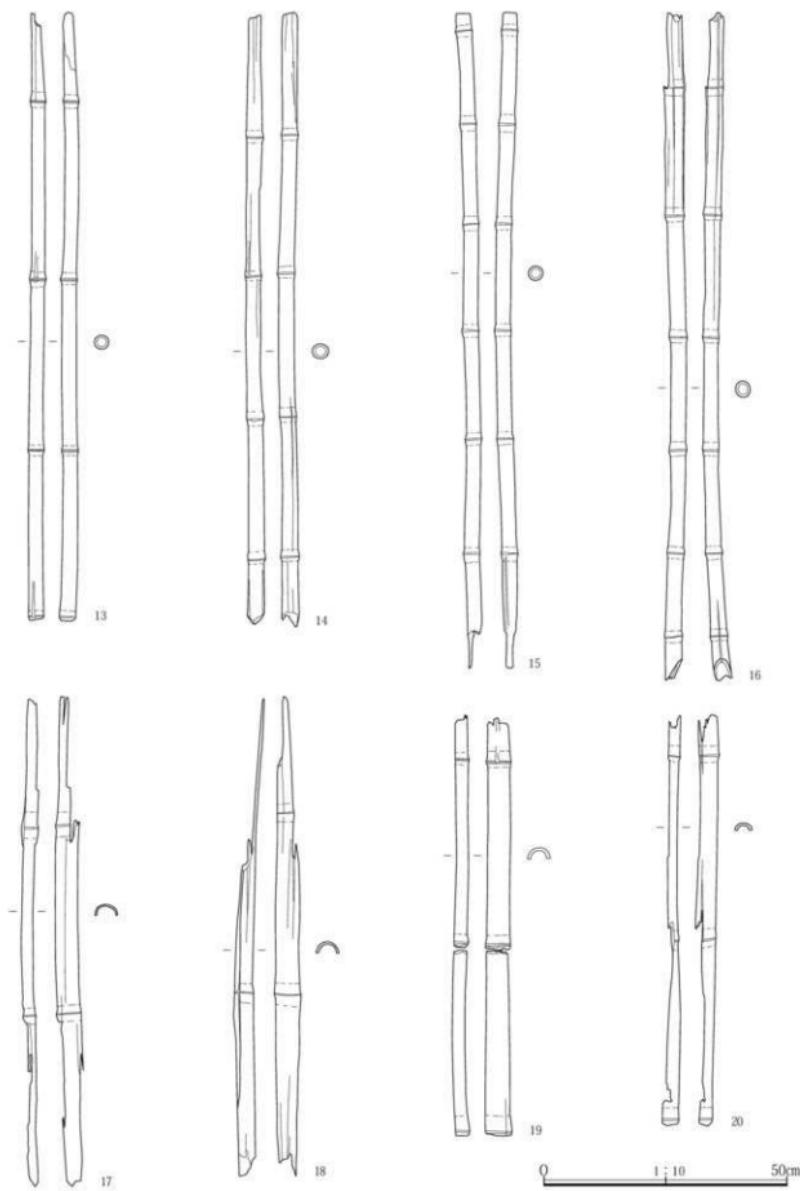
第61図 22号建物出土遺物 1



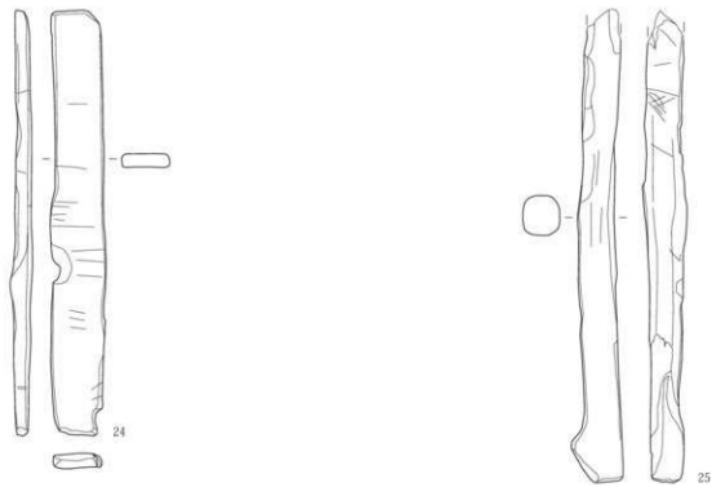
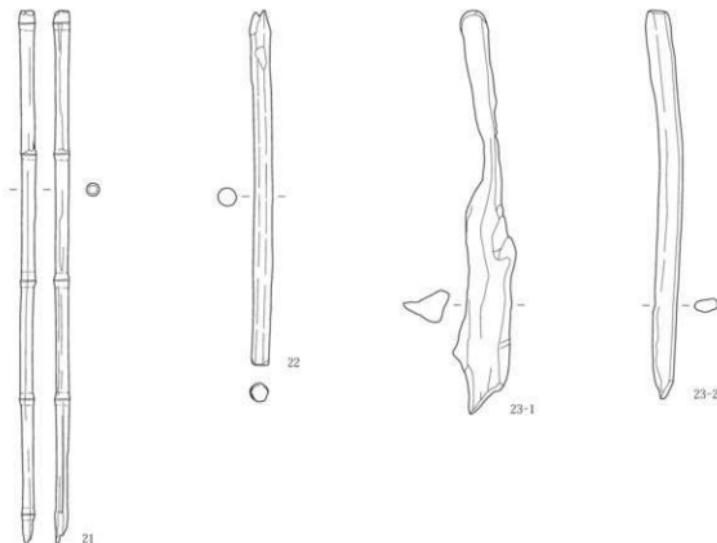
第62図 22号建物出土遺物 2



第63図 22号建物出土遺物 3

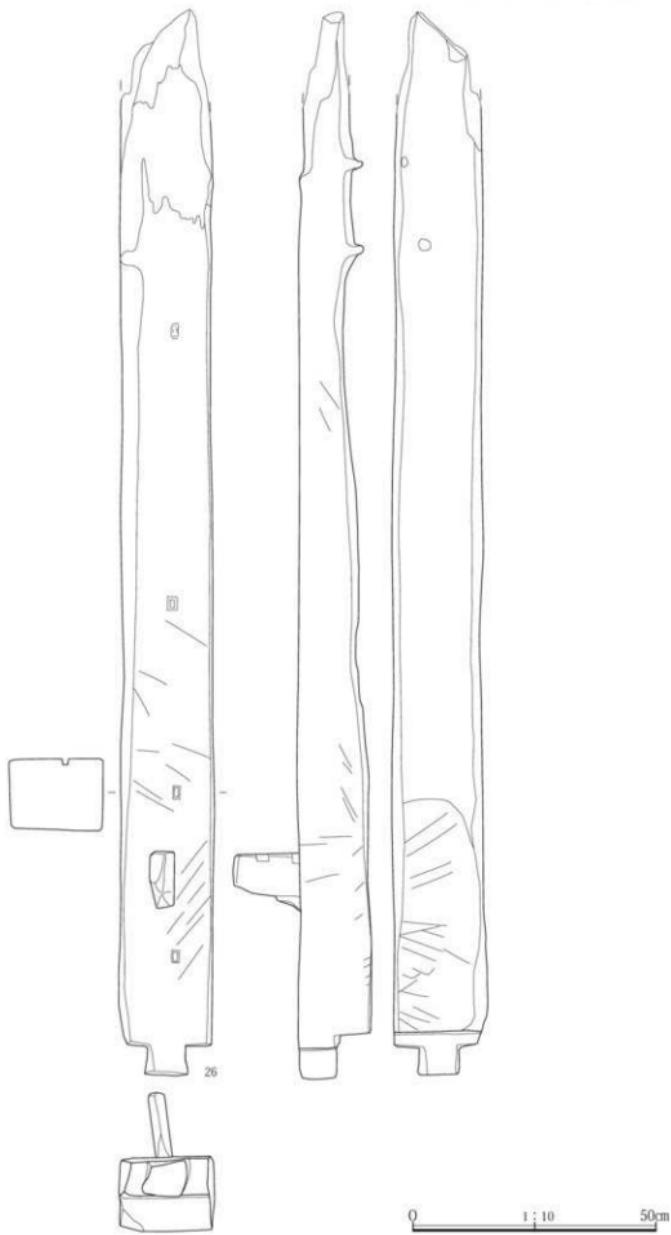


第64図 22号建物出土遺物 4

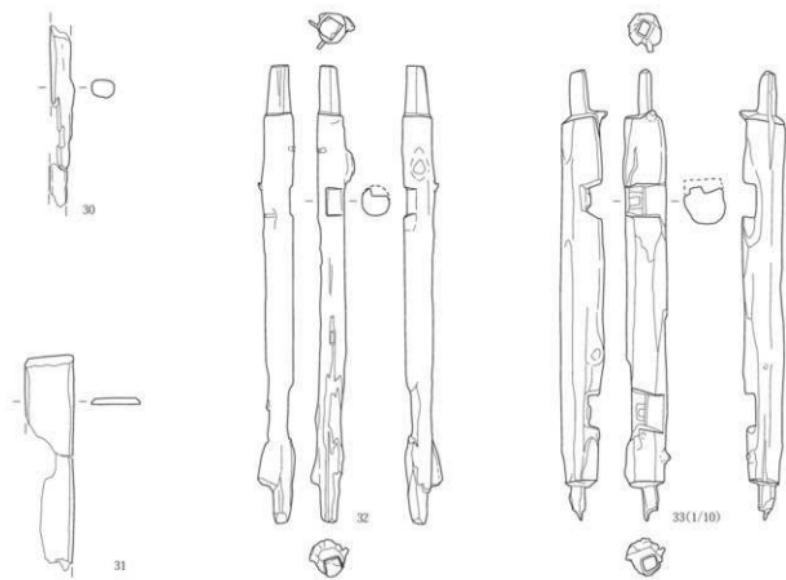
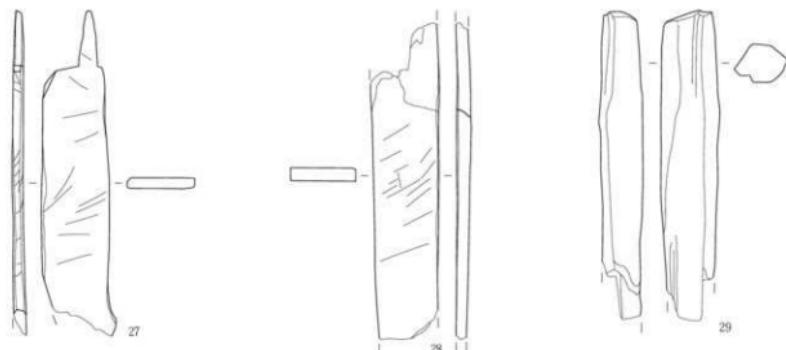


0 1 : 10 50cm

第65図 22号建物出土遺物 5

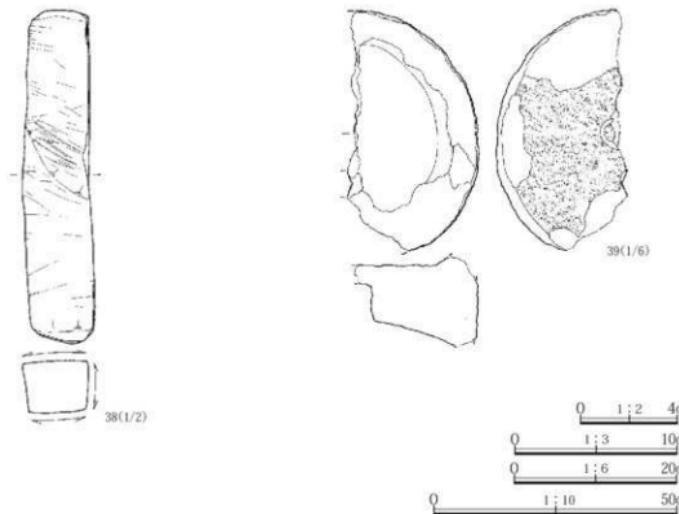
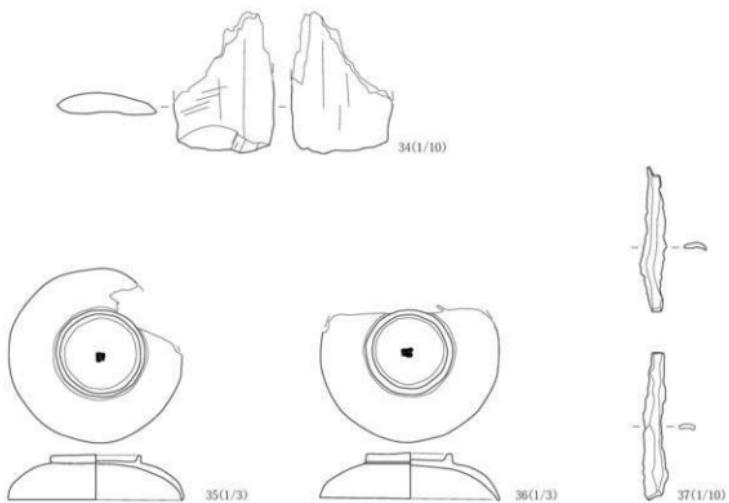


第66図 22号建物出土遺物 6



0 1:10 50cm

第67図 22号建物出土遺物 7



第68図 22号建物出土遺物 8

### 第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

系陶器上絵碗(4)、瀬戸・美濃陶器碗(5~7)、肥前陶器陶胎染付碗(8,9)、志戸呂陶器灯火皿(10)、志戸呂陶器灯火受皿(11)、瀬戸・美濃陶器秉燭(12)、瀬戸・美濃陶器すり鉢(13,14)、砥石(20)、石臼(上臼)(21)、鉄鍋(19)、煙管(23)が出土しているほか、石臼(下臼)(22)も出土している。

**所見** 梁行柱間がそれぞれ異なる2間×3間の北辺に張り出しを設けた変則的な3間×3間と推察されるが、西辺・南辺が確認されていない可能性も多い。囲炉裏のある2間とその北の張り出し部分は床組のある座敷と推測される。東辺に平行するピット4基は、ピットと建物の間に軽石の堆積が認められることから、東壁から延びる庇状の構造物の先端を支えていたと推測される。

**備考** 23号建物の北に位置する4号石垣に張り付くようにならせていた瀬戸・美濃陶器すり鉢(14)も、23号建物に由来すると推察され、ここに加えた。

(1) 1号囲炉裏(第71,74図、PL.11,12,65)

**位置** 35区H~I-25グリッド、建物中央に位置する。

**形態等** 0.98×0.83m(長軸方向N-10-W)の浅い卵形の窪地の内から外に石を並べあげ、概ね方形に石が積まれている。石で囲われた中に粘土をはり、その上には灰層が残存する。24号建物3号炉跡の上に角礫が多く含む土を敷き、これを基層としている。

**規模** 1.82×1.73m

**主軸方向(度)** N-75-W

**重複** 24号建物3号炉。

**遺物** 鉄箸(18)のほか、出土地点は不明であるが鉄片2点が出土している。

**所見** 最大9cm厚の灰層が残されている。灰層上面は床面から19cmの高さに位置する。床組座敷の囲炉裏としては石組みがやや低めと

思われ、石組みの最上段となる石列は失われている可能性が高い。24号建物3号炉より新しい。

(2) 2号囲炉裏(第72図、PL.12)

**位置** 35区G~H-25グリッド、建物東側の中央やや北寄りに位置する。

**形態等** 浅い皿状に整地した中心部を残し、窪みの中間部分から外に向かい石を並べ、外周には高さのある石を配置し、四角い外形が構築されている。周辺部を構成する石は外側に崩れ、囲炉裏内部に残された土のほうが高くなっている。粘土や黒褐色土が堆積する囲炉裏中心部の上面のほか、その下位にも焼土が残されている。

**規模** 1.78×1.54m

**主軸方向(度)** N-85-E

**所見** 残存する焼土面と床面との比高はおよそ18cmである。

第25表 23号建物柱間計測表

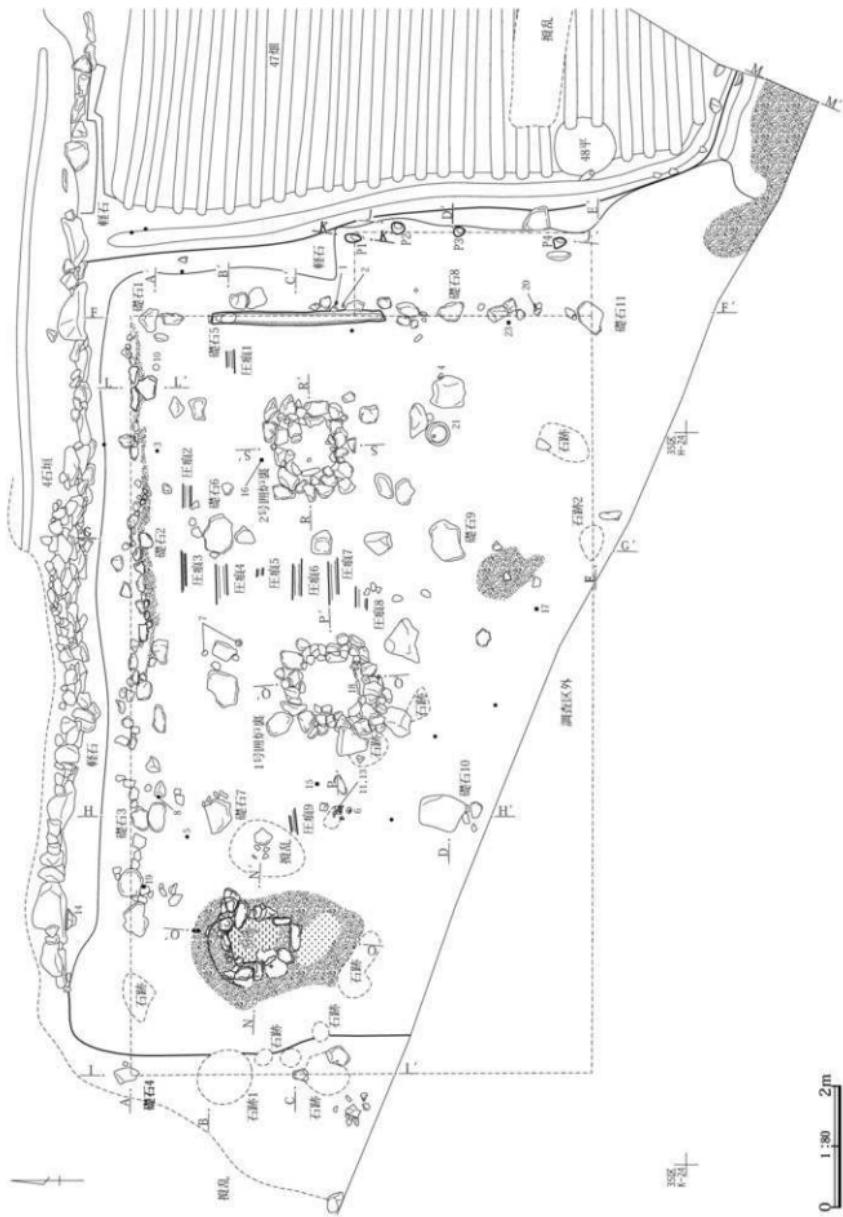
柱行柱間		柱行柱間		柱行柱間		柱行	
壁G4	- 4.21	- 壁G3	- 4.54	- 壁G2	- 3.60	- 壁G1	12.36
梁行柱間							
1.56	1.27	1.23	1.30				
石M1	- 4.27	- 壁G7	- 4.53	- 壁G6	- 3.64	- 壁G5	12.44
梁行柱間							
	3.67	3.73	3.63				
壁G10	- 4.45	- 壁G9	- 3.74	- 壁G8			
梁行柱間							
	2.38	2.32					
石M2	- 3.72	- 壁G11					
内周間隔							
外周間隔							
	6.11	5.94					
	7.34	7.26					

第26表 23号建物ピット計測表

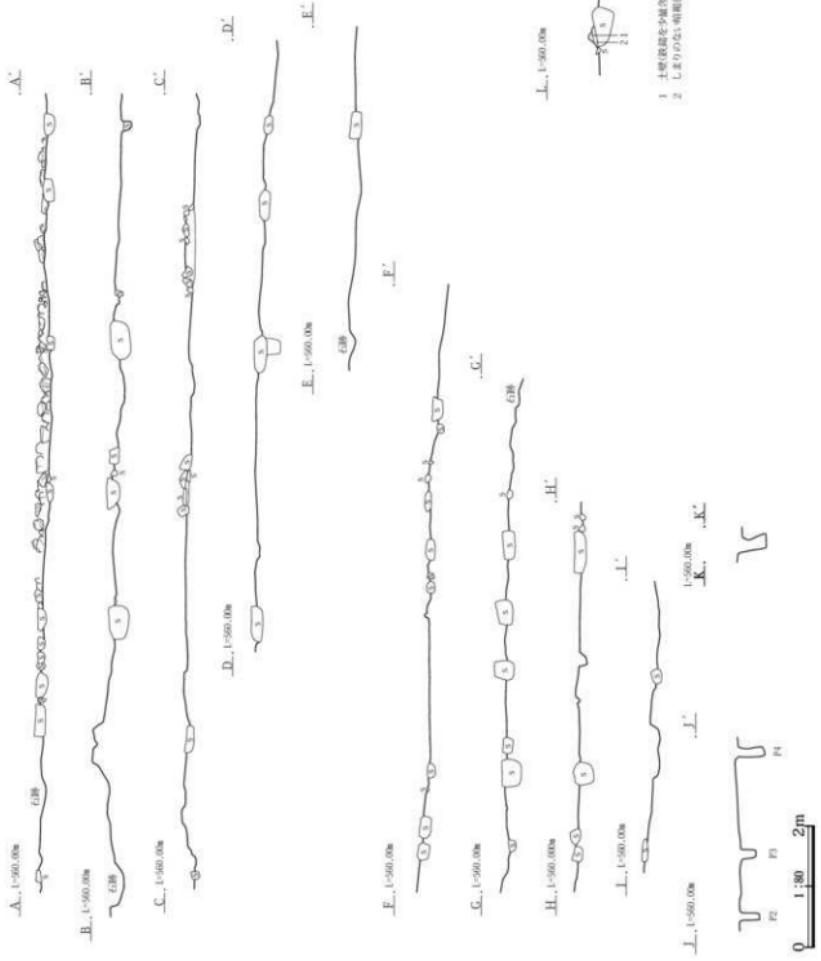
ピット	P1	P2	P3	P4
位置	35区G-25	35区G-25	35区G-24	35区G-24
規模(m)	長 0.32	0.21	0.19	0.2
	短 0.15	0.19	0.17	0.16
	深 0.44	0.34	0.25	0.48
次坑間隔(m)	0.73	1.02	1.65	
平面形状	偏円形	円形	偏円形	不整形
主軸方向(度)	N-2-W	N-10-E	N-10-W	N-16-W
傾斜方位(度)	N-8-E			

第27表 23号建物床面圧痕計測表

	圧痕1	圧痕2	圧痕3	圧痕4	圧痕5	圧痕6	圧痕7	圧痕8	圧痕9
位置	35区G-25 (0.40)	45区H-1 (0.41)	45区H-1 (0.69)	35区H-25 (0.68)	35区H-25 (0.14)	35区H-25 (0.60)	35区H-25 (0.72)	35区H-25 (0.35)	35区I-25 (0.44)
規模(m)	長 0.12	0.14	0.07	0.18	0.10	0.14	0.15	0.18	0.10
	短 0.03	0.08	0.08	0.06	0.01	0.06	0.04	0.04	0.08
主軸方向(度)	N-88-E	N-89-E	N-89-E	N-89-E	N-86-W	N-89-W	N-88-E	N-90-E	N-83-E
圧痕間隔(m)	—	—	0.62	0.63	0.60	0.59	0.48	—	—
			圧痕3~4	圧痕4~5	圧痕5~6	圧痕6~7	圧痕7~8		



第69図 23号建物 1



第70図 23号建物2

り、1号圓炉裏の灰層の高さと大差ない。こちらの圓炉裏も石組みの上段となる石列が失われていると推測される。

## (3)カマド(第73図、PL12,13)

位置 35区 I～J-25グリッドおよび45区 I～J-1グリッド、建物北西部に位置する。

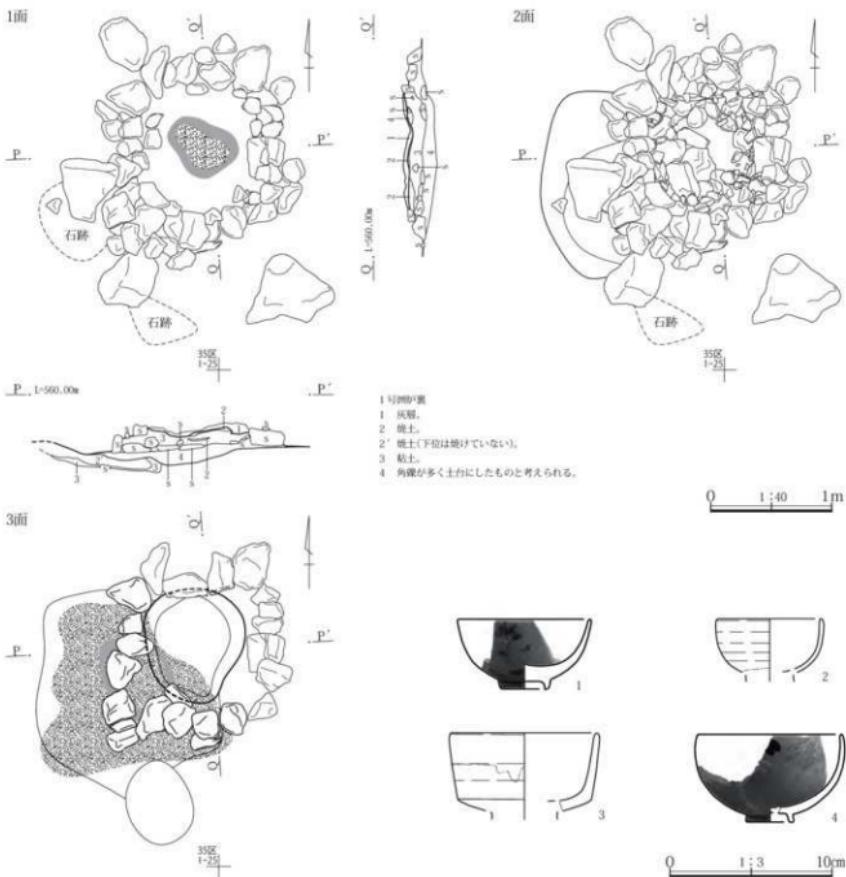
形状等 1.64×1.36m(長軸方向N-2-W)の掘り込みの周囲に石組みが行われている。石組みの周囲にはカマド

を構築したと思われる粘土の一部が残されるが、上部構造は残存しない。石組み内には灰と焼土が残存する。

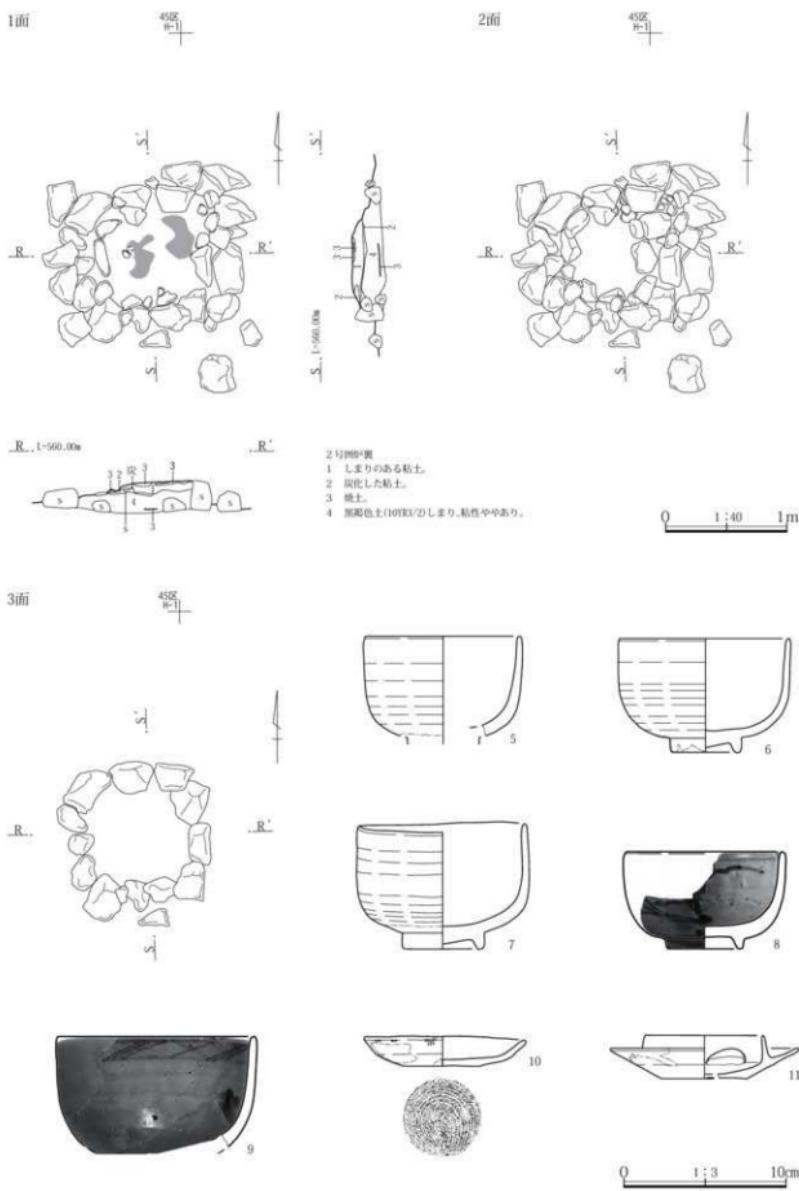
規模 2.86×1.87m

主軸方向(度) N-6-W

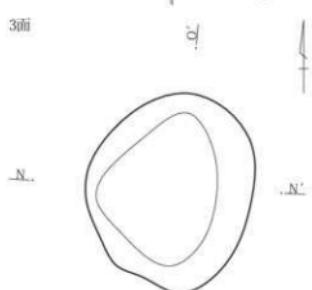
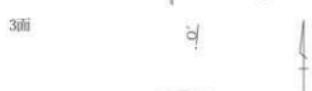
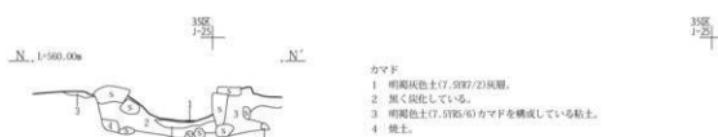
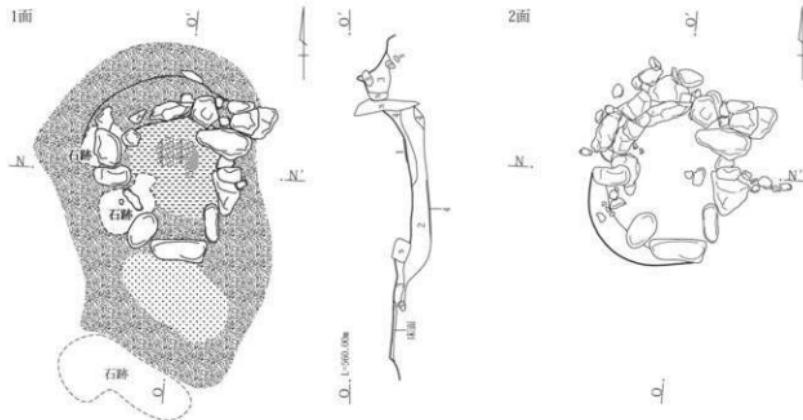
所見 火床を囲む石組みを取りまくように、粘土でカマド壁が構築されていたと推測される。長円形に残存する粘土部の北半に火床が位置し、火床の南には硬化面が存在することから、焚口は南側に存在したと推測される。



第71図 23号建物3と出土遺物1



第72図 23号建物4と出土遺物2

358  
J-25

0 1:40 1m

第73図 23号建物5



12(1/3)



15(1/1)



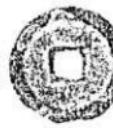
13(1/4)



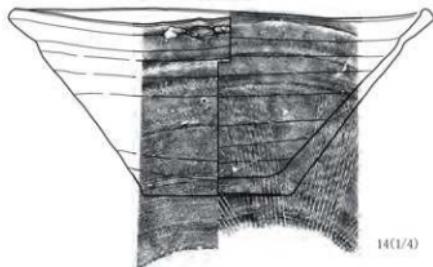
15(1/1)



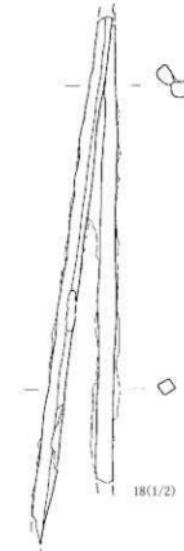
16(1/1)



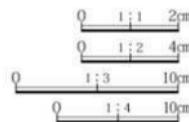
17(1/1)



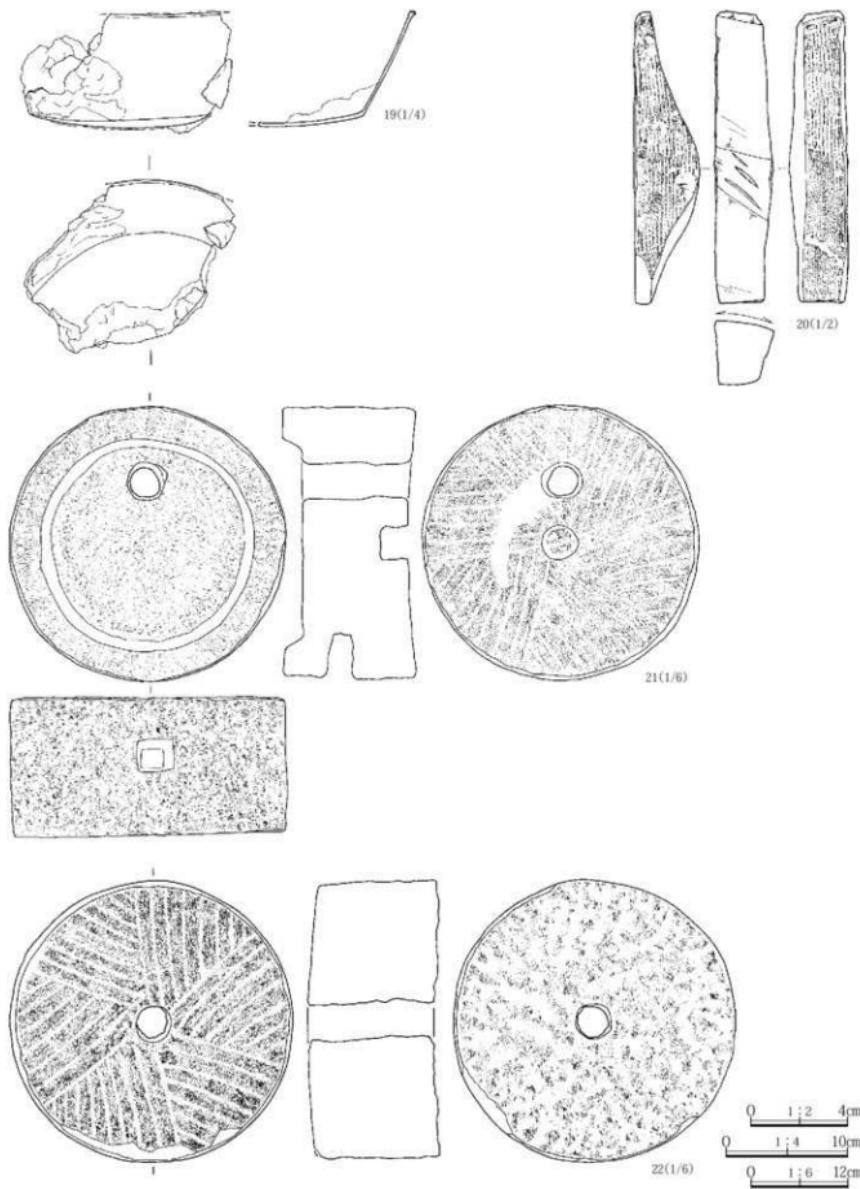
14(1/4)



18(1/2)



第74図 23号建物出土遺物 3



第75図 23号建物出土遺物 4

## 第4項 道

調査区西部から調査区を南北に走る道が3条(2号道、4号道、5号道)、調査区中部から調査区を東西に走る道が1条(1号道)確認されている。このうち2条(4号道、5号道)は側溝を伴う。また、調査区中部の1号道はその途中から南北に抜ける支道を持つ。この道は平成25年度および平成26年度調査に際し確認された1号道の東に連なる。なお過年度の調査成果と合わせた成果は後掲(本章3節)する。

### 1 1号道(第77図、PL13)

位置 33区O～Y-3～5グリッドおよび34区A～K-3～13グリッド、調査区中部に位置する。

形状等 調査区を東西に走る。北に抜ける支道2条を持つ。

規模 東西部(85.6)m、幅0.32～1.24m。東側の支道8.41m、幅0.27～0.34m。西側の支道(30.4)m、幅0.29～0.94m。

走行方向(度) 東西部N-88-W。東側の支道N-15-E。西側の支道N-2-E。

所見 1号道は調査区を東西につなぐ道である。調査区東半には東へ開く谷地形が存在するが、その谷頭近くに北へ抜ける西側の支道が位置し、その東は谷の南縁に沿うように道が続く。東側の支道は谷の縁から谷を下り、谷底の3号溝に到る道である。

備考 東側の支道の調査時の名称は、6号道。

### 2 2号道(第76図、PL13)

位置 35区K～N-20～22グリッド、調査区西端に位置する。

形状等 調査区西端から確認された2地点の遺構をまとめたものであり、両者の接点は確認されていない。それぞれ2号道東、2号道西と呼称する。

規模 2号道東(1.14)m、幅0.32～0.38m。2号道西(4.96)m、幅0.18～0.21m。

走行方向(度) 2号道東N-82-E。2号道西N-14-E。

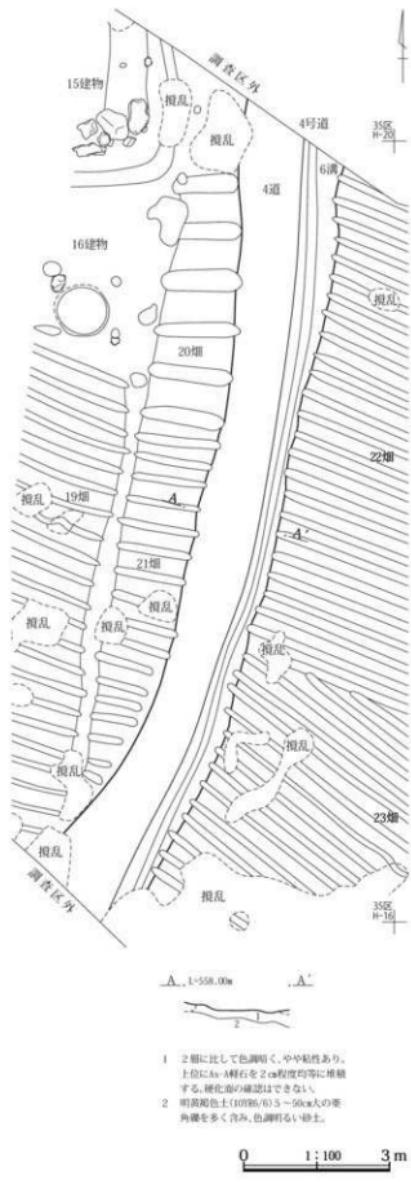
所見 2号道東は18号畠の北端を画すると推測される。



第76図 2号道



第77図 1号道



第78図 4号道

2号道西は17号畠の歓に横切られており、天明3年時点では道としての用を果たしていなかったと推測される。

### 3 4号道(第78図、PL.13)

位置 35区H-I-16~20グリッド、調査区西端、D1建物群の東に位置する。

形状等 緩やかな弧を描きながら、調査区を南北に抜ける。道の東端に側溝を作う。

#### (1)道路部分

規模 (16.8)m、幅0.94~1.31m。

走行方向(度) N-16-E

所見 4号道は、その西にD1建物群が位置し、北に23号建物が位置する。D1建物群と23号建物をつなぐ道と推測される。

備考 調査時の名称は4号道。

#### (2)側溝部分

規模 (16.8)m、幅0.35~0.79m、深さ0.1m。確認された比高は0.9m、斜度はおよそ1/18。溝は北端が深く、下るにつれ浅くなる。

走行方向(度) N-16-E

所見 4号道の排水路として機能したと推測される。

備考 調査時の名称は6号溝。

### 4 5号道(第79図、PL.14,66)

位置 34区W-Y-14~25グリッドおよび35区A-B-10~15グリッド、調査区西部に位置する。

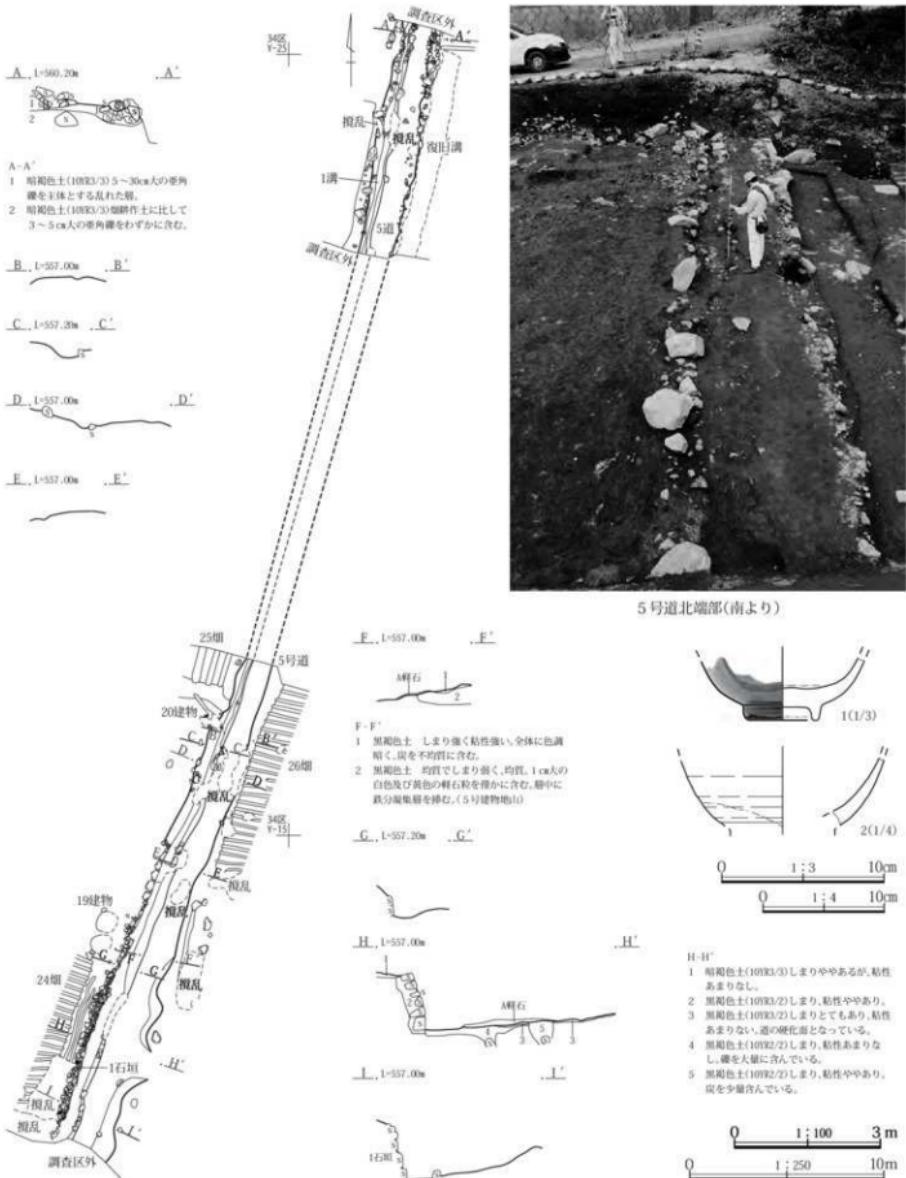
形状等 調査区西部の北辺から、未調査区域を間にはさみ、調査区南辺に抜ける。道の西端側溝を伴う。溝の西岸は微高地にあたり、調査区南辺では1m程度の比高が生じており、擁壁として1号石垣が設けられている。なお、1号石垣は隣接する24号畠の付属施設としたため前述する。

#### (1)道路部分

規模 北部(12.0)m、幅0.97~1.56m。南部(26.7)m、幅0.92~1.47。確認された北端から南端まで60.6m。

走行方向(度) 北部N-8-W、南部N-2-E。

遺物 埋没土から肥前磁器染付碗(1)、瀬戸・美濃陶器



片口鉢(2)が出土しているほか、座金様の金物が出土している。

**所見** 5号道は、22号建物とB2建物群およびC1建物群を結ぶ道であり、C1建物群通路の口も開く。さらに、南に位置する未調査域で1号道に連結すると推察される。なお、瀬戸・美濃陶器片口鉢(2)は1号石垣出土遺物と接合している。

**備考** 調査時の名称は5号道。

#### (2)側溝部分

**規模** 北部(12.0)m、幅0.29~0.83m。南部(26.7)m、幅0.37~1.10。深さ0.2m。確認された北端から南端まで60.4m、比高は5m、斜度およそ1/12。

**走行方向(度)** 北部N-8-W、南部N-2-E。

**所見** 5号道の排水路として機能したと推測される。

**備考** 調査時の名称は1号溝。

### 第5項 溝

調査区西部から2条、調査区中部から4条(2号溝、3号溝、4号溝、5号溝)の溝が確認されている。調査区西部の溝はいずれも道脇に位置し、これに伴うものであり前項に記載した。後者の溝は、調査区東半に存在する谷の中段に開ける緩やかに傾斜するテラスを開むように位置する。この開けた面の北東隅に21号建物が位置している。なお、4号溝は既に溝としては存在せず、石捨て場となっているが、ここに含めた。溝としてはあらためて後節で提示する。

#### 1 2号溝(第80図、PL14)

**位置** 33区T-U-10~12グリッド、調査区中部に位置する。溝の東には32号烟が存在する。

**形状等** 調査区東半に存在する谷の中段に広がる、傾斜の緩い領域のはば西辺に位置し、溝の南端は深さ30cm程度の浅い窪地を開く。溝底面にAs-Aの堆積が確認されている。

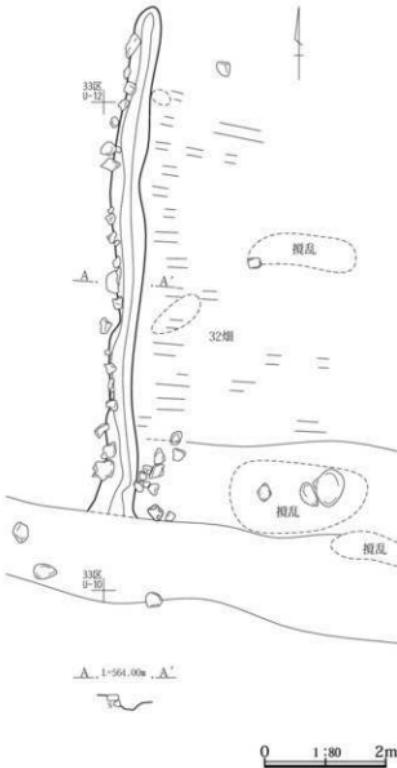
**規模** 8.5m、幅0.38~0.79m、深さ0.1m。北端と南端の比高は0.5m。

**走行方向(度)** N-4-E

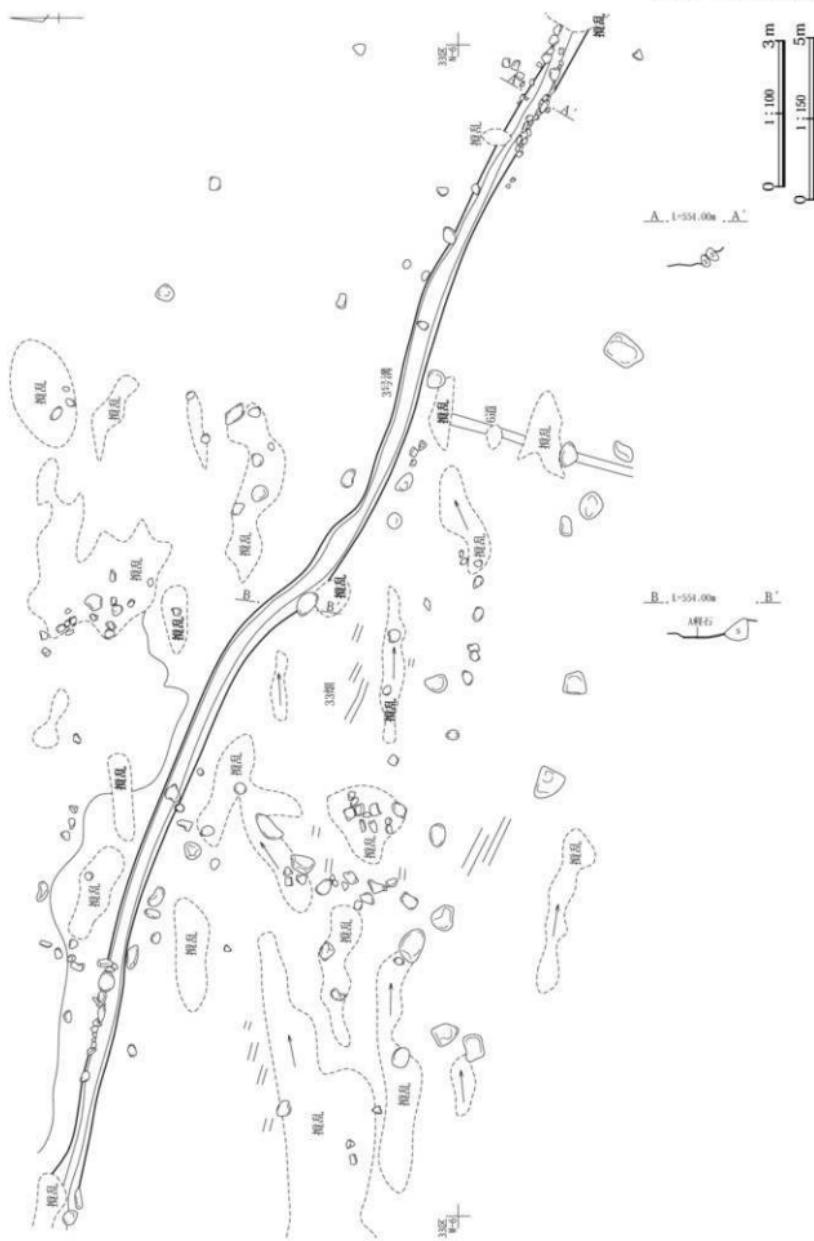
**所見** 山側にあたる溝の西岸に沿い石列が組まれており、溝を保護したと推測される。32号烟の水抜きの意図



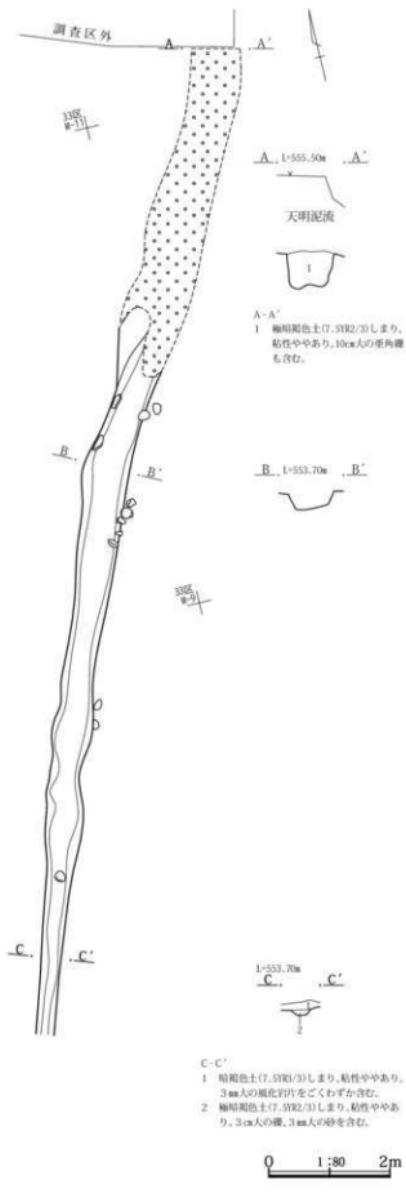
2号溝・3号溝全景(土空より)



第80図 2号溝



第81図 3号溝



第82図 4号溝

があつたものと推察される。

## 2 3号溝(第81図、PL.14)

**位置** 33区M～V-5～9グリッド、調査区中部に位置する。

**形状等** 調査区東半に存在する谷の中段に広がる、傾斜の緩い領域のほぼ南面に位置し、谷の南斜面に沿う。

**規模** (38.9)m、幅0.49～0.84m、深さ0.1m。確認された比高は0.8m。

**走行方向(度)** N-66-W

**所見** 溝の西端は確認されていないが、斜面に沿い谷頭まで続くとみせる。谷頭付近に溝は確認されていないが、谷に落ちる水を逃がす排水路として機能したと推測される。

## 3 4号溝(第82図、PL.14)

**位置** 33区L～N-7～11グリッド、調査区中部に位置する。

**形状等** 調査区東半に存在する谷の、谷間に開けた緩斜面がおわり、斜度がきつくなる境に存在する。溝幅は上流側が広く、下流側が狭い。

**規模** (16.5)m、幅0.30～1.05m、深さ0.4m。確認された比高は0.3m。

**走行方向(度)** N-23-E

**埋没土** 3cm大の礫を含み、しまり、粘性ともにややある暗褐色土。北部は10cm大の亜角礫を含む。

**所見** 調査時の名称を踏襲したが、天明3年時点においては、石捨て場(ヤックラ)として存在していたと推測される。



4号溝全景(北より)

## 4 5号溝(第83図、PL14)

**位置** 33区P～S-12～13グリッド、調査区中部に位置する。

**形状等** 調査区東半に存在する谷、谷間に広がる傾斜の緩い領域のほぼ北辺に位置する。溝の中ほどが最も深い。

**規模** (12.8)m、幅0.41～(0.89)m、深さ0.3m。

**走行方向(度)** N-76-W

**所見** 溝は谷の北斜面に沿うように位置すると推測される。

## 第6項 煙

平成28年度調査区からは、調査区の西部から中部にかけて52区画の煙が確認されている。このうち11区画は平成25年度および平成26年度調査で確認された煙に連なる遺構である。また2区画は平成7年度調査で確認された煙に連なる遺構である。調査区西部の煙は天明泥流による搅乱の影響が少ないが、調査区中部以東は泥流の影響が大きい。なお、調査区中部に位置する11号塙から63号煙の10区画は、他の煙に比べ歟の長さが短く、またその長さも概ね等しく、均一な耕作面となっている。

検出された煙は歟と歟の間にAs-Aの堆積をとどめるが、As-Aの残る耕作土の上を耕作土が一面に覆う領域が1区画(46号煙)確認されている。これは、浅間山噴火の降灰後、泥流に覆われるまでの期間に行われた、降灰対策の痕跡とされる。このAs-Aの上に土が盛られた範囲を、元の煙とは別に復旧煙とした。また、15号煙の52号平坦面周辺を覆って、天明泥流により倒壊した家屋の屋根材

や家財が残されていた。

確認された煙の歟は、東西方向に走る歟が多い。東下がりの走向の歟を含めればあらかたがこれに属し、歟が南北方向に走る煙は、17号煙、25号煙、67号煙、68号煙の4か所に限定される。いずれにしても水はけを考慮してか、等高線に交差する方向に歟が作られる傾向が認められる。

調査時点においては、平坦面などを境界とする小単位・小区画に基づく遺構区分が行われている煙も多数あるが、調査区全体を通観した場合、全容を把握できない遺構がその多数を占めるため、小単位に基づく遺構区分は行っていない。報告にあたり、調査時に個別の面・単位とされたものであっても、その所在および歟のピッチとその走向から一つにまとめた。なお平坦面については個々の煙毎に記述せず一項にまとめ、後述する。

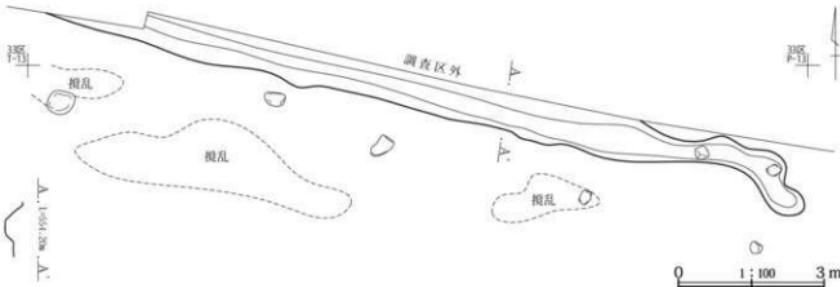
歟のピッチは、歟1条とその谷・溝1条をあわせて1単位とし、耕作地の中から連続して3単位以上が確認できる部位を選び、その幅を測り単位数で除したものである。歟幅あるいは床幅ではない。1歟に1条を植えた場合の条と隣の歟の条との間隔あるいは歟立幅の推計値に近い。計測は縮尺1/40の遺構図を対象とした。

なお、耕作状況についての調査所見のあるものはこれを備考に付記した。分類の詳細については、「VII考察1

4. 天明3年泥流煙の耕作状況』『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』(2003、財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団)を参照されたい。

## 1 2号煙(第84図)

**位置** 34区C～D-1 グリッドおよび24区C～G-22～25



第83図 5号溝

### 第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

グリッド、調査区中部南辺沿いに位置する。

敵のピッチ 0.46m

敵の走向(度) N-72-W

所見 部分的な検出にとどまり、単位等の把握はできない。平成25年度調査で確認された2号煙の北に連なる位置関係から同一の遺構とした。

備考 調査時の名称なし。

#### 2 3号煙(第84図)

位置 23区 T～Y-24～25グリッドおよび24区 A～D-23～25グリッド、33区 W～Y-1～2 グリッド、34区 A～B-1 グリッド、調査区中部南辺沿いに位置する。

敵のピッチ 0.45m

敵の走向(度) N-73-W

所見 部分的な検出にとどまり、単位等の把握はできない。平成25年度調査で確認された3号煙の西および北に連なる位置関係から同一の遺構とした。なお、北に隣接する70号煙との境界は確定しがたいが、便宜的に区分した。

備考 調査時の名称なし。

#### 3 4号煙(第84図)

位置 23区 R～T-24グリッド、調査区中部南辺沿いに位置する。

敵のピッチ 0.47m

敵の走向(度) N-72-W

所見 部分的な検出にとどまり、単位等の把握はできない。平成25年度調査で確認された4号煙の北に連なる位置関係から同一の遺構とした。

備考 調査時の名称なし。

#### 4 9号煙(第84図)

位置 34区 D～K-1～3 グリッドおよび24区 H～K-25 グリッド、調査区中部南辺沿いに位置する。

敵のピッチ 計測不能。

敵の走向(度) N-72-W

所見 部分的な検出にとどまり、単位等の把握はできない。平成25年度調査で確認された9号煙の東に連なる位置関係から同一の遺構とした。

備考 調査時の名称なし。

#### 5 10号煙(第85,97図、PL.15)

位置 34区 W～Y-7～10グリッド、調査区西部、C1建物群の南に位置する。

敵のピッチ 0.41m

敵の走向(度) N-77-W

付属施設 2号平坦面。

所見 平成26年度調査で確認された10号煙の西に連なる位置関係から同一の遺構とした。

備考 調査時の名称は10号煙。

#### 6 11号煙(第85,98,99,101図、PL.15,66)

位置 34区 S～U-12～16グリッド、調査区西部に位置する。

敵のピッチ 0.42m(北部)、0.39m(南部)。

敵の走向(度) N-82-W(北部)、N-85-W(南部)。

付属施設 27号平坦面、31号平坦面。

遺物 北部から瀬戸・美濃陶器片口鉢(1)、瀬戸陶器すり鉢(2)が出土している。

所見 平成26年度調査で確認された11号煙の北に連なる位置関係から同一の遺構とした。11号煙と12号煙は27号平坦面の南と北において敵が連結しているが、南辺の敵の東端を北に延長した線を基に区分した。

備考 調査時の名称は北部が27号煙、南部が31号煙。天明泥流後の復旧坑6基が存在する。27号平坦面は11号煙と12号煙にまたがって位置する。

#### 7 12号煙(第85,98,101図、PL.15,66)

位置 34区 Q～S-12～16グリッド、調査区西部に位置する。

敵のピッチ 0.39m(北部)、0.41m(南部)。

敵の走向(度) N-84-W(北部)、N-82-W(南部)。

付属施設 27号平坦面、28号平坦面。

遺物 復旧坑からではあるが、石臼(上臼)(3)が出土している。

所見 平成26年度調査で確認された12号煙の北に連なる位置関係から同一の遺構とした。27号平坦面は隣接する煙との境界部分に位置する。

備考 調査時の名称は28号煙。天明泥流後の復旧坑2基が存在する。



第84図 2～4号烟、9号烟、67～72号烟

## 8 13号烟(第85,98図)

位置 34区O～Q-11～16グリッド、調査区西部に位置する。

敵のピッチ 0.39m(北部)、0.38m(南部)。  
敵の走向(度) N-84-W(北部)、N-86-W(南部)。

付属施設 29号平坦面。

所見 平成26年度調査で確認された13号烟の北に連なる位置関係から同一の遺構とした。

備考 調査時の名称は29号烟。

## 9 14号烟(第85,98図、PL.15)

位置 34区N～P-12～15グリッド、調査区西部に位置する。

敵のピッチ 0.39m(北部)、0.40m(南部)。  
敵の走向(度) N-85-W(北部)、N-85-W。  
付属施設 30号平坦面。

所見 平成26年度調査で確認された14号烟の北に連なる位置関係から同一の遺構とした。

備考 調査時の名称は30号烟。

## 10 15号烟(第86,99,101～105図、PL.15,16,66,67)

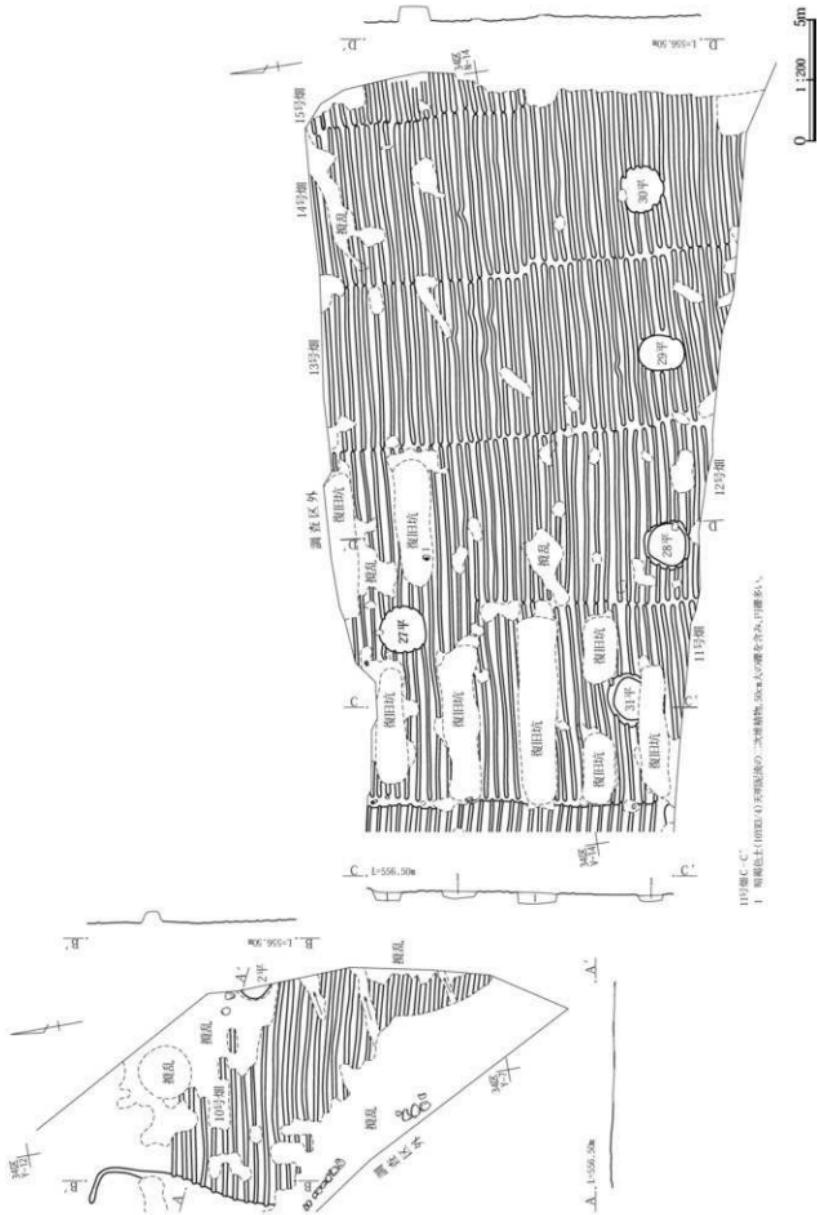
位置 34区L～N-10～15グリッド、調査区中部に位置する。

敵のピッチ 0.39m(北部)、0.41m(南部)。  
敵の走向(度) N-86-W(北部)、N-90(南部)。

付属施設 52号平坦面。

遺物 耕作面の上に、瀬戸・美濃陶器碗(4)、銅弦(9)、鐵鍋(10,11)、板材(5～8)が残されていた。このほかに、屋根を葺いた材や屋根材を固定するタケ材、木桶などが確認されている。

所見 平成26年度調査で確認された15号烟の北に連なる位置関係から同一の遺構とした。屋根材や家財については、烟地に残された搅乱から推測される泥流の向きに基づき、平成26年度調査の西辺建物群から流れ着いた可能



第85図 10~14号畠

性があるが、C1建物群あるいはD2建物群などに由来する可能性も否定しない。

**備考** 調査時の名称は52号烟。

#### 11 16号烟(第86、100図、PL.15)

**位置** 34区J～L-4～14グリッド、調査区中部に位置する。

**歴のピッチ** 0.38m(北部)、0.39m(中部)、0.39m(南部)。

**歴の走向(度)** N-90(北部)、N-88-E(中部)、N-88-E(南部)。

**付属施設** 53号平坦面、59号平坦面。

**所見** 平成26年度調査で確認された16号烟の北および東に連なる位置関係から同一の遺構とした。53号平坦面は隣の烟に接する位置にある。

**備考** 調査時の名称は北部が53号烟、中部が56号烟、南部が59号烟。

#### 12 17号烟(第87図、PL.16)

**位置** 35区M～N-20～21グリッド、調査区西端に位置する。

**歴のピッチ** 0.57m

**歴の走向(度)** N-29-E

**所見** 2号道を潰して烟地としている。D1建物群が占地する微高地の西に位置する。広めの歴が南北に走るが、微高地の西南斜面であり、等高線に交差する方向である。

**備考** 調査時の名称は17号烟。

#### 13 18号烟(第87図、PL.16)

**位置** 35区K～N-18～21グリッド、調査区西端に位置し、D1建物群の西に隣接する。

**歴のピッチ** 0.43m

**歴の走向(度)** N-61-W

**遺物** 資料化には至らなかったが、陶器片が出土している。

**所見** 摂乱により明確ではないが、15号建物との間に通路幅の間隔を保つと推測される。

**備考** 調査時の名称は18号烟。

#### 14 19号烟(第87図、PL.16)

**位置** 35区I～M-16～20グリッド、調査区西端、D1建物群の南に位置する。

**歴のピッチ** 0.40m(西部)、0.43m(東部)。

**歴の走向(度)** N-67-W(西部)、N-62-W(東部)。

**所見** 46号烟の復旧烟と異なり、烟地に残るAs-Aの上にのみ、浅く土をかぶせた状態が確認されている。烟の耕作土とは異なる土質の土が用いられており、烟外から持ち込まれたと推測される。

**備考** 調査時の名称は19号烟。

#### 15 20号烟(第87図、PL.16)

**位置** 35区H～I-18～19グリッド、調査区西端、D1建物群の東南、4号道の西に位置する。

**歴のピッチ** 0.95m

**歴の走向(度)** N-90

**所見** D1建物群と4号道との間隙を埋めるように設けられた烟であり、歴の長さは短いが、歴の幅は周辺の烟に倍する。自家消費の作物などの用途が想定される。

**備考** 調査時の名称は20号烟。

#### 16 21号烟(第87図、PL.17)

**位置** 35区H～I-16～18グリッド、調査区西端、D1建物群の南、4号道の西に位置する。

**歴のピッチ** 0.48m(北部)、0.41m(南部)。

**歴の走向(度)** N-82-W(北部)、N-74-W(南部)。

**所見** 明確な境もなく20号烟の南に連なるが、20号烟と異なり歴の幅は周辺の烟に等しい。また、烟の南北で植栽が相違する可能性も高い。なお、西側に位置する19号烟との間には幅0.4m前後の未耕作地を挟み、明確に分断されるが、その意図は不明である。

**備考** 調査時の名称は21号烟。

#### 17 22号烟(第88、97、98図、PL.17)

**位置** 35区D～H-15～19グリッド、調査区西部、D2建物群の西に位置する。

**歴のピッチ** 0.40m(西部)、0.42m(東部)。

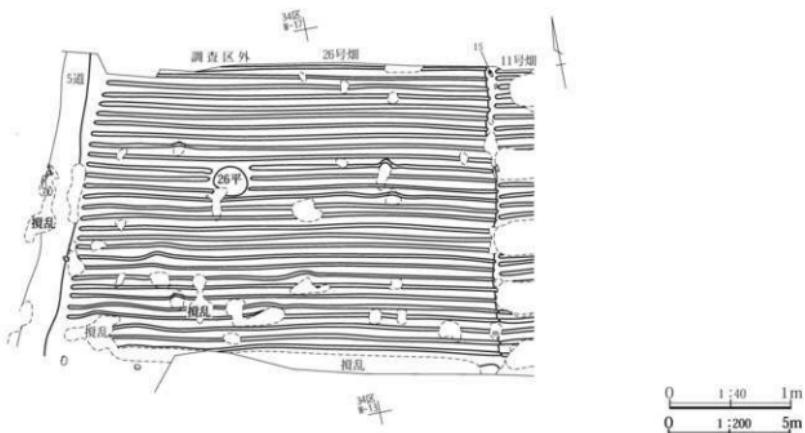
**歴の走向(度)** N-68-W(西部)、N-71-W(東部)。

**付属施設** 22号平坦面。

**遺物** 資料化には至らなかったが、陶器片が出土している。



第86図 15号烟、16号烟、54号烟、55号烟



第87図 17~21号烟、26号烟

る。

**所見** 煙地は23号烟に接するが歟の走向を異にする。立地の傾斜方位の相違に基づくと推察される。

**備考** 調査時の名称は22号烟。

18 23号烟(第88,98,105図、PL.17,67)

**位置** 35区D～I-12～17グリッド、調査区西部、D2建物群の西南に位置する。

**歎のピッチ** 0.39m(西部)、0.40m(東部)。

**歎の走向(度)** N-54-W(西部)、N-58-W(東部)。

**付属施設** 23号平坦面。

**遺物** 在地系土器内耳鉢(12)が出土している。

**所見** 煙地は22号烟に接するが歎の走向を異にする。立地の傾斜方位の相違に基づくと推察される。

**備考** 調査時の名称は23号烟。

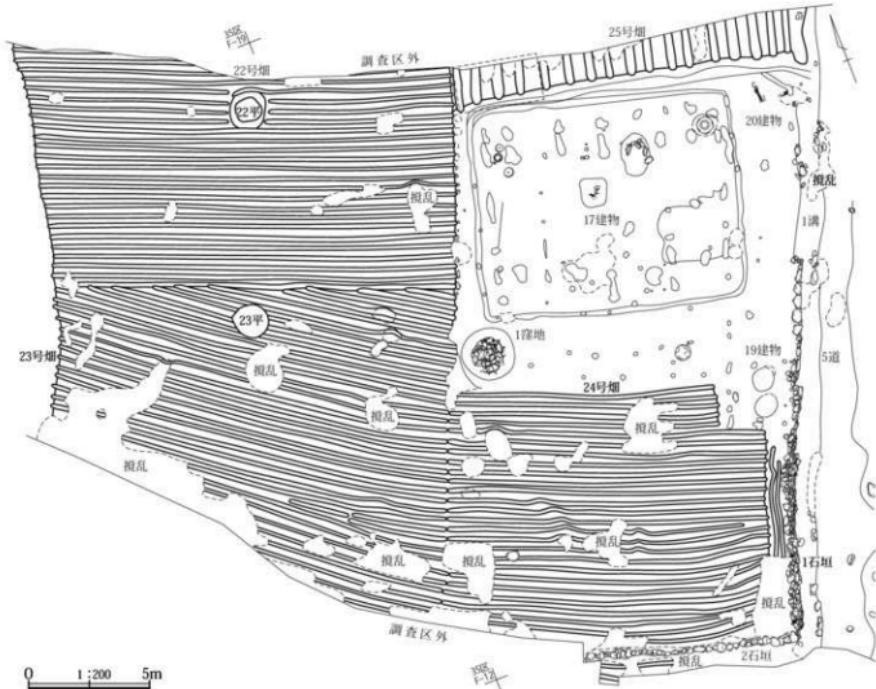
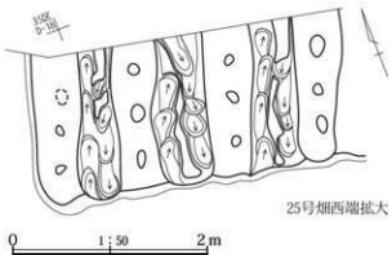
19 24号烟(第88図、PL.17,67)

**位置** 35区B～F-11～14グリッド、調査区西南部、D2建物群の南、1号溝の西に位置する。

**歎のピッチ** 0.40m(北部)、0.41m(南部)。

**歎の走向(度)** N-68-W(北部)、N-69-W(南部)。

**付属施設** 1号石垣、2号石垣。付属施設については後



第88図 22～25号烟

述する。

**遺物** 1号石垣近くから石臼片1点も確認されている。  
**所見** 24号烟は、D1建物群のある微高地から緩やかに下るテラスの南東端に位置する。南東端でのテラス下との比高は1.0m程度であり、24号烟の東に位置する1号溝は1/12勾配で南に下っている。テラス南東端を起点に北24mの地点から南の法面を保護するために1号石垣が設けられている。

なお、テラスの南辺を保護するために設けられた2号石垣の南から歓が確認されており、烟が広がる可能性が高いが、擾乱の中の痕跡にとどまり、遺構番号は付していない。

**備考** 調査時の名称は24号烟。

#### (1) 1号石垣(第89,106図、PL.17,18,67)

**位置** 35区A～C-11～14グリッド、調査区西部、24号烟と1号溝との境に位置する。

**規模** 長さ16.3m、高さ1.3m。

**主軸方向(度)** N-21-E

**遺物** 石組みの中から石臼上下各1点(14,13)が出土している。

**所見** 使用されている石は、表になる面や上下になる面をはつり、平らに加工されてはいるが、大きさや形を揃えるまでの細工は行われていない。大きい石を下に、小振りな石を上に組み、その断面も手前を厚く、奥を薄く加工してあり、切込み接ぎに近い組み方といえる。裏込め等の痕跡は確認されていない。5号道出土とした瀬戸・美濃陶器片口鉢(5号道2)は1号石垣掘り方出土遺物と接合しており、石垣構築の時期を示唆する可能性を有する。

#### (2) 2号石垣(第89図、PL.18)

**位置** 35区B～E-11グリッド、調査区西部、24号烟の南に位置する。

**規模** 長さ(8.76)m、高さ1.1m。

**主軸方向(度)** N-74-W

**所見** 1号石垣と異なり、野面積みで組まれている。表になる面を平らに加工した石が一部に用いられているが、用いられている石の多くは未加工の自然石である。裏込め等の痕跡は特に認められない。

#### 20 25号烟(第88図、PL.18)

**位置** 34区Y～35区D-16～17グリッド、調査区西部、D2ユニットの北に位置する。

**歓のピッチ** 0.87m

**歓の走向(度)** N-13-E

**遺物** 資料化には至らなかったが、陶器片が出土している。

**所見** 歓幅は広い。歓は南北に走向するが、検出範囲に限っては等高線に交差する方向となっている。歓の間を行き来して歓を起こした痕跡が明確に残されていた。歓に残る窪みを株跡とすると、株間は平均0.41m、株跡をつなぐ線の方向は、北から18度東に振れている。

**備考** 調査時の名称は25号烟。

#### 21 26号烟(第87,98,106図、PL.19,68)

**位置** 34区U～Y-13～16グリッド、調査区西部、C1建物群の北に位置する。

**歓のピッチ** 0.42m(北部)、0.42m(南部)。

**歓の走向(度)** N-77-W(北部)、N-79-W(南部)。

**付属施設** 26号平坦面。

**遺物** 龍泉窯青磁片(16)、石臼(下白)(15)が出土している。このほかに耕作土中から陶器片も確認されている。

**所見** 歓の長さは長い部類に属す。西に接する11号烟との間に未耕作部分が存在する。石臼はこの未耕作部分に残されていた。

**備考** 調査時の名称は26号烟。

#### 22 32号烟(第90図、PL.19)

**位置** 33区Q～T-10～12グリッド、調査区中部、2号溝の東に位置する。

**歓のピッチ** 0.40m

**歓の走向(度)** N-86-W

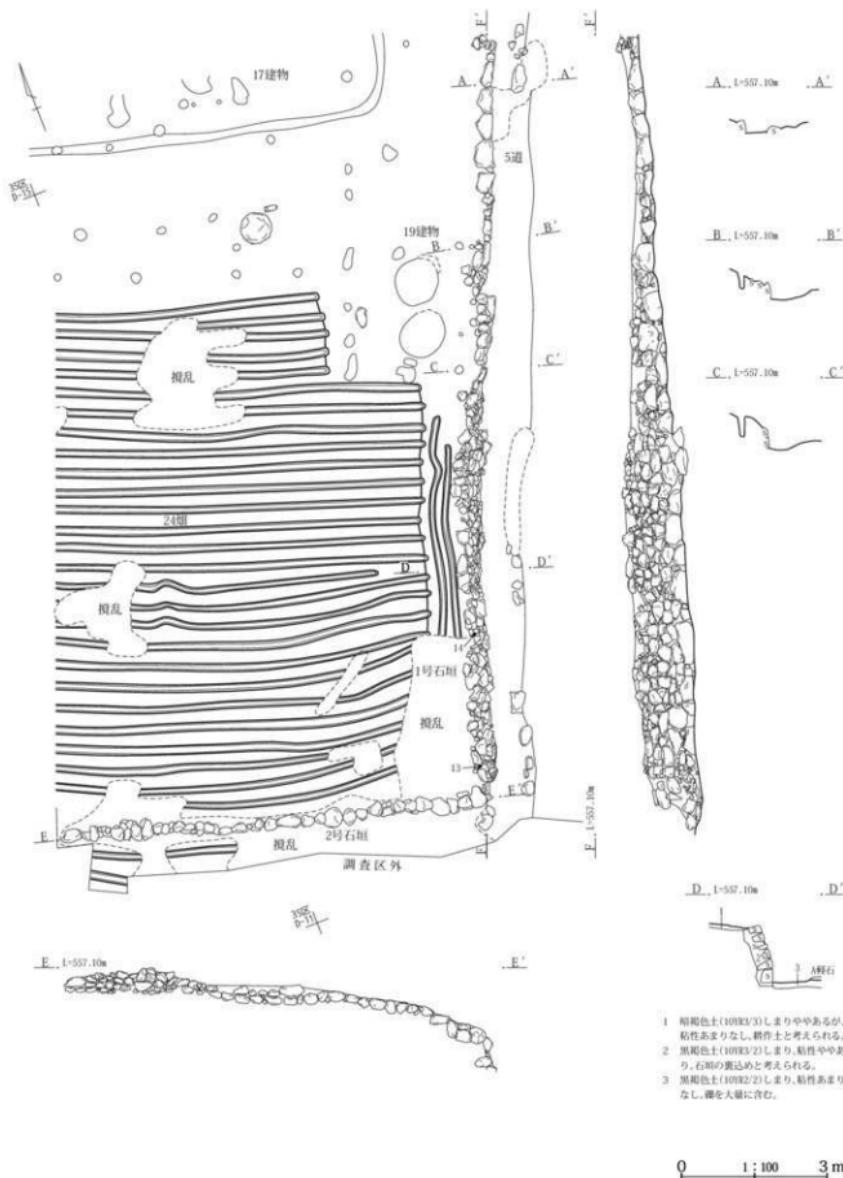
**所見** 部分的な検出にとどまり、単位等の把握はできない。

**備考** 調査時の名称は32号烟。

#### 23 33号烟(第90図、PL.19)

**位置** 33区R～V-5～7グリッド、調査区中部3号溝と1号道の間に位置する。

**歓のピッチ** 計測不能。



第89図 1号石垣、2号石垣

敵の走向(度) 計測不能。

所見 部分的な検出にとどまり、単位等の把握はできない。

備考 調査時の名称は33号烟。

24 34号烟(第90図、PL.19)

位置 33区M～Q-3～4グリッド、調査区中部、3号溝の南に位置する。

敵のピッチ 計測不能。

敵の走向(度) N-89-W

所見 部分的な検出にとどまり、単位等の把握はできない。

備考 調査時の名称は34号烟。

25 35号烟(第90図、PL.19)

位置 33区I～L-2～4グリッド、調査区中部、3号溝の南に位置する。

敵のピッチ 0.57m

敵の走向(度) N-73-W

付属施設 1号ヤックラ。付属施設については後述する。

所見 部分的な検出にとどまり、単位等の把握はできない。

備考 調査時の名称は35号烟。

(1) 1号ヤックラ(第90図、PL.19)

位置 33区I～L-1～3グリッド、35号烟の南に位置する。

規模 13.2×4.2m

主軸方向(度) N-64-W

所見 緩やかに下る北向きの斜面が、3号溝のある谷底に向けて傾斜が急になる際の部分、35号烟の山側に位置する。石の持ち運びを考慮すれば、ヤックラの南側の緩斜面で生じた不要な石で谷の縁を保護したものと推測される。

26 36号烟(第91図、PL.19)

位置 33区C～F-17～18グリッド、調査区東部北辺に位置する。

敵のピッチ 0.40m

敵の走向(度) N-87-W

所見 立地は上位の段丘面に続く崖の根方にあたり、敵は等高線に平行に作られている。烟の残り具合は断続的であり、単位等の把握はできない。

備考 調査時の名称は36号烟。

27 37号烟(第91図、PL.19,20)

位置 33区J～N-16～18グリッド、調査区中部北辺に位置する。

敵のピッチ 0.47m

敵の走向(度) N-77-W

付属施設 2号ヤックラ、3号ヤックラ。付属施設については後述する。

所見 立地は上位の段丘面に続く崖の根方にあたり、敵は等高線に平行に作られている。烟の残り具合は良好とは言えず、単位等の把握は難しい。

備考 調査時の名称は37号烟。

(1) 2号ヤックラ(第91図、PL.19,20)

位置 33区J～K-16～18グリッド、37号烟の東に位置する。

規模 (6.5)×2.4m

主軸方向(度) N-7-E

所見 ヤックラの東に残る擾乱は、烟1区画分にも相当する広さであり、この領域に存在していたであろう烟と37号烟の不要な石を集積したものと推測される。

(2) 3号ヤックラ(第91図、PL.20)

位置 33区M～O-16～17グリッド、37号烟の西に位置する。

規模 (6.8)×2.0m

主軸方向(度) N-58-E

所見 上位の段丘面に続く崖の際であり、崩落土の露頭に、周辺の不要な石を集積したものと推測される。

28 38号烟(第91図、PL.20)

位置 33区S～Y-17～20グリッド、調査区中部北辺に位置する。

敵のピッチ 0.55m(西部)、0.51m(東部)。

敵の走向(度) N-79-W(西部)、N-80-W(東部)。

付属施設 3号石垣、4号ヤックラ。付属施設について



第300図 32~35号烟、65号烟、66号烟



第91図 36~38号烟

は後述する。

**所見** 立地は上位の段丘面に続く崖の根方にあたり、歓は等高線に平行に作られている。畠の半分近くが搅乱であり、3号石垣と4号ヤックラに挟まれた領域を一面としたが、畠西端において歓がV字状に交差しており、領域の南北でそれぞれ異なる畠となる可能性もある。

**備考** 調査時の名称は38号畠。

#### (1) 3号石垣(第91図、PL.20)

**位置** 33区 S～T-17～18グリッド、38号畠の東に位置する。

**規模** (3.8)m

**主軸方向(度)** N-1-E

**所見** 東に隣接する岩盤の露頭との境にある石列である。調査時の所見に基づき石垣としたが、耕作可能領域の目印としての意味合いが強いと思われる。

#### (2) 4号ヤックラ(第91図、PL.20)

**位置** 33区 X～Y-19～20グリッド、38号畠の西に位置する。

**規模** (4.6)×(2.5)m

**主軸方向(度)** N-19-E

**所見** 周辺の畠の不要な石を、上位段丘面に続く崖の崩落土の上に集めた遺構と推測される。

#### 29 39号畠(第92図、PL.20)

**位置** 34区 C～F-19～21グリッド、調査区中部北辺に位置する。

**歓のピッチ** 0.46m

**歓の走向(度)** N-82-W

**所見** 立地は上位の段丘面に続く崖の根方にあたり、歓は等高線と斜交する方向に作られている。40号畠とは搅乱を境とする。歓の方向が異なるため別遺構としたが、40号畠と39号畠とは土地の傾斜が相違するため、傾斜なりに歓を起こしたとすれば同一の畠である可能性が高い。

**備考** 調査時の名称は39号畠。天明泥流後の復旧坑が2基存在する。調査時所見は耕作状況を2類とする。

#### 30 40号畠(第92図、PL.20)

**位置** 34区 F～H-21グリッド、調査区中部北辺に位置する。

**歓のピッチ** 計測不能。

**歓の走向(度)** N-87-W

**所見** 立地は上位の段丘面に続く崖の根方にあたり、歓は等高線に平行に作られている。

**備考** 調査時の名称は40号畠。

#### 31 41号畠(第92図)

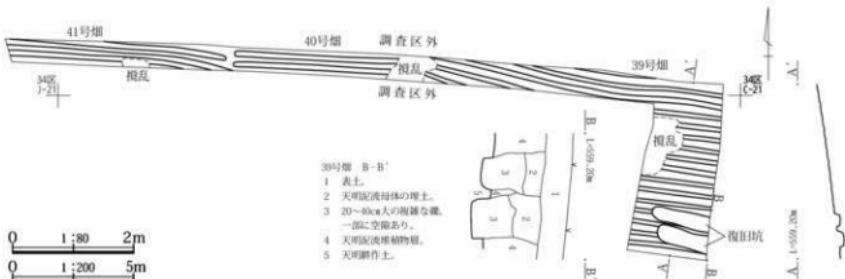
**位置** 34区 H～J-21グリッド、調査区中部北辺に位置する。

**歓のピッチ** 計測不能。

**歓の走向(度)** N-86-W

**所見** 立地は上位の段丘面に続く崖の根方にあたり、歓は等高線に交差する方向に作られている。

**備考** 調査時の名称は41号畠。



第92図 39～41号畠



### 第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

32 42号烟(第93図、PL.20)

位置 34区J～M-20～23グリッド、調査区西部北辺に位置する。

歟のピッチ 0.45m

歟の走向(度) N-84-W

所見 立地は上位の段丘面に続く崖の根方にあたり、歟は等高線に平行する方向に作られている。

備考 調査時の名称は42号烟。調査時所見による耕作状況の分類は7類(山側への1番ザク?)とされる。

33 43号烟(第93,99図)

位置 34区M～W-22～25グリッド、調査区西部北辺に位置する。

歟のピッチ 0.37m(中央東)、0.42m(東端部)、0.36m(西端部)、0.36m(中央西)。

歟の走向(度) N-77-W(中央東)、N-76-W(東端部)、N-86-W(西端部)、N-88-W(中央西)。

付属施設 43号平坦面、45号平坦面。

所見 立地は上位の段丘面に続く崖の根方にあたり、歟は等高線に斜交する方向に作られている。なお、中央東と中央西の歟の傾きの差は地形に依存しており、谷にあたる屈曲部は中央西の東部に存在する。

備考 調査時の名称は、東端部および中央東が43号烟、西端部および中央西が45号烟。天明泥流後の復旧坑21基が存在する。43号烟と45号烟は天明泥流後の復旧坑により区分されていたが、歟のピッチと走向に基づき一面とした。43号平坦面は43号烟と44号烟の境界に位置する。なお、調査時所見による耕作状況の分類は、43号烟および45号烟とともに2類とされる。

34 44号烟(第93,99図、PL.)\*

位置 34区M～W-21～22グリッド、調査区西部北辺に位置する。

歟のピッチ 0.46m

歟の走向(度) N-87-W

付属施設 43号平坦面。

所見 立地は上位の段丘面に続く崖の根方にあたり、歟は等高線に斜交する方向に作られている。歟のピッチと走向に基づき、45号烟南端部と44号烟を1面とした。

備考 調査時の名称は東部が44号烟、西部が45号烟。43

号平坦面は43号烟と44号烟の境界に位置する。天明泥流後の復旧坑12基が存在する。44号烟の調査時所見に基づく耕作状況の分類は7類(山側への1番ザク?)とされる。

35 46号烟(第94,106図、PL.21,68)

位置 34区W～Y-22～25グリッドおよび35区A～B-22～25グリッドおよび45区B-1グリッド、調査区西部北辺、22号建物の北に位置する。

歟のピッチ 0.43m

歟の走向(度) N-81-W

遺物 肥前陶器陶胎染付碗(17)が出土している。

所見 歚は等高線に平行する方向に作られたと推測される。本来の46号烟の大部分は、浅間山噴火に対する降灰対策が施されている。対策の施された面は別途に復旧烟として後述する。なお、平成7年度調査の45-2号烟と46号烟が同一の烟である可能性は高い。平成7年度調査の44-1号住居の南に位置する。

備考 調査時の名称は46号烟。

36 47号烟(第94,99図、PL.21)

位置 35区B～G-22～25グリッドおよび45区D～G-1～2グリッド、調査区西部、23号建物の東に位置する。歚のピッチ 0.40m(東側)、0.40m(西側北部)、0.40m(西側南部)。

歚の走向(度) N-83-W(東側)、N-86-W(西側北部)、N-87-W(西側南部)。

付属施設 48号平坦面。

所見 平成7年度調査の45-1号烟の両側に位置する烟であり、歚のピッチと歚の走向に基づき同一の面とした。47号烟(西側)と23号建物敷地との間には幅0.8m程度の隙間が存在するが、この隙間は通路としてだけでなく、降雨時の排水路としても機能していたものと推察される。

備考 調査時の名称は東側が47号烟、西側が48号烟。調査時所見による耕作状況の分類は旧47号烟と旧48号烟とともに2類とされる。

37 48号烟(第94図、PL.21)

位置 45区F-1～2グリッド、調査区西部に位置する。

歚のピッチ 0.33m

敵の走向(度) N-89-W

所見 調査時点では49号烟の一部とされていたが、敵の溝が連続していないので、小範囲ではあるが別途の遺構とした。

38 49号烟(第94図、PL.21)

位置 45区F～H-1～2 グリッド、調査区西部、23号建物の北に位置する。

敵のピッチ 0.39m

敵の走向(度) N-85-W

付属施設 4号石垣。付属施設については後述する。

所見 部分的な検出にとどまるが、敵の走向は等高線に平行すると推測される。

備考 調査時の名称は49号烟。調査時所見による耕作状況の分類は2類とされる。

(1) 4号石垣(第94図、PL.21)

位置 45区F～J-1 グリッド、49号烟南辺に位置する。

規模 (16.23)m

主軸方向(度) N-88-W

遺物 石垣前面から瀬戸・美濃陶器すり鉢(23号建物14)が出土している。

所見 49号烟とその南に位置する23号建物の敷地とでは0.4m程度の高低差が存在する。建物後背の畠地の保全のために設けられた施設と推測される。もともと存在していたと推察される大石を基準に、割石を乱雑に積み上げた打込み接ぎと推測される。裏込めについては記録されていない。出土のすり鉢は石垣基部に張り付くようにして残されていた。23号建物に由来すると推察される。

39 50号烟(第93図、PL.21,68)

位置 45区H～I-2～4 グリッド、調査区西端に位置する。

敵のピッチ 0.88m

敵の走向(度) N-82-W

付属施設 74号土坑。付属施設については後述する。

所見 部分的な検出に伴うが、敵の走向は等高線に平行すると推測される。

備考 調査時の名称は50号烟。調査時所見による耕作状況の分類は2類または8類とされる。

(1) 74号土坑(第93,106図、PL.21,68)

位置 45区I～J-3～4 グリッド、50号烟の西に位置する。

形状 底部は径の異なる半円を向かい合わせたような概ね円形。掘り方に粘土を貼り込み、底面には円形の溝が残る。

規模 1.32×1.28m、深さ(0.54)m。

主軸方向(度) N-43-W

埋没土 土坑の内側に張り付けられた粘土に桶の外形が残され、5～15cm大の角礫や亜角礫が多く含む、泥流とは異なる埋め土で覆われていた。

遺物 埋没土より瀬戸・美濃陶器小碗(18)、瀬戸・美濃陶器腰鉢碗(19)、瀬戸・美濃陶器筒型香炉(20)が出土している。

所見 木質遺物の残存は確認されていない。埋設されていた桶を抜き取った後、埋め戻した遺構と推測される。畠地に存在する点と、推定される桶の口径を考慮し、廃棄された野菜の跡と推察される。撲乱の中からの検出のため、上屋等の痕跡は確認されていない。

備考 調査所見によれば、埋め戻された遺構であり、本来の土坑開口面より数10cm下位から検出されたとあり、天明3年以前の遺構とされる。

40 51号烟(第93,99図、PL.21,22)

位置 45区F～I-4～5 グリッド、調査区西端に位置する。

敵のピッチ 0.50m

敵の走向(度) N-89-W

付属施設 51号平坦面。

所見 部分的な検出にとどまり、単位等の把握はできない。

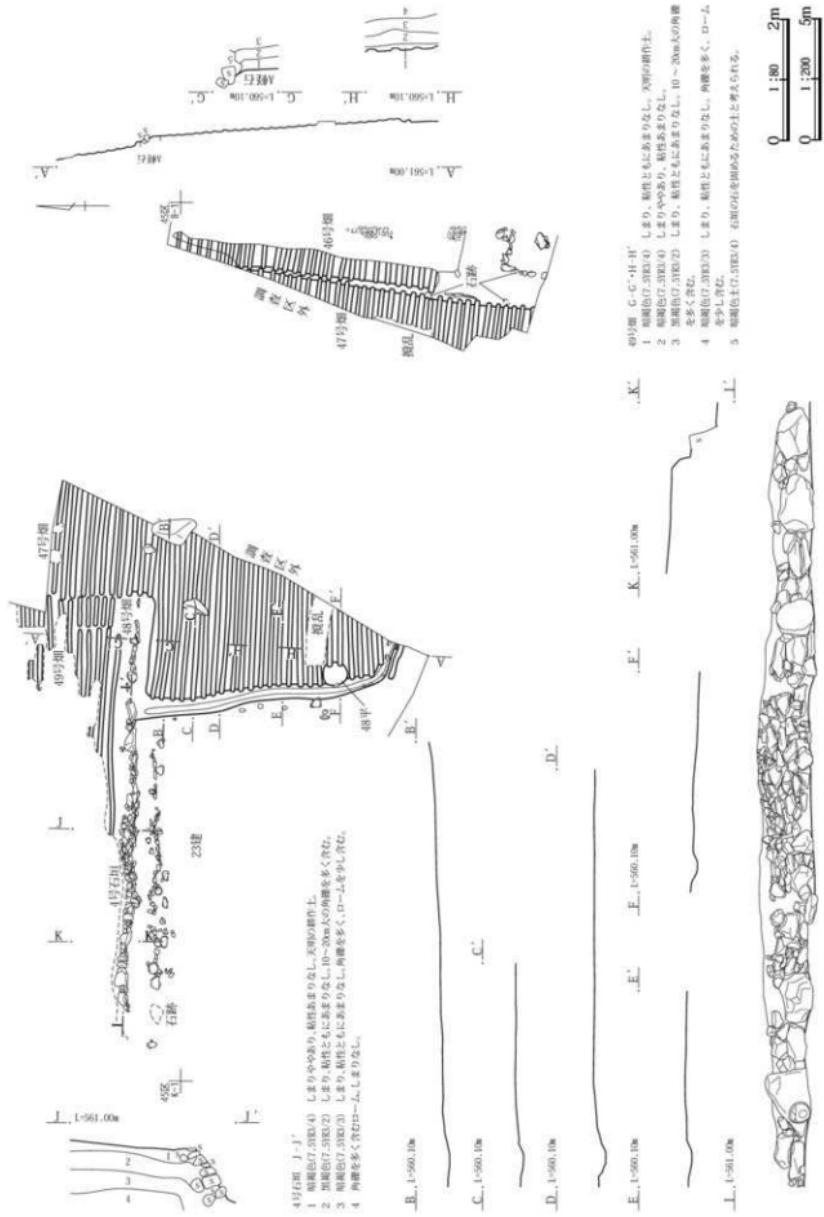
備考 調査時の名称は51号烟。調査時所見による耕作状況の分類は8類とされる。

41 54号烟(第86,100,101図)

位置 34区H～J-4～14 グリッド、調査区西部に位置する。

敵のピッチ 0.39m(北部)、0.40m(中部北)、0.41m(中部南)、0.41m(南部)。

敵の走向(度) N-87-W(北部)、N-88-E(中部北)、



N-88-E(中部南)、N-85-E(南部)。

**付属施設** 54号平坦面、57号平坦面、60号平坦面。

**所見** 故のピッチと走向に基づき、調査時に南北三区画であったものを同一区画とした。

**備考** 調査時の名称は北部が54号烟、中部が57号烟、南部が60号烟。57号平坦面は16号烟と54号烟の境界に位置する。調査時、天明泥流により運び込まれた、差し渡し3mの浅間石が残されていた。

42 55号烟(第86,100,101図)

**位置** 34区F～H-4～14グリッド、調査区中部に位置する。

**故のピッチ** 0.40m(北部)、0.37m(中部北)、0.38m(中部南)、0.38m(南部)。

**故の走向(度)** N-90(北部)、N-90(中部北)、N-88-E(中部南)、N-89-W(南部)。

**付属施設** 55号平坦面、58号平坦面、61号平坦面。

**所見** 故のピッチと走向に基づき、調査時に南北三区画であったものを同一区画とした。

**備考** 調査時の名称は北部が55号烟、中部が58号烟、南部が61号烟。58号平坦面および61号平坦面は55号烟と54号烟の境界に位置する。

43 62号烟(第95,101図、PL.22)

**位置** 34区D～F-5～14グリッド、調査区中部に位置する。

**故のピッチ** 0.40m(北部西)、0.39m(北部東)、0.39m(南部西)、0.41m(南部東)。

**故の走向(度)** N-89-W(北部西)、N-89-E(北部東)、N-89-E(南部西)、N-89-W(南部東)。

**付属施設** 63号平坦面、64号平坦面、6号ヤックラ。付属施設については後述する。

**所見** 故のピッチと走向に基づき、調査時に南北二区画であったものを同一区画とした。

**備考** 調査時の名称は北部が62号烟、南部が64号烟。63号平坦面および64号平坦面は62号烟と63号烟の境界に位置する。

(1) 6号ヤックラ(第95図、PL.22)

**位置** 34区C～G-3～5グリッド、調査区中部、62号

烟および63号烟の南、1号道の北に位置する。

**規模** 16.22×4.06m

**主軸方向(度)** N-69-E

**所見** 6号ヤックラは周辺の不要な石を1号道沿いに集積したものと推察される。

44 63号烟(第95,101図)

**位置** 34区B～D-5～14グリッド、調査区中部に位置する。

**故のピッチ** 0.40m(北部)、0.41m(南部)。

**故の走向(度)** N-88-E(北部)、N-84-E(南部)。

**付属施設** 63号平坦面、64号平坦面。

**所見** 63号平坦面と64号平坦面の間に広がる畠地の残り具合は良好とは言えない。63号烟の南端部と62号烟の南端部とを合わせて個別の1区画ともし得るが、隣接する畠と故の長さが大きく相違することになる。また調査区西半の畠地については、畠の境に平坦面を設置する傾向が認められるため、62号烟と63号烟の2区画とした。

**備考** 調査時の名称は北部が63号烟、南部が64号烟。平坦面はふたつとも62号烟と63号烟の境界に位置する。

45 65号烟(第90図)

**位置** 33区V～Y-9～13グリッドおよび34区A～B-9～13グリッド、調査区中部、2号溝の西に位置する。

**故のピッチ** 0.54m

**故の走向(度)** N-87-W

**所見** 部分的な検出にとどまり、単位等の把握はできない。

**備考** 調査時の名称は65号烟。

46 66号烟(第90図)

**位置** 33区W～Y-7～8グリッドおよび34区A～B-7～8グリッド、調査区中部に位置する。

**故のピッチ** 0.48m

**故の走向(度)** N-87-W

**所見** 部分的な検出にとどまり、単位等の把握はできない。

**備考** 調査時の名称は66号烟。



第95図 62号烟、63号烟

## 47 67号烟(第84図)

位置 24区 F ~ H-25グリッドおよび34区 F ~ H-1 ~ 2グリッド、調査区中部に位置する。

敵のピッチ 0.55m

敵の走向(度) N-22-E

所見 部分的な検出にとどまり、単位等の把握はできない。敵は等高線に沿って南北に走向する。

備考 調査時の名称なし。

## 48 68号烟(第84図)

位置 34区 B ~ E-2 ~ 4グリッド、調査区中部、1号道の南に位置する。

敵のピッチ 0.74m

敵の走向(度) N-12-E

所見 敵は等高線に沿って南北に走向する。

備考 調査時の名称なし。

## 49 69号烟(第84図)

位置 33区 W ~ Y-5 ~ 6グリッド、調査区中部、1号道の南に位置する。

敵のピッチ 計測不能。

敵の走向(度) N-82-W

所見 部分的な検出にとどまり、単位等の把握はできない。

備考 調査時の名称なし。

## 50 70号烟(第84図、PL22)

位置 33区 U ~ Y-1 ~ 5グリッドおよび34区 A ~ B-2 ~ 5グリッド、調査区中部、1号道の南に位置する。

敵のピッチ 0.47m(西部)、0.50m(東部)。

敵の走向(度) N-77-W(西部)、N-78-W(東部)。

所見 南に位置する3号烟との境界は確定しがたいが、便宜的に区分した。

備考 調査時の名称なし。

## 51 71号烟(第84図)

位置 34区 B ~ C-4 ~ 5グリッド、調査区中部、1号道の南に位置する。

敵のピッチ 0.50m

敵の走向(度) N-74-W

所見 70号烟との間で敵の溝が分断されており、70号烟と区分し、個別の烟とした。

備考 調査時の名称なし。

## 52 72号烟(第84図、PL22)

位置 33区 O ~ P-2 ~ 3グリッド、調査区中部、1号道の南に位置する。

敵のピッチ 0.45m

敵の走向(度) N-81-W

所見 部分的な検出にとどまり、単位等の把握はできない。

備考 調査時の名称なし。

## 53 復旧烟(第96図、PL22)

位置 34区 W ~ Y-22 ~ 25グリッドおよび35区 A ~ B-22 ~ 25グリッドと45区 A ~ B-1グリッド、調査区西部、1号溝の西、22号建物の北に位置する。

規模 14.5×(11.7)m

主軸方向(度) N-79-W

付属施設 5号ヤックラ。付属施設については後述する。  
所見 復旧烟とした一帯は、耕作土中に浅間山噴火に伴う軽石が存在していた領域である。天明泥流堆積以前に、軽石の積もった烟に対して鍛込みが行われたことが調査時に確認されている。46号烟は平成7年度調査の45-2号烟に続くものと推測されるが、その敵の長さは4m程度であり、復旧烟の範囲はこれより広い。46号烟の東に異なる烟が存在したことが予想される。

備考 調査時の名称は46号烟。天明泥流後の復旧坑1基が存在する。22号建物に由来すると推測される粘土が堆積していた。

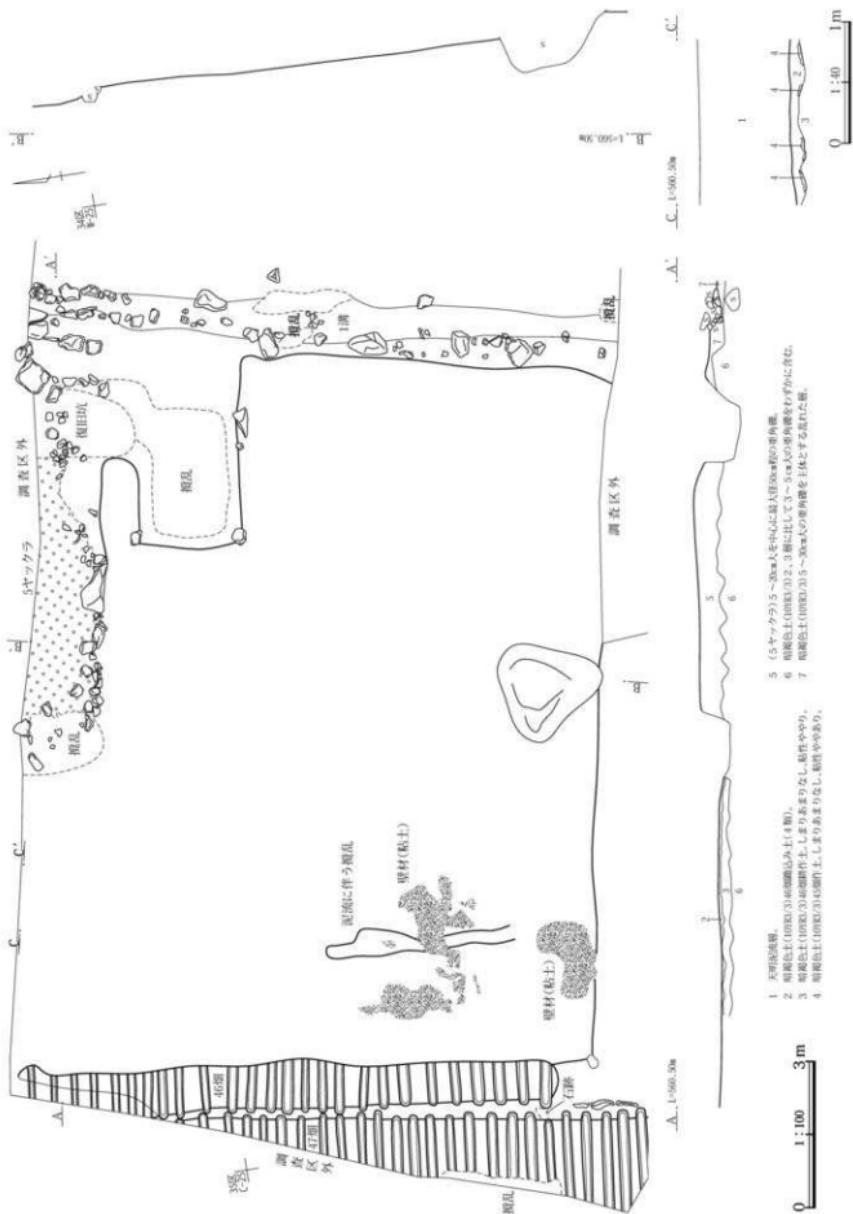
## (1) 5号ヤックラ(第96図、PL22)

位置 34区 X ~ Y-25グリッド、復旧烟の北に位置する。

規模 (5.3)×(1.8)m

主軸方向(度) N-77-W

所見 5号ヤックラは平成7年度調査の44-1号住居とその南に位置する復旧烟との境界をなす位置に存在する。周辺の烟や、44-1号住居建設に伴い生じた不要な石の集積場として利用されたと推測される。



第96図 復旧期

## 54 平坦面(第97~101図)

平成28年度調査で確認された平坦面は24基である。

このうちの7基は両隣の烟の間に位置しており、これらはいずれも調査区西部から中部にかけての烟に帰属する。平成26年度調査地はこの領域に隣接した場所であつた。

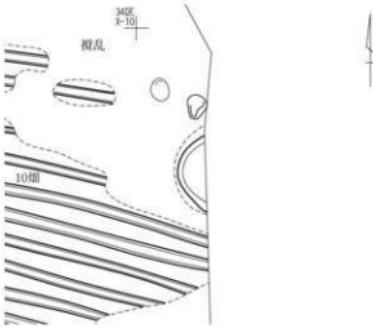
が、烟をまたぐ平坦面は確認されていない。

平坦面の差し渡しはおよそ1mから2mと幅があるが、その平均は1.84mとなる。なお、外周のみが確認され、外形に沿う溝が確認されていない平坦面は8基である。

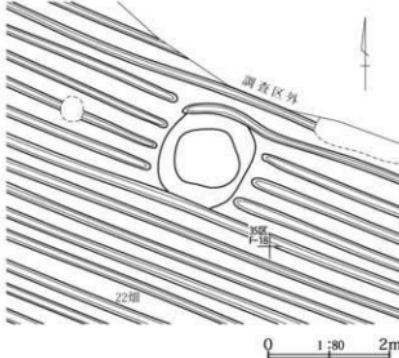
第28表 平坦面計測表

遺構名	帰属烟	検出位置	外寸 (m)	(度)	内寸 (m)	(度)	内外差 (m)	備考	帰属烟 旧名称
			長軸	短軸	長軸方向	長軸	短軸		
2号平坦面	10煙	34[K]W-9	1.26	(0.45) (N-2-W)	0.96	(0.38) (N-2-W)	0.30		10煙
22号平坦面	22煙	35[K]F-18	1.09	1.42 (N-24-E)	1.11	1.03 (N-51-W)	0.39		22煙
23号平坦面	23煙	35[K]F-G-16	1.50	1.34 N-61-W	—	—	—	外周のみ	23煙
26号平坦面	26煙	34[K]W-X-15	1.73	1.38 N-70-W	1.37	1.24 N-61-W	0.36 0.14		26煙
27号平坦面	27~28煙	11・12煙 34[K]S-15	1.97	1.97 —	1.54	1.45 N-44-W	0.43 0.52		27~28煙
28号平坦面	28煙	12煙 34[K]R-S-12~13	2.05	1.94 N-53-W	1.75	1.61 N-67-E	0.30 0.33		28煙
29号平坦面	29煙	13煙 34[K]P-Q-12	1.89	1.45 N-10-E	—	—	—	外周のみ	29煙
30号平坦面	30煙	14煙 34[K]O-12	1.95	1.81 N-57-W	—	—	—	外周のみ	30煙
31号平坦面	31煙	11煙 34[K]T-13	2.19	(1.33) (N-89-W)	1.71	(1.03) (N-89-W)	0.48		31煙
43号平坦面	43~44煙	34[K]N-22	1.53	1.39 N-83-E	1.31	1.12 N-87-W	0.22 0.27		43~44煙
45号平坦面	45煙	43煙 34[K]T-24	1.45	(0.58) (N-11-E)	1.13	(0.42) (N-11-E)	0.32		45煙
48号平坦面	48煙	35[K]F-24	1.03	1.03 —	—	—	—	外周のみ	48煙
51号平坦面	51煙	51煙 45[K]I-4~5	1.59	1.38 N-34-W	1.39	1.21 N-34-W	0.20 0.17		51煙
52号平坦面	52煙	15煙 34[K]M-12~13	2.09	1.82 N-79-E	1.59	1.30 N-68-E	0.50 0.52		52煙
53号平坦面	53煙	16煙 34[K]L-13	1.50	1.26 N-77-E	—	—	—	外周のみ	53煙
54号平坦面	54煙	34[K]I-12~13	1.42	1.18 N-81-E	—	—	—	外周のみ	54煙
55号平坦面	55煙	34[K]G-13	1.68	1.51 N-3-E	—	—	—	外周のみ	55煙
57号平坦面	56~57煙	16・54煙 34[K]J-8~9	1.99	1.93 N-29-W	1.49	1.32 N-22-E	0.50 0.61		56~57煙
58号平坦面	58煙	54・55煙 34[K]M-8~9	1.65	1.60 N-2-E	1.27	1.19 N-4-E	0.38 0.41		58煙
59号平坦面	59煙	16煙 34[K]K-4	1.84	(1.70) (N-6-W)	—	—	—	外周のみ	59煙
60号平坦面	60煙	54煙 34[K]I-4	2.17	1.96 N-55-E	1.66	1.43 N-51-E	0.51 0.53		60煙
61号平坦面	61煙	55煙 34[K]G-H-4	1.97	1.73 N-42-W	1.49	1.28 N-46-W	0.48 0.45		61煙
63号平坦面	63~64煙	62・63煙 34[K]D-7~8	2.47	1.95 N-13-W	1.93	1.55 N-5-W	0.54 0.40		63~64煙
64号平坦面	63~64煙	62・63煙 34[K]D-5~6	1.93	1.89 N-89-W	1.46	1.38 N-1-E	0.47 0.51		63~64煙

2号平坦面

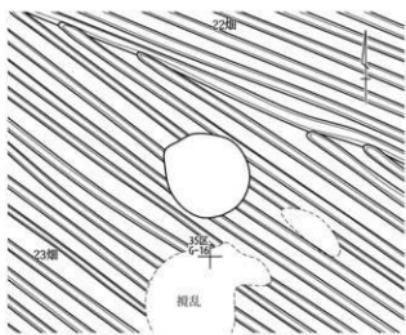


22号平坦面

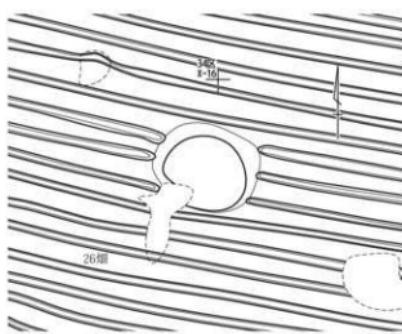


第97図 平坦面 1

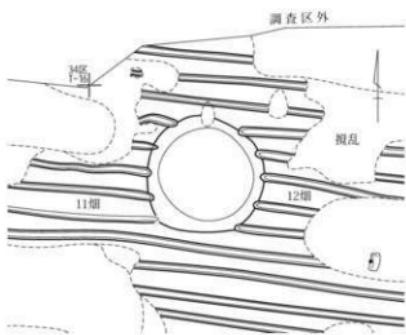
23号平坦面



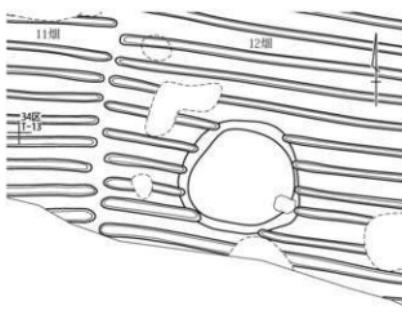
26号平坦面



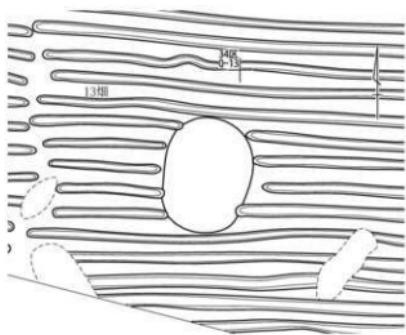
27号平坦面



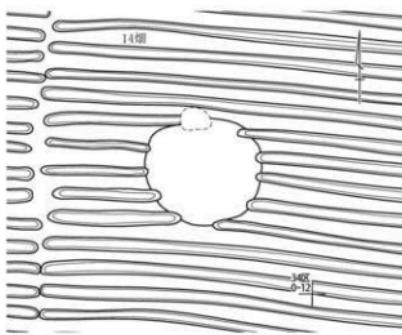
28号平坦面



29号平坦面



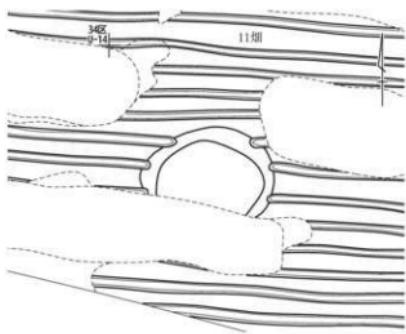
30号平坦面



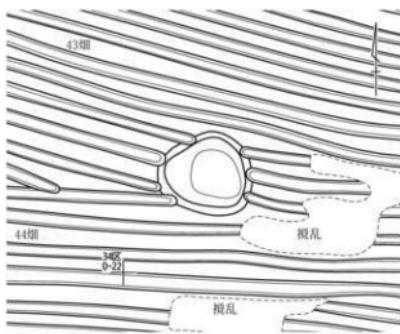
0 1:80 2m

第98図 平坦面 2

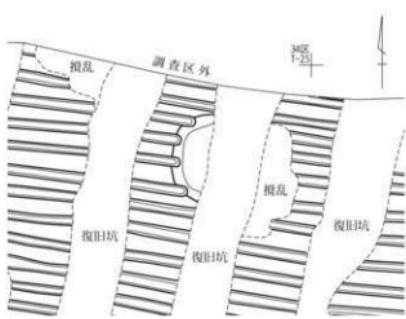
31号平坦面



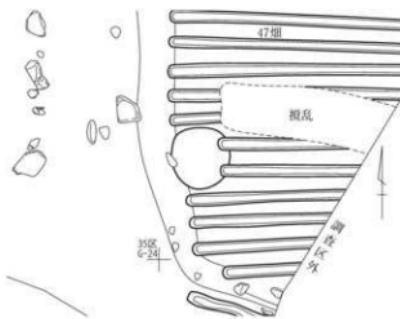
43号平坦面



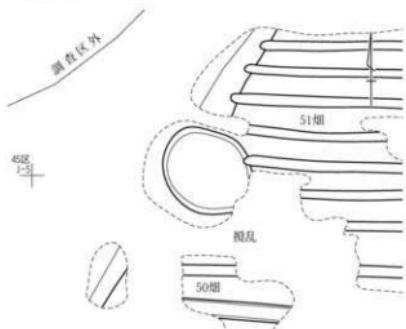
45号平坦面



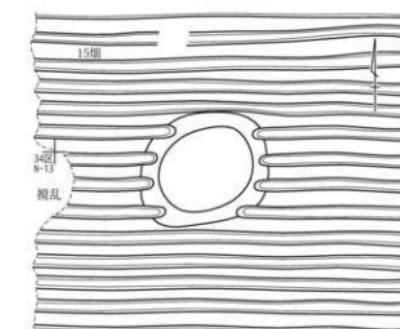
48号平坦面



51号平坦面

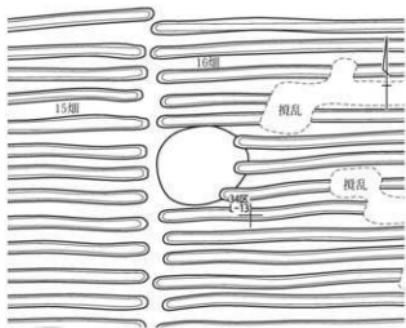


52号平坦面

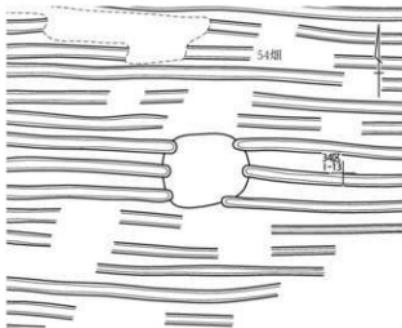


第99図 平坦面 3

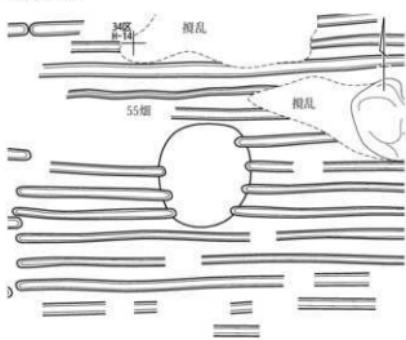
53号平坦面



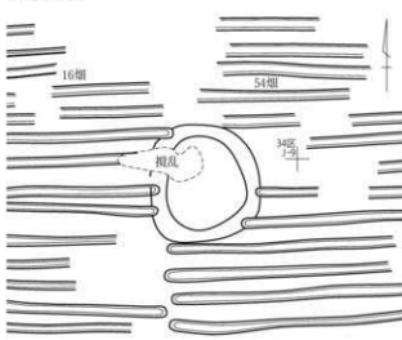
54号平坦面



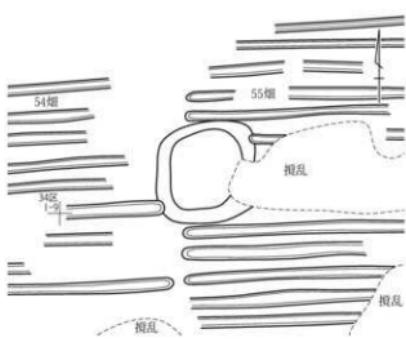
55号平坦面



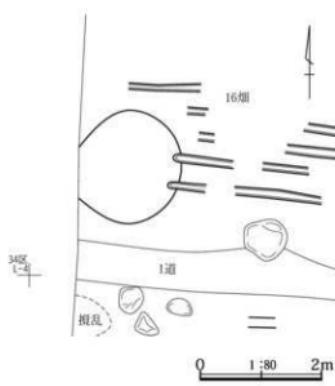
57号平坦面



58号平坦面

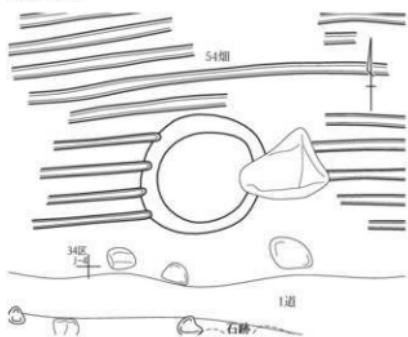


59号平坦面

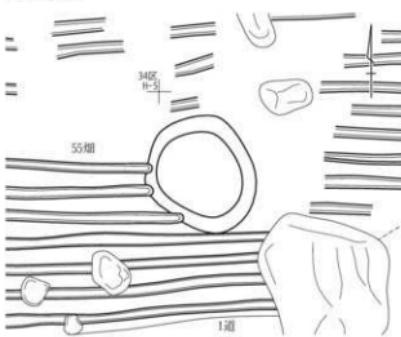


第100図 平坦面4

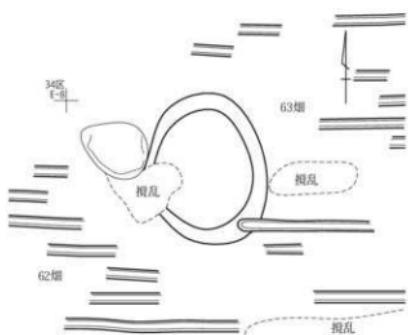
60号平坦面



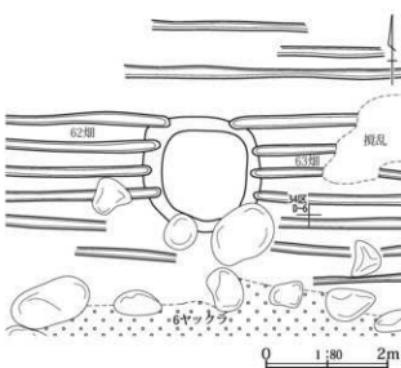
61号平坦面



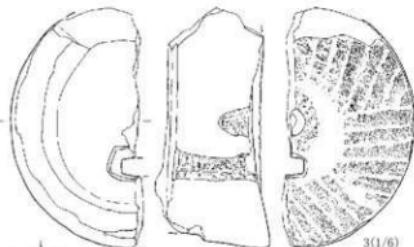
63号平坦面



64号平坦面



0 1:80 2m



0 1:3 10cm  
0 1:4 10cm  
0 1:6 12cm

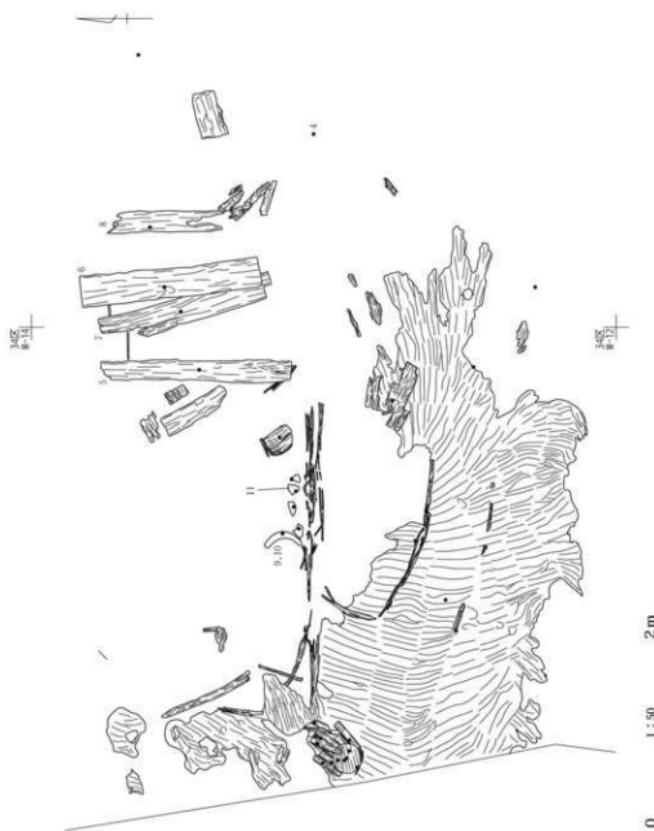
第101図 平坦面5、烟出土遺物1



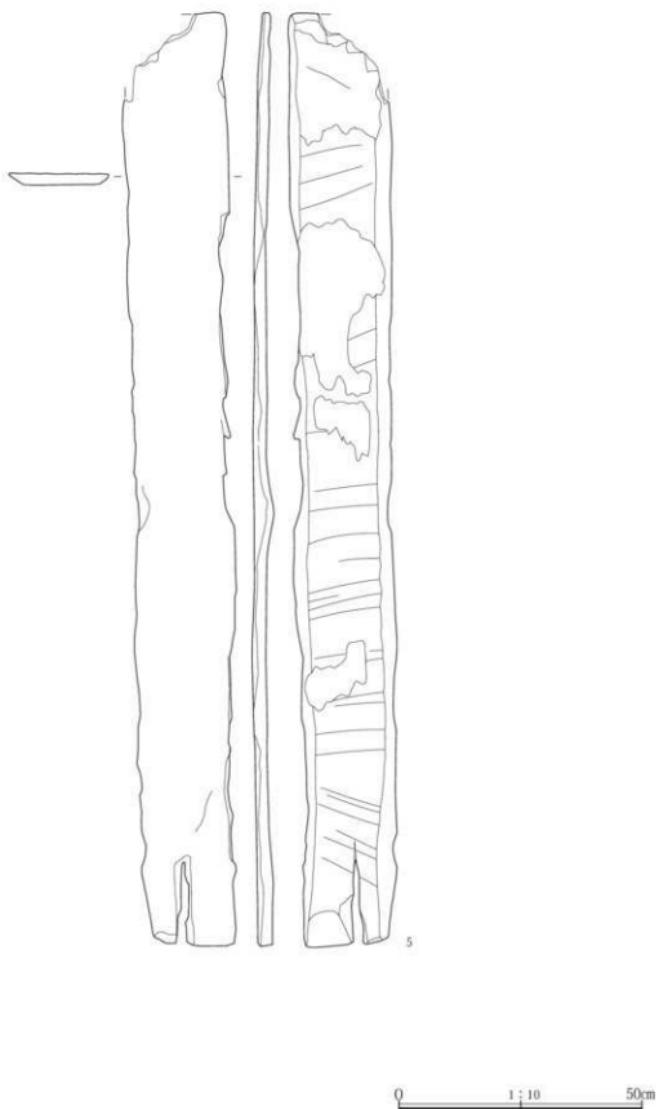
出土状況



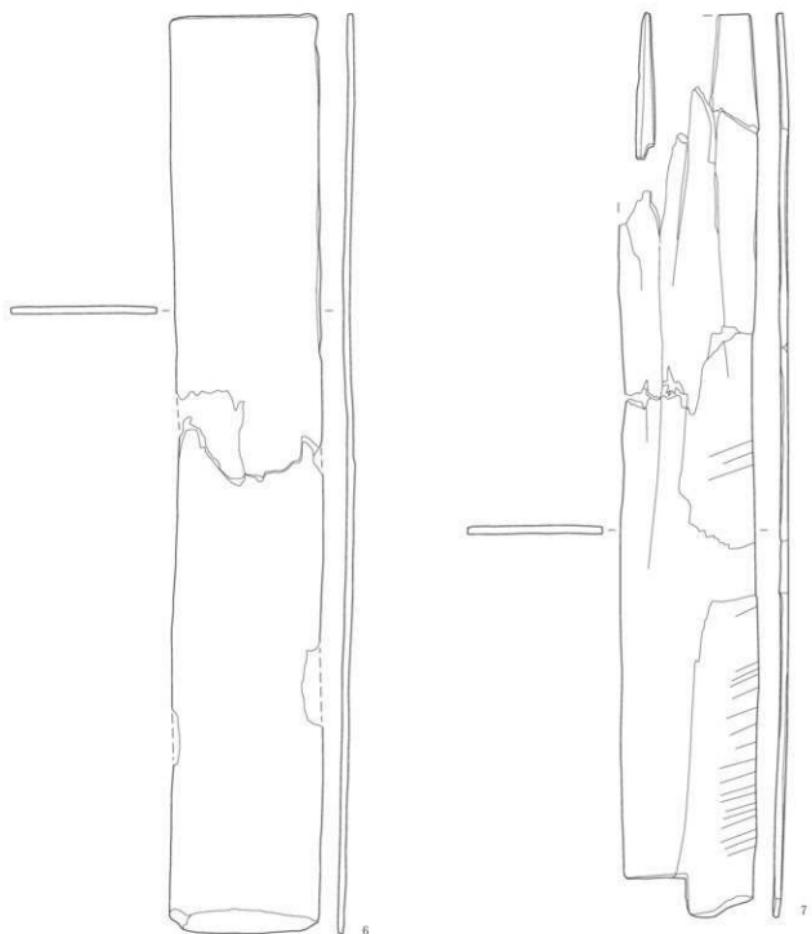
50cm  
1:10



第102図 煙出土遺物2

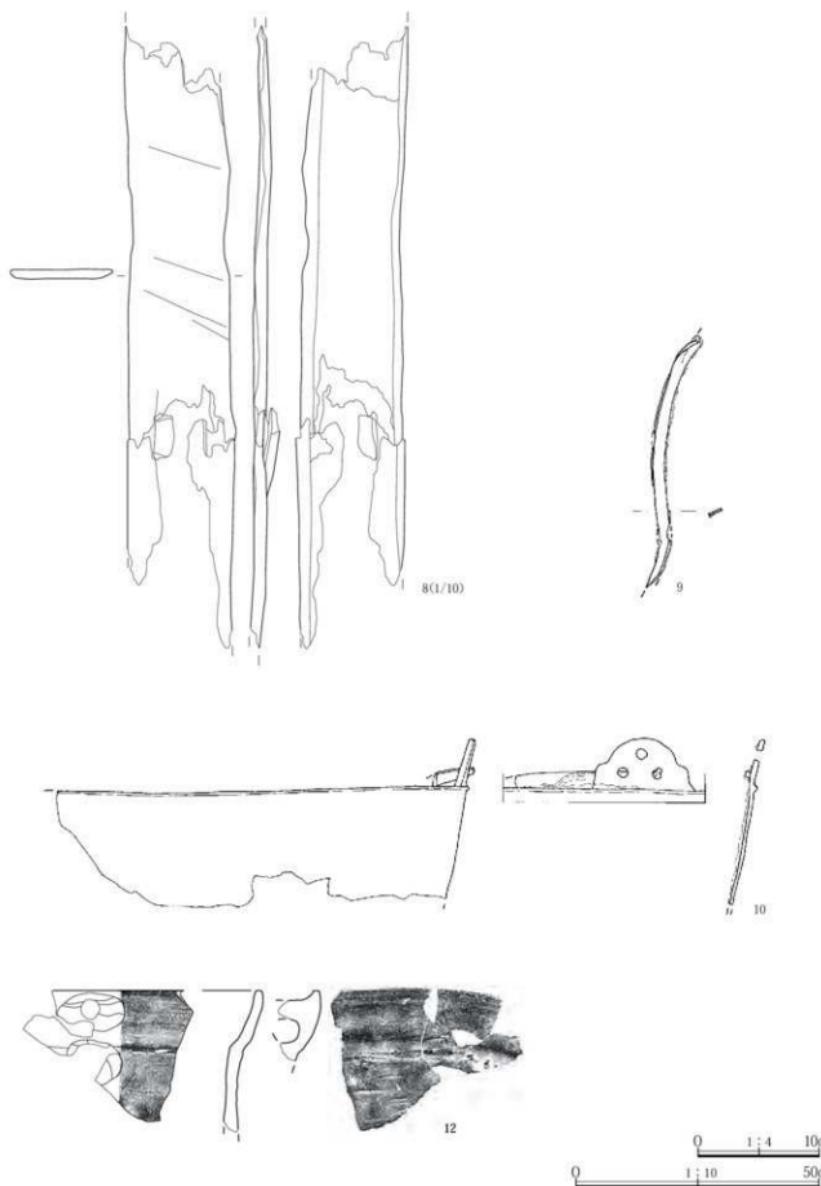


第103図 烟出土遺物3

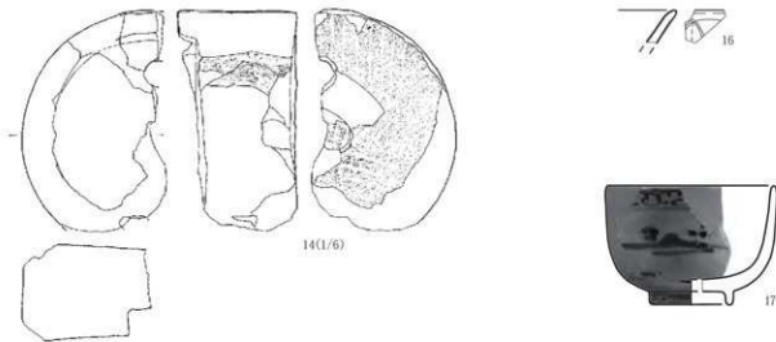
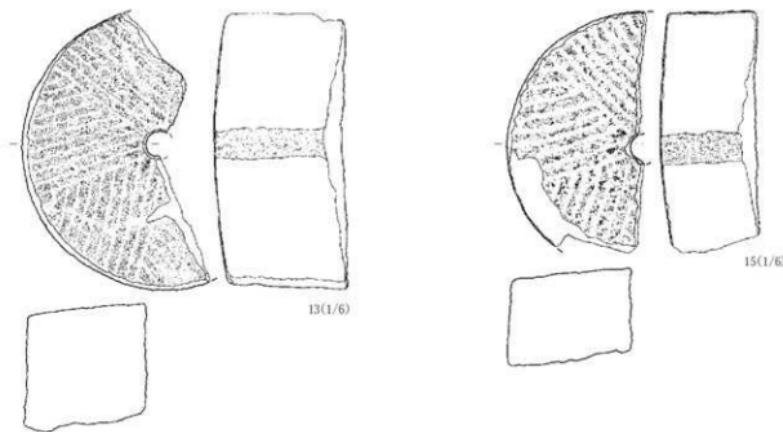


0 1:10 50cm

第104図 煙出土遺物4



第105図 煙出土遺物5

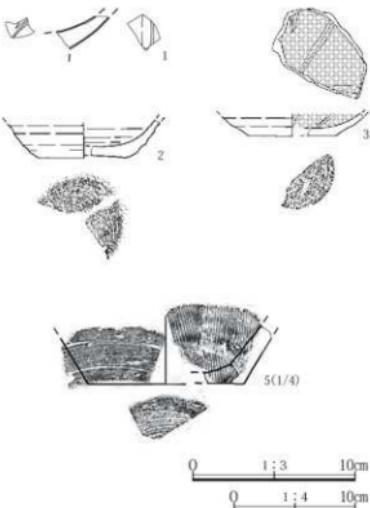


第106図 煙出土遺物6

## 第7項 遺構外出土の遺物

調査区1面からは図示の遺物のほかに、調査区西部の1号石垣からデイサイトの二次加工ある剥片(0.2g)、また調査区西部からは黒曜石の剥片(1.3g)も出土している。なお、送電線鉄塔の基礎工事が1面まで及んでいた影響なのか、蹄鉄(6)とみられる製品も出土している。

(第107図、PL.68)



第107図 遺構外出土の遺物

## 第8項 遺物観察表および未掲載遺物

第29表 1面出土遺物観察表

D1建物群・15号建物

種別 PL No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
			口 底	器 高			
第37図 PL.60	1 肥前磁器 染付碗	床 完形	口 9.2 底 3.8	器 高 5.1	灰白/夾雜物無	外面に雪輪梅樹文。高台外面に1重の圓線。高台内に不明路。	
第37図 PL.60	2 肥前磁器 染付碗	床 口縁部1/3	口 (10.0) 底 -	器 高 -	灰白/夾雜物無	外面に雪輪梅樹文。燒成不良。	
第37図 PL.60	3 陶器 腰鉢	床 体部一部欠損	口 9.4 底 4.4	器 高 6.4	灰白/夾雜物微量	外面口縁部下に4~5条の螺旋状回線。内面から口縁部外面に灰釉。外面口縁部以下は鉄釉。高台端部のみ無釉。	10点接合。
第37図 PL.60	4 陶器 碗	床 口縁部一部欠損	口 10.0 底 4.6	器 高 6.5	淡黄/夾雜物微量	外面中位以下は回転削り。内面から高台外面付近まで鉄釉。釉が薄く白腹部分多い。	5点接合。
第37図 PL.60	5 陶器 碗	床 体部一部欠損	口 10.5 底 5.0	器 高 7.2	灰白/夾雜物微量	縦かく削れで出土。外面中位以下に回転削り。内面から高台脇に鉄釉。	16点接合。
第37図 PL.60	7 陶器 片口鉢	床 口縁部一部欠損	口 13.0 底 6.6	器 高 6.4	淡黄/夾雜物微量	片口部は欠損。口縁部上面はわずかに窪み、内面は突き出る。外面口縁部以下は回転削り。内面から高台外面に黄釉。底部内面に目跡3カ所。	13点接合。
第37図 PL.60	6 陶器 片口鉢	床 片口部分のみ	口 - 底 -	器 高 -	灰白/夾雜物微量	注ぎ口端部は縦かく叩打されたように器表剥離。鉄釉。	
第37図 PL.60	9 陶器 片口鉢	床 口縁部片	口 - 底 -	器 高 -	淡黄/黑色鉻物粒	口縁部は小さく外反。口縁部内面は折り返したように小さな段をなす。鉄釉。	
第37図 PL.60	11 鉄製品 斧	床 完形	長 18.3 幅 6.8	厚 3.9 重 1280.1		柄の木質が一部残存。刃に向かって刃先から6.5cmほどの所から柄部がやや湾曲し広がる。もう一方はまっすぐに刃まで伸びている。側面に加工は見られない。	
第38図 PL.60	12 鉄製品 鎌	床 ほぼ完形	長 19.9 幅 9.9	厚 4.5 重 260.8		柄の部分の木質が一部見られる。全体はほぼ鎌で覆われており、詳細は不明。刃の部分は湾曲は少ない。	

### 第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

辨別 No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第38回 PL.60	13 鉄製品 刀子	床一部欠損	長 15.4 幅 3.4	厚 2.6 重 53.9			柄に木質が残存している。切っ先が欠損しており、推定される全長は約18cm程度。縁により剥離していくような割れが生じ、縁部分は劣化が顕著。	
第38回 PL.60	14 鉄製品 石突鉈	床 ほぼ完形	長 29.1 幅 6.6	厚 3.9 重 442.4			先端に突起を持つ。柄の木質、頭が一部残存している。目釘穴は 1ヶ所で 0.5cm。片面に多数の木質が残存しており、保管状況が閲覧している可能性も考えられる。反りは無く、刃がまっすぐに伸びる。	
第38回 PL.60	15 銅製品 鼓鉈	床 完形	長 8.7 幅 8.6	厚 2.9 重 176.1			打面は直径 2.2cm、足が 3脚付く。組を通すための部位が 2ヶ所見られ、組の跡跡が残存している。	
第38回 PL.60	16 鉄製品 火打ち金	床 一部欠損	長 9.1 幅 1.9	厚 1.4 重 15.8			全体に有機質で覆われているが、当時の環境に伴うものかは不明。山形の火打ち金。	
第38回 PL.60	17 石製品	床 完形	長 3.6 幅 2.5	厚 1.1 重 14.5		珪質頁岩	全面が非常に滑らかで光沢がある。	
第38回 PL.60	18 磁石	床 完形	長 14.6 幅 3.6	厚 3.3 重 257.5		変質ディサイト	砥面は表面に一面認められればほぼ平坦である。左右両側面、裏面および上部小口面には櫛歯タガネ痕が明瞭に認められる。下部小口面には櫛歯タガネ痕がわずかに認められる。	
第39回 PL.60	19 磁石	床 完形	長 16.8 幅 4.8	厚 4.9 重 467.9		砥沢石	砥面は 1面認められる。表面は中央附近が研ぎ減りしわざに窪んだ形である。左右両側面および裏面には櫛歯タガネ痕がごくわずか認められる。裏面には滑らかな部分が認められ便宜的な砥面と判断される。	
第39回 PL.60	20 磁石	床 ほぼ完形	長 (12.9) 幅 2.9	厚 3.2 重 89.0		変質ディサイト	砥面は 1面認められる。表面は上下方向に研ぎ減りする。左右両側面および裏面には櫛歯タガネ痕が明瞭に認められる。	
第39回 PL.60	21 磁石	床 完形	長 13.1 幅 2.8	厚 2.3 重 120.8		砥沢石	砥面は 1面認められる。表面は上下方向に研ぎ減りする。左右両側面、裏面および下部小口面には櫛歯タガネ痕が明瞭に認められる。裏面には擦刻が認められ、へ山口と判読できる。	
第39回 PL.61	22 石臼(上臼)	床 4/5	長 (28.8) 幅 (28.27)	厚 (12.0) 重 12450.0		粗粒輝石安山岩	底面に挽き目の痕跡が明瞭に認められる。側面に丸丸形の挽き手が認められる。供給孔の内部には棒状の工具痕が認められ軸受孔とと考えられる。軸孔の直径約 4cm。	
第39回 PL.61	23 石臼(下臼)	床敷地南辺 ほぼ完形	直 径 31.0	厚 13.0 重 20250.0		粗粒輝石安山岩	上面のすり合わせ面には摩滅が認められた部分にわずかに光沢がある。挽き目の痕跡が残る。底面は棒状の工具痕が認められ加工作とと考えられる。軸孔の直径約 4cm。	2点接合。
第37回 PL.60	8 漆戸・美濃 陶器 口跡	完成	口 17.0 底 8.5	器 高 9.4		淡黄/夾雜物微量	口縁部はやや肥厚。外側の中央以下は回転削り。内側から高台脇付近に胎輪。底部内面に目跡 3カ所。	6点接合。
第37回 PL.60	10 漆戸・美濃 陶器 すり跡	口縁部分	口 - 底 -	器 高 -		灰白/黑色藍物粒	口縁部を内側に折り返して肥厚させる。銷軸。	

### D1建物群・通路

辨別 No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第41回 PL.61	1 漆戸・美濃 陶器 小碗	D1通路 完形	口 6.3 底 3.5	器 高 4.0		淡黄/夾雜物微量	体部外面下位以下に回転削り。内面から高台脇に灰軸。	
第41回 PL.61	2 漆戸・美濃 陶器 小碗	D1通路 口縁部一部欠損	口 6.5 底 3.0	器 高 4.2		灰白/夾雜物少量	体部外面下位以下は回転削り。内面から高台脇に灰軸。貢入穴。	6点接合。
第41回 PL.61	3 漆戸・美濃 陶器 染付碗	D1通路 3/4	口 9.9 底 3.8	器 高 5.2		灰白/夾雜物微量	外面に簡略化した雪輪梅樹文。染付の線はやや太い。高台脇部のみ無軸。透明感は灰軸に近い発色で貢入穴。	D区 1面破片と接合。 11点接合。
第41回 PL.61	4 製作地不詳 陶器 瓶	D1通路 体部-底部1/2	口 - 底 8.8	器 高 -		にぶい褐色/夾雜物 微量	上半部外面にカキ目。外面に銷軸。内面は無軸。	3点接合。

### D2建物群・17号建物

辨別 No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第48回 PL.61	1 肥前磁器 染付碗	床 3/4	口 9.7 底 3.5	器 高 5.2		灰白/夾雜物少量	体部外面に 2重圓目。高台外面に 2重の圓窓。内面は 1重の圓窓。底部内面の菊花文はコンニャク判か。	4点接合。
第48回 PL.61	2 肥前磁器 染付碗	床 1/2	口 (10.0) 底 (4.6)	器 高 5.4		灰白/夾雜物無	体部外面に雪輪梅樹文。高台外面に 2重の圓窓。	

排 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石 材・材 料 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
第48図 PL.61	4	瀬戸・美濃 陶器 腰鉗鏡	カマド 口縁部片	口 (9.0) 底 - 高 -	灰白/夾雜物少量	外面口縁部下に4条の凹線。内面から口縁部外面に灰斑。 外面の口縁部以下は鉄軸。	7点接合。	
第48図 PL.61	5	肥前磁器 染付瓶	カマド 頭部片	口 - 底 - 高 -	灰白/夾雜物無	外面に錐な銀歯状文と2重の圓線。		
第48図 PL.61	6	古鉄 理没土	3片に破損。完形。	幅 2,390 幅 2,364 厚 0.186 重 1.8	新寶水。全体に劣化が見られ、表面が一部剥離している。 前面の字、背、輪はやや浅く一部不明瞭。背は形が浅く、全体的に不明瞭。			
第48図 PL.61	7	古鉄 床	4片に破損。一部欠損	幅 2,563 幅 2,536 厚 0.117 重 2.1	古寶水。面は形が深いため識別可能だが、背は鋒等に覆われおり、全体的に不明瞭。			
第48図 PL.61	8	古鉄 床	3片に破損。 一部欠損	幅 2,580 幅 2,563 厚 0.163 重 2.2	新寶水。文跡か、面の字は浅く、やや不明瞭。背は全体的に覆われている。一部背文の可能性が見られるが、不明瞭。			
第48図 PL.61	9	鐵製品 鍋	カマド 一部	長 14.7 幅 11.2 厚 2.4 重 303.6	口縁と吊り手部分の一部が残存。つるが一部跡とともに残存している。吊り手に孔が3つ空いており、上の孔はやや左側寄っている。口縁は立ち上がりからそのままの厚さで外弧へ反る。内側は砂が混じた鍋が全面に付着しており、詳細は不明。			
第48図 PL.61	10	砥石	床 完形	長 13.9 幅 2.8 厚 2.2 重 101.7	砥石は1面認められる。表面は中央から上方および下方に向かい斜め方向に研ぎ落しにねじれた形態を呈する。左右側面、裏面および上下小口面には繊維タガネ痕がわずかに認められる。右側面には滑らかな部分が認められ便宜的な砥面と判断される。			
第49図 PL.61	11	石臼(下臼)	床 ほぼ完形	直 径 35.7	直 径 11.8 重 21520.0	やや左側減りする。上面のすり合わせ面が一括き目の痕跡が明瞭に認められる。底面に棒状工具痕が認められ加工痕と考えられる。軸孔は中央付近が抜くなっており両面穿孔と考えられる。軸孔の直径約4cm。		
第49図 PL.61	12	石臼(下臼)	床 完形	直 径 30.3	直 径 11.4 重 17200.0	上面に挽き目の痕跡が明瞭に認められる。軸孔は中央付近が抜くなっており両面穿孔と考えられる。側面および底面に棒状の工具痕が認められ加工痕と考えられる。軸孔の直径約3cm。		
第49図 PL.61	13	石臼(上臼)	床 完形	直 径 33.0	直 径 16.2 重 27540.0	底面に挽き目の痕跡が明瞭に認められる。上面および側面には棒状の工具痕がわざかに認められ加工痕と考えられる。供給孔は中央が抜くなっており両面穿孔と考えられる。側面に矩形の挽き手が認められる。供給孔の直径約4cm。軸受孔の直径約3cm。		
第50図 PL.62	14	唐白	床 完形	長 70.0 幅 73.0	厚 54.0 計測不能	上面および内面は比較的滑らかである。外側の加工は粗く打削された凹凸で構成される。上面の整形は内側がやや低くなるように傾斜がつけられている。内面はや口すぼみに整形され、最大径は上端から10cm下がった位置となる。		
	15	鐵製品 鍋の茲か	カマド 破片	長 9.6 幅 2.1	厚 2.9 重 24.2	全形が鋸で覆われており、劣化が激しく崩壊も見られたため剥離除去などの作業をおこなっていない。断面形状から板状の鉄が半回転ねじりを加えられている。		
PL.61	16	鐵製品 鍋の茲か	理没土 破片	長 11.0 幅 5.0	厚 0.9 重 14.7	板状の鐵製品。劣化が激しく、多くの破片が剥落している。薄く剥離するように劣化が進み破損し、元形状の詳細は不明。		
第48図 PL.61	3	肥前磁器 染付瓶	17植物 口縁部片	口 (9.8) 底 - 高 -	灰白/夾雜物少量	外面は雪輪梅樹文か。	4点接合。1号講、窪地出土と被検。	

## D2建物群・20号建物

排 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石 材・材 料 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
	1	石臼	床	長 (14.5) 幅 (10.6)	厚 (13.2) 重 1762.9	粗粒輝石安山岩		

## D2建物群

排 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石 材・材 料 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
第53図 PL.61	1	製作地不詳 埴輪か取皿	1号縁地 口縁部片	口 - 底 - 高 -	器 高 -	灰/不明	被熱のため器腹発泡し洋付着。内面に緑青色の粒状物付着。 上部質?	
第54図 PL.62	1	唐白	D2建物群 完形	長 59.0 幅 58.0	厚 38.0 計測不能	粗粒輝石安山岩	上面および内面は比較的滑らかである。外側の加工は粗く打削された凹凸で構成される。上面の整形は内側がやや低くなるように傾斜がつけられている。内面はや口すぼみに整形され、最大径は上端から5cm下がった位置となる。	現場写真実測

## C1建物群・5号建物

種 団 PL.No.	No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石 材・材 料 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第57団 PL.61	1	肥前磁器 染付鏡	A泥頭中 底部・高台部片	口 底	ー (4.2)	器 高	-	灰白/夾雜物無 内面見込み部に2重の圈線。底部内面蛇の目軋ぎ。	2点接合。
第57団 PL.61	2	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	A泥頭中 口縁部片	口 底	ー ー	器 高	-	淡黄/夾雜物少量 口縁部は体部との間に段を有し、屈曲。踏地。	洗研ぎ。2 点接合。
第57団 PL.61	3	古鉢	A泥頭 完形	幅 横	2,846 2,840	厚 重	0.141 5.0	新窯氷、11波。字、郭、輪ともに明瞭。背も明瞭である。 背の郭が面よりも幅が広い。	

## 22号建物

種 団 PL.No.	No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石 材・材 料 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第61団 PL.62	1	肥前磁器 染付鏡	床 完形	口 底	9.6 3.6	器 高	4.9	白/夾雜物無 体部外面に2重網目文。内面は1重の網目文。底部内面にコンニャク判による菊文。高台外面に2重の圈線。	
第61団 PL.62	2	瀬戸陶器 すり鉢	床 破片	口 底	ー (11.0)	器 高	-	にぶい黄桜・褐 /夾雜物少量 底部は回転糸切無調整。内面クシ目。内外面踏地。底部内面近辺は使用により著しく摩滅。	2点接合。
第61団 PL.62	3	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	床 体部一部欠損	口 底	30.3 11.5	器 高	14.8	灰黄/夾雜物少 量 底部は右回転糸切り無調整。内面に12本1単位のクシ目。使用により摩耗。体部外面回転施削り。内外面踏地。	44点接合。
第61団 PL.62	4	鉄製品 銅	床 1/4	長 幅	30.7 20.5	厚 重	1.2 1232.73	口縁が大きく広がる形の脚。ただし、口縁の端部は欠損している。羽茎に近いか。足は無く、底部端辺に炭が付着している。体部には横方向のナデが見られる。湯口は觀察できないが、中心部に近い部分に若干製作時の乱れが生じている。	
第61団 PL.62	5	鉄製品 銅?	床 口縁部分	長 幅	2.9 2.5	厚 重	0.4 2.7	詳細不明の口縁。厚さが他の脚と比較して薄い。口縁は内面内側にわざわざくらむ。その後、内面が外側へ反り。外側が端部で外側へ反る。	
第61団 PL.62	6	鉄製品 銅	床 破片	長 幅	8.3 8.1	厚 重	0.6 42.3	吊り手部分と若干は残存する。孔は中央上部に1ヶ所、左方に2ヶ所空いており、中央上部の孔が左右の孔よりも約0.2cmほど大きい。口縁は外面が外側へ反り、内面は端部が若干外側へ反る。	
第62団 PL.62	7	鉄製品 銅	床 1/3以下	長 幅	26.0 25.3	厚 重	14.8 579.3	足は1脚を持ち、底部から口縁部にかけて残存する。湯口が一部残存。体部は横方向のナデが施される。口縁は6cm残存し、内面が内側に膨らみを持った後、外側へ反る。外側は端部で外側へ反っている。	
第62団 PL.62	8	鉄製品 銅	床 一部残存	長 幅	38.0 9.6	厚 重	0.9 648.9	大型の脚。口縁部と一部体部が残存している。口縁から5.4cm下の体部に外側に凹み、内側に凸する一覗すると考えられる線が入る。また、口縁は特徴的口形を有し、外側は底部まで立ち上がり、内面は口縁より約1cm下から内側に0.3cm張り出し、そこから矢印状に外側との交点に接続し口縁を形成する。	
第63団 PL.63	9	鉄製品 銅	床 1/3	長 幅	23.0 22.1	厚 重	12.8 561.6	口縁部、吊り手、底部が残存する。湯口が一部欠けて残存し、足は2脚残存する。吊り手には孔が2つられ、上部に1ヶ所、左右に2ヶ所となる。口縁は両面とも端部まで立ち上がり、外側へ反る。	
第63団 PL.63	10	鉄製品 銅	床 一部	長 幅	27.2 13.2	厚 重	1.0 419.0	脚の口縁、体部、底部の縁が若干残存している。広く砂が跡跡に広く覆われている。口縁は一度内側で膨らみ、その後外側に反り収束する。また、内側に口縁から1.4cmと2.6cmの所に筋状のものが見られる。	
第63団 PL.63	11	タケ材 丸棒材	22号建物東	長 直 径	(149.0) 3.4			6節を有し、一端は節先9cmの所から先端にかけ6cmの部分が斜めに切り落とされ、他端は節先5cm程度が残る。	
第63団 PL.63	12	タケ材 割材	22号建物東	長 直 径	(67.7) 3.4	厚	1.6	1節を有す平割材、両端とも欠損する。	
第64団 PL.63	13	タケ材 丸棒材	22号建物東	長 直 径	(124.5) 3.1			4節を有し、一端は節先18cm程度を残し折れ、他端は節を端部とする。	
第64団 PL.63	14	タケ材 丸棒材	22号建物東	長 直 径	(125.7)			断面は3.5×3.1cmの長円形、4節を有す。一端は節先11cmの所から先端にかけての3cmがV字状に切り落とされ、他端は次の節の手前辺りまでを残す。	
第64団 PL.63	15	タケ材 丸棒材	22号建物東	長 直 径	(134.3) 3.1			6節を有し、一端は次の節近くで折れ、他端は節先3cmを残す。	

拂 国 PL No.	種 類 器 种	出土位置 残 率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整形 の 特徴	備 考
			長 径 横 幅	厚			
第64国 PL.63	16 タケ材 丸棒材	22号建物東 直 徑	長(136.9)			断面は3.4×3.0cmの長円形、6節を有す。一端は次の節までの半ばで折れ、他端は節距5cmの所から先端にかけての5cmが斜めに切り落とされている。	
第64国 PL.63	17 タケ材 削材	22号建物東 幅	長(100.3) 幅4.7	厚2.3		2節を有す半削材。両端とも欠損する。	
第64国 PL.63	18 タケ材 削材	22号建物東 幅	長(98.2) 幅4.8	厚2.4		2節を有す半削材。両端とも欠損する。	
第64国 PL.63	19 タケ材 削材	22号建物東 幅	長(85.6) 幅4.7	厚2.4		3節を有す半削材。	
第64国 PL.63	20 タケ材 削材	22号建物東 幅	長(84.2) 幅3.7	厚1.7		3節を有す半削材。	
第65国 PL.63	21 タケ材 丸棒材	22号建物東 直 径	長(109.1) 幅2.8			5節を有す、一端は節距3cm付近で切り落えられ、他端は欠損する。	
第65国 PL.63	23 木製品 不明	22号建物東 完形か	長(82.9) 幅13.0	厚6.6		一材として取り上げられたが2材が重なり合って出土したと考えられる。棒状の柄とともに一端の端部は丸く成形されている。	
第65国 PL.63	23 木製品 棒材か	22号建物東 完形か	長79.5 幅5.2	厚2.6		一材として取り上げられたが2材が重なり合って出土したと考えられる。曲取りにより棒状の形態に整えられている。	
第65国 PL.63	24 木製品 板材	22号建物東 完形	長87.0 幅9.9	厚2.9		板幅は一定しないが、四辺とも面取りされている。	
第65国 PL.63	25 木製品 柄	22号建物東 幅	長(96.7) 幅7.7	厚8.3		角材の角を丸め断面裏丸に加工し、残存する一端は手彫り状に整えられる。	
第67国 PL.64	27 木製品 板材	22号建物東 幅	長(66.6) 幅14.0	厚2.3		一端に中子状の突起を有す板材。他端は欠損し不明。	
第67国 PL.64	28 木製品 板材	22号建物東 幅	長(64.6) 幅	厚2.9		先端の板材であり、一端の幅13.9cm、他端の幅12.5cm。	
第67国 PL.64	29 木製品 角材	22号建物東 幅	長(63.5) 幅(7.9)	厚6.7		元は角材と思われ、ほぼ直行する二つの平面端が残されている。折れ口にある欠け込みはホゾ穴の可能性がある。	
第67国 PL.64	30 木製品 角材	22号建物東 幅	長(37.2) 幅5.6	厚3.8		両端とも欠損する。面取りされた角材。	
第67国 PL.64	31 木製品 部材	22号建物東 ほぼ完形か	長(92.5) 幅9.6 横			芯持ち材の両端に角柱状のホゾが作り出されている。両端の角柱は平面角にして30度程度の角度差を持つ。材の1/3程度の深さの十字相交の欠け込みが2か所存在する。片方の相交きはほぼ直交するが、他方の相交きはこれに並逆行せず、16度ほどの傾きを持つ。相交き部には逃がし止めの突起が作り出されている。	
第67国 PL.64	32 木製品 部材	22号建物東 ほぼ完形か	長93.5 幅5.8 横			日本木の両端を角柱状のホゾに加工している。両端の角柱は平面角にして45度初期の角度差を持つ。ホゾの作り出し部の明確な側のホゾの付け根から15cm離れた部分に別材を受けたと思われる幅5.6cmの欠け込みがある。また他端の付け根から14cm内側の部分と、棒材の中央部に幅0.8cm程度のホゾ穴と思われる加工が存在する。	
第67国 PL.64	33 木製品 板材	22号建物東 幅	長(44.1) 幅10.2	厚1.5		断面台形に加工される。残存する端部も新たに切り落とされ、また平面形も台形となる可能性がある。	
第68国 PL.65	34 木製品 板材	22号建物東 幅	長(29.1) 幅21.2	厚4.4		板端を切り出す際の表皮側の端材と思われる。残存する端部は表皮側から先端にかけ斜めに切り落とされている。	
第68国 PL.65	35 木製品 漆 檻 蓋	床 2/3	口5.6 底10.8	厚2.7 重12.1		内外面を赤漆で仕上げる。口縁、つまみ(輪高台)端部のみ黒漆を塗る。高台内に黒漆で「日」。	
第68国 PL.65	36 木製品 漆 檻 蓋	床 1/2	口5.3 底11.1	厚2.8 重29.7		内外面を赤漆で仕上げる。口縁、つまみ(輪高台)端部のみ黒漆を塗る。高台内に黒漆で「日」。	
第68国 PL.65	37 木製品 不明	22号建物東 幅		厚		残存長30cm、厚さ1.5cmの2片からなる。	
第68国 PL.65	38 磯石	床 完形	長13.8 幅3.0	厚2.6 重152.1	砥沢石	表面が主要な砥面であり上方に向かってすこし研ぎ減りする。右側面および裏面には部分的に非常に滑らかな面が認められ便宜的に利用された砥面と考えられる。	
第68国 PL.65	39 白石(上臼)	床 1/2	長(29.9) (16.3)	厚(12.2) 重5242.0	粗粒輝石安山岩	底面に挽き目の痕跡がわずかに残る。底面に輪受孔の一部が認められる。	
第65国 PL.63	22 木製品 丸棒材	22号建物北辺 直 径	長(72.5) 幅3.9			材の一端は搬扱横ぎのホゾが作り出されており、横ホゾの先端から34cm離れた画面部には、届ホゾと思われる巾12cm厚さ3.5cmの平ホゾが14cmほど頭を出している。ホゾ穴を挟み長さ3cm、幅2cm、深さ1cm程度の小穴3ヶ所が存在する。ホゾ穴のあた面は平らに整えられているのに反し、反対の面はホゾの残る端部を隙間削り込まれており埋みは一定しない。	
第66国 PL.64	26 木製品 構造材	22号建物北辺	長315.4 幅19.8	厚15.4			

## 23号建物

跡 国 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土・焼成・色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第71回 PL.65	1	肥前磁器か 染付碗	床 1/4	口 底 (8.0 2.7)	器 高 4.3	灰/夾雜物無	体部外面に植物文の染付。高台外面に1重の團線。焼成不良。	3点接合。
第71回 PL.65	2	瀬戸・美濃 陶器 小碗	床 口縁部・体部1/4	口 底 (6.4 —)	器 高 —	灰白/夾雜物無	外面中位以下は回転削り削り。内面から高台脇に灰釉。	2点接合。
第71回 PL.65	3	瀬戸・美濃 陶器 腰詰施	床 口縁部・体部1/4	口 底 (9.0 —)	器 高 —	淡黄/夾雜物微量	器形は筒形を呈し、内面から口縁部外面に灰釉、外表面に團線部及びに鉄軸、灰釉に貫入する。体部外面に横線があるが、釉で不鮮明。	
第71回 PL.65	4	京・信楽窯 陶器 上絵碗	床 1/3	口 底 (8.8 2.8)	器 高 5.4	灰白/夾雜物微量	高台小さい。口縁部から体部上位に赤と黄緑色の上絵其で花弁、黄緑色の上絵具で桜状の葉を描く。	4点接合。
第72回 PL.65	5	瀬戸・美濃 陶器 碗	床 口縁部・体部片	口 底 (9.3 —)	器 高 —	淡黄/夾雜物微量	外表面口縁部以下は回転削り削り。内面から高台脇に鉄軸。	
第72回 PL.65	6	瀬戸・美濃 陶器 腰詰付碗	床 1/2	口 底 (10.3 4.2)	器 高 7.0	灰白/夾雜物微量	体部外面にヘラケズり。内面から高台堤付近に鉄軸。	
第72回 PL.65	7	瀬戸・美濃 陶器 碗	床 口縁部一部欠損	口 底 (10.3 5.0)	器 高 7.8	淡黄/夾雜物少量	外表面口縁部以下回転削り削り。高台脇から高台内回転ナデ。内面から高台脇に黄釉。貫入する。	2点接合。
第72回 PL.65	8	肥前陶器 陶的染付碗	床 1/2	口 底 (9.7 5.0)	器 高 6.0	灰/夾雜物少量	口縁部直下と見込みに各々1重の團線。体部外面に染付。	4点接合。
第72回 PL.65	9	肥前陶器 陶的染付碗 1/3片	床 口縁部～体部 1/3片	口 底 (12.0 —)	器 高 —	灰/夾雜物少量	口縁部外面に四方擇文。体部外面には染付。	5点接合。
第72回 PL.65	10	志戸呂陶器 灯火皿	床 完形	口 底 (9.8 4.8)	器 高 1.8	粗/夾雜物少量	底部は右回転糸切り無調整。内面から口縁部外面に鉄軸。	
第72回 PL.65	11	志戸呂陶器 灯火受皿	床 2/3	口 底 (7.3 5.2)	器 高 2.7	灰/夾雜物少量	体部外面以下は回転削り削り。受け部は口縁部より高い。受け部にアーチ状の切り込み1カ所残存。往々から考えて切り込みは2カ所であろう。	6点接合。
第74回 PL.65	12	瀬戸・美濃 陶器 腰詰	床 完形	口 底 (4.8 4.5)	器 高 4.8	灰白/夾雜物微量	底面は右回転糸切り後に固定用小孔をあける。内部中央に灯芯立てを貼付け。灯芯立て下位に長方形の切り込みを入れる。内面から脚柱部外面に鉄軸に近い鉄軸。	
第74回 PL.65	13	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	床 破片	口 底 — —	器 高 9.2	灰白/夾雜物少量	小型器。口縁部は内面側に折り返す。内面には14本1單位のクシ目。使用により磨耗している。体部から底部にかけて点接合。二段加工。	
第74回 PL.65	14	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	床 完形	口 底 (34.0× 35.5 12.0)	器 高 15.4	淡黄/黒色蠶物輕 少星	器形は大きめ且み、平面形は梢円形を呈する。底部は右回転糸切り無調整。内面には11本1單位のクシ目。底面は使用により摩耗。底部周囲の周縁部も摩耗。	9点接合。
第74回 PL.65	15	古鉢	床 完形	縦 横 2.283 2.295	厚 重 0.134 2.3	研磨水。面の形が丸くやや判別困難。全体がさびて覆われている。背も形は丸く。	研磨水。一部さびが附着していて、劣化、剥離が見られる。背も形は非常に浅く、不明瞭。面はやや薄は浅いが、字、輪は判別。	
第74回 PL.65	16	古鉢	床 ほぼ完形	縦 横 2.357 2.350	厚 重 0.169 2.0	研磨水。一部さびが附着していて、劣化、剥離が見られる。背も形は非常に浅く、不明瞭。面はやや薄は浅いが、字、輪は判別。	研磨水。一部さびが附着していて、劣化、剥離が見られる。背も形は一部不明瞭。郭は一部不明瞭。背は形が浅く、郭、輪が判別。	
第74回 PL.65	17	古鉢	床下 ほぼ完形	縦 横 2.439 2.462	厚 重 0.148 2.4	研磨水。一部さびが附着していて、劣化、剥離が見られる。背も形は非常に浅く、不明瞭。面はやや薄は浅いが、字、輪は判別。	研磨水。一部さびが附着していて、劣化、剥離が見られる。背も形は非常に浅く、不明瞭。面はやや薄は浅いが、字、輪は判別。	
第74回 PL.65	18	鉄製品 火箸か	1回炉裏 2/3	長 幅 21.7 3.6	厚 重 1.9 74.8	火箸は2本重なって出土したもの。右は上端から10.5cmほど、左は上端から8cmほどとの所までねじりられている。先端は不明だが、右が芯の部分が突出してしまっているため、ほぼ先端を見たい。上端は折れのため不明。	火箸は2本重なって出土したもの。右は上端から10.5cmほど、左は上端から8cmほどとの所までねじりられている。先端は不明だが、右が芯の部分が突出してしまっているため、ほぼ先端を見たい。上端は折れのため不明。	
第75回 PL.65	19	鉄製品 網	床 1/3程度	長 幅 17.2 14.1	厚 重 10.0 708.6	底面と口縁が残存する。内部には網が混じる砂や鉛が付着する。口縁は両面が脚柱から0.3cmほどで丸みを帯びて膨らみ、上部がやや平らな扁平状になる。	底面と口縁が残存する。内部には網が混じる砂や鉛が付着する。口縁は両面が脚柱から0.3cmほどで丸みを帯びて膨らみ、上部がやや平らな扁平状になる。	
第75回 PL.66	20	砥石	床 完形	長 幅 12.0 2.4	厚 重 2.7 79.1	砥石は1面認められる。表面は上下方向に向かい研ぎ減りする。左右内側面および裏面には櫛歯牙ガネ痕が明瞭に認められる。	砥石は1面認められる。表面は上下方向に向かい研ぎ減りする。左右内側面および裏面には櫛歯牙ガネ痕が明瞭に認められる。	
第75回 PL.66	21	石臼(上臼)	床	直 径 34.1	厚 重 17.2 28680.0	直面に抜き目の痕跡が明瞭に認められる。上面および側面には棒状の工具痕がわざわざに認められ加工痕と考えられる。供給孔は中央が抜くなつており内面穿孔と考えられる。側面に矩形の抜き手が認める。供給孔および軸受孔の直径約4cm。	直面に抜き目の痕跡が明瞭に認められる。上面および側面には棒状の工具痕がわざわざに残る。底面には棒状の工具痕が明瞭に認められ加工痕と考えられる。軸孔は中央が抜くなつており内面穿孔と考えられる。軸孔の直径約4cm。	
第75回 PL.66	22	石臼(下臼)	床 ほぼ完形	直 径 34.5	厚 重 16.4 31660.0	上面に抜き目の痕跡が明瞭に認められる。側面には棒状の工具痕がわざわざに残る。底面には棒状の工具痕が明瞭に認められ加工痕と考えられる。軸孔は中央が抜くなつており内面穿孔と考えられる。軸孔の直径約4cm。	上面に抜き目の痕跡が明瞭に認められる。側面には棒状の工具痕がわざわざに残る。底面には棒状の工具痕が明瞭に認められ加工痕と考えられる。軸孔は中央が抜くなつており内面穿孔と考えられる。軸孔の直径約4cm。	

排 図 PL No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
PL.66	23	銅製品 煙管(雁首)	床 1/3	長 幅	2.7 1.0	厚 重	1.5 2.2	火皿が大きく欠損している雁首。内部に有機物が残存しているが、直接的な関係は不明。つなぎ目等の詳細も不明。

## 5号道

排 図 PL No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第79図	1	肥前磁器 染付碗	埋没上 部体下位~高台 部	口 底	4.2	器 高	-	灰白/夾雜物微量 体部外面に染付文。高台脇に1重、高台外面に2重の輪郭。 底部内面蛇の目触剥ぎ。
第79図 PL.66	2	瀬戸・美濃 陶器 片口鉢か	埋没上 部体下位破片	口 底	-	器 高	-	淡黄/夾雜物少量 体部下位片。内面から体部外面下位付近に鉛釉。 1石出土 片と接合。 2点接合。

## 畑

排 図 PL No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第101図	1	瀬戸・美濃 陶器 片口鉢か	11烟 高台部破片	口 底 (9.0)	-	器 高	-	灰白/白色礫物 少量 内面から高台脇に灰釉。
第101図 PL.66	2	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢 破片	11烟 体部下位~底部 底	口 底 (14.0)	-	器 高	-	淡黄/夾雜物少量 底部は右回転系切り無調整。内面にクシ目。使用により摩耗する。踏柵施釉後に底部外表面付近拭う。体部下位の削れ 口研磨。
第101図 PL.66	3	石臼(上臼) 1/2	12塊腹巣坑	長 幅 (29.8) (16.4)	厚 重	(14.0) 7350.0	粗粒輝石安山岩	底面に挽き目の痕跡が明瞭に認められる。供給孔は丸窓の 舟形である。軸受孔および挽き手の一郭が認められる。側面には棒状の工具痕が認められ加工痕と考えられる。
第101図 PL.67	4	瀬戸・美濃 陶器 碗	15烟 口縁部~体部下 位破片	口 (10.5)	器 高	-	淡黄/夾雜物微量	体部外周中位以下回転削り。内外面に鉛釉。 5点接合。
第103図 PL.67	5	木製品 板材	15烟 穂ね完形	長 幅 (19.0) (21.4)	厚	2.5		四辺は斜めに面取りされ、台形の断面形状となっている。 片面に切り出された際の刃跡が残る。
第104図 PL.67	6	木製品 板材	15烟 完形	長 幅 (188.3) (31.6)	厚	1.7		短辺の一端は斜めに面取りされている。
第104図 PL.67	7	木製品 板材	15烟 穂ね完形	長 幅 (184.8) (28.8)	厚	1.6		短辺の一端は板幅の半分程度(幅13cm、長さ8cm)が切り取 られている。
第105図 PL.66	8	木製品 板材	15烟	長 幅 (127.4) (21.0)	厚	1.8		長辺は斜めに面取りされている。
第105図 PL.66	9	鉄製品 鋼弦	15烟 破片	長 幅 (20.8) (4.7)	厚 重	6.1 37.0		弦の破片。2ヶ所でねじれが見られる。上部で人為的に90° ねじられており、持ち手として利用か。ねじれの先は破損して状況不明。また、下部は外圧により変形したとみられ、端部はちぎれたようく破損している。
第105図 PL.66	10	鉄製品 鋼・弦	15烟 口縁1/3残存	長 幅 (34.5) (13.5)	厚 重	0.5 663.8		吊り手に弦が残存している頭の口縁部。吊り手の孔は上部 に1つ、下部に左右に1つずつ空いている。吊り手の中に 弦が残存し、頭の固まりが付着している。口縁は内面が端部 から5.8cm下がったところで膨らみ、その後外側へ反る。 外面は立ち上がり、端部へ反る。
PL.66	11	鉄製品 鋼・釜か	15烟 不明	長 幅 (10.0) (8.0)	厚 重	2.6 104.7		頭等の足が残る鉄片。泥流の圧力での破損が見られ、ひび が入っている。本格格で見されている頭部の足より大き い。内面には機質感を見るが、詳細は不明。
第105図 PL.67	12	在地系上器 内耳皿	23烟 口縁部~体部破 片	口 底	-	器 高	-	口縁部は薄く、平面面をなす。口縁部は体部との間に弱 い段をなし、屈曲して立ち上がる。内耳1カ所残存。内耳 は粘土被る器壁に通している可能性高い。口縁部コナデ。 中世。信濃 口縁部内面のコナデは強い。ヨコナデ部分が強く凹縦状に 歪む。
第106図 PL.67	13	石臼(下臼) 1/2	24烟1石壙	直 径 (35.0)	厚 重	16.5 16600.0	粗粒輝石安山岩	上面には摩滅が認められる部分に光沢がある。上面に挽き 目の痕跡が残る。底面には棒状の工具痕が認められ加工痕 と考えられる。軸孔の直径約3.5cm。
第106図 PL.67	14	石臼(上臼) 1/2	24烟1石壙	長 幅 (27.5) (18.0)	厚 重	(14.9) 8020.0	粗粒輝石安山岩	底面に挽き目の痕跡が明瞭に認められる。上面に平ノミ状 の工具痕が認められ加工痕と考えられる。軸受孔の直径約 4cm。
第106図 PL.68	15	石臼(下臼) 1/2	26烟 1/2	長 幅 (29.9) (17.5)	厚 重	12.2 9230.0	粗粒輝石安山岩	上面に挽き目の痕跡が明瞭に認められる。軸孔は中央付近 が抜くなつており内面穿孔と考えられる。底面には棒状の 工具痕が認められ加工痕と考えられる。
第106図 PL.68	16	龍泉窯系青 磁碗	26烟上 口縁部破片	口 底	-	器 高	-	灰オリーブ/夾雜 物少量 外面に銷蓮弁文。貢入る。

### 第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

排 図 PL No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第106図 PL 68	17 肥前陶器 陶胎染付鏡 小碗	46烟 1/3	口(10.3) 底(4.8)	器高 7.3	灰/夾雜物微量	口縁部外面に如意頭文。体部外面に山水文か。高台外面に2重の輪郭。貫入る。		
第106図 PL 68	18 濑戸・美濃 陶器 腰鉋碗 小碗	50番74上坑 1/3	口(5.3) 底2.7	器高 3.5	灰白/夾雜物微量	口縁部外面に如意頭文。体部外面に山水文か。高台外面に2重の輪郭。貫入る。		
第106図 PL 68	19 濑戸・美濃 陶器 腰鉋碗 小碗	50番74上坑 体部下位～高台 部2/3	口一 底4.0	器高 —	灰白/夾雜物微量	外側口縁部下に凹線。内面から口縁部外面に灰釉、外側口縁部下から高台内に灰釉。高台端部無釉。内面の灰釉は貫入る。		2点接合。
第106図 PL 68	20 濑戸・美濃 陶器 筒形香炉 筒形香炉	50番74上坑 体部下位～高台 部2/3	口一 底(7.2)	器高 —	淡黄/夾雜物微量	体部外面に削りで施文。体部外面に施釉。貼付脚1カ所残存。		5点接合。

### 遺構外

排 図 PL No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第107図 PL 68	1 龍泉窯系青 磁碗	1面 体部片	口一 —	器高 —	灰白/夾雜物無	外面に箱籠弁文。内外面に青磁釉。		13世紀。
第107図 PL 68	2 須恵器 杯	1面 体部下位～底部 1/2	底5.0	—	粗砂粒/還元焰さ み/灰黃	ロクロ整形。回転は左回りか。底部の周縁部は磨耗顯著。		
第107図 PL 68	3 黒色土器 杯	1面埋没上 杯部下位～底部 片	底5.4	—	粗砂粒/氧化焰/ 明褐	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り離し後、無調整。内面は底部中央から口縁部に向けてヘラ磨き、3方向が現存。内面は黒色処理。		
第107図 PL 68	4 常滑陶器 耐酸瓶か燒 耐酸瓶	1面 体部上位片	口一 底一	器高 —	赤灰/夾雜物微量	焼きしまる。外面に施釉。肩部に重焼き痕。		近現代。
第107図 PL 68	5 濑戸・美濃 陶器 すり鉢	1面 体部下位～底部 片	口一 底12.8	器高 —	淡黄/黑色胚物粒 少量	底部に回転糸切り無調整。周縁部にナデ調整が加えられて いるか。内面に17本1単位のクシ目。体部下位の割れ口研磨。		二次加工。
PL 68	6 鉄製品 蹄鉄	1面 1/3	長(9.6) 幅7.3	厚1.3 重53.9	—	劣化が激しく、剥離する様に欠損している。また、銷も 表面に見られる。現状で角孔が4ヶ所ある。想定で長さが 13～14cmになるか。		

第30表 未掲載遺物(古代)

遺構名	土師器			須恵器			内里土器	施釉陶器
	小	中	大	小	中	大		
5号建物							1片	10g
23号烟	3片	6g					1片	19g
25号烟		1片	4g					
26号烟				1片	14g	5片	14g	1片
表探					1片	29g	1片	20g
1面				2片	40g	1片	4g	1片
1面	3片	4g					93g	

大小は想定器形の大小に基づく。小は杯・碗・皿など、中は高杯・小型壺など、大は壺・羽釜・壺など。  
左 破片点数、右 破片重量。

第31表 未掲載遺物(中近世)

区 域	層位・ 面	遺構 番号	遺構種別	中世						近世						備 考	
				中国陶器	国産施釉陶器	在地系鉢・鍋	在地系皿	国産磁器	国産施釉陶器	点数	重量	点数	重量	点数	重量		
D	5	建物												8	68		
D	15	建物				1	16			1	1	7	59				
D	15	建物軸方								4	32	12	92				
D	16	建物 I 桶軸方					1	12									
D	17	建物								1	5	7	29				
D	18	建物								1	2	22	98				
D	20	建物										1	8				
D	5	道								1	3	2	31				
D	1	庭地								1	10	4	23				
D	18	烟									2	3					
D	22	烟									2	30					
D	24	烟									1	7					
D	25	烟										1	9				
D	26	烟 耕作土								1	2	1	5				
D	27	烟									2	13					
D	94	上坑										1	39				
D	98	上坑								1	4						
D	103	上坑									1	17					
D	106	上坑									1	5					
D	166	ピット									1	4					
D	253	ピット									1	23					
D	293	ピット									3	31					
D	299	ピット								1	5						
D	1曲									4	8	10	177				
D	2曲									2	9	4	57				
D												3	16				
E	21	建物									2	10					
E		泥流下								1	12	2	11	磁器はAs-Aより新しい皿			
E	1曲	泥流									3	9					
E	1面										3	36					
F	22	建物								2	24	13	51				
F	1	石垣								4	25	4	82				
F	2	道跡								1	3						
F	43	烟								1	8						
F	46	烟								1	3	6	84				
F	1曲										2	77					
G	23	建物No.4									1	10					
G	23	建物No.5									1	19					
G	23	建物No.9									1	17					
G	23	建物No.16								1	43						
G	23	建物No.20									1	44					
G	23	建物No.26									1	29					
G	23	建物No.29									1	4					
G	23	建物No.32・33									1	87					
G	23	建物								7	46	5	48				
G	24	建物No.3										1	8				
G	24	建物ピット17										1	11				
G	74	土坑								1	93	3	38				
G	118	上坑			1	5					1	1	中世は大窯跡縁頭				
G	48	烟跡									1	106	すり跡				
G	泥流中										2	55					
H	9	堅穴建物								2	2						
H	1	部材								1	13	2	16				
H		泥流烟								1	3	1	5				
H		泥流烟耕作土	1	5								2	14	龍泉窯系青磁罐I類。12世紀中～後葉			
H	1曲											4	45				
H	2曲	1トレンチ				1	8										
計			1	5	2	13	1	16	1	12	44	476	159	1,641			

## 第2節 2面および3面の 遺構と遺物

### 第1項 2面および3面の概要

2面と3面は天明泥流直下である1面の下位に位置する。2面は調査区西部から中部にかけての領域で確認され、掘立柱建物3棟、竪穴建物10棟、ピット列4条、竪穴状遺構1基、土坑4基、焼土遺構4基、ヤックラ1基のはかピット多数が検出されている。遺構の帰属年代は江戸時代中期から繩文時代におよんでいる。3面は調査区中部のごく一部の範囲のみであり、谷の北側斜面から土坑4基と繩文時代の遺物が確認されている。時代ごとの生活面が確認しがたい地域の特性を考慮し、本節では2面と3面をあわせ、遺構毎の記述を行う。なお、1面下位2面上位から検出された遺構もここに含めた。

調査区の中部から東部にかけて、東に開く谷地形となつており、遺構の多くはその周辺部に存在する。谷の西からは近世の掘立柱建物や平安時代の竪穴建物が、谷の南からは中世の遺構群が検出された。なお、調査区東部から検出された平安時代の竪穴建物2棟は、谷の北側に位置する。

### 第2項 建物群

平成28年度調査区の天明3年生活面の下位から、1組が確認された。5号掘立柱建物と1号ピット列および2号ピット列をあわせ、A1建物群とする。

#### 1 A1建物群(第108,109図、PL.23)

本建物群は、掘立柱建物と平行する2条のピット列により構成される。遺構は調査区中部の谷の南に広がる平坦面に位置し、2条のピット列は谷と交差するように南北に延びるが、谷の縁からは検出されていない。

今回確認された2条のピット列は、平成25年度調査で確認された2条のピット列の延長線上に位置する。また、下湯原遺跡において2条の柵と3棟の掘立柱建物により構成される建物群が確認されている(松村2018)ことから、既報告の掘立柱建物2棟(1号掘立柱建物、2号掘立柱建物)とピット列(1号ピット列、2号ピット列)をも含め、同一建物群とした。平成25年度調査結果と合

わせた全体構成については後掲(本章3節)する。

#### (1) 5号掘立柱建物(第108図、PL.23)

位置 24区F～H-23～24グリッド、調査区中部の南辺に位置する。

形状等 ピット14基が確認されている。2間×4間の東西棟掘立柱建物。

規模 衍行7.01m、梁間4.52m。

走行方向(度) N-89-W

埋没土 柱穴埋土は、ごくわずかに炭化物粒や黄・白色軽石粒を含む、しまりやや弱くすんだ色調の均質な暗褐色土。

所見 本遺構の年代は、埋没土および出土層位から中世に比定される。

#### (2) 1号ピット列(第109図、PL.23)

位置 24区H-23～25グリッドおよび34区G～H-1グリッド、調査区中部の南辺、5号掘立柱建物の西に位置する。

形状等 6基のピットが確認されている。

規模 確認長12.63m

走行方向(度) N-12-E

埋没土 ピット埋土は、ごくわずかに炭化物粒や黄・白色軽石粒を含む、しまりやや弱くすんだ色調の均質な暗褐色土。

所見 本遺構の年代は、埋没土および出土層位から中世に比定される。平成25年度調査で確認された1号ピット列の北に連なる部分であり、その延長となる。

備考 調査時の名称は1号柵列。

#### (3) 2号ピット列(第109図、PL.23)

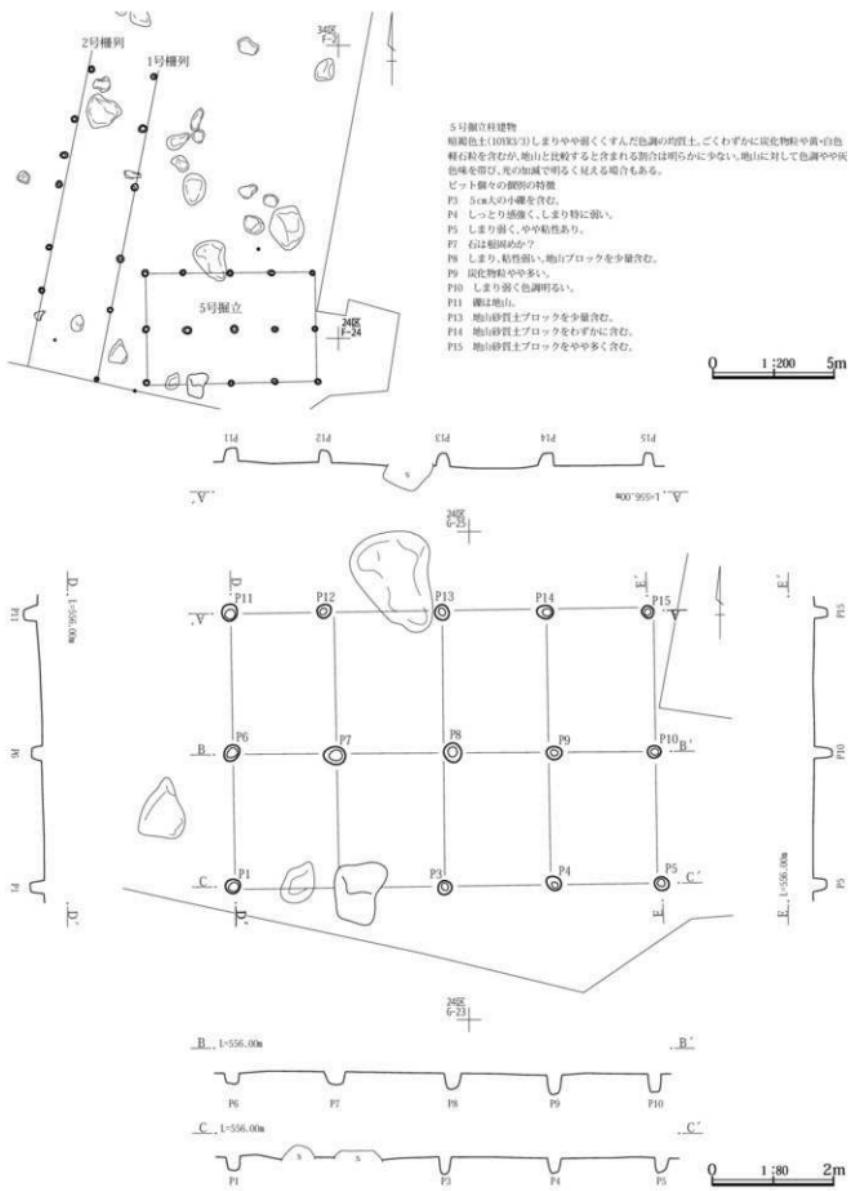
位置 24区H～I-24～25グリッドおよび34区H-1グリッド、調査区中部の南辺、5号掘立柱建物の西に位置する。

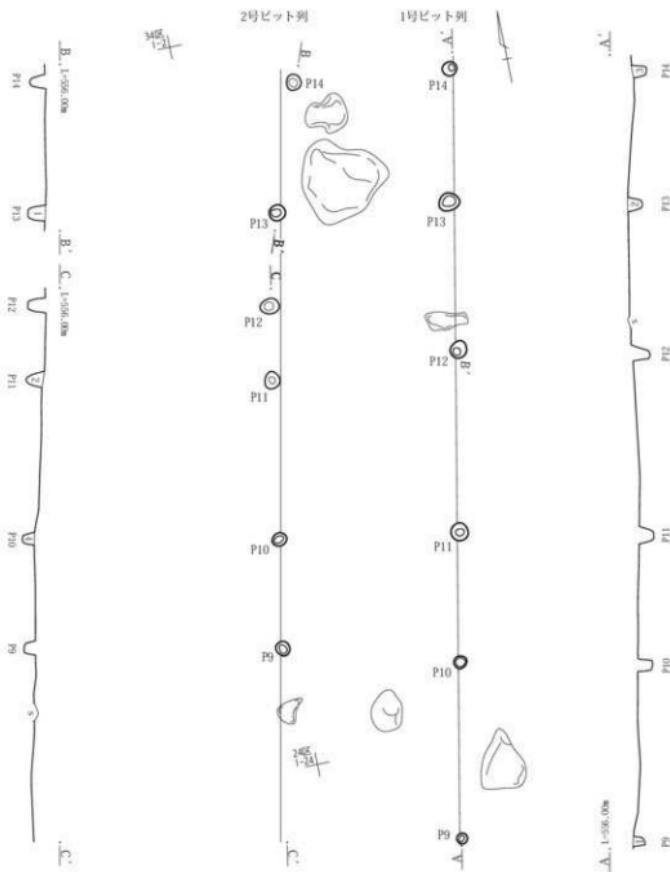
形状等 6基のピットが確認されている。

規模 確認長9.28m

走行方向(度) N-11-E

埋没土 ピットの埋め土は、ごくわずかに炭化物粒や黄・白色軽石粒を含む、しまりやや弱くすんだ色調の均質な暗褐色土。





1 細密色土(10R3/3)しまりやや弱くすんだ色調の均質土。ごくわずかに炭化物粒や黄・白色軽石粒を含むが、地山と比較すると含まれる割合は明らかに少ない。地山ブロックをやや多く含む。地山に対して色調や灰色味を帯び、光の加減で明るく見える場合もある。

2 細密色土(10R3/3)しまりやや弱くすんだ色調の均質土。ごくわずかに炭化物粒や黄・白色軽石粒を含むが、地山と比較すると含まれる割合は明らかに少ない。地山に対して色調や灰色味を帯び、光の加減で明るく見える場合もある。地山ブロックを少量含む。

3 細密色土(10R3/3)しまりやや弱くすんだ色調の均質土。ごくわずかに炭化物粒や黄・白色軽石粒を含むが、地山と比較すると含まれる割合は明らかに少ない。地山に対して色調や灰色味を帯び、光の加減で明るく見える場合もある。3cm人の小頭を含む。

4 細密色土(10R3/3)しまりやや弱くすんだ色調の均質土。ごくわずかに炭化物粒や黄・白色軽石粒を含むが、地山と比較すると含まれる割合は明らかに少ない。地山に対して色調や灰色味を帯び、光の加減で明るく見える場合もある。地山ブロック混れてやや多く含む。



第109図 1号ピット列、2号ピット列

所見 本遺構の年代は、埋没土および出土層位から中世に比定される。平成25年度調査で確認された2号ピット列の北に連なる部分であり、その延長となる。

備考 調査時の名称は2号柵列。

#### 参照文献

松村和男2018「第4章(3)掘立柱建物の配置について」『公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第641集、下闘原遺跡(1)』

### 第3項 掘立柱建物

平成28年度調査区の天明3年生活面の下位から、2棟の掘立柱建物が確認されている。調査区北西端の24号建物と、調査区西部の11号掘立柱建物の2棟である。このうち11号掘立柱建物は、平成26年度調査で確認された建物の未調査部分である。

第32表 5号掘立柱建物ピット計測表1

ピット	P1	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11
位置	24区G-23	24区G-23	24区F-23	24区F-23	24区F-23	24区G-H-24	24区G-24	24区F-24	24区F-24	24区G-H-24
規模(m)	長 0.24	0.24	0.28	0.25	0.28	0.37	0.32	0.25	0.21	0.28
短 0.24	0.22	0.24	0.24	0.24	0.29	0.30	0.23	0.21	0.26	
深 0.22	0.28	0.23	0.23	0.18	0.22	0.26	0.32	0.30	0.23	
平面形状	円形	円形	長円形	円形	長円形	長円形	長円形	長円形	円形	円形
長軸方向(度)	—	N-27-E	N-45-W	N-46-W	N-30-E	N-86-W	N-17-W	N-59-W	—	N-1-W
重複										

第33表 5号掘立柱建物ピット計測表2

ピット	P12	P13	P14	P15
位置	24区G-24	24区G-24	24区F-24	24区F-24
規模(m)	長 0.25	0.26	0.27	0.22
短 0.23	0.24	0.23	0.20	
深 0.21	0.22	0.22	0.23	
平面形状	長円形	円形	長円形	長円形
長軸方向(度)	N-47-E	N-43-W	N-70-W	N-23-W
重複				

第34表 5号掘立柱建物柱間計測表

	柱行 柱間	柱行 柱間	柱行 柱間	柱行 柱間	柱行 柱間	柱行 柱間			
P11	— 1.55 —	P12	— 1.92 —	P13	— 1.68 —	P14	— 1.68 —	P15	6.83
梁行柱間									
	2.30	2.36	2.30	2.30	2.28				
P16	— 1.68 —	P17	— 1.92 —	P18	— 1.66 —	P19	— 1.64 —	P20	6.90
梁行柱間									
	2.18	2.22	2.13	2.17					
P21	— 1.79 —	P22	— 1.77 —	P23	— 1.77 —	P24	— 1.77 —	P25	7.01
梁間	4.48	4.52	4.43	4.45					

第35表 1号ピット列計測表

確認長	12.67m	走向(度)	N-11-E	旧名称	1号柵列	
ピット	P9	P10	P11	P12	P13	P14
規模	長(m) 0.19	0.22	0.30	0.31	0.34	0.25
短(m)	0.18	0.22	0.28	0.27	0.30	0.23
深(m)	0.19	0.23	0.24	0.29	0.23	0.23
平面形状	円形	円形	円形	偏円形	偏円形	円形
長軸方向(度)	N-75-W	—	N-37-W	N-36-E	N-73-W	N-61-E
次航間隔(m)	2.91	2.15	2.97	2.45	2.19	—

第36表 2号ピット列計測表

確認長	9.30m	走向(度)	N-12-W	旧名称	2号柵列	
ピット	P9	P10	P11	P12	P13	P14
規模	長(m) 0.24	0.24	0.29	0.32	0.28	0.26
短(m)	0.22	0.23	0.27	0.29	0.27	0.24
深(m)	0.19	0.19	0.29	0.30	0.28	0.25
平面形状	円形	円形	円形	偏円形	円形	円形
長軸方向(度)	N-33-W	N-66-E	N-13-W	N-85-W	N-21-E	N-9-W
次航間隔(m)	1.82	2.61	1.21	1.52	2.14	—

### 第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

り鉢(4)、古銭(寛永通寶)(5)、P6から古銭(寛永通寶)(6)、24号建物東から火打ち金(22)が出土している。

所見 24号建物の年代は、出土層位および出土遺物から近世(18世紀前～中)に比定される。23号建物は24号建物の建て替えと推察される。敷地はピット多数が集中する場所であり、埋没土の異同から帰属を判定し、3間×5間の構造を抽出した。建物中央付近で炉5基が確認されており、炉の作り替えと解釈するには些か集中の度合いも高く、359～361号ピットを辺に持つ建物の存在を想定したが、その領域を確定するには至れなかった。以下の諸施設がこれに伴う可能性も否定しない。

備考 調査所見の遺構確認面は1.5面。1面直下の出土。

#### (1) 1号炉(第111図、PL.23)

位置 35区H-25グリッド、建物中央やや東に位置し、2号炉の北に隣接する。

形状等 灰混じりの黒褐色土の上位が焼土となり、その上面から23号建物の床土が確認されている。偏円形の焼土部の下層は、隣接する2号炉の基層と分離しがたい。

規模 0.89×(0.71)m、焼土部0.60×0.50m。

主軸方向(度) N-87-W。焼土部N-5-E。

所見 焼土内および焼土周辺から石が確認されており、石組みで囲われていたと推察される。

備考 調査時の名称は17号焼土遺構。

#### (2) 2号炉(第111図、PL.24)

位置 35区H-25グリッド、建物中央やや東に位置し、1号炉の南に隣接する。

形状等 偏円形の窪地2か所が連結し長円形をなす。焼土部は北半を中心とし、一部が南半におよぶ。灰は北半と南半に分かれ分布し、北半は焼土の西を弧状に囲み、南半は焼土先端の東に存在する。炉の基層をなす灰混じりの暗褐色土は1号炉の下部に続いている。

規模 1.56×0.92m。焼土部0.99×0.49m。

主軸方向(度) N-46-W。焼土部N-56-W。

重複 357号ピット、362号ピット。

所見 重複する2基のピットより新しい。北側の窪みを火床とし、南側の窪みを灰出しとして構築されたと推察される。

備考 調査時の名称は18号焼土遺構。

#### (3) 3号炉(第111図、PL.24)

位置 35区H～I-25グリッド、建物中央部に位置する。形状等 北東隅と南端が破壊され判然としないながら、概ね偏円方形のプランがうかがえる。その中央部が一段窪められ火床となっている。粘土層の上に構築されており、床組を伴わない建物に構築される窯炉裏の様相を呈している。

規模 1.72×1.52m。粘土部1.75×1.48m。焼土0.81×0.66m。

主軸方向(度) N-52-W。粘土部N-53-W。焼土N-70-W。

重複 23号建物1号窯炉裏。

所見 重複する23号建物1号窯炉裏に先行する。焼土を挟み2層の灰層が存在するが、灰の分布範囲はこの2層の下に広がる粘土層の分布範囲の中央部にのみ留まる。カマドとも考えられるが、建物内の配置としては窯炉裏であった可能性が高い。いずれにしても、24号建物の廃棄あるいは23号建物構築に伴い上部構造が破壊されたと推察される。

備考 調査時の名称は23号建物3号窯炉裏。

#### (4) 4号炉(第111図、PL.24)

位置 35区H～I-24～25グリッド、建物中央やや南に位置する。

形状等 偏円の二等辺三角形をした掘り込みの中央部に焼土が位置している。焼土の中央部と、焼土から少し離れた焼土を弧状に囲う位置から灰が確認されている。

規模 1.14×0.83m。焼土0.49×0.30m。

主軸方向(度) N-80-E。焼土N-9-W。

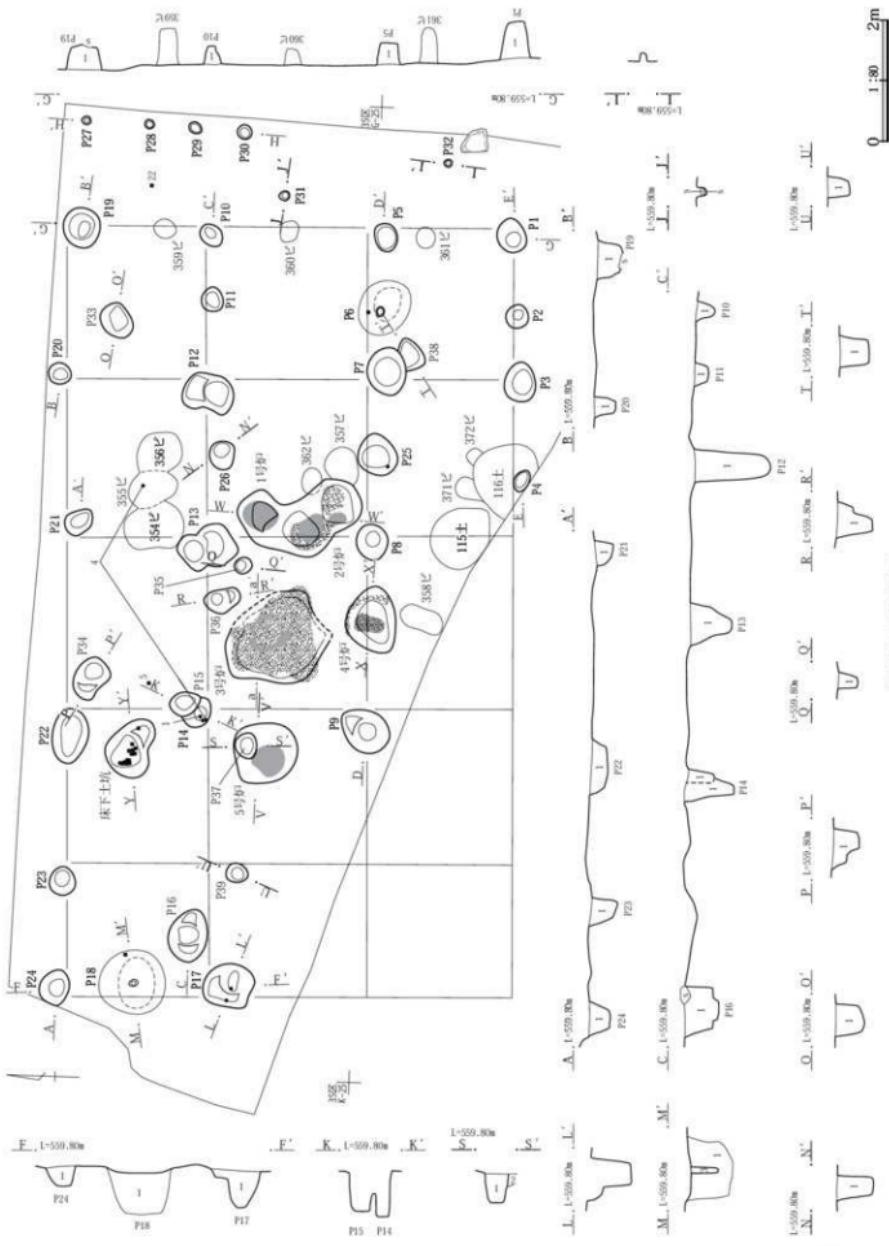
所見 4号炉の掘り方は他の炉よりも深く、火床の位置も5号炉に次いで低い。また、炉の作り方も他の炉と相違し、24号建物に先行する可能性も否定できない。

備考 調査時の名称は19号焼土遺構。

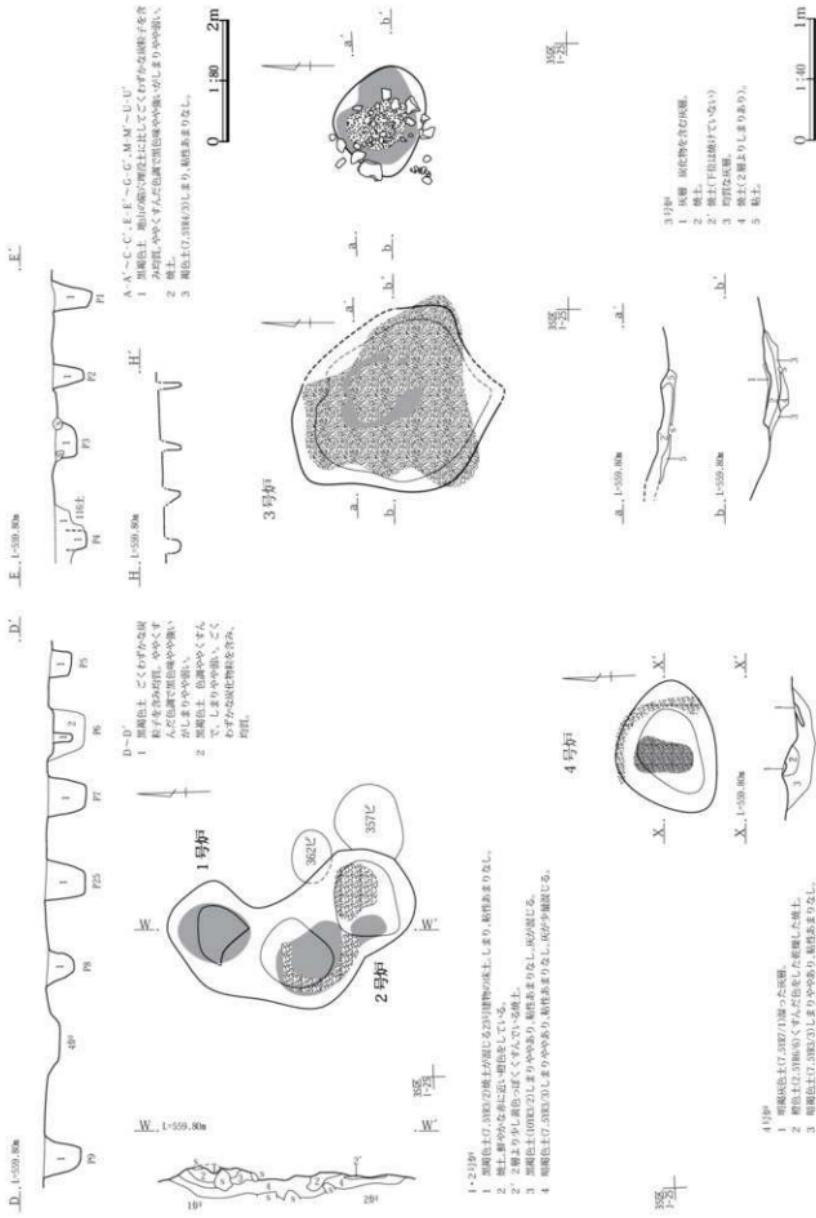
#### (5) 5号炉(第112図、PL.24,25)

位置 35区I-25グリッド、建物中央西寄りに位置する。

形状等 偏円方形の一辺が弧状に突出した形状の、窪み一面が焼土であり、その上から灰が確認されている。窪みは多くの焼土や炭化物を含む暗褐色土に覆われていた。



第110回 24号建物 1



第111図 24号建物2

## 第2節 2面および3面の遺構と遺物

規模  $1.05 \times 0.99m$ 。焼土  $0.55 \times 0.53m$ 。

主軸方向(度) N-15-W。焼土 N-15-W。

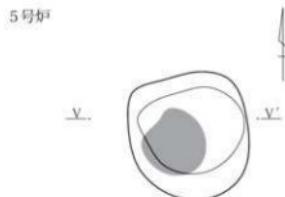
重複 P37

所見 重複するP37に先行する。24号建物の一部として記載したが、24号建物に先行する可能性も高い。すくな

第37表 24号建物ピット間隔計測表

	P27-28	P28-29	P29-30	P27-30
芯々距離(m)	1.05	0.74	0.80	2.61

5号炉



35区  
P-25

V-V', L-559.80m



床下土坑

V-V', .V'.V'



35区  
P-25

V-V'

- 1 暗褐色土(7.5YR3/2)にしまりややあり、粘性あまりなし。焼土や炭化物を多く含む。
- 2 灰層。
- 3 焼土。

くとも、24号建物廃絶以前に炉としての用は終わり、すでに埋め戻されていたと推測される。

備考 調査時の名称は1号囲炉裏。

(6)床下土坑(第112図、PL.25)

位置 35区1-25グリッドおよび45区1-1グリッド、建物北辺や西寄りに位置する。

形状等 猪の目の片側にあたる部分が深く掘り込まれ、出土した古銭は1枚を除き、この深い部分から見つかっている。

規模  $1.00 \times 0.78m$ 。深さ  $0.82m$ 。

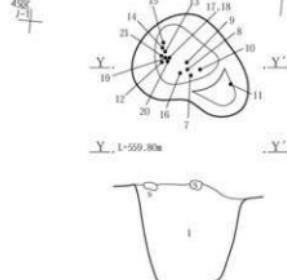
主軸方向(度) N-60-W

遺物 底面から古銭(寛永通寶)(7,8)、埋没土下半から古銭(寛永通寶)(9~11)、埋没土上半から古銭(寛永通寶)(12~21)が出土している。

所見 出土遺物から、本遺構の年代は近世に比定される。

18世紀前半に埋設されたと推測される。

備考 調査時の名称は114号土坑。



1 黒褐色土(7.5YR3/2)しまり、粘性はともにあまりなし。  
炭角縫を多く含み、ロームも混じる

0 1:40 1m

第112図 24号建物3

### 第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

第38表 24号建物柱間計測表

	柱間 柱間											
	P24	- 1.76 -	P23	- 3.35 -	P24	- 2.51 -	P23	- 2.42 -	P24	- 2.46 -	P19	12.49
梁行柱間	2.89		2.89		1.76		1.95		2.58		2.10	
梁行柱間	P17	- 1.82 -	P20	- 2.74 -	P14	- 2.68 -	P13	- 2.60 -	P12	- 2.63 -	P10	12.31
					2.75		2.92		2.83		2.89	
梁行柱間	P9	- 3.15 -	P6	- 2.75 -	P7	- 2.21 -	P5					
					2.22		2.07					
梁間					P3	- 2.36 -	P1					
								7.59				7.09

第39表 24号建物ピット計測表1

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10
位置	35[K G-24	35[K G-24	35[K H-24	35[K H-24	35[K G-24~25	35[K G-24~25	35[K G~H-24~25	35[K H-24~25	35[K I-24~25	35[K G-25
規模(m)	長	0.53	0.38	0.64	0.37	0.45	0.97	0.73	0.59	0.86
短	0.46	0.38	0.53	0.25	0.37	0.81	0.67	0.53	0.68	0.33
深	0.64	0.49	0.36	0.51	0.34	0.51	0.62	0.43	0.59	0.30
平面形状	楕丸方形	円形	長円形	長円形	楕丸長方形	長円形	長円形	長円形	長円形	長円形
主軸方向(度)	N-48-E	-	N-87-E	N-69-W	N-67-E	N-47-W	N-61-E	N-65-E	N-32-E	N-44-E
重複						P38				

第40表 24号建物ピット計測表2

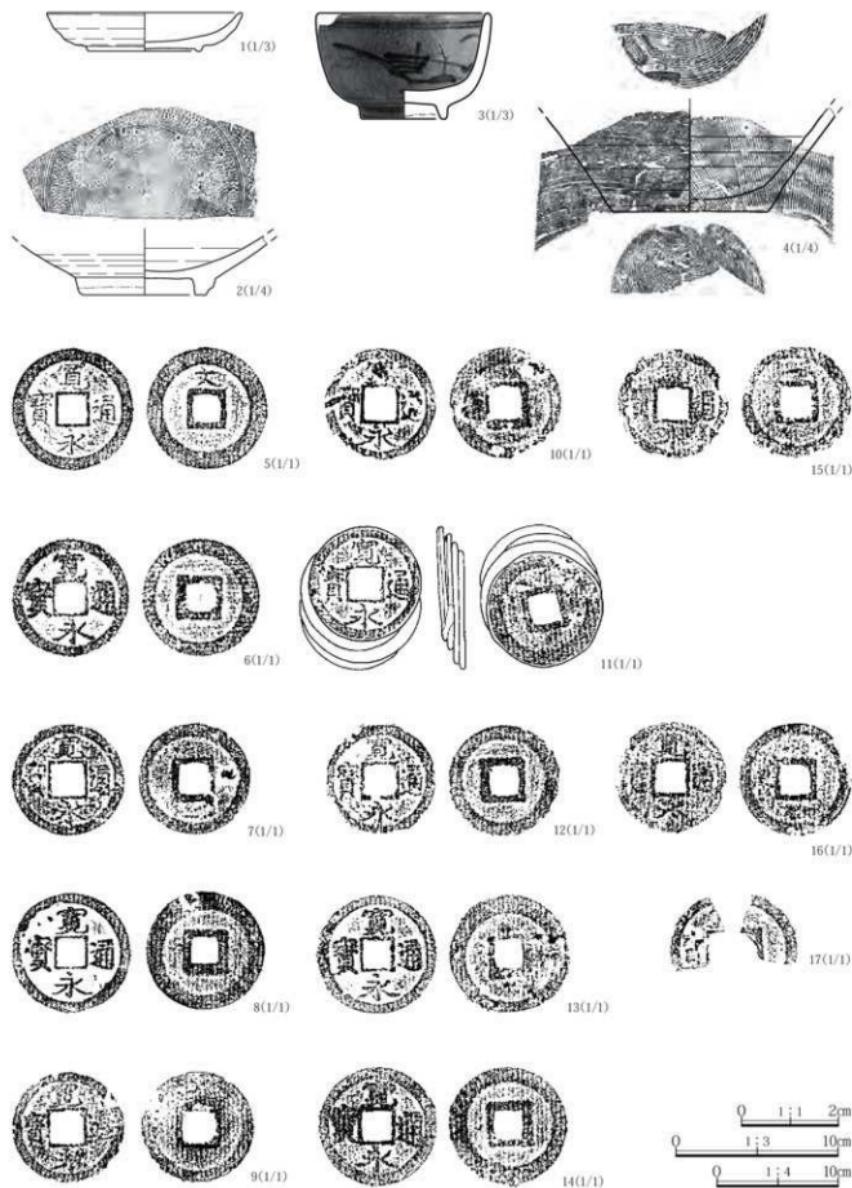
ピット	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19	P20
位置	35[K G-25	35[K H-25	35[K H-25	35[K I-25	35[K I-25	35[K J-25	35[K J-25	35[K J-25	45[K J-1	45[K G-1
規模(m)	長	0.40	0.82	1.00	0.53	0.53	0.85	0.87	1.09	0.66
短	0.36	0.60	0.71	(0.28)	0.39	0.64	0.79	1.05	0.64	0.35
深	0.22	1.23	0.67	0.81	0.63	0.56	0.60	0.71	0.41	0.35
平面形状	長円形	不整形	不整形	長円形	長円形	長円形	不整形	円形	円形	円形
主軸方向(度)	N-81-W	N-15-E	N-2-W	N-54-W	N-18-W	N-71-W	N-27-W	N-15-W	N-63-E	N-6-E
重複			P15	P14						

第41表 24号建物ピット計測表3

ピット	P21	P22	P23	P24	P25	P26	P27	P28	P29	P30
位置	45[K H-1	45[K I-1	45[K J-1	45[K J-1	35[K H-24~25	35[K H-25	45[K G-1	35[K G-25	35[K G-25	35[K G-25
規模(m)	長	0.49	0.86	0.47	0.58	0.66	0.46	0.16	0.17	0.23
短	0.39	0.61	0.44	0.47	0.61	0.43	0.14	0.15	0.18	0.23
深	0.31	0.27	0.42	0.33	0.64	0.60	0.28	0.24	0.18	0.14
平面形状	長円形	長円形	長円形	長円形	長円形	長円形	円形	円形	長円形	円形
主軸方向(度)	N-36-W	N-73-W	N-84-E	N-62-W	N-29-E	N-75-E	N-5-E	N-38-E	N-33-E	N-34-E
重複										

第42表 24号建物ピット計測表4

ピット	P31	P32	P33	P34	P35	P36	P37	P38	P39	
位置	35[K G-25	35[K G-24	35[K G-25,	45[K G-1	45[K I-1	35[K H-25	35[K H~I-25	35[K I-25	35[K G~H-24	35[K J-25
規模(m)	長	0.18	0.13		0.60	計測不能	0.29	0.58	0.42	0.53
短	0.16	0.13		0.47	計測不能	0.26	0.40	0.37	(0.35)	0.31
深	0.16	0.13		0.48	0.42	0.33	0.59	0.48	0.49	0.35
平面形状	円形	円形	長円形	不明	円形	不整形	長円形	不整形	偏円形	
主軸方向(度)	N-17-W	-	N-43-E	-	N-43-W	N-26-W	N-62-E	N-71-E	N-85-W	
重複							5号 <sup>抄</sup>	P7		
旧名称		365P		364P, 367P	369P	368P	363P	366P	370P	



第113図 24号建物出土遺物 1

### 第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

#### 2 11号掘立柱建物(第115図、PL25.69)

位置 34区Y-12~13グリッドおよび35区A-12~14グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 ピット9基が確認されている。確認された遺構は既報告の11号掘立柱建物の西に連なる部分であり、建物西半の3間×3間を構成する。

規模 衍行(3.22)m、梁間5.98m。

衍行方向(度) N-10-W

本体構造 東が開く二重コの字の柱穴列は、平成25年度に確認された、西が開く二重コの字の柱穴列に連なるものである。1間×4間の四辺に張り出しを設けた、東西棟3間×6間(衍行9.99m、梁間5.98m)の西半と推測される。

埋没土 ごくわずかな炭粒子を含み均質な、ややすんだ色調で黒色味やや強いがしまりやや弱い黒褐色土。

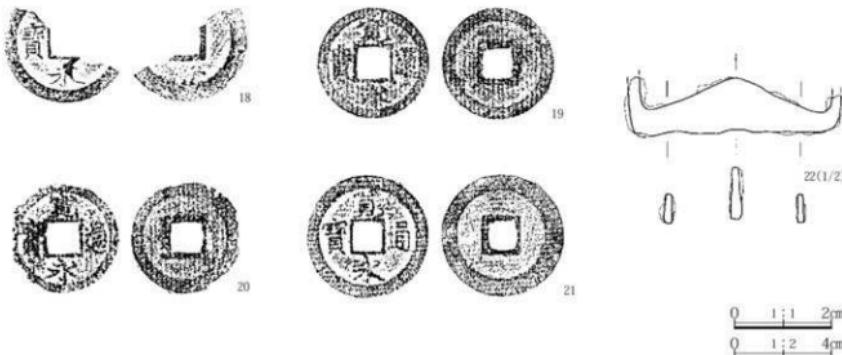
遺物 P24の、底面から6cm浮いた位置から瀬戸・美濃陶器碗(2)、埋没土から瀬戸・美濃陶器尾呂碗(1)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中近世に比定されるが、埋没土の様相からは、近世に帰属する可能性も否定しがたい。

備考 平成25年度調査成果と合わせた全体像については後掲(本章3節)する。

第43表 11号掘立柱建物柱間計測表

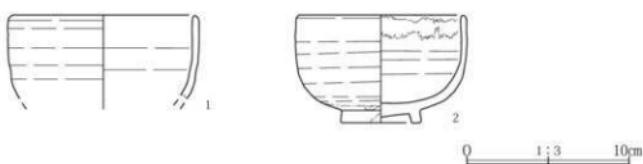
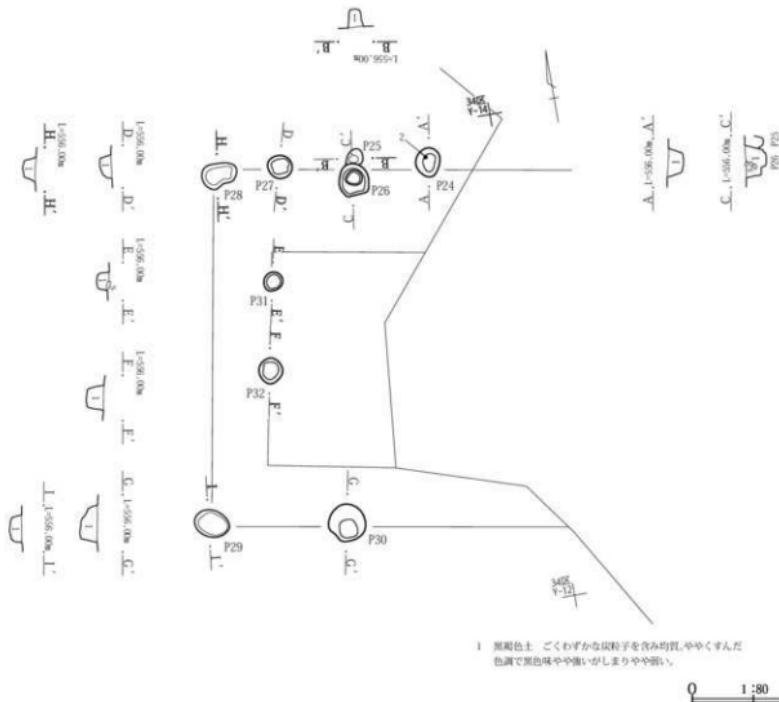
	前柱 柱間	前柱 柱間	後柱 柱間	後柱 柱間			
P28	— 1.01 —	P27	— 1.20 —	P25	— 1.21 —	P24	—
梁行柱間		1.86		P21			
梁行柱間		1.47		P22	—		
梁行柱間	P29			P30	—		
内間梁間	5.72			5.98			
外間梁間							



第114図 24号建物出土遺物 2

第44表 11号掘立柱建物ピット計測表

ピット	P24	P25	P26	P27	P28	P29	P30	P31	P32
位置	34K Y-13	34K Y-13	34K Y-13	34K Y-13	35K A-13	35K A-12	34K Y-12	34K Y~35K A-13	35K A-13
規模(m)	長 0.48	0.33	0.53	0.41	0.62	0.60	0.61	0.33	0.44
幅 0.41	0.26	0.51	0.39	0.42	0.51	0.61	0.30	0.39	
深 0.25	0.29	0.34	0.18	0.25	0.21	0.27	0.19	0.28	
平面形状	長円形	不整形	不整形	円形	不整形	偏円形	不整形	円形	長円形
主軸方向(度)	N-3°-W	N-56°-E	N-5°-W	N-56°-W	N-80°-E	N-60°-W	—	N-47°-E	N-7°-E
重複	P26	P25							
旧名称	166号ピット	188号ピット	165号ピット	164号ピット	163号ピット	161号ピット	160号ピット	167号ピット	174号ピット



第115図 11号掘立柱建物と出土遺物

## 第4項 竪穴建物

平成28年度調査区の天明3年生活面の下から、10棟の竪穴建物が確認されている。竪穴建物の多くは、調査区の中部から東部にかけて広がる谷の西に存在する微高地に分布する。例外は2棟あり、調査区東部の谷の北側に位置する。なお竪穴建物は、遺跡の立地する舌状台地の付け根側である、34区K~35区D-34~35区11~14グリッドという帶状の範囲に分布している。

10棟のうち、重複する遺構が3組存在し、単体として確認できた遺構は4棟のみである。また重複する遺構のうち2組は、平成26年度調査で確認された既報遺構の未調査部分である。なお平成26年度調査成果と合わせた全体構成は後掲(本章3節)する。

### 1 2号竪穴建物(第116,117図、PL25,69)

位置 34区U~V-12~13グリッド、調査区西部に位置する。

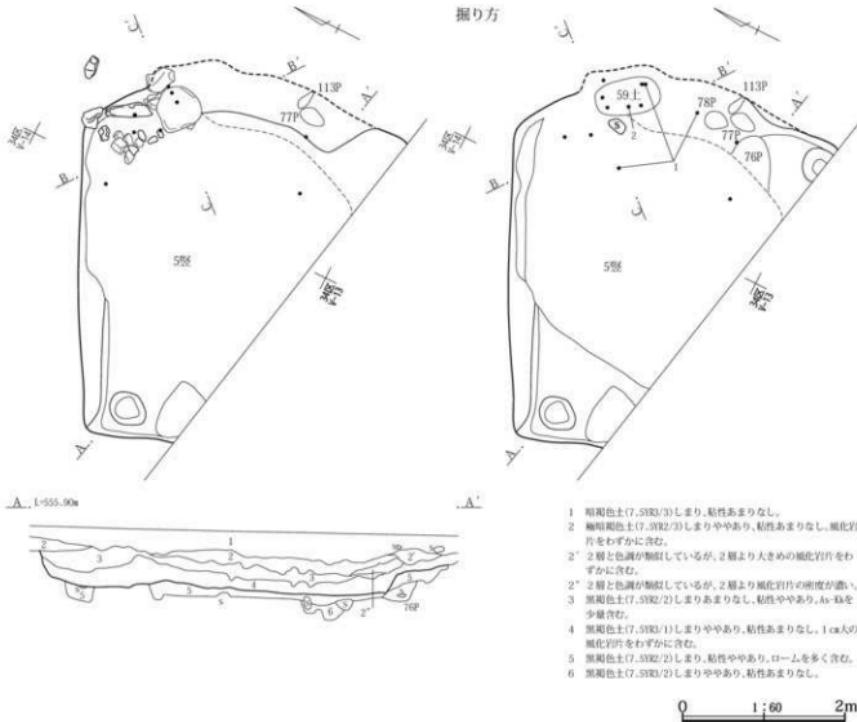
形状等 圓丸方形。北辺および西辺の残り具合は良好であるが、カマドのある東辺は判然としない。後代に擾乱を受けたと推察されるが、5号竪穴建物との分離が十分に行はれなかった一因と思われる。前回の調査では西辺と南辺に壁溝が確認されたが、北辺からは検出されていない。

規模  $4.29 \times (4.02)$ m。深さ0.35m。面積(11.9)m<sup>2</sup>

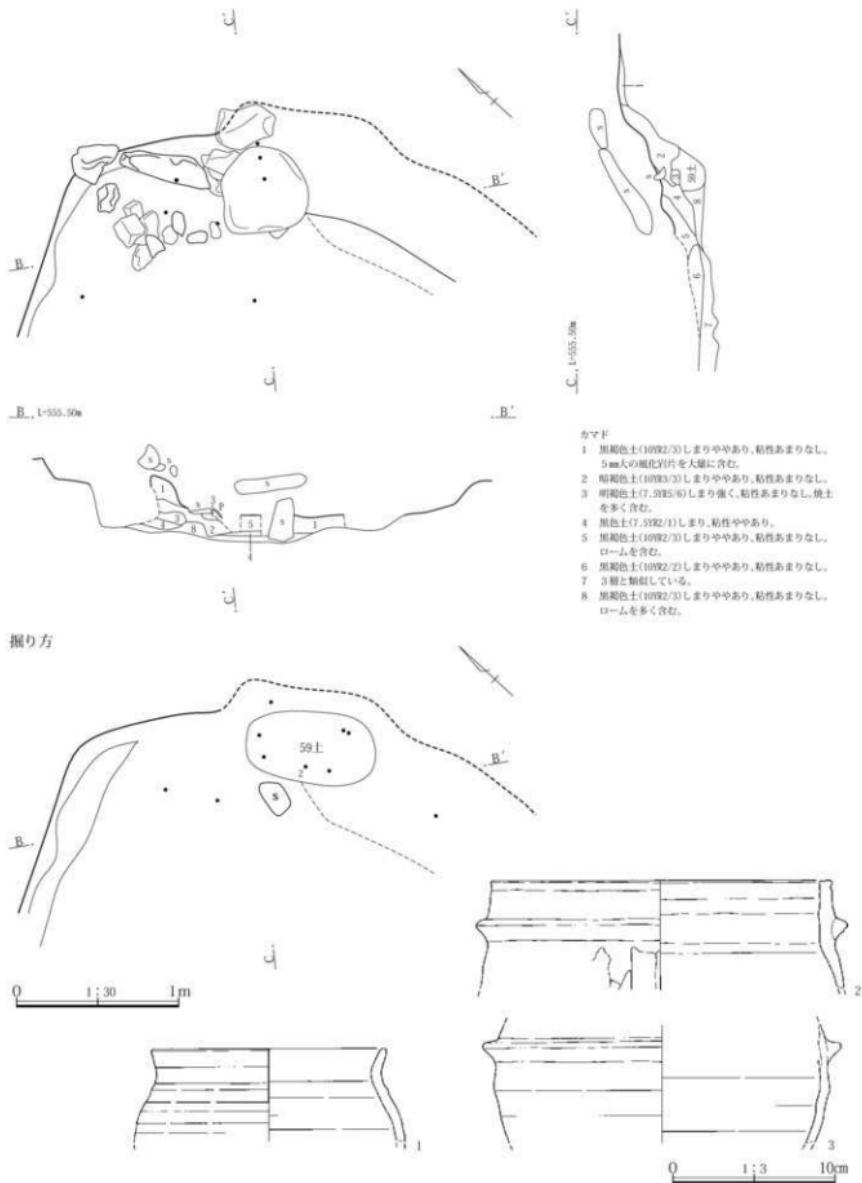
主軸方向(度) N-64-E

埋没土 しまりはややあるが粘性のあまりない、1cm大の風化岩片をわずかに含む黒褐色土。

カマド カマド周辺には石が散乱し、上部構造は石組み



第116図 2号竪穴建物1



第117図 2号竖穴建物2と出土遺物

されていたと推察される。先行する5号竪穴建物のカマドとほぼ同位置に構築されている。先行するカマドを埋め立てて火床を作り、また石組みの一部は再利用している。煙道の上部を構成すると思われる石は、遺構の廃棄に際し、原位置からはずされたと推察される。

**掘り方** 先行する5号竪穴建物跡を、ロームを含む黒褐色土で埋め立てて床面としている。

**重複** 5号竪穴建物。59号土坑、76号ピット、77号ピット、78号ピット、113号ピット。

**遺物** 掘り方より須恵器甕(1)、須恵器羽釜(2,3)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。5号竪穴建物、59号土坑、76号ピット、78号ピットより新しく、77号ピット、113号ピットに先行する。

**備考** 調査時の名称は、5号住居および7号住居。平成

26年度調査において検出された2号竪穴住居の北側部分である。なお、前回調査成果と合わせた全体構成は後掲する。

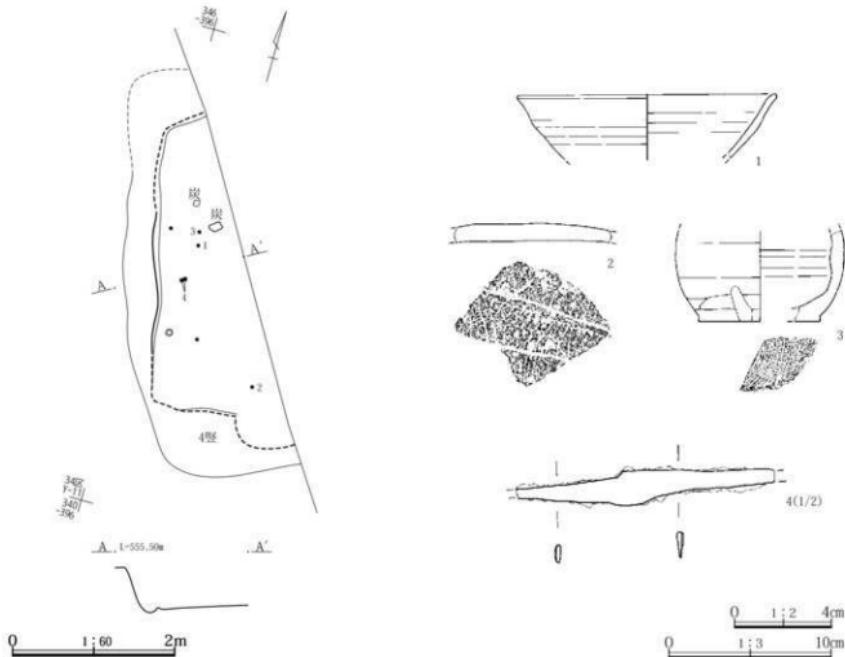
## 2 3・4号竪穴建物

今回検出された遺構は、平成26年度調査で検出された3・4号竪穴住居の未調査部分である。2棟の遺構が重なり合い、床面に残る黒変領域で両者を区分している。なお、前回調査成果と合わせた全体構成は後掲する。

### (1) 3号竪穴建物(第118図、PL26,69)

**位置** 34区X～Y-11～12グリッド、調査区西部に位置する。

**形態等** 既報の遺構形状から隅丸方形と想定されるが、北辺および南辺に続く部分は明確に区画されたものではない。



第118図 3号竪穴建物と出土遺物

規模  $(3.69) \times (1.71)$ m。深さ(0.12)m。面積(4.1)m<sup>2</sup>。

主軸方向(度) N-15-W

埋没土 不明。

カマド 前回調査範囲に含まれる。

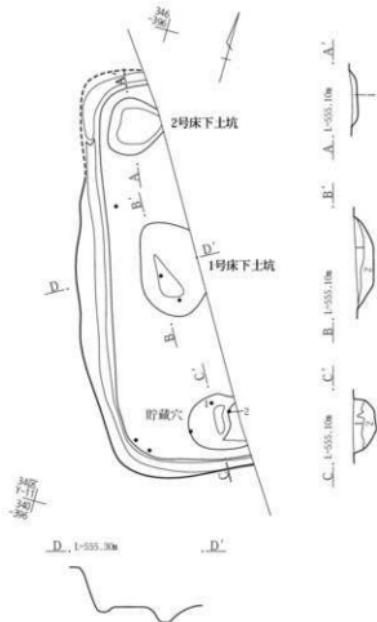
重複 4号竪穴建物。

遺物 埋没土から須恵器甕(1)、土師器甕(2)、灰釉陶器小瓶(3)および刀子(4)が出土している。このほか土師器や須恵器などの破片20片(228g)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。4号竪穴建物より新しい。

#### (2) 4号竪穴建物(第119図、PL.26,69)

位置 34区X~Y-11~12グリッド、調査区西部に位置する。



形状等 圓丸方形。前回の調査で未調査部分であった西辺部分。深さ4~9cm、幅0.1~0.2mの壁溝が存在する。壁近くには床下土坑や貯蔵穴が存在する。

規模  $(5.09) \times (1.64)$ m。深さ0.52m。面積(6.9)m<sup>2</sup>。

主軸方向(度) N-22-W

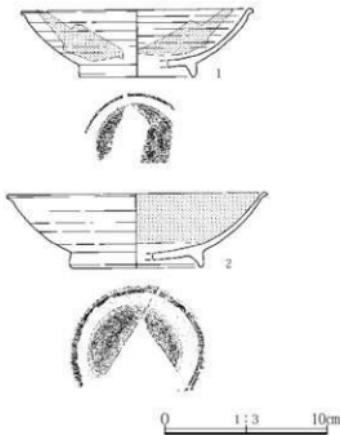
埋没土 不明。

カマド 西辺からは検出されていない。

重複 3号竪穴建物。

遺物 埋没土から灰釉陶器甕(1,2)が出土しているほか、土師器や須恵器などの破片10片(114g)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。3号竪穴建物に先行する。



1号床下土坑 B-B'

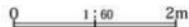
- 1 細粒色土(7.53R/3)しまり、粘性ややあり。
- 2 細色土(7.59R/3)しまり、粘性ややあり。ロームを多く、重角礫をわずかに含む。

2号床下土坑 A-A'

- 1 細粒色土(7.53R/1)色明るくしまり、粘性ややあり。炭化物をわずかに含む。

貯蔵穴 C-C'

- 1 黒褐色土(7.53R2/2)しまり、粘性ややあり。
- 2 黒褐色土(7.53R3/2)しまりややあり、粘性あまりなし。



第119図 4号竪穴建物と出土遺物

### 第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

#### 3 5号竪穴建物(第120、121図、PL.26)

**位置** 34区U～V-13グリッド、調査区西部に位置する。  
**形状等** 橢円形。重複する2号竪穴建物構築に際して擾乱を受けたと推察され、遺構の外形は判然としない。北辺に存在する溝を壁溝とすれば、北辺と西辺の一部が確認されたこととなる。

**規模**  $(3.48) \times (3.13)$ m。深さ(0.21)m。

**主軸方向(度)** N-41-E

**埋没土** しまり粘性ともにややある、ロームを含む黒褐色土。

**カマド** 2号竪穴建物掘り方として、カマド袖の基部が部分的に残存する。東側の袖に相当する場所に石が埋め込まれており、石組みを併用していたと推察される。

**掘り方** カマドの南、西側に掘り込みがある。

**重複** 2号竪穴建物、59号土坑、76号ピット。

**遺物** 埋没土から須恵器小型甕(1)が出土している。このほか土師器や須恵器などの破片43片(834g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。2号竪穴建物に先行し、59号土坑および76号ピットより新しい。平成26年度調査時に南辺の一部が検出されたが、遺構認定に至らなかった遺構である。前回調査成果と合わせた全体構成は後掲する。

**備考** 調査時の名称は、7号住居および5号住居。なお、5号竪穴建物埋没土は2号竪穴建物掘り方でもある、出土遺物は注記に従い区分した。

#### 4 6号竪穴建物(第122、123図、PL.26,27,69)

**位置** 34区P～Q-11～13グリッド、調査区西部に位置する。

**形状等** 南西隅が調査区外に続き不明ではあるが、楕円形をなす。建物中央付近の床面が焼土となり、建物北西隅の一画からは炭化した木材も確認されている。

**規模**  $3.62 \times 3.73$ m。深さ0.12m。面積(12.4)m<sup>2</sup>。

**主軸方向(度)** N-70-E

**埋没土** しまりはややあるが、粘性はあまりない、5mmの大風化岩片と5cm大の角礫を含む黒褐色土。

**カマド** 東辺中央や南寄りにつくられている。カマド袖と燃焼部は建物内に位置し、煙道は建物壁面から建物外へとのびる。火床と思われるカマド底部とカマド北側

の袖基部は広い範囲で焼土となっているが、南側の袖の焼土化の度合は低い。また灰などは確認されていない。  
**掘り方** 大小9か所の掘り込みが確認されている。このうち1か所はカマドの袖、2か所は壁際に存在する。床面は、ロームと5mmの大風化岩片を含む、しまりはややあるが、粘性はあまりない暗褐色土で覆われている。

**遺物** 床面から須恵器釜蓋(2～4)、掘り方から灰釉陶器皿(1)、埋没土から刀子(5)が出土しているほか、土師器や須恵器などの破片36片(744g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。焼失家屋の可能性を否定しえないが、遺構廃絶後に建物跡で火が焚かれた可能性も残る。

#### 5 8号竪穴建物(第124、125図、PL.27,69)

**位置** 35区C～D-12～14グリッド、調査区西部に位置する。

**形状等** 東北隅がやや鋭角に突出するが、概ね楕円形。カマド脇の東南隅に貯蔵穴が位置し、壁沿いに幅5～12cm、深さ1～5cmの壁溝が設けられている。カマド脇から炭化材が確認されている。またカマド周辺からは大小の板状の石材が検出されており、カマドに用いられたと推測される。

**規模**  $3.88 \times 3.72$ m。深さ0.52m。面積13.9m<sup>2</sup>。

**主軸方向(度)** N-61-E

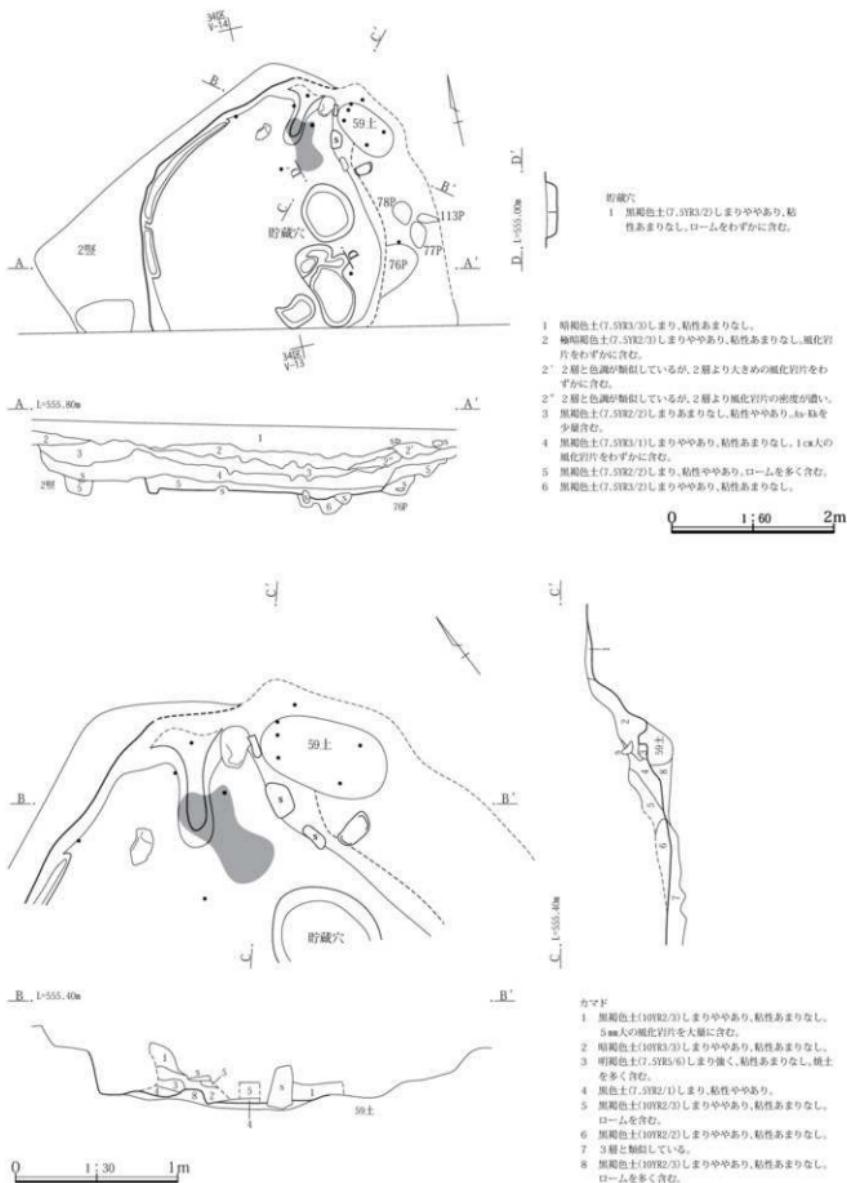
**埋没土** しまり、粘性ともにややある、ロームを含む黒褐色土。

**カマド** 基部を粘土で固めた石組みのカマドと推測されるが、突き崩され原形をとどめていない。カマド袖は遺構内に突出するが、北側の袖に対し南側の袖の焼土化が著しい。北側の袖の焼土化の具合から、燃焼部は東辺の壁面よりやや遺構内に入った部分を中心に、壁線をまたぐように設置されたと推察される。

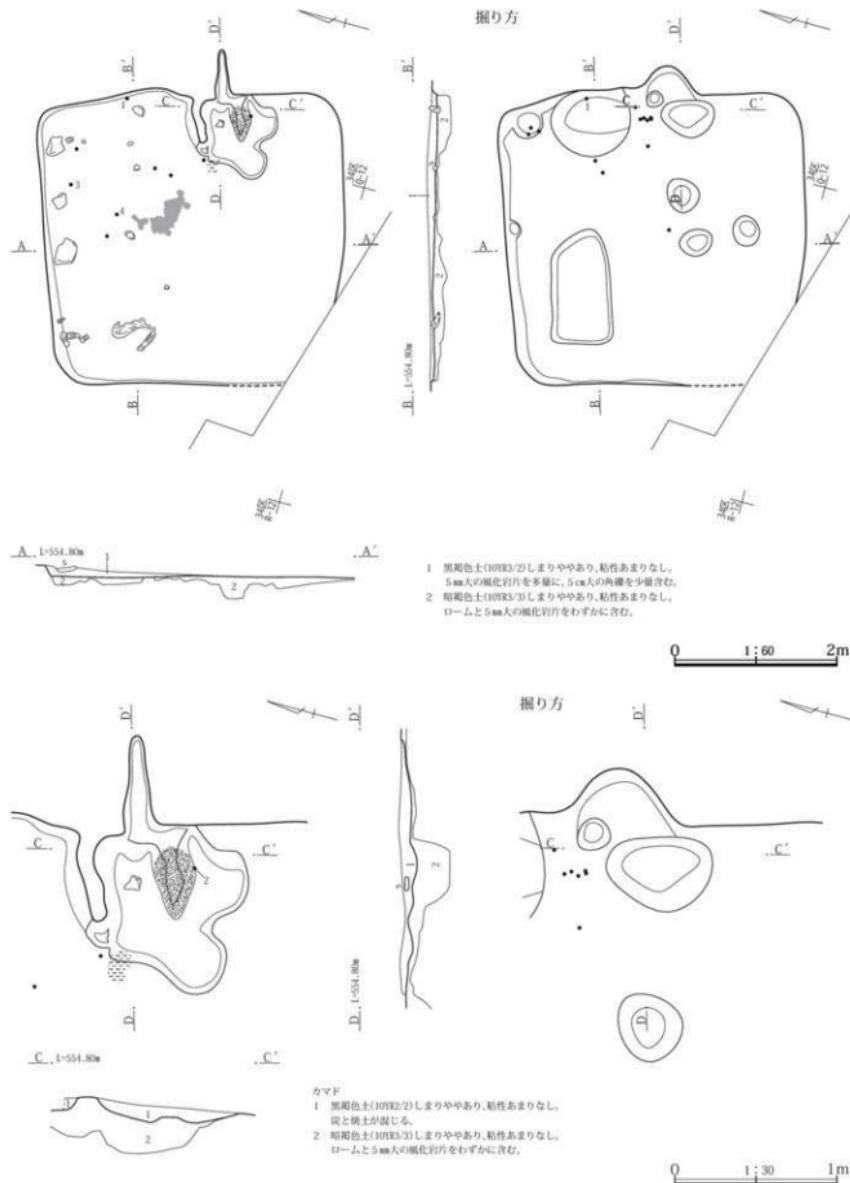


0 1:3 10cm

第120図 5号竪穴建物出土遺物



第121図 5号壁穴建物



第122図 6号竪穴建物

**掘り方** 床面を明黄褐色のロームで覆い貼床としている。遺構中央部とカマド袖下に掘り込みが存在する。カマドと遺構東北隅の間に存在する2号床下土坑は掘り方掘削時に不要な石を取り除いた後と推察される。

**遺物** カマドから黒色土器杯(1)、黒色土器椀(5)、貯蔵穴から黒色土器椀(4, 6)、掘り方から黒色土器坏(2, 3)、黒色土器椀(7)、灰釉陶器椀(8)、須恵器甕(9)が出土している。このほか土師器や須恵器などの破片50片(1,932g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。

**備考** 2号床下土坑の調査時の名称は101号土坑。掘り方から出土した灰釉陶器椀(8)は3号竪穴建物の埋没土から出土した破片と接合関係にある。

#### 6 9号竪穴建物(第126, 127図、PL.28, 69)

**位置** 34区K～L-11～12グリッド、調査区西部の東端に位置する。

**形状等** 隅丸方形。建物の床面付近が検出されたに留まるが、東辺を除く3辺から幅9～21cm、深さ1～3cmの壁溝が検出されている。北辺中央やや東寄りに位置する

1号土坑の埋没土は、掘り方埋め土よりも遺構埋没土に近く、開口のまま使用されたと推測される。

**規模** 3.93×4.09m。深さ(0.13)m。面積15.6m<sup>2</sup>。

**主軸方向(度)** N-10-E。なお、長軸方向(度)N-81-W。

**埋没土** しまりはややあるが、粘性はあまりない黒褐色土に覆われる。

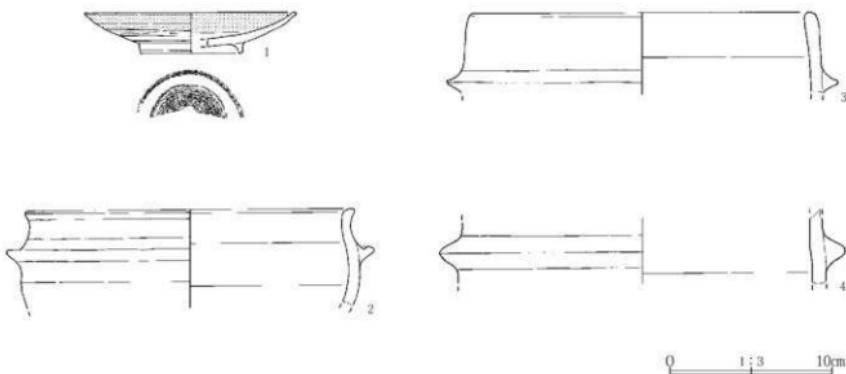
**カマド** 東北隅に位置し、西側の袖の基部が残存する。カマド袖は遺構の隅を挟むように設置されており、遺構東南隅の一画がそのまま燃焼部となっている。また焼土の上からは、焼け崩れた骨片が確認されている。焼土は掘り方の底までおよぶ。

**掘り方** 風化岩片をわずかに含み、ロームを多く含む黒褐色土により床面が形成されている。

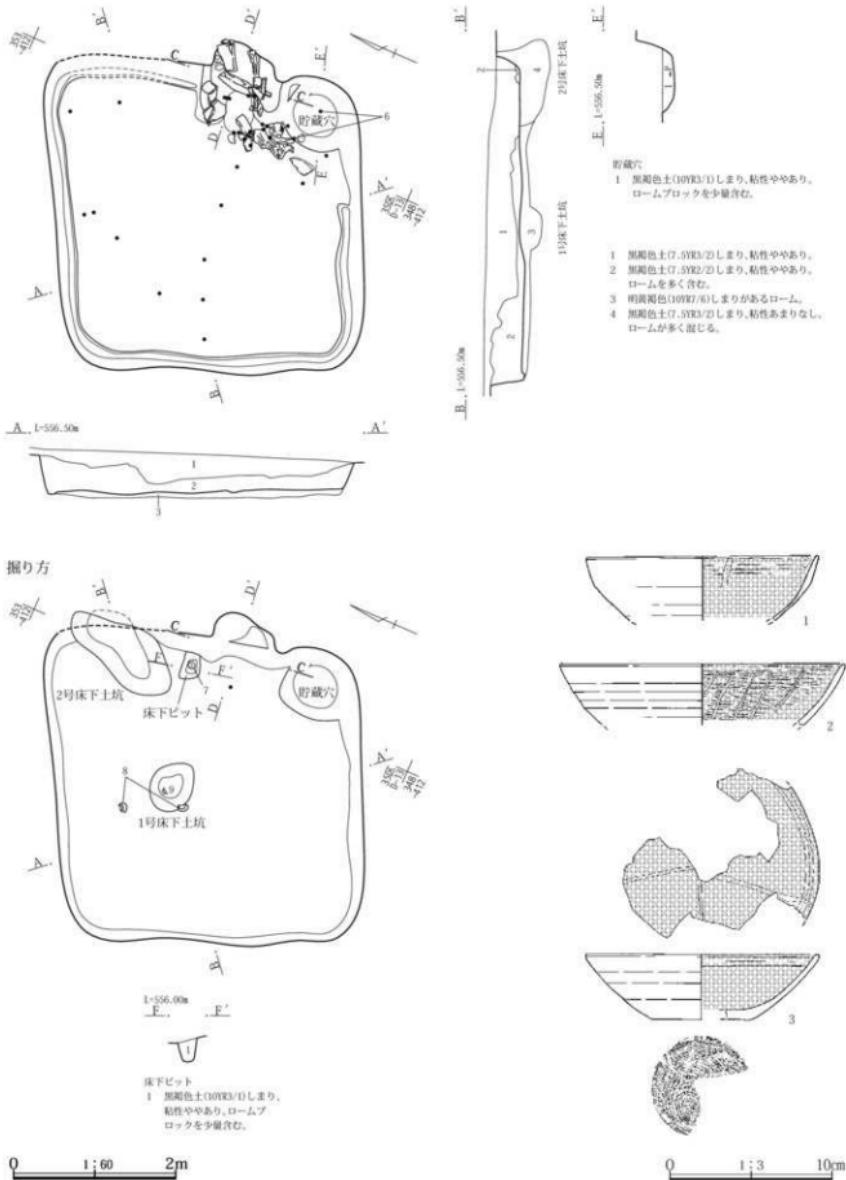
**重複** 10号竪穴建物、112号土坑。

**遺物** 床面から鉄鏃(1)が出土している。このほか図示するに至らなかったが、土師器の破片2点(3g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定されるが、埋没土は平安時代の遺構によくみられる土質とあり、平安時代に帰属する可能性は高い。112号土坑に先行し、10号竪穴建物より新しい。

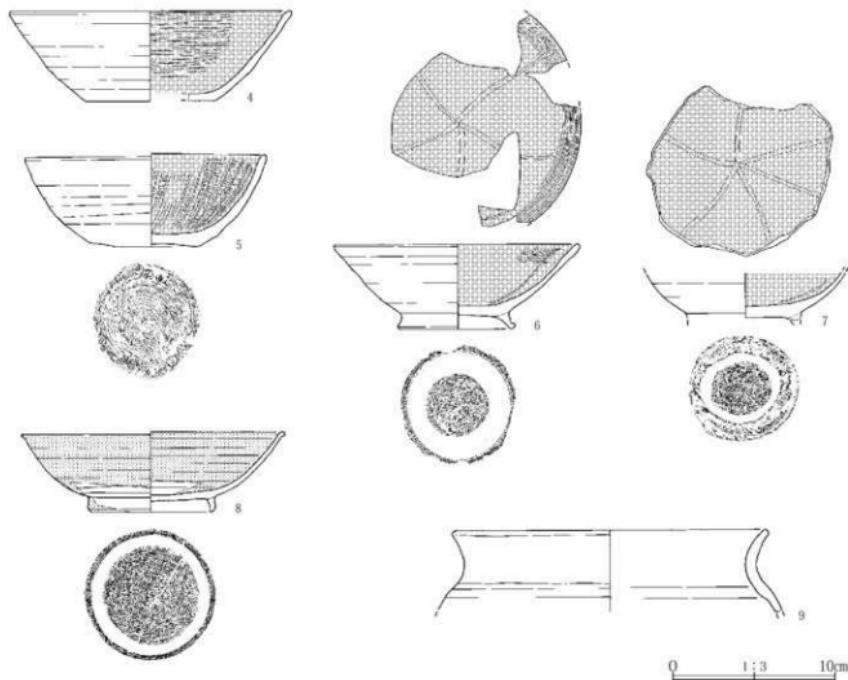
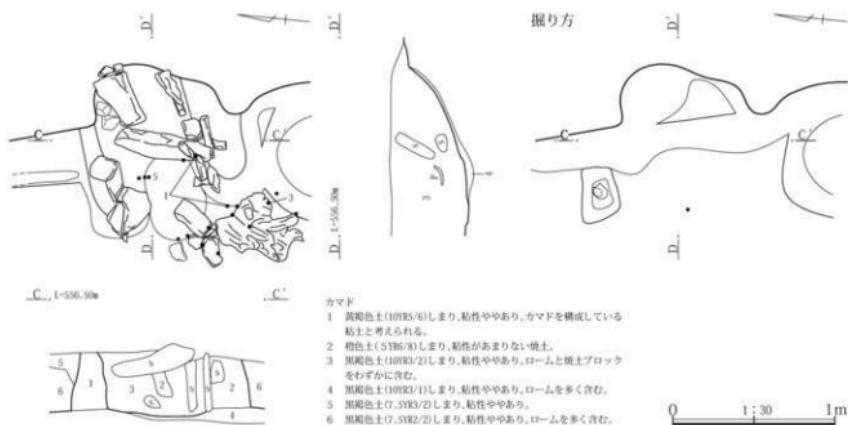


第123図 6号竪穴建物出土遺物

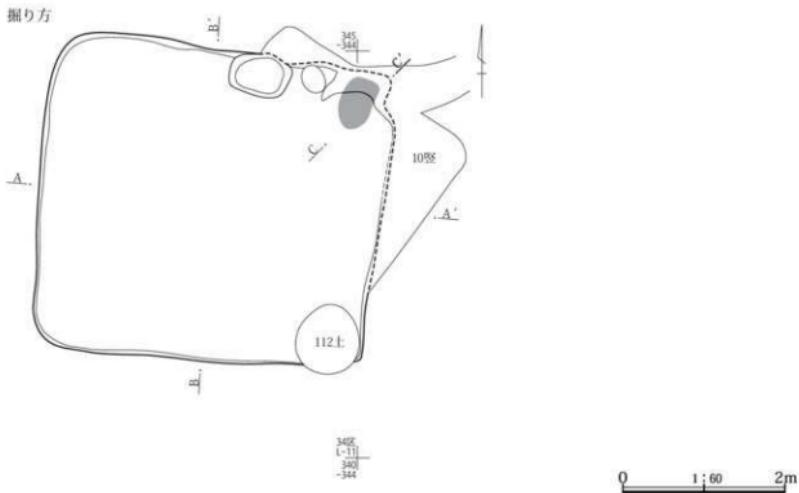
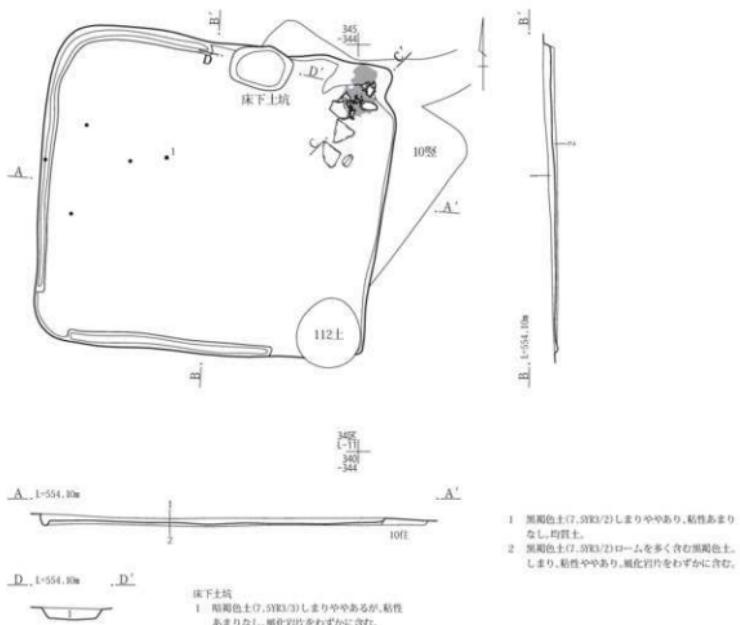


第124図 8号竪穴建物1と出土遺物1

第2節 2面および3面の遺構と遺物



第125図 8号竪穴建物2と出土遺物2



第126図 9号竖穴建物1

## 7 10号竪穴建物(第128図、PL.28,29)

位置 34区K～L-11～12グリッド、調査区西部、調査区中部との境に位置する。

形状等 北辺および東辺のみの検出であるが、隅丸方形と思われる。遺構の大半を9号竪穴建物により破壊され、北辺と東辺を部分的に残すのみである。6か所の掘り込みが確認されており、カマド部の南に位置する堀り込みのいずれかは貯蔵穴の可能性がある。

規模  $(2.21) \times 2.34\text{m}$ 。深さ  $(0.03)\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-35-E

埋没土 9号竪穴建物の掘り方の埋め土と同質の土により覆われている。

カマド 北辺中央から斜めに突き出す煙道が確認できるが、燃焼部やカマド袖をうかがいえる資料は残されていない。

重複 9号竪穴建物。

所見 本遺構の年代は、出土層位からは中世以前に比定されるが、9号竪穴建物との重複関係から、平安時代に帰属する可能性が高い。9号竪穴建物に先行する。

## 8 11号竪穴建物(第129,130図、PL.29,30,70)

位置 32区U～V-8～9グリッド、調査区東部に位置する。

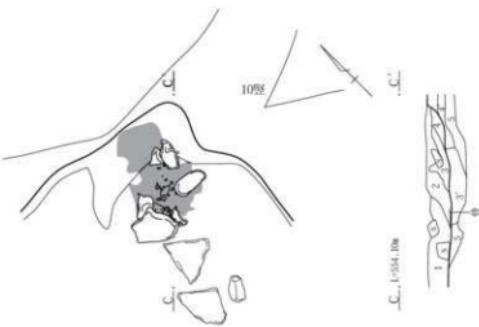
形状等 3辺の残り具合は良好とはいがたいが、概ね隅丸方形をなしている。遺構内に大小5か所の掘り込みが確認されている。また遺構の東南区画に炭化材が点在していた。遺構内からは焼土が2か所検出されている。

規模  $(3.88) \times (4.21)\text{m}$ 。深さ  $0.24\text{m}$ 。面積  $(13.4)\text{m}^2$ 。

主軸方向(度) N-10-E

埋没土 しまり弱く、粘性のややある、細かな砂礫や風化岩片および炭化物を含む暗褐色土に覆われる。

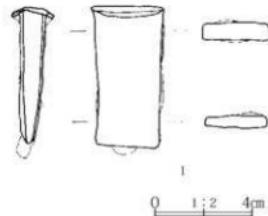
カマド 明確なカマドは確認されていない。遺構内の2か所の焼土のうち、南西部の焼土は差し渡し  $0.25\text{m}$ 程度で、焼土化は掘り方の底までおよんでいない。残る焼土は、遺構北辺に沿う1号床下土坑の東端に位置する。この土坑は遺構構築に際し東西に細長く掘られ、床面の整地に際して焼土周辺を残し埋め戻されたと推測される。差し渡し  $0.48\text{m}$ の焼土の周辺には数点の石と土器が残されており、炉として使用された可能性は高い。



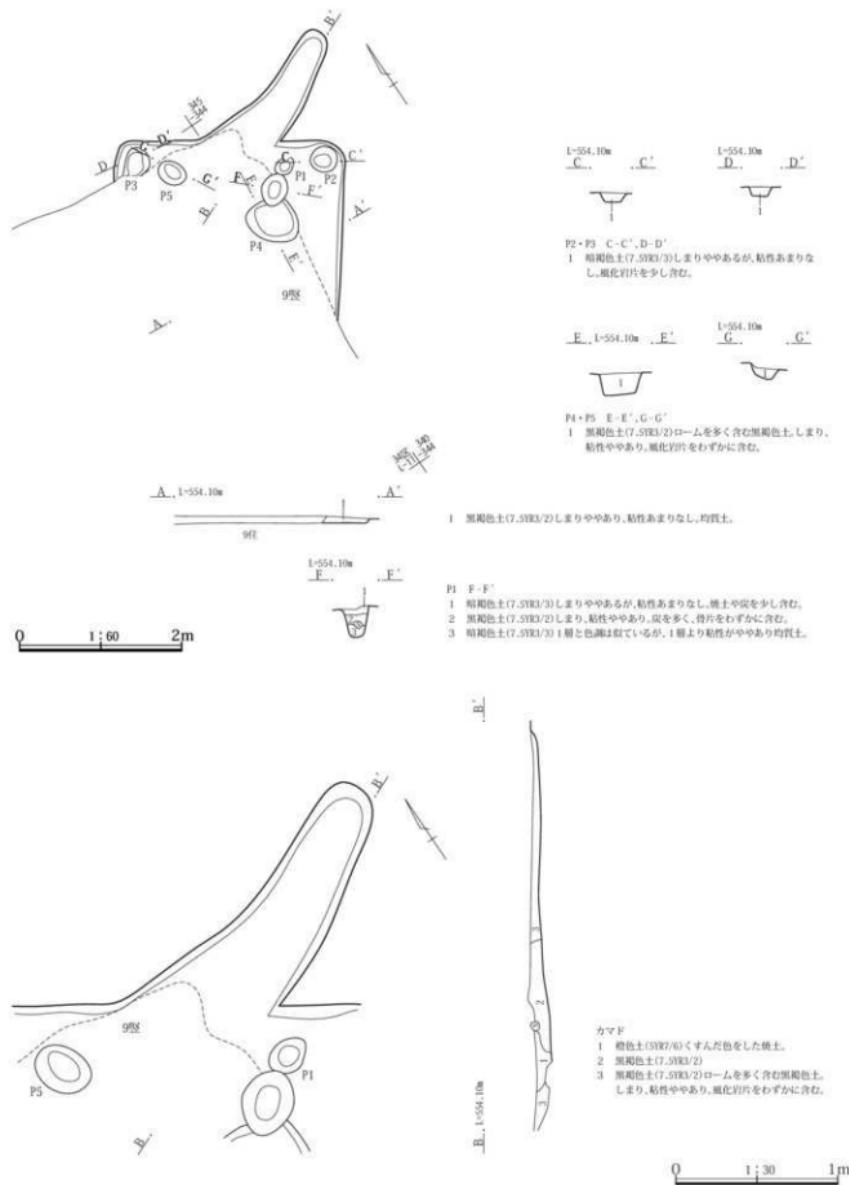
## カマド

- 1 喀斯特色土(7.5B3/3)しまりややあるが、粘性あまりなし。均質土。
- 2 喀斯特色土(7.5B3/1)しまりややあるが、粘性あまりなし。泥を含み、ロームも小さなプロックで含む。
- 3 喀斯特色土(5B7/6)しまり、粘性ややあり。くすんだ色で炭化物や骨片を多く含む。
- 4 黒褐色土(7.5B3/2)しまり、粘性ややあり、均質土。
- 5 黑褐色土(7.5B3/2)ロームを多く含む黒褐色土。しまり、粘性ややあり。炭化物をわずかに含む。

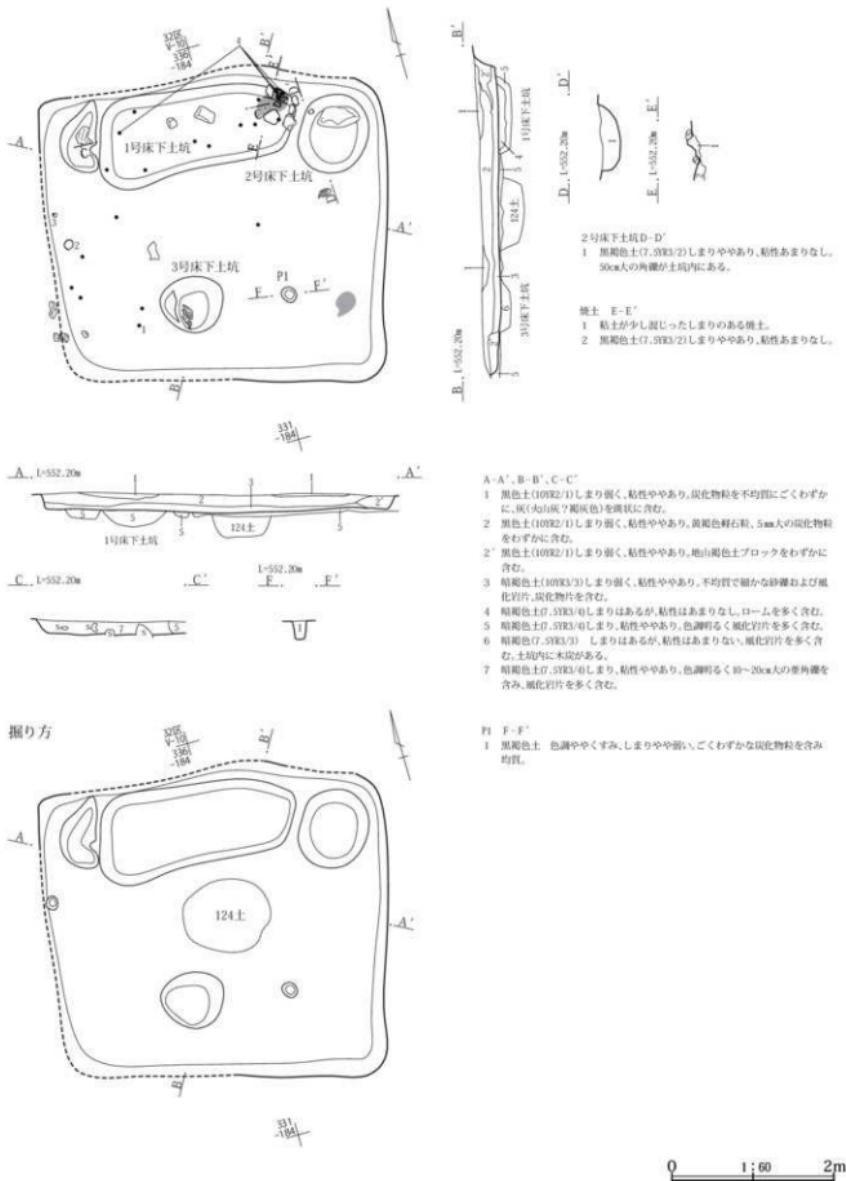
0 1:30 1m



第127図 9号竪穴建物と出土遺物



第128図 10号竖穴建物



第129図 11号竪穴建物

**掘り方** しまり、粘性ともにややある、風化岩片を含む暗褐色土により床面が整地されている。

**重複** 124号土坑。

**遺物** 床面から須恵器椀(2)、須恵器小型甌(3)、埋没土から須恵器杯(1)、1号床下土坑から土師器甌(4)が出土している。このほかに土師器や須恵器などの破片22片(269g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(9世紀)に比定される。124号土坑より新しい。

**備考** 3号床下土坑の調査時の名称は123号土坑。

9 12号竪穴建物(第131~133図、PL30,31,70)

**位置** 32区X~Y-9~10グリッド、調査区東部に位置する。

**形状等** 圓丸方形。建物北辺の左右の隅が確認されているが、南半は残り具合が良好とはいえない。検出された遺物も北半に集中する。

**規模** (3.93)×(3.76)m。深さ0.32m。面積(13.4)m<sup>2</sup>

**主軸方向(度)** N 25° E

**埋没土** 炭化物粒を含む黒色土。

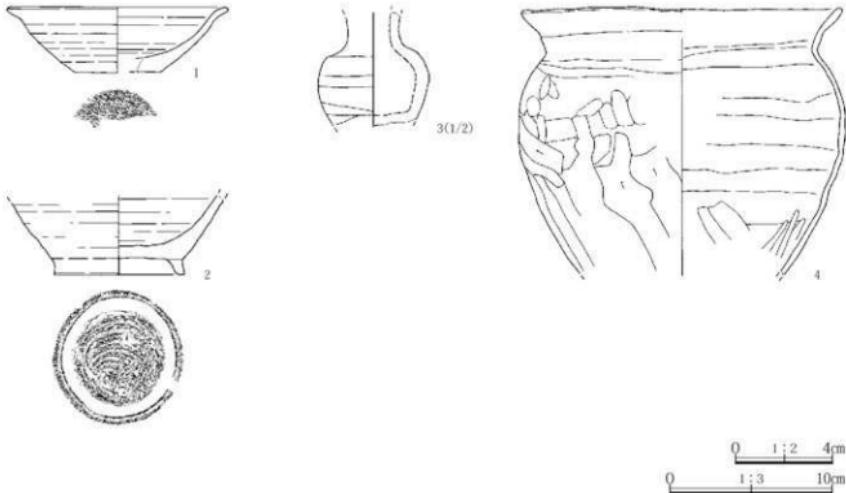
**カマド** カマド周辺は石が散乱し、西袖の基部のみを残し崩されているが、西袖の外側の床には熱を受けたと思われる粘土が存在する。また東袖は残されていないが、基部に相当する部位に石が埋め込まれている。

**掘り方** 南辺および北辺は一回り大きく掘削され、風化岩片を含む暗褐色土で埋め戻されている。

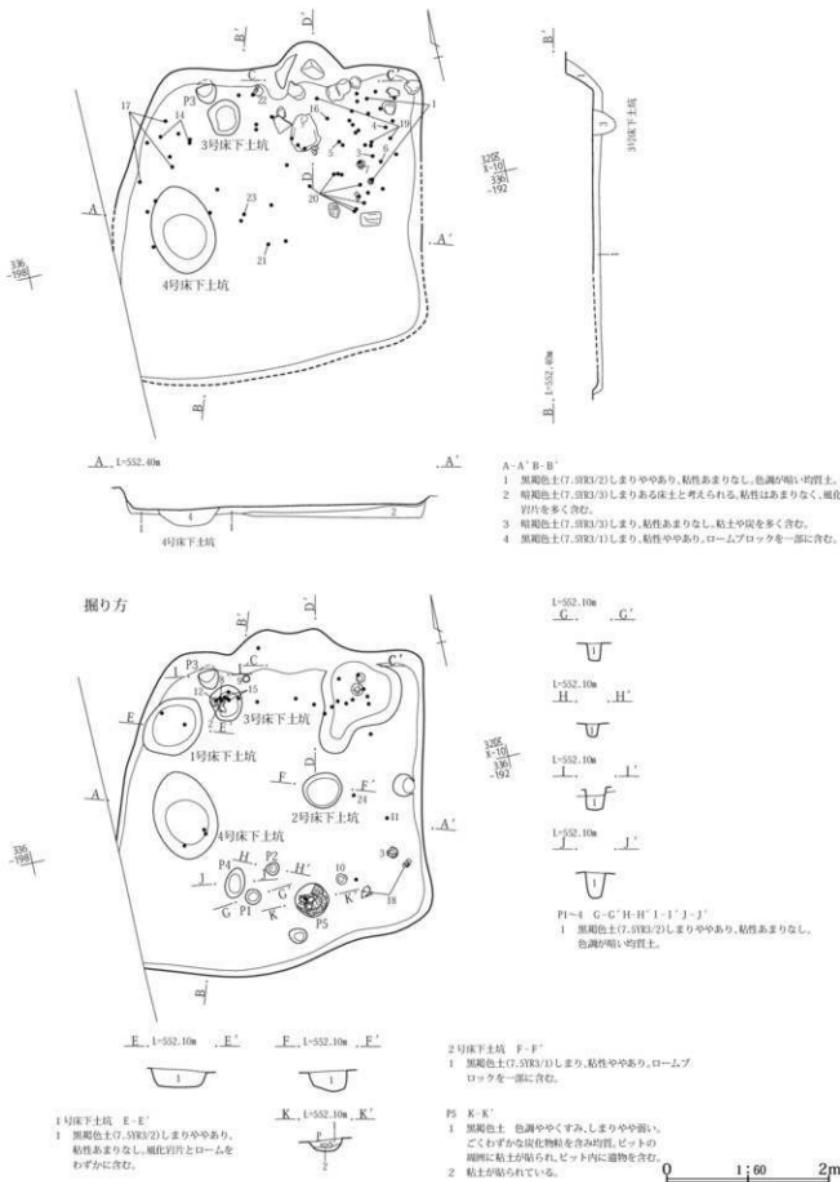
**遺物** 床面から黒色土器杯(4,5,7)、須恵器小型甌(22,23)、灰釉陶器椀(21)、埋没土から黒色土器杯(1,3,6)、須恵器椀(16)、灰釉陶器椀(19,20)、灰釉陶器皿(17)、3号床下土坑から黒色土器杯(2,8)、須恵器杯(12)、須恵器椀(15)が出土している。また、掘り方からは黒色土器椀(9)、須恵器杯(10,11)、須恵器椀(13,14)、須恵器甌(24)、灰釉陶器皿(18)が出土している。このほかに土師器や須恵器などの破片148片(1,824g)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代(10世紀前半)に比定される。掘り方埋め土から出土した遺物も多く、二期にわたり使用された可能性も否定しえない。

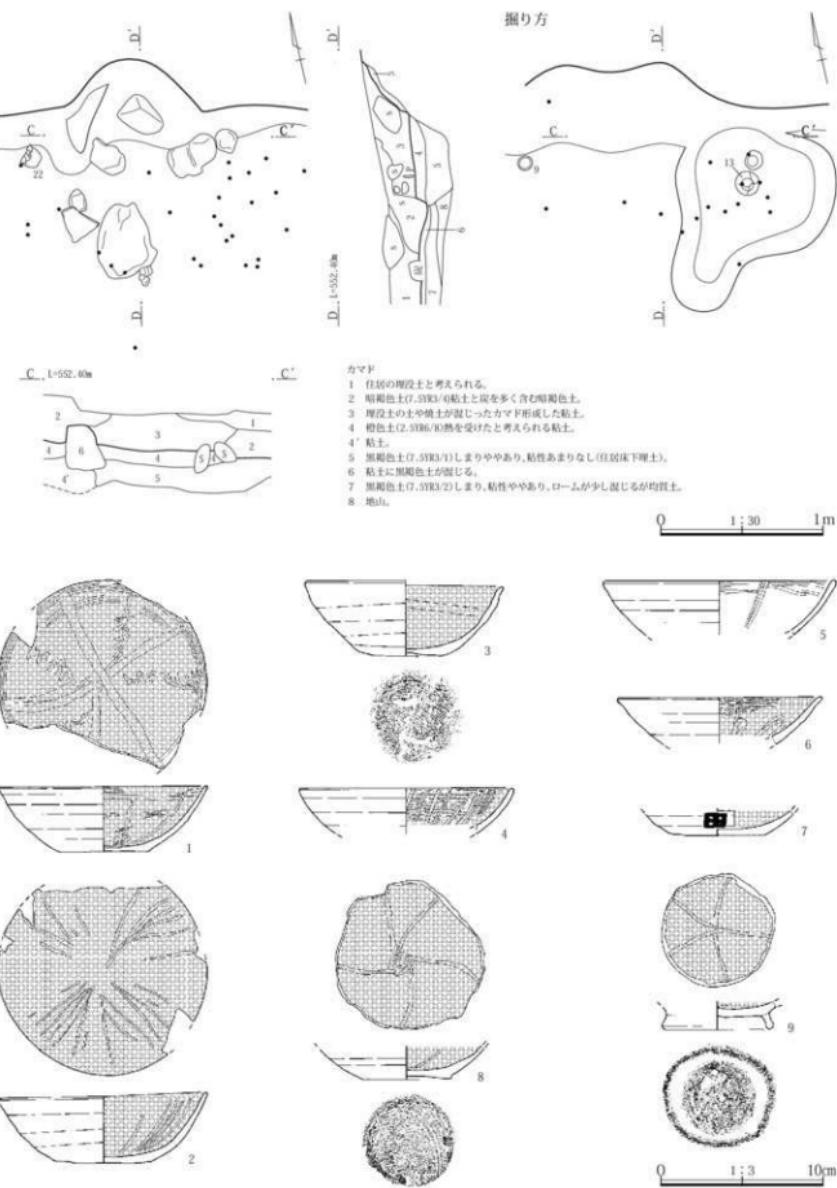
**備考** P5の調査時の名称は380号ビット。



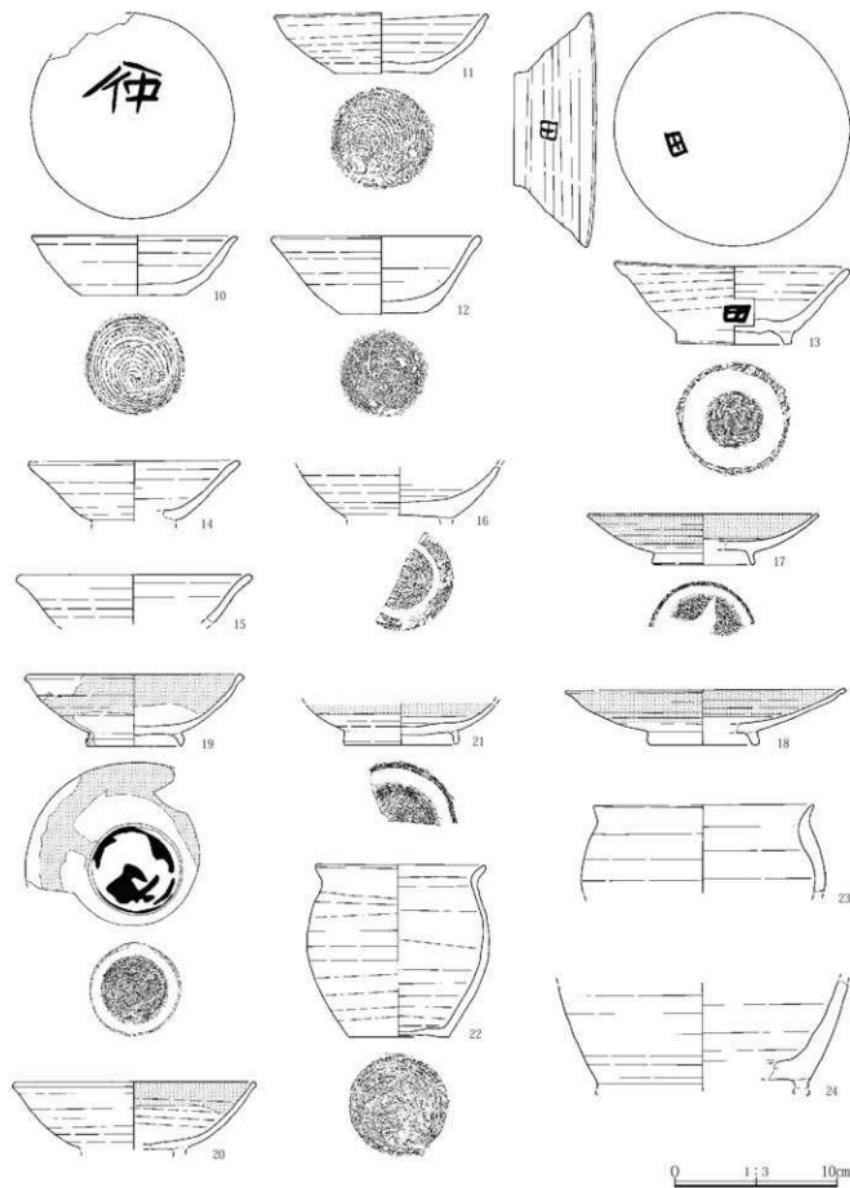
第130図 11号竪穴建物出土遺物



第131図 12号竪穴建物1



第132図 12号駅穴建物2と出土遺物1



第133図 12号堅穴建物出土遺物2

## 第5項 土坑

今回の調査で検出された土坑は、調査区西部から63基、中部から8基、東部から3基の合計74基であり、調査区西部に偏在している。なお西部の土坑のうち2基は人骨を伴っている。また西部の土坑5基と中部の土坑1基からは縄文土器の破片が出土している。

### 1 104号土坑(第134図、PL.39)

位置 35区 I-19グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 遺構南半が搅乱され不明。

規模  $(1.94) \times 0.65m$ 。深さ0.31m。

主軸方向(度) N-20-E

埋没土 亜角礫を含む暗褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。

### 2 105号土坑(第134図、PL.39)

位置 35区 J-18~19グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模  $1.03 \times 0.68m$ 。深さ0.21m。

主軸方向(度) N-9-E

埋没土 亜角礫を含む黒褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。

### 3 106号土坑(第134図、PL.39)

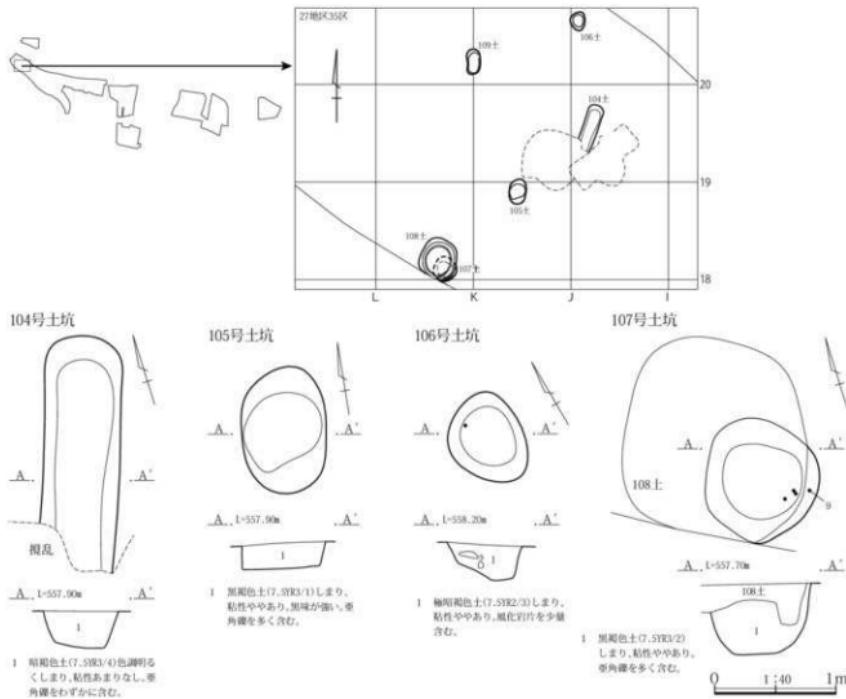
位置 35区 I~J-20グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模  $0.75 \times 0.62m$ 。深さ0.28m。

主軸方向(度) N-12-W

埋没土 風化岩片を含む極暗褐色土。



第134図 土坑1

**遺物** 図化に至らなかったが、埋没土から鉄片と陶器片が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。

#### 4 107号土坑(第134,156図、PL.40,71)

**位置** 35区K-17~18グリッド、調査区西部に位置する。

**形状等** 偏円形を呈する。

**規模**  $0.99 \times 0.97\text{m}$ 。深さ $0.57\text{m}$ 。

**主軸方向(度)** N-17-W

**埋没土** 亜角礫を含む黒褐色土。

**重複** 108号土坑。

**遺物** 埋没土から五領ヶ台式の縄文土器深鉢(9)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。108号土坑に先行する。

#### 5 108号土坑(第135,156図、PL.40,71)

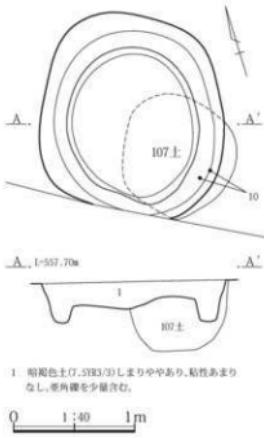
**位置** 35区K-17~18グリッド、調査区西部に位置する。

**形状等** 圆角方形を呈する。

**規模**  $(1.59) \times 1.48\text{m}$ 。深さ $0.33\text{m}$ 。

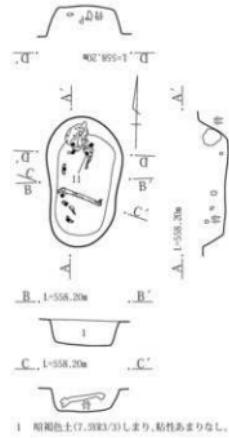
**主軸方向(度)** N-27-E

#### 108号土坑



108号土坑埋葬状況

#### 109号土坑



第135図 土坑2

### 第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

**形狀等** 不整形。遺構中央部が一段深く、漏斗状に掘り込まれている。

**規模**  $0.92 \times 0.63\text{m}$ 。深さ  $0.32\text{m}$ 。

**主軸方向(度)** N-76-E

**埋没土** 風化岩片を含む黒褐色土。

**所見** 本遺構の年代は、出土層位から近世以前に比定される。

8 94号土坑(第136,156図、PL.38,71)

**位置** 35区 F-17グリッド、調査区西部に位置する。

**形狀等** 長円形。底面は灰に覆われている。

**規模**  $1.05 \times 0.88\text{m}$ 。深さ  $0.36\text{m}$ 。

**主軸方向(度)** N-7-E

**埋没土** 灰層の上に亜角礫を含む黒褐色土や暗黒褐色土が堆積し、埋没土上層は風化岩片やロームブロックを含む黒褐色土。

**重複** 102号土坑。

**遺物** 灰層から石膏(上白)(7,8)が出土しているほか、陶器片も出土している。埋め土には炭化物も含まれる。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物と重複関係から近世に比定される。102号土坑より新しい。

9 95号土坑(第136図、PL.38)

**位置** 35区 F-17グリッド、調査区西部に位置する。

**形狀等** 不整形を呈する。

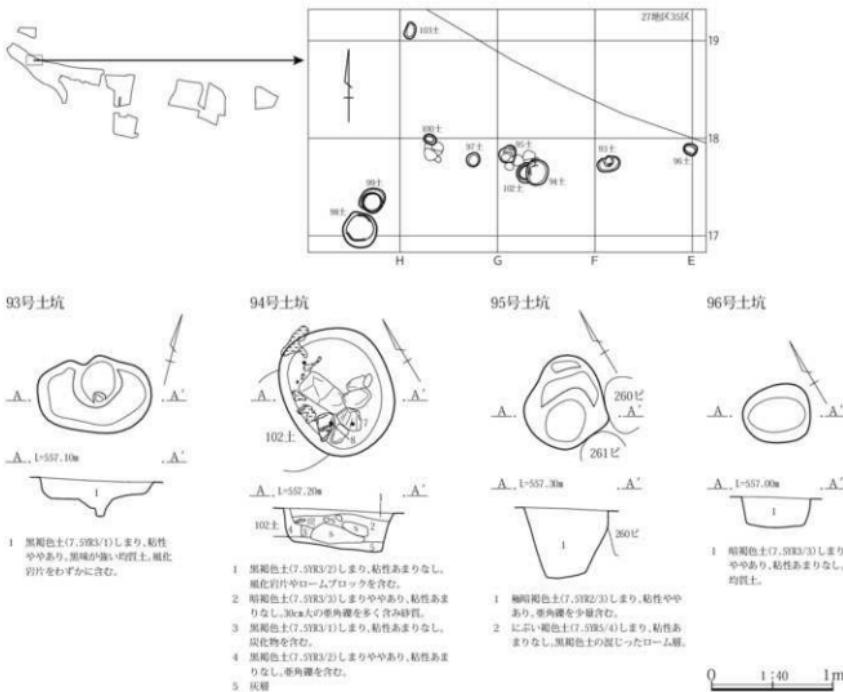
**規模**  $0.78 \times 0.68\text{m}$ 。深さ  $0.57\text{m}$ 。

**主軸方向(度)** N-31-E

**埋没土** 亜角礫を含む極暗褐色土。

**重複** 260号ピット、261号ピット。

**所見** 本遺構の年代は、重複関係から中近世に比定される。260号ピット、261号ピットより新しい。



第136図 土坑3

## 10 96号土坑(第136図、PL.38)

位置 35区D～E-17グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 円形を呈する。

規模  $0.55 \times 0.47\text{m}$ 。深さ  $0.25\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-60°W

埋没土 暗褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位および埋没土から近世に比定される。

## 11 97号土坑(第137図、PL.38)

位置 35区G-17グリッド、調査区西部に位置する。

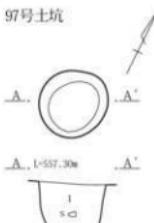
形状等 円形を呈する。

規模  $0.58 \times 0.53\text{m}$ 。深さ  $0.39\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-11°E

埋没土 暗褐色土。

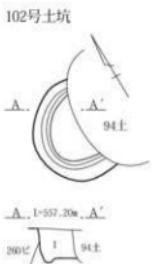
所見 本遺構の年代は、出土層位および埋没土から近世に比定される。



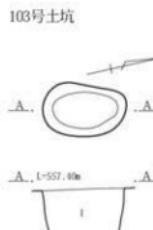
1. 暗褐色土(7.5YR3/1)しまりややあり、粘性あまりなし、均質土。



1. 黒褐色土(7.5YR3/1)しまり、粘性ややあり、粘土が微少な均質土。



1. 黑褐色土(7.5YR3/2)しまりややあり、粘性あまりなし。



1. 黑褐色土(7.5YR3/1)しまり、粘性ややあり、粘土が強いロームブロックを含み、塊状をわずかに含む。

第137図 土坑4

## 12 98号土坑(第137図、PL.38)

位置 35区H-16～17グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 円形。底部の直径は約1.1m。底部の南北に壁に沿う溝が存在する。

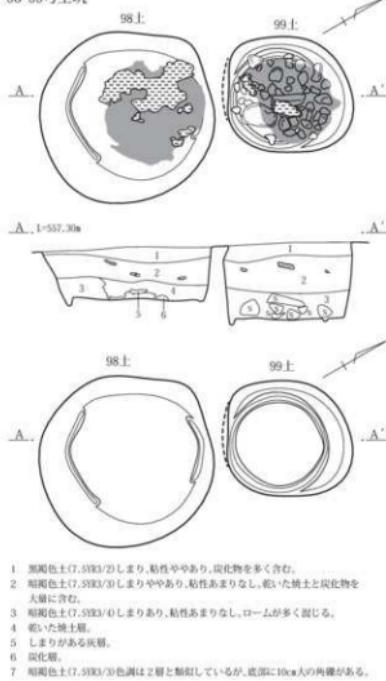
規模  $1.52 \times 1.40\text{m}$ 。深さ  $0.49\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-23°W

埋没土 底面に灰が存在し、その上を覆うロームの混ざる暗褐色土の半分は焼土化している。また中層の暗褐色土には焼土と炭化物および灰が含まれる。

所見 本遺構の年代は、出土層位から近世以前に比定される。廃棄された埋設桶の土坑を炉として使用したと推測される。隣接する99号土坑との同時性が確保されるのであれば、両遺構合わせて廃棄された野叢との推測が成り立つのであるが、柱穴等も確認されていない。

## 98・99号土坑



### 第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

#### 13 99号土坑(第137図、PL.38,39)

位置 35区H-17グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 円形。底部の直径は約0.8m。底部には壁に沿い溝が一周する。

規模 1.02×0.93m。深さ0.67m。

主軸方向(度) N-31-E

埋没土 10cm大の角礫を含む暗褐色土。下層上面は焼土化し、中層の暗褐色土には焼土と炭化物が含まれる。

所見 本遺構の年代は、出土層位から近世以前に比定される。廃棄された埋設桶の土坑を炉として使用したと推測される。隣接する98号土坑との同時性が確保されるのであれば、両遺構合わせて廃棄された野窯との推測が成立立つのであるが、柱穴等も確認されていない。

#### 14 100号土坑(第137図、PL.39)

位置 35区G-17～18グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 0.55×0.39m。深さ0.39m。

主軸方向(度) N-59-W

埋没土 均質な黒褐色土。

重複 272号ピット、273号ピット。

所見 本遺構の年代は、重複関係から近世に比定される。272号ピットおよび273号ピットより新しい。

#### 15 102号土坑(第137図、PL.39)

位置 35区F-17グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 西半を94号土坑により破壊されるが、円形と推測される。底部には壁に沿う溝が認められる。

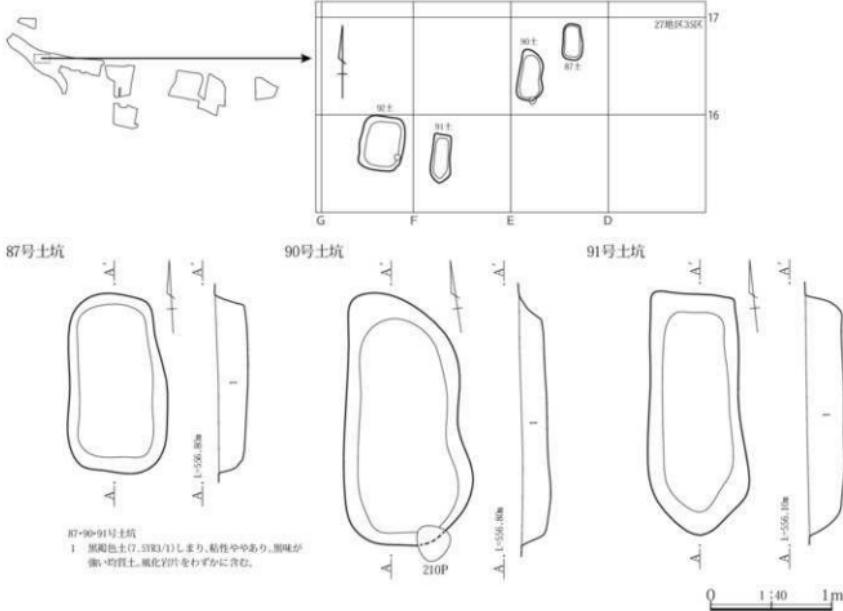
規模 0.85×0.47m。深さ0.28m。

主軸方向(度) N-19-E

埋没土 黒褐色土。

重複 94号土坑、260号ピット、294号ピット。

所見 本遺構の年代は、重複関係から近世に比定される。260号ピットおよび294号ピットより新しく、94号土坑に先行する。



第138図 土坑5

## 16 103号土坑(第137図、PL.39)

位置 35区G-19グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模  $0.79 \times 0.41\text{m}$ 。深さ  $0.43\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-13-E

埋没土 ロームブロックと亜角礫を含む黒褐色土。

遺物 図化には至らなかったが、埋没土から陶器片と繩文土器片が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土層位から近世以前に比定される。

## 17 87号土坑(第138図、PL.37)

位置 35区D-16グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

規模  $1.46 \times 0.81\text{m}$ 。深さ  $0.24\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-3-E

埋没土 風化岩片を含む黒褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位から近世以前に比定される。

## 18 90号土坑(第138図、PL.37)

位置 35区D-16グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模  $2.05 \times 1.05\text{m}$ 。深さ  $0.23\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-9-E



1 布褐色土(7.03kg/4kg)調明く、しまり。  
粘性あまりなし、南から北に傾斜していく。  
高い方に亜角礫をわずかに含む。

第139図 土坑6

埋没土 風化岩片を含む黒褐色土。

重複 210号ピット。

所見 本遺構の年代は、出土層位から近世に比定される。  
210号ピットに先行する。

## 19 91号土坑(第138図、PL.37)

位置 35区E-15グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 五角形を呈する。

規模  $1.97 \times 0.81\text{m}$ 。深さ  $0.31\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-7-E

埋没土 風化岩片を含む黒褐色土。

遺物 図化には至らなかったが、埋没土から須恵器2片(15g)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土層位から近世以前に比定される。

## 20 92号土坑(第139図、PL.37)

位置 35区F-15グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 圓丸方形。底部は北に傾斜している。

規模  $2.22 \times 1.83\text{m}$ 。深さ  $0.33\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-13-E

埋没土 亜角礫を含む暗褐色土。

重複 230号ピット。

所見 本遺構の年代は、出土層位から近世に比定される。  
230号ピットに先行する。

## 21 54号土坑(第140図、PL.32)

位置 34区X-15～16グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 長円形。南辺側の傾斜は緩く、最深部は北辺沿いに位置する。

規模  $2.66 \times 1.32\text{m}$ 。深さ  $0.65\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-72-W

埋没土 ロームブロックを含む褐色土の上に、5mm大の風化岩片を含む暗褐色土が堆積する。

所見 本遺構の年代は、出土層位および埋没土から中世以前に比定される。

## 22 57号土坑(第140図、PL.33)

位置 34区W-14グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 円形を呈する。



第140図 土坑7

規模  $1.18 \times 1.08\text{m}$ 。深さ  $0.30\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-17-E

埋没土 ロームブロック、 $5\text{cm}$ 大の亜角礫、 $5\sim10\text{mm}$ 大の風化岩片を含む黒褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位および埋没土から中世以前に比定されるが、平安時代までさかのぼる可能性が高い。

23 60号土坑(第140図、PL.33, 71)

位置 34区W-14グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 偏円形。縄文土器深鉢が横倒しの状態で検出されている。

規模  $(0.68) \times (0.56)\text{m}$ 。深さ  $(0.13)\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-59-W

埋没土 褐色土の混じる黒褐色土。

遺物 新巻類型の縄文土器深鉢(6)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代中期に比定される。

備考 遺構確認面は2面。

24 61号土坑(第140図、PL.34)

位置 34区X-14~15グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 円形を呈する。

規模  $0.72 \times 0.64\text{m}$ 。深さ  $0.24\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-76-W

埋没土 地山土と $3\text{cm}$ 大の角礫を含む黒褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。

25 62号土坑(第140図、PL.34)

位置 34区Y-14グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模  $0.74 \times 0.62\text{m}$ 。深さ  $0.12\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-4-E

埋没土  $5\text{mm}$ 大の風化岩片と亜角礫を含む黒褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。

26 63号土坑(第140図、PL.34)

位置 34区X-15グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模  $0.66 \times 0.64\text{m}$ 。深さ  $0.43\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-8-E

埋没土  $5\text{mm}$ 大の風化岩片を含む黒褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。

27 64号土坑(第140図、PL.34)

位置 34区W-15グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 剛丸長方形を呈する。

規模  $1.31 \times 0.81\text{m}$ 。深さ  $0.25\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-7-W

埋没土  $5\text{cm}$ 大の角礫を含む黒褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。

28 65号土坑(第140図、PL.34)

位置 34区W-15~16グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 剌丸長方形を呈する。

規模  $1.38 \times 0.79\text{m}$ 。深さ  $0.20\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-51-E

埋没土  $5\text{cm}$ 大の角礫を含む黒褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。

29 66号土坑(第141図、PL.34)

位置 34区V~W-15グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模  $0.78 \times 0.65\text{m}$ 。深さ  $0.28\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-24-W

埋没土 角礫を含む黒褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。

30 67号土坑(第141図、PL.34)

位置 34区X-14グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模  $1.08 \times 0.80\text{m}$ 。深さ  $0.16\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-76-W

埋没土 ロームブロックを含む褐色土。

### 第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

**所見** 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。

#### 31 68号土坑(第141図、PL.34)

**位置** 34区X-14グリッド、調査区西部に位置する。

**形状等** 不整形を呈する。

**規模**  $0.96 \times 0.83\text{m}$ 。深さ $0.26\text{m}$ 。

**主軸方向(度)** N-8-E

**埋没土** 5cm大の亜角礫を含む黒褐色土。

**所見** 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。

#### 32 83号土坑(第142、155図、PL.36)

**位置** 34区Y-15グリッド、調査区西部に位置する。

**形状等** 長円形を呈する。

**規模**  $2.59 \times 0.64\text{m}$ 。深さ $0.22\text{m}$ 。

**主軸方向(度)** N-9-E

**埋没土** ロームブロックが不均質に混ざる暗褐色土。

**遺物** 埋没土より灰釉陶器皿(5)が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土層位および出土遺物から中世以前に比定される。

#### 33 84号土坑(第142図、PL.36)

**位置** 34区Y-15グリッド、調査区西部に位置する。

**形状等** 長円形。底部2か所に掘り込みを持つ。

**規模**  $2.06 \times 0.70\text{m}$ 。深さ $0.72\text{m}$ 。

**主軸方向(度)** N-10-E

**埋没土** ロームを含む黒色土に覆われる。なお、掘り込



第141図 土坑8

みの埋め土は炭化物粒を含む黒色土。

**所見** 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。

#### 34 85号土坑(第141図、PL.36)

**位置** 34区Y-16グリッド、調査区西部に位置する。

**形状等** 長円形を呈する。

**規模**  $0.74 \times 0.55\text{m}$ 。深さ $0.36\text{m}$ 。

**主軸方向(度)** N-59-W

**埋没土** ロームを含む暗褐色土。

**所見** 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。

#### 35 86号土坑(第142図、PL.37)

**位置** 35区A-15グリッド、調査区西部に位置する。

**形状等** 圓丸長方形。調査時の所見によれば、土坑周囲に鉄分凝集が認められる。

**規模**  $1.70 \times 1.13\text{m}$ 。深さ $0.36\text{m}$ 。

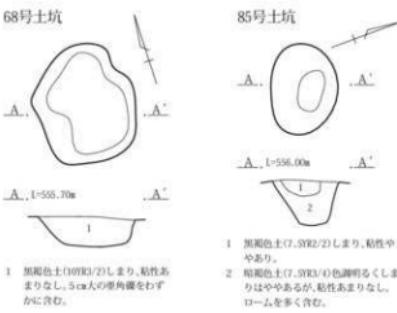
**主軸方向(度)** N-2-E

**埋没土** 黒褐色土。

**所見** 本遺構の年代は、出土層位から近世以前に比定される。ただし遺構写真からは、鉄分凝集が土坑底部にもおよぶと見受けられるため、遺構の年代は中世まで遡らないと推察される。

#### 36 52号土坑(第143、155図、PL.32,71)

**位置** 34区T-U-14~15グリッド、調査区西部に位置する。



**形状等** 隅丸方形。掘り方を埋める灰混じりの灰褐色土の上面には焼土、掘り方底部には炭を含む黒褐色土の部位が存在する。掘り方は焼土周辺が他より一段深く掘り下げられている。

**規模**  $1.64 \times 1.49\text{m}$ 。深さ  $0.37\text{m}$ 。

**主軸方向(度)** N-45-E

**埋没土** 1 cm大の炭化物粒を含む黒褐色土。

**遺物** 底面から黒色土器杯(3)、埋没土から須恵器壺(4)が出土している。このほか土師器や須恵器などの破片8片( $96\text{g}$ )が出土している。

**所見** 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代に比定される。屋外炉と推察される。

### 37 53号土坑(第143図、PL.32)

**位置** 34区U-V-16グリッド、調査区西部に位置する。

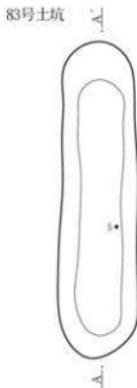
**形状等** 隅丸の南東隅と南西隅が検出され、遺構北半は調査区外に続く。

**規模**  $1.26 \times (1.16)\text{m}$ 。深さ  $0.40\text{m}$ 。

**主軸方向(度)** N-78-W

**埋没土** 1 cm大の風化岩片を少量含む暗褐色土。

**所見** 本遺構の年代は、出土層位および埋没土から近世以前に比定される。

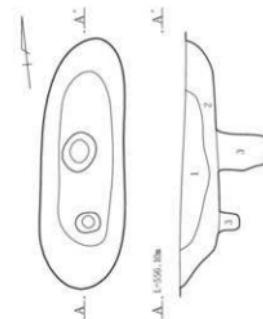


1 黒褐色土(7.5YR2/2)色調が暗く、しまり、粘性ややあり。

2 黒褐色土(7.5YR3/2)しまり、粘性ややあり。圧縮されたロームを少量含む。

3 黒褐色土(7.5YR3/3)しまりややあり、粘性あまりなし。ロームブロックが不規則に置かれて、層内に灰褐色土あり。

### 84号土坑

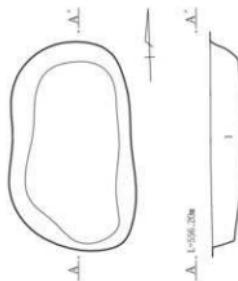


1 黒褐色土(7.5YR2/2)色調が暗く、しまり。

2 黒褐色土(7.5YR3/2)しまり、粘性ややあり。

3 黑褐色土(7.5YR2/1)ごくわずかな炭化物粒を含み均質、ややくすぐれた色調で黒色味やや強いが、しまりやや弱い。

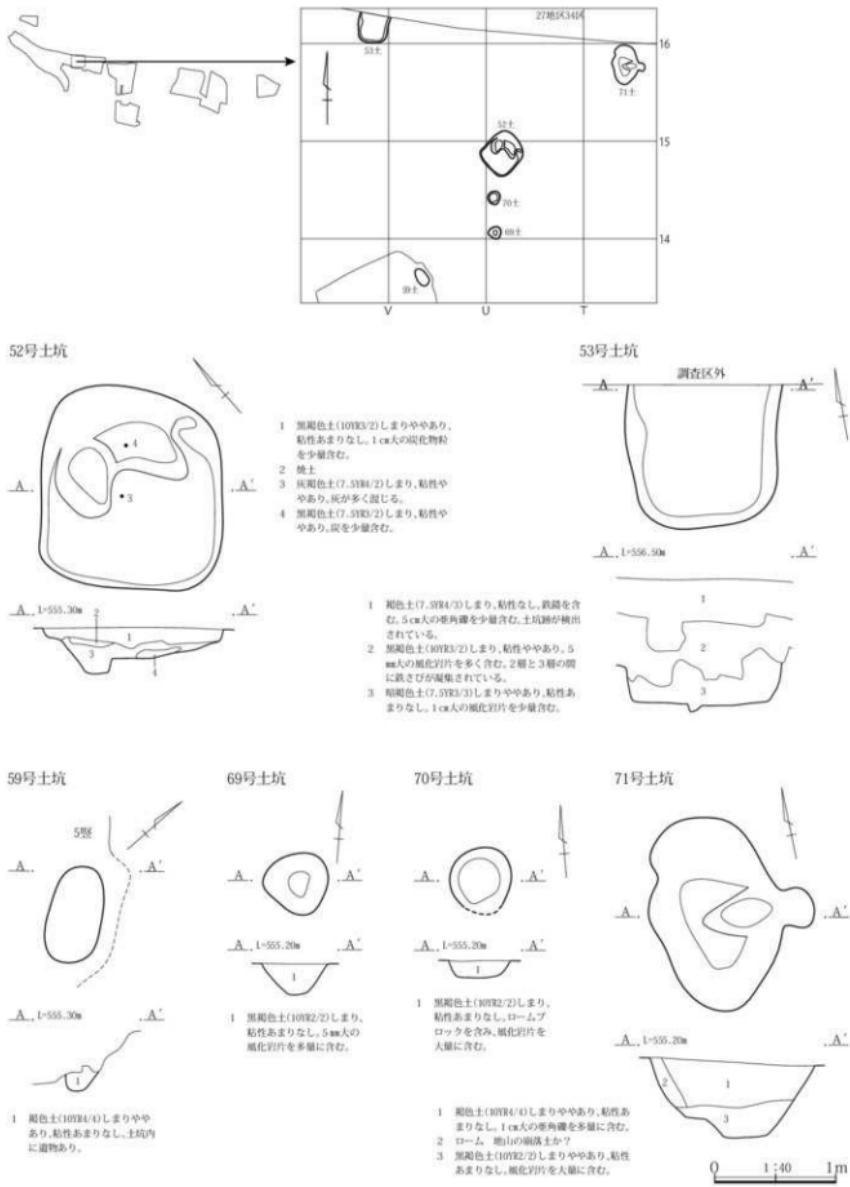
### 86号土坑



1 黒褐色土(7.5YR2/2)しまり、粘性ややあり。  
土坑の側面に鉄分凝聚が認められる。

0 1:40 1m

第142図 土坑9



## 第2節 2面および3面の遺構と遺物

40 70号土坑(第143図、PL.35)

位置 34区T-14グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 円形を呈する。

規模  $0.55 \times 0.52\text{m}$ 。深さ  $0.14\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-18-W

埋没土 ロームブロックと風化岩片を含む黒褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。

41 71号土坑(第143図、PL.35)

位置 34区S-15グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模  $1.59 \times 1.32\text{m}$ 。深さ  $0.66\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-2-E

埋没土 風化岩片を含む黒褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。

42 50号土坑(第144,155図、PL.31,71)

位置 34区R-15グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 長円形を呈する。

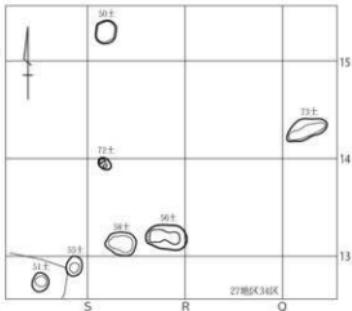
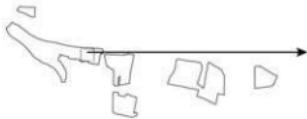
規模  $0.97 \times 0.82\text{m}$ 。深さ  $(0.13)\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-10-E

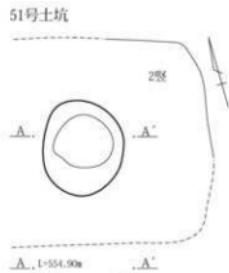
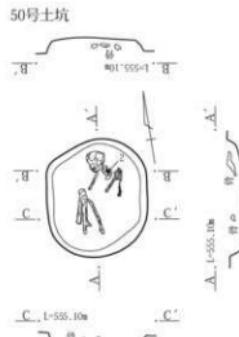
埋没土 不明。

遺物 埋葬されている人骨の頭部の上から至道元賓(?)が出土しているほか、煙管の吸口も出土している。

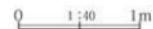
所見 本遺構の年代は、出土遺物から近世以前に比定される。右半身を下にした北頭位横臥屈葬で埋葬された土



50号土坑埋葬状況



I 黑褐色土(7.533.6)3~5mmの風化岩片を多く含む。しまり、粘性ややある13~1m。



第144図 土坑11

坑墓と推測される。

## 43 51号土坑(第144図、PL.31)

位置 34区S-12グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模  $0.76 \times 0.66m$ 。深さ0.35m。

主軸方向(度) N-24-E

埋没土 3~5mmの大風化岩片を含む明黄褐色のローム。

重複 2号竪穴状遺構。

所見 本遺構の年代は重複関係から平安時代以前に比定される。2号竪穴状遺構に先行する。

## 44 55号土坑(第146図、PL.32)

位置 34区S-12グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模  $0.82 \times 0.65m$ 。深さ0.26m。

主軸方向(度) N-19-E

埋没土 ロームブロックを含む褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位および埋没土から中世以前に比定される。

## 45 56号土坑(第145図、PL.33)

位置 34区Q~R-13グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模  $1.68 \times 1.00m$ 。深さ0.86m。

主軸方向(度) N-82-W

埋没土 黒褐色土および褐色土。風化岩片を含む土層の間にロームと3cmの大亜角礫を含む層が存在する。

所見 本遺構の年代は、出土層位および埋没土から中世以前に比定されるが、平安時代までさかのぼる可能性が高い。陥穴と推察される。

## 46 58号土坑(第146図、PL.33)

位置 34区R-13グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模  $1.20 \times 0.93m$ 。深さ0.36m。

主軸方向(度) N-74-W

埋没土 ロームおよびローム混じりの黒色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位および埋没土から中世以前に比定される。

## 47 72号土坑(第146図、PL.35)

位置 34区R-13~14グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模  $0.59 \times 0.43m$ 。深さ0.21m。

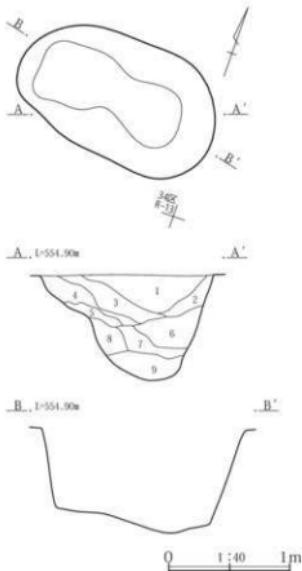
主軸方向(度) N-48-W

埋没土 5mmの大角礫を含む褐色土。

遺物 図面には至らなかったが、埋没土から縄文時代中期勝坂式の縄文土器深鉢が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以前に比定される。縄文時代にさかのぼる可能性も多い。

## 56号土坑



- 1 黒褐色土(10B4/4)しまり、粘性あまりなし。3cmの大角礫をわずかに含む。
- 2 黒褐色土(10B3/3)しまり、粘性ややあり。5mmの大風化岩片を少量含む。
- 3 黒褐色土(10B4/4)しまりあまりなし。粘性ややあり。ロームが少し混じり、3cmの大角礫をわずかに含む。
- 4 黒褐色土(10B3/2)しまり、粘性ややあり。3cmの大風化岩片を多量含む。
- 5 黑褐色土(10B3/3)しまり、粘性ややあり。5mmの大角礫をわずかに含む。
- 6 黑褐色土(10B3/3)しまり、粘性ややあり。5mmの大風化岩片を多量に含む。
- 7 黑褐色土(10B3/3)しまり、粘性ややあり。5mmの大風化岩片を少量含む。
- 8 黑褐色土(10B3/3)しまり、粘性ややあり。
- 9 黑褐色土(10B4/4)しまり、粘性ややあり。

第145図 土坑12

48 73号土坑(第146図、PL.35)

位置 34区P-14グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模  $1.77 \times 0.83\text{m}$ 。深さ  $0.37\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-67-E

埋没土 1cm大の風化岩片とロームブロックを含む黒褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。

49 76号土坑(第147図、PL.35)

位置 35区A-11グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 胫張彌丸長方形を呈する。

規模  $1.49 \times 0.78\text{m}$ 。深さ  $0.32\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-36-W

埋没土 粒子細かく、粘性のない褐灰色土を含む暗褐色土。

重複 183号ピット。

所見 本遺構の年代は、重複関係から近世に比定される。183号ピットより新しい。

50 77号土坑(第147図、PL.35)

位置 34区Y-11～12グリッドおよび35区A-11～12グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

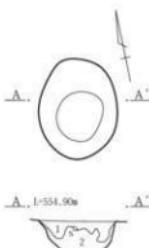
規模  $2.40 \times 0.49\text{m}$ 。深さ  $0.43\text{m}$ 。

主軸方向(度) N-2-E

埋没土 黒褐色土。

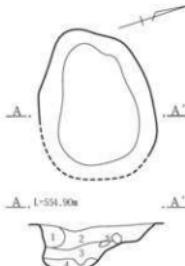
所見 本遺構の年代は、出土層位および埋没土から近世に比定される。

55号土坑



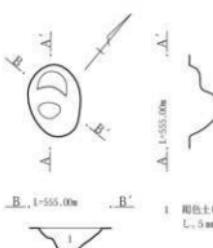
- 1 黒褐色土(7.0R3/2)しまり、粘性とともにややあり。
- 2 黒褐色土(10R4/3)しまり、粘性とともにあまりなし、ロームブロックを含む。

58号土坑



- 1 黒褐色土(10R2/3)しまり、粘性あまりなし、5mm大の風化岩片を多く含む。
- 2 黒褐色土(10R3/4)しまりややあり、粘性あまりなし。
- 3 黒(10R2/1)しまり、粘性ややあり。ロームが混じる。
- 4 ローム。

72号土坑



- 1 黒褐色土(10R3/4)しまり、粘性あまりなし。5mm大の角礫をわずかに含む。

73号土坑



- 1 黒褐色土(10R2/2)しまりあまりなし、粘性ややあり。1cm大の風化岩片を大量に含む。ロームブロックを含む。

0 1:40 1m

第146図 土坑13

51 81号土坑(第147図、PL.36)

位置 35区A-12グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

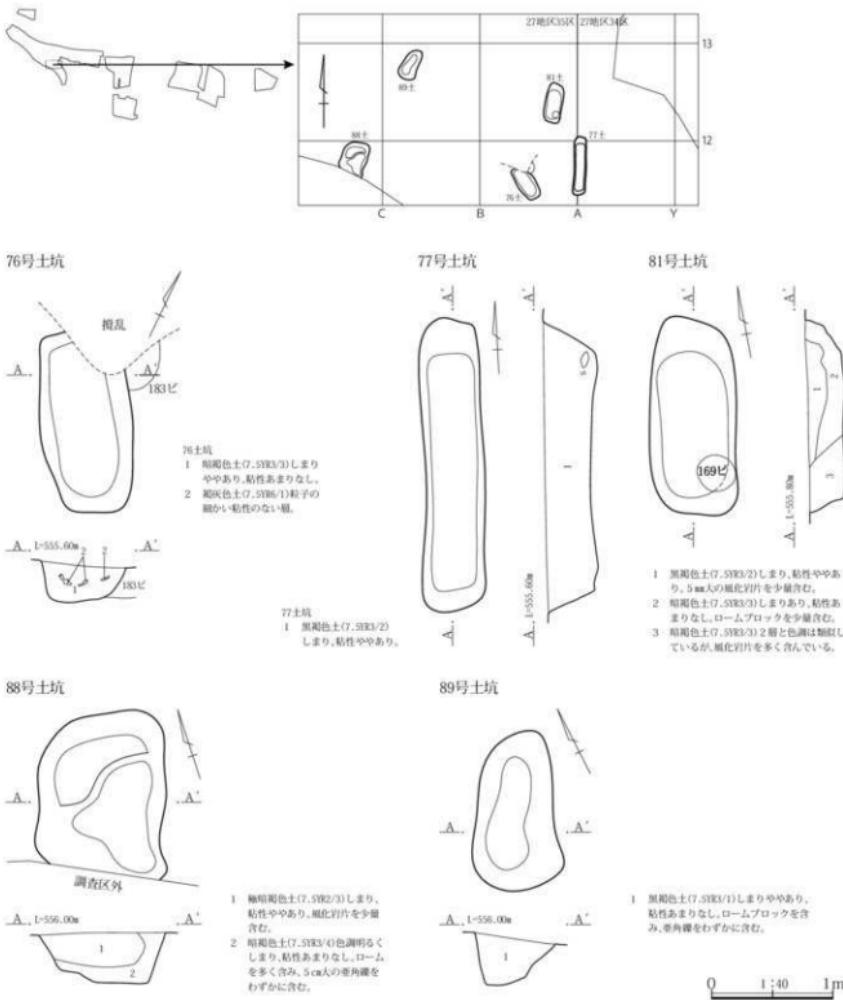
規模 1.57×0.71m。深さ0.31m。

主軸方向(度) N-28-W

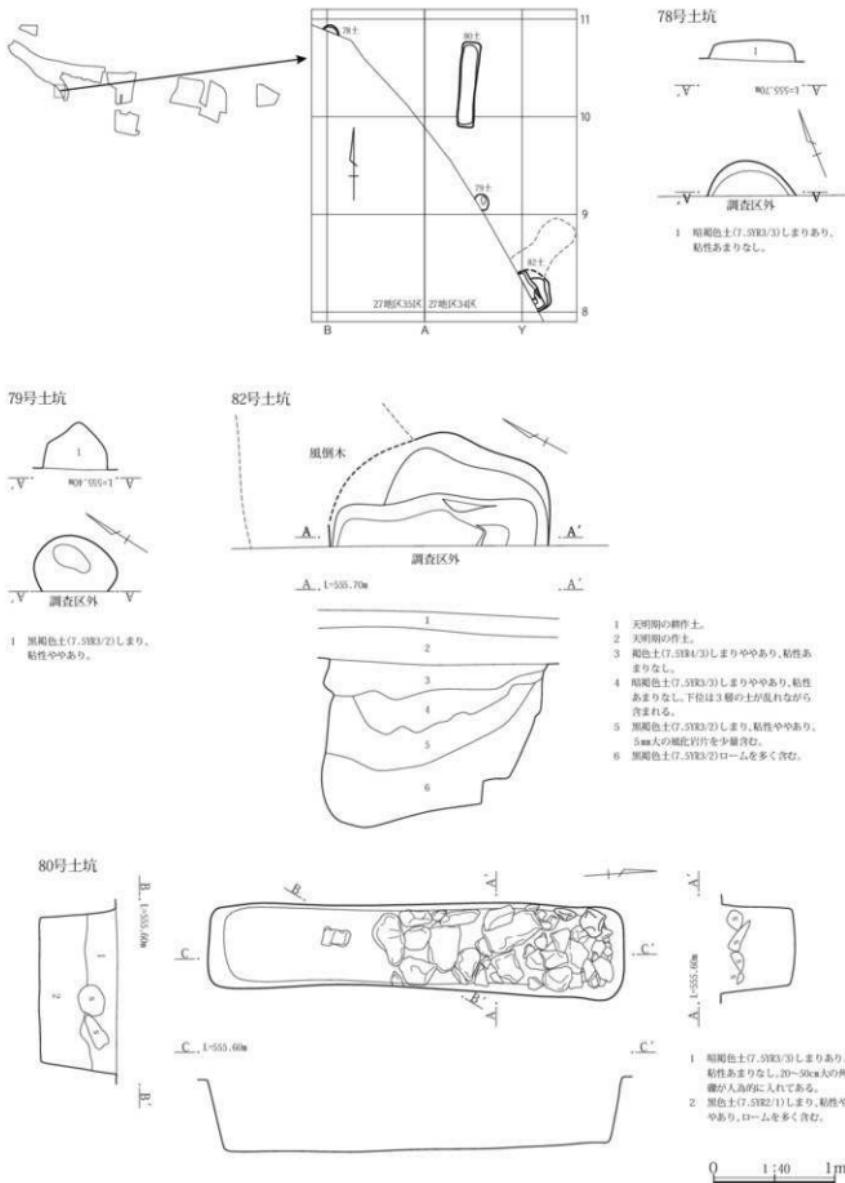
埋没土 南部は風化岩片を含む暗褐色土に、中部から北部はロームブロックを含む暗褐色土に覆われる。

重複 169号ピット。

所見 本遺構の年代は、出土層位および埋没土から中世以前に比定される。169号ピットに先行する。



第147図 土坑14



第148図 土坑15

### 第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

#### 52 88号土坑(第147図、PL.37)

位置 35区C-11グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 遺構南端が調査区外に続くため不明だが、概ね隅丸方形と推測される。

規模  $(1.28) \times 1.03\text{m}$ 。深さ0.42m。

主軸方向(度) N-90

埋没土 ロームと5cm大の亜角礫を含む暗褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。

#### 53 89号土坑(第147図、PL.37)

位置 35区B-12グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模  $1.27 \times 0.75\text{m}$ 。深さ0.42m。

主軸方向(度) N-27-E

埋没土 ロームブロックと亜角礫を含む黒褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。

#### 54 78号土坑(第148図、PL.35)

位置 35区A～B-10グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 弧状の遺構が確認されているが、南半が調査区外に続くため不明。

規模  $0.72 \times (0.29)\text{m}$ 。深さ0.18m。

主軸方向(度) N-67-W

埋没土 暗褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位および埋没土から近世に比定される。

#### 55 79号土坑(第148図、PL.36)

位置 34区Y-9グリッド、調査区西部に位置する。

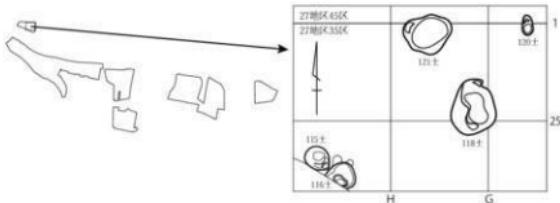
形状等 遺構南西部が調査区外につづくため不明。

規模  $0.63 \times 0.55\text{m}$ 。深さ0.52m。

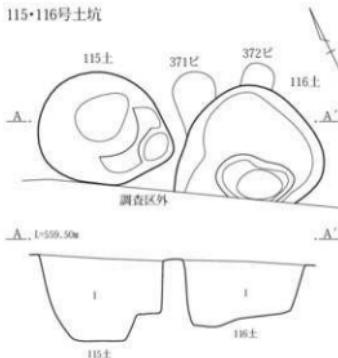
主軸方向(度) N-2-E

埋没土 黒褐色土。

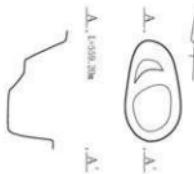
所見 本遺構の年代は、出土層位および埋没土から近世に比定される。



115・116号土坑



120号土坑



1 黒褐色土(7.3M3/2)しまりややあり。  
粘性あまりなし。亜角礫を多く含む。

0 1:40 1m

第149図 土坑16

## 56 80号土坑(第148図、PL.36)

位置 34区X-Y-9~10グリッド、調査区西部に位置する。  
形状等 圓丸長方形。遺構北半の埋没土上面には20~50cm大の角礫が並べられている。

規模  $3.39 \times 0.75m$ 。深さ  $0.63m$ 。

主軸方向(度) N-6-E

埋没土 ロームを含む黒褐色土。

遺物 図化には至らなかったが、埋没土より土器片( $3g$ )が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土層位から近世以前に比定される。

## 57 82号土坑(第148図、PL.36)

位置 34区X-Y-8グリッド、調査区西部に位置する。  
形状等 遺構の西半は調査区外につづくため不明。

規模  $1.79 \times (0.93)m$ 。深さ  $1.33m$ 。

主軸方向(度) N-28-W

埋没土 最下層はロームを含む黒褐色土。遺構上面は天明期の耕作土に覆われる。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中近世に比定される。

## 58 115号土坑(第149図、PL.40)

位置 35区H-24グリッド、調査区西部に位置する。  
形状等 偏円形を呈する。

規模  $1.12 \times 0.91m$ 。深さ  $0.71m$ 。

主軸方向(度) N-46-W

埋没土 亜角礫を含む黒褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位から近世以前に比定される。

## 59 116号土坑(第149図、PL.41)

位置 35区H-24グリッド、調査区西部に位置する。  
形状等 遺構南西部が調査区外につづくため不明。

規模  $1.15 \times (0.93)m$ 。深さ  $0.53m$ 。

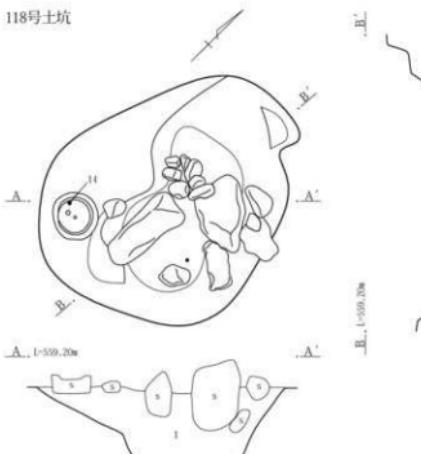
主軸方向(度) N-57-W

埋没土 亜角礫を含む黒褐色土。

重複 371号ピット、372号ピット、24号建物P4。

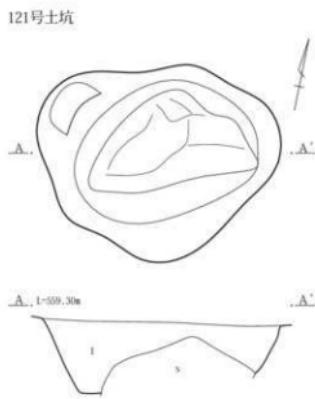
所見 本遺構の年代は、出土層位から近世以前に比定される。371号ピットおよび372号ピットより新しく、24号建物P4より古い。

118号土坑



I 黒褐色土(7.5YR3/3)しまり全くなく、粘性もあまりなし。  
下部には10cm大の亜角礫が非常に多く含まれる。人为的に石が入れられたと考えられる。

121号土坑



I 黒褐色土(7.5YR3/3)しまり全くなく、粘性もあまりなし。  
亜角礫を多く含み、大きな石が土坑内に入っている。

0 1:40 1m

第150図 土坑17

60 118号土坑(第150、156図、PL.41,71)

位置 35区F～G-24～25グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模 2.31×1.85m。深さ0.58m。

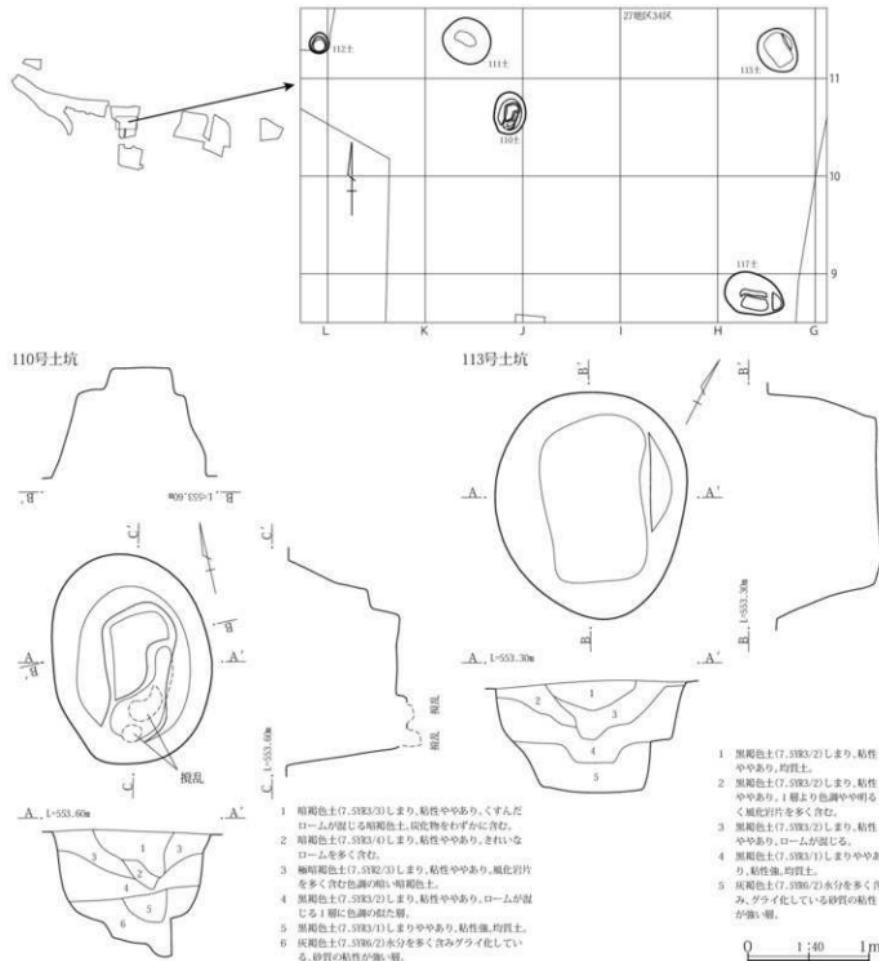
主軸方向(度) N-11-E

埋没土 10cm大の亜角礫を含む暗褐色土。

遺物 埋没土上面から石臼(上)(14)が出土したほか、土中から陶器片が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から中近世に比定される。

備考 調査時の所見によれば、24号建物との関連が指摘されている。



第151図 土坑18

## 61 120号土坑(第149図、PL41)

位置 35区F-25グリッドおよび45区F-1グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模  $0.82 \times 0.45m$ 。深さ0.58m。

主軸方向(度) N-7-W

埋没土 不明。

所見 本遺構の年代は、出土層位から近世以前に比定される。

## 62 121号土坑(第150図、PL41)

位置 35区G-25グリッドおよび45区G-1グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模  $1.93 \times 1.56m$ 。深さ0.58m。

主軸方向(度) N-70-E

埋没土 風化岩片を含む暗褐色土。

重複 359号ピット。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。掘削中に大石に遭遇し、掘削を放棄して埋め戻した遺構と推察される。359号ピットに先行する。

## 63 110号土坑(第151図、PL40)

位置 34区I～J-10グリッド、調査区中部に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模  $1.73 \times 1.30m$ 。深さ1.02m。

主軸方向(度) N-3-E

埋没土 最下層はグラウシ化した砂質の灰褐色土。中層はロームや風化岩片を含む。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。

## 64 111号土坑(第152図、PL40)

位置 34区J-11グリッド、調査区中部に位置する。

形状等 円形を呈する。

規模  $1.98 \times 1.81m$ 。深さ1.10m。

主軸方向(度) N-76-W

埋没土 最下層はグラウシ化した砂質の灰褐色土と黒褐色土。中層はロームを含む黒褐色土に覆われる。

所見 本遺構の年代は、出土層位から近世以前に比定さ

れる。

## 65 112号土坑(第152図、PL40)

位置 34区K～L-11グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模  $0.85 \times 0.79m$ 。深さ0.35m。

主軸方向(度) N-7-E

埋没土 炭化物を含む黒褐色土。

重複 9号竪穴住居。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。9号竪穴住居より新しい。

## 66 113号土坑(第151図、PL40)

位置 34区G-11グリッド、調査区中部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模  $1.84 \times 1.57m$ 。深さ0.71m。

主軸方向(度) N-46-W

埋没土 グライ化した砂質の灰褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。

## 67 117号土坑(第152図、PL41)

位置 34区G-8～9グリッド、調査区中部に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模  $2.49 \times 1.72m$ 。深さ0.62m。

主軸方向(度) N-71-W

埋没土 ロームの混ざる黒褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位から近世以前に比定される。

## 68 46号土坑(第153図、PL31)

位置 33区N-10グリッド、調査区中部に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模  $0.87 \times 0.70m$ 。深さ0.20m。

主軸方向(度) N-75-W

埋没土 20cm大の亜角礫を含む黒褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定されるが、平安時代をさかのぼる可能性を含む。

備考 遺構確認面は3面。

### 第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

69 47号土坑(第153図、PL.31)

位置 33区N-11グリッド、調査区中部に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模  $0.94 \times 0.69m$ 。深さ  $0.23m$ 。

主軸方向(度) N-65°E

埋没土 一部に地山褐色土ブロックを含む黒褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定さ

れるが、平安時代をさかのぼる可能性を含む。

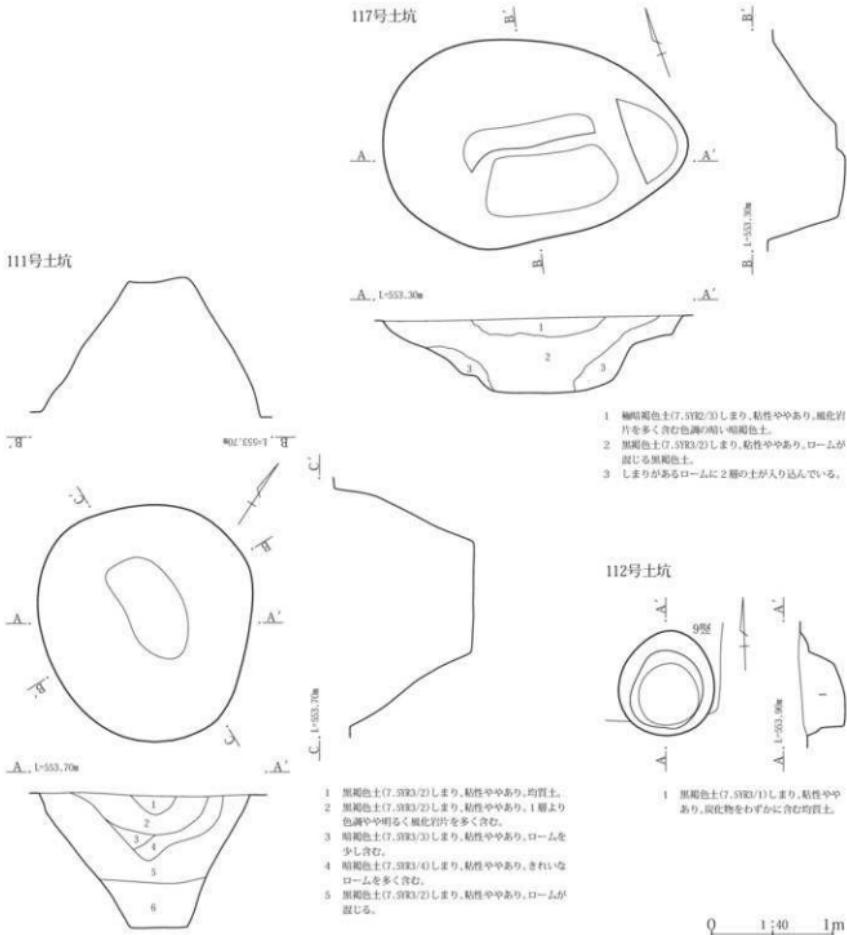
備考 遺構確認面は3面。

70 48号土坑(第153図、PL.31)

位置 33区N-10グリッド、調査区中部に位置する。

形状等 円形を呈する。

規模  $0.50 \times 0.47m$ 。深さ  $0.15m$ 。



第152図 土坑19

主軸方向(度) N-60-E

埋没土 一部に地山褐色土ブロックを含む黒褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定されるが、平安時代をさかのぼる可能性を含む。

備考 遺構確認面は3面。

71 49号土坑(第153、155図、PL.31,71)

位置 33区O-10~11グリッド、調査区中部に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模 1.62×1.62m。深さ0.22m。

主軸方向(度) N-17-E

埋没土 地山褐色土ブロックをやや多く含む黒褐色土。

遺物 埋没土から十三菩提式の繩文土器深鉢(1)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定されるが、平安時代をさかのぼる可能性を含む。

備考 遺構確認面は3面。

72 119号土坑(第154図、PL.41)

位置 32区V-8グリッド、調査区東部に位置する。

形状等 圆丸長方形を呈する。

規模 1.45×0.75m。深さ0.42m。

主軸方向(度) N-65-W

埋没土 亜角礫を含む黒褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中近世に比定される。

73 122号土坑(第154図、PL.41)

位置 32区W-10グリッド、調査区東部に位置する。

形状等 圆丸方形を呈する。

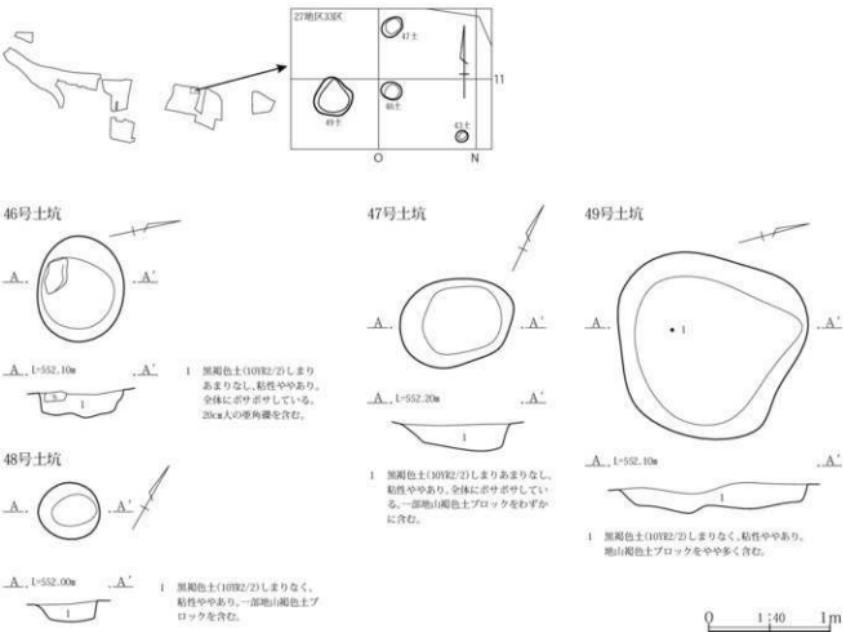
規模 1.41×1.16m。深さ0.35m。

主軸方向(度) N-85-W

埋没土 風化岩片を含む黒褐色土。

重複 7号ヤッカラ。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定さ



第153図 土坑20

れる。7号ヤックラに先行する。

## 74 124号土坑(第154図、PL.42)

位置 32区U～V-9グリッド、調査区東部に位置する。

形状等 円形を呈する。

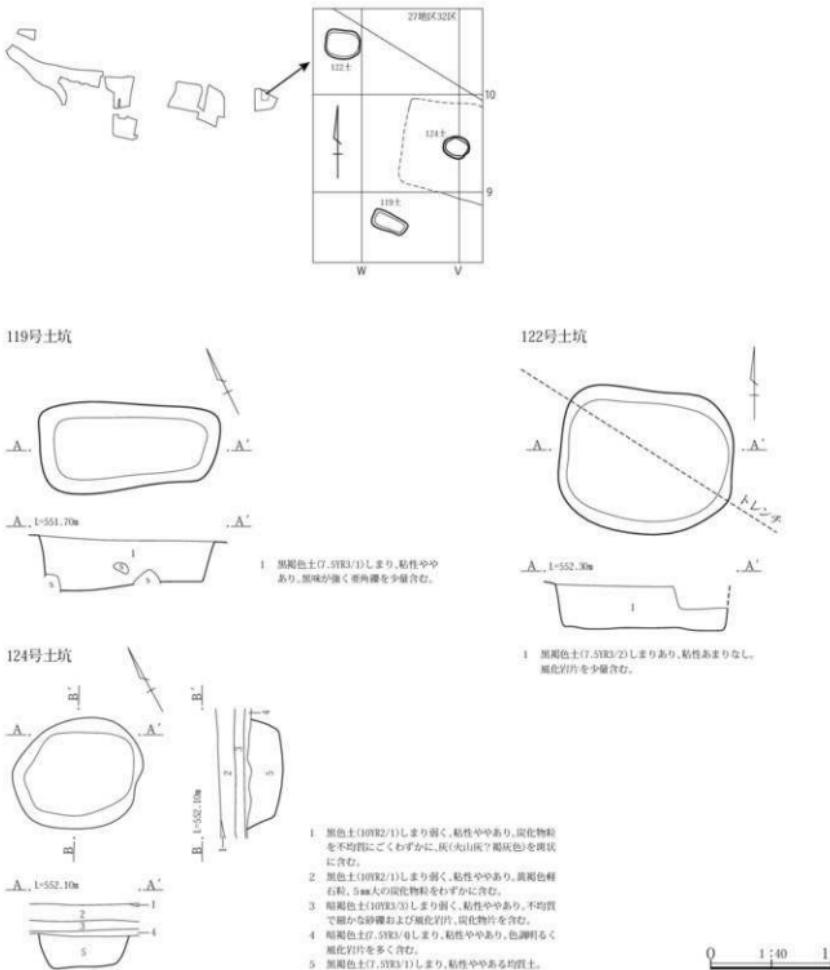
規模 1.07×0.91m。深さ0.27m。

主軸方向(度) N-67-W

埋没土 黒褐色土。

重複 11号竪穴建物。

所見 本遺構の年代は、重複関係から平安時代以前に比定される。11号竪穴建物に先行する。

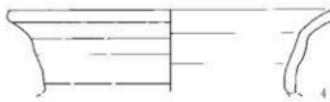


第154図 土坑21

49号土坑



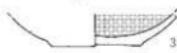
52号土坑



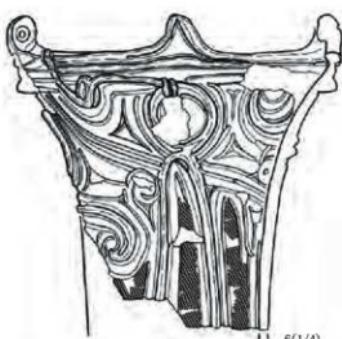
50号土坑



2(1/1)

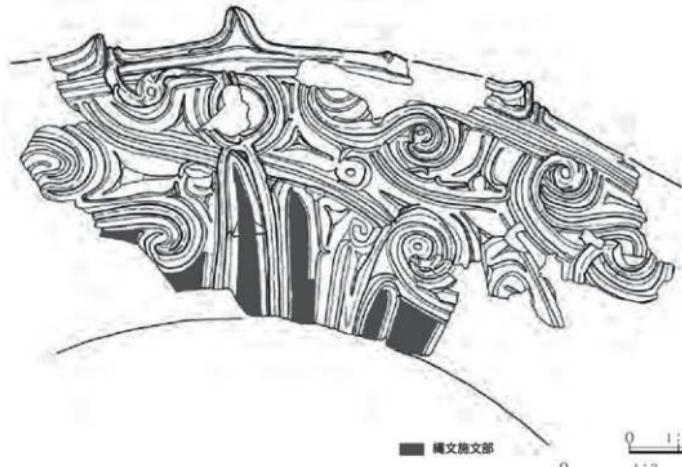


60号土坑

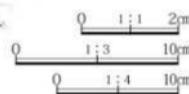


6(1/4)

83号土坑

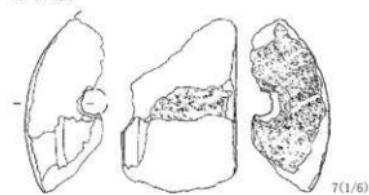


■ 織文施文部



第155図 49～83号土坑出土遺物

94号土坑



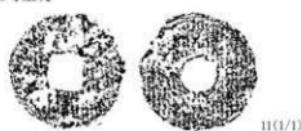
107号土坑



108号土坑

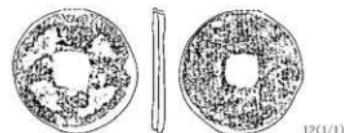


109号土坑



10(1/3)

11(1/1)

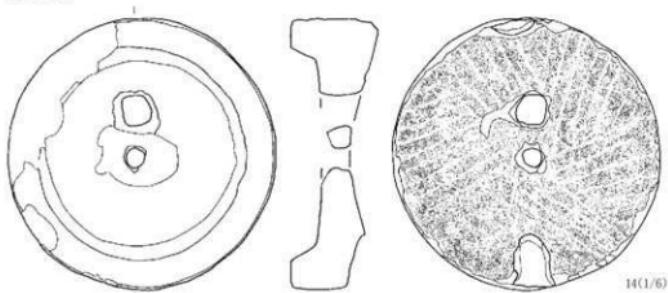


12(1/1)

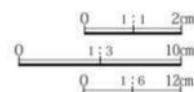


13(1/1)

118号土坑



14(1/6)



第156図 94～118号土坑出土遺物

## 第6項 ピット列およびピット

今回の調査では調査区の2地点(調査区西部に1か所、調査区中部に1か所)でピット列が確認されている。いずれもこれまでの調査で検出されたピット列の延長上に位置していることから、既報遺構と同一の遺構とした。前回までの調査では遺構の帰属年代を判定する根拠にかけていたが、今回の調査によりいずれも中世に帰属することが確認された。なお、調査区中部から検出されたピット列は掘立柱建物との位置関係からA1建物群として取り上げたため、本稿では調査区西部の3号ピット列と4号ピット列につき記述する。

今回検出されたピット296基は調査区の西部に限定され、中部や東部からは確認されていない。ピットの多くは埋没土が単層のピットであり、埋没土が複層のピットは5基に限られる。

### 1 ピット列

調査区の中部から東部を横切る谷は、調査区西部ではまだ口を開いていない。調査区西部の北側は、調査区西端から続く微高地と、谷頭につづく緩やかな斜面から形成されている。ほぼ並行する2条のピット列は、この谷に続く緩やかな斜面に位置し、調査区西部南側の微高地との境を区切るような東西軸で検出された。

#### (1) 3号ピット列(第157図、PL42)

位置 34区W~Y-9グリッド、調査区西部、4号ピット列の南に位置する。

形状等 東西に並ぶピット7基が確認されている。

規模 確認長8.46m

走行方向(度) N-81-W

埋没土 ややくすんだ色調で、しまりやや弱い黒褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位および埋め土から中世に比定される。

備考 調査時の名称は3号柵列。過年度の調査成果と合わせた姿については後掲(3節2項3)する。

#### (2) 4号ピット列(第157図、PL42)

位置 34区W~Y-10グリッド、調査区西部、3号ピット列の北に位置する。

形状等 東西に並ぶピット6基が確認されている。

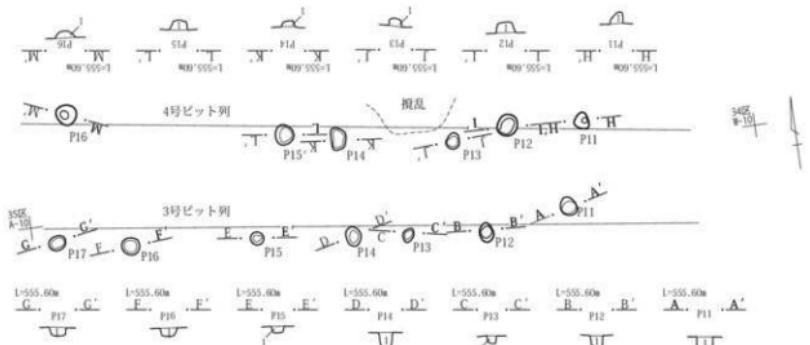
規模 確認長8.50m

走行方向(度) N-82-W

埋没土 ややくすんだ色調で、しまりやや弱い黒褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位および埋め土から中世に比定される。

備考 調査時の名称は4号柵列。過年度の調査成果と合わせた姿については後掲(3節2項3)する。



1 黒褐色土 ややくすんだ色調でしまりやや弱いが、上位黒褐色の地山との差別は難しい。

第157図 3号ピット列、4号ピット列

## 2 ピット

**埋没土** 調査で確認されたピットの多くは、調査所見により中世埋没土とされるものと、中世～古代の埋没土（以下、中世埋没土）とされるものに二分される。中世埋没土とされる埋没土は、「ごくわずかな炭化物粒を含み、均質」や「やくすんだ色調で黒色味やや強いが、しまりやや弱い」黒褐色土である。中世埋没土とされる埋没土は、「色調ややくすんで、しまりやや弱いが上位黒褐色の地山との区別は難しい。ごくわずかな炭化物粒を含み、均質」な黒褐色土である。調査所見の記載内容からでは両者の分別は難しい。

(1) 中世埋没土のピット(第158～167, 178, 179図、PL.42～49, 71)

## 重複

77号ピット 2号竪穴建物と重複し、これより新しい。  
113号ピット 2号竪穴建物と重複し、これより新しい。  
168号ピット 182号ピットと重複し、これより新しい。  
169号ピット 81号土坑と重複し、これより新しい。  
183号ピット 76号土坑と重複し、これに先行する。  
202号ピット 8号竪穴建物と重複し、これより新しい。  
210号ピット 90号土坑と重複し、これよ

り新しい。

221号ピット 238号ピットと重複し、これに先行する。  
223号ピット 237号ピットと重複し、これより新しい。  
230号ピット 92号土坑と重複し、これより新しい。

242号ピット 243号ピット、244号ピット、  
273号ピットと重複し、これらより新しい。  
263号ピット 264号ピットと重複し、これより新しい。  
294号ピット 102号土坑と重複し、これに

先行する。

304号ピット 305号ピットと重複し、これに先行する。  
308号ピット 309号ピットと重複する。新旧の判定不能。  
313号ピット 321号ピットと重複し、これより新しい。  
327号ピット 326号ピットと重複し、これより新しい。  
335号ピット 342号ピットと重複し、これより新しい。  
338号ピット 350号ピットと重複し、これより新しい。

## 遺物

74号ピット 埋没土より灰釉陶器皿(1)が出土している。  
77号ピット 図化には至らなかったが、埋没土より土師器片1片(21g)が出土している。  
224号ピット 埋没土より須恵器碗(3)が出土している。  
230号ピット 図化には至らなかったが、埋没土より土師器片1片(8g)が出土している。  
235号ピット 埋没土より須恵器碗(4)が出土している。  
293号ピット 埋没土より肥前陶器陶胎染付碗(5)が出土している。  
299号ピット 図化には至らなかったが、埋没土より陶器片が出土している。  
311号ピット 埋没土より石臼(下臼)(6)が出土している。

第45表 3号ピット列計測表

確認長 ピット	8.46m 上輪方向(度) N-81-W							田名稱	3号標列 P11 P12 P13 P14 P15 P16 P17
	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17		
規模	長(m) 0.33	0.32	0.23	0.32	0.22	0.31	0.29		
	短(m) 0.25	0.24	0.17	0.25	0.21	0.28	0.24		
	深(m) 0.21	0.19	0.13	0.26	0.11	0.14	0.15		
平面形状	偏円形	偏円形	偏円形	長円形	円形	円形	長円形		
主輪方向(度)	N-18-W	N-1-W	N-24-E	N-12-W	N-60-W	N-60-W	N-67-E		
次坑間隔(m)	1.43	1.27	0.89	1.58	2.07	1.22	—		

第46表 4号ピット列計測表

確認長 ピット	8.50m 上輪方向(度) N-82-W							田名稱	4号標列 P11 P12 P13 P14 P15 P16
	P11	P12	P13	P14	P15	P16			
規模	長(m) 0.27	0.36	0.27	0.36	0.33	0.35			
	短(m) 0.24	0.33	0.23	0.25	0.30	0.33			
	深(m) 0.18	0.18	0.13	0.09	0.16	0.12			
平面形状	不整形	圓丸方形	偏円形	不整形	円形	円形			
主輪方向(度)	N-37-W	N-25-E	N-10-E	N-5-E	N-31-E	N-67-W			
次坑間隔(m)	1.22	0.92	1.87	0.88	3.61	—			

第47表 中世埋没土ピット計測表1

名稱	68号ピット	71号ピット	73号ピット	74号ピット	75号ピット	77号ピット	81号ピット	85号ピット	86号ピット	88号ピット
位置	34K W-15	34K S-15	34K T-13	34K X-14	34K X-14	34K U-13	34K Y-14	34K X-14	34K X-14-15	34K X-15
平面形状	偏円形	偏円形	偏円形	偏円形	円形	長円形	偏円形	円形	偏円形	偏円形
規模	長(m) 0.27	0.31	0.23	0.30	0.24	0.33	0.33	0.34	0.29	0.32
	短(m) 0.24	0.27	0.20	0.26	0.24	0.20	0.26	0.32	0.23	0.26
	深(m) 0.31	0.37	0.39	0.27	0.25	0.27	0.12	0.29	0.20	0.41
主輪方向(度)	N-57-E	N-7-E	N-11-E	N-20-W	—	N-4-E	N-49-W	N-45-E	N-47-W	N-52-W

第48表 中近世埋没土ピット計測表2

名前	92号ピット	93号ピット	94号ピット	95号ピット	96号ピット	97号ピット	98号ピット	99号ピット	100号ピット	102号ピット
位置	34区X-16	34区X-16	34区W-16	34区W-16	34区W-16	34区W-16	34区W-15	34区W-15	34区X-14	34区W-13
平面形状	偏円形	円形	偏円形	偏円形	長円形	偏円形	偏円形	偏円形	偏円形	偏円形
規模	長(m)	0.31	0.19	0.25	0.26	0.30	0.35	0.22	0.26	0.25
	短(m)	0.26	0.18	0.23	0.23	0.24	0.31	0.20	0.23	0.22
	深(m)	0.36	0.13	0.36	0.43	0.22	0.32	0.21	0.32	0.22
主軸方向(度)	N-9-E	N-30-W	N-75-E	N-48-E	N-11-E	N-32-E	N-28-W	N-7-W	N-48-W	N-41-W

第49表 中近世埋没土ピット計測表3

名前	112号ピット	113号ピット	124号ピット	130号ピット	131号ピット	136号ピット	141号ピット	142号ピット	144号ピット	145号ピット
位置	34区W-15	34区U-13	34区T-13	34区T-14	34区T-14~15	34区S-12	34区R-12	34区R-12	34区Q-15	34区P-14
平面形状	円形	不整形	円形	円形	円形	円形	偏円形	偏円形	偏円形	長円形
規模	長(m)	0.23	0.27	0.23	0.30	0.15	0.17	0.44	0.43	0.22
	短(m)	0.20	0.14	0.21	0.28	0.13	0.17	0.36	0.35	0.20
	深(m)	0.28	0.62	0.26	0.17	0.10	0.27	0.19	0.17	0.10
主軸方向(度)	N-1-W	N-70-W	N-55-W	N-33-E	N-34-E	—	N-2-E	N-51-W	N-50-W	N-10-E

第50表 中近世埋没土ピット計測表4

名前	146号ピット	147号ピット	148号ピット	149号ピット	168号ピット	169号ピット	170号ピット	171号ピット	172号ピット	173号ピット
位置	34区P-14	34区R-12	34区R-12	34区Q-12	34区Y-12	35区A-12	35区A-12	35区A-12	35区A-13~14	35区A-13~14
平面形状	円形	偏円形	偏円形	円形	猪の目形	偏円形	偏丸方形	長円形	偏円形	偏円形
規模	長(m)	0.34	0.42	0.31	0.24	0.42	0.33	0.34	0.34	0.34
	短(m)	0.34	0.30	0.28	0.23	0.35	0.31	0.34	0.29	0.30
	深(m)	0.20	0.15	0.13	0.13	0.13	0.11	0.13	0.11	0.25
主軸方向(度)	—	N-4-W	N-28-W	N-80-W	N-48-E	N-55-W	—	N-37-W	N-48-W	N-8-E

第51表 中近世埋没土ピット計測表5

名前	175号ピット	176号ピット	177号ピット	178号ピット	179号ピット	183号ピット	192号ピット	193号ピット	194号ピット	195号ピット
位置	34区W-8	34区X-8~9	34区X-10	34区X-9	34区W-8	35区A-11	34区Y~15	34区Y-15	34区X-Y~15	34区Y-16
平面形状	長円形	円形	偏円形	偏円形	円形	不明	偏丸方形	不整形	長円形	偏円形
規模	長(m)	0.41	0.17	0.32	0.32	0.29	(0.51)	0.31	0.23	0.56
	短(m)	0.33	0.14	0.32	0.27	0.25	(0.38)	0.27	0.22	0.36
	深(m)	0.49	0.48	0.33	0.29	0.20	0.24	0.18	0.34	0.40
主軸方向(度)	N-1-W	N-17-E	—	N-14-E	N-64-W	N-10-E	N-87-W	N-15-W	N-83-W	N-35-W

第52表 中近世埋没土ピット計測表6

名前	196号ピット	198号ピット	199号ピット	200号ピット	201号ピット	202号ピット	208号ピット	210号ピット	211号ピット	212号ピット
位置	35区A-16	34区X-11	34区W-7	34区X-7	35区C-17	35区D-13	35区C-16	35区D-16	35区D-17	35区D-16
平面形状	偏円形	不明	長円形	長円形	偏円形	偏円形	円形	偏丸三角形	偏円形	偏円形
規模	長(m)	0.23	0.61	0.39	0.17	0.32	0.39	0.33	0.30	0.44
	短(m)	0.21	(0.51)	0.32	0.11	0.29	0.34	0.32	0.28	0.40
	深(m)	0.19	0.33	0.32	0.28	0.11	0.28	0.27	0.57	0.34
主軸方向(度)	N-58-W	N-13-W	N-7-W	N-10-E	N-12-W	N-69-E	N-51-W	N-16-E	N-52-E	N-12-E

第53表 中近世埋没土ピット計測表7

名前	213号ピット	214号ピット	217号ピット	218号ピット	221号ピット	222号ピット	223号ピット	224号ピット	225号ピット	226号ピット
位置	35区D-15~16	35区E-13	35区C-14~15	35区E-14	35区F-15	35区E-16	35区F-14~15	35区E-16	35区E-16	35区E-16
平面形状	偏円形	偏円形	長円形	偏円形	長円形	偏円形	偏円形	長円形	円形	偏丸方形
規模	長(m)	0.39	0.25	0.34	0.31	0.50	0.45	0.41	0.37	0.33
	短(m)	0.36	0.23	0.26	0.29	0.43	0.44	0.33	0.27	0.39
	深(m)	0.26	0.30	0.47	0.35	0.52	0.48	0.48	0.32	0.66
主軸方向(度)	N-31-W	N-22-E	N-58-E	N-19-E	N-47-W	N-15-W	N-0	N-16-E	N-75-W	N-62-E

### 第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

第54表 中近世埋没土ピット計測表8

名稱	227号ピット	230号ピット	231号ピット	234号ピット	235号ピット	236号ピット	237号ピット	238号ピット	241号ピット	242号ピット
位置	35区F-16～17	35区F-15	35区E-17	35区F-16	35区F-16	35区E～F-17～18	35区F-15	35区H-15	35区G-17	
平面形状	長円形	偏円形	偏円形	長円形	偏円形	不整形	長円形	不明	長円形	不整形
規模	長(m) 短(m) 深(m)	0.46 0.32 0.27	0.26 0.24 0.26	0.35 0.33 0.25	0.53 0.37 0.72	0.35 0.29 0.38	0.42 0.38 0.32	(0.30) 0.28 0.27	0.40 (0.23) 0.61	0.42 0.32 0.54
上軸方向(度)	N-73-E	N-54-W	N-68-W	N-44-E	N-49-E	N-17-E	N-76-E	N-2-W	N-38-W	N-39-W

第55表 中近世埋没土ピット計測表9

名稱	247号ピット	248号ピット	249号ピット	250号ピット	251号ピット	253号ピット	254号ピット	255号ピット	259号ピット	263号ピット
位置	35区F-18	35区H-17	35区G-18	35区H～I-16	35区G-18	35区G-19	35区G-18	35区H-16	35区H-18	35区G-18～19
平面形状	偏円形	偏円形	偏円形	偏円形	偏円形	不整形	長円形	偏円形	長円形	円形
規模	長(m) 短(m) 深(m)	0.35 0.30 0.47	0.36 0.34 0.22	0.29 0.25 0.18	0.29 0.24 0.23	0.45 0.39 0.45	0.56 0.54 0.57	0.42 0.38 0.26	0.32 0.24 0.22	0.43 0.43 0.45
上軸方向(度)	N-2-W	N-47-W	N-22-E	N-13-E	N-5-E	N-69-W	N-50-E	N-56-E	—	N-81-W

第56表 中近世埋没土ピット計測表10

名稱	265号ピット	266号ピット	276号ピット	278号ピット	282号ピット	283号ピット	284号ピット	287号ピット	289号ピット	290号ピット
位置	35区G-18	35区I-17	35区G-18	35区H-18	35区G-19	35区K-17	35区H-18	35区H-19	35区I-18	35区G-19
平面形状	偏円形	偏円形	円形	偏円形	不明	偏円形	不整形	偏円形	不整形	偏円形
規模	長(m) 短(m) 深(m)	0.27 0.26 0.36	0.34 0.26 0.34	0.30 0.28 0.15	0.39 0.35 0.25	0.24 0.24 0.26	0.54 0.39 0.38	0.49 0.38 0.25	0.40 0.34 0.32	0.68 0.61 0.50
上軸方向(度)	N-35-W	N-44-E	N-25-E	N-62-W	N-64-W	N-13-W	N-13-W	N-32-E	N-20-E	N-12-E

第57表 中近世埋没土ピット計測表11

名稱	291号ピット	293号ピット	294号ピット	298号ピット	299号ピット	300号ピット	302号ピット	304号ピット	305号ピット	308号ピット
位置	35区H-19	35区G～H～35区F-17	35区F-17	35区I-19	35区J-18	35区J-19	35区I-20	35区J～K～35区J-20	35区J-20	35区J-20
平面形状	長円形	円形	偏円形	偏円形	偏円形	長円形	長円形	不明	不明	圓丸方形
規模	長(m) 短(m) 深(m)	0.38 0.31 0.24	0.34 0.33 0.39	0.31 (0.26) 0.46	0.54 0.47 0.63	0.60 0.43 0.60	0.59 0.51 0.58	0.59 (0.41) 0.34	0.54 (0.41) 0.31	0.45 — 0.24
上軸方向(度)	N-27-E	N-0	N-7-W	N-45-E	N-11-E	N-20-E	N-50-W	N-57-W	N-56-W	—

第58表 中近世埋没土ピット計測表12

名稱	309号ピット	310号ピット	311号ピット	313号ピット	314号ピット	315号ピット	316号ピット	317号ピット	318号ピット	321号ピット
位置	35区J-20	35区K-21	35区K-19	35区J-20	35区K-20	35区K-21	35区K-19～20	35区K-20	35区L-20	35区J-20～21
平面形状	不明	長円形	偏円形	圓丸方形	圓丸台形	偏円形	不整形	長円形	偏円形	不明
規模	長(m) 短(m) 深(m)	— — 0.27	0.61 0.50 0.29	0.61 0.55 0.59	0.48 0.41 0.29	0.73 0.66 0.59	0.55 0.49 0.32	0.42 0.36 0.34	0.40 0.30 0.41	0.65 0.57 0.36
上軸方向(度)	—	N-27-E	N-10-E	N-41-W	N-6-W	N-12-E	N-41-E	N-61-W	N-87-E	N-37-W

第59表 中近世埋没土ピット計測表13

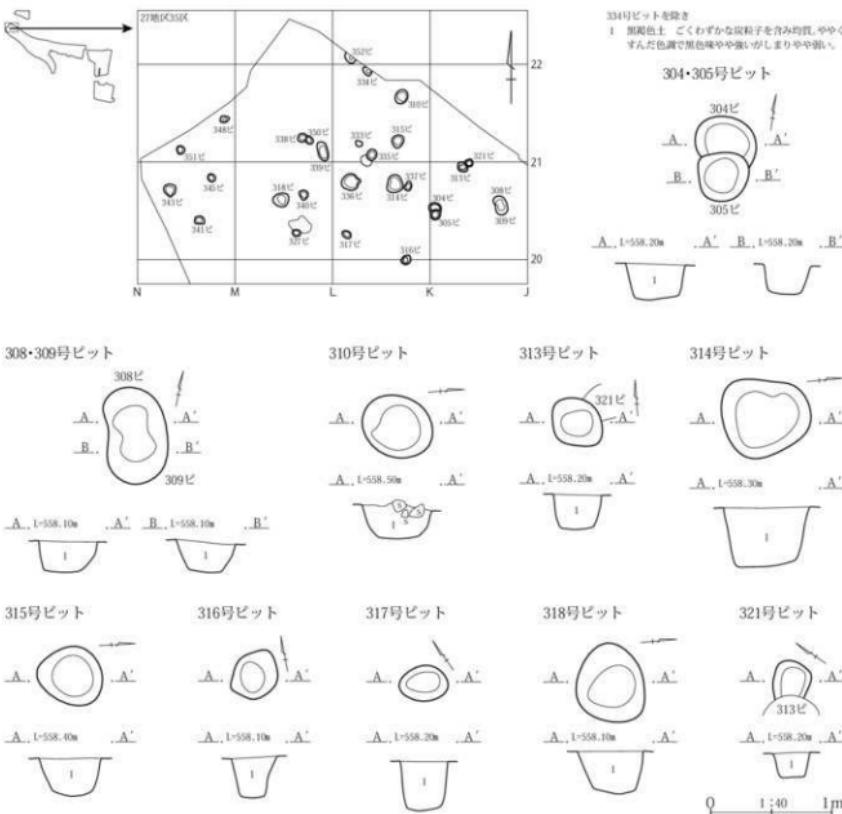
名稱	327号ピット	333号ピット	334号ピット	335号ピット	336号ピット	337号ピット	338号ピット	339号ピット	340号ピット	341号ピット
位置	35区L-20	35区K-21	35区K-21	35区K-21	35区K-20	35区K-20	35区L-21	35区L-21	35区K-20	35区M-20
平面形状	圓丸方形	偏円形	不明	長円形	不整形	不整形	円形	長円形	不整形	圓丸方形
規模	長(m) 短(m) 深(m)	0.33 0.28 0.42	0.29 0.15 0.49	0.40 (0.27) 0.58	0.46 0.40 0.45	0.80 0.69 0.42	0.40 0.29 0.27	0.38 0.37 0.49	0.80 0.42 0.46	0.41 0.39 0.35
上軸方向(度)	N-83-E	N-48-W	N-60-W	N-32-E	N-80-E	N-13-E	N-26-E	N-15-W	N-6-E	N-54-W

第60表 中近世埋没土ピット計測表14

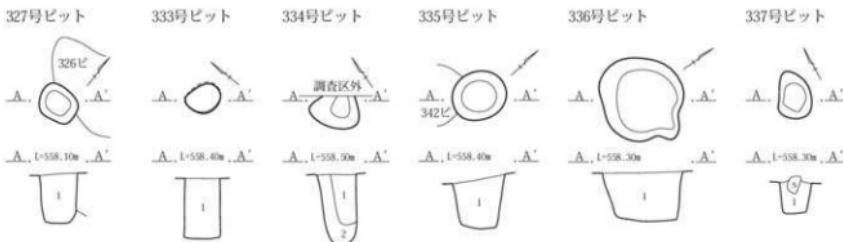
名前	343号ピット	345号ピット	348号ピット	350号ピット	351号ピット	352号ピット	374号ピット	375号ピット	376号ピット	377号ピット
位置	35[K]M-20	35[K]M-20	35[K]M-21	35[K]L-21	35[K]M-21	35[K]K-22	35[K]G-25	35[K]H-25	35[K]G-H-24	35[K]G-24
平面形状	不整形	長円形	不整形	長円形	偏円形	不明	偏円形	偏円形	偏円形	円形
規模										
長(m)	0.53	0.35	0.40	(0.31)	0.36	0.53	0.56	0.35	0.36	0.38
短(m)	0.51	0.31	0.30	0.29	0.34	(0.27)	0.49	0.30	0.32	0.35
深(m)	0.39	0.30	0.32	0.51	0.23	0.41	0.25	0.46	0.35	0.26
主軸方向(度)	N-13-W	N-44-W	N-75-E	N-50-W	N-19-E	N-53-W	N-59-E	N-29-W	N-66-W	N-5-W

第61表 中近世埋没土ピット計測表15

名前	378号ピット
位置	45[K]F-1
平面形状	偏円形
規模	
長(m)	0.41
短(m)	0.37
深(m)	0.31
主軸方向(度)	N-26-E

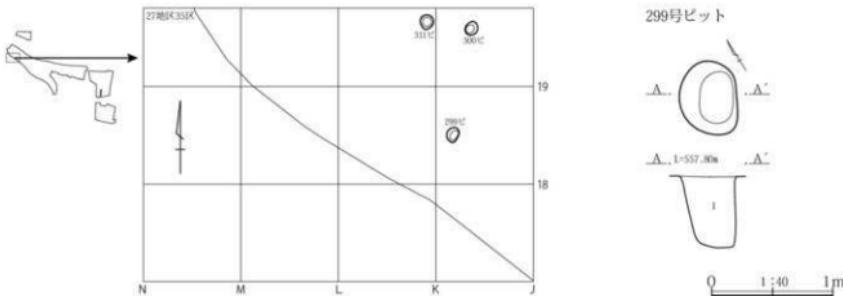
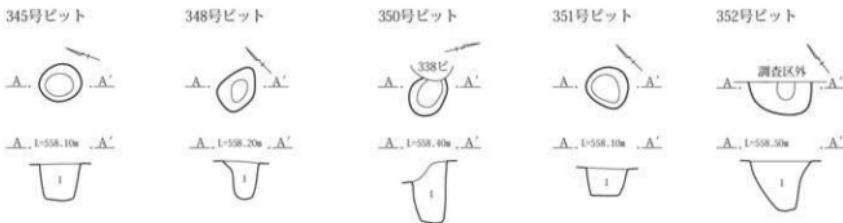
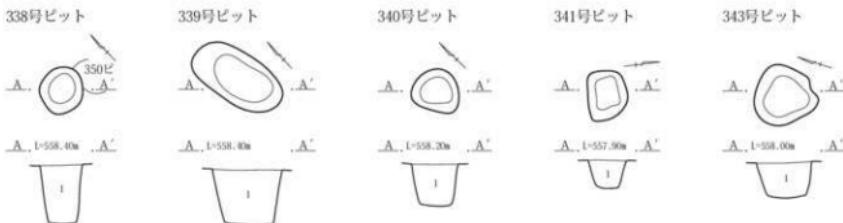


第158図 中近世埋没土のピット1



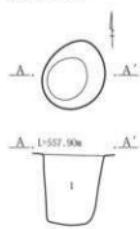
334号ピット

- 1 黄褐色土(7.5YR4/3)しまり、粘性あまりなし。
- 2 黒褐色土、ごくわずかな炭化物粒を含み肉質、ややくすんだ色調で黒色味やや強めがし

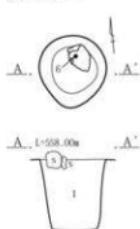


第159図 中近世埋没土のピット2

300号ビット



311号ビット



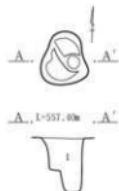
247号ビット



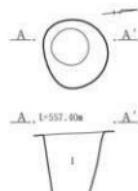
249号ビット



251号ビット



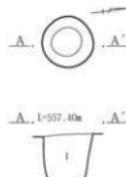
253号ビット



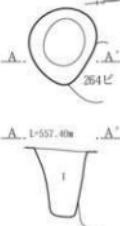
254号ビット



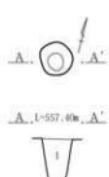
259号ビット



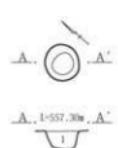
263号ビット



265号ビット



276号ビット

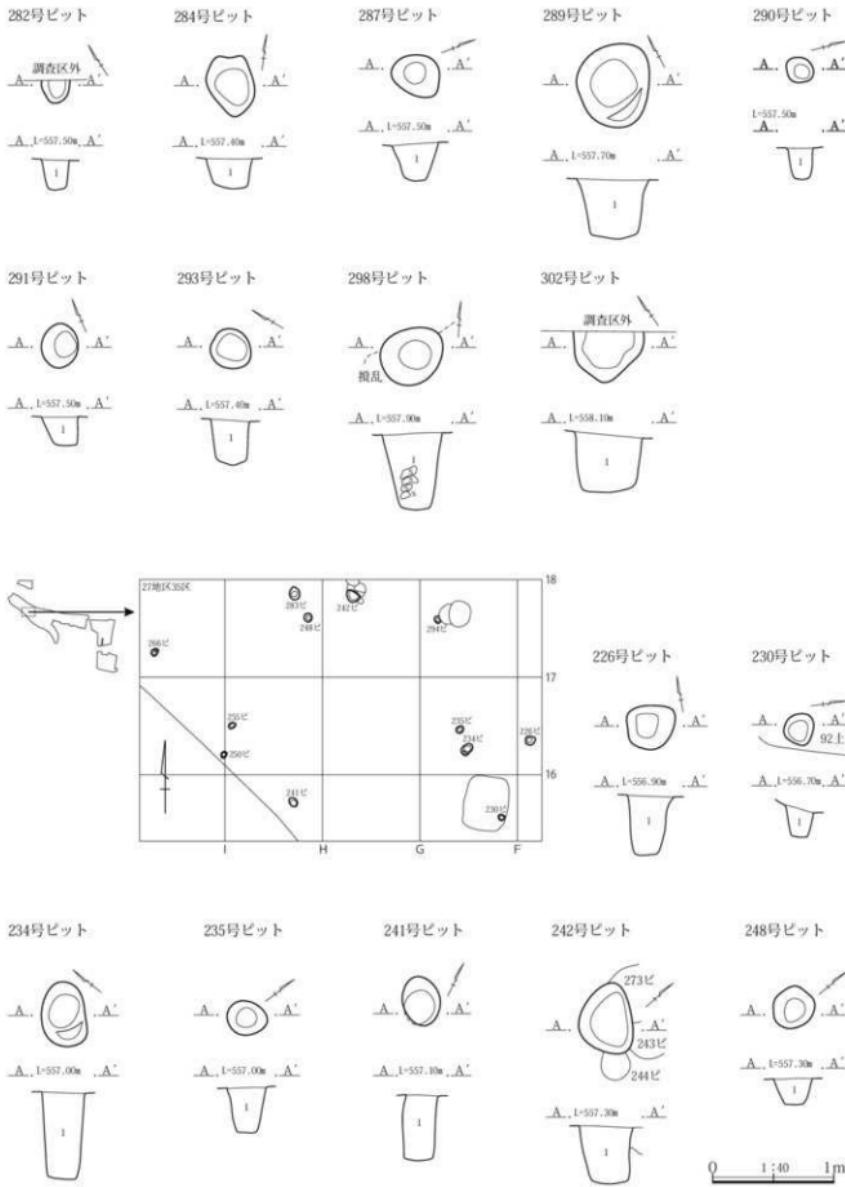


278号ビット



0 1:40 1m

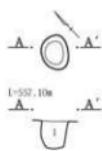
第160図 中近世埋没土のビット3



第161図 中近世埋没土のピット4

第2節 2面および3面の遺構と遺物

250号ビット



255号ビット



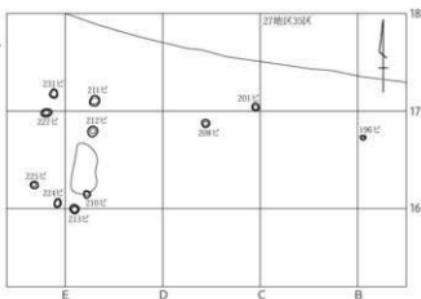
266号ビット



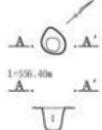
283号ビット



294号ビット



196号ビット



201号ビット



208号ビット



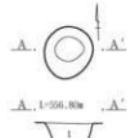
210号ビット



211号ビット



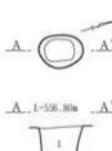
212号ビット



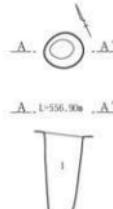
213号ビット



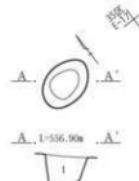
224号ビット



225号ビット



227号ビット

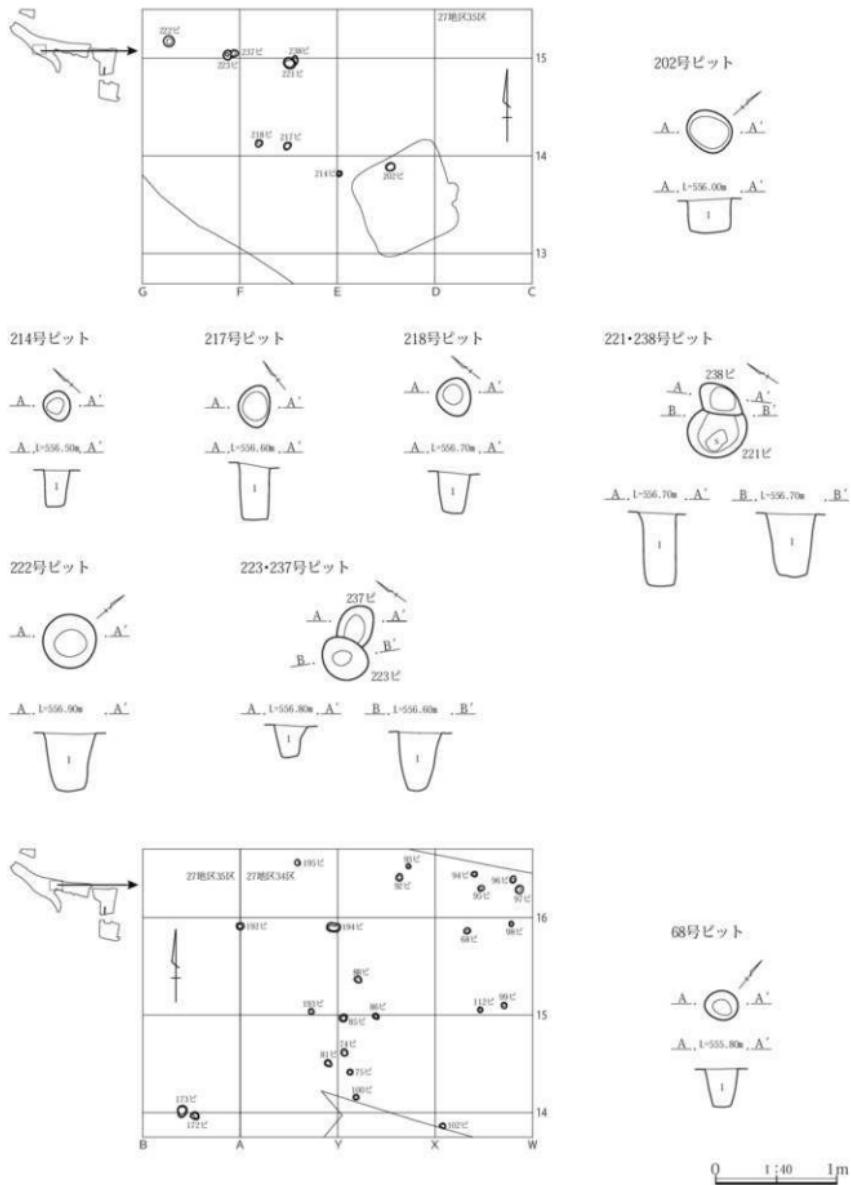


231号ビット



0 1:40 1m

第162図 中近世埋没土のビット5



第163図 中近世埋没土のピット6

第2節 2面および3面の遺構と遺物

74号ピット



75号ピット



81号ピット



85号ピット



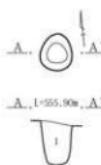
86号ピット



88号ピット



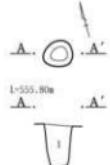
92号ピット



93号ピット



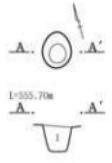
94号ピット



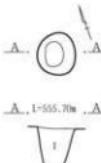
95号ピット



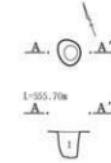
96号ピット



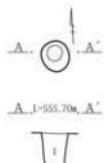
97号ピット



98号ピット



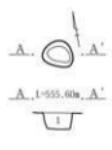
99号ピット



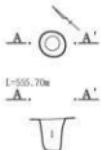
100号ピット



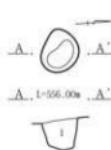
102号ピット



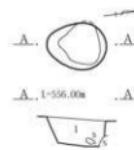
112号ピット



172号ピット



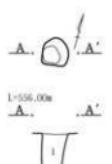
173号ピット



192号ピット



193号ピット



194号ピット

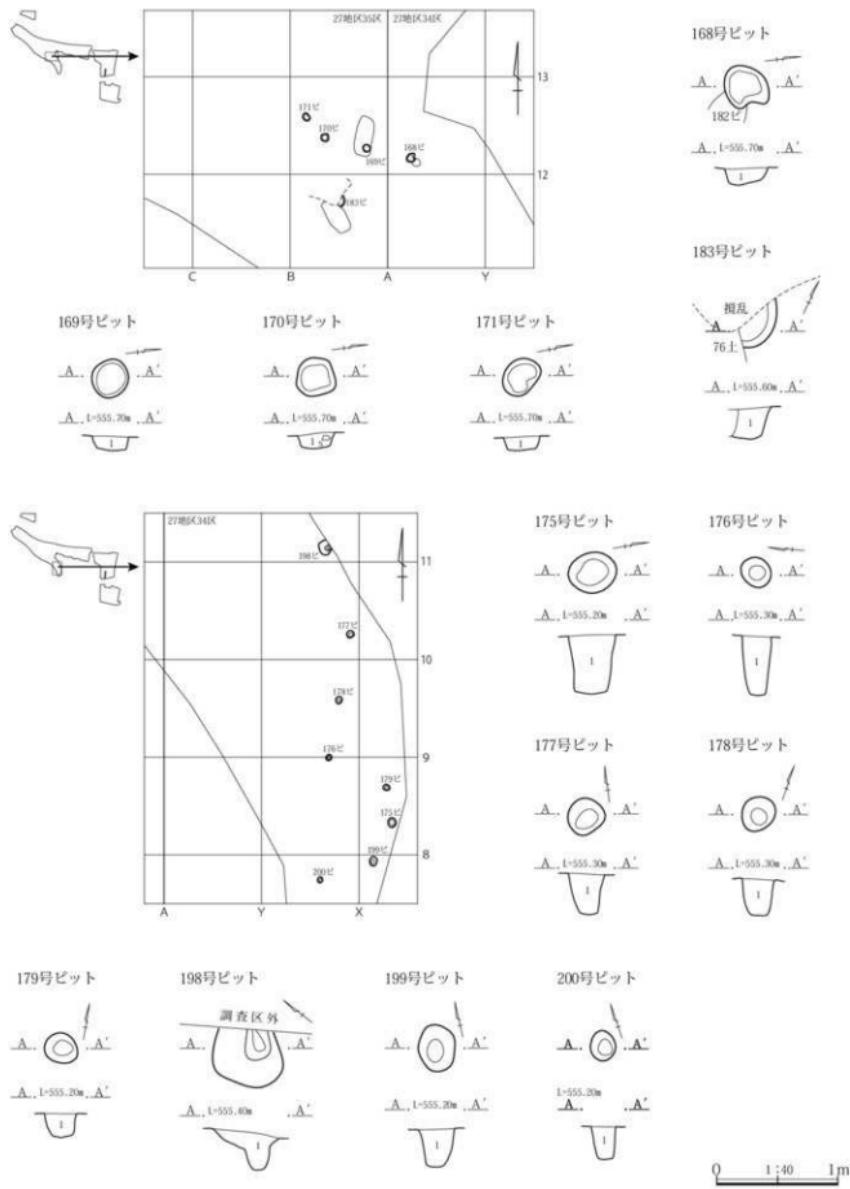


195号ピット



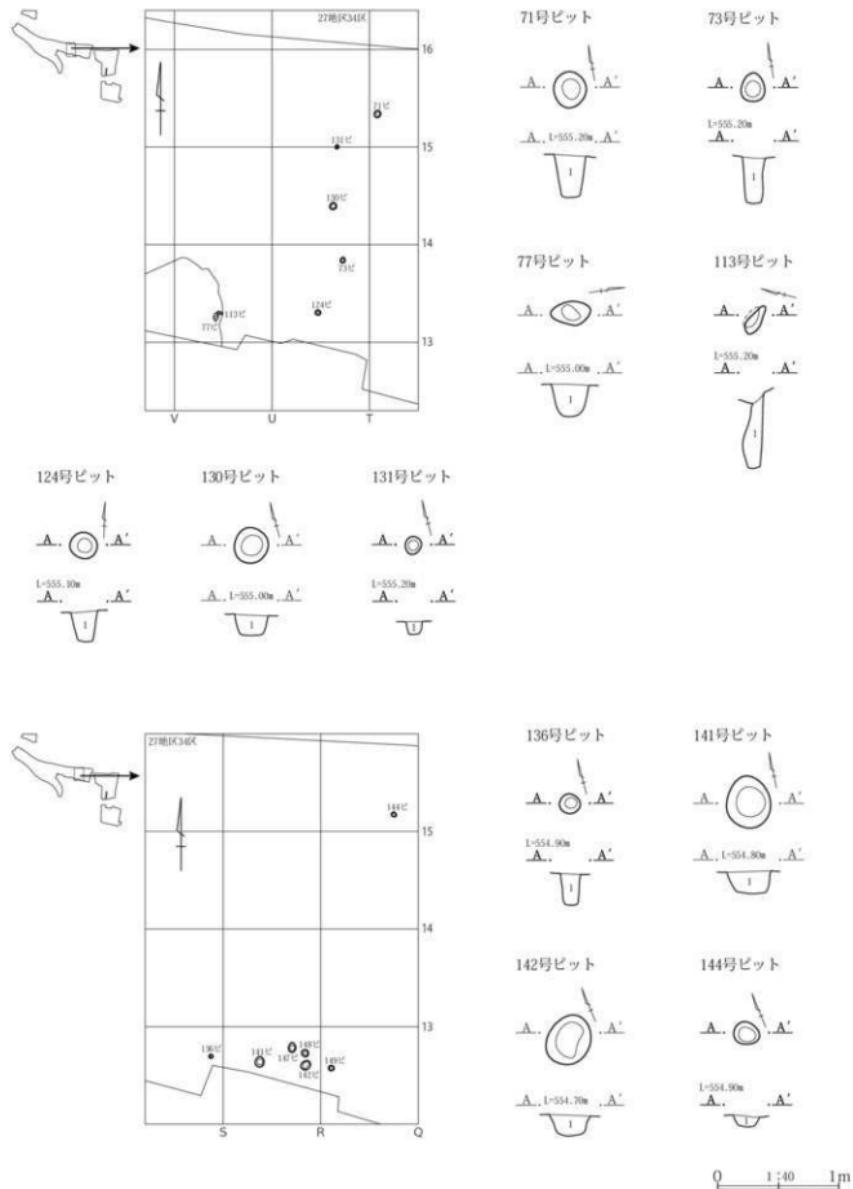
0 1:40 1m

第164図 中近世埋没土のピット7



第165図 中近世埋没土のピット8

第2節 2面および3面の遺構と遺物



第166図 中近世埋没土のピット9

147号ビット



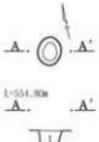
148号ビット



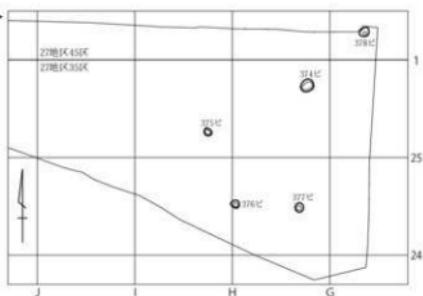
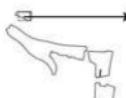
149号ビット



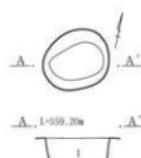
145号ビット



146号ビット



374号ビット



375号ビット



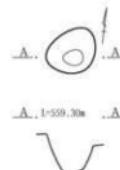
376号ビット



377号ビット



378号ビット



0 1:40 1m

第167図 中近世埋没土のビット10

(2)中世埋没土のビット(第168~179図、PL.50~58,71)

**重複**

76号ビット 2号竪穴建物および5号竪穴建物と重複し、これらに先行する。

78号ビット 2号竪穴建物と重複し、これに先行する。

182号ビット 168号ビットと重複し、これに先行する。

184号ビット 185号ビットと重複し、これに先行する。

185号ビット 184号ビットと重複し、これより新しい。

243号ビット 242号ビット、272号ビット、273号ビットと重複し、いずれにも先行する。

244号ビット 242号ビットと重複し、これに先行する。

260号ビット 95号土坑、102号土坑、295号ビットと重複し、295号ビットより新しく、95号土坑および102号土坑に先行する。

261号ビット 95号土坑と重複し、これに先行する。

264号ビット 263号ビットと重複し、これに先行する。

270号ビット 271号ビットと重複し、これより新しい。

271号ビット 270号ビットと重複し、これに先行する。

273号ビット 100号土坑、242号ビット、243号ビット、272号ビットと重複し、100号土坑および242号ビットと272号ビットに先行し、243号ビットより新しい。

274号ビット 275号ビットと重複し、これに先行する。

275号ビット 274号ビットと重複し、これより新しい。

279号ビット 286号ビットと重複し、これより新しい。

285号ビット 292号ビットと重複し、これより新しい。

286号ビット 279号ビットと重複し、これに先行する。

292号ビット 285号ビットと重複し、これに先行する。

295号ビット 260号ビットと重複し、これに先行する。

326号ビット 327号ビットと重複し、これに先行する。

342号ビット 335号ビットと重複し、これに先行する。

354号ビット 355号ビットと重複し、これより新しい。

355号ビット 354号ビットおよび356号ビットと重複し、354号ビットに先行し、356号ビットより新しい。

356号ビット 355号ビットと重複し、これに先行する。

357号ビット 24号建物2号炉と重複し、これに先行する。

359号ビット 121号土坑と重複し、これより新しい。

362号ビット 24号建物2号炉と重複し、これに先行する。

371号ビット 116号土坑と重複し、これに先行する。

372号ビット 116号土坑と重複し、これに先行する。

**遺物**

90号ビット 図化には至らなかったが、埋没土より須恵器片1片(14g)が出土している。

121号ビット 図化には至らなかったが、埋没土より土師器片1片(37g)が出土している。

126号ビット 埋没土より墨書のある須恵器碗(2)が出土している。

233号ビット 埋没土より繩文時代中期の五領ヶ台式の繩文土器深鉢(7)が出土している。

258号ビット 図化には至らなかったが、埋没土より陶器片が出土している。

306号ビット 埋没土より瀬戸・美濃陶器碗(8)が出土している。

355号ビット 埋没土より寛永通寶(9)が出土している。出土遺物の年代観に基づけば、当該ビットは近世に帰属する可能性が高い。

第62表 中世埋没土ビット計測表1

名前	67号ビット	69号ビット	70号ビット	72号ビット	76号ビット	78号ビット	79号ビット	80号ビット	82号ビット	83号ビット
位置	34区 W-15~16	34区X-15	34区X-14	34区T-14	34区U-13	34区U-13	34区Y-14	34区Y-14	34区X-14	34区X-14
平面形状	偏円形	円形	円形	円形	不明	偏円形	円形	円形	円形	円形
規模	長(m) 0.30	0.25	0.29	0.23	(0.72)	0.29	0.31	0.15	0.28	0.25
	短(m) 0.24	0.22	0.27	0.23	(0.49)	0.23	0.28	0.14	0.26	0.24
	深(m) 0.36	0.33	0.37	0.37	0.19	0.42	0.10	0.11	0.07	0.11
主軸方向(度)	N-2-E	N-39-W	N-39-W	—	N-74-E	N-3-W	N-25-W	N-57-W	N-47-W	N-39-W

第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

第63表 中世埋没土ピット計測表2

名稱	84号ピット	87号ピット	89号ピット	90号ピット	91号ピット	101号ピット	103号ピット	104号ピット	105号ピット	106号ピット
位置	34区X-14	34区X-15	34区X-15	34区X-16	34区X-16	34区X-14	34区 V～W-14	34区X-14	34区W-14	34区X-16
平面形状	偏円形	偏円形	偏円形	偏丸形	偏円形	長円形	長円形	偏円形	偏円形	偏円形
規模 長(m)	0.20	0.23	0.24	0.29	0.32	0.25	0.26	0.30	0.22	0.29
短(m)	0.18	0.19	0.21	0.23	0.27	0.21	0.18	0.27	0.20	0.25
深(m)	0.08	0.09	0.20	0.27	0.38	0.27	0.22	0.24	0.33	0.19
上軸方向(度)	N-44-W	N-85-W	N-12-E	N-62-W	N-76-E	N-84-E	N-1-W	N-46-W	N-77-E	N-42-W

第64表 中世埋没土ピット計測表3

名稱	107号ピット	108号ピット	109号ピット	110号ピット	111号ピット	114号ピット	115号ピット	116号ピット	117号ピット	118号ピット
位置	34区V-16	34区V-15	34区X-15	34区 X-15～16	34区 X-15～16	34区V-13	34区V-14	34区V-13	34区U-15	34区U-15
平面形状	偏円形	偏円形	偏円形	偏円形	偏円形	長円形	長円形	長円形	偏円形	偏円形
規模 長(m)	0.32	0.43	0.25	0.20	0.25	0.39	0.39	0.33	0.36	0.38
短(m)	0.28	0.34	0.23	0.18	0.23	0.31	0.32	0.22	0.33	0.32
深(m)	0.26	0.39	0.43	0.29	0.32	0.24	0.19	0.16	0.19	0.17
上軸方向(度)	N-76-W	N-68-E	N-73-W	N-52-W	N-12-E	N-9-E	N-8-E	N-1-E	N-20-E	N-26-E

第65表 中世埋没土ピット計測表4

名稱	119号ピット	120号ピット	121号ピット	122号ピット	123号ピット	125号ピット	126号ピット	127号ピット	128号ピット	129号ピット
位置	34区U-16	34区U-15	34区U-15	34区 U-15～16	34区 U-15～16	34区S-13	34区T-13	34区T-13	34区T-13	34区T-14
平面形状	円形	偏円形	円形	偏円形	円形	偏円形	円形	偏円形	円形	円形
規模 長(m)	0.31	0.25	0.18	0.36	0.14	0.28	0.23	0.23	0.22	0.25
短(m)	0.30	0.23	0.16	0.34	0.13	0.25	0.21	0.20	0.21	0.23
深(m)	0.19	0.11	0.11	0.15	0.15	0.13	0.47	0.21	0.25	0.15
上軸方向(度)	N-8-W	N-24-E	N-17-E	N-18-E	N-27-W	N-10-E	N-39-E	N-31-W	N-50-W	N-20-W

第66表 中世埋没土ピット計測表5

名稱	132号ピット	133号ピット	134号ピット	135号ピット	137号ピット	138号ピット	139号ピット	140号ピット	143号ピット	150号ピット
位置	34区 S-T-14	34区S-14	34区S-14	34区S-14	34区R-14	34区Q-14	34区Q-14	34区Q-13	34区R-13	34区P-13
平面形状	円形	偏円形	偏円形	円形	円形	偏円形	円形	円形	円形	偏円形
規模 長(m)	0.20	0.29	0.21	0.14	0.17	0.20	0.17	0.31	0.19	0.41
短(m)	0.18	0.26	0.18	0.12	0.16	0.16	0.16	0.30	0.19	0.39
深(m)	0.21	0.21	0.14	0.17	0.07	0.07	0.11	0.31	0.22	0.19
上軸方向(度)	N-50-W	N-20-W	N-4-W	N-48-W	N-49-W	N-60-E	N-19-W	N-16-E	—	N-35-W

第67表 中世埋没土ピット計測表6

名稱	151号ピット	152号ピット	153号ピット	154号ピット	155号ピット	156号ピット	157号ピット	158号ピット	159号ピット	180号ピット
位置	34区P-13	34区O-13	34区O-13	34区O-14	34区Q-12	34区P-13	34区 O-P-13	34区P-12	34区O-12	34区Y-13
平面形状	偏円形	長円形	長円形	偏円形	円形	偏円形	円形	円形	偏円形	不整形
規模 長(m)	0.31	0.42	0.51	0.45	0.28	0.27	0.24	0.21	0.51	0.38
短(m)	0.27	0.37	0.39	0.43	0.27	0.26	0.23	0.20	0.36	0.26
深(m)	0.16	0.19	0.18	0.23	0.19	0.13	0.13	0.13	0.29	0.33
上軸方向(度)	N-82-W	N-11-E	N-62-W	N-14-W	N-6-E	N-56-W	N-52-W	N-6-W	N-43-E	N-28-W

第68表 中世埋没土ピット計測表7

名稱	181号ピット	182号ピット	184号ピット	185号ピット	186号ピット	187号ピット	189号ピット	190号ピット	191号ピット	197号ピット
位置	34区Y-13	34区Y-12	35区A-11	35区A-11	35区A-13	35区A-12	35区 A-B-15	35区B-15	35区B-16	35区B-16
平面形状	偏円形	偏円形	偏円形	偏円形	偏円形	長円形	偏丸形	偏円形	円形	円形
規模 長(m)	0.23	(0.34)	0.48	0.46	0.47	0.32	0.48	0.33	0.46	0.46
短(m)	0.19	0.32	(0.39)	0.39	0.36	0.25	0.33	0.31	0.45	0.42
深(m)	0.15	0.21	0.43	0.31	0.48	0.18	0.19	0.15	0.37	0.27
上軸方向(度)	N-48-E	N-48-W	N-15-W	N-46-W	N-69-E	N-40-E	N-59-E	N-12-E	N-15-W	N-51-W

第69表 中世埋没土ピット計測表8

名前	203号ピット	204号ピット	205号ピット	206号ピット	207号ピット	209号ピット	215号ピット	216号ピット	219号ピット	220号ピット	
位置	35区C-11	35区D-14	35区C-12~13	35区C-D-16~17	35区C-17	35区D-15	35区E-12	35区F-13	35区E-13	35区E-14	
平面形状	偏円形	偏円形	偏円形	円形	偏円形	偏円形	偏円形	長円形	円形	偏円形	
規模	長(m)	0.67	0.29	0.20	0.32	0.37	0.37	0.28	0.62	0.32	0.54
	短(m)	0.55	0.28	0.18	0.32	0.33	0.35	0.28	0.48	0.31	0.35
	深(m)	0.47	0.33	0.23	0.31	0.32	0.25	0.31	0.53	0.17	0.28
主軸方向(度)	N-53-E	N-66-W	N-68-W	—	N-45-W	N-11-W	—	N-65-W	N-54-W	N-24-E	

第70表 中世埋没土ピット計測表9

名前	228号ピット	229号ピット	232号ピット	233号ピット	239号ピット	240号ピット	243号ピット	244号ピット	245号ピット	246号ピット	
位置	35区E-17	35区E-17	35区E-17	35区E-17	35区F-17	35区F-16	35区G-17	35区G-17	35区F-18	35区G-17	
平面形状	不整形	偏円形	圓丸方形	偏円形	偏円形	偏円形	偏円形	不明	不明	圓丸方形	偏円形
規模	長(m)	0.31	0.45	0.34	0.40	0.65	0.34	(0.32)	0.25	0.52	0.27
	短(m)	0.23	0.38	0.27	0.37	0.55	0.26	(0.21)	(0.23)	0.41	0.22
	深(m)	0.29	0.24	0.27	0.25	0.39	0.63	0.22	0.30	0.40	0.25
主軸方向(度)	N-64-W	N-39-E	N-51-E	N-31-E	N-83-E	N-45-W	N-69-W	N-56-W	N-39-E	N-62-W	

第71表 中世埋没土ピット計測表10

名前	252号ピット	256号ピット	257号ピット	258号ピット	260号ピット	261号ピット	262号ピット	264号ピット	267号ピット	268号ピット	
位置	35区H-16	35区H-16	35区H-16	35区H-16	35区F-17	35区F-17	35区G-17	35区G-17	35区G-H	35区H-17	
平面形状	偏円形	長円形	偏円形	偏円形	不整形	偏円形	偏円形	長円形	不整形	偏円形	円形
規模	長(m)	0.31	0.35	0.37	0.27	0.46	0.39	0.58	0.51	0.33	0.34
	短(m)	0.26	0.24	0.37	0.27	0.44	0.33	0.37	(0.32)	0.29	0.32
	深(m)	0.21	0.46	0.37	0.74	0.37	0.36	0.23	0.65	0.39	0.25
主軸方向(度)	N-77-W	N-36-E	—	—	N-8-W	N-63-W	N-52-W	N-61-W	N-69-W	N-7-E	

第72表 中世埋没土ピット計測表11

名前	269号ピット	270号ピット	271号ピット	272号ピット	273号ピット	274号ピット	275号ピット	277号ピット	279号ピット	280号ピット	
位置	35区G-17	35区H-17	35区H-18	35区G-17	35区G-17	35区G-18	35区G-18	35区G-18	35区H-18	35区H-18	
平面形状	圓丸方形	長円形	不明	圓丸台形	不明	不明	長円形	長円形	不整形	偏円形	
規模	長(m)	0.31	0.55	0.33	0.43	0.47	0.49	0.39	0.39	0.51	0.40
	短(m)	0.30	0.40	(0.23)	0.37	(0.29)	(0.37)	0.31	0.32	0.45	0.36
	深(m)	0.33	0.37	0.27	0.48	0.31	0.24	0.29	0.16	0.19	0.26
主軸方向(度)	N-24-W	N-3-W	N-78-E	N-48-W	N-52-W	N-83-E	N-85-W	N-16-E	N-32-E	N-11-E	

第73表 中世埋没土ピット計測表12

名前	281号ピット	285号ピット	286号ピット	288号ピット	292号ピット	295号ピット	296号ピット	297号ピット	301号ピット	303号ピット	
位置	35区G-18	35区H-16	35区H-18	35区K-18	35区H-16	35区F-17	35区I-18	35区I-19	35区I-20	35区J-18	
平面形状	偏円形	圓丸方形	長円形	長円形	圓丸方形	圓丸三角形	円形	円形	偏円形	不整形	
規模	長(m)	0.37	0.36	0.50	0.34	(0.30)	0.49	0.49	0.27	0.45	0.64
	短(m)	0.27	0.34	(0.38)	0.25	0.28	0.40	0.45	0.27	0.39	0.50
	深(m)	0.19	0.40	0.25	0.14	0.30	0.58	0.59	0.32	0.23	0.58
主軸方向(度)	N-84-W	N-48-W	N-42-E	N-10-E	N-39-E	N-83-W	N-39-E	—	N-2-W	N-7-W	

第74表 中世埋没土ピット計測表13

名前	306号ピット	307号ピット	312号ピット	319号ピット	320号ピット	322号ピット	323号ピット	324号ピット	325号ピット	326号ピット	
位置	35区K-18	35区J-20	35区K-21	35区J-20	35区K-20	35区K-21	35区K-21	35区L-20	35区J-20	35区L-20	
平面形状	圓丸方形	圓丸方形	偏円形	円形	圓丸長方形	偏円形	長円形	不整形	不整形	不整形	
規模	長(m)	0.63	0.63	0.54	0.49	0.45	0.38	0.50	0.56	0.53	0.95
	短(m)	0.49	0.60	0.45	0.45	0.36	0.29	0.40	0.44	0.35	0.69
	深(m)	0.50	0.30	0.44	0.39	0.51	0.26	0.19	0.25	0.29	0.40
主軸方向(度)	N-75-W	N-30-W	N-67-E	N-31-W	N-46-W	N-76-W	N-3-S	N-33-E	N-6-W	N-79-W	

### 第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

第75表 中世埋没土ピット計測表14

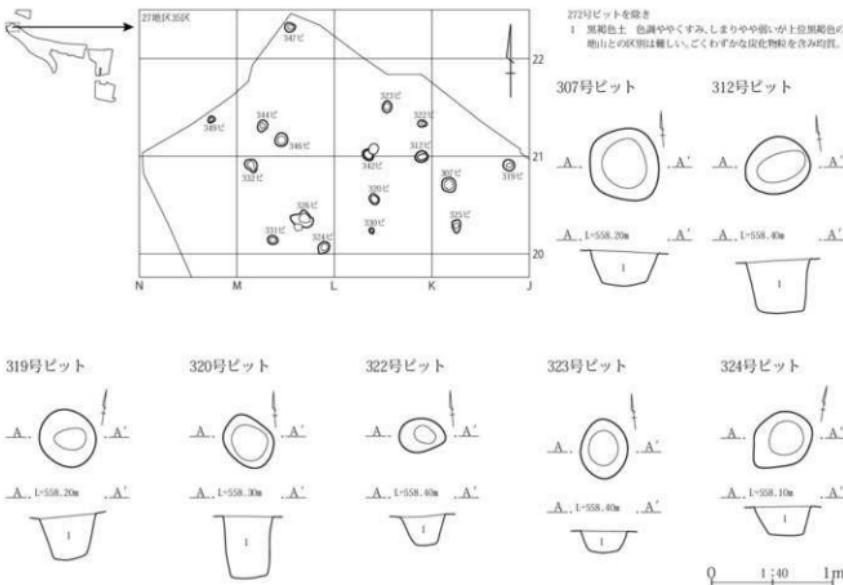
名稱	328号ピット	329号ピット	330号ピット	331号ピット	332号ピット	342号ピット	344号ピット	346号ピット	347号ピット	349号ピット
位置	35[K L-19]	35[K L-19]	35[K K-20]	35[K L-20]	35[K L-20]	35[K K-20-21]	35[K L-21]	35[K L-21]	35[K L-22]	35[K M-21]
平面形状	長円形	不整形	偏円形	円形	不整形	不明	偏円形	偏円形	偏円形	不整形
規模	長(m)	0.41	0.44	0.26	0.43	0.56	0.50	0.49	0.56	0.44
	短(m)	0.39	0.37	0.20	0.37	0.47	(0.36)	0.40	0.53	0.39
	深(m)	0.37	0.37	0.27	0.36	0.32	0.49	0.45	0.51	0.45
上軸方向(度)	N-20-W	N-76-W	N-19-W	N-69-W	N-22-W	N-47-W	N-28-E	N-6-W	N-83-E	N-40-E

第76表 中世埋没土ピット計測表15

名稱	353号ピット	354号ピット	355号ピット	356号ピット	357号ピット	358号ピット	359号ピット	360号ピット	361号ピット	362号ピット
位置	35[K G-H-24]	35[K H-25	35[K H-25	35[K H-25	35[K H-25	35[K I-24	35[K G-25	35[K G-25	35[K G-24	35[K H-25
平面形状	偏円形	不整形	長円形	偏円形	偏円形	長円形	偏円形	橢円形	偏円形	長円形
規模	長(m)	0.66	0.99	0.83	0.87	0.66	0.74	0.38	0.37	0.58
	短(m)	0.55	0.78	(0.57)	0.69	0.55	0.38	0.32	0.33	0.31
	深(m)	0.74	0.64	0.68	0.75	0.45	0.53	0.61	0.27	0.35
上軸方向(度)	N-89-E	N-17-W	N-19-W	N-46-W	N-61-E	N-20-E	N-10-E	N-54-W	N-75-E	N-82-E

第77表 中世埋没土ピット計測表16

名稱	371号ピット	372号ピット	373号ピット	
位置	35[K H-24	35[K H-24	35[K F-G-25	
平面形状	不明	不明	円形	
規模	長(m)	(0.38)	0.26	0.61
	短(m)	0.36	(0.19)	0.58
	深(m)	0.69	0.30	0.48
上軸方向(度)	N-40-E	N-46-W	N-37-W	



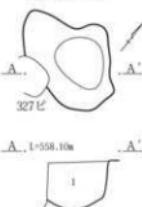
第168図 中世埋没土のピット1

第2節 2面および3面の遺構と遺物

325号ピット



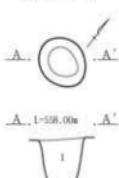
326号ピット



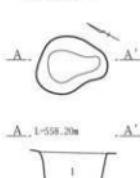
330号ピット



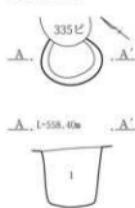
331号ピット



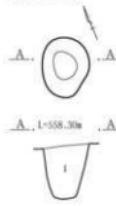
332号ピット



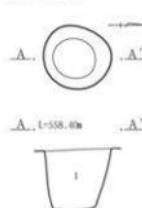
342号ピット



344号ピット



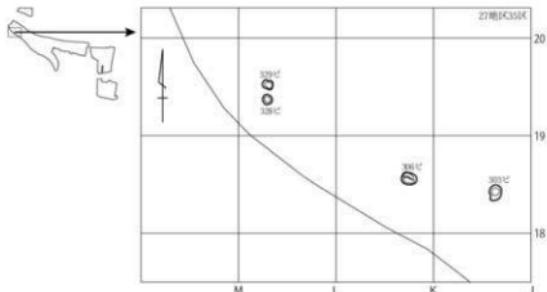
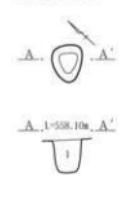
346号ピット



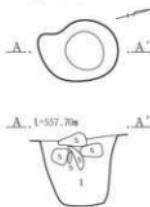
347号ピット



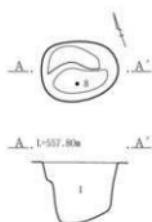
349号ピット



303号ピット



306号ピット



328号ピット

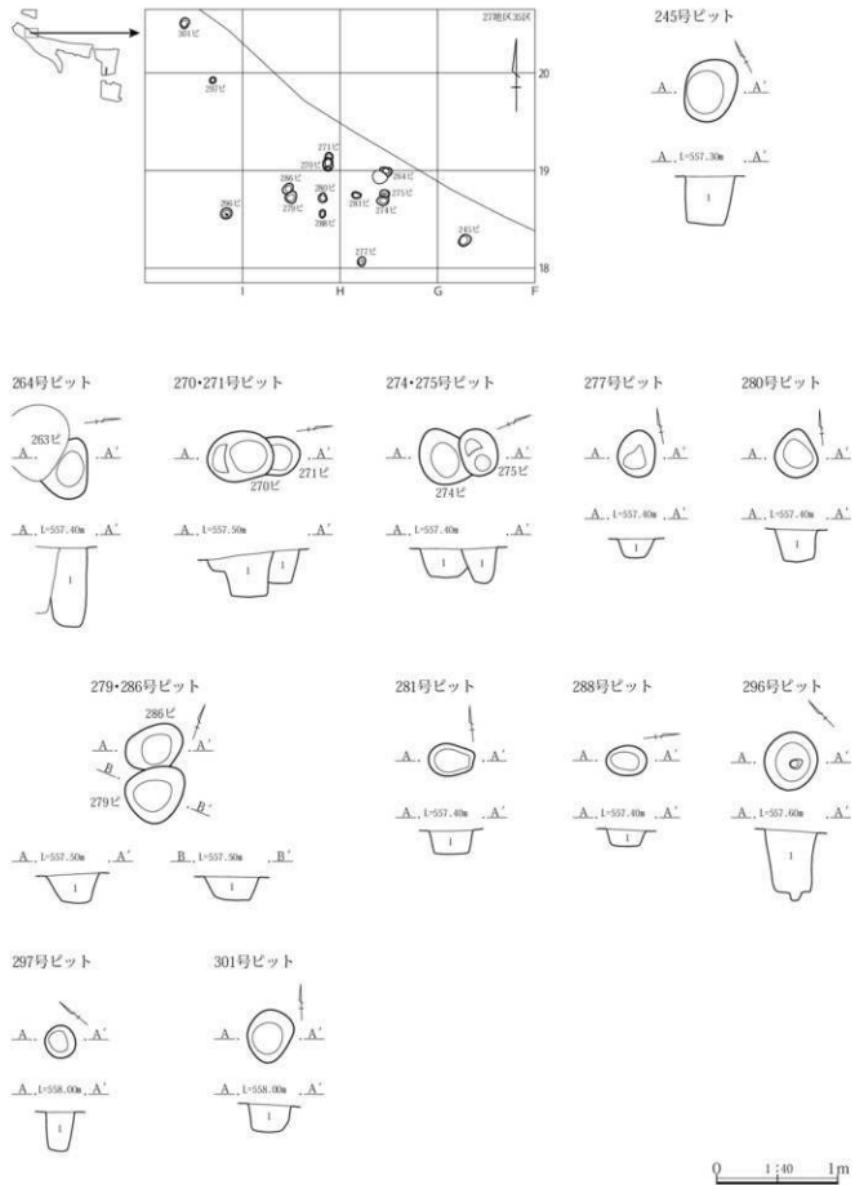


329号ピット



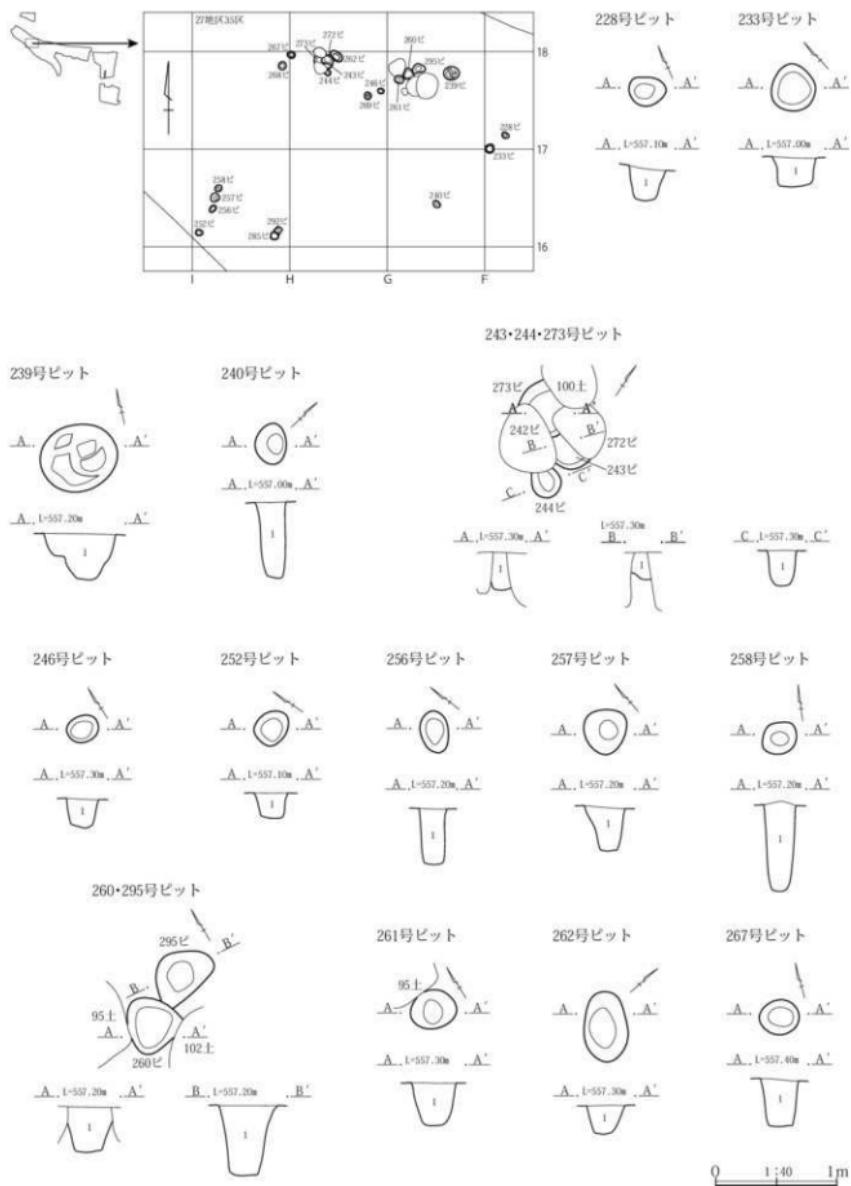
0 1:40 1m

第169図 中世埋没土のピット2

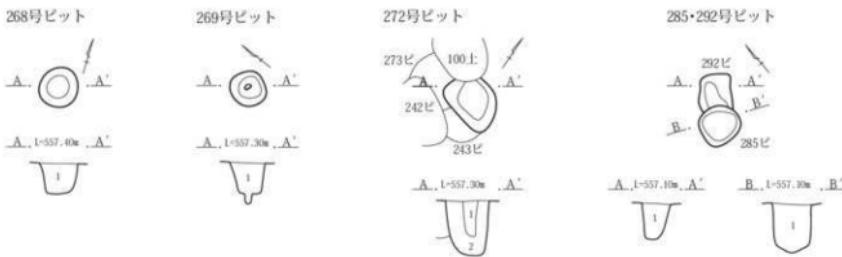


第170図 中世埋没土のピット3

第2節 2面および3面の遺構と遺物

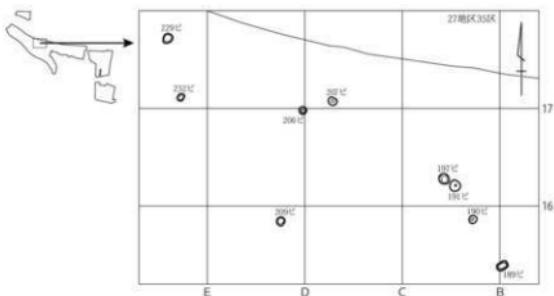


第171図 中世埋没土のピット4

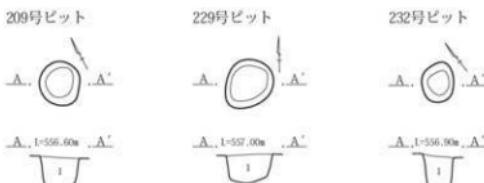
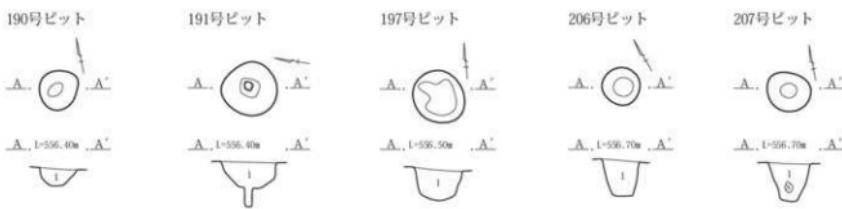


272号ビット

- 1 蘭色土(7.5YR4/3)より、粘性あまりなし。
- 2 黒褐色土 色調ややくすみ、しまりやや弱いが上位黒褐色の地山との差別は確しい、ごくわずかな炭化物を含み均質。

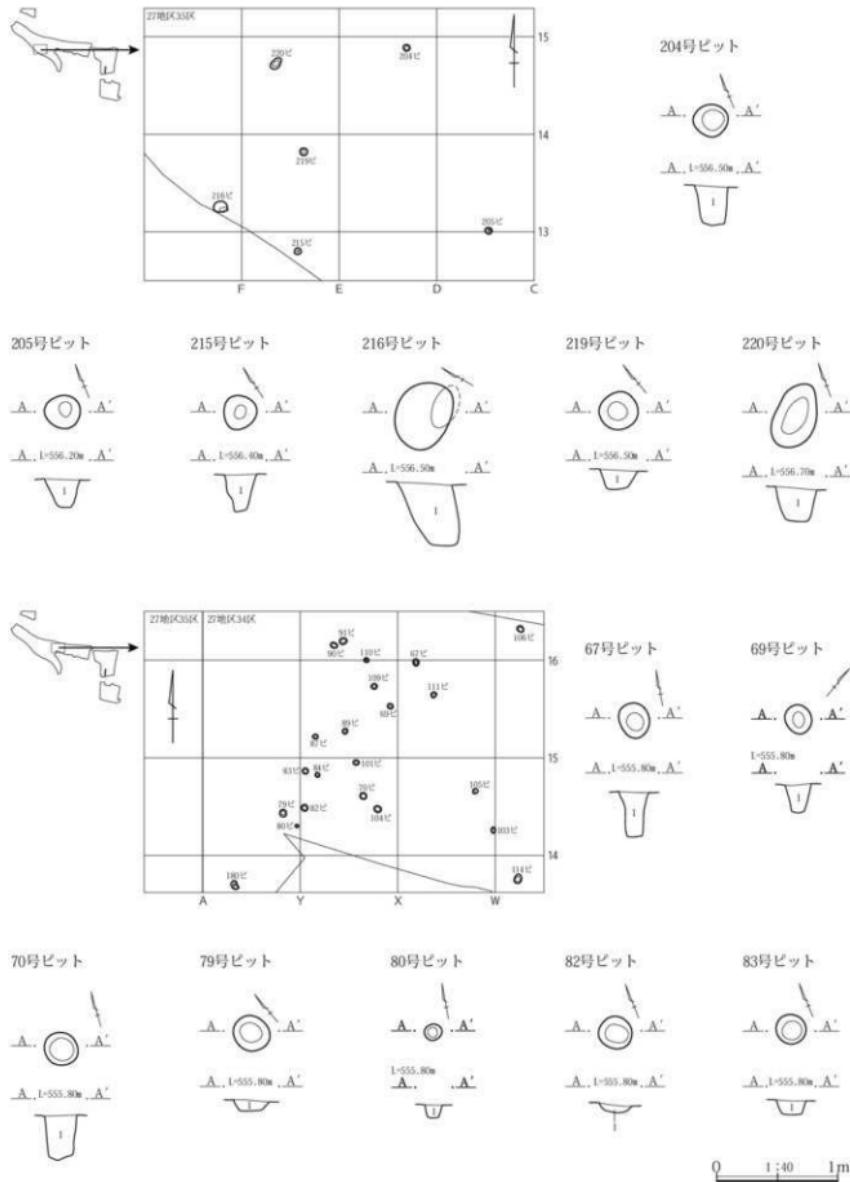


189号ビット

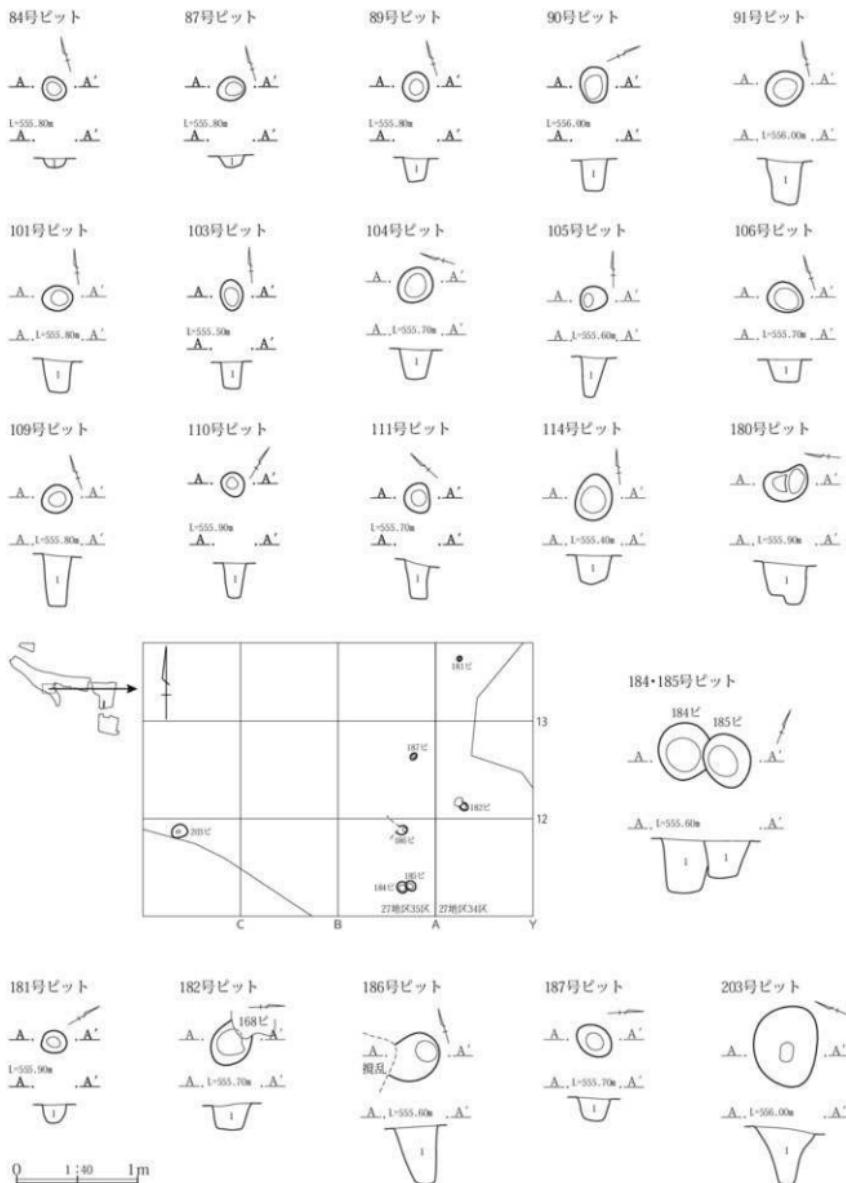


0 1:40 1m

第172図 中世埋没土のビット5

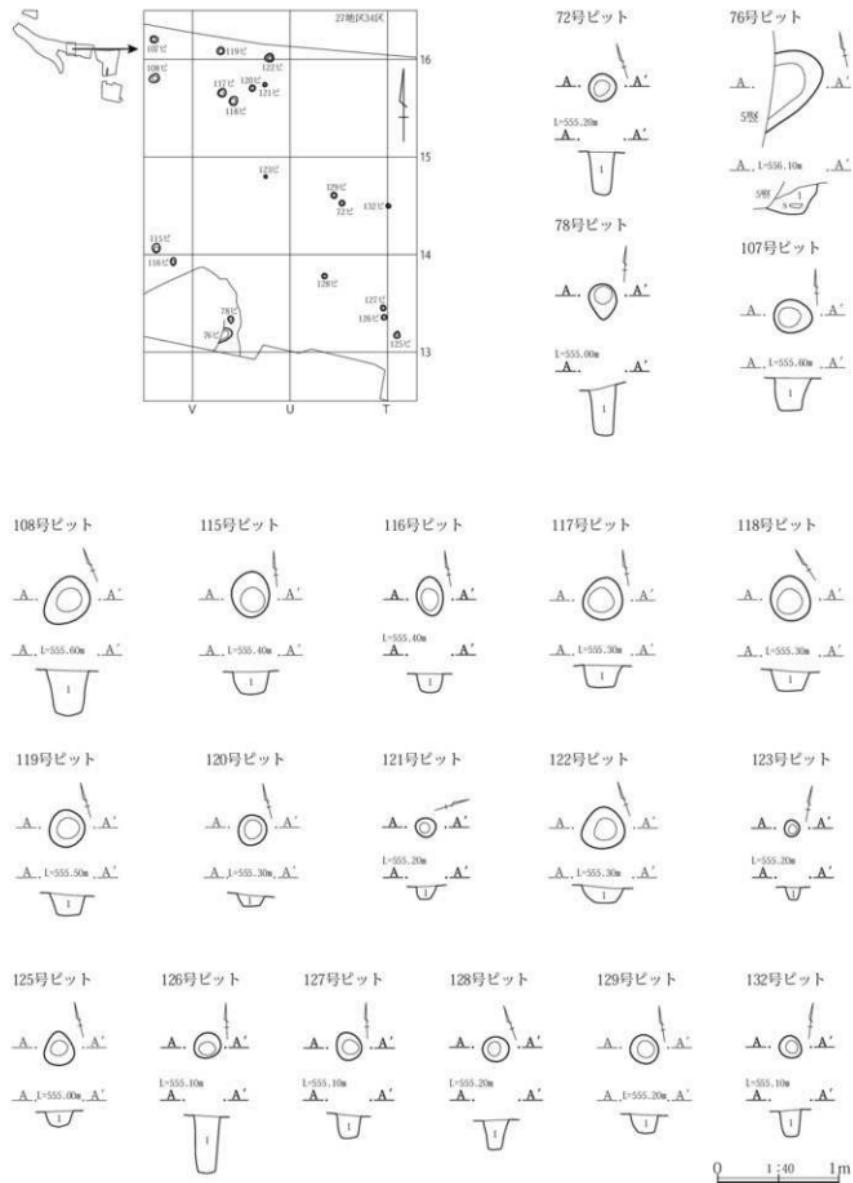


第173図 中世埋没土のピット6

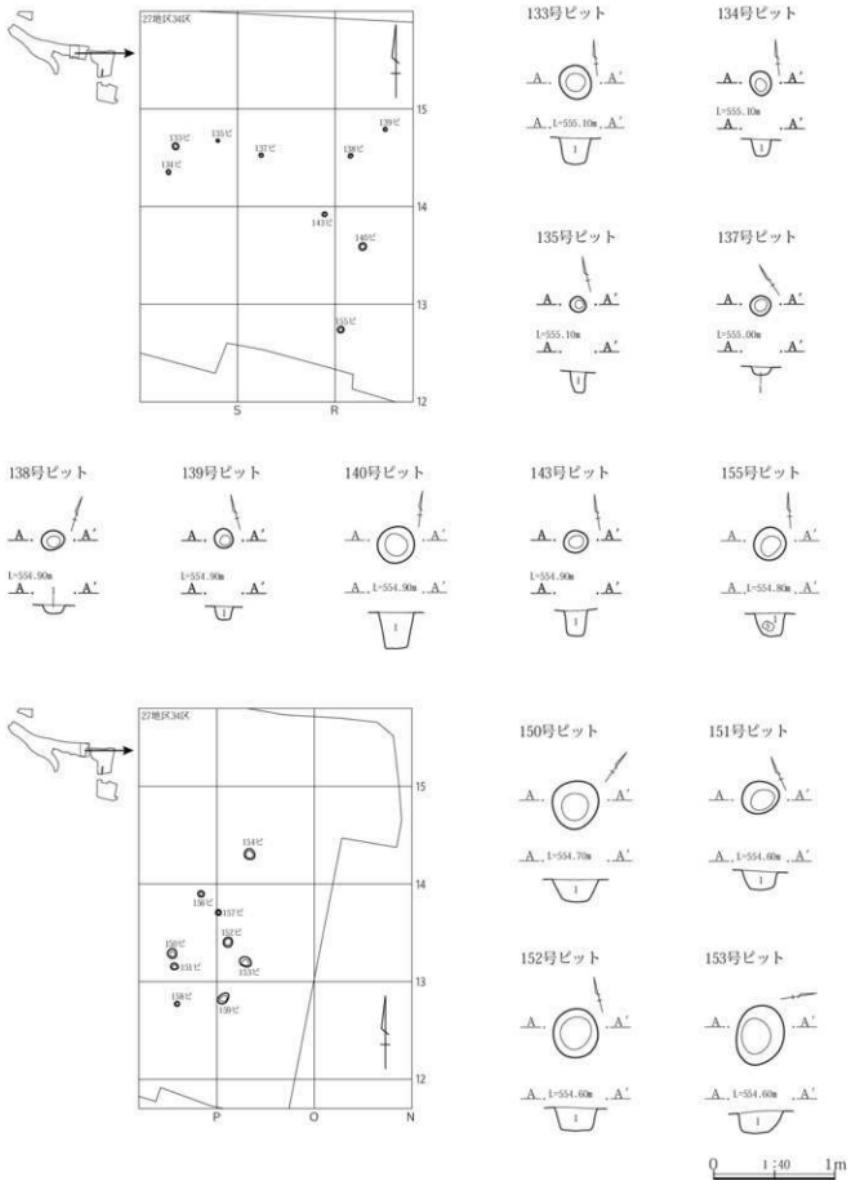


第174図 中世埋没土のピット7

## 第2節 2面および3面の遺構と遺物

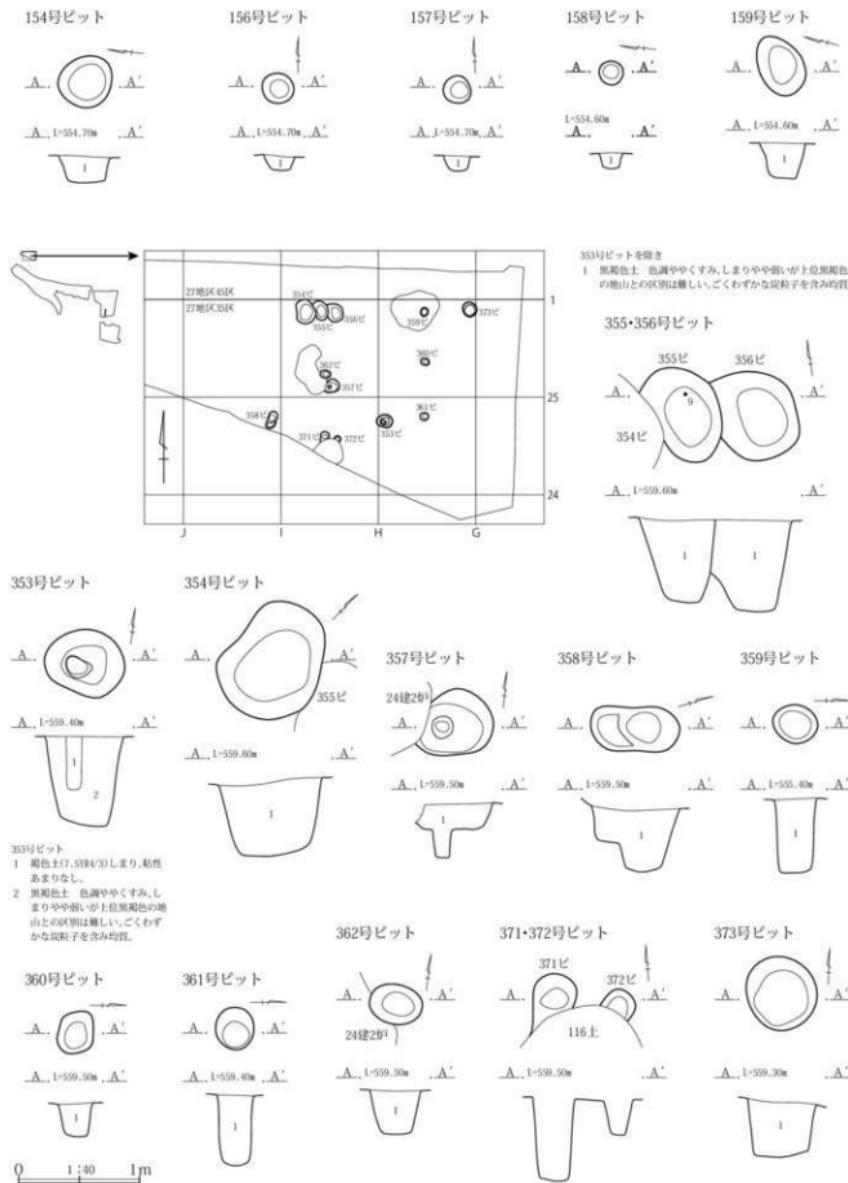


第175図 中世埋没土のピット8



第176図 中世埋没土のピット9

## 第2節 2面および3面の遺構と遺物



第177図 中世埋没土のピット10

## (3) その他のピット

66号ピットと162号ピットの埋没土は、前述した中近世埋没土とされるものや、中世埋没土とされるものとは異なるのでここに記載した。

## a 66号ピット(第178図、PL.58)

位置 34区X-16グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 円形を呈する。

規模 0.47×0.46m。深さ0.45m。

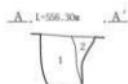
主軸方向(度) N~43~W

埋没土 5mmほどの白色粒を含む褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位から近世に比定される。

備考 調査所見によれば、遺構確認面は1.5面。

## 66号ピット



1 褐色土(7.5H3/4)しまりややあり、粘性あまりなし。  
5mmほどの白色の粒を含む。

2 黒褐色土(10H2/3)しまり、粘性ややあり、地山幽済  
ブロック。

## b 162号ピット(第178図、PL.58)

位置 35区A-13グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 0.62×0.49m。深さ0.36m。

主軸方向(度) N~40~E

埋没土 ロームを含む暗褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位および埋没土から中世以前に比定される。

## 162号ピット

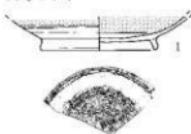


1 褐褐色土(7.5H3/2)しまり、粘性ややあり、ロームブロックを含み。  
炭化物を多く含む。

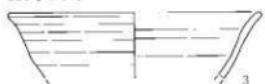
2 褐褐色土(7.5H3/3)しまり、粘性ややあり、ロームをわずかに含む。

0 1:40 1m

## 74号ピット



## 224号ピット



## 293号ピット



## 126号ピット



## 235号ピット



0 1:3 10cm

第178図 その他のピット、ピット出土遺物1

## 第7項 その他

本調査区の2面および3面からは、溝1条、ヤックラ1か所、竪穴状遺構1基、焼土遺構4か所が検出されている。なお、当該の溝は第3章1節5項で触れたが、天明期においては溝としての機能は失われ、ヤックラとして機能していた4号溝である。

## 1 4号溝(第180図、PL.58)

位置 33区L～N-7～11グリッド、調査区中部に位置する。

形状等 谷底に開けた緩斜面がおわり、斜度がきつくなる境に存在する。溝幅は上流側が広く、下流側が狭い。

規模 (16.5)m、深さ0.4m。確認された比高は0.3m。  
走行方向(度) N-23-E

埋設土 3cm大の礫と3mm大の砂を含む極暗褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位から近世以前に比定される。

## 2 7号ヤックラ(第180図、PL.58)

位置 32区W-7～10グリッド、調査区東部に位置する。

形状等 遺構北端は調査区外につづくため全長は不明。

規模 (15.14)×0.49～0.89m。深さ0.51m(中央部)。

主軸方向(度) N-7-E

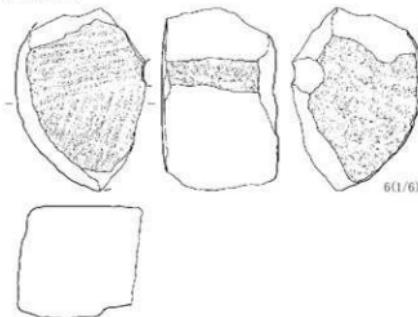
埋設土 充填された礫の上面を炭化物粒をわずかに含む不均質な黒褐色土が覆う。なお、遺構面は砂質味のある黒褐色土に覆われる。

重複 122号土坑。

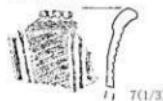
所見 本遺構の年代は、出土層位から近世以前に比定される。122号土坑より新しい。

備考 調査所見によれば、地境とされる。調査記録では1面の遺構とされるが、確認されたAs-Hと遺構面との間に黒褐色土層が1枚存在するため、1面の遺構から外した。

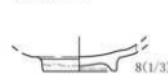
311号ピット



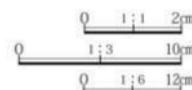
233号ピット



306号ピット



355号ピット



第179図 ピット出土遺物 2

### 第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

#### 3 2号竪穴状遺構(第181図、PL.59)

位置 34区S-12~13グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

規模 2.72×1.69m。深さ0.35m。

主軸方向(度) N-77-W

埋没土 炭化物粒とロームを含む黒褐色土に覆われる。

重複 51号土坑。

遺物 図面には至らなかったが、埋没土より縄文土器の破片1片が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土層位および埋没土から中世をさかのぼると推測される。51号土坑より新しい。

#### 4 焼土遺構

##### (1) 13号焼土遺構(第181図、PL.59)

位置 34区T-13グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 不整形な掘り込みに焼土ブロックを含む埋没土が堆積する。

規模 1.35×1.13m。深さ0.45m。

主軸方向(度) N-5-E

埋没土 焼土粒をわずかに含む黒褐色土の上を、5cm大の焼土ブロックを含む褐色土が覆う。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世に比定される。

備考 本遺構は、周辺から確認された遺構よりも30cm程度上位の面から検出されている。

##### (2) 14号焼土遺構(第181図、PL.59)

位置 34区V-14グリッド、調査区西部に位置する。

形状等 埋め戻された不整形な掘り込みの西側が焼土化している。

規模 0.86×0.72m。深さ0.36m。

主軸方向(度) N-45-E

埋没土 ロームブロックを含む黒褐色土。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中世以前に比定される。

##### (3) 15号焼土遺構(第181図、PL.59)

位置 33区W-X-18グリッド、調査区中部北辺に位置する。

形状等 不定形な焼土4か所が隣接する。

規模 2.42×0.93m

主軸方向(度) N-75-W

埋没土 不明。

所見 本遺構の年代は、出土層位から中近世に比定される。

備考 調査時の所見は1.5面。

#### (4) 16号焼土遺構(第181図、PL.59)

位置 35区K-21グリッド、調査区西端に位置する。

形状等 偏円形。焼土の東西両側に位置する平石は、遺構の中心部に向け傾斜し、その谷間に焼土が位置する。

規模 0.40×0.25m

主軸方向(度) N-6-E

埋没土 焼土の下位には砂質味強く、5~10mmの大い小礫を含む明褐色土と灰質の褐灰色土が存在する。

所見 本遺構の年代は、出土層位から近世以前に比定される。石組みの炉と推測される。

#### 5 遺構外出土の遺物

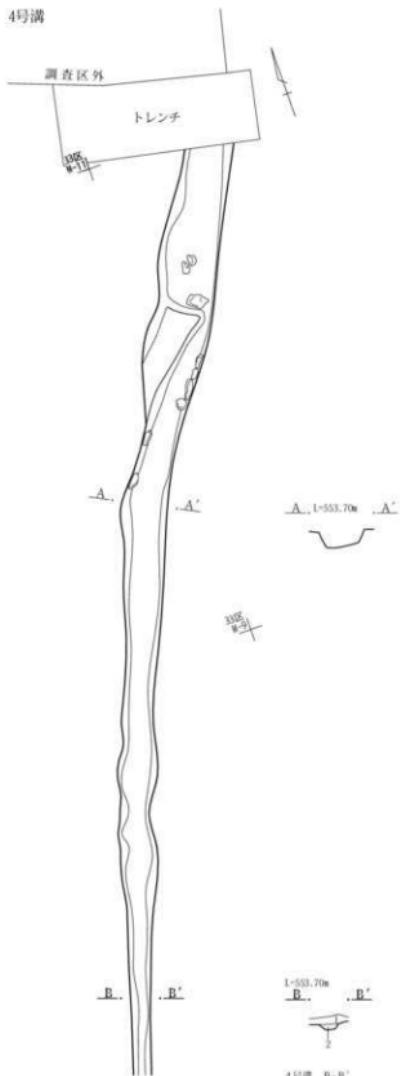
図示した遺物のうち、須恵器碗(3)は112号土坑の南、須恵器小型甕(4)と土師器甕(6)は112号土坑の西、いずれも遺構確認面から0.1m浮いた地点から出土している。また須恵器長頸壺(5)は12号竪穴建物の、遺構確認面から0.1m浮いた地点から出土している。なお、これら4点はみな調査区東部の半径4m内の至近距離から出土している。

調査区2面からは、縄文時代前期から中期にかけての縄文土器の破片が出土している。このうち、諸磯b式の深鉢(10)と晴ヶ峰式の深鉢(11)および縄文前期末葉の深鉢(14,16)の4点は、調査区中部のA1建物群周辺の2面確認面から出土している。また2面からは、小片ではあるが弥生時代中期の土器片2点が出土している。

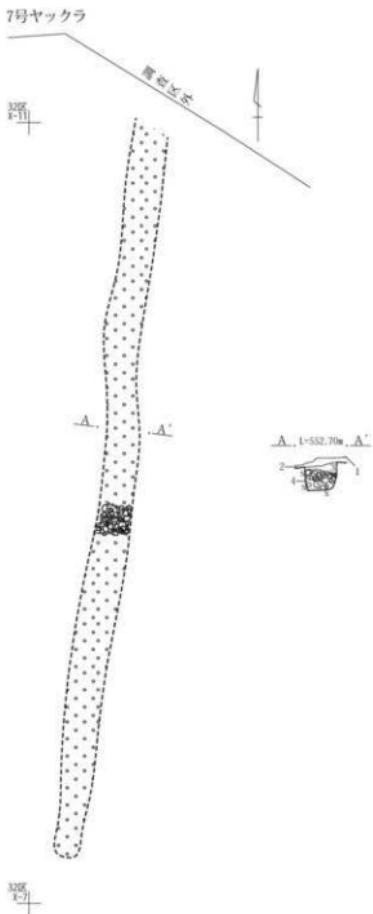
このほかに、3号竪穴建物の埋没土からは変質安山岩製の打製石斧(51.3g)が出土している。

(第182,183図、PL.71)

4号溝



7号ヤックラ



7号ヤックラ A-A'

- 1 A斜石上部にわずかに確認
- 2 黒褐色土(10R3/2)しまり、粘性ややあり、砂質域ややあり。
- 3 黑褐色土(10R3/2)しまり、粘性ややあり、炭化物粒をわずかに含み不均質。
- 4 磚壁 5~20cmの大変角錐を主体に、不規な礫が充填される。

4号溝 B-B'

- 1 暗褐色土(7.5R3/3)しまり、粘性ややあり。3mm大の風化岩片をごくわずか含む。
- 2 暗褐色土(7.5R2/3)しまり、粘性ややあり。4号溝の埋没土と考へられる。3mm大の礫、3mm大の砂を含む。

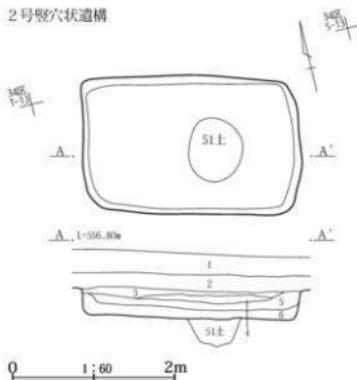
0 1:80 2m

0 1:100 4m

第180図 4号溝、7号ヤックラ

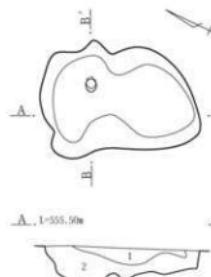
### 第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

2号竪穴状遺構



- 1 黄褐色土(7.SYR4/3)しまりあまりなし、粘性なし。近世の耕作土。1m大の軽石を大量に含む。
- 2 黒褐色土(7.SYR3/2)しまりやあり、粘性なし。5mm大の軽石を多量含む。
- 3 黑褐色土(7.SYR3/2)しまりややあり、粘性あまりなし。2層と比較すると粘性が少し増す。
- 4 黑褐色土(7.SYR2/2)しまりややあり、粘性あまりなし。As-系を含み、凸凹に堆積している。
- 5 黑褐色土(7.SYR2/2)しまり、粘性ややあり、炭を少量含む。2号竪穴状遺構の通り込みがみられる。
- 6 黑褐色土(7.SYR2/2)しまりややあり、粘性あまりなし、炭化物類とロームを少量含む。

13号焼土



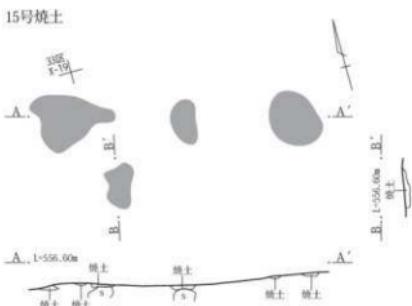
- 1 黄褐色土(7.SYR4/3)しまりややあり、粘性あまりなし。5cm大の焼きしまった褐色(SYR7/6)の焼土ブロックを1:1に含む。
- 2 黑褐色土(7.SYR3/2)しまりややあり、粘性あまりなし。1層より色調やや暗く焼土粒をわずかに含む。

14号焼土

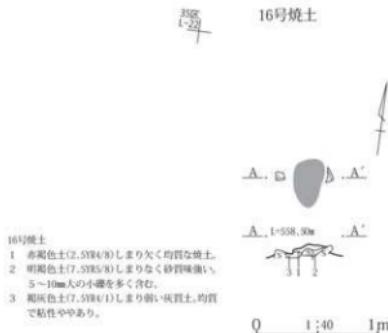


- 1 黑褐色土(7.SYR3/2)しまりややあるが、粘性あまりなし。
- 2 黄褐色土(7.SYR7/6)しまり、粘性なし。乾いた焼土。
- 3 黑褐色土(7.SYR2/2)しまり、粘性あまりなし、炭化している。
- 4 黑褐色土(7.SYR3/2)しまり、粘性ややあり。ロームブロックを含む。

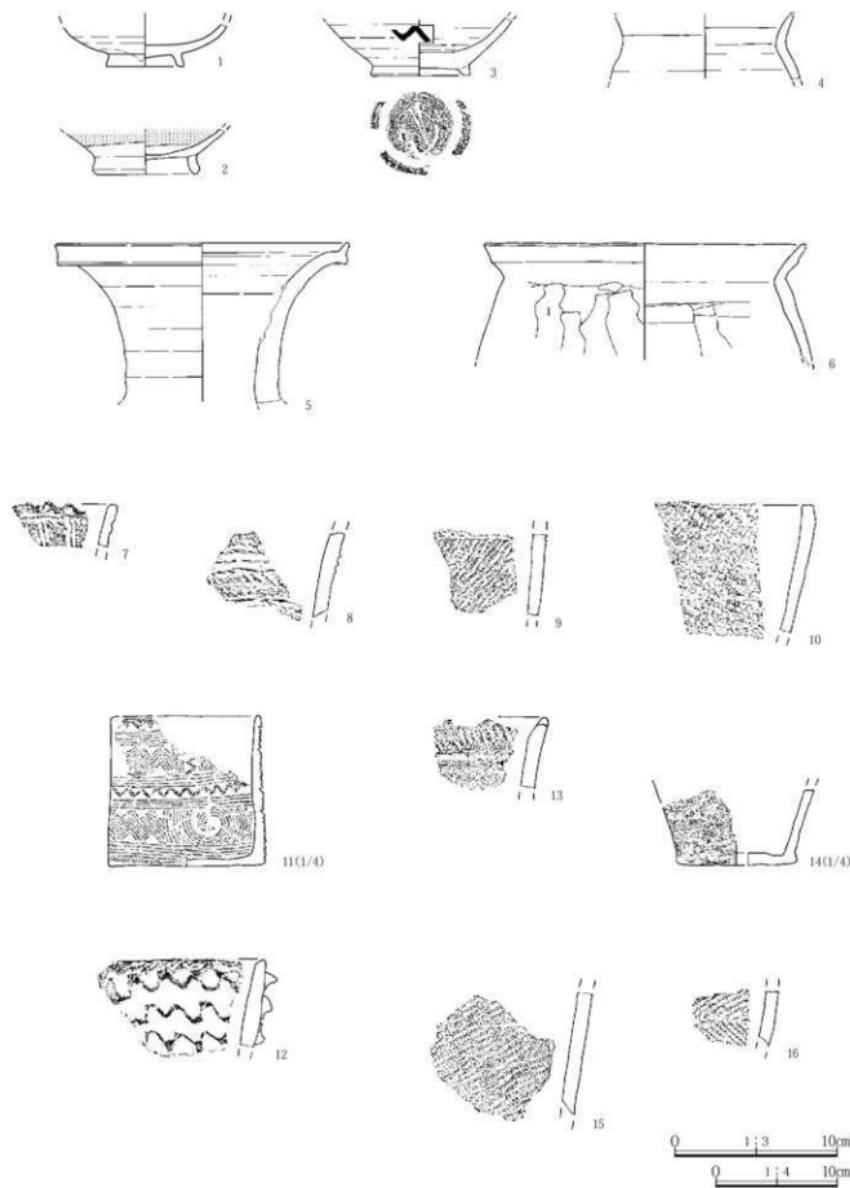
15号焼土



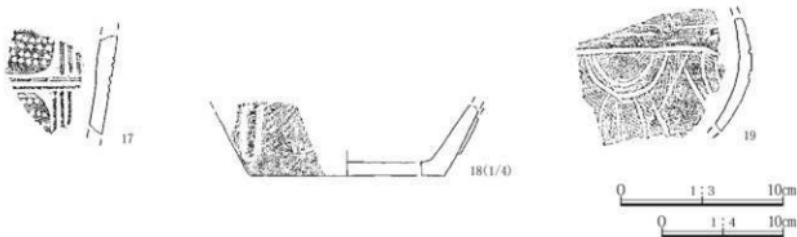
16号焼土



第181図 2号竪穴状遺構、13～16号焼土遺構



第182図 遺構外出土遺物 1



第183図 遺構外出土遺物 2

## 第8項 遺物観察表および未掲載遺物

第78表 2面および3面遺物観察表

24号建物

掲 図 PL.No.	種 類 器 種	出土位置 残 有 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第113図 PL.68	1 陶器 丸皿	床 1/4	口 (11.8) 底 (7.0)	厚 2.4	器 高	淡黄/黒色鉱物粒 少量	体部外側回転削り。内面から高台内周縁に灰釉?。長石 軸に近い。	
第113図 PL.68	2 肥前陶器 三島手皿	床 体部下位～高台 部	口 (10.0)	一 器 高	6.5	赤褐/白色鉱物粒 少量	三島手。沈線による側面内にスタンプ文様を付け、白土を 入れる。内面から体部外側に施釉。体部外側下位から高台 外側斜平脚窪。高台外側下平面取り状に窪ませる。高台外 側中位以下から高台内無釉。底部内面跡6カ所。	2点接合。
第113図 PL.68	3 肥前陶器 肥前染付碗	床 1/2	口 (10.4) 底 5.2	器 高	6.5	灰/夾雜物少量	口縁部外側に2重の巻線。体部外側に簡略化した東屋山水 文。輪に貫入する。	2点接合。
第113図 PL.68	4 陶器 すり鉢	床 1/3	口 (12.6)	一 器 高	6.5	にぶい黄褐/粗妙 粒少量	底部は右回転系切り無調整。体部外側は回転削り。内面 には16本1単位のクシ目。内外面踏絆。	4点接合。
第113図 PL.68	5 古鉢	床 完形	縦 2.527 横 2.525	厚 0.150 重 2.8			新寛永。背文。面の形はやや浅いが、字、郭、輪ともに明瞭。 背は字の跡は浅く、郭と輪の跡は深く明瞭。	
第113図 PL.68	6 古鉢	P 6 完形	縦 2.447 横 2.443	厚 0.147 重 2.7			古寛永。面の跡は深く、字、郭、輪は明瞭。やや全体に劣 化が見られる部分が多い。背の跡も同様に深く、郭、輪が 明瞭。	
第113図 PL.68	7 古鉢	床下土坑 底面 完形	縦 2.326 横 2.315	厚 0.112 重 1.6			新寛永。面の跡は浅くやや判別困難。全体が跡で覆われて いる。背の跡は浅い。字は劣化により一部不明瞭。剥離も 見られる。背も全体的に劣化が見られる。	
第113図 PL.68	8 古鉢	床下土坑 底面 完形	縦 2.459 横 2.450	厚 0.141 重 3.3			古寛永。面の跡は深く、字、郭、輪ともに明瞭。一部跡が 付着している。背は広範囲に跡が見られ、郭、輪が一部不 明瞭。	
第113図 PL.68	9 古鉢	床下土坑 埋没土下半 1/4以下	縦 2.307 横 2.209	厚 0.105 重 1.1			新寛永。跡が浅く、一部の字が判読不能。面、背ともに形 は浅い。劣化が激しい。	
第113図 PL.68	10 古鉢	床下土坑 埋没土下半 ほぼ完形	縦 2.306 横 2.338	厚 0.143 重 1.8			新寛永。輪が劣化により、欠損。また、字も摩滅および劣 化している。背は変形し、郭が一部不明瞭。輪は比較的明瞭。	
第113図 PL.68	11 古鉢	床下土坑 埋没土下半 完形	縦 2.9 横 2.5	厚 0.6 重 10.9			新寛永を含む4枚が接着した状態で出土。もう一方の面は 背が見えしており、輪跡は不明。面の輪が一部劣化している。 孔にわらのような有機物が付着しているが、遺物との関係 は不明。	4枚接着出土
第113図 PL.68	12 古鉢	床下土坑 埋没土上半 ほぼ完形	縦 2.288 横 2.297	厚 0.131 重 2.3			新寛永。面は全体的に劣化が見られる。輪や郭に剥離も見 られる。字は識別可能。背は郭、輪は明瞭。一部劣化が見 られる。	
第113図 PL.68	13 古鉢	床下土坑 埋没土上半 完形	縦 2.462 横 2.514	厚 0.185 重 3.8			古寛永。面の跡は深く、字、郭、輪は明瞭。背は跡が1/2 ほど覆っているが明瞭。	
第113図 PL.68	14 古鉢	床下土坑 埋没土上半 完形	縦 2.509 横 2.459	厚 0.130 重 2.4			古寛永。面は跡は深く字、郭、輪が明瞭。一部字が摩滅。 背はやや跡が浅いが、郭と輪は明瞭。	

## 第2節 2面および3面の遺構と遺物

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 有 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第113図 PL.68	15	古鉢	床下土坑 埋没土上半 ほぼ完形	縦 横	2.308 2.296	厚 重	0.149 2.2	新窓永。全体に劣化しており、剥離、輪の欠損が見られる。形は面、背ともに浅い。字は見えづらい。	
第113図 PL.68	16	古鉢	床下土坑 埋没土上半 ほぼ完形	縦 横	2.312 2.290	厚 重	0.134 1.7	新窓永。劣化が激しく輪の一部が欠損。字も形が浅く、摩滅が多く見えづらい。背も状態がよくなく、形は浅い。	
第113図 PL.68	17	古鉢	床下土坑 埋没土上半 1/3	縦 横	- -	厚 重	0.130 0.4	「寶」ほぼ1字と「永」の一部のみが残存。新窓永か。形はやや浅く劣化による剥離も見られる。	
第114図 PL.69	18	古鉢	床下土坑 埋没土上半 1/2	縦 横	- -	厚 重	0.150 1.4	新窓永。「寶」と「永」字が残存。面、背ともに形は深く字、郭、輪が明瞭。	
第114図 PL.69	19	古鉢	床下土坑 埋没土上半 完形	縦 横	2.322 2.328	厚 重	0.125 2.6	新窓永。形が浅く、全体的に輪に覆われており、見えづらい。背も同様に形が浅く見えづらい。	
第114図 PL.69	20	古鉢	床下土坑 埋没土上半 ほぼ完形	縦 横	2.295 2.231	厚 重	0.129 2.1	新窓永。輪の一部が欠損している。劣化が見られる。字はつぶれ、見えづらい。背の形は浅く、郭、輪が一部不明瞭。	
第114図 PL.69	21	古鉢	床下土坑 埋没土上半 完形	縦 横	2.365 2.543	厚 重	0.130 2.9	新窓永。面の字、郭はやや浅く輪はやや深い。背は全体に輪が覆っているが、郭、輪は明瞭。	
第114図 PL.69	22	鉄製品 火打金	24建物東 ほぼ完形	長 幅	9.1 2.4	厚 重	0.9 31.6	山形の火打金。両端は直上に伸びるように曲がり、細くなり欠損。全体が鋸で覆われており、中は空洞に近く劣化している部分も見られる。	

## 11号掘立柱建物

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 有 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第115図 PL.68	1	瀬戸・美濃 陶器 碗	II種立P24 底:6cm 口縁部~体部破 片	口 底	(11.2) —	器 高	—	黄灰/夾杂物微量	体部外面に浅い凹線1条。外外面に灰釉。
第115図 PL.69	2	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	II種立P24 埋没土 1/2	口 底	(10.1) 4.9	器 高	6.2	黄灰/白色鉱物粒 少量	体部外面中位以下は回転削り。内面から高台脇に鉛釉、 口縁部内外面に灰釉。

## 2号竪穴建物

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 有 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第117図 PL.69	1	須恵器 甕	床:~23cm 口縁部~胴部上 位1/2	口	14.1		粗砂粒・細砂粒/ 焼成火/焰	ロクロ整形、回転は右回り。	いわゆるロク ロ土師器。
第117図 PL.69	2	須恵器 羽釜	床:~9cm 口縁部~胴部上 位	口	20.9		粗砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。口縁部は断面三角形の鶴を貼付後、横ナデ。 胴部外面は縦位のヘラ削り。	
第117図 PL.69	3	須恵器 羽釜	床:~13cm 脚部~胴部中位				粗砂粒/酸化焰 火/焰	胴部は丸を帯びる。ロクロ整形。断面三角形の鶴を貼付 後、縦縫部を横ナデ。	

## 3号竪穴建物

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 有 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第118図 PL.69	1	須恵器 椀	床:13cm 口縁部~体部片	口	15.8		細砂粒・黒色鉱物 粒/還元焰/火/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。	
第118図 PL.69	2	土師器 甕	床:12cm 底部片				粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい黄相	底部外面に木葉痕。	
第118図 PL.69	3	灰釉陶器 小瓶	床:~7cm 胴部下位~底部片	底	4.9		夾雜物ほどどな し/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転糸切り離し後、 無調整。胴部外面は最下位にヘラナデ。	大原 2号竪式 期。
第118図 PL.69	4	鉄製品 刀子	床:~6 cm 一部欠損	長 幅	10.6 1.7	厚 重	0.8 11.1	本質が一部刃の部分に残存するが、関連は不明。棒側に間 を持つ。6.5cmは刃部部分が残存し、切先部分は欠損して いる。茎の端部も欠損している。	

### 第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

#### 4号竪穴建物

種 団 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第119団 PL.69	1	灰釉陶器 碗	貯藏穴、埋没土 1/4	口 台	14.0 6.8	高 4.1	夾雜物少量/還元 焰/灰白	口縁部の先端はつままれたように外反。ロクロ整形。回転は右回り。底部は切り離し後、高台を貼付。底部にナデ調整。釉は流け掛け。内面に重ね焼き痕。	大原2号窯式 期。
第119団 PL.69	2	灰釉陶器 碗	貯藏穴、埋没土 1/2	口 台	15.6 7.9	高 4.5	夾雜物少量/還元 焰/灰白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は切り離し後、高台を貼付。底部外面は回転ヘラ削り調整。施釉は刷毛塗り。	底部内面摩耗。平滑。光ケ丘1号窯式 期。

#### 5号竪穴建物

種 団 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第120団 PL.69	1	須恵器 小型甕	埋没土 口縁部片	口	13.8		粗砂粒/還元焰 及び灰白	ロクロ整形。口縁部は横ナデ。	いわゆるロク ロ上土器。

#### 6号竪穴建物

種 団 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第123団 PL.69	2	須恵器 羽釜	床面 口縁部～胴部上 位片	口	20.0		粗砂粒・輝石/還 元焰/灰白	ロクロ整形。口縁部は横ナデ。脚を貼付後、周縁部を横ナデ。	
第123団 PL.69	3	須恵器 羽釜	床・5cm 跨部片	口	20.4		粗砂粒/還元焰 及び灰黄	ロクロ整形。口縁部は横ナデ。断面三角形の脚を貼付後、周縁部を横ナデ。	
第123団 PL.69	4	須恵器 羽釜	床・5cm 跨部片				粗砂粒/酸化焰 及び灰黄	ロクロ整形。器体は全体に厚い。断面三角形の脚を貼付後、周縁部を横ナデ。	
第123団 PL.69	1	灰釉陶器 碗	床・3cm～+21cm 1/2	口 底	12.8 6.0	高 2.5	夾雜物ほとんどな し/還元焰/灰白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は切り離し後、高台を貼付。その後、底部外面は回転ヘラ削り調整。釉は流け掛け。内面に重ね焼き痕。体部外面に回転ヘラ削り。	大原2号窯式 期。
PL.69	5	鉄製品 刀子	床・6cm 刃部分	長 幅	5.5 1.4	厚 重	1.0 5.7	内部が劣化により空洞化してしまっている刀子。切っ先まで残存しているが、刃、茎は不明。錯の塊が付着している。	

#### 8号竪穴建物

種 団 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第124団 PL.69	1	黒色土器 杯	カマド 口縁部～体部片	口	14.0		粗砂粒/酸化焰/明 闇	ロクロ整形。回転は右回り。内面は口唇部直下に横位のヘラ磨き。底部から口縁部に向けて直線的に延びるヘラ磨きも加えていたと考えられ。1方向が認められる。内面黒色処理。	破砕後に被熱を受けたためか破片により内面の状況は異なる。
第124団 PL.69	2	黒色土器 杯	掘り方 口縁部～体部片	口	17.4		粗砂粒/酸化焰/明 闇	ロクロ整形と考えられる。内面は横位のヘラ磨きを充填後、間隔を開けて縱位のヘラ磨きを重ねる。内面黒色処理。	
第124団 PL.69	3	黒色土器 杯	床面、掘り方 カマド 口縁部～底部 1/4	口 底	14.1 6.0	高 4.0	粗砂粒/酸化焰/相 互	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り離し後、無調整。内面は底部から口縁部に向けて放射状にヘラ磨き。口唇部直下に横位のヘラ磨き。	
第125団 PL.69	4	黒色土器 碗	貯藏穴 1/4	口 底	17.2 8.0	高 5.5	粗砂粒/酸化焰/柏	ロクロ整形。底部外面は手持ちヘラ削り。内面は口縁部から底部まで横位のヘラ磨きを充填する。	
第125団 PL.69	5	黒色土器 碗	カマド 口縁部～一部欠 底	口 底	14.7 6.8	高 5.7	粗砂粒多量/酸化 焰/にい	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り離し後、無調整。内面は横位のヘラ磨きの上に底部中央から口縁部に向けて放射状のヘラ磨きを重ねる。	
第125団 PL.69	6	黒色土器 碗	貯藏穴 口縁部～高台部 1/2	口 台	14.8 6.8	高 5.2	粗砂粒/酸化焰/に い	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り離し後、高台を貼付。その後、周縁部をナデ調整。内面は口唇部直下に横位のヘラ磨き。底部中央から口縁部に向けて5方向にヘラ磨き。内面黒色処理。	
第125団 PL.69	7	黒色土器 碗	床下ビット 部体～高台部				粗砂粒/酸化焰/に い	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り離し後、高台を貼付。その後、周縁部をナデ調整。内面は底部中央から口縁部に向けて5方向にヘラ磨き。内面黒色処理。	高台欠損後も使用か。
第125団 PL.69	8	灰釉陶器 碗	床・6cm～7cm 口縁部～部欠 台	口 台	16.0 7.4	高 4.9	夾雜物少量/還元 焰/暗灰黄	口縁部はつままれたように外反する。ロクロ整形。回転は右回り。底部は切り離し後、高台を貼付。その後、底部外面に向かってヘラ調整。釉は刷毛塗り。内面底部も一筆。	光ヶ丘1号窯式 期古段階。
第125団 PL.69	9	須恵器 甕	床・8cm 口縁部片	口 台	19.0		粗砂粒少量/酸化 焰/にい	ロクロ整形。口縁部は横ナデ。口唇部にヘラを当て平坦面をつくる。	いわゆるロク ロ上土器。

## 9号竪穴建物

排 国 PL.No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
			長	幅	厚			
第127回 PL.69	I 鉄製品 鑿	床+1cm 完形	6.1	3.0	1.7 重 69.3		頭部は横円柱を呈し、特に中心部に近い部分が張り出して いる。全体に鋸が覆っているが、劣化による形状の変化や 破損はほぼ見られない。	

## 11号竪穴建物

排 国 PL.No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
			長	幅	高			
第130回 PL.70	1 頭患器 杯	床+7cm 1/4	13.2	5.2	4.0	細砂粒少量/焼成 灰/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部外面は磨耗。ヘラ削り調 整か。	器面磨耗頭 著。
第130回 PL.70	2 頭患器 楕	床+2cm 体部上位～高台 部	7.8			粗砂粒/焼成灰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り離し後、高 台を粗粒に貼付。その後、周縁部をナデ調整。	
第130回 PL.70	3 頭患器 小型壺	床+2cm 口縁部欠～底部 剥離				細砂粒/焼成灰/淡 黄	底部剥離。ロクロ整形、回転は右回りか。体部下平に回転 ヘラ削り調整。	いわゆるロク 口上面。
第130回 PL.70	4 上師器 壺	1床下上坑 口縁部～脳部下 位	19.6			細砂粒/良好/にぶ い粒	口縁部は横ナデ。剥離部外面は上位が斜位位。中位以下が 斜位位のヘラ削り。上位にはナデの部分を残す。内面は下 位に擬位の、これ以外は横位のヘラナデ。	内外面に保 着。いわゆる ロクロ上師 器。

## 12号竪穴建物

排 国 PL.No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
			長	幅	高			
第132回 PL.70	1 黒色土器 杯	床+5～18cm 3/4	12.6	5.5	4.0	粗砂粒/焼成灰/に ぶい粒	ロクロ整形、回転は右回り。底部外面は手持ちヘラ削り調 整。内面は口縁部直下に横位のヘラ磨き。底部中央から 口縁部に向って5方向に直線のヘラ磨き。その反対内に ループ状のヘラ磨き。内面黒色処理。	
第132回 PL.70	3 黒色土器 杯	床+10cm 口縁部一部欠	12.0	4.6	4.6	粗砂粒/焼成灰/明 黄褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り離し後、一 部にヘラ削り。外表面は体部から底部の移行部にヘラ削り。 内面黒色処理。	
第132回 PL.70	4 黒色土器 杯	床+2cm 口縁部～体部下 位片	13.0			細砂粒/焼成灰/明 褐	ロクロ整形、回転は不明。内面は格子目状に、横位の上に 縦位のヘラ磨きを重ねる。内面黒色処理。	
第132回 PL.70	5 黒色土器 杯	床+1cm 口縁部～体部下 位片	14.1			粗砂粒/焼成灰/明 赤褐	ロクロ整形、回転は右回り。内面は口縁部直下に横位のヘ ラ磨き。その後、底部中央から口縁部に向けて放射状にヘ ラ磨きを重ねる。内面黒色処理。	
第132回 PL.70	6 黒色土器 杯	床+7cm 口縁部～体部下 位片	12.3			粗砂粒/焼成灰/相 間	ロクロ整形、回転は右回り。内面は口縁部直下に横位のヘ ラ磨き。縦位のヘラ磨きも認められる。	
第132回 PL.70	7 黑色土器 杯	床+1cm 体部下位～底部	6.0			粗砂粒/焼成灰/明 褐	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は手持ちヘラ削り調整。 内面黒色処理。	体部外面に墨 書「田」
第132回 PL.70	2 黒色土器 杯	3床下上坑 口縁部一部欠	12.7	6.0	4.4	粗砂粒/焼成灰/に ぶい黄褐	ロクロ整形と考えられる。底部外面は手持ちヘラ削り。内 面は底部中央から口縁部に向けて放射状にヘラ磨き。器面 は、やや黒滅のため消滅している。内面黒色処理。	
第132回 PL.70	8 黒色土器 杯	3床下上坑 体部下位～底部		5.5		細砂粒/被化灰/黃 褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り離し後、無 調整。内面の底部中央に渦巻き状のヘラ磨きと、これから 口縁部方向に向って伸びる5本のヘラ磨き。内面黒色処 理。	
第132回 PL.70	9 黒色土器 楕	床+3cm 底部下位～高台 部		6.4		粗砂粒/被化灰/相 間	ロクロ整形か。底部外面はヘラ削り。高台を削付後、周縁 部をナデ調整。内面は底部中央から体部に向かって5方向 のヘラ磨き。内面黒色処理。	
第133回 PL.70	10 頭患器 杯	床+10cm 口縁部一部欠	12.4	6.6	3.7	粗砂粒/還元燒ぎ 灰/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り離し後、無 調整。	底部内面に墨 書。
第133回 PL.70	11 頭患器 杯	床+10cm 口縁部一部欠	12.9	5.9	3.7	粗砂粒/被化灰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り離し後、無 調整。	器面磨耗頭 著。
第133回 PL.70	12 頭患器 杯	3床下上坑 1/2	12.5	5.4	4.7	黑色粘土粒/被化 灰/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り離し後、無 調整。	器面磨滅。
第133回 PL.70	13 頭患器 楕	掘り方 底部一部欠	14.3	6.9	5.1	礫・粗砂粒/被化 灰/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部外面はヘラナデ、高台を 貼付後、周縁部をナデ調整。	体部外面に 2カ所、内面 に1カ所に墨 書。いずれも 「田」。

### 第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

種類 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考		
第133回 PL.70	14	須恵器 楕	床・1~2cm 口縁部~底部片	口	12.8	細砂粒/還元焰 灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り離し後、高台を貼付。			
第133回 PL.70	15	須恵器 楕	3床下上坑 口縁部~体部中 位1/2	口	14.0	粗砂粒・細砂粒/ 還元焰不良/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。			
第133回 PL.70	16	須恵器 楕	床・8cm 体部~底部1/2			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り離し後、高台を貼付。その後、四縁部をナデ調整。高台剥落後も使用している。	内面摩耗、平滑。		
第133回 PL.70	17	灰釉陶器 皿	床・3~7cm 1/4	口	14.0	高	3.0 6.0	夾雜物少量/還元 焰/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は切り離し後、高台を貼付。底部外表面にナデ調整。体部外下面に回転ヘラ削り。施釉は清け掛け。内面に重ね焼き痕。	大原2号窯式期。
第133回 PL.70	18	灰釉陶器 皿	床・2~5cm 1/2	口	17.1	高	3.4 6.5	夾雜物ほとんどな し/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。体部外表面下位に回転ヘラ削り。施釉は刷毛通り、後からぬぐっている。	光ヶ丘1号~ 大原2号窯式期。
第133回 PL.70	19	灰釉陶器 楕	床・1~12cm 1/2	口	13.1	高	4.4 5.7	夾雜物ほとんどな し/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り離し後、高台を貼付。その後、四縁部をナデ調整。内面に重ね焼き痕。施釉は清け掛け。高台内を墨面に利用したか。底部外面に墨付着。器面の磨耗は見られない。	大原2号窯式期。
第133回 PL.70	20	灰釉陶器 楕	床・3~8cm 高台部欠	口	14.6			夾雜物少量/還元 焰/灰白	ロクロ整形、回転は右回りか。高台は接合部で剥離している。施釉は清け掛け。外側の輪郭は薄く、ほとんど削離している。	大原2号窯式期。
第133回 PL.70	21	灰釉陶器 楕	床・2cm 体部下位~高台 部1/4	台	6.8			夾雜物少量/還元 焰/褐灰	ロクロ整形、回転は左回りか。底部外表面は高台を貼付後、ナデ調整。施釉は清け掛け。	大原2号窯式期。底部内面 平滑。
第133回 PL.70	22	須恵器 小型甕	床・1cm 口縁部・胴部一 底	口	10.3	高	10.6 6.2	粗砂粒少量/醸化 焰/橙	器形は著しく歪み、横断面は長円形を呈する。ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り離し後、無調整。	いわゆるロク 口土師器。
第133回 PL.70	23	須恵器 小型甕	床・2cm 口縁部~胴部上 位片	口	13.4			粗砂粒/醸化焰/明 黄褐	ロクロ整形。口縁部は横ナデ。	いわゆるロク 口土師器。
第133回 PL.70	24	須恵器 甕か	床・2cm 胴部~底部片			粗砂粒少量/還元 焰/灰白	ロクロ整形。			

### 土坑

種類 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考		
第155回 PL.71	1	繩文土器 深鉢	49土 埋没土 口縁部片			多量の輝石と中量 の長石や少量の 珪藻の進んだ灰白色 色岩片・赤色岩片・ 石英の粗・細砂を 含むや緻密な胎 土	口縁に小突起を付す。半截竹管状具の集合沈線文を羽状に 施し、三角陰刻文を横位に連接施文。内外面共に被熱風 効果の本が付隨。	十三菩提式		
第155回 PL.71	2	古銭	50土 頭骨上 2片に破損。 完形	縦 幅 2,455 2,457	厚 重 1.032 1.6		至道元寶。面の鄭が深く字、郭、輪が明瞭。至の字の6画 が郭と同化している。背は鄭が浅く不明瞭。煙管の吸い 口状の本が付隨。			
第155回 PL.71	3	黒色土器 杯	52土 底面 体部下位~底部		底 5.6	粗砂粒/醸化焰/明 褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り離し後、無 調整。底部は底部中央から口縁部に向けて5方向にへら磨 き。内面黑色処理。			
第155回 PL.71	4	須恵器 甕	52土 底・13cm 口縁部	口	19.6	黒色藍物粘少量/ 還元焰軟質/灰	内外面ともロクロ整形、横ナデ。	口沿端部は 削離。		
第155回 PL.71	5	灰釉陶器 皿	83土 底・9cm 口縁部~高台部 1/4	口	13.2	高	3.0 7.0	夾雜物ほとんどな し/還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部外表面は回転ヘラ削り調整。 高台は端部が尖る。施釉は清け掛け。	大原2号窯 式期。
第155回 PL.71	6	繩文土器 深鉢	60土 底部 口縁部~胴部 2/3		26.4	中量の凹面度の進 んだ灰白色・赤色・ 黒色岩片や少量の 珪質乳白色岩片・ 長石・輝石の粗・ 細砂を含む緻密な 胎土	口縁部に捻轉した環状小突起を4単位に付す。口縁部から S字形降線文を施し、それに沿って單線文や三叉文・円文を充填的に施す。口縁部のS字文中心部に 環状小突起を付す。胴部は逆T字形の降線文と单線文の 組合せで環状文を充填施文。内面横幅略さま。	新巣類型		
第156回 PL.71	7	石臼(上臼) 白(上臼)	94土 埋没土 1/8	長 幅 (21.5) (9.9)	厚 重 2432.9	粗粒輝石安山岩	底面に挽き目の跡痕がわずかに残る。供給孔は中央が狭く なっており内面穿孔と考えられる。供給孔の直徑約4cm。			

## 第2節 2面および3面の遺構と遺物

種類 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第156図 PL.71	8	石臼(上臼)	94土 理没土 1/12	長 幅	(20.8) (16.2)	厚 重	(8.8) 2703.0	粗粒輝石安山岩	底面に挽き目の痕跡がわずかに残る。右側面に軸受孔と供給孔がわずかに残る。
第156図 PL.71	9	繩文土器 深鉢	107土 理没土 胴部片					多量の雲母・長石 と少量の角閃石や 円磨度の進んだ石 英・赤色岩片の粗 細砂を含む緻密な 胎土	半截竹管状具の平行沈線文や斜格子状の集合比紋を施す。内外表面共にやや被熱風化、外面煤状焼化物付着。 五頭ヶ台式
第156図 PL.71	10	繩文土器 深鉢	108土 理没土 口縁部片					多量の雲母・長石 と少量の角閃石や 円磨度の進んだ石 英・赤色岩片の粗 細砂を含む緻密な 胎土	半截竹管状具により口縁下に劍目や平行沈線文を施し、 下位に円筒竹管文列を充填的に施す。内面横位き。 五頭ヶ台式
第156図 PL.71	11	吉鉢	109土 理没土 ほぼ完形	縦 横	2,410 2,421	厚 重	0.151 2.4		詳細不明。劣化が激しい事に加え、形が浅く、面、背ともに不明瞭。
第156図 PL.71	12	古鉢	109土 理没土 ほぼ完形	縦 横	2.6 2.5	厚 重	0.3 4.1		劣化が激しく目視による判別不可。X線写真より「天元○」天型元窓か。他の1枚は詳細不明。背の形は浅い。 2枚発着
第156図 PL.71	13	古鉢	109土 理没土 完形	縦 横	2.5 2.5	厚 重	0.4 8.5		元豊通寔。3枚の残荷が確認している。他の2枚は残形は不明。全体に劣化が激しく、状態がよくない。字は摩滅が見られる。
第156図 PL.71	14	石臼(上臼)	118土 理没土上層 4/5	直 径	33.0	厚 重	12.6 12050.0	粗粒輝石安山岩	底面に挽き目の痕跡が認められる。軸受孔は上面まで貫通する。供給孔は楕円矩形である。側面に挽き手が2箇所認められるが、そのうちの1箇所は底面に一部が剥出した状態である。作業により底面がすり減ったことにより挽き手の一部が底面に露出し新しい挽き手を作出したと考えられる。

## ピット

種類 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第178図 PL.71	1	灰釉陶器 皿	74ビ 底+27cm 体部下位～高台 部1/2	台	6.9			細砂少量+還元 焰+浅黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部外面は回転ヘラ削り調整。 施釉は清け掛け。	大原2号窯 式期。
第178図 PL.71	2	須恵器 輪	126ビ 理没土 口縁部片					細砂+還元焰 み+灰白	ロクロ整形、回転は右回りか。	内外面に墨 書。判読不 明。
第178図 PL.71	3	須恵器 輪	224ビ 理没土 口縁部～体部片	口	15.2			細砂+酸化焰 み+浅黄	ロクロ整形、回転は右回り。	内面は磨 耗。平滑。
第178図 PL.71	4	須恵器 輪	235ビ 理没土 口縁部片	口	11.7			粗砂粒+酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回りか。	
第178図 PL.71	5	肥前陶器 陶筋染付鏡	293ビ 理没土 口縁部～体部 1/3	口	(11.0) 底	厚 高	—	灰/黒色鉱物粒少 量	口唇端直下に2重の團鏡。体部外面に唐草文。貫入る。 3点接合。	
第179図 PL.71	6	石臼(下臼)	311ビ 理没土 1/4	長 幅	(22.7) (16.3)	厚 重	14.4 6950.0	粗粒輝石安山岩	上面に挽き目の痕跡が認められる。底面には棒状の工具痕 が認められ加工痕と考えられる。軸孔は中央付近が抜くな っており内面穿孔と考えられる。	
第179図 PL.71	7	繩文土器 深鉢	233ビ 理没土 口縁部片					多量の円磨度の進 んだ結晶片岩礫・ 粗砂と中量の長 石・灰白色岩片や 少量の珪質乳白色 岩片・輝石・雲母 の粗・細砂を含む やや緻密な胎土	口縁部が「く」字形に外反し、内面に段を形成。半截竹管状 具の集合平行沈線文を確信に施し、細い円筒竹管状具によ る円弧状の連續削突文を充填施文。内面煤状焼化物付着。 五頭ヶ台 式?	
第179図 PL.71	8	瀬戸・美濃 陶器 碗	306ビ 理没土 体部下位～高台 部	口	— 底	厚 高	—	灰白/夾雜物微量	高台端部を除き灰白。	
第179図 PL.71	9	古鉢	355ビ 理没土 完形	縦 横	2,579 2,585	厚 重	1.49 3.4		新窓永。面、背ともに形が深く、字、郭、輪ともに明瞭。 輪にやや劣化が見られる。内輪が黒色に光沢を帯びる。	

### 第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

#### 遺構外

種別 PL.No.	No.	種類 器 陶器 碗	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第182回 PL.71	1	瀬戸・美濃 陶器 碗	2面 体部下位～高台 部	口 底 4.7	器 高 一		灰黄/夾雜物少量	内面から高台脇に胎輪。	
第182回 PL.71	2	灰釉陶器 碗か	2面 体部～高台部 1/2	台 5.8			夾雜物微量/還元 焰/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転条切り離し後、高台を貼付後、周縁部をナデ調整。溶け掛け。	底部内面は 鉛灰顯著。 大原2号窯 式期。
第182回 PL.71	3	須恵器 碗	2面 体部～高台部	台 5.9			粗砂粒少量/酸化 焰/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転条切り離し後、高台を貼付。その後、周縁部をナデ調整。内面平滑。	体部外面に 墨書き。判読 不明。
第182回 PL.71	4	須恵器 小型盤	2面 口縁部～脚部上 位片				粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄鉛	ロクロ整形、回転は右回り。	いわゆるロ クロ土師器。
第182回 PL.71	5	須恵器 長颈壺	2面 口縁部1/2	口 17.7			粗砂粒/還元焰や 灰軟質/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。	器面の剥離 顯著。
第182回 PL.71	6	土師器 甕	2面 口縁部～脚部上 位片	口 19.5			粗砂粒少量/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。脚部外面は履位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	
第182回 PL.71	7	繩文土器 深鉢	2面 口縁部片				中量の円磨度の進 んだ灰白色岩片や 少量の蛭石の礫・ 粗砂と少量の赤色 岩片・黒色岩片・ 石英および長石・ 輝石の粗・細砂を 含む緻密な胎土	口縁部上面に指頭状の押圧痕を施す。口縁部は半截竹管状 貝の連続爪彫や縦位の平行沈線文を施文。外面一部に煤 状炭化物付着、内面横位磨き。	諸磯b式
第182回 PL.71	8	繩文土器 深鉢	2面 脚部片				中量の円磨度の進 んだ灰白色岩片や 少量の蛭石の礫・ 粗砂と少量の赤色 岩片・黒色岩片・ 石英および長石・ 輝石の粗・細砂を 含む緻密な胎土	RL繩文や浮線文を横位・多段に施す。内面横位磨き。	諸磯b式
第182回 PL.71	9	繩文土器 深鉢	2面 脚部片				多量の円磨度の進 んだ灰白色岩片 礁・粗砂や赤色・ 黒色岩片の粗・細 砂と少量の長石・ 輝石の粗・細砂を 含む緻密な胎土	SL繩文を横位・多段に施文し、連続爪彫文を横位施文。内 面丁寧な横位磨き。	諸磯b式
第182回 PL.71	10	繩文土器 深鉢	2面 口縁部片				中量の円磨度の進 んだ珪質乳白色岩 片礁・粗砂や蛭石・ 輝石の粗・細砂と 少量の灰白色岩片 石英の粗・細砂を 含む緻密な胎土	やや粗大なRL繩文を横位・多段に施す。外側一部に煤状炭 化物付着。内面やや粗い横位磨き。	諸磯b式
第182回 PL.71	11	繩文土器 鉢	2面 口縁部～底部 1/2	口 (12.4) 底 13.0	器 高 一	12.2	中量の円磨度の進 んだ灰白色岩片や 少量の蛭石の礫・ 粗砂と少量の赤色 岩片・黒色岩片・ 石英および長石・ 輝石の粗・細砂を 含む緻密な胎土	半截竹管状具の集合平行沈線により横輪・縦歛・湯呑状の 意匠を2種に構成し、各部位に三角斜削文を施す。外側 部にやや熟成化、外口縁部に煤状炭化物付着。内面丁 寧な横位磨き。	晴ヶ峰式
第182回 PL.71	12	繩文土器 深鉢	2面 口縁部片				多量の円磨度の進 んだ珪質乳白色岩 片礁・粗砂や中量 の灰白色・黒色 赤色岩片と長石・ 石英の粗・細砂お よび微量の雲母細 砂を含む緻密な胎土	SL繩文を横位施文し、太い隆線波状文を横位に複数施す。 外側一部に煤状炭化物付着。内面横位磨き。	晴ヶ峰式?
第182回 PL.71	13	繩文土器 深鉢	2面 口縁部片				多量の円磨度の進 んだ長石礁・粗砂 や中量の輝石と少 量の雲母・灰白色 岩片の粗・細砂を 含む緻密な胎土	口縁部に複数の小突起を付す。口縁部に0段多条のRL繩文 を横位施文し、下位にやや幅広の凹綱文を1条横位に施す。 脚部は凹綱文を縦位に施文。外側一部に煤状炭化物付着、 内面横位磨き。第182回No.15と同一個体。	前期末葉

## 第2節 2面および3面の遺構と遺物

掲図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第182図 PL.71	14	繩文土器 深鉢	2面 同部下位～底部 1/3	底 (9.8)	中量の円磨度の進 んだ灰白色岩片 礫・粗砂や中量の 輝石と少量の斜 石・珪質乳白色岩 片・長石の粗・細 砂を含むやや緻密 な胎土	同部下位は無施文。外面やや粗い縦位施で、内面横位磨き・ やや被熱風化。	前期末葉
第182図 PL.71	15	繩文土器 深鉢	2面 胴部片		多量の円磨度の進 んだ長石礫・粗砂 や中量の輝石と少 量の雲母・灰白色 岩片の粗・細砂を 含む緻密な胎土	胴部に0段多条のRL繩文を縱位施文。内部一部に煤状炭化 物付着。第182図No.13と同一個体。	前期末葉
第182図 PL.71	16	繩文土器 深鉢	2面 胴部片		多量の円磨度の進 んだ長石礫・粗砂 や中量の輝石と少 量の雲母・灰白色 岩片の粗・細砂を 含む緻密な胎土	LR・RLの結束繩文を横位に施す。内面横位磨き。	前期末葉
第183図 PL.71	17	繩文土器 深鉢	2面 胴部片		多量の円磨度の進 んだ結晶片岩礫・ 粗砂と中量の長 石・灰白色岩片や 少量の珪質乳白色 岩片・輝石・雲母 の粗・細砂を含む やや緻密な胎土	半截竹管状具の集合平行沈線文を縦・横位に施し、交差部 に三角陰刻文を施文。区画内には細い円形竹管文を充填施 文。内面やや被熱風化。	五頭ヶ台式?
第183図 PL.71	18	繩文土器 深鉢	2面 同部下位～底部 1/5	底 (16.0)	多量の雲母・長石 と少量の角閃石や 円磨度の進んだ石 英・赤色岩片の粗・ 細砂を含む緻密な 胎土	LR繩文を縦位施文し、隆線懸垂文を施す。内外面共にやや 被熱風化。	五頭ヶ台式
第183図 PL.71	19	繩文土器 深鉢	2面 胴部片		中量の円磨度の進 んだ結晶片岩・珪 質乳白色岩片・黑 色岩片の粗・細砂 や雲母細砂と少量 の輝石の粗・細砂 を含む緻密な胎土	単沈線の弧線文に連接して懸垂文を施し、やや緻密なLR繩 文を充填施文。内外面共にやや被熱風化。	船之内1式

### 第3章 平成28年度調査・確認された遺構と遺物

第79表 未掲載遺物(縦文)

	遺構種別	土器型式	点数
西部	60号上坑	新巻類型	37
	22号上坑	勝坂式	1
	103号上坑	五箇ヶ台式	1
	107号上坑	五箇ヶ台式	1
	遺構外	諸磯b式	2
		前期末葉	7
		五箇ヶ台式	2
		勝坂式	2
		中期後半	6
西部北端	遺構外	鶴山式	1
		前期末葉	1
		不明	1
中部	遺構外	諸磯b式	1
		諸磯c式	2
		前期末葉	4
東部	遺構外	諸磯a式	2

第80表 未掲載遺物(古代)

遺構名	土師器			須恵器			内黒土器	施釉陶器	その他・不明
	小	中	大	小	中	大			
3号堅穴建物	1片 4g	5片 35g	5片 75g	1片 91g	1片 6g	8片 17g			
4号堅穴建物	2片 33g	1片 16g	1片 7g	2片 52g		4片 6g			
5号堅穴建物	11片 155g	1片 15g	17片 496g	10片 74g	2片 80g	1片 3g	2片 11g		
6号堅穴建物	3片 35g	1片 11g	29片 652g	2片 24g		1片 14g	1片 8g		
8号堅穴建物	5片 23g		17片 1150g	22片 192g	4片 340g	26片 197g	2片 30g		
9号堅穴建物		2片 3g							2片 23g
11号堅穴建物	2片 33g		10片 146g	5片 56g		2片 8g	4片 26g		
12号堅穴建物	5片 48g	8片 67g	68片 833g	50片 393g	2片 241g	18片 123g	13片 119g		
2号堅穴状遺構						1片 3g			
52号上坑	2片 15g		1片 7g	1片 6g	2片 50g	1片 4g	2片 5g	1片 9g	
59号上坑			1片 89g		1片 10g				
80号上坑			1片 3g						
84号上坑							1片 4g		
91号上坑				2片 15g					
92号上坑		1片 18g							
107号上坑								1片 28g	
77号ピット		1片 21g							
90号ピット					1片 14g				
121号ピット		1片 37g							
230号ピット		1片 8g							
2面(西部)		14片 322g	5片 79g	5片 134g		4片 39g	1片 6g		
2面(中部)		7片 48g	2片 9g	1片 44g	1片 7g	1片			

大中小は想定器形の大小に基づく。小は杯・碗・皿など、中は高杯・小型壺など、大は甕・羽釜・壺など。

左 破片点数、右 破片重量

第81表 未掲載遺物(中近世)

区 面	施 設番号	施 構種	中世								近世								近現代									
			中国陶器		国产施釉陶器		在地系鉢・鍋		在地系皿		国产磁器		国产施釉陶器		陶器・磁器		土器類											
			点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量						
D	5	建物																	8	68	1	8	1	10				
D	15	建物					1	16			1	1	7	59														
D	15	建物掘方										4	32	12	92													
D	16	建物1掘方							1	12																		
D	17	建物									1	5	7	29														
D	18	建物									1	2	22	98														
D	20	建物																	1	8								
D	5	道									1	3	2	31														
D	1	稼地									1	10	4	23	4	44												
D	18	烟											2	3														
D	22	烟											2	30														
D	24	烟											1	7	1	7												
D	25	烟												1	9													
D	26	烟耕作土									1	2	1	5														
D	27	烟											2	13														
D	94	土坑												1	39													
D	98	土坑									1	4																
D	103	土坑												1	17													
D	106	土坑												1	5													
D	166	ピット												1	4													
D	253	ピット												1	23													
D	293	ピット												3	31													
D	299	ピット											1	5														
D	1面										4	8	10	177	2	7												
D	2面										2	9	4	57	2	17												
D														3	16													
E	21	建物												2	10													
E	1面	泥流下									1	12	2	11														
E	1面	泥流												3	9													
E	1面													3	36													
F	22	建物									2	24	13	51	1	4												
F	1	石垣									4	25	4	82														
F	2	道路									1	3																
F	43	烟									1	8																
F	46	烟									1	3	6	84														
F	1面													2	77													
G	23	建物									11	209	9	138			2	76										
G	24	建物No.3												1	8													
G	24	建物ピット17												1	11													
G	74	土坑									1	93	3	38	2	41												
G	118	土坑			1	5								1	1													
G	48	烟跡												1	106													
G	泥流中													2	55													
H	9	堅穴建物										2	2															
H	1	部材									1	13	2	16														
H		泥流煙									1	3	1	5														
H		泥流煙耕作土			1	5								2	14													
H	1面													4	45													
H	2面	1トレンチ									1	8																
		計			1	5	2	13	1	16	1	12	44	476	159	1,641	13	128	3	86								